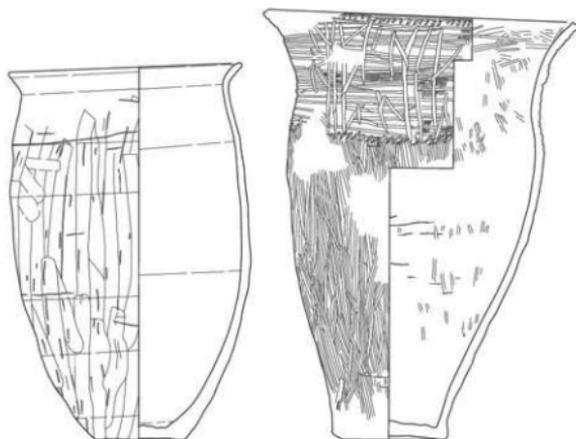


# 石江遺跡群

## 発掘調査報告書VI

-石江土地区画整理事業に伴う発掘調査-  
(第3分冊：高間(1)遺跡本文・図版編3)



平成24年度

青森市教育委員会

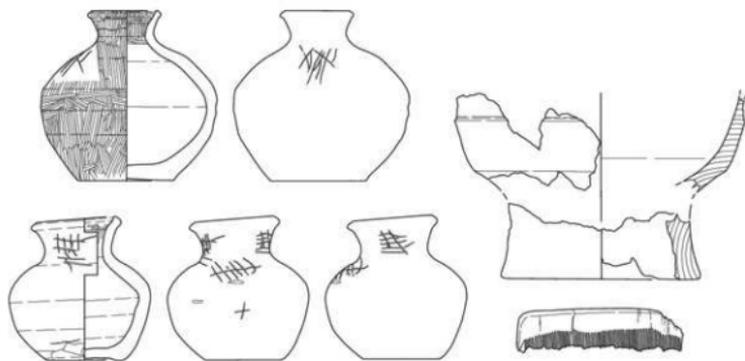


# 石江遺跡群

## 発掘調査報告書VI

-石江土地地区画整理事業に伴う発掘調査-

(第3分冊：高間(1)遺跡本文・図版編3)



平成24年度

青森市教育委員会



## 例 言

1. 本書は、青森市（担当：都市整備部石江区画整理事務所）より委託を受け、青森市教育委員会が平成15～21年度に発掘調査を実施した石江遺跡群に関する発掘調査報告書である。
2. 本書に掲載される内容は、石江土地区画整理事業に係る石江遺跡群発掘調査の高間（1）遺跡（青森県遺跡台帳番号01070）の調査についてまとめたものである。

高間（1）遺跡は、平成14年度に青森市教育委員会が実施した試掘確認調査によって、従前の高間（1）遺跡（旧青森県遺跡台帳番号01070）と高間（2）遺跡（旧青森県遺跡台帳番号01071）、高間（3）遺跡（旧青森県遺跡台帳番号01072）、高間（4）遺跡（旧青森県遺跡台帳番号01073）を統合した。遺跡台帳番号は高間（1）遺跡として利用されていた番号を優先した。

また、統合した際の遺跡範囲から、試掘および発掘調査の結果を踏まえ一部範囲を変更している（平成16年6月1日付け青教文第71号、平成20年6月11日付け青教文第349号）本報告の成果は、範囲変更後の内容を含むものであり、全調査面積は98,505㎡である。
3. 本書に掲載されていない鉄関連遺物については、石江遺跡群を構成する他遺跡の整理作業が終了する平成25年度に一括して報告する予定である。
4. 本書の作成および編集は青森市教育委員会が行い、木村淳一が担当した。また、発掘調査は小野貴之（青森市教育委員会文化財主査、平成19～21年度担当）、設楽政健（青森市教育委員会文化財主査、平成17年度担当）、相馬俊也（平成15～17年度青森市埋蔵文化財調査員、平成15～17年度担当）が担当した。
5. 基準点測量および遺構測量図化の一部は国際航業（株）に委託を実施した。なお、成果は部分的な内容であり、最終的な編集は当委員会で行い、図版を作成している。
6. 遺物実測図トレース業務および一部の遺物実測業務については委託を実施した。

（株）アルカ、（株）イビソク、（株）シン技術コンサル、（株）ラング
7. 本書の作成に際し、石質鑑定を島口天氏（青森県立郷土館）に依頼した。また、掘立柱建物跡については、中村隼人氏（日本建築学会員）に検討して頂いた。
8. 掲載した資料に関する原図・データ等は、一括して青森市教育委員会が保管している。なお、遺物写真図版中に掲載した木簡の赤外線写真については、独立行政法人奈良文化財研究所中村一郎氏による撮影である。
9. 報告に係る発掘調査および報告書作成にあたって、下記の諸氏・機関等からご指導・ご協力を頂いた。記して感謝申し上げます次第である。（順不同・敬称略）

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、平山萬年堂、伊藤武士、井上雅孝、岩田安之、宇部国保、錦江宏之、神原雄一郎、工藤清泰、菅藤淳、榎原道高、佐々木由香、白島文雄、島口天、鈴木弘太、出越茂和、熊城修一、平山幸一、藤原弘明、古川淳一、八重樫忠郎、八木光則、渡辺晃宏

# 凡 例

1. 図版番号は、本分冊中の通し番号で表記した。表記方法としては図版番号とともに分冊番号である3を先頭に付した。具体的には「図3-〇」という形にした。
2. 遺構の掲載について
  - (1) 方位は国土地理院第X系平面直角座標系に基づく座標北である。座標系は旧日本測地系(TOKYO)に基づいている。
  - (2) 各図の縮尺は以下の縮尺を基本とし、それ以外のものについてはスケールを付して図示した。  
1/2,000 1/1,200 1/400 1/300 1/180 1/120 1/100 1/60 1/30
  - (3) 水平基準は海拔高をメートル(m)で表示した。
  - (4) 遺構の略号はS I = 竪穴住居跡・竪穴遺構、SK・SKa = 土坑、SEa = 井戸跡、STP = 溝状土坑(Tビット)、SBa = 掘立柱建物跡、SP = ビット、SD = 溝跡、SN = カマド状遺構・炉跡・焼土状遺構、SC = 埋設土器遺構、SX = その他の遺構、SF = 道路跡である。
  - (5) 遺構番号については、調査区単位で遺構の種別毎に番号を付した。具体的には遺構の略号-番号とした。(例：第1号竪穴住居跡 = S I - 01) なお、調査区を跨いで検出した遺構について、調査年次単位で個々の遺構名が付され精査されているものがある。本報告にあたっては統括できるものは統括し、遺構種別の変更等も反映したが、重複する番号が同一区内で存在する場合調査年の情報を付加した。(例：2007年調査 S I - 01 = 07\_S I - 01)
  - (6) 遺構の規模については、基本的に長軸×短軸×深さをcmで表示した。このうち深さについては、遺構確認面からの計測値を記した。
  - (7) 本書の土層の注記については、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄1996)に準拠した。
  - (8) 本書の遺構図中で使用されるドット等の指示については下図のとおりである。

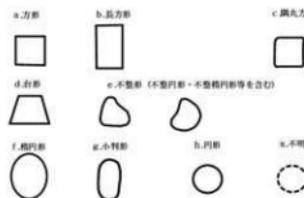
L.B.: ロームブロック  
P.B.: パミスブロック

## 遺構中のドット 種別略号

土器	● P	焼土範囲弱		灰範囲		火床面	
石器・石製品	▲ S	焼土範囲中		火山灰範囲		遺構内遺物範囲	
土製品	◆ CR (印壁) CH (羽口) CF (鉄付管印壁)	焼土範囲強		ローム範囲		硬化面	
鉄製品	▲ F	炭化物範囲		貼床範囲弱			
木製品	● W			貼床範囲強			
骨	■ B	粘土範囲					
植物種子	■ NP						
その他	●						

- (9) 土坑やビットの観察表中で表記した記号は、当委員会が平成18年度に刊行した『石江遺跡群発掘調査報告書第94集』で提示した分類に基づき提示している。形状の分類については下記に提示する。

### ① 平面プラン



### ② 断面プラン



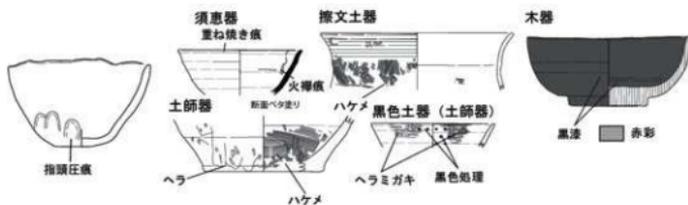
### 3. 遺物の掲載について

- (1) 各図の縮尺は以下のとおりである。なお、一部の資料については下記に提示した以外の縮尺で取り扱ったものもあり、スケールで表記している。

土器 1/3 石器・石製品 1/2・1/3・1/10 土製品 1/2・1/3

木製品 1/2・1/3・1/6・1/12 古銭 1/1

- (2) 遺物実測図の表現



#### 礎石器・削片石器



# 目 次

例言  
凡例  
目次

## 第Ⅶ章 F区

### 第1節 F-1区

1. 竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 土坑・・・・・・・・・・・・・ 75
3. 焼土状遺構・・・・・・・・・・・・・ 81
4. 溝状土坑（Tピット）・・・・・・・・・・・・・ 81
5. ビット・・・・・・・・・・・・・ 81
6. 溝跡・・・・・・・・・・・・・ 81
7. 遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 86

### 第2節 F-2区

1. 竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・ 93
2. 土坑・・・・・・・・・・・・・ 157
3. 井戸跡・・・・・・・・・・・・・ 177
4. 焼土状遺構・炭窯・・・・・・・・・・・・・ 177
5. 溝状土坑（Tピット）・・・・・・・・・・・・・ 187
6. その他の遺構・・・・・・・・・・・・・ 187
7. 土器埋設遺構・・・・・・・・・・・・・ 195
8. ビット・・・・・・・・・・・・・ 195
9. 溝跡・・・・・・・・・・・・・ 205
10. 遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 221

### 第3節 F-3区

1. 竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・ 223
2. 土坑・・・・・・・・・・・・・ 223
3. 焼土状遺構・・・・・・・・・・・・・ 230
4. 溝状土坑（Tピット）・・・・・・・・・・・・・ 231
5. その他の遺構・・・・・・・・・・・・・ 232
6. ビット・・・・・・・・・・・・・ 233
7. 遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 236

## 第Ⅷ章 G区

### 第1節 G-1区

1. 竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・ 239
2. 土坑・・・・・・・・・・・・・ 279
3. 井戸跡・・・・・・・・・・・・・ 288
4. 焼土状遺構・・・・・・・・・・・・・ 292
5. 溝状土坑（Tピット）・・・・・・・・・・・・・ 292
6. その他の遺構・・・・・・・・・・・・・ 292
7. ビット・・・・・・・・・・・・・ 296
8. 溝跡（畝跡）・・・・・・・・・・・・・ 296

### 第2節 G-2区

1. 土坑・・・・・・・・・・・・・ 314
2. 溝状土坑（Tピット）・・・・・・・・・・・・・ 327
3. その他の遺構・・・・・・・・・・・・・ 328
4. 掘立柱建物跡・・・・・・・・・・・・・ 328
5. ビット・・・・・・・・・・・・・ 331
6. 溝跡・・・・・・・・・・・・・ 379

### 第3節 G区遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 380

## 第Ⅸ章 H区

### 第1節 検出遺構と出土遺物

1. 竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・ 382
2. 土坑・・・・・・・・・・・・・ 387
3. その他の遺構・・・・・・・・・・・・・ 390
4. ビット・・・・・・・・・・・・・ 390
5. 溝跡・・・・・・・・・・・・・ 390

### 第2節 遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・ 394

- 引用・参考文献・・・・・・・・・・・・・ 394  
報告書抄録・・・・・・・・・・・・・ 395  
既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

高間(1)F区全体図 S=1/1800

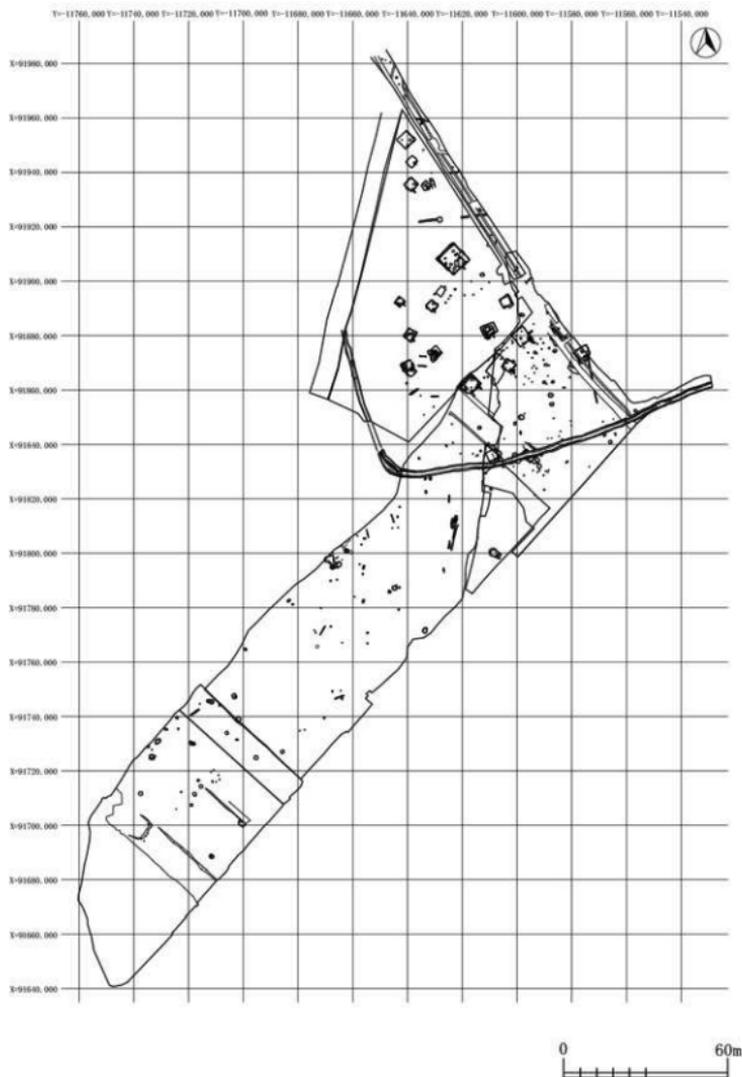


図 3-1 F区遺構配置図

高間(1)遺跡F-1区遺構配置図 S=1/800

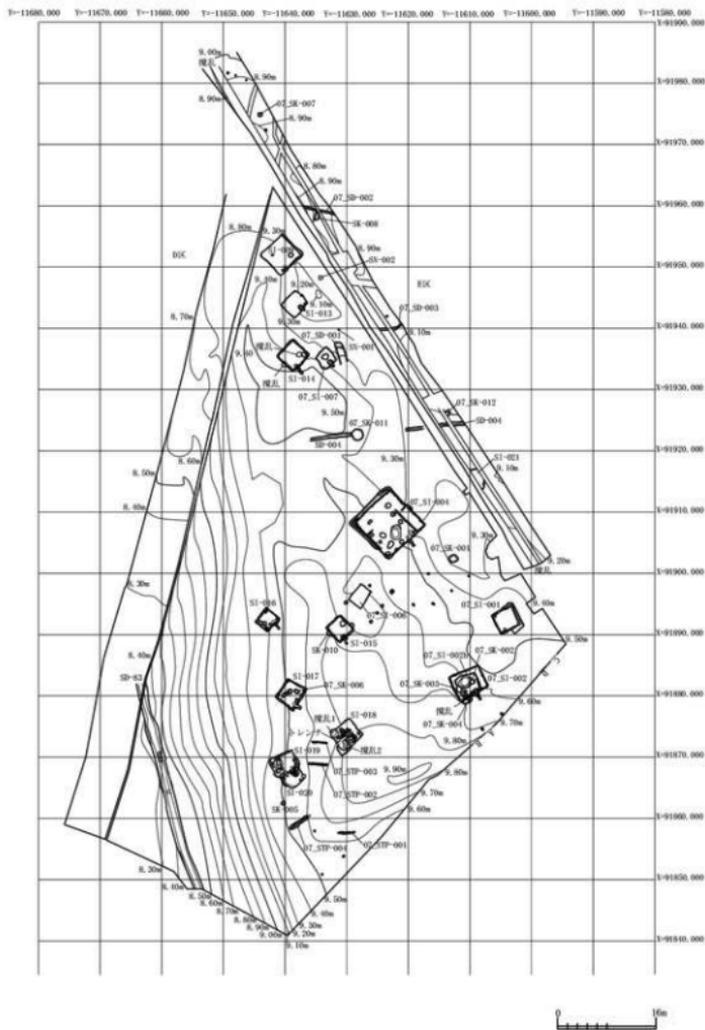


図 3-2 F-1区遺構配置図

## 第Ⅶ章 F区

F区の調査は、遺跡の南西側に相当し、19,322.0㎡を対象とした。平成17年度に土地承諾のとれた小区画を調査し、平成19年度に北側の住宅と畑地、平成20年度に南側の道路に面した住宅と畑地、平成21年度に南西側の地点を精査している。

本報告にあたって、平成17・19年度の北側の地点をF-1区、平成20・21年度の南側の地点をF-2区、平成21年度の南西側の調査区をF-3区に分け、箇単位で報告する。

F-1区の西側、F-2・F-3区の北側にはかつて石江堤と呼ばれた沼地があったが、調査時にはほとんど埋め戻されており、若干の湿地が残る程度であった。

なお、遺構番号について調査年度ごとに遺構番号が付された影響で同一番号の遺構が複数存在する。凡例で提示のとおり、調査年度が先ものを優先し、調査年度が後のものについては、遺構略号の前に調査年の西暦下2桁の数字を付し、区別して表記した。

### 第1節 F-1区

#### 1. 竪穴住居跡

07\_S I-001 (図3-3・4)

X=91892.500, Y=11604.000付近で検出した。平面形は不整形を呈し、408.0×372.0×23.0cmを測る。また、東側は不整形形状に突出した掘り込みがあり、その部分を含めると長軸側の長さは474.0cmを測る。主軸方位はN-158°-Eである。ピットは竪穴内から5基検出した。南北壁の壁溝上にP i t 1~4が掘り込まれ、4本柱を主柱配置としているようである。また、北西側のP i t 4の西側にはP i t 5が配置しており、類似した規模・深さであることから配置替え等により機能していた可能性が残される。壁溝は方形に全周する形で検出した。カマド設置部分でも予め掘削がなされているが、前述の右形状の突出部は壁溝の外周に広がっており、記録されたセクション図上で確認すると、壁として明瞭に区分されていたものではなく、突出部から連続した埋没がなされている。掘り方を含めた堆積土は5層に分層し、廃絶後の堆積土は第1~4層が相当する。床面に第2・3層が部分的に堆積している以外は第1層としたブロック混じりの土で埋没が完了しており、人為的な埋め戻しに伴う堆積状況である。なお、降下火山灰は堆積土中から検出していない。

カマドは南3・4の位置から検出した。構築材は残存しておらず。支脚としてKP-15の位置から土師器小甕底部が倒位に出土したのみである。記録

写真や土層図を確認した限りでは構造は半地下式で、壁の一部が掘削された炬燵タイプであると考えられ、燵道長は16cmを測る。

図示した遺物はカマド出土の資料で、F001はカマド第3・4層と07\_S I-002覆土出土のロクロ小甕の体~底部資料で、底径6.4cmを測る。外面側が二次被熱により赤褐色気味に変色しているが、07\_S I-001出土資料と07\_S I-002出土資料との接合破片間に色調の差はない。しかし、内面の器面状況が異なり、07\_S I-001側の破片には煤付着が認められ、破片化後の焼成の影響が考慮される。

07\_S I-002・002b (図3-5~13)

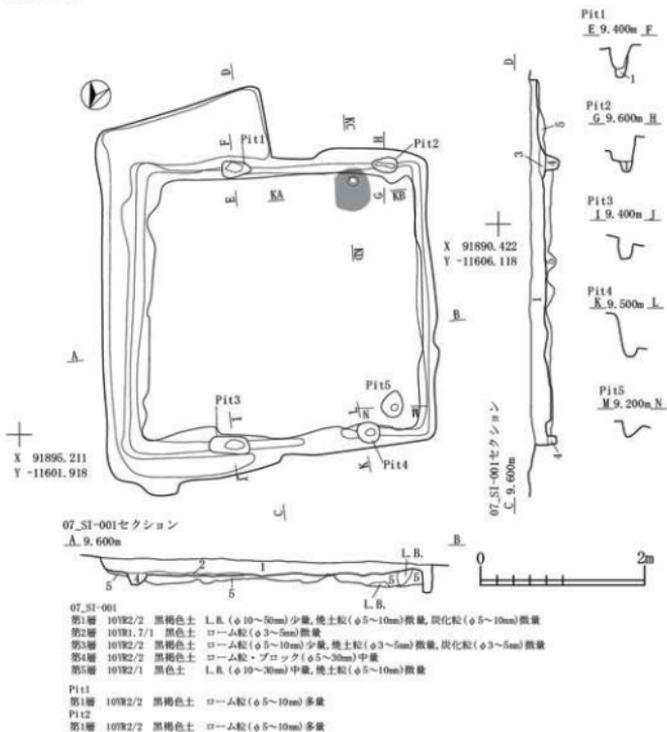
X=91882.000, Y=11610.000付近で検出した。新旧二軒の重複で、記録上はカマドが新段階3基、旧段階2基検出した形で記録されている。同一地点での拡張に伴う建物であるため、本項で一括して記述する。

また、本竪穴内から07\_S K-002・003・004とした土坑3基を検出している。07\_S K-002は新段階の07\_S I-002の埋没完了後に掘削された土坑、07\_S K-004は07\_S I-002より古い段階に掘削された土坑と認定できるが、07\_S K-003については07\_S I-002の貼床下から検出した土坑で、07\_S I-002bから07\_S I-002への変遷は連続した可能性を踏まえると、07\_S I-002の掘り方土坑として帰属した可能性が残される。本報告では、調査時の記録を優先し、土坑側で掲載した。

07\_S I-002

新段階の竪穴である07\_S I-002は、平面形が台形を呈し、542.0×448.0×21.0cmを測る。主軸方位はN-165°-Eである。旧段階に相当する07\_S I-002bと南壁はほぼ共通とし、残りの3壁を拡張し、床面を浅めにして構築している。壁溝は全周し、ピットは掘り方土坑であると考えられるP i t 2を含め4基確認し、壁際のP i t 3・4が主柱穴として掘削された可能性がある。ただし、P i t 3の位置はカマド1とした火床面上に相当し、最終段階であるカマド1の使用時には柱穴として機能していなかったと考えられる。配置的にはカマド設置壁寄りに2本と竪穴中央に2本設置される4本柱であった可能性が想定されるが、南壁に接するP i t 3・4の延長線上の北側は重複する07\_S I-002の埋土が堆

07\_SI-001



07\_SI-001土器・石器・鉄関連遺物出土位置図

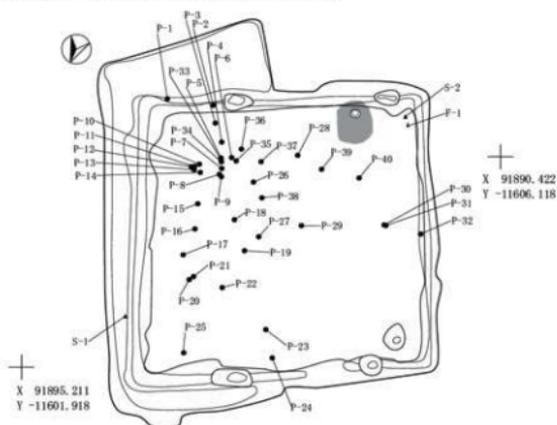
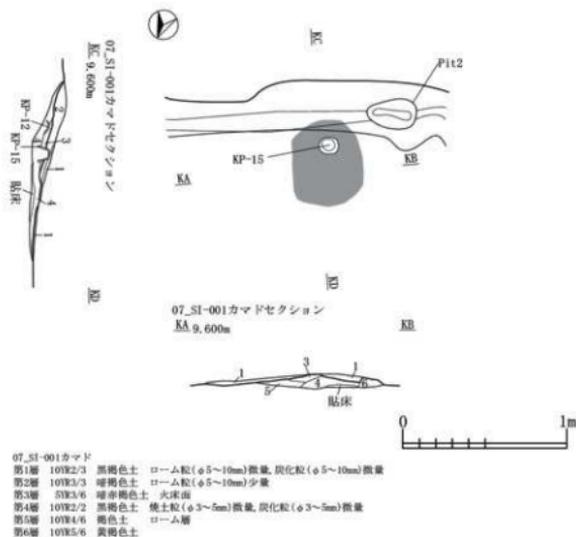


図 3-3 F-1区 07\_SI-001-1

## 07\_SI-001カマド



## 07\_SI-001カマド土器出土位置図

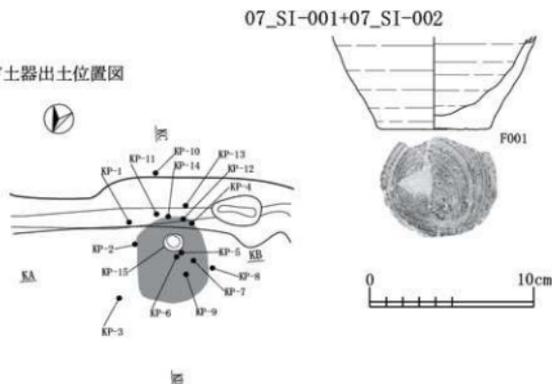
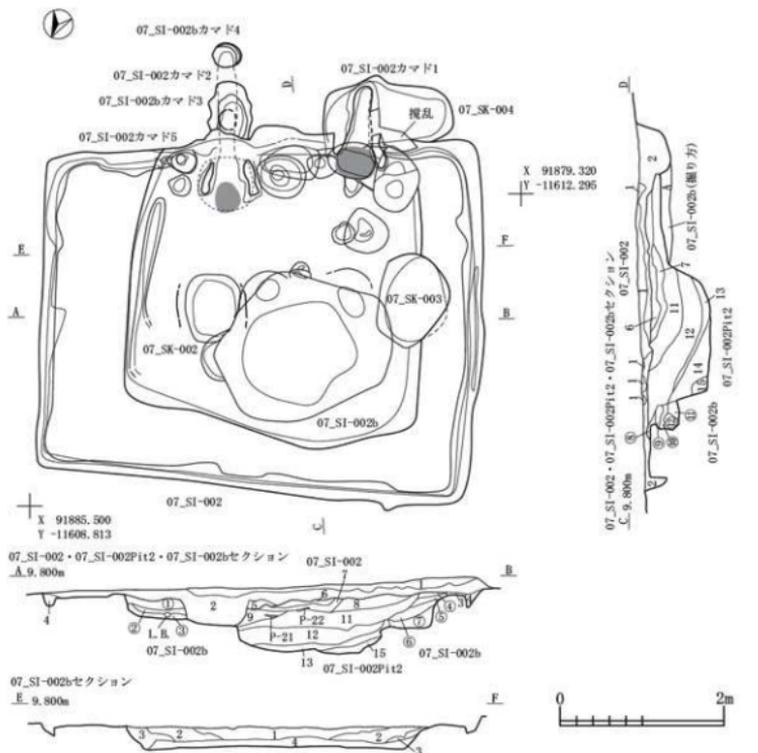


図 3-4 F-1区 07\_SI-001-2

07\_SI-002・002b



07\_SI-002

- 第1層 10YK1.7/1 黒褐色土
- 第2層 10YK2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量
- 第3層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量
- 第4層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量
- 第5層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量, 焼土粒(φ5~10mm)微量
- 第6層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~30mm)少量, 焼土粒(φ5mm)微量
- 第7層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量
- 第8層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~30mm)少量
- 第9層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量
- 第10層 (発掘時に第9層と統合)
- 第11層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量, 炭化粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量
- 第12層 10YK2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~30mm)中量, 炭化粒(φ5~10mm)微量
- 第13層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量
- 第14層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)中量, 焼土粒(φ5~10mm)微量, 炭化粒(φ3~5mm)微量
- 第15層 10YK2/2 黒褐色土と10YK4/6褐色土の混合土 崩落土

07\_SI-002b

- 第①層 10YK2/3 黒褐色土と10YK3/3 暗褐色土の混合土 ローム粒・ブロック(φ3~20mm)微量
  - 第②層 10YK2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~50mm)微量
  - 第③層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ3~30mm)微量, 焼土粒(φ3~10mm)微量
  - 第④層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~30mm)多量
  - 第⑤層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量
  - 第⑥層 10YK2/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量, 焼土粒(φ5~10mm)微量
  - 第⑦層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量, 焼土粒(φ3~5mm)微量
  - 第⑧層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量
  - 第⑨層 10YK2/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~30mm)多量
  - 第⑩層 10YK2/2 黒褐色土
  - 第⑪層 10YK2/3 黒褐色土と10YK4/6褐色土の混合土
  - 第⑫層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量, 焼土粒(φ3~5mm)微量
- 07\_SI-002b
- 第1層 10YK2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~30mm)中量
  - 第2層 10YK2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量, 焼土粒(φ5~10mm)微量
  - 第3層 10YK2/1 黒褐色土 L.R.(φ10~10mm)少量
  - 第4層 10YK3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~30mm)中量, 焼土粒・ブロック(φ5~20mm)中量, To-ak山伏ブロック状に微量混入
  - 第5層 10YK3/2 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)多量

図3-5 F-1区 07\_SI-002・002b

積した箇所に相当することから、柱穴が存在したとしても確認が難しかった可能性がある。

堆積土はPit 2とした掘り方土坑を含め14層分(第10層は欠番)を調査時に分層した。

07\_S I-002bの掘削部を充填した後にPit 2とした土坑を掘削し、Pit 2を埋め戻した上の第6～8層を掘り方充填で整えて床面としている。拡張部の床面から07\_S I-002bの充填部の第①層～Pit 2の上面の第6～8、11・12層～07\_S I-002bの充填土である第④層を通る部分が床面であったと考える。廃絶後の堆積土は第1～5層が相当するが、第5層堆積後に07\_S K-002が掘削されており、竪穴全体の埋没は07\_S K-002の埋没が始まった時点で全面に堆積している状態で、07\_S I-002の廃絶後から07\_S K-002の構築・使用については近接した時期であったものと思われる。堆積土中から降下火山灰は07\_S I-001同様検出していないが、Pit 4にT-o-a火山灰が微量検出している。

カマドはカマド1とカマド2・5としたものが本遺構に帰属したと記録されており、火床面や煙道の残存状況を踏まえるとカマド1側が廃絶段階まで継続していたと考えられ、カマド2と5としたものが前段階の資料ということになる。カマド1は南3の位置から検出した。構造は半地下式で、袖幅74.0cm、煙道長58.0cmを測る。カマドの煙道奥壁は、前段に掘削・埋没していた07\_S K-004の壁面に近接した状態で留まっており、構築に際し、前段の掘削痕を意識した構築であった可能性がある。粘土による構築で、芯材は検出しておらず、煙道の土坑との重複部分には地山粘土を貼り付けて補強している。

カマド2は南2の位置から検出した。主軸方位はN-156°-Eである。前段の07\_S I-002bの煙道と同位置に構築されており、07\_S I-002bから07\_S I-002へ拡張された際のカマドとして機能した可能性が高い。構造は半地下式で、前底部の構築材は残存しておらず、火床面の一部と煙道部のみが残存している。煙道長は68.0cmを測る。堆積土は火床面を含めて10層に分層しているが、実質的には第6・8～10層がカマドに帰属し、残りの土層はカマドとして使用されなくなった以降の堆積土であり、出土遺物についても同様で、K P-14・15のみがカマド帰属で、残りは廃絶以降の廃棄に伴う資料である。

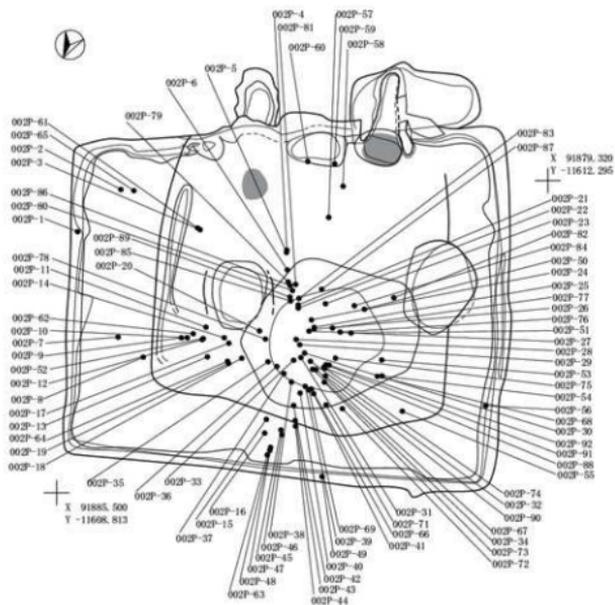
カマド5は火床面が残存しておらず、煙道のみを記録である。前段階の07\_S I-002bの壁面を越える拡張範囲から検出しており、本遺構の段階であると考えられる。記録上では火床面が残存し

ていないが、記録写真を確認するとPit 4としたピットの東側の上面に焼土を検出しており、Pit 4の堆積土より上面に焼土が及んでいることが確認できる。このことからPit 4が機能した古段階より新しい段階のカマドであった可能性が高い。ただし、記録図の情報はセクションで煙道の情報が記録されているのみで、記録を元に戻すと煙道長は38.0cmを測る。

出土遺物は前段の遺構との遺構間接合資料を含め17点図示した。F002は第2・5・14層および07\_S I-002b第②層、07\_S K-003第1・2層出土の須恵器環で、口径12.8cm、器高5.5cm、底径5.6cm、器高指数42.9、底径指数43.7を測る。海綿骨針を含む胎土で、外面の重ね焼きと火傷痕は濃褐色を呈する。内面は濃灰色を呈する部分が多く、付着物が認められる。F003は07\_S I-002カマド1と07\_S I-002bカマド4と第④層出土の土師器椀で口径13.6cm、器高6.0cm、底径6.2cm、器高指数44.1、底径指数45.5を測る。海綿骨針を微量含む粘りのやや弱い胎土で、軽質な印象を与える。内外面ともピッチ付着と二次被熱が認められ、外面は口縁部付近が黒斑、内面は煤付着と一部に黒斑が認められる。外面に稜段を持ち、口唇部は丸みを帯びやや厚めな器壁であるが、軽質な胎土であるため、重量感がなく、片手で容易に取り扱える資料である。F004は第2層出土の土師器椀で、口径15.2cm、器高5.0cm、底径5.8cm、器高指数32.8、底径指数38.1を測る。海綿骨針を含む硬質な黄橙褐色を呈する土器で、断面の中央が灰色でサンドイッチ状になっており、酸化焼成の須恵器である印象を持たせる硬質な資料である。内外面ともピッチ付着が認められるが、内面の付着量が顕著で、内面の一部は使用痕が顕著である。聞き気味の椀形を呈しており、外面は浅い稜段を持ち、口唇部はやや先細り気味に伸ばし上げている。F006はPit 2の埋土に相当する第12層から出土した土師器椀の体部下半～底部にかけての資料で、底径5.6cmを測る。海綿骨針を微量含む白みを帯びた硬質な胎土で、外面は淡灰色の斑が観察される。外面体部下半に「井」の刻書があり、「井」部分と対応する内面の器壁に剥落痕が認められ、意図的破壊の可能性もある。底部亲切は幅広・太めであったF004に比べると幅狭・細めで、亲切の段が顕著に残存している。煮炊具はカマドの支脚として設置されていたF016の小甕以外は破片資料で、全体形のわかる資料は出土していない。F007は掘り方充填土に相当する第9層から出土した非クロマ焼で、口径22.4cmを測る。海綿骨針を含まない粘りのある胎土で、φ1～2mm程度



07\_SI-002土器出土位置図



07\_SI-002石器・鉄関連遺物・炭サンプル出土位置図

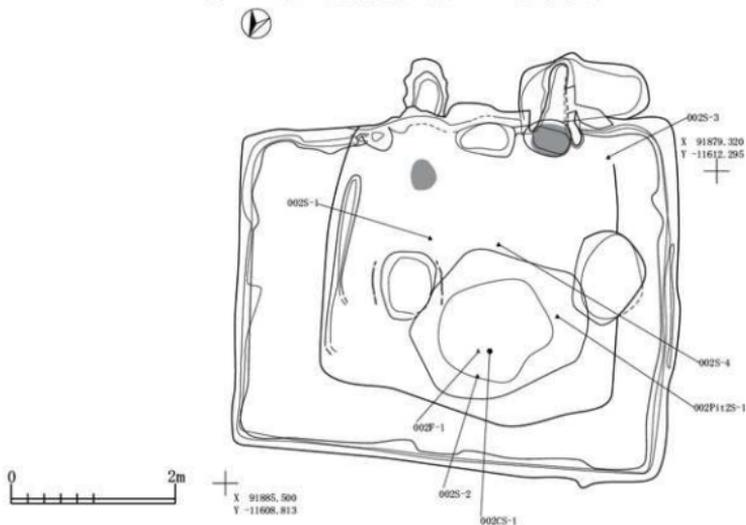


図 3-7 F-1区 07\_SI-002-2

07\_SI-002・002b  
+07\_SK-003

07\_SI-002+07\_SI-002b

07\_SI-002

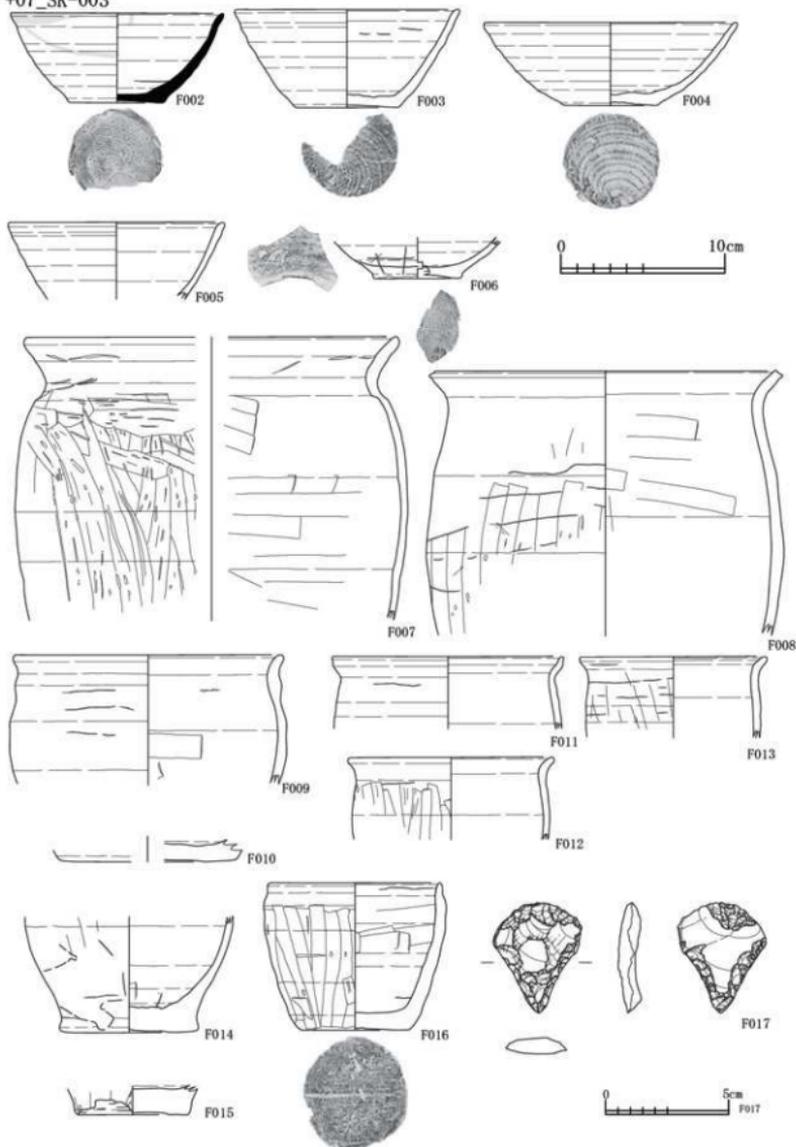


図 3-8 F-1区 07\_SI-002-3

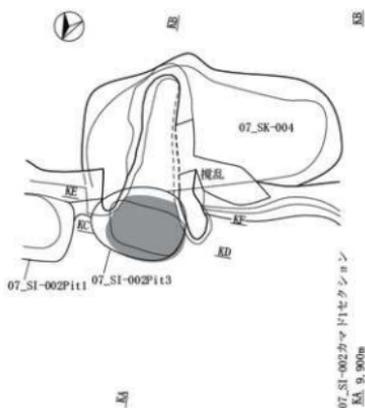
の石英を多く含み、ヘラケズリがなされた外面体部は顕著に砂粒が観察できる。外面体部に3.5 cm程度の黒斑が観察される。器形は輪積成形で形成し、外面は縦方向・斜め方向・縦方向・横方向にヘラケズリを行っている。内面側は指ナデで丁寧に一次整形痕を撫で消しており、口縁部直下の床面上半は板目の幅広の工具で強く横方向に撫で、口縁部を段状に形成させている。口縁部は内外面とも輪積痕が残存し、外面の頭部を意図的に強く撫でることによって内面体部上半の段と口縁の外反を強めており、体部と口縁部との境界を意識した資料である。外面には粘土付着、内面頭部には煤及び炭化物付着、内面体部には煤状付着物が認められる。F008はPit 2底面直上に堆積する第13層とカマド2の第1・5層出土の土師器甕で、口径2.6 cmを測る。海綿骨針を含むやや粘りのある胎土で、軽質な質感を有する。輪積成形で、外面は輪積痕が部分的に残存しているが、内面はヘラによる横方向の調整の後に指ナデにより撫で消しが行われている。外面の縦方向のヘラ調整は浅めで、口縁部直下まで粘土が寄せ上げられているような調整ではない。口縁部は頭部幅が短いものの、頭部で浅い段を付けるように横ナデが行われ、体部との境界を明瞭にさせている。F009は第10層出土の土師器甕で口径1.62 cmを測る。口径で本報告書中に2つの分類であるが、内面口縁部に炭化物がバンド状に付着しており、実質的には小甕と同様の使用であったと考えられる。海綿骨針と浮石を含む軽質なバサバサした質感を有する胎土で、口縁部内面には前述のとおり煮炊痕、外面には吹きこぼれの付着痕が認められる。調整は体部内面の一部でヘラの調整痕が残存しているが、ナデによって器面が調整され、撫で消されており、外面口縁部は頭部を横方向に撫でることによって体部との境界を明瞭にしている。F011～F013は、小甕の口縁部資料で、いずれも内面頭部に煮炊痕が認められる。F011はロクロ使用、F012・F013は非ロクロで、非ロクロのものが若干口径が小さい。破片資料は口縁が外反するが、支脚として使用されたF016は、体部から内傾し、口縁部が直立気味の器形で、口径10.4 cm、器高9.0 cm、底径6.4 cmを測る。海綿骨針を微量、浮石や砂粒をやや多く含むやや粘りのある胎土で、二次焼熱が顕著で、外面体部は剥落している。底面は平行脈の木業痕で、外面体部は縦方向のヘラ、内面は横方向のヘラによる調整の後に指ナデで撫で消されている。口縁部は前述のとおり、体部から横方向の指ナデによって内傾させており、口唇部は上方方向に伸ばし上げるように直立気味に立ち上げている。外面体部には粘土付着、内面体部下半には白色付着物が認められる。

## 07\_\_SI-002b

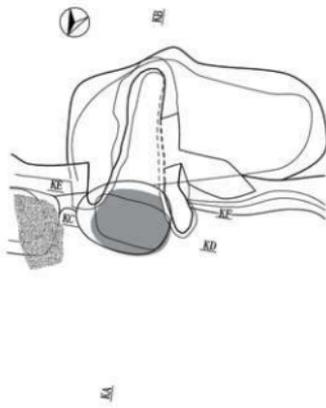
07\_\_SI-002の前段階の堅穴建物で、前述のとおり南壁のみ接する形で、その他の壁は拡張されているため、遺構確認より一段下がった残存部の検出である。残存部の形状は不整形を呈し、3.86.0×357.0×44.0 cmを測る。主軸方位はN-160.5°-Eである。ピットは07\_\_SI-002よりも一段下がった床面から検出した15基を認定しているが、主柱穴として機能した可能性のあるピットは07\_\_SI-002と同様に南壁寄りのPit 5・6・12・13で、中央から北壁寄りの部分のピットは重複する07\_\_SI-002のPit 2とした掘り方土塔の影響や、不明瞭な落ち込みのみ検出で不明瞭である。カマドの右袖筋のPit 11はカマド脇ピットに相当する。堆積土はセクションライン単位に分層が異なる記録がされているが、07\_\_SI-002との重複部分のセクションライン上では掘り方を含め13層に分層し、廃絶後の埋没は人為的な埋戻しと07\_\_SI-002の構築に伴う堆積が認められ、連続した拡張であったことが考えられる。07\_\_SI-002との重複以外のセクションライン(E-Fライン)上の最下層に相当する第4層からTora火山灰をブロック状に検出した。カマドは南2の位置から検出した。同位置に新田2段階あり、調査時には新しい方をカマド3、古い方をカマド4として取り扱っている。なお、その上位には07\_\_SI-002のカマド2とした部分が重複しており、カマド3については重複部分の精査後の確認である。カマド3は半地下式で、袖部長76.0 cm、煙道長56.0 cmを測る。主軸方位は旧カマドと同軸である。前庭部は旧カマドであるカマド4の火床面の部分を少し凹ませ、土を盛っており、火床面として記録されているのは第6層である。煙道はカマド4の煙道の崩落部分上面を掘り込み、ルームを貼っている。旧段階になるカマド4は地下式で煙道長114 cmを測る。主軸方位はカマド3と同軸である。堅穴の壁から10°の傾斜で煙道部に向かっており、煙道部は崩落が伴い段状の壁となっているが、ほぼ軸線が直線的になるよう構築されている。堅穴壁寄りの部分はルーム層が崩落しており、構築材と同様の粘土で煙道を作っていたものと思われる。

出土遺物は、破片資料4点図示した。F018は、第③層出土の須恵器鉢で14.0 cmを測る。濃灰色を呈する破片資料で、粒径の細かい砂粒を含む。外面頭部は輪積痕が残存しており、口唇端部の面取りは凹部が明瞭で、内面側を強く撫で、端部の突出を際立たせている。F019はPit 11覆土出土の須恵器鉢で口径15.2 cmを測る。F018と器形が非常に類似しており、同一個体で、作図時の

07\_SI-002カマド1



07\_SI-002カマド1粘土範囲



07\_SI-002カマド1セクション

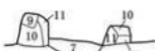
MA 9,900m

KE

07\_SI-002カマド1セクション

KE 9,900m

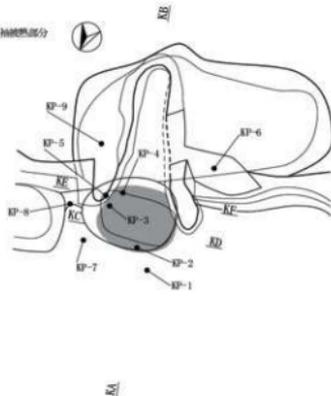
KE



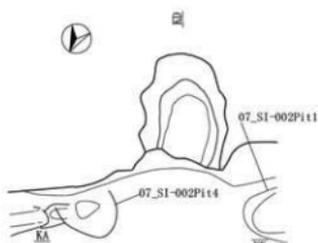
07\_SI-002カマド1

- |      |         |         |   |
|------|---------|---------|---|
| 第1層  | 10R2/2  | 黒褐色土    | ローム粒(φ5~10mm)少量, 焼土粒(φ3~5mm)微量                        |
| 第2層  | 7.5R2/3 | 黒褐色土    | 焼土粒(φ5~10mm)少量, 炭化灰(φ5~10mm)微量                        |
| 第3層  | 10R3/4  | 暗褐色土    | 焼土粒(φ3~5mm)微量   |
| 第4層  | 10R3/3  | 暗褐色土    | 焼土粒(φ5~10mm)微量  |
| 第5層  | 10R4/6  | 褐色土     | ローム(大砂心付)   |
| 第6層  | 7.5R4/4 | 褐色土     | ローム(揮発燃焼)   |
| 第7層  | 10R4/8  | 赤褐色土    | 火床面   |
| 第8層  | 10R3/3  | 暗褐色土    | ローム粒・ブロック(φ5~30mm)中量,<br>炭化灰(φ3~5mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量 |
| 第9層  | 10R4/4  | にじみ赤褐色土 |   |
| 第10層 | 7.5R4/4 | 褐色土     | ローム粒(φ5mm)微量  |
| 第11層 | 7.5R3/4 | 暗褐色土    | ローム粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ5~10mm)微量, 揮発燃焼部分               |
| 第12層 | 10R3/4  | 暗褐色土    | ローム粒(φ5~10mm)微量                                       |

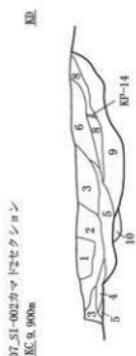
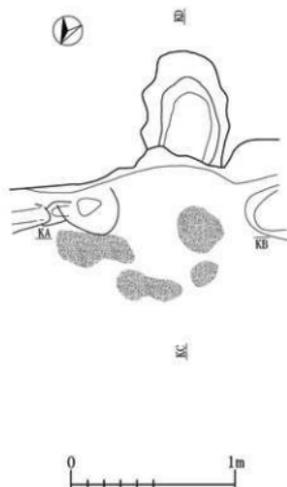
07\_SI-002カマド1土器出土位置図



## 07\_SI-002カマド2

07\_SI-002カマド2セクション  
KA 9.900m

## 07\_SI-002カマド2粘土範囲

07\_SI-002カマド2セクション  
KB 9.900m

## 07\_SI-002カマド2

- |      |               |   |
|------|---------------|---|
| 第1層  | 10YR3/3 暗褐色土  | 焼土粒(φ3~5mm)微量、<br>ローム粒(φ5~10mm)微量       |
| 第2層  | 10YR4/6 褐色土   | ローム層                                    |
| 第3層  | 10YR3/3 暗褐色土  | ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量、<br>焼土粒(φ3~10mm)微量 |
| 第4層  | 10YR2/3 黒褐色土  | 珪化粒(φ3~5mm)微量                           |
| 第5層  | 10YR2/2 黒褐色土  | ローム粒(φ5~10mm)少量、<br>焼土粒(φ3~5mm)微量       |
| 第6層  | 7.5YR4/6 褐色土  | 焼土粒(φ3~10mm)微量                          |
| 第7層  | 10YR2/2 黒褐色土  | 焼土粒(φ3~5mm)微量                           |
| 第8層  | 2.5YR4/8 赤褐色土 | 砂質土壌層                                   |
| 第9層  | 10YR2/2 黒褐色土  | ローム粒(φ3~5mm)微量、<br>焼土粒(φ3~5mm)微量        |
| 第10層 | 5YR4/8 赤褐色土   | 大床面                                     |

## 07\_SI-002カマド2土器・鉄関連遺物出土位置図

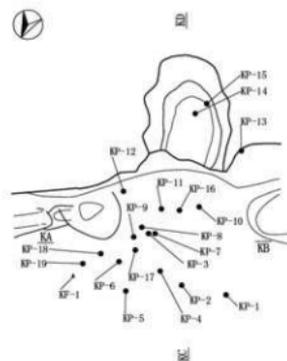
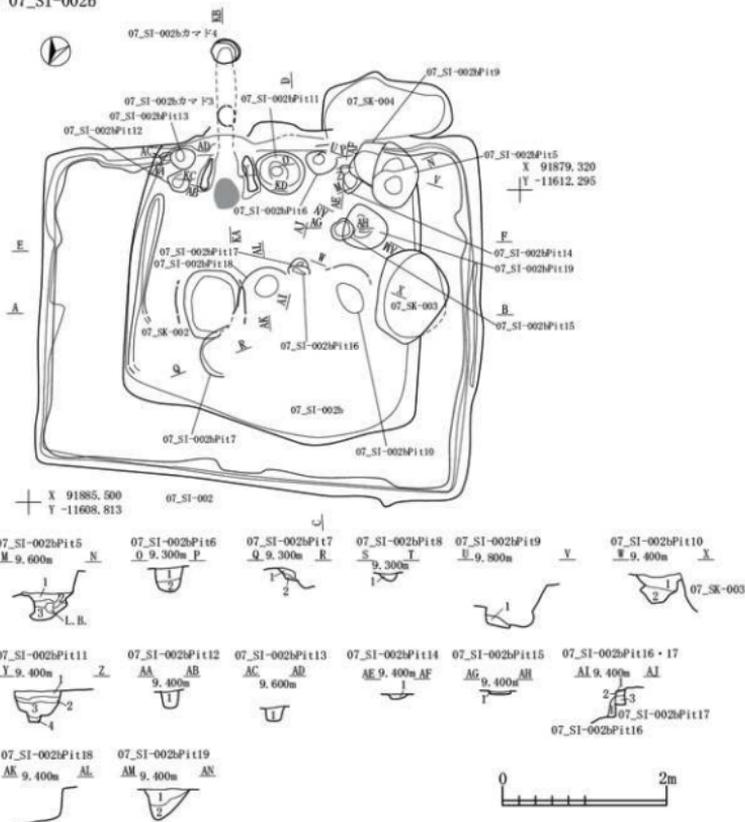


図3-10 F-1区 07\_SI-002-5

07\_SI-002b



07\_SI-002bP15

- 第1層 10Y2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量  
 第2層 10Y2/1 黒色土  
 第3層 10Y2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)微量焼土粒(φ3~10mm)微量  
 L.R. 10Y4/6 褐色土 月見野火山灰ブロック  
 07\_SI-002bP16  
 第1層 10Y2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量  
 第2層 10Y2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)微量  
 07\_SI-002bP17  
 第1層 10Y3/3 暗褐色土 焼土粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量  
 第2層 10Y3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~10mm)中量  
 07\_SI-002bP18  
 第1層 10Y2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)中量  
 07\_SI-002bP19  
 第1層 10Y3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~20mm)多量, 炭化粒(φ5~10mm)少量,  
 焼土粒(φ3~10mm)少量  
 07\_SI-002bP110  
 第1層 10Y2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~40mm)中量  
 第2層 10Y2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~40mm)多量  
 07\_SI-002bP111  
 第1層 10Y2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量, 炭化粒(φ5~10mm)微量  
 第2層 10Y4/4 褐色土 L.R.(φ10~30mm)少量, 焼土ブロック(φ20~40mm)少量  
 第3層 10Y3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量, 焼土粒(φ5~10mm)微量  
 第4層 10Y4/4 褐色土 L.R.(φ20~30mm)多量

07\_SI-002bP112

- 第1層 10Y3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~20mm)中量  
 07\_SI-002bP113  
 第1層 10Y3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~20mm)中量  
 07\_SI-002bP114  
 第1層 10Y3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量,  
 焼土粒(φ3~5mm)微量  
 07\_SI-002bP115  
 第1層 10Y2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~20mm)多量, 焼土粒(φ5~10mm)微量  
 07\_SI-002bP116  
 第1層 10Y2/3 黒褐色土 焼土ブロック(φ10~20mm)少量, L.R.(φ10~20mm)少量  
 07\_SI-002bP117  
 第1層 10Y2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量  
 第2層 10Y4/6 褐色土 ローム粒(月見野火山灰)  
 第3層 10Y2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量  
 07\_SI-002bP119  
 第1層 10Y4/6 褐色土 L.R.(φ30~50mm)多量  
 第2層 10Y3/2 黒褐色土 L.R.(φ10~30mm)少量, 焼土ブロック(φ20~50mm)少量

図3-11 F-1区 07\_SI-002b-1

## 07\_SI-002b土器・石器出土位置図

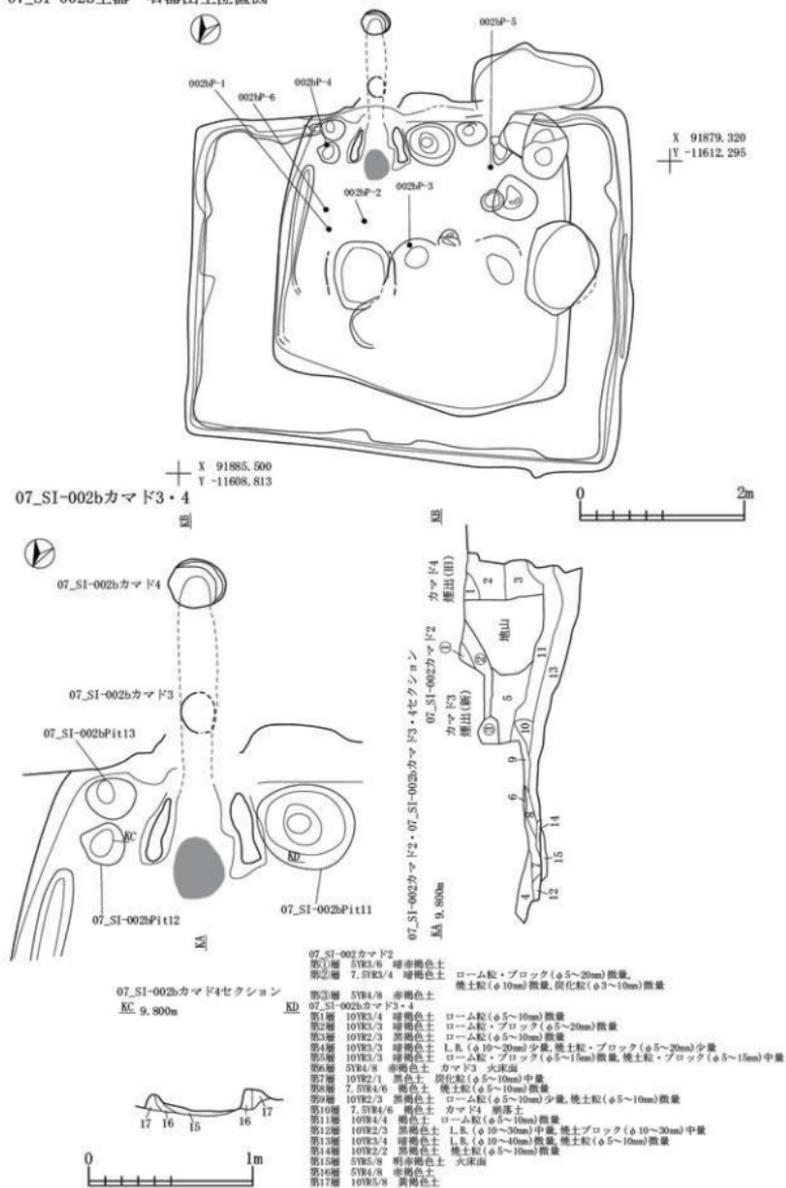
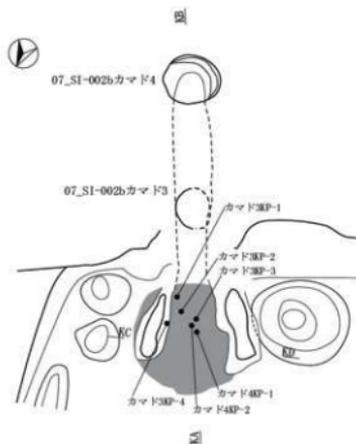


図 3-12 F-1 区 07\_SI-002b-2

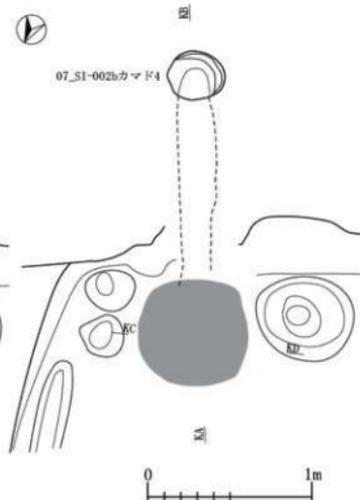
07\_SI-002bカマド3炭範囲



07\_SI-002bカマド3・4土器出土位置図



07\_SI-002bカマド4



07\_SI-002b

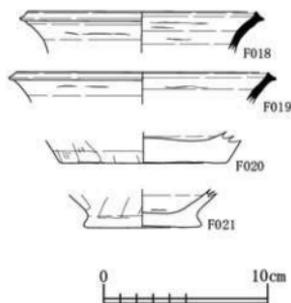


図3-13 F-1区 07\_SI-002b-3

復元径の差による可能性もあるが、本資料は外面が灰かぶりの状態で、頸部周辺は自然軸が付着した状況である。煮炊具の破片資料であるF020とF021はいずれも底面が無調整で、砂粒付着痕なども認められない資料で、いずれも摩滅が顕著である。

07\_S1-0004 (図3-14～21)

X=91910.000, Y=11624.000付近で検出した。上面が攪乱によって破壊されており、北壁側に軸線

が若干ずれた長方形の竈穴を検出しているが、適切な位置で土層記録がなされていないため、南側の情報が不明瞭である。しかし、北壁の内側の壁溝部分が最終段階の壁に相当し、北側の壁溝が途切れる壁は前段階の竈穴という取り扱いとなり、北側の壁溝が連続する西壁側も一回り内側に連続し、位置が内側によった部分が最終段階の壁であることがわかる。さらに掘り方の記録図を確認すると一回り小さな長方形の壁溝の区画を確認することができる。こ





## 07\_SI-004炭範囲・炭サンプル・焼土範囲

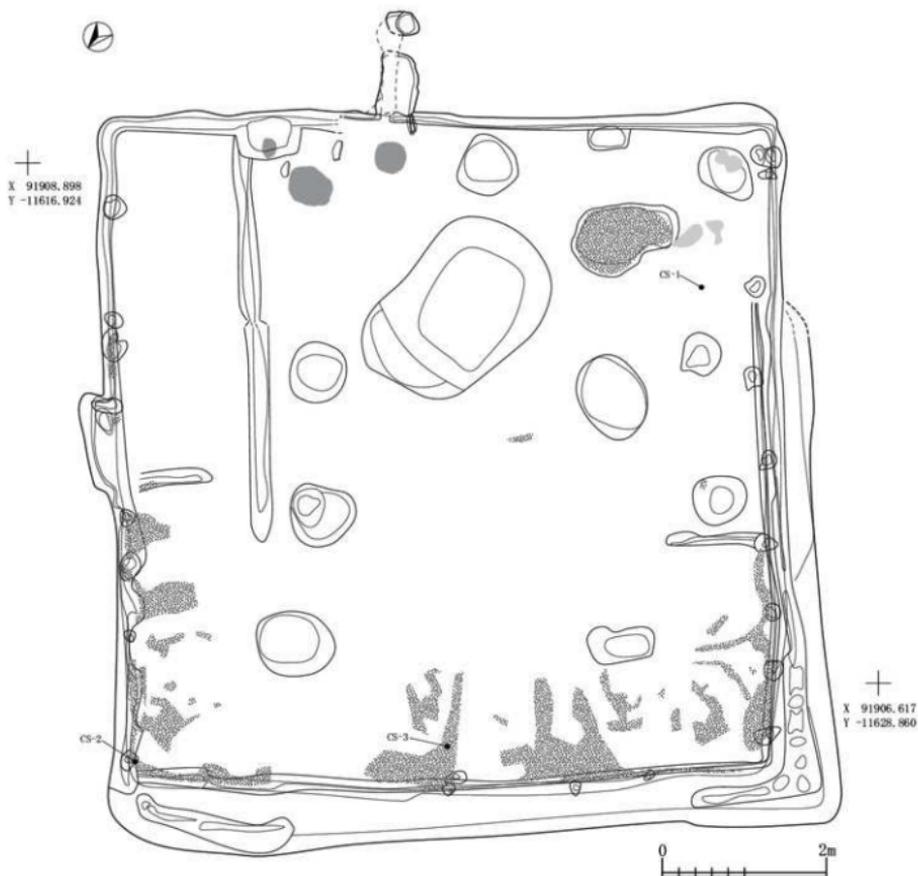


図 3-15 F-1区 07\_SI-004-2

のことから最低三段階の竪穴建物として変遷していることがわかる。最終段階の竪穴は平面形が方形を呈し、 $834.0 \times 832.0 \times 72.0 \text{ cm}$ を測る。重複する竪穴に対する個別のピットの認定がなされていないため、一括でピット番号が付され、34基検出している。重複した竪穴の床面の高さがそれほど差がないので、前段階の竪穴のピットも含めて精査されている可能性が非常に高い。主柱穴として機能した可能性が高いピットは Pit 1・2・7・8で、Pit 6・10、Pit 11・12も軸線上に二つ並ぶピットである。最終段階の竪穴は壁溝上に

Pit 15～33の小ピット状の掘削痕がある。壁溝は南西隅に断続が認められるが、残りの部分は全周する形で検出しており、東壁と西壁の中央付近から短い間仕切り溝を検出している。堆積土は重複する竪穴を含め2層に分層されているが、前述のとおり、床面がほとんど共通のため不明瞭な部分が多く、北壁と西壁は一回り内側に入り込んだ部分が壁面となっており、西壁側の第16～19層は一段階前の竪穴の壁溝という取り扱いになる。北壁についても第15層は前代の竪穴の埋土という取り扱いになる。一回り小さい竪穴については掘り方の第21

## 07\_SI-004掘り方

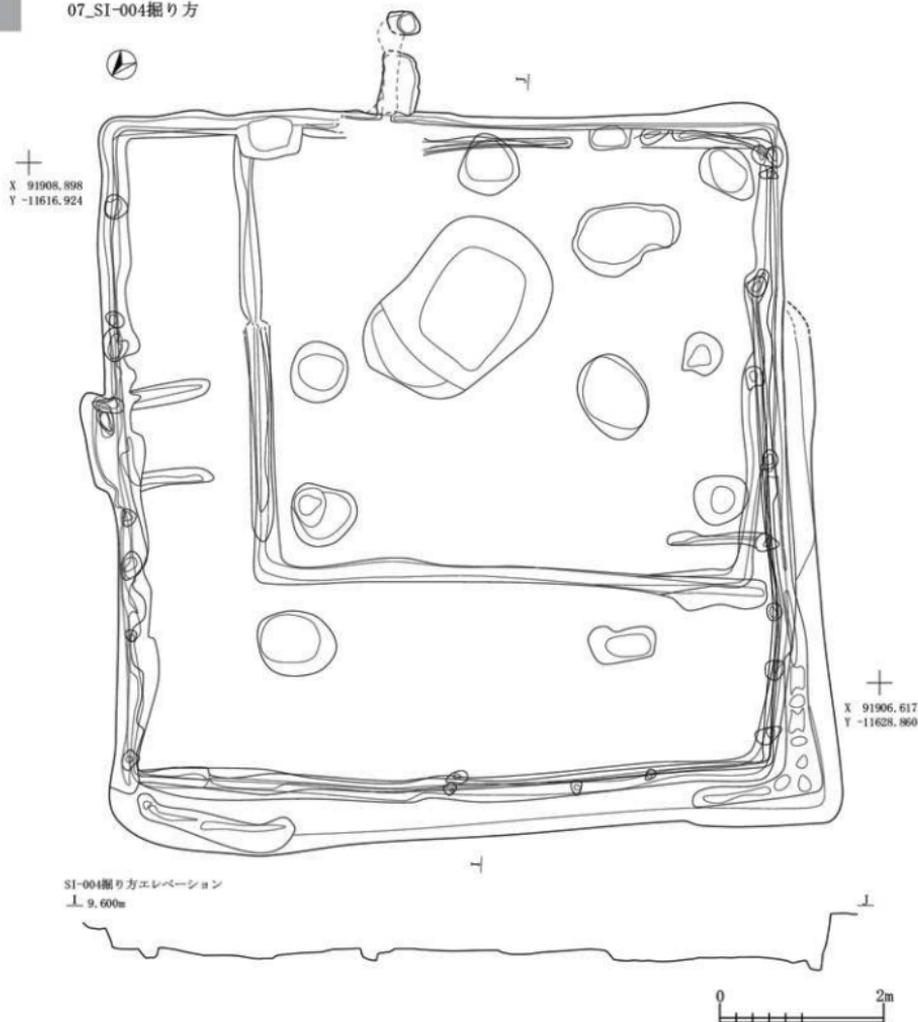


図3-16 F-1区 07\_SI-004-3

層の堆積部分が相当しているが、拡張後の部分にも掘り込みと充填が広がっている状況である。なお、最終段階の竪穴の床面には炭化材が堆積し、板壁に相当すると考えられる板状の炭化材が倒壊した状況で、北側の壁際を中心に検出している。しかし、その出土量は限定的で、床面の焼土範囲の検出状況も限定的な状況であったことから廃棄に伴う焼成の可

能性が高いものと考えられる。降下火山灰は竪穴の堆積土中からは検出していないが、Pit 3の上面に堆積する第3層はB-Tm火山灰の二次堆積層に相当する。

カマドは調査時に南2の位置からカマド1～3として精査され、カマド1については地下式・半地下式の新旧二段階で記録されている。記録写真で確認

## 07\_SI-004土器・石器・鉄関連遺物・07\_SI-004Pit5土器・土製品出土位置図

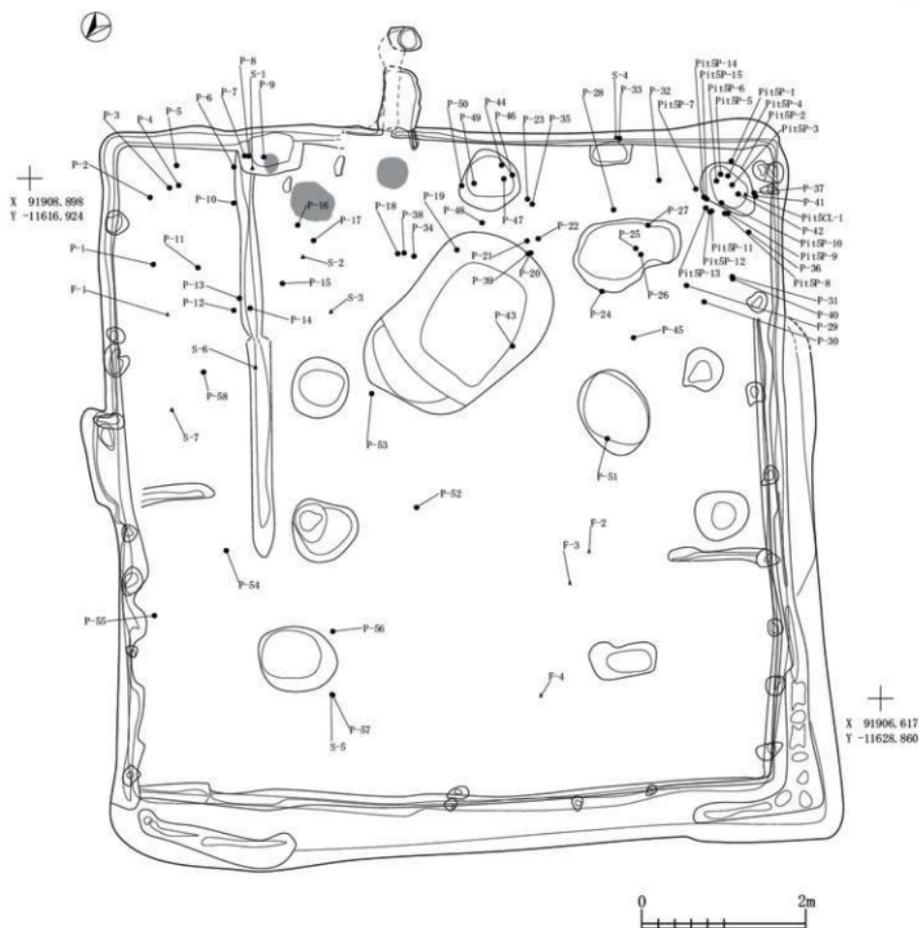


図 3-17 F-1区 07\_SI-004-4

できる廃絶時の廃棄状況を見るとカマド1の半地下式の地点とカマド2とした部分に遺物が散乱している状況で、カマド1の前庭部のKP-30とした床面直上からは、F023に図示した須恵器長頸瓶が口縁部を打ち欠き（接合により口縁部破片は一部接合）、体部は円形に敲打・剥離させた状態の長頸瓶を正位に置いた状態で出土している。また、カマド2の地点は芯材である礫が突き刺さった状態で出土しており、カマド1と同様に遺物は散乱している。カマド1の芯材としたKS-1の礫はカマド1の芯

材というよりはカマド2側の芯材としたほうが妥当な位置関係である。このことから廃絶時はカマド2側がカマドとして機能しており、カマド1側についても廃絶時に意図的な廃棄行為をしていることを踏まえると半地下式のカマドはカマド2と併存していた可能性が残る。また、カマド3とした部分は焼土層の検出のみで、Pit2の裏込土の堆積部分相当であることからカマドとして機能したことについては消極的な判断をしたい。

## 07\_SI-004カマド1

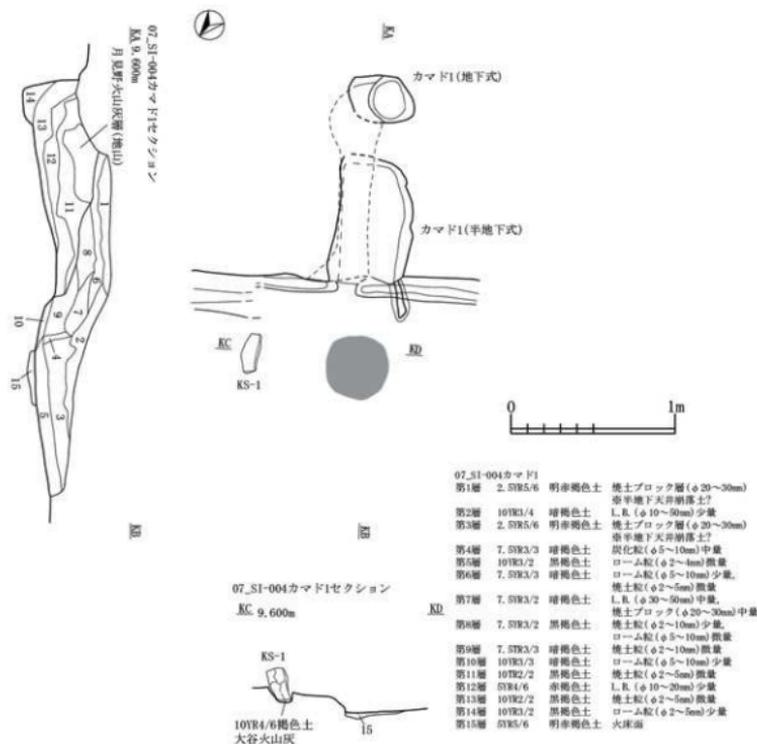


図3-18 F-1区 07\_SI-004-5

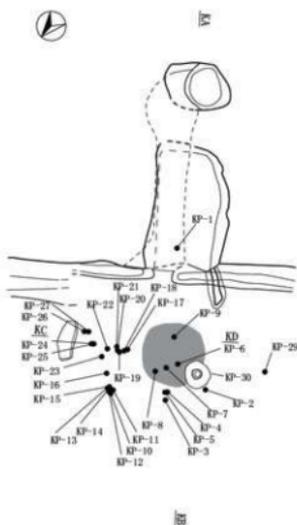
カマド1は、前述のとおり新旧二段階存在し、地下式が古く、半地下式が新しい。半地下式は右袖のみの部分的な残存で、煙道長76.0cmを測り、主軸方位はN-146°-Eである。前代の地下式のカマドの煙道を意識した構築で、西側に広げた掘り込みを持つ。煙道は竪穴の壁の立ち上がりの途中から15度の角度で緩やかに立ち上がっている。地下式のカマドは主軸方位がN-142°-Eで、煙道長124.0cmを測る。壁面から30cm程度は水平で、その部分から11度の傾斜で下がり、ピット状に掘りこまれた煙出部につながっている。煙出部のピットは西方向にずれた位置から掘り込まれており、煙道部分と湾曲した状態でつながっている。前述のとおり前庭部周辺を中心に遺物が廃棄されており、長頸瓶やF035・F037に図示した煮炊具等も出土している。カマド2は火床面と芯材のみ記録され、その他の土層情報がいないため、不明な点

が多いが、前述のとおりカマド1扱いの芯材とカマド2扱いの芯材幅は76cmで、主軸方位はN-142°-Eでカマド1の地下式の軸線と同じ軸線である。

前代の竪穴建物については最終段階の建物よりも少し大きめの885.0×866.0×76.0cm、不明瞭ではあるが、北側に配置する長方形を呈する870.0×(673.0)×53.0cm、さらに南側の長方形を呈する650.0×570.0×71.0cmを測る竪穴建物が想定される。一括した精査であるため、詳細が不明な部分が多い状態で、前述のカマドも焔風はこれらに配置するものと考えられる。ただ、主軸はあまり変化していないことを踏まえると連続した変遷であったことが考えられる。

出土遺物は18点図示した。F022は竪穴堆積土第4層から出土した須恵器環の体へ底部にかけて

07\_SI-004カマド1土器出土位置図



07\_SI-004カマド1石器・羽口・土製品出土位置図

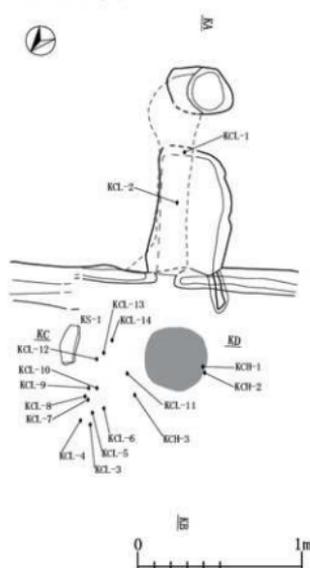
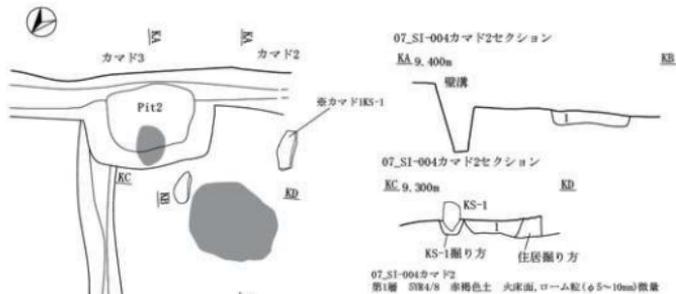


図 3-19 F-1区 07\_SI-004-6

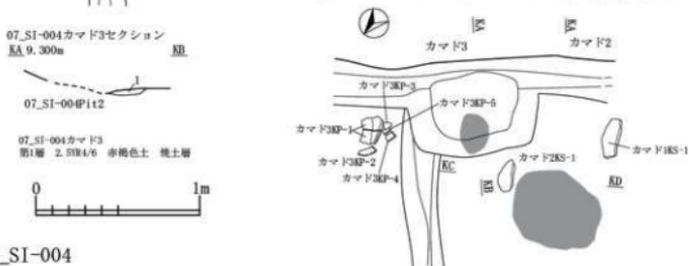
の破片で、底径6.4cmを測る。内外面とも褐色を基調とする色調で内外面とも認められる火燎痕は赤褐色を呈する。断面形は灰褐色で、焼きの甘い資料である。外面体部に打欠が認められ、器面が剥落している。F023は前述のカマド1の前庭部から出土した須恵器長頸瓶で口径9.0cm、器高24.0cm、底径9.6cmを測る。出土時には口縁部が欠損していたが、口縁部片は一部出土しており、接合により全体形は復元されている。打欠は頭へ体部中半に顕著に認められ、最大径 $\phi$ 9.5cm程度の部分が打ちかかっている状況である。また体部下半の底部周縁ではタール状の付着物がバンド状に認められる。器形は五所川原産須恵器で、頸部のリング状の突帯は頸部側に沈線を入れ、突出部を際立たせた造りで、底面は放射状の菊花状削りが施されている。F024は第10層出土の土師器椀で口径12.0cm、器高5.9cm、底径5.2cm、器高指数49.1、底径指数43.3を測る。浮石などの砂礫を多く含むザラザラした質感を有する胎土で、器形は体部下半の器壁が厚いタイプである。糸切の切離し後に底面の一部および体部下半を手持ちでナゲを加えており、膨らみの形状が不均一である。被熱や焼成に伴うリング状の煤付着が内外面

に対応する形で体部下半～底面にかけて認められ、内面の煤付着部分の外縁には白色の灰汁状の付着物が認められる。全体的に摩滅が顕著で、破断面は丸みを帯びるほど磨耗しており、全体形は匙状の形状を呈している。F025は第4層出土の土師器椀で口径11.8cm、器高5.1cm、底径6.2cm、器高指数43.2、底径指数52.5を測る。F024と同様に浮石混じりのザラザラした質感を有する胎土で、器壁は体部中半から底部にかけて厚みを持ち、器面の摩滅が顕著である。内外面とも底部が円形に黒斑となっており、接合破片の一部は黒斑が不整合である。口唇部の一部は打欠がなされているが、灯明痕は認められず、その打欠側の対面の約半分が口縁部は体部中半まで打ち欠かれ、破断面は摩滅した状況である。F026はP1t34の上面に相当する床面直上（調査時第12層P-49扱い）から出土した土師器椀で、口径13.6cm、器高5.2cm、底径5.0cm、器高指数38.2、底径指数36.7を測る。浮石を含む砂礫をやや多く含むやや粘りのある胎土で、軽質で硬質な質感を有する。内外面とも約半分が口縁部～底面まで煤・タール状付着物が認められる。状況的には類似の形状のものが重なった状態で、タール状付着物や煤付着に伴う

07\_SI-004カマド2・3



07\_SI-004カマド2石器・カマド3土器出土位置図



07\_SI-004

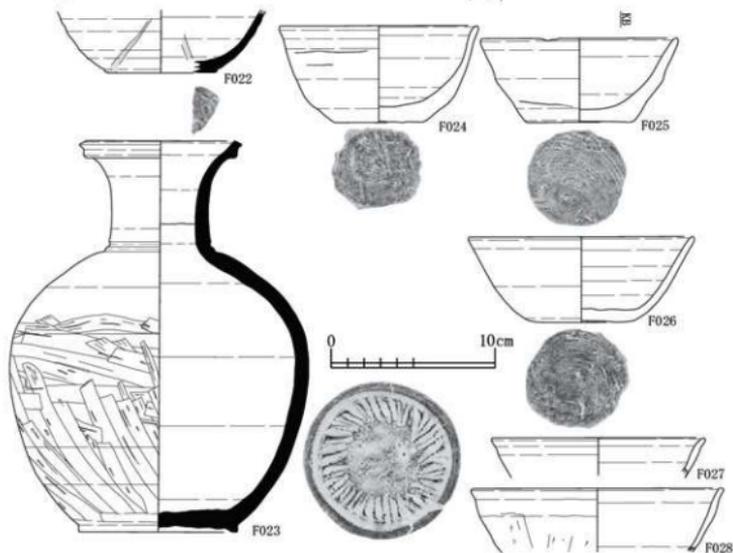


図 3-20 F-1区 07\_SI-004-7

焼成が伴ったものと判断される。器形は水気の若干弱い状態でロクロ回転を行っており、器壁は胎土中に含まれる砂粒の動きに伴って若干凹凸が目立つ。内面の見込部分は平坦で幅が広く、外面の底端部は丸みを持ち、開き気味にストレートに立ち上がる。前述の煤等の付着が認められる内面部分のロクロ外面には重ね焼き痕が認められる。破片資料のうち第11層出土のF028はロクロ使用の土師器碗で15.0cmを測る。白みを帯びたやや粘りのある胎土で、ロクロナデの後に縦方向のヘラによる浅いヘラズリがロクロ直下の外面体部に認められる。煮炊具のうちF029は第5層出土の非ロクロ甕で、口径22.4cmを測る。浮石などを含むやや粘りの弱い胎土で、内外面とも器面が摩擦している。頸部幅はやや幅広く、内面の体部の調整はハケメが観察される。F030は第11層出土の非ロクロ甕で口径18.4cmを測る。浮石を含む砂礫を多量含むやや粘りのある胎土で、内外面とも二次被熱が顕著でロクロ内部には煤付着が認められる。器形は体部と頸部の境界部分が鋭い直線的な段を持たせ、区画を明瞭としており、ロクロ部はナデを明瞭にさせている。また内面は頸部より体部側の部分は斜め方向にヘラズリを行っており、頸部の屈曲を際立たせている。F031はPit5第1層から出土した非ロクロ甕で口径22.4cmを測る。浮石を含むやや粘りのある胎土で、軽質な質感を有する。内外面とも粘土が付着しており、破片化後に被熱で色調に変化が生じており、接合破片間で色調の不整合が認められる。頸部幅は短めであるが、ロクロ部と体部の境界は明瞭にしようとした痕跡はあり、頸部直下と体部上半との境界は縦方向のヘラズリによって直線的に段を生じさせており、一部は粘土の寄せ上げが認められる。その後、ロクロ部を横方向に回転台使用のナデにより明瞭に区切り、さらに、縦方向のヘラズリを行っている。最後の縦方向のヘラズリについては一部ロクロ直下まで突き抜けた部分も見られるが、粘土が寄せ上げられた痕跡はない。内面は一次調整のヘラによる調整がほとんど撫で消されているが、頸部を意図的に強く横方向に撫でることによって体部とロクロ部の区切りを明瞭にさせている。F032はPit5覆土第1層出土のロクロ系甕で口径20.2cmを測る。浮石を含む砂礫を含むやや粘りのある胎土で、土的には食膳具の土と大差がない。器壁が薄く軽質な質感を有する。砂粒の混入が食膳具に比べ多いため、外面の器面調整のヘラズリによって砂粒の動きが認められる。成形の後に整形時にロクロ回転を利用しているが、通常の器壁の厚い資料に比べると回転が安定しており、均質な印象を持つ。ロクロ使用後に外面では縦方向のヘラズリがともなっており、頸部直下まで

撫でられるような深さで調整されている。体部では調整の及んでいない隙間からロクロナデが垣間見られる状況である。外面頸部には煤付着が認められるが、破断面には及んでいない。内面は体部上半が被熱による影響なのか濃褐色気味の色調に変色した部分が観察される。F033は同じくPit5第1層から出土したロクロ系甕で、口径19.8cmを測る。F032と出土位置は同様であるが、F032に比べ砂礫が非常に少ない食膳具と同様の胎土で、海綿骨針も残存部では確認できない。内外面ともロクロ回転に伴うロクロナデのみで、器壁もF032同様薄手な資料である。内面頸部に白色付着物が認められる。F034はカマド3床面Kp-1地点出土の非ロクロ甕で、口径24.6cmを測る。浮石などの砂礫を多く含むやや粘りのある胎土で、軽質な質感を有する。外面体部が二次被熱により色調が桃褐色気味に変色した箇所が観察されるが、淡橙褐色を基調としている。輪形成形で外面の輪痕の撫で消しは不十分でほとんど撫で消されていない。また内面側も部分的に痕跡が観察可能な部分が残存している状況で、ヘラによる調整は軽めな状況である。一部だけ外面の頸部にヘラが食い込んだ部分が観察されるが、粘土が寄せられた痕跡は残存していない状況で、外面は縦方向、内面は横方向の調整手法である。また、外面のコーナー内面体部の一部には褐色粘土が付着しており、外面体部には煤が付着している。F035はカマド1と擾乱部分から出土した非ロクロ甕で口径22.4cmを測る。砂粒を極多量含むやや粘りの弱い胎土で、砂粒の影響も併せやや重量感のあるザラザラした質感を有する。外面はロクロ部体部にかき煤付着と黒斑化した部分が残存しており、非黒斑部分は二次被熱により器面が剥落した部分が認められる。外面の調整は縦方向のヘラによる調整であるが、乾燥時に調整した影響が器面がボロボロした凹凸が目立つ。内面は横方向の指ナデによる調整で、頸部の一部にヘラによる傷が付着している。F036は床面直上相当の第1層掘りの破片とPit3第5層出土の破片の接合資料であるロクロ系小甕で、口径13.4cm、器高15.5cm、底径8.4cmを測る。砂礫を多く含むやや粘りのある胎土で、円柱から成形するのではなく、円盤に粘土を輪積みで積み上げ、整形時にロクロの回転運動を利用している。底面は糸切底ではなく、鳥の足状の当て具痕が認められ、それ以外はナデによる調整である。外面の体部中半まで、回転運動の整形後に外面側は縦方向のヘラズリ調整、内面は横～斜め方向のヘラによる調整の後にナデによる調整が加えられ、回転ナデは体部上半～ロクロ部にかき残存している。外面の体部中半～底面にかき二次被熱が顕著で赤褐色～濃灰色を呈しており、内面に

07\_SI-004

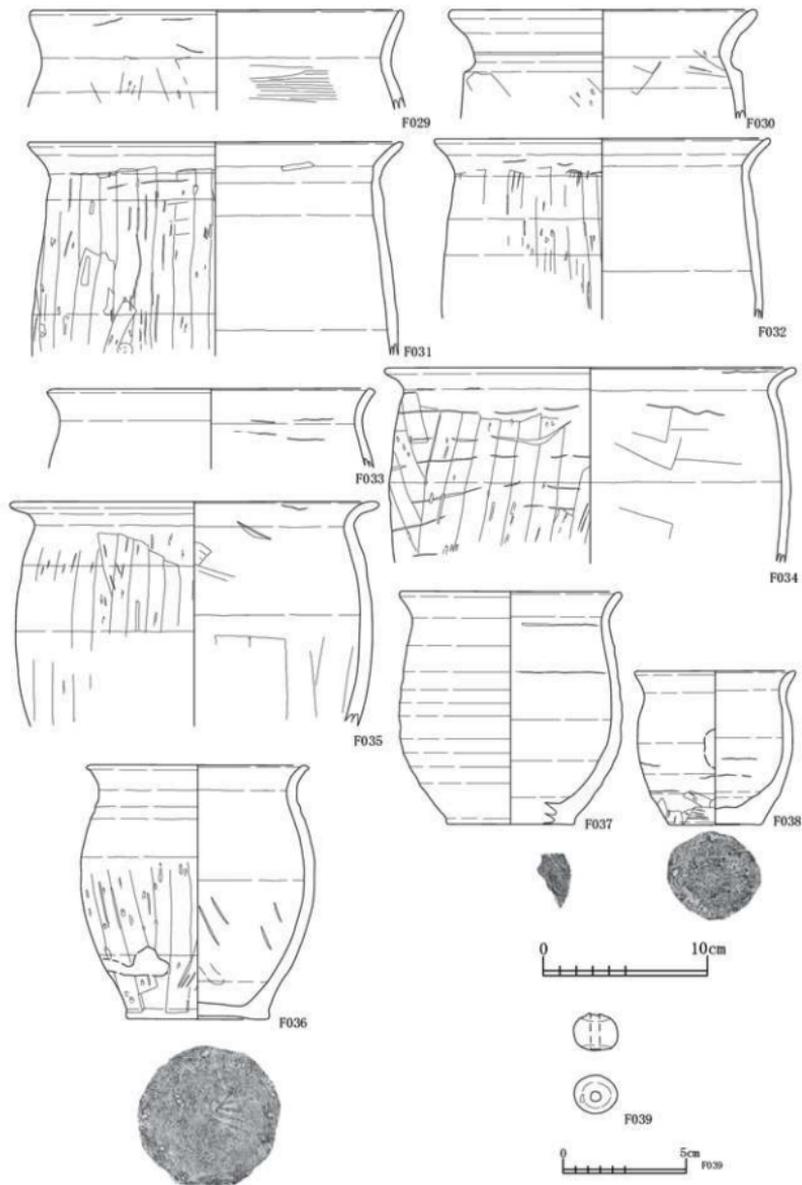


図 3-21 F-1区 07\_SI-004-8

07\_SI-006

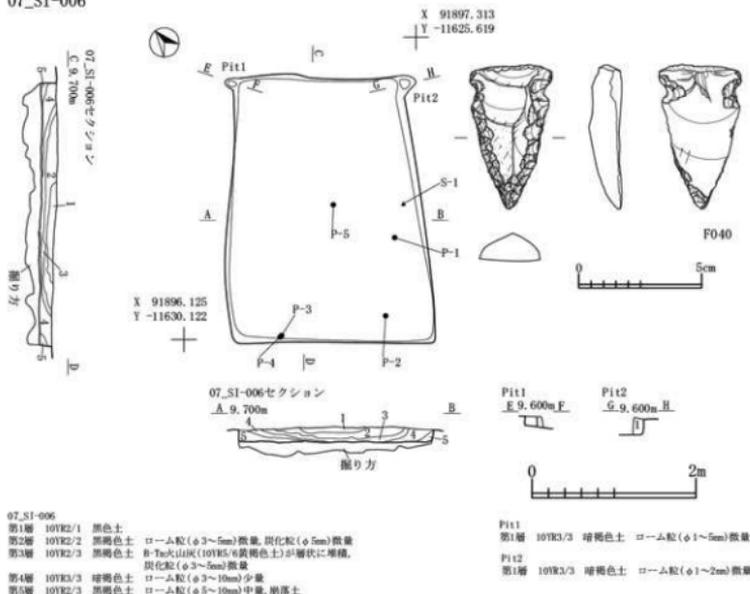


図3-22 F-1区 07\_SI-006

は煮炊痕などは認められない。F037はカマド1とPit5第1層出土の接合資料のロクロ小甕で口径13.2cm、器高14.2cm、底径7.6cmを測る。浮石などの砂粒をやや含むが、やや結りのある土師器食器具と同様の胎土で、ロクロ成形による成形で、下彫れの器形である。外面は二次被熱により色調が変色し、内外面とも口縁部は煤付着が認められ、内面は炭化物付着もあり煮炊痕である。擾乱出土のF038はF037と同質の胎土のロクロ系小甕で、口径9.6cm、器高9.4cm、底径5.4cmを測る。輪積成形で、調整でロクロ回転が加えられている。底面はヘラによる再調整が加えられ糸切痕などの残存状況は確認できず、体部下半は横方向のヘラケズリにより器壁を薄く調整している状況である。外面体部下半はバンド状に煤付着が認められ、一部油痕も認められる。全体的に二次被熱を受けている。体部の一部は剥離しており、破断面の一部は磨耗が顕著である。内面の頸部にはうっすらと煮炊痕が認められる。F039はPit5第1層出土の土玉で、長さ1.6×幅1.8×厚さ1.6cmを測り、4.2gを量る。胎土は結りのある褐色を呈する資料で、一部被熱によるものなのか淡灰色気味の黒斑が生じている。

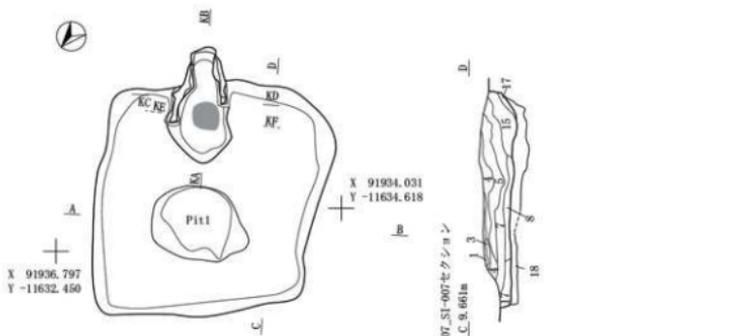
07\_SI-006 (図3-22)

X=91896.000, Y=-11627.500付近で検出した。平面形は不整形長方形を呈し、325.0×247.0×19.0cmを測る。主軸方位はN-140°-Wである。北壁側の各コーナーにPit1・2としたピットを検出している。堆積土は掘り方を除き5層に分層し、第3層中にB-Tm火山灰が粒〜ブロック状に流れ込んだ状態で堆積している。掘り方は堅穴の全面に掘削されており、10YR4/3にぶい黄褐色土と粒径の大きなバミスブロックとバミス粒が混合した土を充填していた。カマドは検出していない。出土遺物は土器の碎片数点と石器1点出土し、第4層から出土した石匙1点を図示した。長さ5.9×幅3.2×厚さ1.25cmを測り、2.4gを量る。石質は珪質頁岩である。

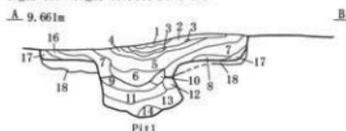
07\_SI-007 (図3-23・24)

X=91935.000, Y=-11633.200付近で検出した。平面形は不整形長方形を呈し、285.0×272.0×44.0cmを測る。主軸方位はN-142°-Eである。ピットは堅穴中央から袋状の土坑をPit1として取り扱っている。122.0×90.0×66.0cmを測る。土坑内の出土遺物は土師器等

07\_SI-007



07\_SI-007・07\_SI-007Pit11セクション



- Pit11
- |      |         |                     |                               |
|------|---------|---------------------|-------------------------------|
| 第9層  | 10YR3/3 | 暗褐色土                | L.R.(φ10~50mm)中量              |
| 第10層 | 10YR4/4 | 褐色土                 | 崩落土                           |
| 第11層 | 10YR2/3 | 黒褐色土                | ローム粒(φ5~10mm)微量               |
| 第12層 | 10YR4/6 | 褐色土                 | 崩落土(月見野式山BC)                  |
| 第13層 | 10YR2/2 | 黒褐色土                | ローム粒(φ3~5mm)微量,炭化粒(φ5~10mm)少量 |
| 第14層 | 10YR2/2 | 暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土 |                               |

07\_SI-007

- |      |           |      |  |
|------|-----------|------|--|
| 第1層  | 10YR2/2   | 暗褐色土 |  |
| 第2層  | 10YR1.7/1 | 黒色土  | ローム粒(φ3~5mm)微量                                     |
| 第3層  | 10YR2/2   | 暗褐色土 | 炭化粒(φ5mm)微量, (B-Tn)火山灰一層状に堆積 10YR5/6(黄褐色)中量が7層下に堆積 |
| 第4層  | 10YR2/2   | 暗褐色土 | 炭化粒(φ3~10mm)微量,ローム粒(φ1~3mm)微量                      |
| 第5層  | 10YR2/3   | 暗褐色土 | ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量,炭化粒(φ5~10mm)少量                |
| 第6層  | 10YR2/3   | 暗褐色土 | ローム粒・ブロック(φ5~30mm)微量                               |
| 第7層  | 10YR2/3   | 暗褐色土 | ローム粒・ブロック(φ5~30mm)少量,焼土粒(φ3~5mm)微量                 |
| 第8層  | 10YR2/3   | 暗褐色土 | ローム粒・ブロック(φ5~30mm)少量                               |
| 第15層 | 10YR2/2   | 暗褐色土 | L.R.(φ10~30mm)多量                                   |
| 第16層 | 10YR2/2   | 暗褐色土 | ローム粒(φ3~5mm)微量                                     |
| 第17層 | 10YR1.7/1 | 黒色土  | ローム粒(φ5~10mm)微量                                    |
| 第18層 | 10YR2/2   | 暗褐色土 | L.R.(φ10~30mm)多量                                   |

07\_SI-007・07\_SI-007Pit1土器・石器・鉄関連遺物出土位置図

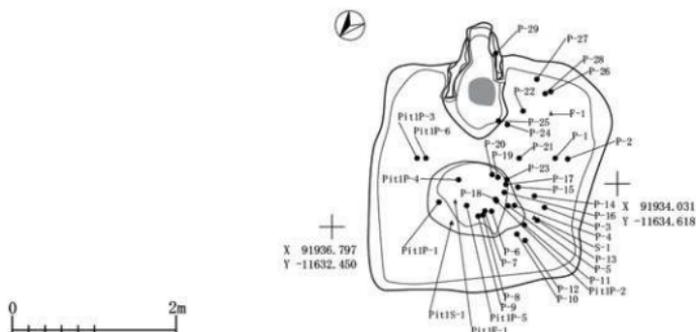


図 3-23 F-1 区 07\_SI-007-1

で縄文時代のフラスコ状土坑の重複ではなく、貯蔵穴として機能したようである。その他柱穴として機能するようなピットは検出していない。堆積土は、掘り方を除き、Pit 1を含め18層に分層し、堅穴の堆積土を第1～8、15～18層として記録している。第3層とした黒褐色土中にB-Tm火山灰がブロック状に再堆積した状況で堆積している。掘り方は07\_S I-006同様全面掘り込みを持ち、10YR 3/4暗褐色土とバミス粒・ブロックが混合した土で充填されている。

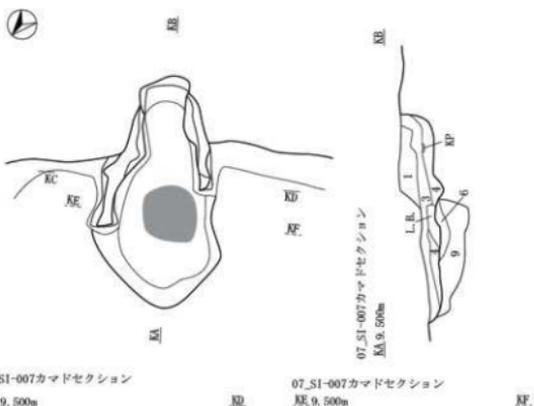
カマドは南2の位置から検出した。半地下式の短煙道タイプで、袖部幅70.0cm、煙道長44.0cmを測る。主軸が07\_S I-004カマド1の地下式とカマド2の軸線と同軸である。前庭部を浅く掘り込み床面よりも低く作り、白みを帯びた粘土とバミスブロック等を混合させた粘土を構築材としている。出土遺物は5点図示した。F041は床面直上出土の須恵器環で、口径12.8cm、器高5.2cm、底径6.0cm、器高指数40.6、底径指数46.8を測る。五所川原産で、内外面とも濃緑灰色の大摩痕と外面に青灰色の重焼痕が観察される。外面体部には倒位の状態で「\」が記入されている。F042は第3層出土の黒色土師器碗で、口径13.0cmを測る。浮石を含むやや粘りの弱い胎土で軽質な質感を有する。二次被熱により外面の色調が褐色→赤桃褐色に変色している箇所があり、内面の黒色も一部茶褐色に変色した部分が見られる。外面の器面は摩滅が顕著で、浸食された部分も認められる。黒色処理は外面口縁部の一部にも認められるが、外面側はヘラミガキが行われていない(ただし、刻線が認められる)。F043はPit 1第5層出土の土師器碗の底部資料で、底径5.4cmを測る。海綿骨針を含まない粘りの弱い軽質な胎土で、外面底部に傍点状の赤色斑点が見られる。破断面は摩滅している。F044はカマド第1層から出土した土師器甕口縁部片で、口径19.4cmを測る。砂粒を多く含む粘りの強い胎土で、内外面とも光沢を帯びるような質感である。外面の残存部は黒色化し、体部はヘラミガキ、頸部は横方向に強く撫でられ屈曲し、頸部と体部の境界を明瞭にしており、口縁部は一次整形の縦方向のヘラミガキの痕跡が若干残りながらも横方向のナデによって伸ばし引くように作出されている。内面はナデによって撫で消されているが、部分的に輪積痕が残っている。F045は第4層出土の土師器小甕で、口径10.8cm、底径10.8cmを測る。浮石を含む砂礫をやや多く含むやや粘りの弱い胎土で、器形は輪積成形で体部下半が張り、頸部に向かって窄まる器形である。口縁部は倒位に潰したような形状である。内外面とも煤が付着しており、内面頸部には煮炊痕がある。

S I-009 (図3-25～28)

X=91952.500, Y=-11640.000付近で検出した。平面形は不整長方形を呈し、523.0×472.0×27.0cmを測る。主軸方位はN-138°-Eである。ピットは堅穴内から6基検出し、Pit 1～4は主柱穴として機能した可能性があり、Pit 5・6についても柱穴として機能した可能性がある。Pit 3・4については隣接部分に相当し、カマド設置部分とも近接していることから、建て替えの可能性も考えられる。壁溝は東壁と南壁に掘り込みがある。堆積土は8層に分層し、床面直上には粒径の大きなバミスブロックと暗褐色土が混交した土が堆積し、遺物の廃棄に伴うなど人為的影響が強い。ただ、遺物の廃棄層は最上層の第1層主体で、その中にB-Tm火山灰がブロック状に混入している。また、北壁の壁際に炭化物を検出している。カマドは南3の位置から検出した。構造は半地下式の短煙道タイプで、煙道長18.0cmを測る。前庭部は火床面のみの残存で袖は検出していない記録であるが、第6層はローム主体の土層で、袖の構築材の可能性もある。支脚としてF051に図示した土製支脚が設置されていた。

出土遺物は7点図示した。F046は第1層から出土した土師器碗で、口径13.0cm、器高5.2cm、底径6.0cm、器高指数40.0、底径指数46.1を測る。浮石を含む粘りの弱いザラザラした質感を有する胎土で、内外面とも体部下半がバンド状に煤付着と黒化しており、口縁部側は若干被熱が強く底面が褐色に対し、橙褐色に変色している。口縁部はコロロ成形成後に手持ちで二箇所潰したような痕跡があり、指で形を整え補正した痕跡が観察される。F047は第1層と第3層の接合資料の体部資料で、器形や調整手法から見ると壺の可能性が高い。砂粒を多く含む、軽質な粘りの弱い胎土で灰褐色を基調とする。外面は黒斑が生じており、一部二次被熱で赤褐色気味に変色した箇所と、暗灰色を呈する箇所があり、接合破片間で不整合の部分がある。調整は内面がコロロナデで、外面は縦方向のヘラミガキで器面の残存がよい部分では光沢を帯びている。破片の一部は剥落や摩滅・浸食が起こっており、廃棄・埋没過程後に流動の要因が含まれる資料がある。F048は第1層出土の土師器甕で口径20.4cm、器高31.4cm、底径8.2cmを測る。浮石を含む粘りの弱いババサした質感を有する胎土で、褐色を基調とする。底面はヘラによる調整が行われており、砲弾気味の細身な器形で、外面体部は縦方向のヘラケズリ、底部は横方向のヘラケズリ、内面は横方向のヘラによる調整がされており、外面のヘラケズリは頸部を突き抜け口唇部直下まで及んでいる部分が見られる。また、外面体部中

07\_SI-007カマド



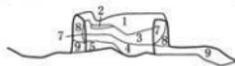
07\_SI-007カマドセクション

KB 0.500m

07\_SI-007カマドセクション

KB 0.500m

KE



07\_SI-007カマド

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 コーム粒(φ5~10mm)微量
- 第2層 10YR4/4 褐色土 焼土粒(φ3mm)微量, B-Tac火山灰(10YR5/8黄褐色土)混入
- 第3層 5YR4/8 赤褐色土 焼土粒・ブロック(φ3~20mm)微量
- 第4層 5YR3/6 暗赤褐色土 焼土粒(φ3~10mm)微量
- 第5層 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒(φ1~3mm)微量, コーム粒(φ3~10mm)微量
- L.R. 7.5YR4/6 褐色土 カマド天井崩落土
- 第6層 5YR4/8 赤褐色土 火床面
- 第7層 5YR4/8 赤褐色土
- 第8層 10YR5/6 黄褐色土
- 第9層 10YR2/3 黒褐色土 L.R.(φ10~30mm)中量, 住居貼床に相当

07\_SI-007



07\_SI-007カマド土器出土位置図

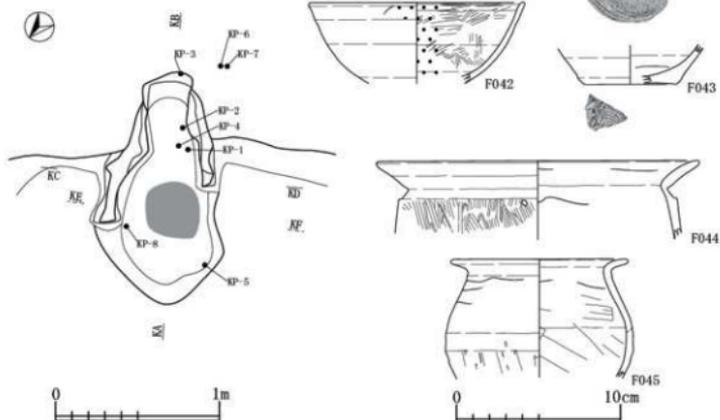
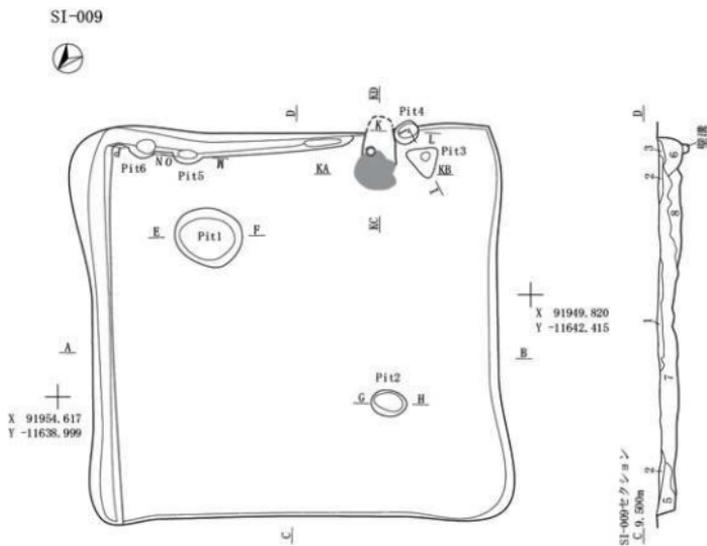


図 3-24 F-1区 07\_SI-007-2

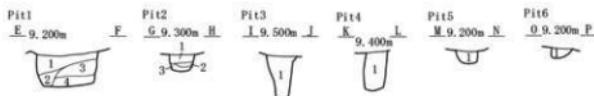


SI-009セクション



SI-009

- 第1層 10YR2/1 黒色土 H-Toxilita灰(10YR5.6黄褐色)ブロック状に混入、焼土粒(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 7.5YR4.6褐色土の焼土凝状に堆積、炭化物(φ10~20mm)微量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物(φ3~5mm)少量  
 第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量  
 第5層 10YR3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~30mm)微量  
 第6層 10YR3/1 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量  
 第7層 10YR3/3暗褐色土と10YR4.6褐色土の混入土 L.R.(φ50~200mm)中量  
 第8層 10YR4/6 褐色土 ローム層



Pit1

- 第1層 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量  
 第2層 10YR2/3 暗褐色土 L.R.(φ10~20mm)少量  
 第3層 10YR2/3 暗褐色土 L.R.(φ10~100mm)多量  
 第4層 10YR2/2 暗褐色土 L.R.(φ10~20mm)少量

Pit2

- 第1層 10YR2/2 暗褐色土 ローム粒(φ3~10mm)少量  
 第2層 10YR4/6 褐色土 崩落土  
 第3層 10YR2/2 暗褐色土

Pit3

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量

Pit4

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量

Pit5

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量

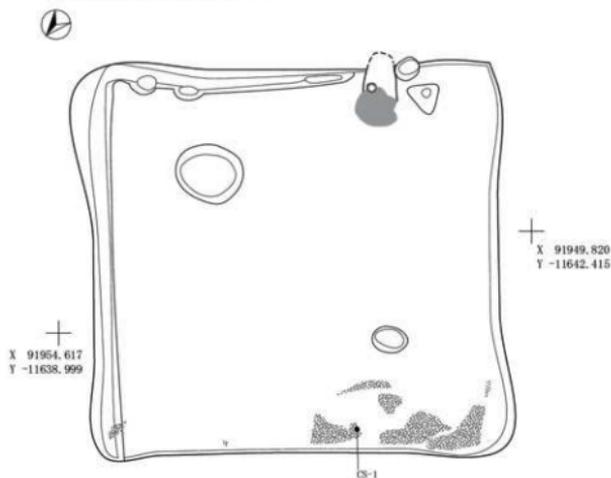
Pit6

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量



図 3-25 F-1 区 SI-009-1

SI-009炭範囲・炭サンプル



SI-009土器・石器・鉄関連遺物・羽口・土製品出土位置図

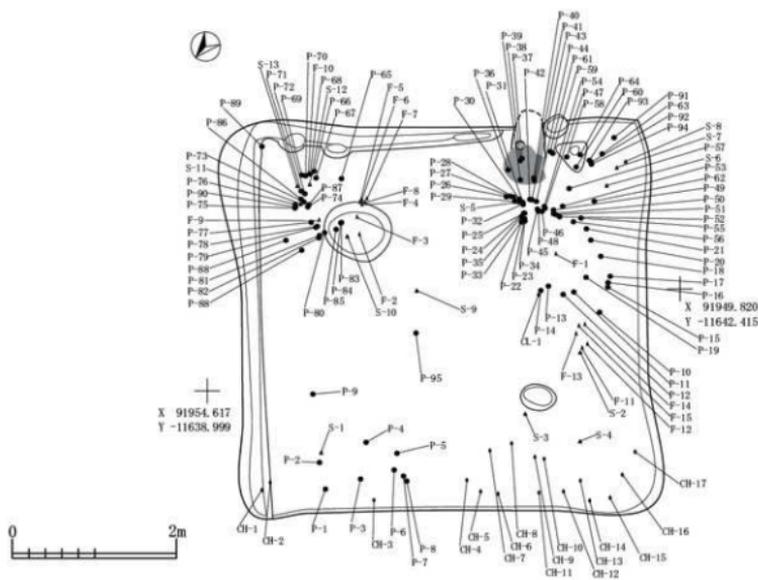
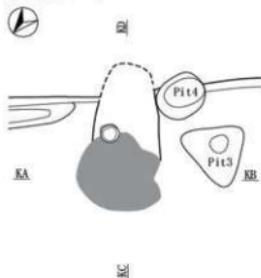
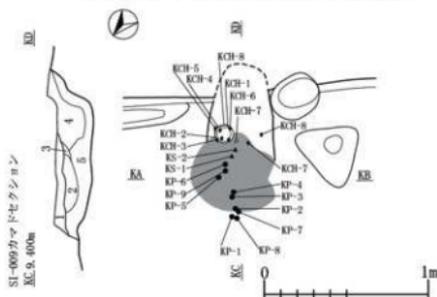


図 3-26 F-1区 SI-009-2

SI-009カマド



SI-009カマド土器・石器・羽口出土位置図



SI-009カマドセクション  
MA 9.400m



SI-009カマド

- |     |          |      |                                     |
|-----|----------|------|-------------------------------------|
| 第1層 | 7.5TR2/3 | 黒褐色土 | 焼土粒(φ3~5mm)微量, 焼土ブロック(φ5~10mm)少量    |
| 第2層 | 3TR4/5   | 赤褐色土 |                                     |
| 第3層 | 7.5TR4/6 | 褐色土  | 火床面より焼熱が弱い                          |
| 第4層 | 10TR2/3  | 黒褐色土 | ローム粒(φ3~10mm)微量                     |
| 第5層 | 10TR3/3  | 暗褐色土 | 焼土粒(φ3~5mm)微量, ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量 |
| 第6層 | 10TR4/6  | 褐色土  |                                     |

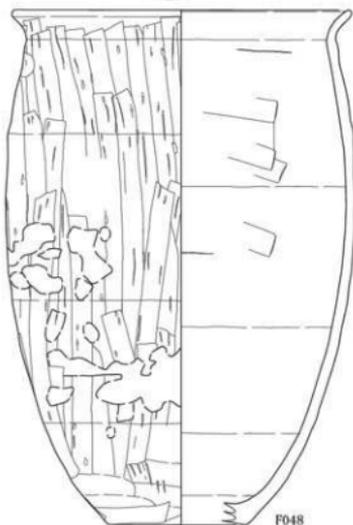
SI-009



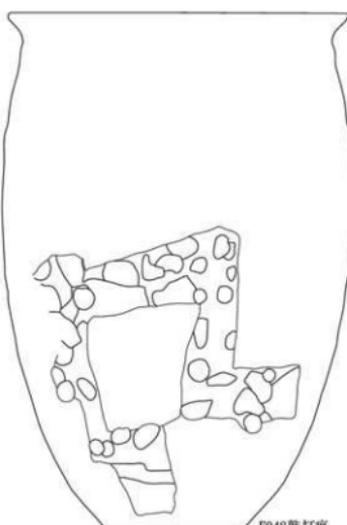
F046



F047



F048



F048敲打痕

図 3-27 F-1区 SI-009-3

## SI-009

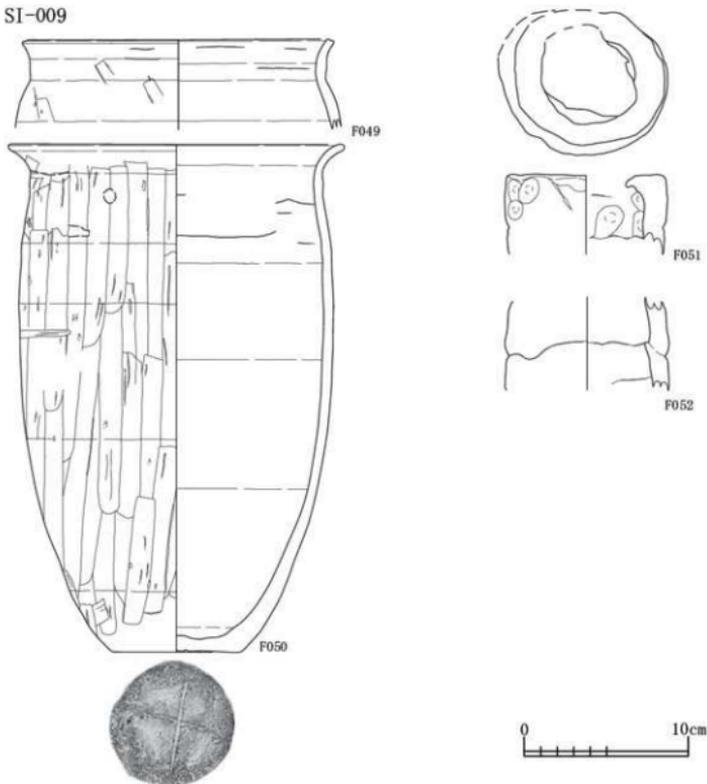


図 3-28 F-1区 SI-009-4

半～底部にかけ、連続的な打欠が認められる(図3-27内F048敲打痕参照)。接合破片は破片化後の焼成等の影響により、煤や炭化物付着状況が接合破片単位に不整合を見ている。F049は第1層出土の土師器甕で口径18.8cmを測る。浮石などの砂粒を極少量含み、粘りのやや弱い軽質な胎土である。外面の調整はあまり残存しない程度の軽い調整で、口縁部は括れが甘く直立気味に軽く外反する程度で、口唇端部を平滑に撫でている。F050は第1層から出土した土師器甕で口径20.4cm、器高31.0cm、底径7.8cmを測る。砂礫が少なく粘りがややある胎土で、硬質な質感である。底面は「X」の刻書が記入されており、周縁はナデツケされている。砲弾状に直線的な器形で、外面の縦方向のヘラはストロークが長く、粘土の寄せられた部分が一部軽く隆起している。内面は

横方向のナデで、口縁部は頸部幅が狭く外反させている。外面の器面には粘土が付着しており、煤や炭化物付着が認められ、破片化後も焼成の影響により煤付着が接合破片間で不整合となっている。F051は前述のとおりカマド支脚位置から出土した土製支脚で、F051は上面に相当する。また同一個体の体部片がKCH-8の位置から出土しており、F052に図示した。

## SI-013 (図3-29・30)

X=91944.000, Y=11638.200付近で検出した。平面形は不整長方形を呈し、367.0×320.0×34.0cmを測る。主軸方位はN-136°-Eである。ピットは堅穴内から2基検出しており、いずれも柱穴として機能したものと考えられる。Pit1の底面からは五所川原産須恵器長

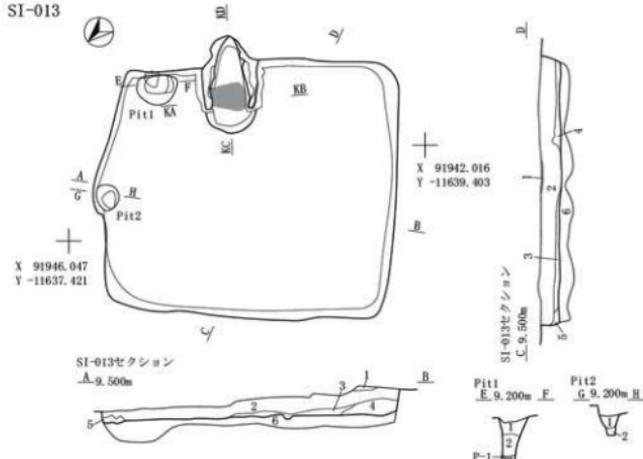
頸瓶の体部片が出土している。Pit 2については壁のラインがPit 2に合わせ突出した形状を呈している。堆積土は掘り方を含め6層に分層し、壁穴内全面に掘り方を持ち、黒褐色土とバミスブロックの混合土が充填されている。廃絶後の堆積土は第1～5層が相当し、ブロック混じりの埋め戻しの可能性が高い堆積状況を呈している。床面直上から上面を埋めている第2層中にはT<sub>0</sub>-a火山灰がブロック状に混入している。

カマドは南2の位置から検出した。構造は半地

下式の短煙道タイプで袖部幅80.0cm、煙道長32.0cmを測る。07\_S I - 007と同様に前底部に掘り込みを持つ。粘土による構築で、支脚は出土していない。煙道部の天井はセクション上「L.B.」と記録されて部分に相当する。

出土遺物は4点図示した。F053は覆土出土の黒色土器碗で口径15.4cmを測る。海綿骨針を含み、砂粒の混入が非常に少ない粘りのある胎土で、内外面とも褐色を基調とする。黒色処理は重ね焼きの影響により、内外面とも口縁部のみに留まっ

## SI-013



## SI-013

第1層	10YK2/2	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ3~20mm)少量、炭化粒(φ5~10mm)微量
第2層	10YK2/3	黒褐色土	炭化粒(φ5~10mm)微量、T <sub>0</sub> -a火山灰ブロック状に混入
第3層	10YK3/3	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ3~30mm)微量、炭化粒(φ3~5mm)微量
第4層	10YK3/4	暗褐色土	ローム粒(φ3~10mm)微量、炭化粒(φ3~10mm)微量
第5層	10YK2/3	黒褐色土	ローム粒(φ3~5mm)微量、炭化粒(φ3~5mm)微量
第6層	10YK2/2	黒褐色土	L.R.(φ10~50mm)多量、胎土

## Pit1

第1層	10YK2/3	黒褐色土	ローム粒(φ3~5mm)微量
第2層	10YK2/2	黒褐色土	ローム粒(φ3~5mm)微量
第3層	10YK3/3	暗褐色土	炭化粒(φ3~10mm)微量

## Pit2

第1層	10YK2/3	暗褐色土	ローム粒(φ5~10mm)微量
第2層	10YK2/2	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量

## SI-013・SI-013Pit1土器・石器・鉄関連遺物出土位置図

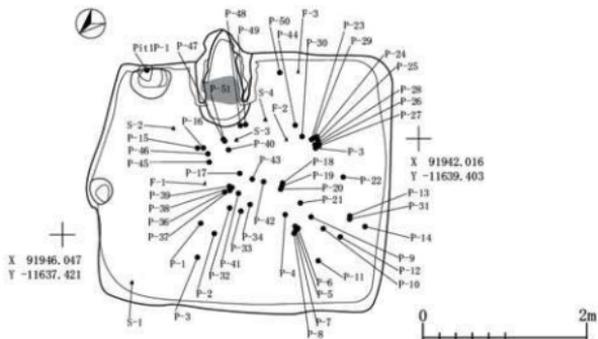


図3-29 F-1区 SI-013-1

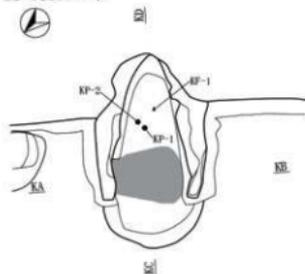
ており、外面の体部上半の一部と内面の口縁部直下～底部にかけてヘラミガキが施されている部分も黒色化していない。F054は第1層と覆土出土の黒色土器椀の底部で底径6.4cmを測る。外面と断面は褐灰色を基調とし、砂粒の混入が非常に少ない粘りのある胎土である。底面は回転糸切の後にヘラで撫でられ再調整されており、外面の体部下～底部にかけてもヘラで面を再調整している。内面の黒色処理は黒褐色気味の色調で、ヘラミガキは幅広いの工具による軽めな調整であるため、光沢は帯びていない。第3層出土のF056の底部資料は内面が剥落しており詳細は不明であるが、外面の黒斑部分がヘラミガキ状に磨かれた部分があり、内面側の剥落部分も黒斑が及んだ痕跡が認められる。黒色土器であった可能性が残る。F055は第3層とカマド第5層のKP-1・2の位置から出土した土師器椀で口径15.4cm、器高6.3cm、底径5.4cm、器高指数40.9、底径指数35.0を測る。砂粒を少量含む粘りの弱いバサバサした軽質な質感を有する胎土で、二次焼成により色調が淡桃褐色を呈する部分が観察される。器面の摩擦・敲打が顕著で、体部下～底部の内外面は器面の潰れが顕著で器壁に

食い込んだ影響がある。カマド出土資料と覆土出土資料との接合部分は若干の磨耗はあるが、器面の色調や敲打の状況に連続性が認められ、焼成と敲打を受けた状態で破片化し流動した状況と判断できる。

#### SI-014 (図3-31～35)

X=91935.500, Y=11638.500付近で検出した。平面形は方形を呈し、395.0×392.0×28.0cmを測る。主軸方位はN-138°-Eである。ピットは堅穴内から1基検出しており、柱穴ではない土坑状の掘り込みである。壁溝は全周し、カマド設置部分にも掘り込みが認められる。堆積土は掘り方を除き6層に分層し、第3層中からB-Tm火山灰をブロック状に検出している。掘り方は堅穴全体で、バミスブロックに10YR4/3にぶい黄褐色土が混入した土が充填されている。また、堅穴中央から両側にかけての床面と北壁寄りの床面と壁面より上の地山上が焼土化し、北壁寄りの部分を中心に板状の炭化材が出土しており、焼成に伴った可能性が高い。ただし、炭化材の検出状況などを踏まえると廃棄に伴ったものと考えられる。カマドは南3・4の位置から検出した。半地下式と地下式の二段階

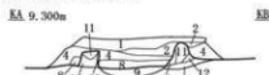
#### SI-013カマド



#### SI-013カマド

第1層	10YR2/3	赤褐色土	ローム粒(φ5~10mm)微量
第2層	10YR4/6	褐色土	炭化粒(φ1~5mm)微量
第3層	10YR2/3	赤褐色土	ローム粒(φ3~5mm)微量、炭化粒(φ1~5mm)微量
第4層	5YR4/5	赤褐色土	焼土粒・ブロック(φ5~30mm)微量
第5層	7.5YR3/3	暗褐色土	焼土粒・ブロック(φ3~5mm)少量
第6層	7.5YR3/3	暗褐色土	焼土粒(φ3~5mm)微量
第7層	5YR3/6	暗赤褐色土	焼土粒(φ3~5mm)少量
第8層	10YR3/3	暗褐色土	焼土粒(φ3~5mm)微量
第9層	5YR3/6	暗赤褐色土	火玉塊
第10層	2.5YR/8	明赤褐色土	焼土粒(φ3~5mm)微量
第11層	10YR5/6	黄褐色土	焼土粒(φ3mm)微量
第12層	10YR3/4	暗褐色土	焼土粒(φ5~10mm)中量
第13層	10YR3/4	暗褐色土	焼土粒(φ5~10mm)微量

#### SI-013カマドセクション



#### SI-013

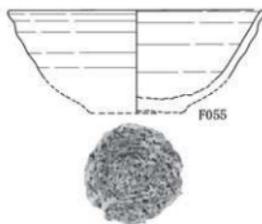
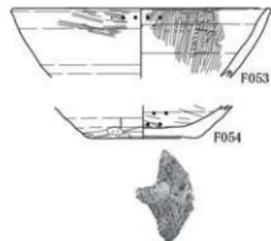


図3-30 F-1区 SI-013-2

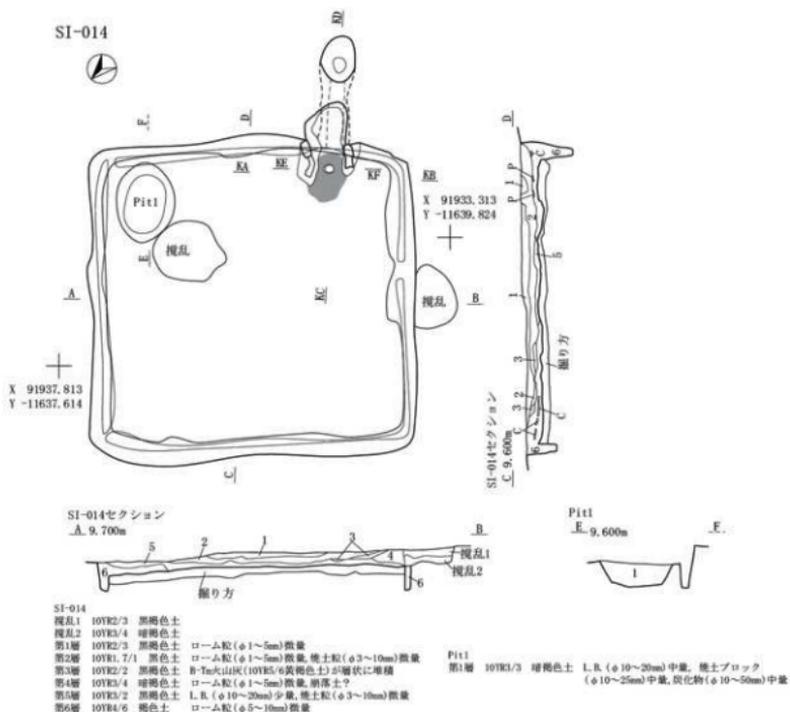
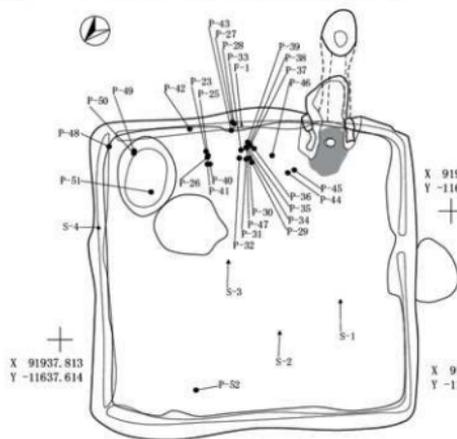


図 3-31 F-1区 SI-014-1

SI-014土器・石器・鉄関連遺物出土位置図



SI-014掘り方

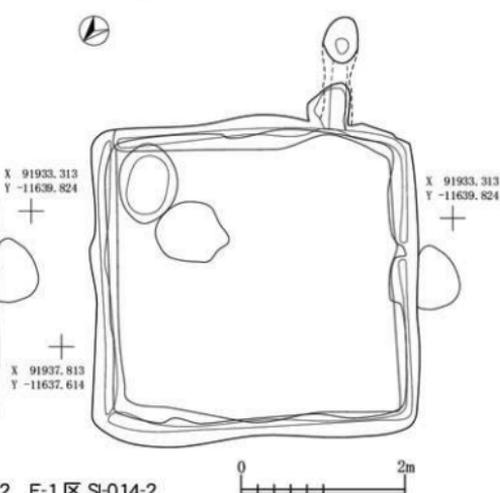


図3-32 F-1区 SI-014-2

の変遷があり、地下式が古く半地下式が新しい。

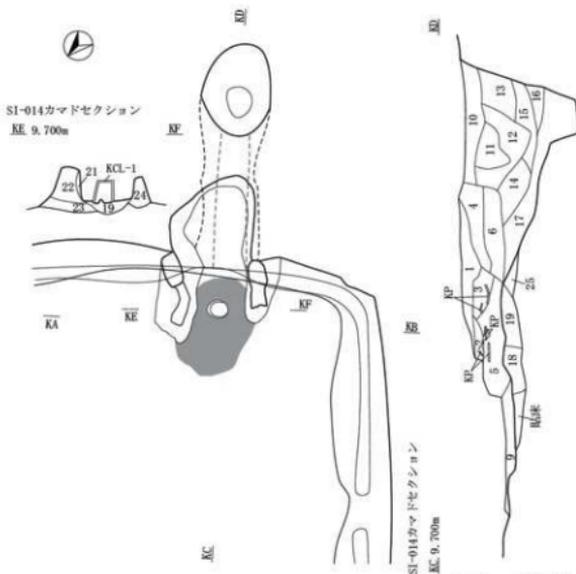
半地下式のカマドは袖部幅72.0cm、煙道長52.0cmを測る。煙道は前段の地下式のカマドを埋めた後、第4・6層が堆積する部分まで再掘削し埋めており、最終段階のカマドはその部分を段状に立ち上げるように削り、カマドの煙道としている。袖は土台に赤みを帯びた褐色土を盛り上げ、その外周にバミスとロームの混合土を貼り付け構築材としている。支脚としてKCL-1の地点からF073に図示した土製支脚が出土している。

旧段階の地下式のカマドは煙道長134.0cmを測り、主軸方位はN-143°-Eと5度東偏した軸線である。床面から17度傾斜し、奥壁側は若干斜めに掘り込んだピットが煙道の高さよりも深く掘り込まれて合流しており、竪穴の壁際から煙道の奥壁は同一軸線になる。

出土物は17点図示した。F057は第2・3層出土の須恵器坏で口径13.0cm、器高4.7cm、底径5.6cm、器高指数36.1、底径指数43.0を測る。海綿骨針を含む焼きの甘い資料で、外面は体部～底面にかけて火燻痕が観察され、内外面の口縁部には敲打痕に伴う剥落箇所、内面体部中半～見込み部分にかけ使用痕が観察される。破片資料であるため部分的な確認であるが、外面底部には縦棒1本と横棒1本で、「井」状の刻書が観察される。F058は第2・5層出土の黒色土器碗で、口径13.2cm、器高6.1cm、底径5.4cm、器高指数46.2、底径指数40.9を測る。海綿骨

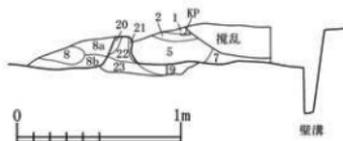
針を含む粘りのある胎土で、ヘラミガキは内面以外に外面のほとんどに施されている。内外面とも口縁部の剥離・剥落が顕著で、外面口縁部上半に楕円形状の打欠痕が観察される。また、口縁部内面～体部中半まで黒色処理が被熱により抜け、褐色～赤褐色気味の色調に変色している。底部切り離しは右回転系切に加え、静止系切が加わっている。F059は第2・5層出土の土器器碗で、口径12.4cm、器高4.3cm、底径5.6cm、器高指数34.6、底径指数45.1を測る。砂粒を多く含み粘りの弱いバサバサした質感を有する胎土で、黄褐色を基調とするが、外面は焼成時の影響に伴う淡灰色～淡黒褐色を呈する部分が観察される。また、胎土中に土器の破片が混入している。器面は外面側の摩擦が顕著で、外面体部の剥落部分も摩擦している。内面側は煤付着と黒斑が観察され、破断面まで及んでいる。F060は第2層出土の土器器碗で、口径13.2cm、器高4.7cm、底径6.4cm、器高指数35.6、底径指数48.4を測る。粒子の細かい砂粒をやや多く含むやや粘りのある胎土で、外面底部周辺の稜段の間隔が狭く、体部上半に膨らみを持つ器形である。器面は赤橙褐色を基調とするが、内面体部中半～見込み部分が断面まで及ぶ黒斑となっており、黒斑部分は磨かれていない。口唇部の一部が軽く潰したような打欠痕が観察される。F061は第5層出土の土器器碗の底部資料で、底径6.2cmを測る。海綿骨針・砂礫を含むやや粘りのある胎土で、褐色を基調とする。外面体部下半にヘラの工

SI-014カマド



SI-014カマドセクション

KA 9.700m



SI-014カマド

第1層	10R2/3	黒褐色土	ローム粒(φ5~10mm)微量、焼土粒・ブロック(φ3~20mm)中量
第2層	10R5/6	黄褐色土	B-Tn/Ct/10層
第3層	10R3/4	暗褐色土	ローム粒(φ3~10mm)微量、焼土粒・ブロック(φ5~15mm)少量、炭化粒(φ3~5mm)微量
第4層	10R3/4	暗褐色土	ローム粒(φ5~10mm)微量、炭化粒(φ3~5mm)微量
第5層	7.5R3/4	暗褐色土	ローム粒(φ3~10mm)微量、炭化粒(φ3~5mm)微量、炭化土(φ5~10mm)微量
第6層	10R3/3	暗褐色土	ローム粒(φ5~10mm)微量、炭化粒(φ3~5mm)微量
第7層	10R2/4	暗褐色土	ローム粒(φ3~10mm)微量、炭化粒(φ3~5mm)微量
第8層	10R2/3	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量、炭化粒(φ5~10mm)微量
第9層	10R1/7	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、焼土粒(φ3~10mm)微量
第10層	10R3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、焼土粒(φ3~10mm)微量
第11層	10R2/3	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量、炭化粒(φ5~10mm)微量
第12層	10R3/3	暗褐色土	ローム粒(φ5~10mm)微量、焼土粒(φ3~10mm)微量
第13層	10R2/2	暗褐色土	L.R.(φ10~20mm)中量
第14層	10R2/2	暗褐色土	L.R.(φ10~20mm)中量
第15層	10R3/2	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~15mm)少量
第16層	10R2/3	暗褐色土	炭化土・炭化粒(φ5~20mm)ブロック状に混入
第17層	7.5R3/4	暗褐色土	ローム粒(φ3~10mm)微量、焼土粒(φ5~10mm)微量
第18層	10R5.8	赤褐色土	丸塚面 焼土面
第19層	10R1.8	赤褐色土	丸塚面 焼土面
第20層	7.5R3.8	暗褐色土	焼土面
第21層	10R5.8	赤褐色土	焼土面
第22層	7.5R4.6	暗褐色土	焼土粒(φ5~10mm)微量
第23層	10R4.6	暗褐色土	ローム粒(φ5~10mm)微量
第24層	7.5R3/4	暗褐色土	焼土粒(φ5~10mm)少量、炭化粒(φ3~5mm)微量
第25層	10R2/2	暗褐色土	ローム粒(φ3~5mm)微量、焼土粒(φ5~10mm)微量

SI-014カマド土器・石器・支脚出土位置図

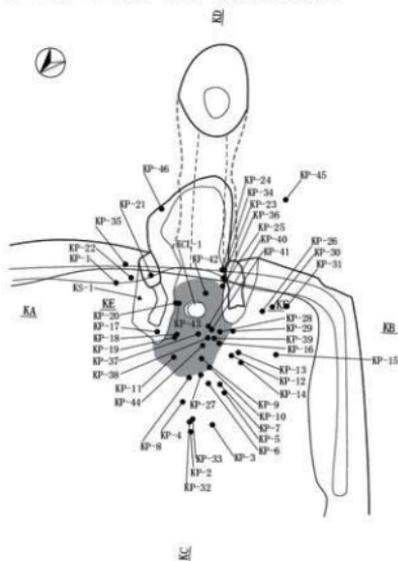


図 3-33 F-1区 SI-014-3

SI-014

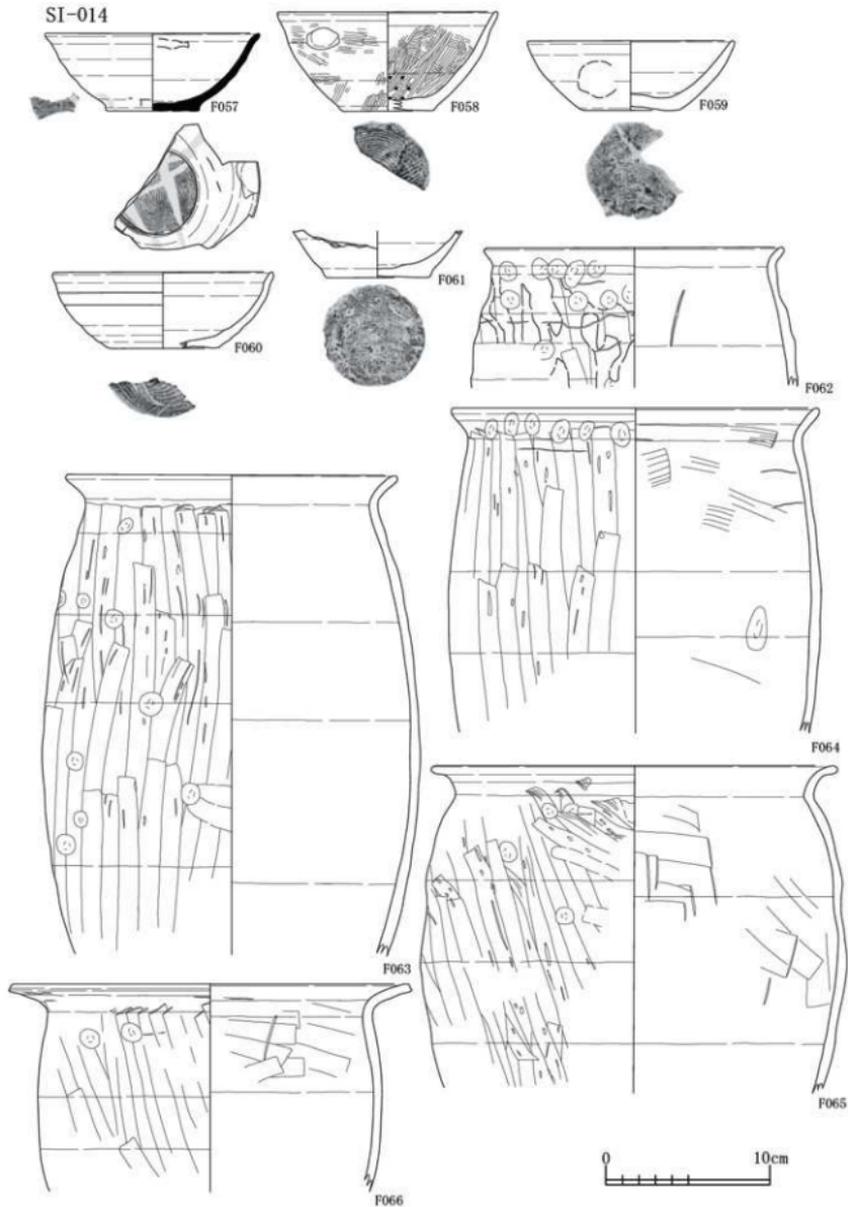


図 3-34 F-1区 SI-014-4

具痕が刻線状に観察される。体部下半で均等に円形に打欠が行われ、破断面の一部には煤附着が認められ、灯明具として転用されたことが考えられる。煮炊具のうちカマド第6層出土のF062は口径18.0cmを測る。砂粒を多く含む粘りの弱い胎土で、硬質な質感を有する。外面は輪積痕を残し、指頭圧痕が顕著に観察され、ヘラは器面が凹凸が顕著であるため部分的な調整に留まっている。内面はナデによる調整で、体部上半に縦方向の刻線が観察される。破断面は磨耗が顕著である。F063は堅穴第5層、カマド第6層中から出土した土師器甕で、口径19.8cmを測る。浮石を含む粘りのやや強い軽質な胎土で、若干硬質な質感がある。底部は残存していないが、長脚気味で、口径と体部の最大径がほぼ同じ器形である。調整は外面が下から口縁部に向かった縦方向のヘラで、一部寄せられた粘土が頸部にたまった部分が観察される。内面は調整痕が丁寧に撫で消されていく、輪積痕や工具痕は残存していない。内面体部上半が被熱に伴う楕円形の褐色に変色した部分が観察され、外面体部中半や内面の一部の破片は煤が付着している。ほとんどの破片が接合破片ごとに二次被熱や煤附着に伴う色調の変化に破片間で整合性が認められるが、カマド出土の資料については不整合である。F064は堅穴第5層及びカマド第1・6層出土の土師器甕で、口径2.2cmを測る。砂粒を多く含む軽質なザラザラした質感を有する胎土である。外面は下から口縁部側に縦方向のヘラによる調整で、頸部の一部で寄せられた粘土が食い込んでいく状態で、頸部は均等な指オサエで口縁部を外反させており、横方向の撫で消しを行わず、指頭圧痕がそのまま残存している状況である。内面は体部の調整が木口の面を利用したハケメとなっており、ほとんどが撫で消されているが、ごく一部痕跡が観察される。色調は内外面とも橙褐色を基調としているが、内面体部にピッチが付着している。また、器面は内外面とも磨耗しており、接合破片間で色調に不整合が認められることから埋没後の浸食の影響が認められる。F065はカマド第6層出土の土師器甕で、口径2.4cmを測る。砂粒を多く含む粘りのある胎土で、体部上半の最大径が若干口径よりも広がる形状である。外面の体部は下から口縁部へ向かったヘラケズリで、頸部直下の一部でヘラの食い込みが認められる。内面は体部上半に板目のヘラの横方向の痕跡が残存しているが、中半以下は撫で消されている。外面は二次被熱によって黄褐色が橙褐色や青みがかった黒～灰色を呈する黒斑となっており、内面の破片では接合破片間で色調の不整合が認められる。F066はカマド第1・7層出土の土師器甕で、口径2.40cmを測る。浮石を含むやや粘りのある胎土で、や

や軽質な質感である。外面の調整は縦方向のヘラで、粘土の寄せが頸部付近に残存している。内面は体部が横方向のヘラによる調整の後に撫でられている。口縁部は倒位の状態で置き、潰したような外反の状態でも、倒位すると内面側が設置する状況である。外面には煤・炭化物附着と黒斑化した部分があるが、カマド出土の破片は二次被熱により赤橙褐色を呈する部分があり、色調が不整合となっている。内面の煤は油分が多く、タール状の附着物が認められる。F067は堅穴第2層とカマド第1・6層から出土した土師器ロクロ小甕の体～底部にかけての飼料で、底径7.4cmを測る。砂礫の少ないやや粘りのある胎土で、二次被熱により内面体部中半～見込みにかけて黒斑化、外面体部～底部にかけて二次被熱により赤桃褐色に色調変化および剥離が認められる。破断面は摩滅が顕著な部分もあり、接合破片間で隙間が顕著になった部分もある。F068は堅穴第2・5層、カマド第6・9層出土の土師器小甕で口径12.4cm、器高8.9cm、底径7.4cmを測る。浮石を含むやや粘りのある胎土で、輪積成形成の非ロクロの小甕であるが、器形はロクロ系を意識した造りとなっており、底面はナデによる平滑な面を作出し、内外面とも輪積痕を残しながらもナデにより器面を調整しており、口縁部は先細りの形状で、緩やかに外反させている。口縁部内面に煮炊痕状に淡黒褐色に変色している。F069はカマド第8層（調査時に第6層扱い）出土の土師器小甕で、口径12.4cm、器高8.9cm、底径7.4cmを測る。浮石混じりの砂礫を多く含むバサバサした質感を有する胎土で、磨耗痕が顕著である。器壁が厚く、直胴形の器形で、口唇端部は丸みを帯びている。F070は第5層出土の土師器小甕で、口径4.0cm、器高10.4cm、底径5.8cmを測る。ロクロ成形成で、胎土は食器具と同質で、褐色を基調とする。椀形の器形と別作りの上半部をつなぎ合わせたもので、頸部は短めで、口唇端部は面取りし、外傾させている。器面は外面及び内面の口縁部をヘラミガキしており、内面の口縁部～外面体部上半の一部が黒斑となっており、黒色化している。ヘラミガキは黒色化した部分以外も磨かされており、外底面も回転糸切の後にヘラミガキが施されていることから、黒色化を意図した調整ではない。また、肩部に細い刻線が9本複雑な格子状に刻まれている。F071は第5層出土の土師器小甕で、口径5.5cm、器高8.8cm、底径4.6cmを測る。F070と同様にロクロ成形成で類似の技法で製作されたものと考えられるが、胎土が浮石混じりのやや硬質なザラザラした質感を有する胎土という違いがある。器面の調整にヘラミガキがごく一部にしか用いられておらず、体部下半はヘラケズリで、接合

SI-014

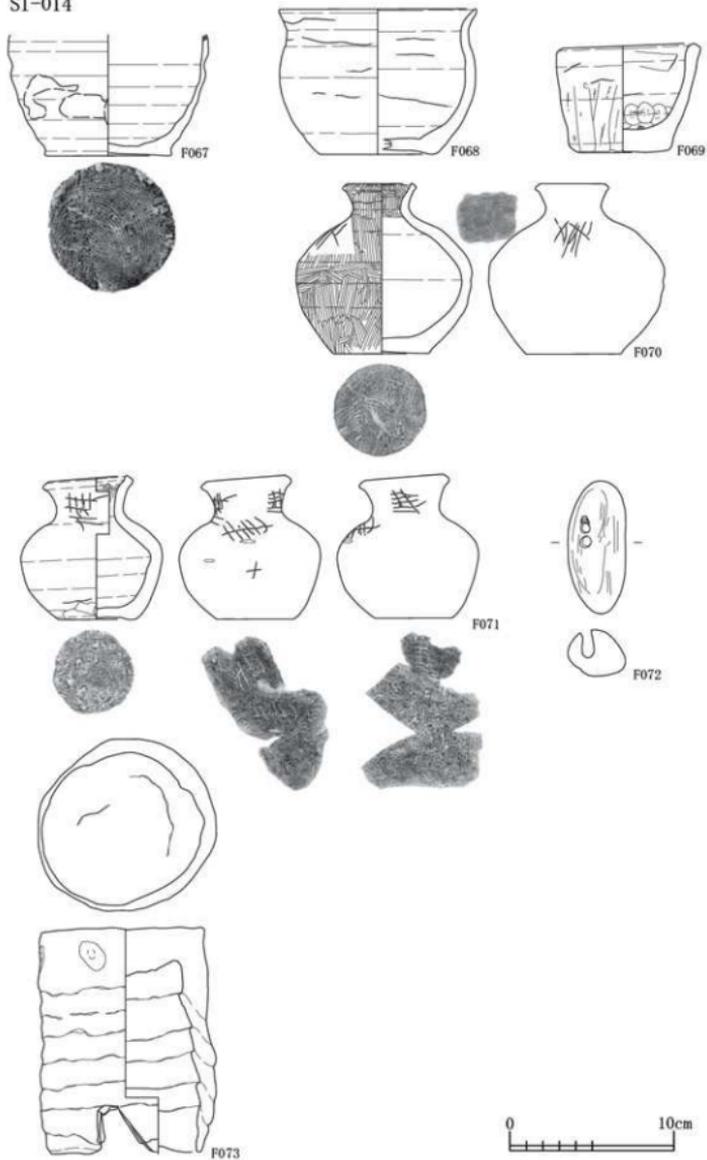


図 3-35 F-1区 SI-014-5

デ主体の調整である。体部上半～頭部にかけて刻書が三箇所展開するように記入されており、体部中半にもクロスした刻線が浅く記入されている。器面の約半分が焼成の影響によりピッチ付着と煤付着によって黒色を呈しているが、廃棄後の二次的な影響の可能性が高い。F072はカマド第6層から出土した石製品で、長さ8.0×幅3.4×厚さ2.85cmを測り、4.4.6gを量る。石質は凝灰岩で、側縁には二箇所6.7.0mmの穴をあけているがいずれも1.7cm程度の深さで止まっており貫通していない。別な側縁には敲打痕が認められ、表面には煤が付着し、黒色～灰褐色に変色している。F073はカマド支脚にあたる土製支脚で上部径9.9cm、器高13.9cm、下部径9.1cmを測る。浮石を含むバサバサした質感を有する胎土で、橙褐色を基調とする。製作時に底面に相当する上部の面はナデによる調整で、輪積みの中央に円盤状の粘土板が蓋状に付け足された痕跡が残存し、内側は盛り上がった形状を呈する。上端側（製作時の下段に相当）から二段目までとそれ以上の部分は別作りで差し込まれたような痕跡があり、内面の輪積痕もほとんど撫で消されていない。透かしは同一軸線上で台形状に二箇所入れられている。外面は粘土と煤が付着しており、粘土は部分的に被熱によって赤橙色を呈する箇所がある。

#### SI-015 (図3-36～38)

X=91891.000, Y=11631.500 付近で検出した。平面形は長方形を呈し、3.46.0×3.31.0×3.6.0cmを測る。主軸方位はN-145°-Eである。SK-010と重複しており、本遺構の方が新しい。ピットは堅穴内から3基、堅穴外の1基を本遺構扱いで精査している。Pit1は貯蔵穴、Pit2・4については柱穴として機能した可能性が高い。壁溝はカマド設置部分を除いてほぼ全周する形で検出しており、床面から3.40cm程度の深さがある。堆積土は掘り方を含め9層に分層し、廃絶後の堆積土は第1～8層が相当する。崩落や流れ込みの伴う堆積状況で、床面より若干上に堆積する第5層の上面に炭化材を検出している。また、第3層中にはブロック状にB-Tm火山灰が混入している。

カマドは南壁から2基検出しており、南3の位置から検出したカマド1が新しく、南3・4の位置から検出したカマド2が古い。

カマド1は、半地下式で袖幅62.0cm、煙道長52.0cmを測る。粘土による構築で、カマド支脚としてF076に図示した土師器甕が倒位の状態で設置されていた。火床面が不鮮明で、床面の被熱は確認できていない状況である。

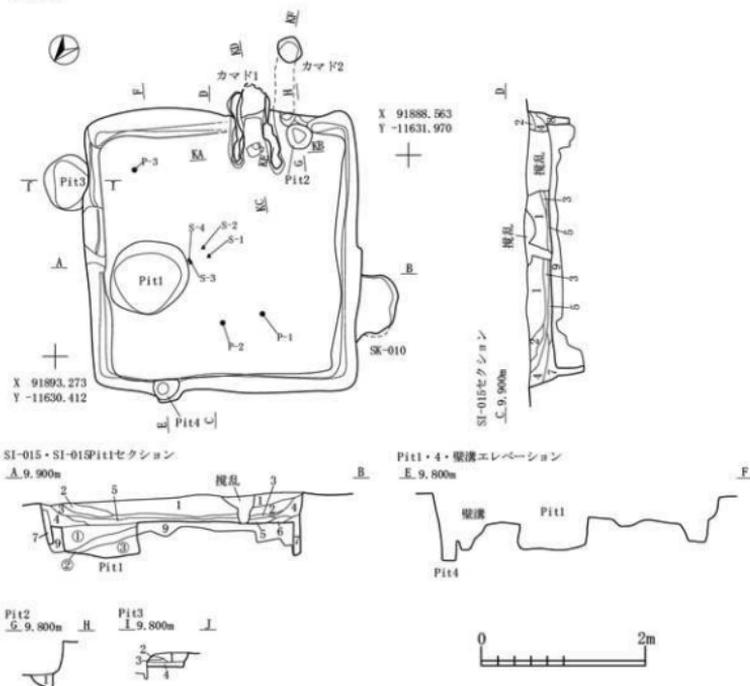
カマド2は煙道部のみの検出で、煙道長95.0cmを測る。主軸方位はN-147°-Eである。床面から22度の角度で傾斜し、ピット状に掘り込まれた煙道部に連結している。

出土遺物は4点図示した。F074は第1層出土の土師器環で口径12.4cm、器高3.7cm、底径6.0cm、器高指数29.8、底径指数48.3を測る。浅身で器高指数的には皿の範疇にも入るような規格であるが、伸ばし上げる器形を呈することから坏として取り扱った。浮石などの砂礫をやや含むやや粘りのある胎土で、内面口縁部は布当て等によるクロコ挽きの条線が顕著に残存している。器壁は底部・体部下半とも厚みを持った状態で、口縁は先細り状に伸ばし上げるように立ち上げている。内外面とも口縁部にピッチ状の煤が付着しており、口唇部の打欠箇所にも付着していることから灯明使用の可能性が高い。F075は第1層出土の椀の底部資料で、底径6.8cmを測る。やや粘りのある胎土で、黄褐色を基調とする。底部の円柱が残った状態で、微高台状になっており、開き気味に立ち上がる器形で、やや大型の椀形を呈するものと思われる。内外面とも体部下半に刻線が観察される。F076は前述のカマド支脚位置から出土した土師器甕底部資料で、底径7.0cmを測る。浮石を含むやや粘りのある胎土で、若干硬質に焼成されている。底面には刻書「十」が記されており、一部はヘラで調整されている。外面体部下半～底部は横方向のヘラケズリ、体部下半は縦方向で、内面は横方向のヘラによる調整痕と撫で消した指ナデの痕跡が観察される。支脚の影響なのか内外面とも二次被熱が顕著で、外面は煤・炭化物付着が見られる。F077は第5層出土の碁石で長さ1.95×幅1.75×厚さ0.37cmを測る。扁平な円形を呈し、表面は煤付着により黒色に変色している。石質は凝灰岩である。

#### SI-016 (図3-39・40)

X=91892.300, Y=11642.500 付近で検出した。平面形は台形を呈し、3.03.0×2.97.0×2.8.0cmを測る。主軸方位はN-136°-Eである。小規模な堅穴であるが、付近の堅穴に比べると堅穴内のピットの数が多く、調査時の認定で10基のピットを検出している。Pit1とPit4は貯蔵穴の可能性が高く、Pit2・3・7～10は柱穴として機能したものと考える。各壁間に設置された4本柱であると考えられるが、南北の壁ではPit2・3、Pit7・8の二つが存在しており、新旧関係が生じている。後述するカマドが二段階の変遷を経たことを踏まえると建て替えに伴っている可能性が高い。壁溝は堅穴内を全周する形で掘削され、カマド設置位置についても予め掘削され

SI-015

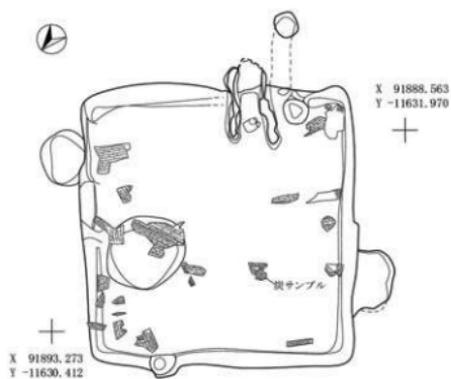


SI-015

- 第1層 10YK2/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)微量  
 第2層 10YK2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)微量  
 第3層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量,炭化粒(φ3~5mm)微量,0-Tax火灰(10YK5-6黄褐色土)が層状に堆積  
 第4層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量,炭化粒(φ3~5mm)少量  
 第5層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)少量,炭化粒(φ3~10mm)少量,焼土粒(φ5~10mm)微量  
 第6層 10YK2/1 黒色土 炭化粒(φ2~5mm)微量  
 第7層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量  
 第8層 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量  
 第9層 10YK3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~30mm)多量
- Pit1  
 第①層 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)多量,焼土粒(φ5~10mm)微量  
 第②層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量,焼土粒(φ5~10mm)微量  
 第③層 10YK2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~30mm)微量,炭化粒・炭化物(φ5~20mm)微量
- Pit2  
 第1層 10YK3/3 暗褐色土 焼土粒(φ1~3mm)微量,ローム粒(φ5~10mm)微量
- Pit3  
 第1層 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒(φ3~10mm)微量,炭化粒(φ5~10mm)微量  
 第2層 5Y5/8 明赤褐色土 焼土層  
 第3層 10YK2/2 黒褐色土 炭化粒(φ1~3mm)中量  
 第4層 10YK2/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量

図3-36 F-1区 SI-015-1

## SI-015炭範囲・炭サンプル



## SI-015掘り方

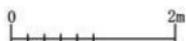
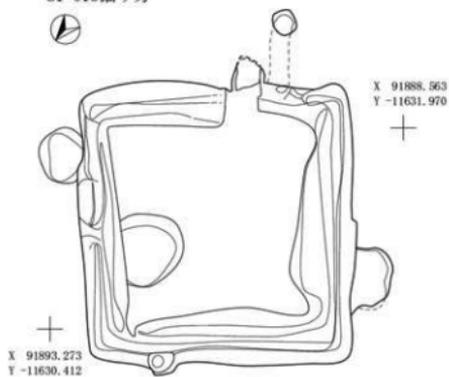


図 3-37 F-1区 SI-015-2

SI-015カマド1・2

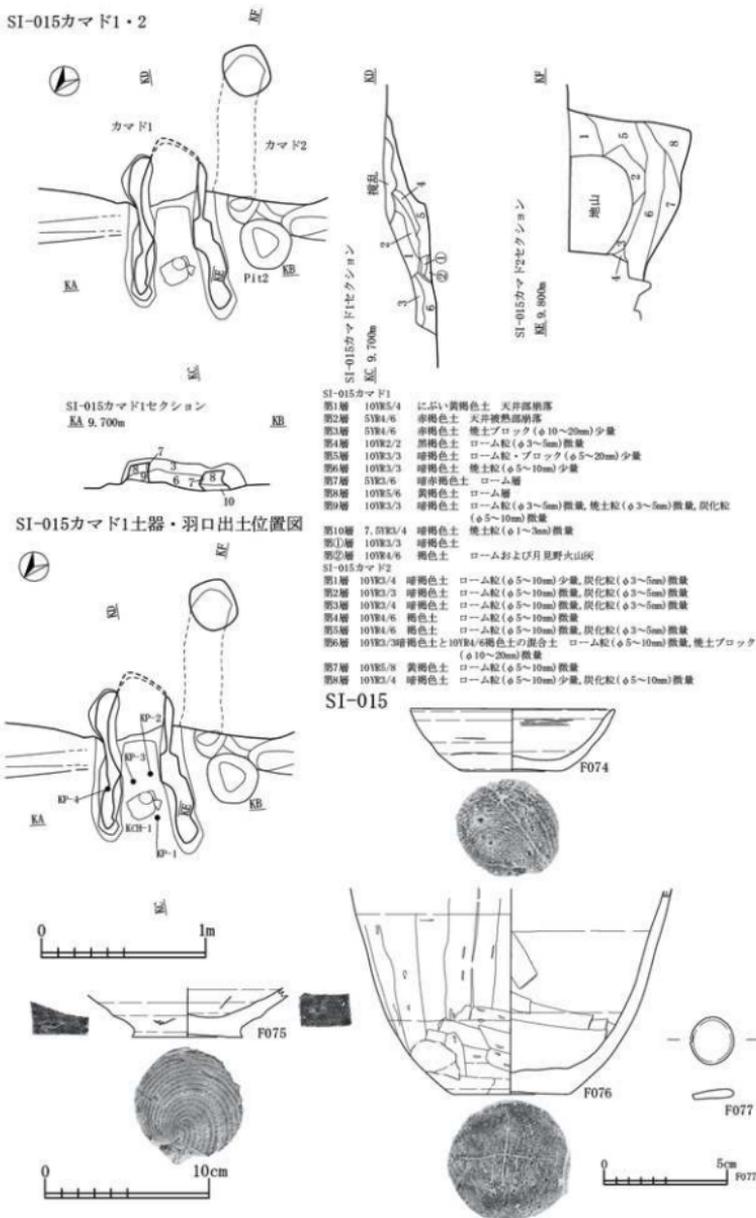
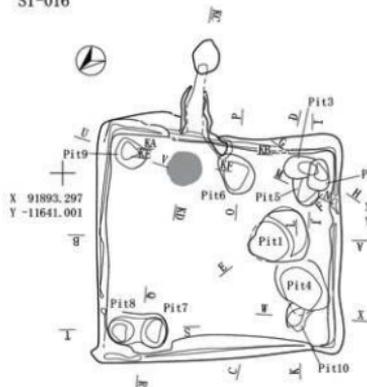


図3-38 F-1区 SI-015-3

SI-016



SI-016セクション



SI-016

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 B=To火山灰層状に混入
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~30mm)中量, To=火山灰ブロック少量

Pit11

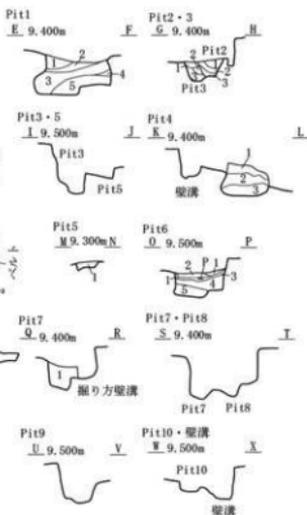
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)中量, 焼土粒(φ3~5mm)微量, 炭化灰(φ3~5mm)微量
- 第2層 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒(φ5~10mm)少量, ローム粒(φ5~10mm)微量, 炭化灰(φ5~20mm)少量
- 第3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量, 焼土粒(φ5~10mm)微量, 炭化灰(φ3~5mm)微量
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量
- 第5層 10YR2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~100mm)多量, 焼土粒(φ5~10mm)微量, 炭化灰(φ5~10mm)微量

Pit12

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~30mm)微量, 炭化灰(φ5~10mm)微量
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量

Pit13

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量, 炭化灰(φ3~5mm)微量
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量, 焼土粒(φ5~10mm)微量
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量



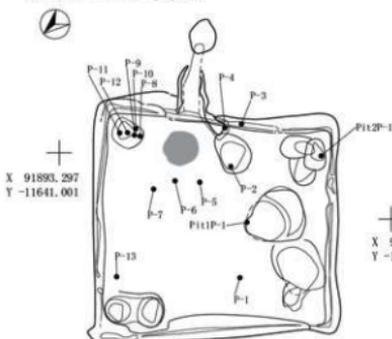
Pit14

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 L.R.(φ10~30mm)多量
- 第2層 10YR2/3 暗褐色土 L.R.(φ10~20mm)少量
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ2~10mm)少量, L.R.(φ30mm)少量
- 第4層 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒(φ2~5mm)少量, 焼土ブロック(φ30mm)少量, 炭化灰(φ2~4mm)微量

Pit16

- 第1層 10YR4/6 褐色土 ローム層(大谷火山灰)
- 第2層 10YR2/3 暗褐色土 焼土粒(φ2~4mm)微量
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒(φ2~3mm)少量
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)中量
- 第5層 10YR2/3 暗褐色土 焼土粒(φ2~10mm)少量
- 第6層 10YR2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~30mm)多量

SI-016土器出土位置図



SI-016掘り方

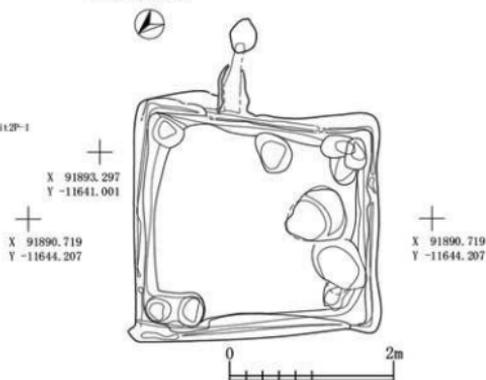


図 3-39 F-1 区 SI-016-1

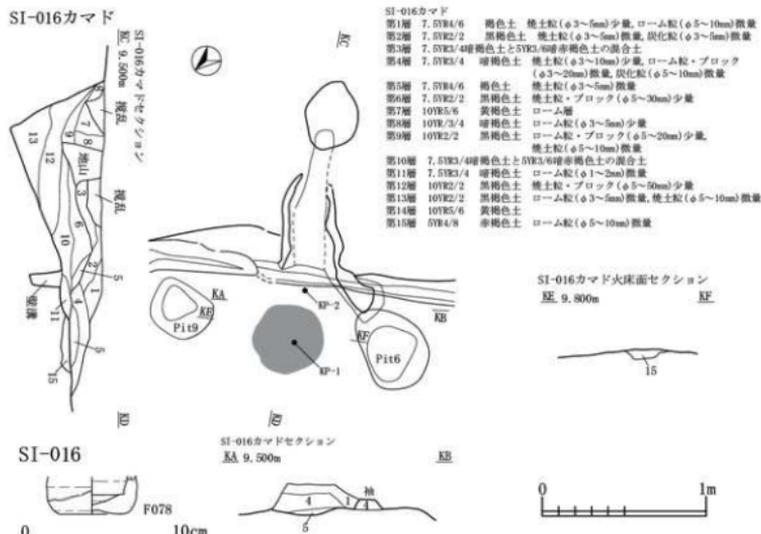


図 3-40 F-1区 SI-016-2

ている。堆積土は擾乱の影響が生じているが、残存部は3層に分層し、第2層中にB-Tm火山灰の二次堆積層、第3層にT-o-a火山灰がブロック状に混入している。

カマドは南2の位置から検出した。調査時には1基の取り扱いで精査しているが、土層記録図や記録写真を確認したところ、SI-014のカマドと同様に地下式のカマドのほか同一軸線上に半地下式のカマドが構築されているものと認定した。新しい方の半地下式のカマドはカマドセクションKC-KDラインの図上では、火床面から第5層、第4層、第2層、第3層の下端を通るライン上で立ち上がっており、調査時には構築土の粘土に相当する部分を第5層として火床面上の部分と壁面側の部分を同一的に取り扱っているが、火床面上の崩落した第5層と、半地下式カマドの底面補強のために構築土を充填した壁面側の第5層では多少意味合いが異なる。袖は右袖の基部のみの残存で、左袖側は残存していない。

旧段階の地下式のカマドはN-144°-Eと若干東偏した軸線で、煙道は床面から20度の角度で傾斜し、ピット状に斜めに掘り込まれた煙出部と合流している。出土遺物は砕片主体で図示可能な資料は、F078として図示した床面出土の小型土器1点である。底径4.0cmを測る。底部資料で、砂礫の少ないやや粘りのある胎土で、底面は煤が付着

し、褐色を呈する。

SI-017 (図3-41~46)

X=91880.000, Y=11639.000付近で検出した。平面形は台形を呈し、433.0×373.0×35.0cmを測る。主軸方位はN-123°-Eである。

竪穴内から10基(Pit7は欠番)のピットを検出し、そのほか07\_SK-006が重複している取り扱いである。記録写真を確認したところ、07\_SK-006はSI-017の床面上で検出しており、土坑の堆積土の上面にSI-017の貼床が堆積している状況が記録写真で確認できた。別遺構としているが、実質的にはSI-017より古い段階の土坑もしくは掘り方土坑として帰属した可能性も否定できない。

主柱穴はPit2・6・10・11の壁際に掘り込まれた4本柱を基本とし、その他Pit4・9についても柱穴として機能した可能性がある。竪穴中央のPit1・3は貯蔵穴の可能性が高く、Pit5はカマド脇ピットに相当する。

堆積土は掘り方を含め11層に分層し、廃絶後の堆積は第1~10層が相当する。崩落や流れ込み及び廃棄の伴う堆積で、床面直上に堆積する第5層中にはT-o-a火山灰が粒状に、その上位に堆積する第4層中にはB-Tm火山灰がブロック状に堆積し

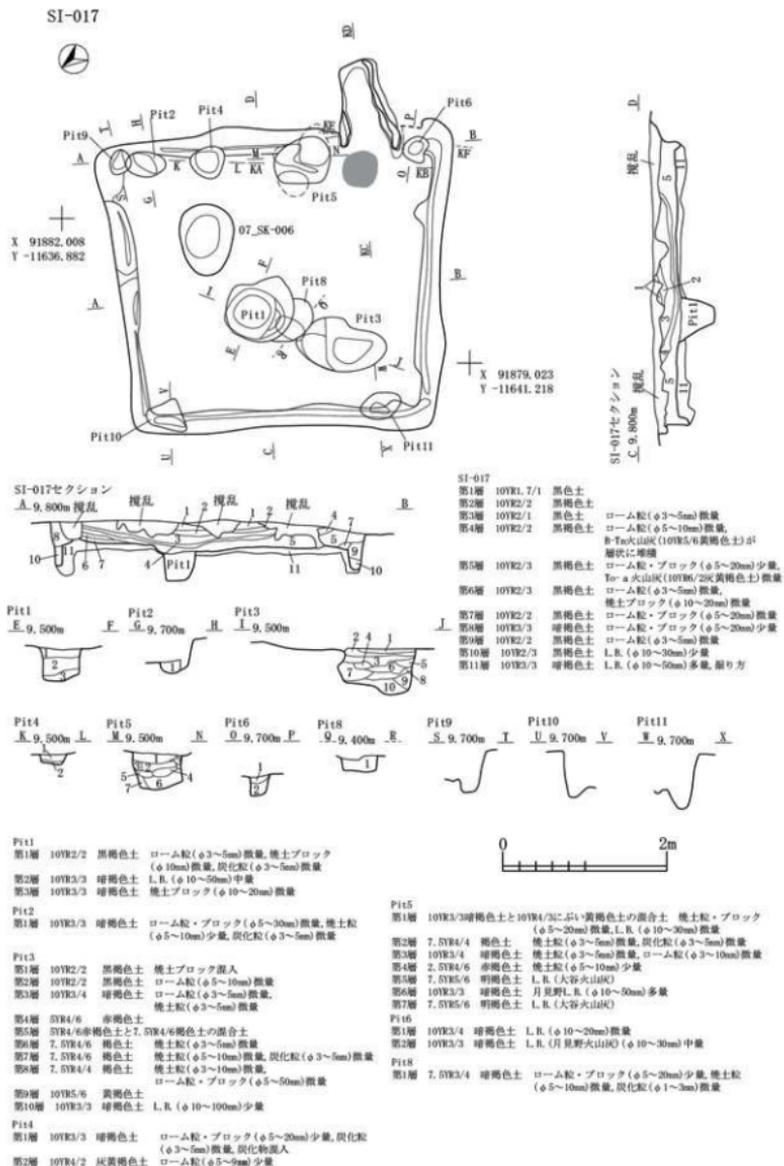
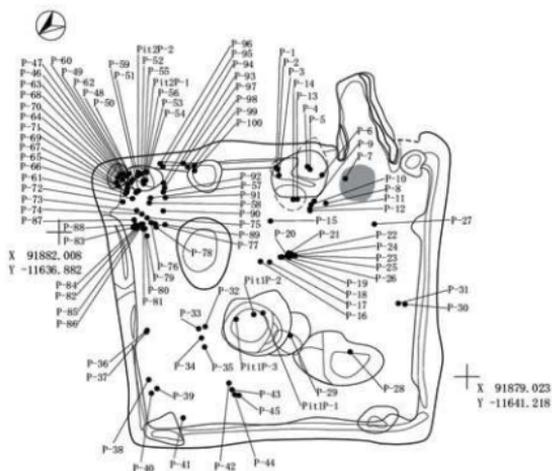
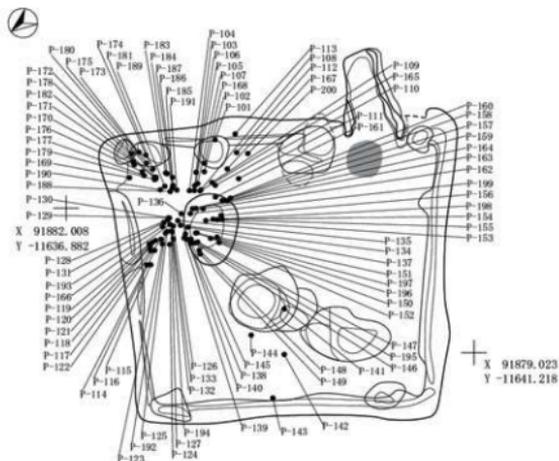


図3-41 F-1区 SI-017-1

SI-017土器出土位置図-1



SI-017土器出土位置図-2



## SI-017土器・石器・鉄関連遺物・土製品出土位置図

## SI-017掘り方

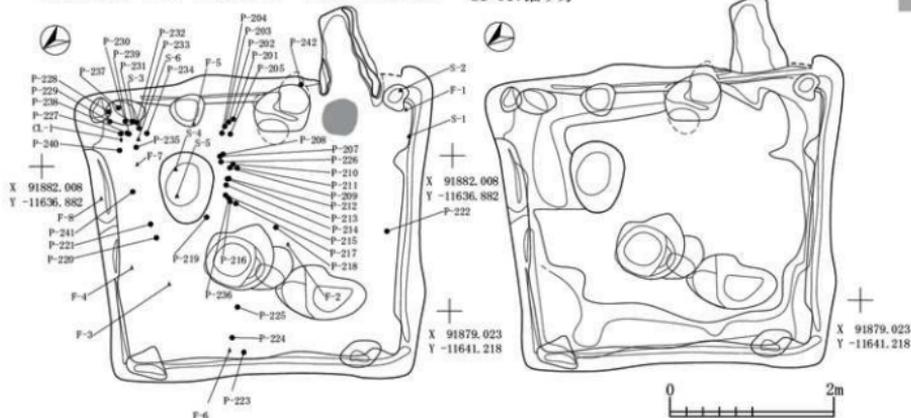


図 3-43 F-1区 SI-017-3

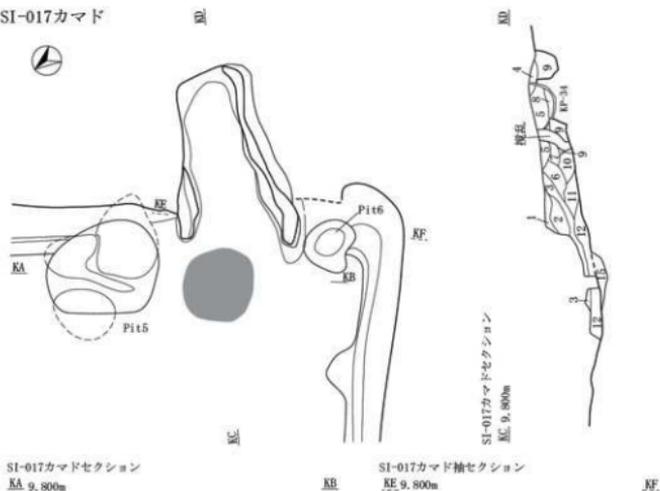
ている。掘り方は全面掘り込みが認められるが、中央よりコーナー側を深く掘り込んで暗褐色土とバミスブロックの混合土を充填している。

カマドは南東3・4の位置から検出した。構造は半地下式で袖部幅7.3.0cm、煙道長86.0cmを測る。床面から10度の角度で立ち上がり、途中で角度を変え、奥壁側に向かい、ピット状の落ち込みが存在する。奥壁側のK P-34からF 079として図示した土師器壺の体へ底部にかけての資料が出土している。前庭部側は破壊が顕著で、左袖側を中心に廃棄されていた。

出土遺物は遺構間接合資料を含め17点図示した。F 079は前述のカマド煙出周辺のK P-34とPit 1第2層、Pit 3覆土、SI-018第2・4層、覆土から出土した土師器壺の体へ底部資料である。頭へ体部上半の一部についても破片が出土しているが図示には至らなかった。広口壺の器形で、砂粒を多く含む粘りのやや弱い硬質な胎土で、焼成は良好である。底面は丁寧なヘラケズリで面が整えられており、円盤状に作出した底部に輪積成形で粘土紐を積み上げ、外面側は輪積痕を残しながら縦方向のヘラケズリによって調整されており、内面はやや右下がりに斜めがかった横方向のハケメによって輪積痕を撫で消している。図示していない肩部ではヘラケズリが右下がりの斜めへ横方向のヘラケズリで、頸部と体部は沈線状のナデを一条入れることによって体部と口縁部を明確に区切っている。外面は底へ体部前半まで黒斑が楕円形状、及び帯状に残存しており、その周辺には灰色がかった斑状を呈する部分も見られる。肩部側も同様に楕円

形状の黒斑と灰色がかった斑が見られる。内面は全面黒灰色の処理がなされ、意図的に黒色気味の色調を頸部直下まで作出させている。口縁部側は外面の体部色調と同様に黄褐色～橙褐色気味の色調を呈している。F 080はSI-017 Pit 3第2層とPit 8第1層出土資料とSI-018第2層出土の遺構間接合資料の土師器壺で底径6.8cmを測る。底部資料であるため、全体形は不明であるが、比較的小型の部類に入る資料で、胎土はやや粘りがあり、浮石などの砂粒を多く含んでいる。色調は褐色を基調としている。底面は指ナデによる調整であるが、一部ヘラによる調整が加わっており、刻線が二条観察される。内外面ともヘラによる調整で、外面は縦方向、内面は横方向の調整で、内面側についてはヘラによる調整の後、指ナデで撫で消しが行われている。F 081はSI-017第5層の床面上とSI-018第2・4・5層、覆土出土破片の遺構間接合資料の須恵器環で口径13.2cm、器高5.5cm、底径5.6cm、器高指数4.16、底径指数4.2.4を測る。海綿骨針と長石を含み、破断面も灰色を呈する焼成で、外面は濃灰色を呈している。しかし、全般的に摩滅や敲打が顕著で、外面側の体部は敲打痕により器面が凹凸が顕著となっている。また内面の見込みは使用痕が顕著で器面が滑らかになっている。F 082はSI-017第1・5層出土の黒色土器壺で口径14.8cmを測る。粘りのある精緻な胎土で、海綿骨針は含まず褐色を基調としている。底部は打欠によって残存しておらず、外面側が剥落部分が露出している(内面の見込み部分も敲打による潰れが発生している)。ヘラミ

SI-017カマド



SI-017カマドセクション  
KA 9.800m

SI-017カマド横セクション  
KE 9.800m

SI-017カマド

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒(φ3~5mm)微量
- 第4層 5YR4/6 褐色土 焼土層
- 第5層 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量, 炭化物(φ20mm)微量
- 第6層 7.5YR4/4 褐色土 焼土粒(φ5~10mm)少量, 炭化粒(φ3mm)微量
- 第7層 5YR3/6 暗赤褐色土
- 第8層 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量
- 第9層 10YR2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~30mm)少量
- 第10層 7.5YR4/6 褐色土 ローム層
- 第11層 7.5YR4/6褐色土と7.5YR3/6暗赤褐色土の混成土
- 第12層 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒・ブロック(φ5~20mm)少量
- 第13層 5YR4/8 赤褐色土 焼煎磁器土
- 第14層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量
- 第15層 2.5YR5/8 明赤褐色土 焼土層, 火床面

SI-017カマド土器・石器・鉄関連遺物出土位置図

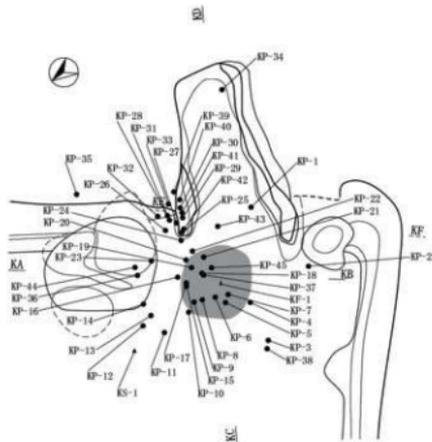
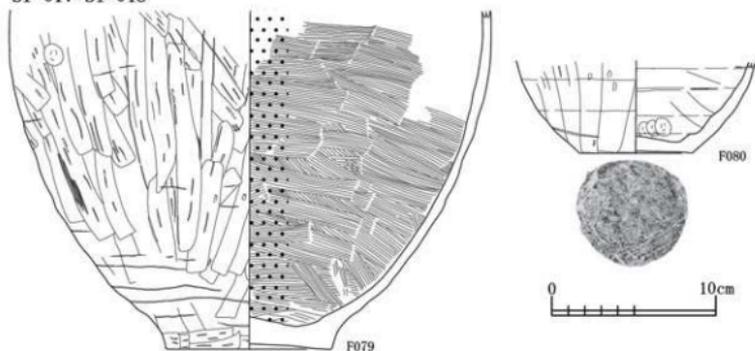


図3-44 F-1区SI-017-4

SI-017+SI-018



SI-017

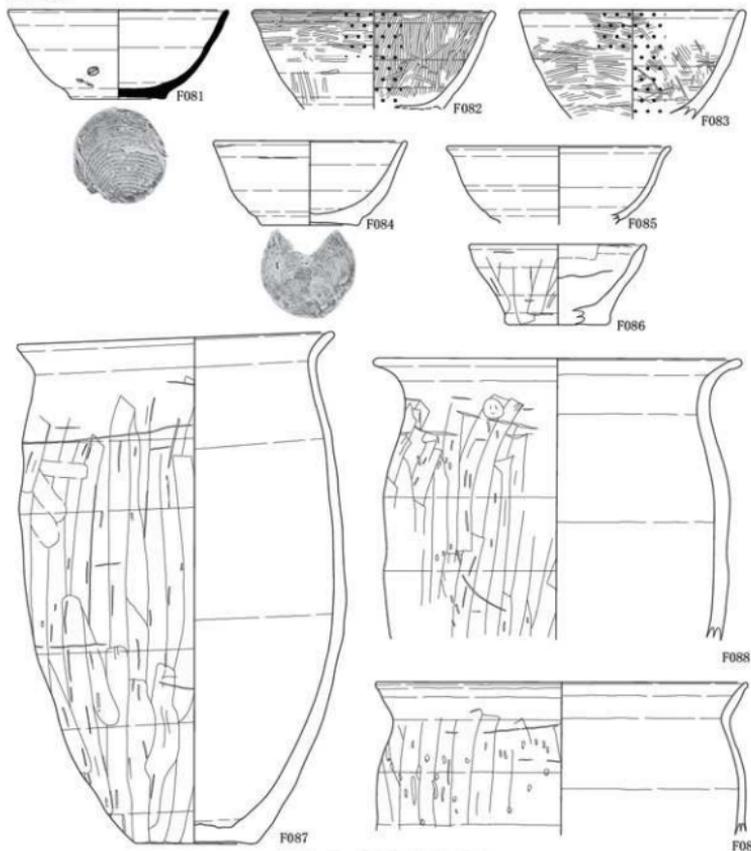


图 3-45 F-1区 SI-017-5

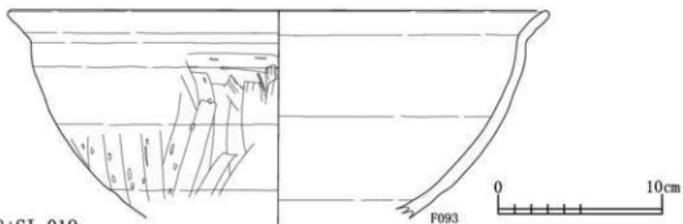
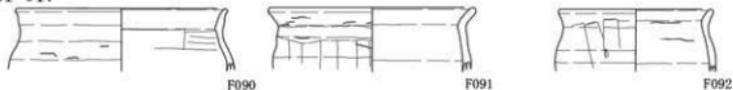
ガキは内面側が放射状、外面側は口縁部の上端を中心に横方向を主体としており、黒色処理も内面は全面、外面はヘラミガキがされた口縁部を中心として精緻に磨かれている。F083は第1層出土の黒色土器碗で口径13.8cmを測る。海綿骨針を含む粘りのある胎土で、F082に比べ焼成が軟質で、外面の体部も黒味がかった黄灰色を呈しており、内面と外面口縁部の黒褐色を呈する黒色処理部分とそれほど大差がない色調である。ヘラミガキは外面は横方向で全面、内面は横方向と斜め方が組み合わされた調整で、上半部側の方が精緻に磨いている。F084は第5層出土の土師器碗で、口径11.8cm、器高5.2cm、底径5.8cm、器高指数4.4.0、底径指数4.9.1を測る。浮石を含むやや粘りの弱い胎土で、淡橙褐色を基調とする。二次被熱により色調が橙褐色と灰褐色の黒斑状を呈する部分が観察される。内外面ともピッチ付着で、一部褪色している所がある。器壁は体部中へ下半半にかけ厚みを持ち、口縁部の先細りを意識しながら伸ばし上げるように立ち上げている。F085は攪乱出土の土師器碗で、口径13.4cmを測る。浮石混じりの粘りのやや弱い胎土で、二次被熱によって内外面とも橙褐色に変色しているが、部分的に残存している器面情報を踏まえると元々は黄褐色を呈していたものと思われる。外面は下へ中半にかけ稜段を顕著にさせており、口縁部側は布当て等による条線が観察できる。内面の体部中半は煤が付着している。F086は第5層出土の非クロの手くね碗で、口径10.8cm、器高4.9cm、底径6.0cm、器高指数4.5.3、底径指数5.5.5を測る。非クロ碗と同質の浮石混じりで硬質に焼成のできるやや粘りのある胎土が使用され、底面はナデによる調整で、外面は輪積痕を一部残し、縦方向のヘラによる調整、内面も輪積痕を残し、指ナデによる調整である。口唇部は先細り状に突出させているが、外面の器面が凹凸があるため、ゴツゴツした印象を与える。類似資料は第5層中からP-210・211として出土した破片が別途存在し、S1-2と接合した(F116)。

煮炊きのうちF087は竈穴内第3・5層、カマド第3・12層、Pit2第6層から出土したロクロ系甕で口径19.2cm、器高31.3cm、底径7.2cmを測る。浮石などの砂礫を含むやや粘りのある胎土で褐色を基調とし、焼成良好品でやや硬質な質感を有する。底面は無調整を基本としているが、一部ヘラにより面が整えられた部分が見られる。砲弾状に近い器形で、輪積成形で積み上げられ、上半部の外面は回転運動に伴うナデによって整形され、口縁部の形状もロクロナデにより整形されている。内面は指ナデによる調整であるが、上半の一部

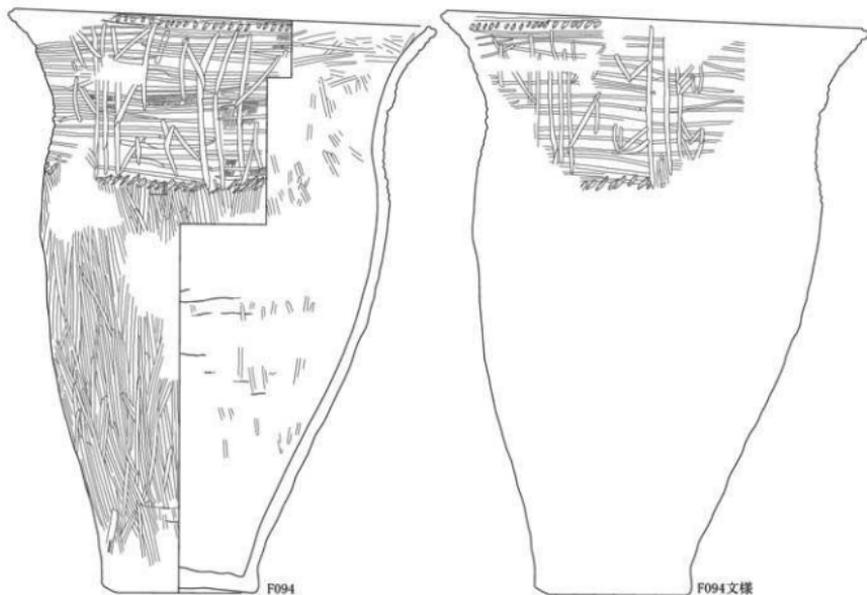
は輪積痕の撫で消しが不十分で一部残存している。接合破片間で、煤・炭化物の付着状況や二次被熱の器面の変色状況が不整合で、出土位置も複数の地点・層位から出土していることなどを踏まえると破片化した状態で焼成・被熱の影響が生じていることが考えられる。F088はカマド第12層出土の土師器甕で口径22.0cmを測る。浮石を含むやや粘りのある胎土で、粒子の細かい砂礫が多く、部分的にザラザラした質感を有する。淡橙褐色を基調とし、外面の頭へ体部上半の一部は楕円形の黒斑が観察され、対応する内面の部分は褐灰色を呈する。非クロ碗で、頸部幅が長く、外面の調整は縦方向のヘラ、内面の調整は頸部直下まで縦方向の指ナデが施されている。外面の頭へ体部上半は撫で消しが不十分で、輪積痕が残存している。F089はカマド第3層出土の土師器甕で、口径22.4cmを測る。砂礫を多量含み、粘りのやや弱い軽質な質感を有する胎土で、硬質な質感である。非クロ碗で、層部の最大径と口径がほぼ同じで、輪積成形で頸部直下は十分に撫で消されておらず、内外面とも輪積痕が残存している。外面体部は縦方向のヘラによる調整で、粘土の寄せ上げが残存しない軽い調整である。口唇部は若干丸みを帯びさせ、外面側の端部直下を溝状に意図的に深く撫でることによって端部の突出部を作出している。

小甕は口縁部片のみ3点図示した。F090はPit3第3層出土の資料で、口径12.6cmを測る。浮石混じりの砂礫をやや多く含むやや粘りのある胎土で、外面は輪積痕を残し、口縁部は横方向の指ナデ、内面は頸部直下は横方向のヘラによる調整である。口唇部はF089と同様外面口唇部を意図的に深く撫でて突出部を強調した造りである。内外面とも二次被熱で褐色から淡赤褐色に変色した部分が多く、内外面とも煤付着と内面の口縁部には薄い煮炊痕が観察される。F091は攪乱出土の資料で、口径12.4cmを測る。器面の摩滅が顕著で、破断面も丸みを帯びるほど磨耗している。浮石などの砂礫を少量含むやや粘りの弱い胎土で、淡橙褐色を基調とする。外面は輪積痕が十分に撫で消されておらず、内面の対応部分は罫割れが観察される。口縁部は被熱により明灰色に変色した部分が見られ、内面体部には淡黒灰色の付着物が認められる。F092はPit3第1層から出土した土師器小甕で口径9.2cmを測る。砂礫をやや多く含む粘りのやや弱い胎土で、硬質な焼成である。外面は縦方向のヘラによる調整で、頸部直下まで調整が及んでいるが、軽く撫でられる程度なので、器面は凹凸がある。口唇部はF089・F090と同様に口唇部を強くナデ、端部を強調しようとしているが、部分的に丸みを帯びており、不明瞭である。内

SI-017



SI-017+SI-018+SI-019



SI-017



F095



图 3-46 F-1区 SI-017-6

面は横方向のナデで、体部上半は輪積痕が残存して観察される。内面口縁部には煮炊痕、対応する外面の頸部周辺も煤付着が認められ、外面頸部直下に幅5mm程度バンド状に煤が付着しない部分が観察されるが、その直下の体部も煤が付着している。煤は破断面には及んでおらず、破片化前の影響である。F093は第3・5層出土の場で口径32.4cmを測る。浮石を含む砂礫が多量まされる粘りのやや弱い胎土で、器面は砂粒から広がった罅割れが顕著に観察される。色調は褐色を基調とする。輪積成形で、外面は甕と同様に縦方向のヘラが体部上半まで及んでおり、口縁部直下は縦方向のヘラが及ぶ前に横方向のヘラによる調整がなされている。口縁部は横方向のナデで緩やかに屈曲させている。内面は横方向のナデにより調整されており、輪積痕などは撫で消されて残存していない。内面頸部付近がバンド状に褐色しており、褐色からいびい黄褐色に変色している。また、接合破片間で、煤付着や摩滅状況など器面情報に不整合が見られ、破片化した状態で被熱等の影響が生じている。

F094はSI-017とSI-018とSI-019の遺構間接合の糠土器甕で口径25.2cm、器高35.6cm、底径8.4cmを測る。海綿骨針を含む粘りのある土器器食器具にも使用している胎土で、粒子の大きな砂粒はほとんど含まない。底面は円盤状にして外側をヘラミガキして一部指ナデを行っている。輪積成形で内外面とも輪積痕が充分に撫で消されていない部分が部分的にある。体部中央にかけて膨らんだ後、頸部に向かって一度内側に入り込んだ上で再び外反する二段口縁状の形状で、文様帯はその部分から口唇端部にかけて展開している。文様帯は一次整形で縦方向のハゲメ状の調整痕が残存し、その部分を磨いた上で、口唇端部直下まで横走沈線を施している。体部側の境界部は横走沈線を切る形で左下りのキザミを一部沈線状、一部は刺突気味に加えて境界部としている。さらに縦方向に沈線を三条加え、両端の沈線側に鈎状の沈線を二段加えた文様を8箇所を展開しているが、鈎状の沈線が三段になった部分があり、さらに別の箇所では鈎状の沈線が左側で「V」と「 $\sphericalangle$ 」、右側で「 $\blacktriangle$ 」と「 $\heartsuit$ 」と「 $\nabla$ 」が二つ組み合わせられた記号で構成されている。口唇端部は外形する面取りした平滑な面に凹線を一列入れ、外端部に左下りのキザミを入れている。内面は底部から体部まで縦方向のヘラミガキが部分的に入り、口縁部は横方向の指ナデが施されている。本資料は遺構間接合資料であるが、SI-017から出土した破片量が最も多く、SI-019から1/4程度の口縁～体部上半の破片、体部片の一部がSI-018出土資料で、煤付着や二次被熱に伴う変色は接合破片間で不整合

な部分が多い。F095は第5層出土の土玉で、長さ1.55×幅1.8×厚さ1.65cmを測り、3.9gを量る。丸みを帯びた淡褐色を呈する胎土で、外面にはピッチが付着している。

SI-018 (図3-47～57)

X=91873.000, Y=11630.000 付近で検出した。平面形は不整形台形を呈し、422.0×371.0×28.0cmを測る。主軸方位はN-143°-Eである。西隅と南隅に撓乱があり、遺構の形状が変形している。また、南隅には南西方向に張り出しが163.0×66.0cmの範囲で突出している。ピッチは堅穴内から浅い掘り込みを3基検出している。後述する鍛冶炉に関連した掘り込みも含まれるが、壁溝もなく明確な柱穴配置を示すピッチは検出しておらず詳細は不明である。また、カマドは検出していない。堆積土は14層に分層し、堅穴の外周側の第1～14層の暗褐色主体の土が埋まった後、第1～10層の炭化物を含む黒褐色土主体の廃棄の伴う土が堆積している。

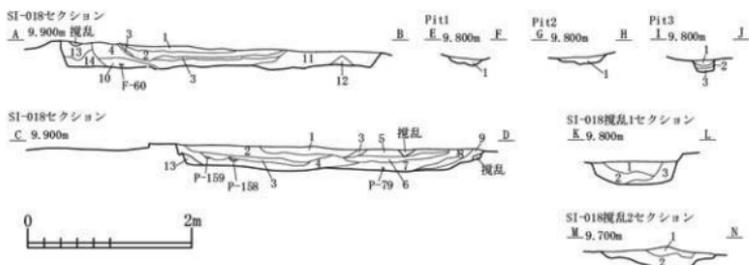
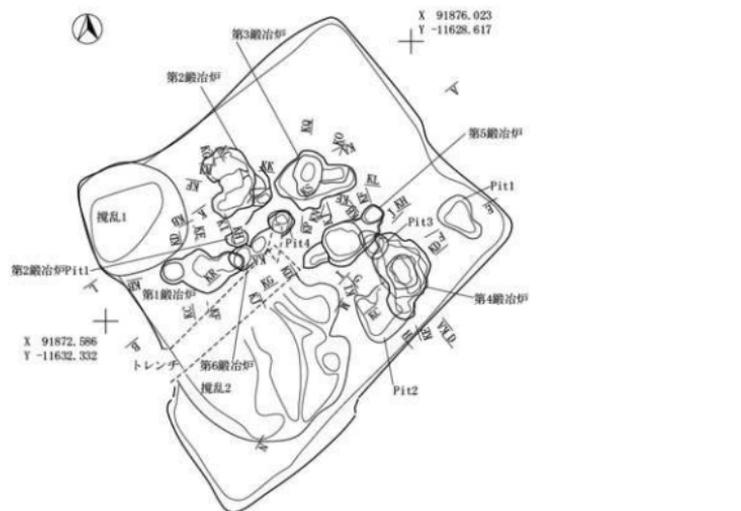
堅穴内では調査時に鍛冶炉と認定した遺構を6基検出している。堅穴の床面まで下げた上で確認し、精査を進めているため、個々の遺構の新旧関係の把握できる情報が不足した記録簿と記録写真しか残っていない状況ではあるが、鉄滓の出土状況や堆積土の状況などを踏まえると第4鍛冶炉と取り扱われた資料が最終段階まで操業していた炉の可能性が高いが、第2鍛冶炉も併存した可能性がある。

第1鍛冶炉は堅穴の西側から検出した。103.0×54.0×18.0cmを測る。羽口の想定軸線はN-83°-Eで、第6鍛冶炉側から送付したものと考えられ、第6鍛冶炉より本遺構の方が新しい取り扱いになる。ただ、堆積土を確認すると上面に貼床と同質の土が堆積していることから、最終段階には操業していないと考えられる。

第2鍛冶炉は第1鍛冶炉の北側から検出しており、86.0×60.0×16.0cmを測る。図3-53の上位に図示した遺物出土位置図のとおり、KS-1とした金床石とKS-3とした羽口が出土しており、図3-53の中段の鉄範囲を見ると中央の落ち込みの部分に増場状に鉄分が固まった部分が見られることから、N-159°-Eである。

第3鍛冶炉は第2鍛冶炉の東側から検出した。98.0×72.0×28.0cmを測る。中央の楕円形の掘り込みと西側の突出部側に炭化物と焼土が広がり、羽口は東側に装着されていたものと推定される。羽口の推定軸線はN-98°-Eである。構築材の崩落か、廃絶後の埋め戻しなのか第1層にバミス起源の地山層が堆積している。また、第3層とした底面部にT-o-a火山灰が混入している。第

SI-018



SI-018

第1層	10YR2/1	黒色土	
第2層	10YR2/2	黒褐色土	粘土粒(φ2~5mm)微量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	粘土粒(φ2~5mm)微量,炭化粒(φ2~5mm)微量
第5層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ2~3mm)微量
第6層	10YR3/3	暗褐色土	L.R.(φ10~30mm)少量
第7層	10YR3/2	暗褐色土	粘土粒(φ2~3mm)微量,ローム粒(φ2~3mm)微量,炭化粒(φ2~3mm)微量
第8層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ2~5mm)少量
第9層	10YR2/1	黒色土	層中に炭化物多量
第10層	10YR2/1	黒色土	層中に炭化物多量
第11層	10YR3/4	暗褐色土	ローム層
第12層	10YR5/6	黄褐色土	
第13層	10YR3/4	暗褐色土	
第14層	10YR4/4	褐色土	L.R.多量

SI-018埋乱1

第1層	10YR3/4	暗褐色土	L.R.(φ30~50mm)少量
第2層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~15mm)少量,炭化粒(φ5~10mm)微量
第3層	10YR5/8	黄褐色土	大谷火砕灰

SI-018埋乱2

第1層	7.5YR5/8	明褐色土	炭化粒(φ3~5mm)微量
第2層	10YR2/3	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量,炭化粒(φ3~5mm)微量

Pit1

第1層	10YR2/3	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量,炭化粒(φ3~5mm)微量
-----	---------	------	------------------------------------

Pit2

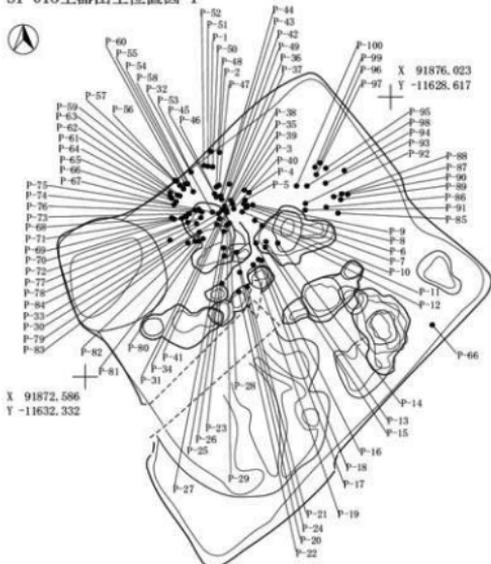
第1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~15mm)少量,炭化粒(φ3~5mm)微量
-----	---------	------	------------------------------------

Pit3

第1層	10YR2/2	暗褐色土	L.R.(φ20~30mm)多量,第4層治り底面
第2層	10YR2/3	暗褐色土	砂洋(φ5~10mm)微量,L.R.(φ10~15mm)微量
第3層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~15mm)少量,砂洋(φ10~15mm)少量

図 3-47 F-1区 SI-018-1

SI-018土器出土位置図-1



SI-018土器出土位置図-2

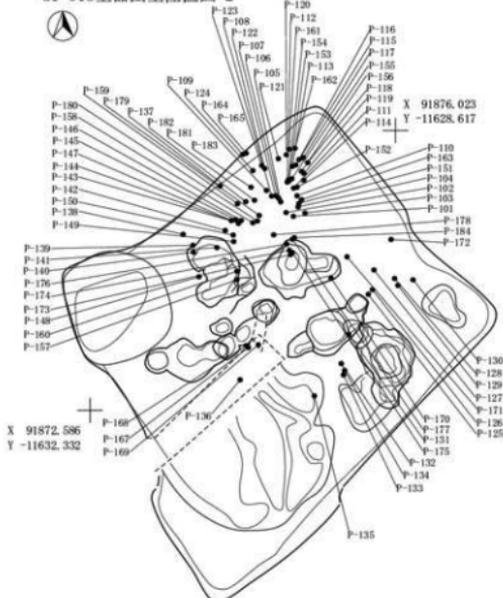
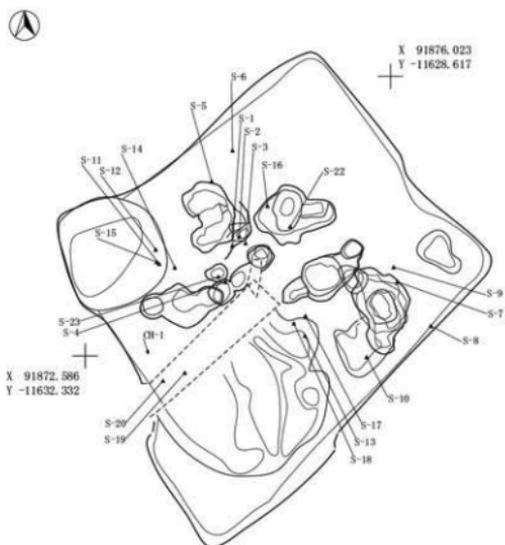


図 3-48 F-1区 SI-018-2

SI-018石器・羽口出土位置図



SI-018鉄関連遺物出土位置図

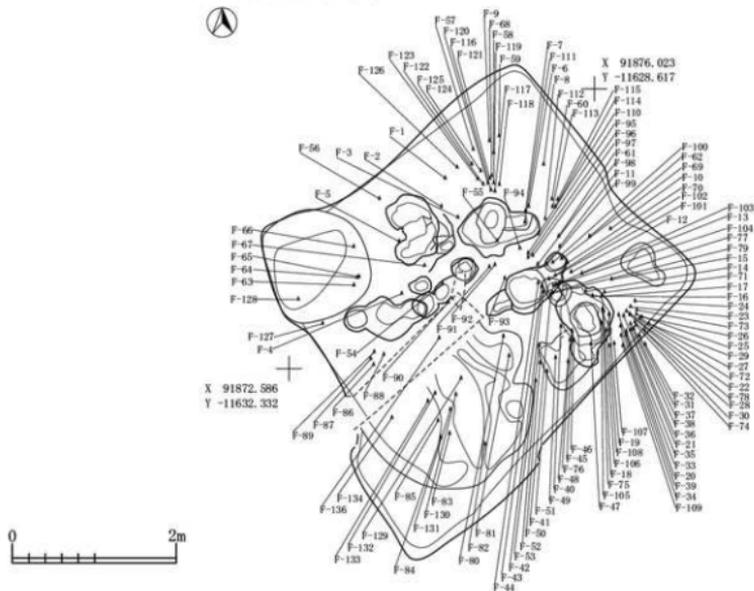


図 3-49 F-1区 SI-018-3

SI-018掘り方



SI-018炭・ローム・鉄範囲

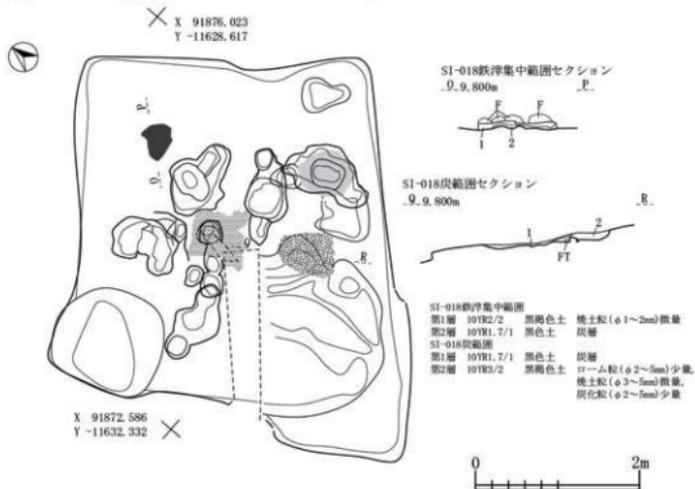


図3-50 F-1区SI-018-4

SI-018第1鍛冶炉

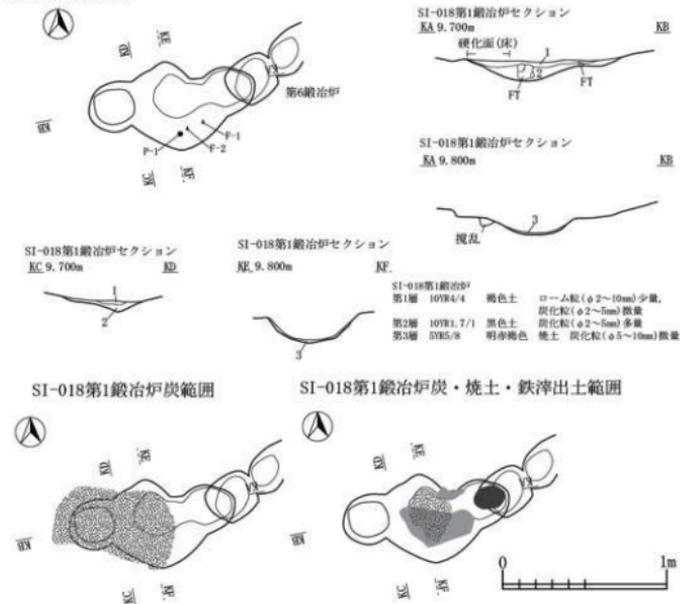


図3-51 F-1区 SI-018-5

4 鍛冶炉は東側から検出し、 $108.0 \times 66.0 \times 24.0$  cmを測る。南東側の堅穴床面からは大型の椀形鍛冶滓が出土している。羽口の推定設置軸線はN-173°-Eである。平面図上では堅穴のPit3と第5鍛冶炉と重複しているが、土層図上では明瞭な新旧関係を確認できる図が残っていない。記録写真を確認すると第4鍛冶炉の炭化物層が上面に広がっており、第5鍛冶炉は炭滓主体の堆積状況であったため、第4鍛冶炉が新しいと判断した。

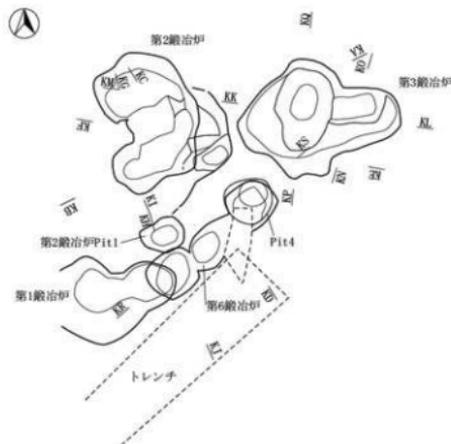
第5鍛冶炉は第4鍛冶炉の北西側に所在しており、 $118.0 \times 52.0 \times 36.0$  cmを測る。羽口の推定設置軸線はN-117°-Wである。前述の通り炭滓主体の堆積状況で、下部からはTora火山灰が少量混入している。

第6鍛冶炉は第1鍛冶炉の北東側から検出し、前述のとおり、第6鍛冶炉側の方が第1鍛冶炉よりも古い。 $84.0 \times 27.0 \times 15.0$  cmを測る。羽口の推定設置軸線はN-51°-Eである。上面に炭滓物が堆積し、北西側の第2鍛冶炉周辺まで同質の鉄滓と土が堆積し、他の炉跡より古い。

鉄関連遺物以外の出土遺物は6点図示した。F096は床面および第3・4層出土の土師器碗で、口径13.0 cm、器高5.8 cm、底径5.0 cm、

器高指数4.46、底径指数38.4を測る。粒径の小さな砂粒をやや多く含む粘りの弱い胎土で、褐色を基調とするが、外体部下半~底面は灰白色気味の色調である。内外面ともロクロ挽きに伴う砂粒流動した底跡が残存していて、内外面ともピッチが付着している。F097は第4層出土の土師器碗で、口径13.8 cmを測る。浮土を含む粘りのやや弱い胎土で、褐色を基調とし、ザラザラした質感を有する。口唇部に2箇所切り込み状の打欠があり、その部分に対応する内側の体部上半には煤及びピッチ付着、さらにその部分から見込み部分にかけ煤付着が認められることから灯明使用の可能性がある。煤は外体部下半にも認められるが、破断面には及んでいない。F098は第6層出土の土師器碗で口径12.6 cmを測る。胎土の特徴や器形の立ち上がり等の形状についてF097と類似しており、内外面とも煤・ピッチが付着している。F099は第2・4層出土の土師器碗で、口径13.6 cmを測る。粘りのある胎土で、橙褐色を基調とする。端反で、口唇部は先細りながら外面側を丸みを持たせ外反させている。口唇部を意図的に打ち欠いている。F100は第2~4層出土の土師器甕で、口径27.0 cmを測る。砂粒をやや多く含む粘りのあ

SI-018第2・3・6鍛冶炉



SI-018第2鍛冶炉セクション

KA 9.700m



SI-018第2鍛冶炉セクション

KB 9.700m

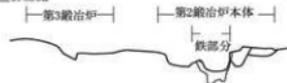


SI-018第2鍛冶炉

第1層 10TR2/3 焼土粒(φ5~10mm)微量, ローム粒(φ2~5mm)微量

SI-018第2鍛冶炉エレベーション

KE 9.800m



SI-018第2鍛冶炉エレベーション

KF 9.800m



SI-018第2鍛冶炉Pit1・第6鍛冶炉セクション

KL 9.800m



SI-018第2鍛冶炉Pit1

第1層 10TR3/3 埴粉色土, ローム粒(φ1~5mm)微量

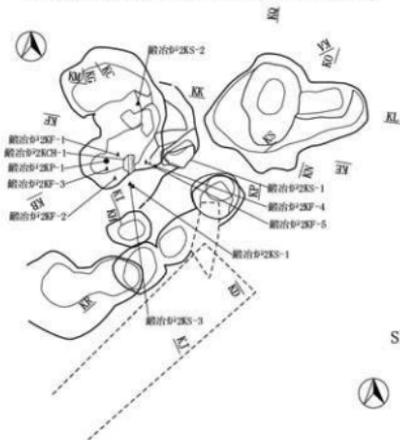
SI-018第6鍛冶炉

第1層 10TR3/3 埴粉色土, ローム粒(φ1~3mm)微量

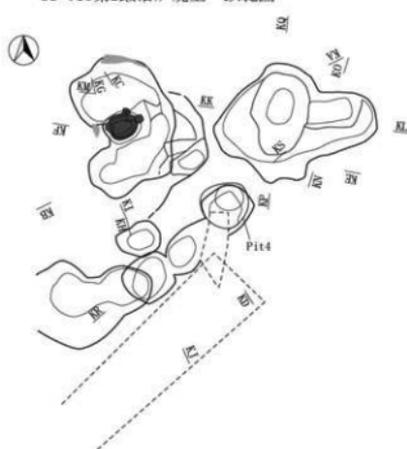


図 3-52 F-1区 SI-018-6

SI-018第2鍛冶炉土器・石器・鉄滓出土位置図



SI-018第2鍛冶炉焼土・鉄範囲



SI-018第2鍛冶炉掘り方

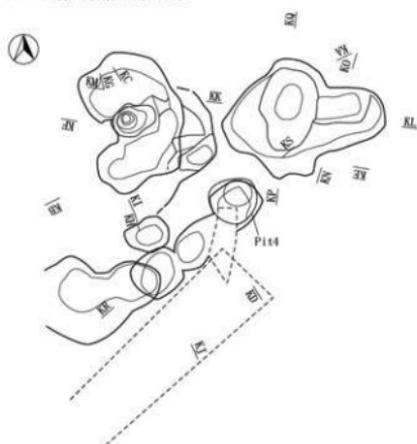
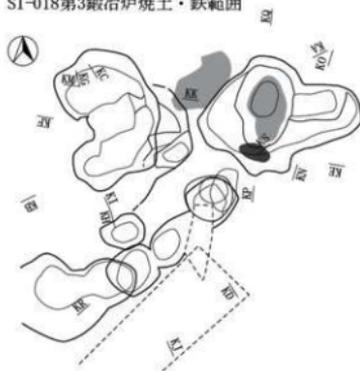


図 3-53 F-1区 SI-018-7

SI-018第3鍛冶炉焼土・鉄範囲



SI-018第3鍛冶炉焼土範囲



SI-018第3鍛冶炉セクション  
KN 9,700m



床面(硬化面)

SI-018第3鍛冶炉セクション  
KL KN 9,700m



SI-018第3鍛冶炉  
第1層 10YR2/3 黒褐色土  
第2層 10YR1.7/1 黒色土

SI-018第3鍛冶炉エレベーション  
KN 9,800m



SI-018第3鍛冶炉セクション  
KM 9,800m



SI-018第3鍛冶炉セクション  
KL KM 9,800m

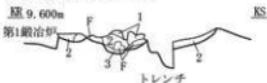


SI-018第3鍛冶炉セクション  
KP 9,800m



SI-018第3鍛冶炉  
第3a層 10YR4/6 褐色土 月見野大山区  
第1b層 10YR4/6 褐色土 第1a層との境界に暗褐色土(10YR3/3)混入  
第3層 10YR2/3 黒褐色土 下層部にTo-a site区有  
第4層 5YR5/8 明赤褐色土 焼土層 炭化粒(φ5~10mm)微量  
第5層 10YR4/6 褐色土 焼土粒・ブロック(φ5~15mm)微量

SI-018第6鍛冶炉セクション  
KS 9,600m



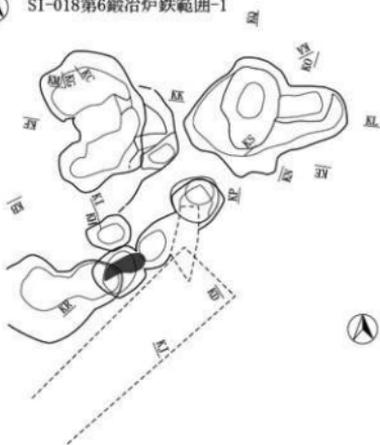
SI-018第6鍛冶炉  
第1層 砂子  
第2層 2.5YR4/8赤褐色土と10YR5/8黄褐色土の混泥土 炭化物混入  
第3層 N6/0 灰色土 還元化

SI-018第6鍛冶炉エレベーション  
KS 9,600m

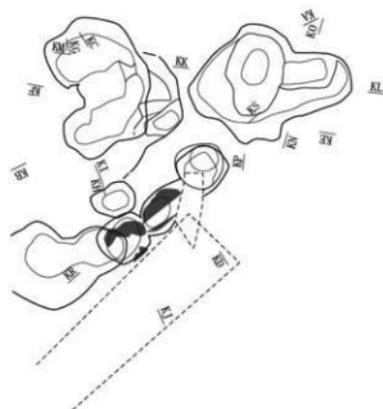


図3-54 F-1区 SI-018-8

SI-018第6鍛冶炉鉄範圍-1



SI-018第6鍛冶炉鉄範圍-2



SI-018第6鍛冶炉鉄範圍-3

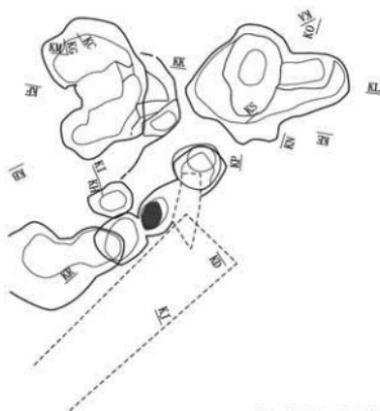
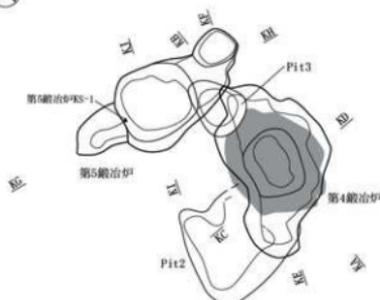


图 3-55 F-1区 SI-018-9

SI-018第4・5鍛冶炉



SI-018第4鍛冶炉セクション

KJ 9,900m

KJ



SI-018第4鍛冶炉セクション

KC 9,900m

KC



SI-018第4鍛冶炉

第1層 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒(φ2~10mm)微量  
第2層 10YR1.7/1 黒色土 炭層

SI-018第4鍛冶炉エレベーション

KC 9,800m

KC



[鉄部分]

SI-018第4鍛冶炉エレベーション

KE 9,800m

KE

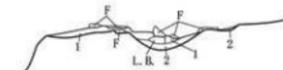


[鉄部分]

SI-018第5鍛冶炉セクション

KE 9,800m

KE



SI-018第5鍛冶炉

第1層 10YR2/2 黒褐色土 鉄(φ1~5mm)多量  
第2層 10YR2/1 黒色土 To=火山灰少量,鉄(φ1~3mm)少量

SI-018第5鍛冶炉セクション

KE 9,900m

KE



SI-018 第5鍛冶炉エレベーション

KE 9,800m

KE



SI-018第5鍛冶炉セクション

KI 9,900m

SI-018 第5鍛冶炉エレベーション

KI 9,800m

KI



SI-018第5鍛冶炉  
第5層 10R5/8 赤色土 焼土層,炭化灰(φ1~5mm)微量  
第6層 5YR6/8 褐色土 焼土層,炭化灰(φ1~10mm)微量

SI-018第4鍛冶炉鉄範囲

SI-018第4鍛冶炉鉄出土位置図

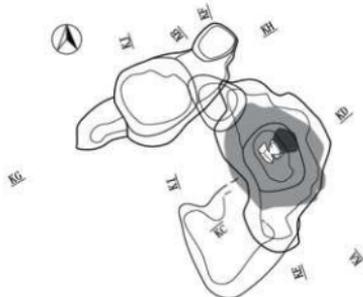


図3-56 F-1区SI-018-10

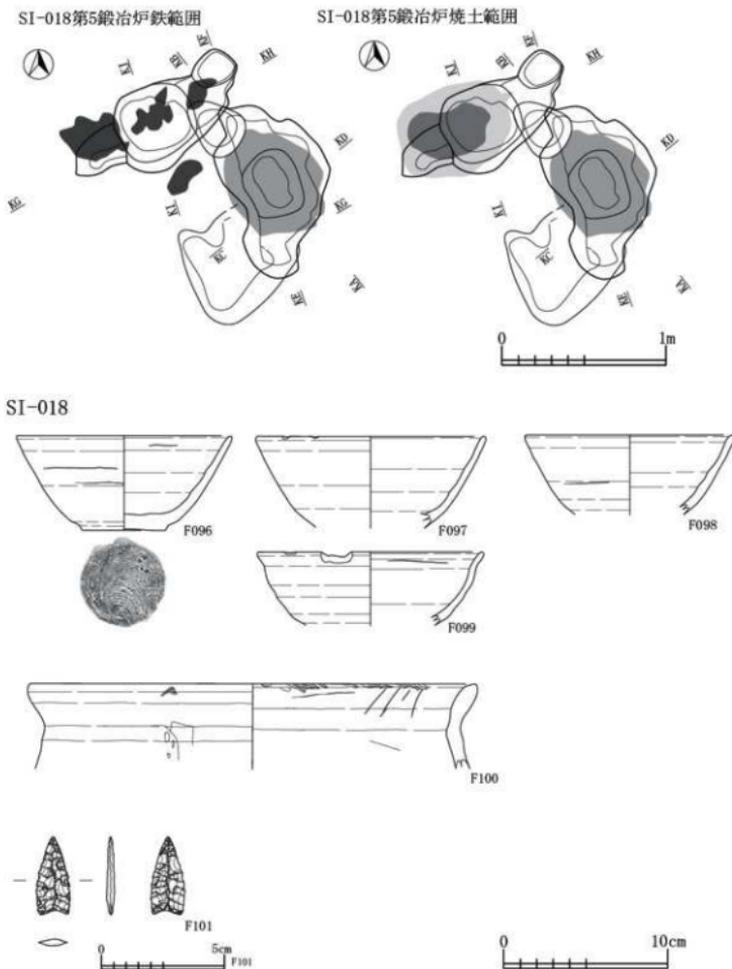


図 3-57 F-1区 SI-018-11

る胎土で、口縁部は頸部幅が短いものの、内面側の頸部を意図的に強く撫で、外反させている。また、口唇端部は内面側に内傾するようにヘラで調整し平滑面を作出した部分とそこからキザミ状に工具を動かした調整痕が観察できる。接合破片間で煤の付着状況と器面の色調が異なり、破片化後二次的に被熱したものと考えられる。F101は第6層出土の席篋で、長さ3.2cm×幅1.3cm×厚さ0.35cmを測り、1.1gを量る。石質は珪質頁岩である。

SI-019 (図 3-58 ~ 63)

X=91868.000, Y=11640.000 付近で検出した。SI-020と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は隅丸長方形を呈し、440.0×316.0×35.0cmを測る。主軸方位はN-160°-Eである。ピットは竪穴内から10基検出している。カマド設置壁側ではPit1-4、Pit2-11と軸線が並ぶ二つのピットを検出しているが、北側はPit5の一部とPit7・8が柱穴として機能した可能性があり、北東側が欠落した

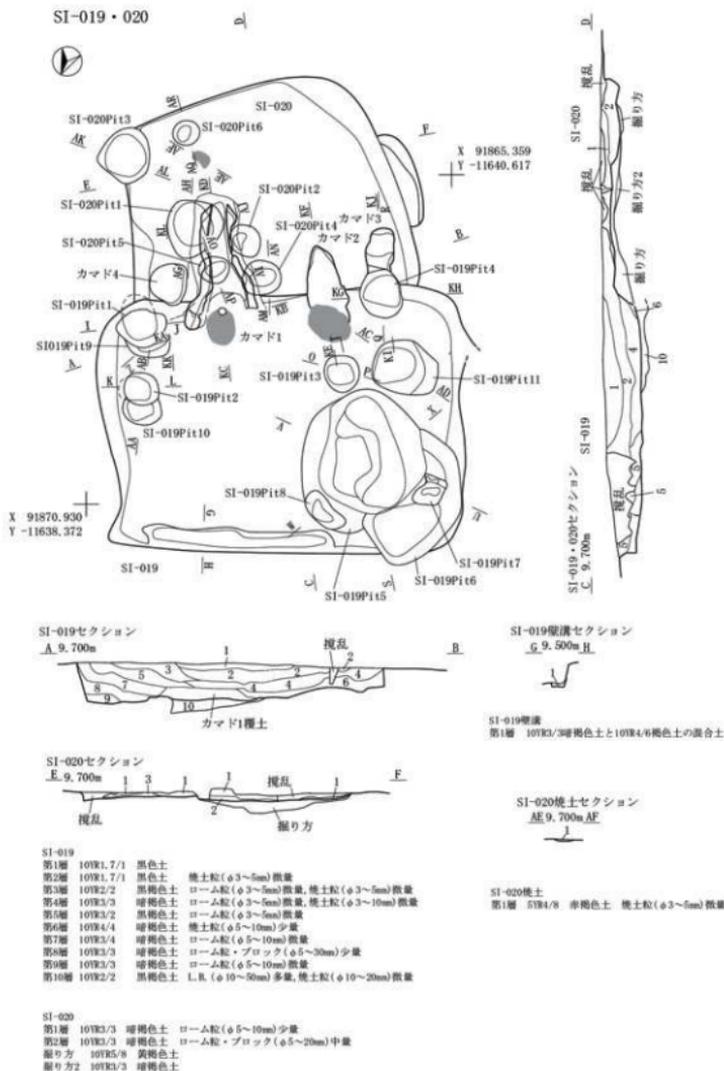


図 3-58 F-1区 SI-019・020-1

状況である。カマドが3基検出していることから3時期建物の変遷した取り扱いになり、Pit 1にPit 9、Pit 2にPit 10が重複するなど、新旧二段階の変遷が捉えられる地点もあることから概ねカマドの変遷に対応した柱穴位置の変更が起こったことが考えられる。塋溝は北壁の一部のみで、壁際に支柱穴等も検出していない。

堆積土は10層に分層した。堅穴の堆積土中からは降下火山灰は検出しておらず、Pit 5の第3層中からB-Tm火山灰を検出している。カマドは堅穴内から3基(調査時にカマド4まで記録しているが、検出位置はS1-020内からで、図3-62に図示したKK-KLラインのセクション上で確認するとS1-019起源の第1層に切られる形で第2~4層の堆積が存在している。このことからS1-019より前段のS1-020のカマド相当である可能性が高いと判断される。なお、掲載にあたって記録時の情報のまま掲載した。)検出した。煙道のみを検出で、Pit 4に切られているカマド3、煙道部と火床面が残存しているもの前庭部の構築材が残存していないカマド2、煙道部、火床面、前庭部及び支脚の残存しているカマド1の3つが本遺構に帰属したと判断でき、カマド3<カマド2<カマド1の関係であると考えられる。

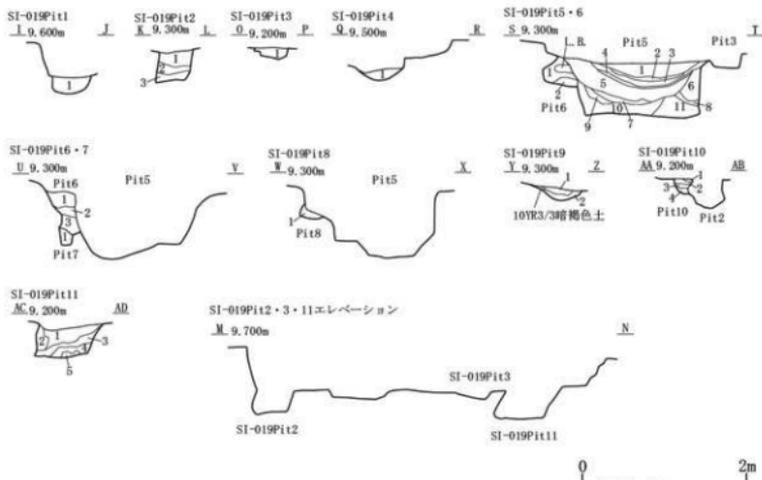
カマド1は南2の位置から検出し、構造は半地下式で、袖幅98.0cm、煙道長122.0cmを測る。主軸方位はN-15.4°-Eである。粘土による構築で支脚相当位置にF111に図示した土製支脚を設置している。煙道は壁際から二段階に緩やかに立ち上がり、奥側に6.6cm程度向かった地点で平坦になり、奥壁につながる。

カマド2は南3の位置から煙道部と火床面を検出した。構造は半地下式で、煙道長58.0cmを測る。主軸方位はN-15.2°-Eである。煙道は壁面から段状に立ち上がり、奥壁寄り部分がカマド1と同様に平坦部分がある。

カマド3は南4の位置から煙道部のみを検出した。煙道長は70.0cmを測り、主軸方位はN-16.2°-Eである。前述のとおりPit 4よりも前段のカマドということになり、煙道部のみを検出で火床面は残存していない。煙道部側の第2・8層が焼土粒・ブロックが堆積している。

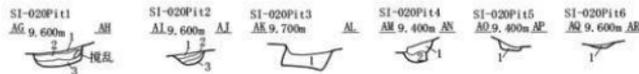
出土遺物は11点図示した。F102はPit 5の第5・10層出土の土師器碗で口径12.8cm、器高5.2cm、底径6.2cm、器高指数4.06、底径指数4.8.4を測る。浮石を含むやや粘りのある胎土で、褐色を呈し、ザラザラした質感を有する。底部の回転糸切が失敗した資料で、破片化した時点で、補修の粘土部分が剥落しており、破断面の一部に最初の切離し部分の糸切痕が観察できる。また、

図上では表現されていないが、本資料の口縁部には巻上成形痕が観察される。F103は第6層出土の土師器碗で、口径12.4cm、器高5.0cm、底径6.0cm、器高指数4.0.3、底径指数4.8.3を測る。浮石を含む粘りのやや弱い胎土で、色調は褐色を基調とし、橙褐色~黄褐色を呈する部分がある。外面口縁部に挟り気味に打ち欠いた打欠痕があり、内面には煤付着が認められ、灯明使用の可能性がある。また、外面には刻線が入っている。体部下半の器壁が厚く口唇部は先細り状に作出している。F104は第8層出土の土師器碗で口径12.20cm、器高5.2cm、底径6.0cm、器高指数4.3.3、底径指数5.0を測る。浮石を含むやや粘りのある胎土で、褐色を基調とし、内外面とも一部赤褐色を呈する箇所が見られ、内面の使用痕が顕著な見込み部分は褐色色を呈する。内外面ともクロロ挽きの痕が顕著に見られ、上半部は沈線状に器壁に食い込んでいる。また、口唇部に打欠があり、外面は浅い刻線が見られる。F105は第4・6層から出土した土師器碗で、口径11.0cm、器高4.9cm、底径6.0cm、器高指数4.4.5、底径指数5.4.5と底径幅が広い器形である。浮石を含むやや粘りのある胎土で、褐色を基調とし、口縁部は重ね焼き痕状に内外面とも淡黒褐色気味の色調を呈している。第4層出土資料の破片は器面や破断面が摩滅しており、流動した可能性が高い。F106はカマド1第2層およびカマド4第1層(S1-020側に帰属する)の破片で、口径12.2cm、器高5.1cm、底径5.0cm、器高指数4.1.8、底径指数4.0.9を測る。浮石を含むやや粘りのある胎土で、小礫をやや多く含む。褐色を基調とするが、二次被熱により淡橙褐色を呈する部分があり、破片の一部は二次被熱により橙褐色~淡茶褐色を呈するものがあり、接合破片との間で色調の不整合が見られる。ロクロ成形であるが、底面は糸切痕が残存しておらず、ナデの痕跡と乾燥台の上に乗せたスノコ痕状の痕跡が部分的に残存している。F107はPit 1第1層出土の土師器碗で、口径19.2cmを測る。礫を多く含む粘りのやや弱い胎土で、硬質に焼成を受け、軽質な質感を有する。肩部がやや張る器形で、口縁部は内外面横方向の指ナデで、体部の調整は外面は縦方向のヘラ、内面は横方向のヘラで、一部ハケメ状に条線が残存している。F108は第4~6層とカマド1第2層出土の土師器碗で、口径23.6cmを測る。砂粒を多く含むやや粘りの弱い胎土で、硬質で軽質な質感がある。F107よりも口縁部の屈曲が強く、体部も上半が張る器形である。外面のヘラは斜め方向が多く、内面は口縁部は横ナデで、体部は横方向のヘラによる測



- SI-019Pit1  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ3~20mm)微量, 焼土粒(φ2~5mm)微量
- SI-019Pit2  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 L.B.(φ10~20mm)微量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 L.B.(φ10~20mm)微量  
第3層 10YR3/4 暗褐色土 L.B.(φ10~20mm)微量
- SI-019Pit3  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒(φ2~10mm)微量, ローム粒(φ2~10mm)微量
- SI-019Pit4  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量, 焼土粒(φ2~4mm)微量
- SI-019Pit5  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)少量  
第2層 10YR2/1 褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量, 炭化粒(φ3~5mm)少量  
第3層 10YR3/6 黄褐色土 大谷火山灰層  
第4層 10YR2/2 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量, 焼土粒(φ5mm)微量  
第5層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量, 焼土粒(φ5~10mm)微量
- 第6層 10YR4/6 褐色土 大谷火山灰層  
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量  
第8層 10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土  
第9層 10YR4/6 褐色土 大谷火山灰層  
第10層 10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土 焼土粒(φ5~10mm)微量  
第11層 10YR4/6 褐色土

- SI-019Pit6  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ5~10mm)微量  
第2層 10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土 焼土粒(φ5~10mm)少量  
第3層 10YR4/6 褐色土 ローム層 炭化粒(φ5~10mm)微量
- SI-019Pit7  
第1層 10YR3/3暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土
- SI-019Pit8  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量
- SI-019Pit9  
第1層 10YR4/6 褐色土 大谷火山灰層, 焼土粒(φ5~10mm)微量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量
- SI-019Pit10  
第1層 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ3~20mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量
- 第3層 10YR3/3暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土  
第4層 10YR2/2 暗褐色土 ローム粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量  
第5層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量
- SI-019Pit11  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ5~10mm)微量, 10YR4/6褐色土ローム混入  
第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量  
第3層 10YR3/3 暗褐色土 焼土・ブロック(φ5~10mm)少量  
第4層 10YR4/6 褐色土 大谷火山灰層  
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量



- SI-020Pit1  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ2~10mm)微量  
第2層 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒(φ2~10mm)少量, 炭化粒(φ2~4mm)微量  
第3層 10YR3/3 暗褐色土 L.B.(φ10~100mm)少量, 焼土ブロック(φ10~100mm)少量, 炭化粒(φ5~10mm)微量
- SI-020Pit2  
第1層 7.5YR4/4 褐色土 焼土粒(φ5~10mm)少量, ローム粒(φ3~5mm)微量, 炭化粒(φ3~5mm)微量  
第2層 7.5YR4/6 褐色土 焼土粒(φ5~10mm)微量, 焼土ブロック(φ10~20mm)5YR4/8赤褐色土混入  
第3層 7.5YR4/6 褐色土 焼土ブロック(φ10mm)5YR4/8赤褐色土混入
- SI-020Pit3  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量, 炭化粒(φ3~10mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量

- SI-020Pit4  
第1層 10YR4/6 褐色土 L.B.層(SI-020の掘り方)  
第2層 10YR3/4 暗褐色土 焼土・ブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ5~10mm)微量
- SI-020Pit5  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量, 炭化粒(φ3~5mm)微量
- SI-020Pit6  
第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量

図 3-59 F-1区 SI-019・020-2

SI-019土器・鉄関係・土製品・SI-019Pit1土器・SI-020土器出土位置図

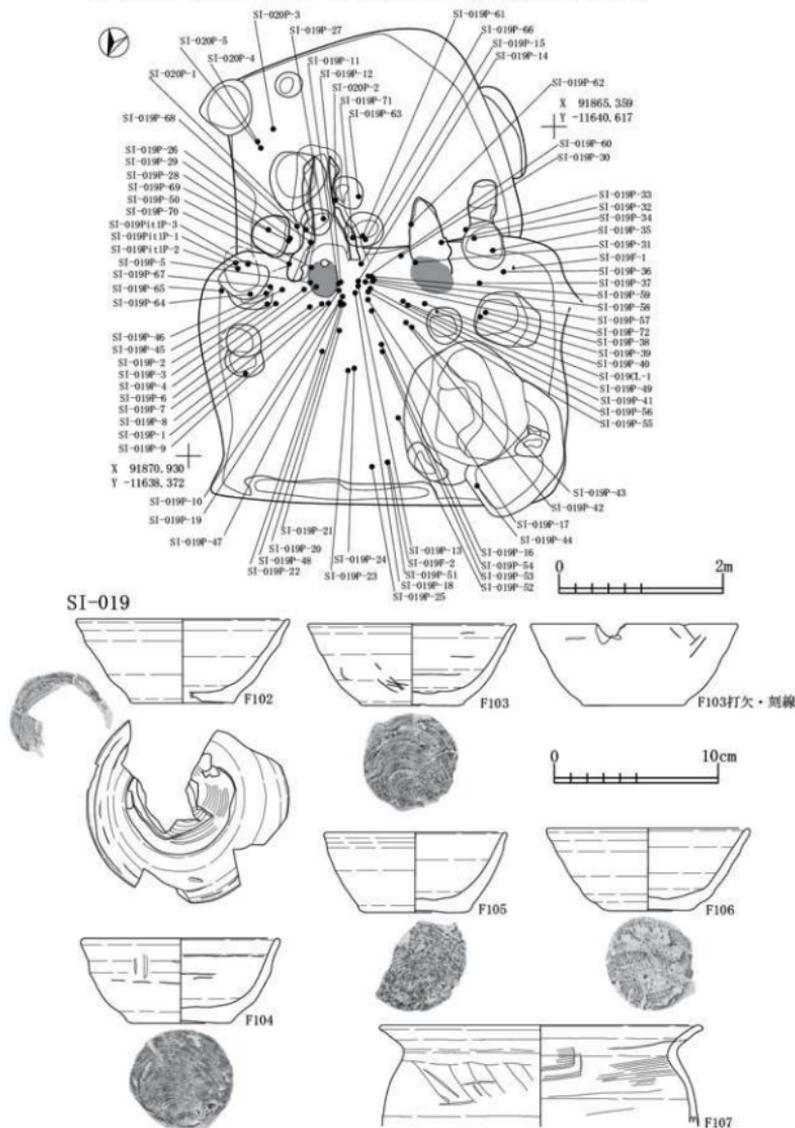
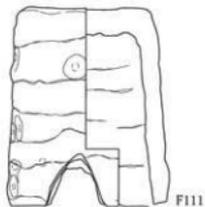
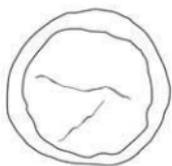
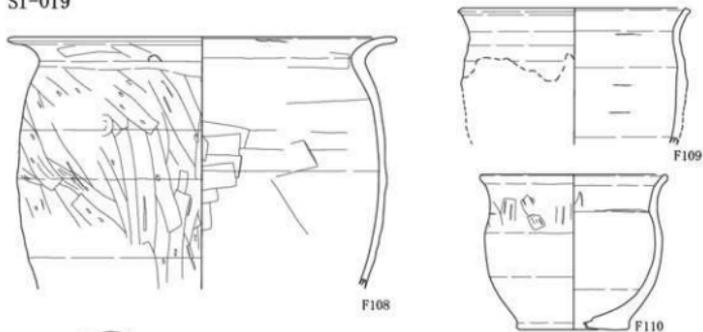


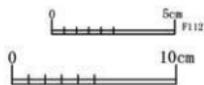
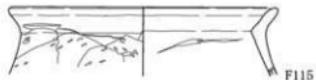
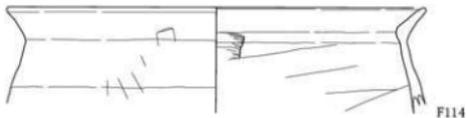
図 3-60 F-1区 SI-019・020-3

SI-019

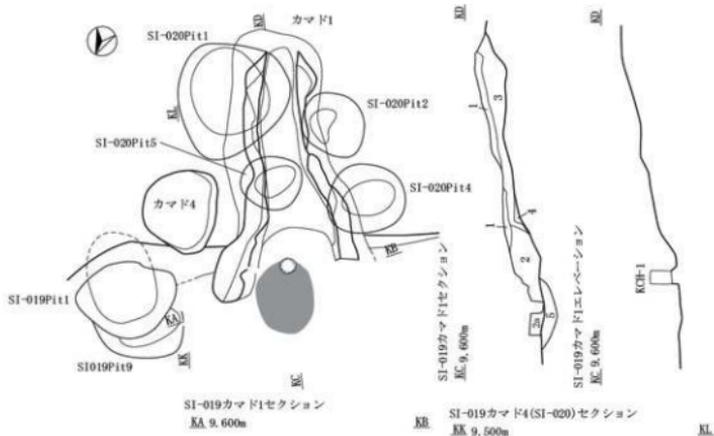


F112

SI-020



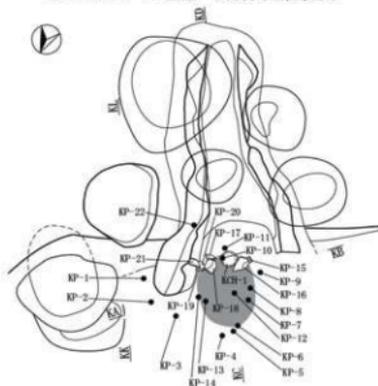
SI-019カマド1・4(SI-020)



- SI-019カマド1 (K1-4B)
- 第1層 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒(φ1~3mm)微量
  - 第2層 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒(φ2~5mm)少量
  - 第3層 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒(φ2~10mm)微量
  - 第4層 7.5YR5/4 にぶい赤褐色土 ローム, 焼上部
  - 第4a層 5YR3/4 暗赤褐色土 焼土ブロック混入
  - 第5層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ10~20mm)微量, 袖下部
- SI-019カマド1 (K1-4C)
- 第1層 2.5YR4/4 にぶい赤褐色土 カマド天井部残土
  - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 焼土ブロック(φ20mm)混入
  - 第2a層 7.5YR3/4 暗褐色土
  - 第3層 10YR3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~20mm)少量
  - 第4層 10YR3/3 暗褐色土 L.R.(φ10~30mm)多量
  - 第5層 5YR3/6 暗赤褐色土 火床面

- SI-019カマド4
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量 (SI-019層り方相当)
  - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)中量, 焼土粒(φ3~5mm)微量
  - 第3層 5YR4/6 暗赤褐色土
  - 第4層 10YR4/4 褐色土 ローム層

SI-019カマド1土器・支脚出土位置図



SI-019カマド4(SI-020)土器出土位置図

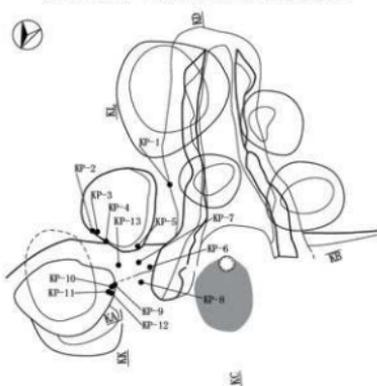
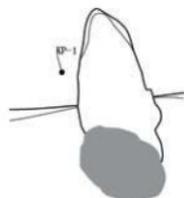


図 3-62 F-1区 SI-019・020-5

SI-019カマド2



SI-019カマド2セクション

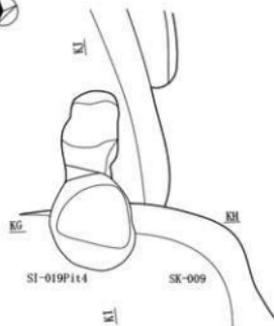
北 9,600m



SI-019カマド2セクション

- 第1層 7.5R4/3 褐色土 焼土粒(φ5~10mm)少量、  
 ローム粒(φ5~10mm)微量。  
 第2層 2.5R4/4 上に白~黄褐色土 カマド天井被熱部脱落土  
 下に白~赤褐色土 焼土粒(φ3~5mm)微量  
 第3層 5R4/4 黄褐色土 月見野火山灰  
 第4層 10R5/6 暗褐色土  
 第5層 10R3/3 暗褐色土 灰床面  
 第6層 5R3/6  
 SI-019カマド3  
 第1層 10R4/6 褐色土 焼土粒(φ2~5mm)微量  
 第2層 5R3/3 暗赤褐色土 焼土粒(φ5~10mm)中量  
 第3層 10R3/4 暗褐色土 ローム粒(φ2~10mm)少量、焼土粒(φ2~5mm)微量  
 第4層 10R4/6 褐色土 焼土粒(φ2~5mm)微量  
 第5層 10R3/3 暗褐色土 ローム粒(φ2~10mm)少量  
 第6層 10R6/4 上に白~黄褐色土 ローム  
 第7層 10R2/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量  
 第8層 7.5R3/4 暗褐色土 焼土ブロック(φ30~150mm)多量

SI-019カマド3



SI-019カマド3セクション

北 9,600m

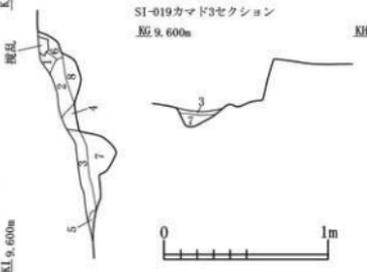


図 3-63 F-1区 SI-019-6

整の後にナゲが加えられているが、ヘラの痕跡が部分的に残存している。F109は第1・5・9層およびカマド1第2層出土の土師器ロクロ小甕で口径13.6cmを測る。浮石などの砂粒をやや多く含む粘りのややある胎土で、二次被熱により外面体部が剥落し、色調も橙褐色に変色している破片がほとんどである。一部内面の被熱が弱い破片は内面頸部に煮炊痕が観察できる。内外面ともロクロナゲで、口縁部直下は少し強めに撫で、区切っている。口唇端部は平滑に外傾させている。F110は第4・5・8層、カマド4第1層(SI-020に帰属しない土層)出土の土師器非ロクロ小甕で、口径11.4cm、器高9.5cm、底径6.4cmを測る。粒子の細かい砂粒を多く含み、バサバサした多孔質な質感を有する胎土で、淡橙褐色を基調とする。胎土の影響で、外面側は摩滅により器面の調整情報が残りにくく、外面は頸部周辺のみがヘラの調整が残存する程度である。内面は横方向のナゲが施されており、一部ヘラ状の痕跡が観察される。外面の体部に馬蹄形状の煤付着箇所が認められ、内面の対応部

分は頸へ体部下半まで煤が面的に付着している。F111はカマド1の支脚として使用された土製支脚で上部径7.85cm、器高12.15cm、底径9.5cmを測る。粘りのやや弱い胎土を輪積みで積み上げており、製作時の底部(使用時の上部)側は円盤状で中央が貫通していない。円筒形にまっすぐ積み上げており、使用時の底部にあたる製作時の上部は口を切り取り平滑面を作出している。透かしについても製作時の積み上げた状態で口を切り取った後に同じ工具を使用して「U」字状と「V」字状にそぎ落とすように削っており、「U」字側は内側を高く残しているため、倒位にした時も削った面が見える状態である。外面のほとんどは煤が付着しており、内面は白色付着物が付着している。F112は覆土出土の土玉で長さ1.8×幅1.95×厚さ1.95cmを測り、5.9gを量る。海綿針をやや多く含む胎土で、片面には黒斑が観察される。

SI-020(図3-58~62)

X=91866.000, Y=-11638.000付近で検出した。

S I - 0 1 9 と重複しており、本遺構の方が古い。S I - 0 1 9 に北側が切られているため、全体形は不明であるが、残存部分の平面形は(隅丸長方形)を呈し、 $(268.0) \times 343.0 \times 21.0 \text{ cm}$ を測る。カマドが煙道を検出しておらず、不明瞭であるため、前述のS I - 0 1 9 カマド4の焼土面側をカマドとした場合、主軸方位はN-53°-Eである。ピットは竪穴内と一部壁から突出するピット1基を含む資料6基を本遺構帰属として精査している。浅いピットが主体で主柱配置は不明瞭である。また、壁溝は検出していない。カマドは前述のS I - 0 1 9 カマド4の第2層以下が本遺構帰属となり、その焼土部分のみが床面とした場合、東壁にあつた可能性があるが、東壁の煙道の有無については確認ができない状況であるため、可能性を指摘するに留めたい。P i t 6の北側に焼土面を検出しているが、カマド設置を想定した場合、南壁側に煙道が存在しなければならぬものの、調査時には確認していないことから消極的な帰属となる。竪穴の堆積土は掘り方2層を含め4層に分層し、堆積土は暗褐色土主体の埋め込みに伴う堆積状況である。

出土遺物は3点図示した。F 1 1 3はP i t 5第1層出土の土師器甕で口径21.8cmを測る。砂礫を多く含むやや粘りのある胎土で、淡橙褐色を基調とする。外面体部は縦方向のヘラで、一部頸部を突き抜けているが粘土が寄せられる調整ではなく、軽く撫でられる程度の調整である。内面は横方向にヘラによって調整されているようであるが、指ナデでほとんど撫で消されている。口唇部は上端を平滑にして外側の端部直下を強く撫でることによって外側に突出した形状となっている。F 1 1 4はP i t 4第2層出土の甕で口径25.2cmを測る。粘りが強い胎土で、橙褐色を基調とする。外面は体部は縦方向のヘラが軽く撫でるように調整され、口縁部は横方向に撫でられている。一部ヘラが食い込んだ部分は粘土が寄せられ横ナデを切っている。内面の体部は横方向のヘラによる調整で、口縁部は横方向のナデで、体部のヘラを撫で消す調整である。内外面とも煤付着しており、内面口縁部の付着が著しい。F 1 1 5はP i t 4第2層出土の土師器甕で口径16.0cmを測る。細かい砂粒を含むやや粘りのある胎土で、橙褐色を基調とする。外面の体部は鈍削り状に平滑な面が大きく削られた調整で、一部頸部まで食い込んでいる。内面は横方向のナデであるが、口縁部が粗雑で指で折り返して厚さや口縁部の長さを不均一にしたまま焼成しているため形状が不均一である。折り返した際の影響なのか、内面には罅割れが発生している。破断面は摩滅しているが、内面の器面についた煤は破断面に及んでいない。

S I - 0 2 1 (図3-64)

X = 91916.000, Y = -11608.600 付近で検出した。調査地が道路部分に相当し、水道管などにより破壊されており、北東と南西隅両辺が欠失している。残存部からの形は(長方形)を呈し、 $(33.0) \times (23.3) \times 20.0 \text{ cm}$ を測る。主軸方位はN-172°-Wである。ピットは東壁から壁溝状の断続する落ち込みを二箇所ピットとして取り扱っている。主柱配置等は不明である。堆積土は7層に分層し、廃絶後の堆積土は第1~6層で、流れ込みを含む堆積状況を示す。第2層中にB-Tm火山灰が混入している。出土遺物は遺構間接合資料を含め3点図示した。F 1 1 6はS I - 0 2 1 覆土とS I - 0 1 7第5層出土の遺構間接合の土師器非ロクロ桶で口径10.2cm、器高5.0cm、底径6.0cm、器高指数4.9.0、底径指数5.8.8を測る。S I - 0 1 7でF 0 8 6に図示した資料と類似の胎土・器形で、非ロクロ製の製作技法で製作された桶である。砂粒を多く含む、輪痕も内外面とも残存している。F 1 1 7は覆土出土の土師器桶の体へ底部にかけての資料で、底径5.2cmを測る。粒径の細かい砂粒をやや多く含むやや粘りのある褐色を基調とする胎土である。外面の片面には楕円形状の黒斑が見られる。均等に8箇所打ち欠いた状態で、内面の一部には煤が付着している。F 1 1 8は覆土出土の土師器甕で、口径20.0cmを測る。粒径の細かい砂粒をやや多く含むやや粘りのある胎土で、褐色を基調とする焼成良好品である。調整は外面体部が縦方向のヘラによる調整で、口縁部にはヘラの調整が及んでいない。内面は横方向の指ナデで、口縁部には一部縦方向の指ナデが行われている。内外面とも煤付着し、外面の頸部は黒色気味に色調が変色しているが、破断面には煤付着は及んでいない。

## 2. 土坑

07\_SK-001 (図3-65)

X = 91902.300, Y = -11612.500 付近で検出した。平面形は不整隅丸長方形を呈し、 $139.0 \times 119.0 \times 32.0 \text{ cm}$ を測る。断面形は鍋底形で、底面の一部は凹凸が見られる。壁は若干開き気味に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、崩落の伴う埋め戻しの堆積土で、T-o-a火山灰が第1・2層にブロック状に混入する。出土遺物は土師器の破片主体で図示に至るものは無かったが、2点出土している。

07\_SK-002 (図3-65)

X = 91882.100, Y = -11609.500 付近で検出した。07\_S I - 0 0 2・0 0 2 bと重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は楕円形を呈し、

SI-021



SI-021セクション

A. 9.300m



Pit1

C. 9.300m



Pit2

E. 9.300m



SI-021

- |     |         |      |                                |
|-----|---------|------|--------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土  | ローム粒(φ5mm)微量                   |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | B-Ta火山灰(10YR5/6黄褐色)層状に堆積       |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒(φ5~10mm)微量                |
| 第4層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | ローム粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量 |
| 第5層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒(φ3~10mm)少量, 炭化粒(φ3~5mm)微量 |
| 第6層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒(φ3~10mm)微量                |
| 第7層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | L.B.(φ10~50mm)多量(崩り方)          |

Pit1

- |     |         |      |                |
|-----|---------|------|----------------|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | ローム粒(φ2~5mm)微量 |
|-----|---------|------|----------------|

SI-021カマドセクション

KA. 9.300m



SI-021カマド火床面セクション

KC. 9.300m



SI-021カマド

- |     |          |      |   |
|-----|----------|------|---|
| 第1層 | 10YR2/2  | 黒褐色土 | ローム粒(φ5~10mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量            |
| 第2層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 | 焼土粒(φ3~5mm)少量                             |
| 第3層 | 7.5YR3/4 | 暗褐色土 | 焼土粒(φ3~5mm)微量, 炭化粒(φ3mm)微量, L.B.(φ10mm)微量 |
| 第4層 | 7.5YR4/1 | 褐色土  | 焼土粒(φ3mm)微量, ローム層                         |
| 第5層 | DR4/9    | 赤褐色土 | ローム層                                      |
| 第6層 | 10YR3/3  | 暗褐色土 | 炭化粒(φ3~5mm)微量, ローム粒(φ3~5mm)微量             |

SI-021カマド火床面

- |     |         |       |     |
|-----|---------|-------|-----|
| 第1層 | 2.6Y5/6 | 明赤褐色土 | 火床面 |
|-----|---------|-------|-----|



SI-021+SI-017



F116

SI-021



F117



F118

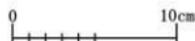
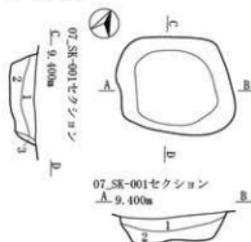


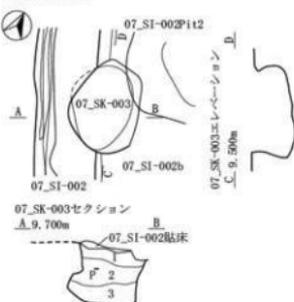
図 3-64 F-1区 SI-021

## 07\_SK-001



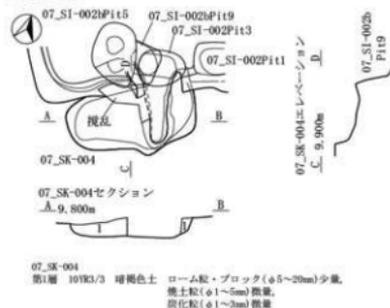
- 07\_SK-001  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化粒(φ3~5mm)微量, ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量, To-a火山灰ブロック状に混入  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量, 炭化粒(φ5~10mm)微量, To-a火山灰ブロック状に混入  
第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量, 崩落土

## 07\_SK-003



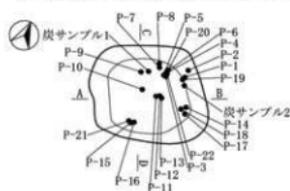
- 07\_SK-003  
第1層 10YR 2/3 黒褐色土 焼土粒・ブロック(φ5~20mm)少量, ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量  
第2層 10YR 2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量, 炭化粒・炭化物(φ5~20mm)微量  
第3層 10YR 2/1 黒色土 ローム粒(φ5~10mm)微量  
07\_SI-002貼床 10YR 2/2 黒褐色土 L.R.(φ10~20mm)中量

## 07\_SK-004

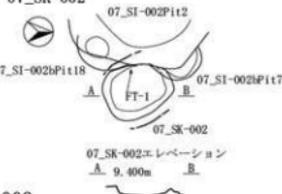


- 07\_SK-004  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量

## 07\_SK-001土器・炭サンプル出土位置図

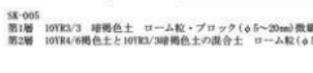
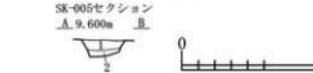
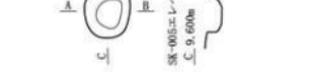
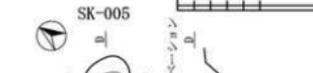
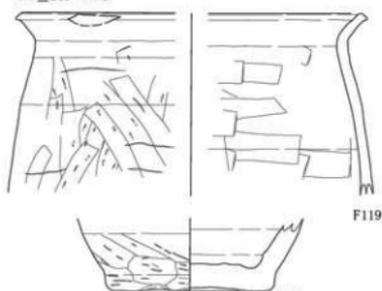


## 07\_SK-002



07\_SI-002hP118 07\_SI-002hP117

## 07\_SK-003



- SK-005  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量  
第2層 10YR4/6褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土 ローム粒(φ5~10mm)少量

86.0×64.0×27.0cmを測る。断面形は鍋底形で、垂直に近い形で立ち上がる。07\_S I-002の第5層堆積後の面から掘りこまれ、07\_S I-002第2層の堆積時に埋没している。堆積土から鉄滓が出土している。

07\_SK-003 (図3-65)

X=91881.000, Y=11611.800 付近で検出した。07\_S I-002・002bと重複しており、07\_S I-002bより新しく、07\_S I-002よりは古い。しかし、07\_S I-002の項目でも記述したとおり07\_S I-002と07\_S I-002bの変遷は連続的で、07\_S I-002の貼床に上面が覆われているとしても帰属としては07\_S I-002bから07\_S I-002が構築されて床面が貼られる前の時点で構築されていることから、掘り方土坑として機能した可能性が高い。ただ、前述のとおり本項目でも記述し、図を掲載した。平面形は不整楕円形を呈し、106.0×87.0×73.0cmを測る。断面形は袋状を呈し、貯蔵穴としての要素が見られる。堆積土は07\_S I-002の貼床以外で3層に分層し、埋め戻しに伴う堆積土である。出土遺物は2点図示した。F119は第2・3層出土の土師器甕の口縁部資料で、口径20.6cmを測る。粒子の細かい砂粒をやや多く含むやや粘りのある胎土で、外面の体部は、縦～斜め方向のヘラにより調整されている。調整は軽めで、器面の凹凸や輪積痕が部分的に残った状況である。内面は横方向のヘラによる調整で木口側を使ったため、ハケム状に条線が薄く観察できるが、ほとんど指ナデによって撫で消されている。口縁部は回転運動を利用した横ナデで、頭部の屈面は鋭く、口唇端部は面取りされ、外傾している。内外面ともビッチや白色付着物が認められ、口唇端部の一部は打ち欠かれている。F120は第3層出土の土師器甕底部で、底径9.4cmを測る。砂粒を多く含むやや粘りのある胎土で、外面の器面は二次被熱により赤褐色～淡黒灰色を呈する部分が見られる。底面は周縁の隆起した部分が敷物などの編物痕が観察され、中央の凹んだ部分は沈線状の刻線が観察される。内面は円盤状に作った底部と体部をつなぎ合わせる際に指を使い撫でているが、部分的に幅広い爪を立て刻んだ痕跡が観察される。

07\_SK-004 (図3-65)

X=91879.500, Y=11610.500 付近で検出した。07\_S I-002・002bと重複しており、本遺構の方が古い。平面形は小判形を呈し、一部07\_S I-002・002bに切られているが、158.0×(71.0)×26.0cmを測る。断

面形は鍋底形で立ち上がり部分が丸みを帯び、垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は1層で、バミスブロック混じりで一括で埋め戻された堆積土である。

SK-005 (図3-65)

X=91862.500, Y=11640.000 付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、68.0×55.0×20.0cmを測る。断面形は底面が若干傾斜があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と開き気味に立ち上がる部分が見られる。堆積土は2層に分層し、ブロック混じりの流れ込みに伴う堆積である。

07\_SK-006 (図3-66)

X=91880.000, Y=11638.000 付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、88.0×64.0×21.0cmを測る。断面形は底面に凹凸があり、壁は壁の途中で角度を変え、壁上部では緩やかに立ち上がっている。S I-017の床面上で検出しており、07\_SK-003同様に掘り方土坑として機能した可能性のある土坑である。堆積土は2層に分層し、第1層はS I-017の貼床で、土坑全体を埋めている第2層はバミスブロック混じりの堆積土で、人為的な埋め戻しである。

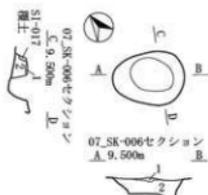
07\_SK-007 (図3-66)

X=91974.800, Y=11644.000 付近で検出した。平面形は不整隅丸方形を呈し、70.0×66.0×27.0cmを測る。断面形は柱穴状に段状に立ち上がり、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と開き気味に立ち上がる部分が見られる。堆積土は2層に分層し、第2層はバミスブロック混じりの混合土が堆積し、第1層は混入物の少ない黒褐色土が堆積していることから、柱穴の抜き取った後の自然堆積状況を呈する。

SK-008 (図3-66)

X=91958.000, Y=11634.800 付近で検出した。S P-019と重複しており、土坑優先で精査されているが、S P-019の方が本遺構よりも新しい。平面形は不整長方形を呈し、134.0×68.0×27.0cmを測る。堆積土は5層に分層し、掘り方を有し、第5層が掘り方充填土である。出土遺物は第2層から出土した土師器椀1点を図示した。口径14.8cm、器高4.6cm、底径6.2cm、器高指数31.0、底径指数41.8を測る。浅身であるが、皿の規格に比べると深い。海綿骨針を含むやや粘りの有る橙褐色を呈する胎土で、外面には稜段が見られないが、内面には底部～体部上半にかけて稜段が顕著である。器形はラップ状に開き気味に立ち上がり、口唇端部は内面側を意図的にやや強く

## 07\_SK-006



07\_SK-006  
第1層 10YR4/6 胎床(月見野山山)硬くしまる  
第2層 10YK3/3 ローム殻・ブロック(φ5~20mm)微量

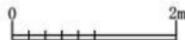
## 07\_SK-007



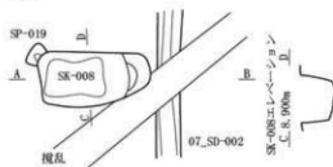
07\_SK-007セクション  
A. 9,000mm B.



07\_SK-007  
第1層 10YK3/2 黒褐色土 ローム殻(φ3~5mm)微量  
第2層 10YK3/4 暗褐色土 ローム殻(φ3~10mm)少量,炭化灰(φ3~5mm)微量



## SK-008



SK-008セクション  
A. 8,900mm B.

SK-008  
第1層 10YK2/2 黒褐色土  
第2層 10YK2/2 黒褐色土 ローム殻(φ5~10mm)微量  
第3層 10YK3/3 暗褐色土 ローム殻・ブロック(φ5~20mm)少量  
第4層 10YK2/1 暗褐色土  
第5層 10YK2/2黒褐色土と10YK3/3暗褐色土の混合土  
ローム殻・ブロック(φ5~30mm)中量

## SK-008

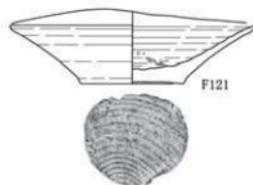


図 3-66 F-1 区 SK-2

撫で、丸みを帯びた突出部を出している。底部切離しは幅広の静止糸切である。内外面とも一部褐色している部分があり、口唇部の一部が打欠があり、その外面側は淡黒斑となっており、内面側は褐色している。内面側の体部下半へ底部にかけて傍点状と紐状の煤付着が見られ、灯明具として使用された可能性がある。

## SK-010 (図 3-67)

X=91890.000, Y=-11632.800 付近で検出した。SI-015と重複しており、本遺構が古い。SI-015によって切られているため全体形は不明であるが、断面形は袋状を呈している。堆積土は7層に分層し、第7層が胎床充填で床面直上の第6層及び第4層は灰泥じりの炭化物の堆積層でその間の第5層はローム層が堆積していることから焼成以降で、焼成後に残存した炭化物をロームで覆い再び焼成を行っていたようである。記録写真は完掘写真として第7層を除去後の写真のみしか残存しておらず、焼成時の床面が除去されていたので、詳細不明

であるが、製炭土以外に焼成坑の可能性も残る。

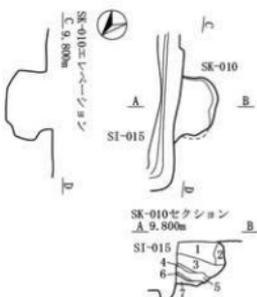
## 07\_SK-011 (図 3-67)

X=91922.500, Y=-11628.000 付近で検出した。SD-004と重複しており、本遺構が新しい。平面形は不整円形を呈し、189.0×184.0×35.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は鍋底状に底面側が丸みを持ち垂直に近い形で立ち上がる。焼成は土坑の埋没した上面で行われており、第2層が炭化物堆積層、第1層が明るい焼土層で、近代以降の比較的新しい時期の焼成の可能性もある。

## 07\_SK-012 (図 3-67)

X=91926.000, Y=-11613.500 付近で検出した。擾乱によって西側が削平を受けているが、残存部の形状は隅丸長方形を呈し、85.0×(53.0)×34.0cmを測る。断面形は底面が若干傾斜しており、壁は袋状に入り込む部分と垂直に近い形で立ち上がる所が見られる。堆積土は1層で、パミス粒・ブロック混じりの理め灰土に伴う堆積である。

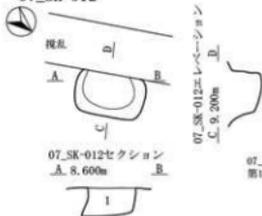
SK-010



- SK-010  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ2~5mm)微量  
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 L.R.(φ10~50mm)少量  
 第3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ2~10mm)微量,焼土粒(φ2~5mm)微量  
 第4層 10YR1/7 黒色土 炭層  
 第5層 10YR4/4 褐色土 炭層  
 第6層 10YR1/7 1 黒色土 炭層  
 第7層 10YR4/4 褐色土

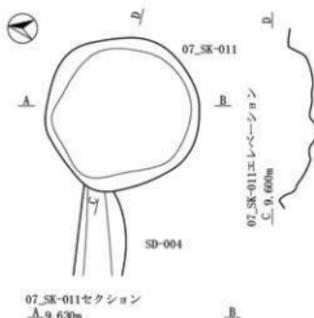
- 07\_SK-011  
 第1層 7.5YR4/6 褐色土 暗褐色土(10YR3/4)が一部層状に堆積,焼土層  
 第2層 10YR2/1 黒色土 炭化材が層状に堆積  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量,炭化粒(φ3~5mm)微量  
 第4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~15mm)少量,炭化粒(φ3~5mm)微量  
 第5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量  
 第6層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量,炭化粒(φ3~5mm)微量  
 第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量  
 第8層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~5mm)微量  
 第9層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ3~5mm)微量  
 第10層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量  
 第11層 10YR4/4 褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~15mm)微量,炭化粒(φ3~5mm)微量  
 第12層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~15mm)少量,炭化粒(φ3~5mm)微量  
 第13層 10YR5/8 黄褐色土 月見野火山灰層

07\_SK-012

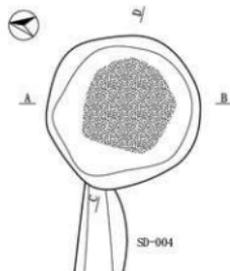


- 07\_SK-012  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量,炭化粒(φ5mm)微量

07\_SK-011



07\_SK-011炭範囲

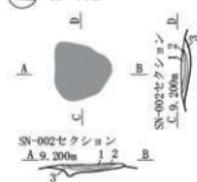


SN-001



SN-001セクション  
 A. 9.400m B.

SN-002



- SN-001  
 第1層 5YR5/6 暗赤褐色土  
 第2層 10YR 2/2 黒褐色土  
 SN-002  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化粒(φ5~10mm)少量,焼土粒(φ3~5mm)微量  
 第2層 5YR5/6 暗赤褐色土 炭化粒(φ3~5mm)微量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土



図 3-67 F-1 区 SK-3,SN

### 3. 焼土状遺構

SN-001 (図3-67)

X=91939.800, Y=11631.200 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、 $3.7.0 \times 2.5.0 \times 3.0$  cmを測る。黒褐色土層の上面が焼土化している。

SN-002 (図3-67)

X=91948.300, Y=11634.000 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、 $7.1.0 \times 6.8.0 \times 5.0$  cmを測る。9.5×8.2 cm程度の浅い凹み上の部分に黒褐色土が堆積し、その上面が焼土化している。

### 4. 溝状土坑 (Tピット)

07\_STP-001 (図3-68)

X=91857.500, Y=11630.000 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $2.7.9.0 \times 3.8.0 \times 1.0.5.0$  cmを測る。断面形は長軸側が袋状に入り込み、一部段状になっている。短軸側は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は3層に分層し、壁の崩落が伴う自然堆積状況を示す。長軸側は斜面の傾斜に対してではなく、近隣に所在する07\_STP-002・003と平行した軸線となっている。

07\_STP-002 (図3-68)

X=91868.800, Y=11634.500 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $3.1.7.0 \times 3.0.0 \times 9.1.0$  cmを測る。断面形は長軸側が一部袋状に入り込み、07\_STP-001と同様に段状に立ち上がる部分が見られ、短軸側は垂直に近い形で立ち上がり、開口部で角度を変え、若干開き気味に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、流れ込みの伴う自然堆積状況を示す。前述のとおり07\_S1-001・003と平行しているが、本遺構と07\_STP-003はコンターラインに直交し、斜面に対し長軸方向が向く形で掘削されている。

07\_STP-003 (図3-68)

X=91872.200, Y=11634.500 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $2.5.3.0 \times 2.4.0 \times 9.5.0$  cmを測る。断面形は一部袋状に入り込み、07\_STP-001・002と同様に長軸側が段状に立ち上がる。短軸側は垂直に近い形で立ち上がっている。堆積土は3層に分層し、一部崩落の伴う自然堆積状況である。前述のとおり07\_STP-002と同様にコンターラインに直交し、斜面に長軸方向が向く形で構築されている。

07\_STP-004 (図3-68)

X=91859.000, Y=11637.800 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $3.5.8.0 \times 8.0 \times$

1.3.8.0 cmを測る。断面形は長軸側が袋状に入り込み、短軸側は垂直に近い形で立ち上がり、開口部で一部が開き気味に緩やかに角度を変えている。堆積層は9層に分層し、壁の崩落が伴う自然堆積状況で、地点により黒褐色土の堆積量が異なる。

### 5. ピット (図3-69・70)

調査区内から22基検出した。個別には記述せず、遺構観察表に計測情報等は一括して掲載した。

本調査区内からは掘立柱建物跡として認定できたピットはないが、SP-011~013は07\_S1-006の南東側に配置し、07\_S1-006の壁面とはほぼ平行する軸線が3つ並んで配置しており、SP-013を垂直に北西方向に結んだ軸線上の07\_S1-006の北西隅にはSP-014が配置している。また、SP-004・005・007、SP-016~018についても3つのピットが同一軸線上に配置している。

### 6. 溝跡

07\_SD-001 (図3-71)

X=91636.000, Y=11630.600 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $3.5.5.0 \times 1.3.0.0 \times 9.7.0$  cmを測る。長軸方向は北側から南側に傾斜したスロップ状を呈し、短軸側は垂直に近い形で立ち上がる。南端は調査部分で途切れていることから、溝として掘削をやめた跡か、この形状で機能を果たす別な遺構の可能性もある。堆積土は6層に分層し、埋め戻しに伴う人為堆積状況を示す。出土遺物は黒色土器椀の出土があったが、碎片のため図示には至らず、図示した土器は表土から出土した縄文時代後期前期土器I式期の体部片である。

07\_SD-002 (図3-71)

X=91958.719, Y=11632.056 ~ X=91959.813, Y=11637.040 で検出した。平面形は溝状を呈し、長さ5.35m、幅3.5.0 cm、深さ2.0.0 cmを測る。断面形は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は2層に分層し、自然堆積状況を示す。本遺構の東側のE区ではSD-76とした溝跡が本遺構の延長線上に位置し、断続しながらも本遺構とつながっていたものと思われる。

07\_SD-003 (図3-71)

X=91940.633, Y=11621.041 ~ X=91939.773, Y=11624.660 で検出した。平面形は溝状を呈し、長さ3.85m、幅4.3.0 cm、深さ9.0 cmを測る。堆積土は1層に分層し、自然堆積状況を示す。

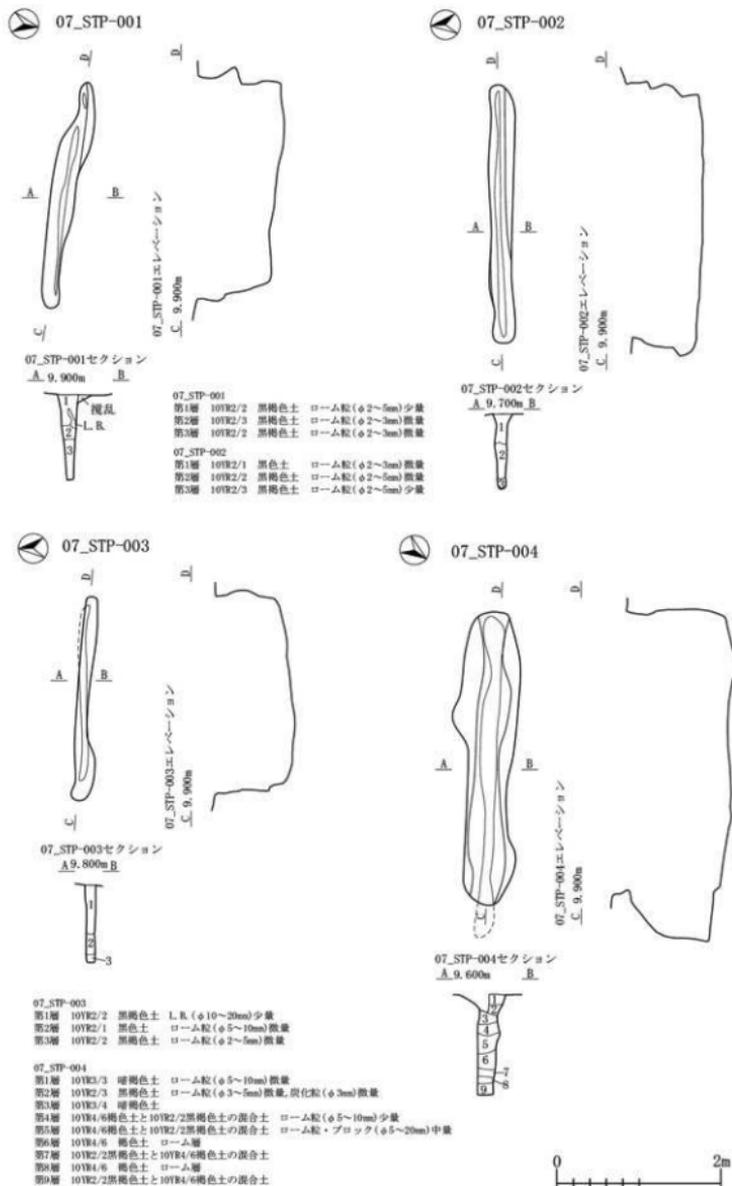


図 3-68 F-1区 STP



SP配置図 S=1/800

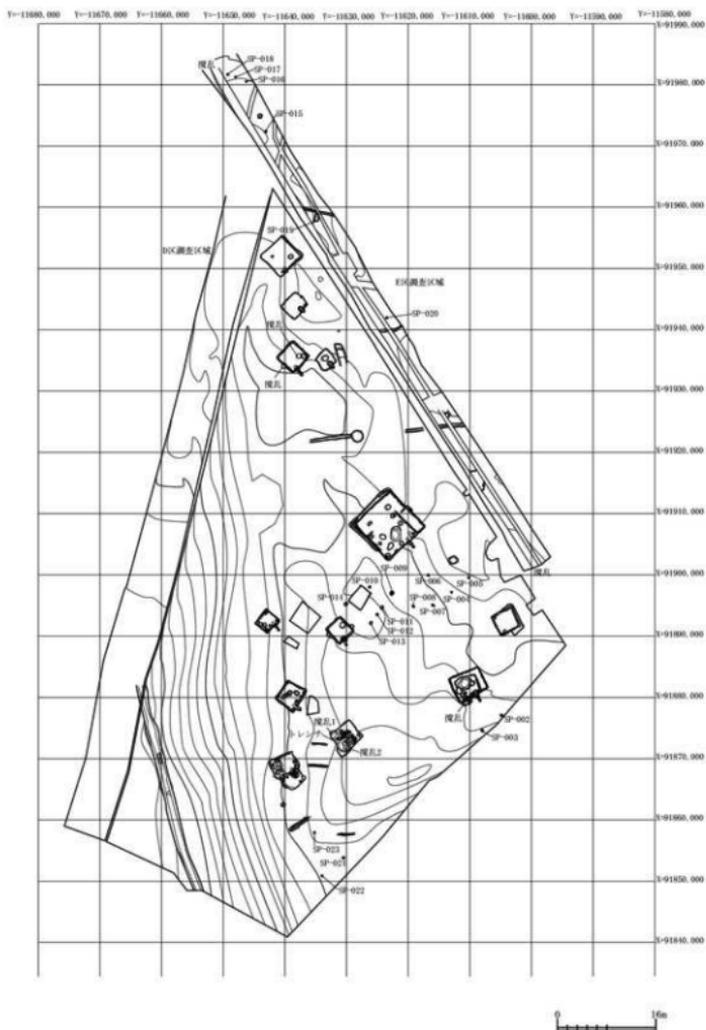


図 3-69 F-1 区 SP-1

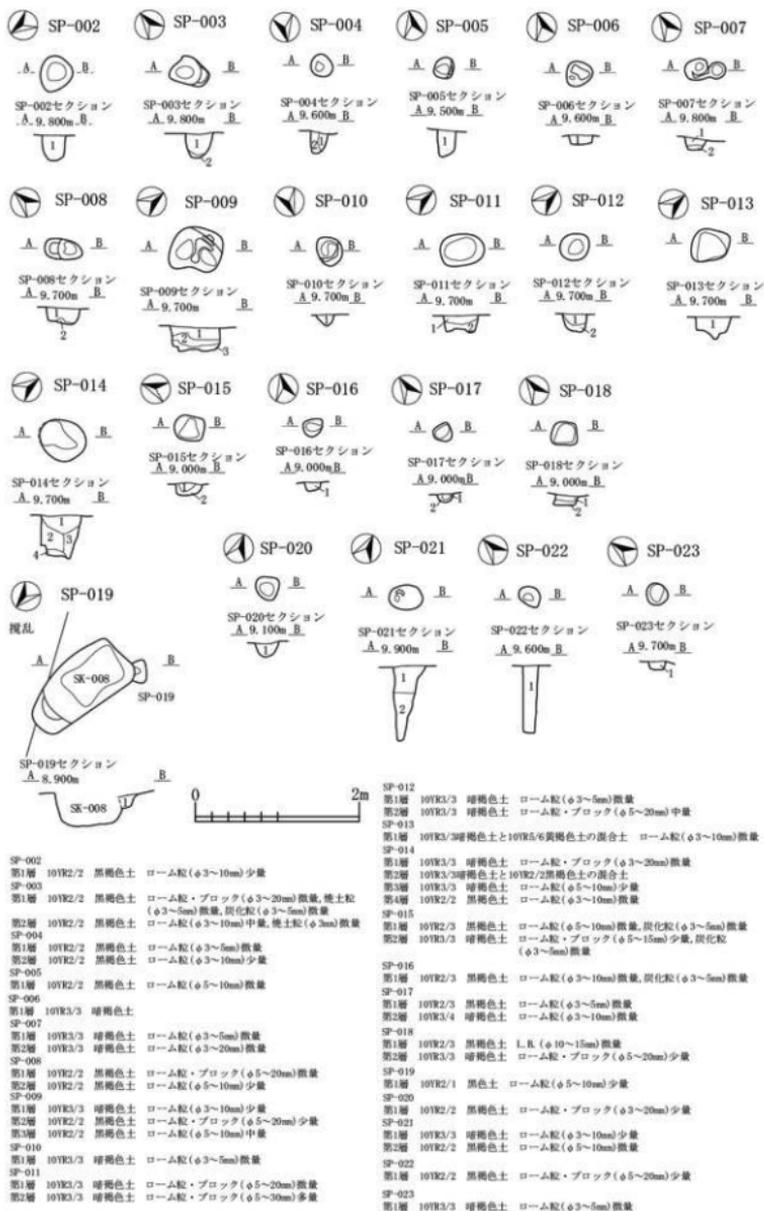
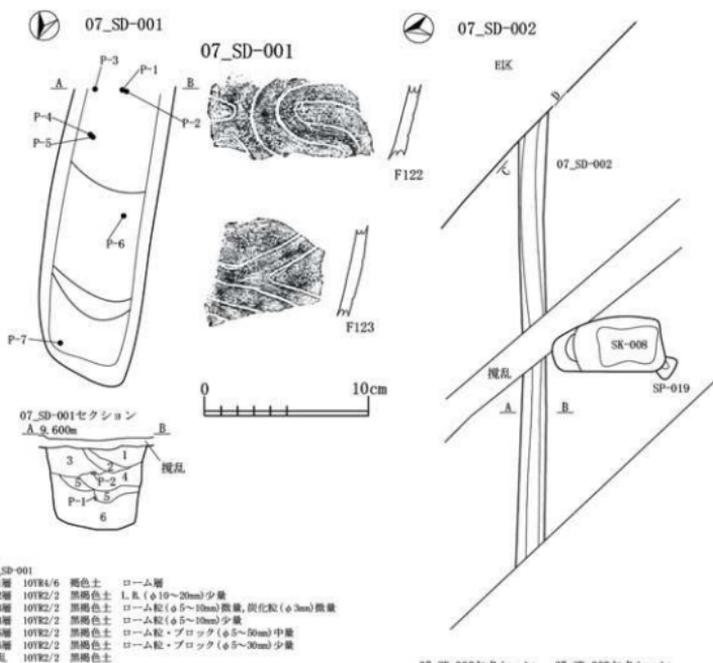
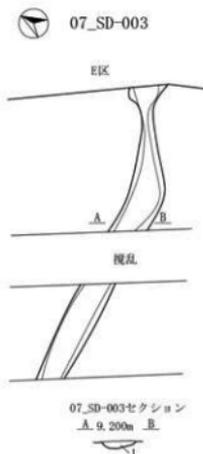


図3-70 F-1区 SP-2



- 07\_SD-001
- 第1層 10YR4/6 褐色土 ローム層
  - 第2層 10YR2/2 黒褐色土 L.R. (φ10~20mm) 少量
  - 第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒 (φ5~10mm) 微量, 炭化粒 (φ3mm) 微量
  - 第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒 (φ5~10mm) 少量
  - 第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック (φ5~50mm) 中量
  - 第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック (φ5~30mm) 少量
  - 擾乱 10YR2/2 黒褐色土

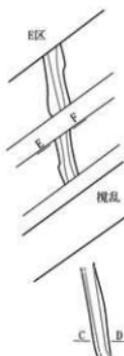
- 07\_SD-002
- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒 (φ3~10mm) 微量
  - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック (φ5~15mm) 少量, 炭化粒 (φ3~5mm) 微量



- 07\_SD-003
- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒 (φ3~5mm) 微量

図 3-71 F-1 区 SD-1

SD-004



07\_SD-011



SD-004セクション SD-004セクション SD-004セクション  
A. 9.530m B. C. 9.530m D. E. 9.230m F.



SD-004

第1層	101R2/2	黒褐色土	ローム粒(φ3~5mm)少量
第2層	101R2/3	黒褐色土	ローム粒(φ5~10mm)少量
第3層	101R2/3	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ5~15mm)少量
第4層	101R2/1	黒色土	ロームブロック(φ10~15mm)微量



07\_SD-004 (図3-72)

X=91924.547, Y=-11610.947~X=91921.828, Y=-11635.842で断続的に検出した。07\_SK-011と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は溝状を呈し、長さ26.5m、幅48.0cm、深さ26.0cmを測る。堆積土は4層分層しているが、地点により堆積状況が異なり、流れ込みを含めた堆積状況を示している。07\_SD-002と同様に本遺構も東側のE区で検出したSD-62~64につながる軸線となっている。しかし、SD-62は直角に曲がりE区内で区画する溝となっており、前段のSD-63・64についてはF-1区側に広がるように開いているものの、どちらが直接つながる形なのかは不明である。

SD-83 (図3-73・74)

X=91881.875, Y=-11663.393~X=91848.648, Y=-11654.058で検出した。北側はD区、南側はF-2区側に延びており、F-2区側との境界部分は一部欠測部分が認められるものの、E区SD-51へつながる大規模な区画溝の一部である。本調査区内で検出した溝は、長さ35.5m、幅270.0cm、深さ64.0cmを測る。別地点でも再掘削による溝跡が確認されているが、本遺構でも図3-73のA-Bラインのセクション図上のように埋没後に再掘削され、再度浅い溝跡が構築されている部分が確認できる。また、C-Dラインの第6・8・9・10層のように一度埋まった堆積が新たに掘削され切れ、底面が同じで内側が壁面となるように掘削されたような部分も確認できる。さらに上面では浅い掘削痕が見られ、後世の段階でも窪地として存在した可能性がある。

出土遺物は図3-74に4点図示したが、上層(F124)および覆土(F125)に混入していた縄文時代中期の体部片と口縁部片、上層から出土した土師器壺底部(F126)、上層から出土した近代の印判の磁器皿が出土している。前述のとおり、上面には浅い窪地状の落ち込みがあったことから、近代以降の資料についても混入した可能性が考えられる。

### 7. 遺構外出土遺物 (図75~77)

34点図示した。F128~F144が縄文時代前期、F145~F155が縄文時代中期の土器で、他の地区に比べると円筒下層a式とb式の土器が多く出土している。古代はF156~F160で、縄文土器についても砕片ながら3点出土している。F161は覆土出土の半銭銅貨(明治20年[1887]年初鋳)で摩滅により製造年等は不明である。

図3-72 F-1区SD-2

SD-83

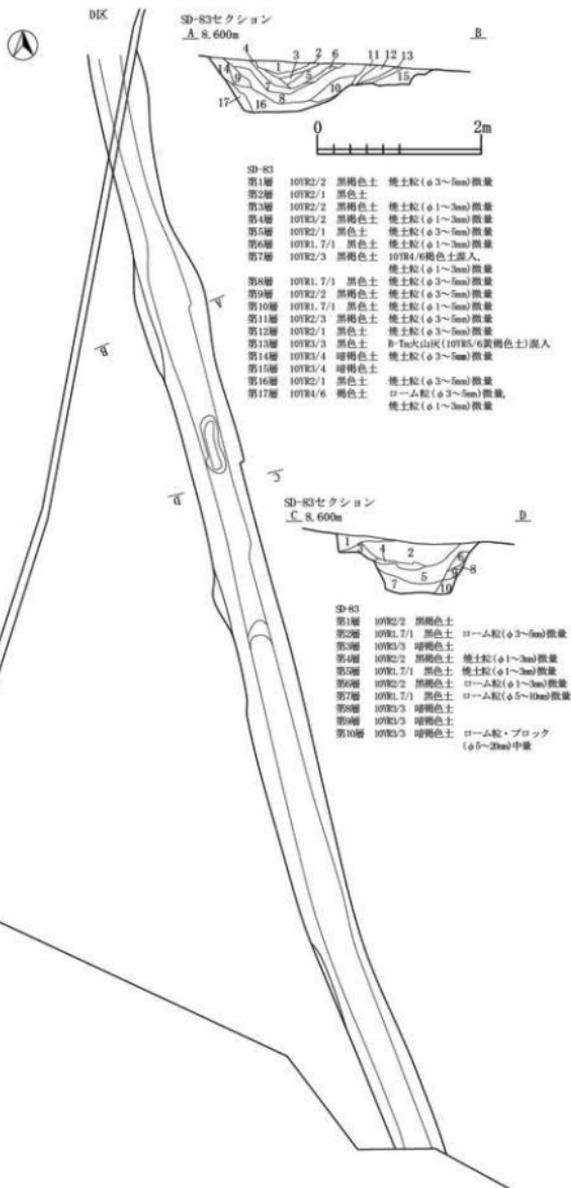


図 3-73 F-1区 SD-3



## F-1区遗構外出土遺物

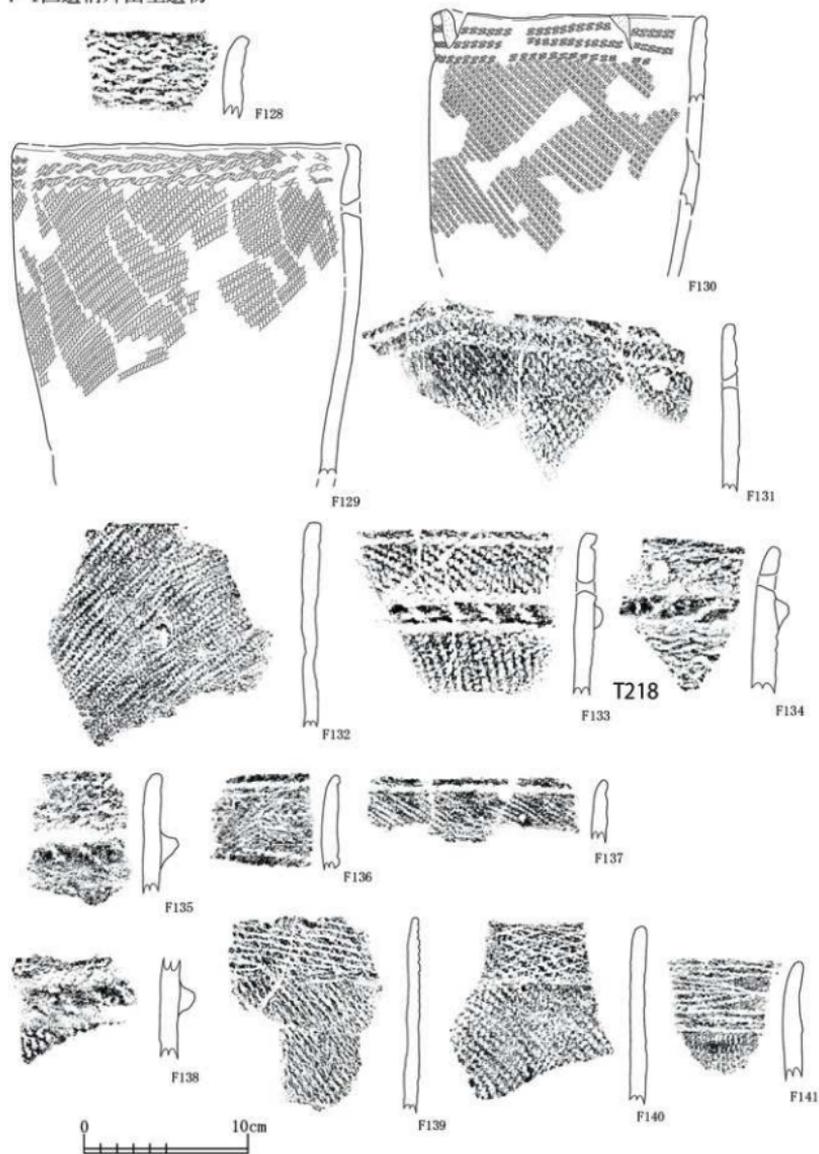


图 3-75 F-1区遺構外出土遺物-1

F-1区遺構外出土遺物

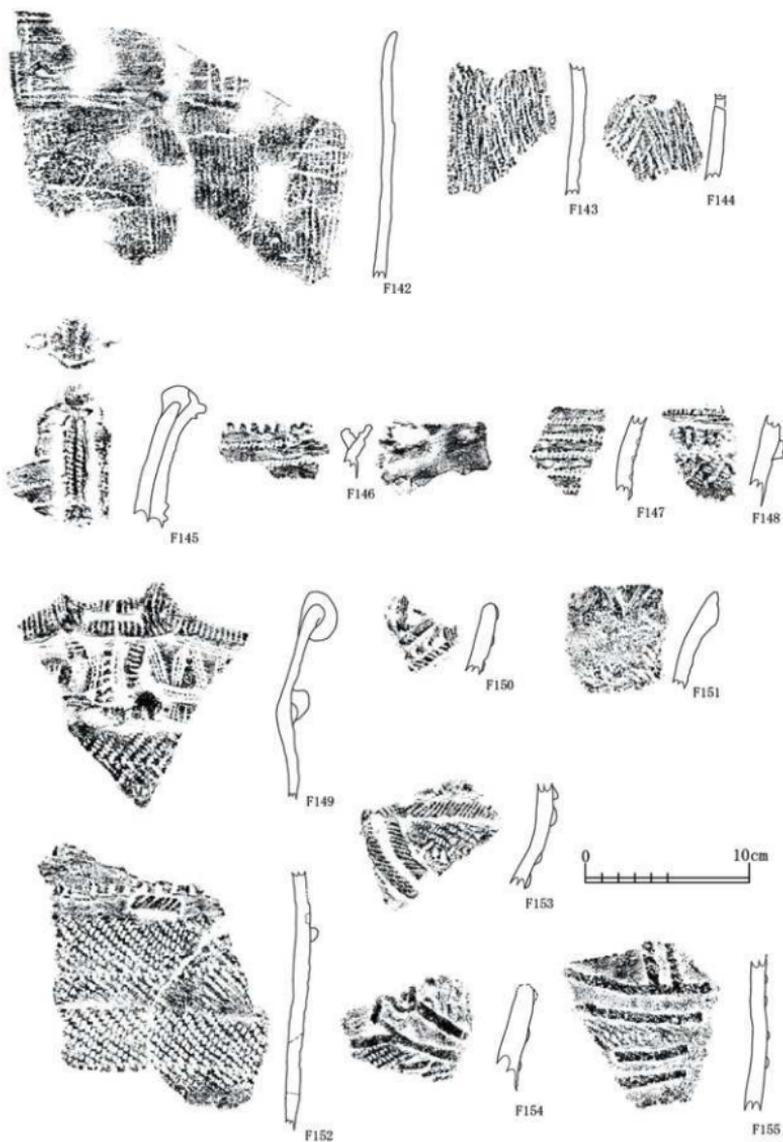


図 3-76 F-1区遺構外出土遺物-2

## F-1区遺構外出土遺物

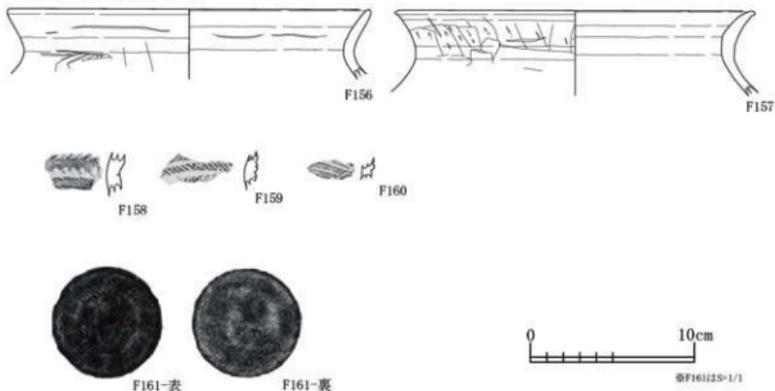


图 3-77 F-1 区遺構外出土遺物 -3



## 第2節 F-2区

## 1. 竪穴住居跡

SI-001・001b (図3-79～94)

X=91862.100, Y=-11616.500 付近で検出した。調査時に新旧二段階を認定し、新しい方をSI-001、古い方をSI-001bとして精査している。また、SI-001の廃絶後の埋没途中で、SI-001綿属のSK-011上に新たに土坑が掘削されているのを確認し、SK-012として精査している。なお、南西のコーナーは視乱により破壊されている。

SI-001

SI-001は平面形が台形を呈し、6.52.0×5.33.0×5.7.0cmを測る。主軸方位はN-13.8°-Eである。断面形は段状に呈する部分が見られ、壁面は段状の部分に地山起源のバミスブロック層を充填し、壁面としている部分がある。前述のとおり本遺構の前段階にSI-001bが構築されているが、南壁と西壁を共通の位置として、東側と北側に拡張した構築がなされている。ピットは竪穴内から掘り方部分のピットを含めPit1～26の25基(Pit10欠番)を検出した取扱いとなっているが、重複するSI-001bに帰属した可能性のあるピットも複数存在するようである。支柱穴はPit1・3・8・24の4本柱で、Pit6・7・17・22が支柱穴として機能した可能性がある。またPit21はカマド脇ピットに相当する。壁溝はカマド設置部分を除いて全周する形で、掘削されている。

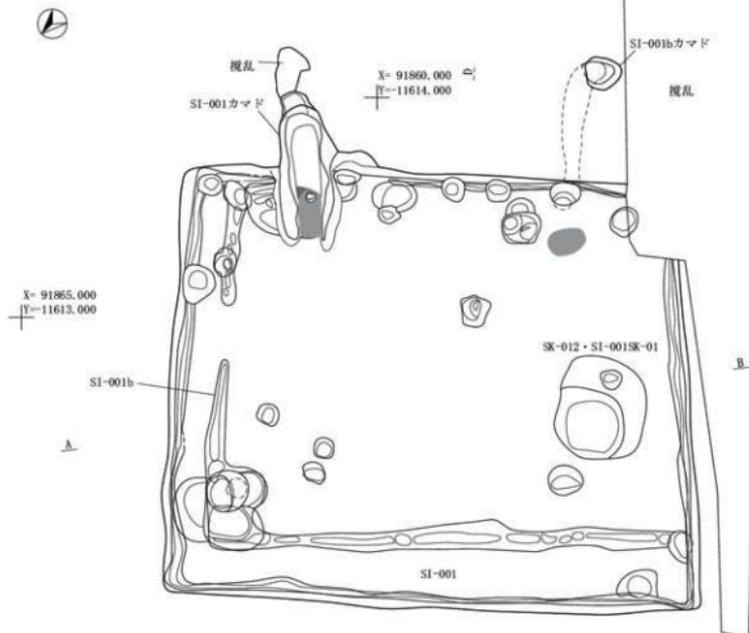
堆積土は第1～2.9層までが本遺構扱いとなっているが、SI-001bの構築面から壁際を深くする形で掘り方を有し、貼床全面に充填して床面としている(第16・19・20・25・2.8層が相当)。貼床充填土の第2.3層中にはT<sub>0</sub>-a火山灰が少量混入している。廃絶後の堆積土は第1～1.5層が相当し、壁際に腰板状の板材が残った状態で、一部焼成に伴い炭化材が発生している。壁際に第1.2・1.3層が堆積した後にSK-012が掘削され、その後に第9層の堆積によって竪穴の中央部がSK-012と共に埋まり、流れ込みの伴う堆積状況を呈する。B-Tm火山灰はSK-01の底面直上と竪穴の第1.2層中にブロック状の再堆積に伴う堆積で、貼床のT<sub>0</sub>-a火山灰の混入状況からT<sub>0</sub>-a火山灰構築後、B-Tm火山灰の再堆積が発生する以前の時点までの使用である。

カマドは南1・2の位置から検出した。構造は半地下式で、袖部幅77.0cm、煙道長75.0cmを測る。一部礎を芯材とした粘土による構築で、支脚相当位置から土製支脚と土器が出土しているが、

床面ではなく堆積土上で廃絶時の廃棄等の行為に伴うものである。T<sub>0</sub>-a火山灰が第1.4層から検出しているが、前述のとおり、本遺構はSI-001の構築時点の掘り方中からT<sub>0</sub>-a火山灰を検出しており、カマド検出の火山灰については、カマド構築材中の混入やT<sub>0</sub>-a火山灰が降灰した土が埋め戻しや流れ込みに伴い堆積等二次的な要因の可能性が高い。

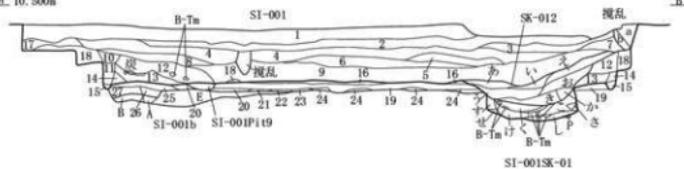
出土遺物は2.9点図示した。F162は第9・1.2層出土の黒色土器碗で、口径14.2cmを測る。海綿骨針を含む粘りのある胎土で、内外面とも残存部は横位にヘラミガキが施されている。外面は口縁部、内面は全面黒色処理されているが、二次被熱により第9層出土の破片は内面の黒色処理が抜けて褐色に、外面側も桃褐色気味に変色している。外面体部下半が剥落しており、廃棄の際に破壊が伴った可能性が高い。F163は第9層出土の土師器碗で、口径13.2cm、器高5.7cm、底径5.4cm、器高指数4.3.1、底径指数4.0.9を測る。海綿骨針を含むやや粘りのある胎土で、内面の見込みは使用痕が顕著で、外面体部は煤が楕円形に付着して黒斑化しており、内外面とも器面は橙褐色に変色している。外面の底面と内面の体部の一部が剥落しており、外面底面の剥落が顕著である。外面体部下半に刻線が倒位で記入されているが、体部側が欠損しているため、詳細は不明である。F164はカマド第1.7層から出土した土師器碗で、口径13.8cm、器高5.8cm、底径5.6cm、器高指数4.2.0、底径指数4.0.5を測る。海綿骨針と浮石を含むやや粘りの弱い胎土で、淡橙褐色を基調とするが、被熱により桃橙褐色を呈する部分がある。また、口唇部の打欠部分周辺は灰褐色気味に変色しており、灯明具として転用された可能性が高い。打欠の一つは外面口唇部から底面にかけて溝状に粘土が継ぎ足され焼成された痕跡が認められ、内面の一部ではひび割れが観察される。打欠によって発生したものではなく、元々焼成段階でひび割れが生じたものに粘土を継ぎ足し、再焼成して修繕して使用していたようである。F165はPit21第1層から出土した土師器碗で、口径13.8cm、器高5.8cm、底径5.6cm、器高指数4.2.0、底径指数4.0.5を測る。海綿骨針を多く含む粘りのある胎土で、褐色を基調とする。口唇部に小さな打欠があり、その周辺は内外面とも面的に煤が付着し、一部は断面にも及んでいる。底面には工具による切り込み状の刻線と藁などの紐状の圧痕が認められる。F166はカマド第8層出土の土師器碗で口径12.6cm、器高5.9cm、底径5.8cm、器高指数4.6.8、底径指数4.6.0を測る。浮石を含むやや粘りの弱い胎土で、やや硬質に焼成されザラ

SI-001・001b



SI-001・SI-001SK-01・SI-001b・SK-012セクション

A 10.500m



SI-001・SI-001bセクション

C 10.000m



図 3-79 F-2 区 SI-001・001b-1

SI-001			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~30mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~50mm)少量 - 覆土部分
第2層	10YR/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量 - 覆土部分
第3層	10YR/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,バミズ粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第4層	10YR/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第5層	10YR/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第6層	10YR/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)極微量,バミズ粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量
第7層	10YR/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~3mm)少量,バミズブロック(φ20mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第8層	10YR/3	赤褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第9層	10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)中量
第10層	10YR/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)少量,バミズ粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第11層	10YR4/3	赤い黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第12層	10YR/2	灰黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ20mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)中量, B-Ts14a/B-Ts15a
第13層	10YR/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~3mm)微量,バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~40mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~200mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~200mm)少量
第14層	10YR/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~20mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)少量
第15層	10YR/3	赤い黄褐色土	バミズ粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第16層	10YR/6	褐色土	(掘り方)バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~50mm)少量
第17層	10YR/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)中量
第18層	10YR/3	暗褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~100mm)中量
第19層	10YR/6	明黄褐色土	(貼土)バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~15mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第20層	7.5YR5/3	赤い褐色土	(貼土)バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~30mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~50mm)中量
第21層	10YR/3	赤い黄褐色土	(貼土)バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ3mm)少量
第22層	10YR/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)中量,焼土粒(φ1~2mm)微量(貼土)
第23層	10YR/4	赤い黄褐色土	(貼土)バミズ粒(φ1~7mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量,To-a14a/B-Ts15a
第24層	10YR/3	赤い黄褐色土	(貼土)バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1mm)極微量
第25層	10YR/4	赤い黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~50mm)少量, L.R.(φ10~40mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量(掘り方)
第26層	10YR/4	赤い黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~20mm)少量, L.R.(φ10~25mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量(掘り方)
第27層	10YR/6	明黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~120mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)極微量(掘り方)
第28層	10YR/3	赤い黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~40mm)少量, L.R.(φ10~200mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量(掘り方)
第29層	10YR/2	灰黄褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ2~7mm)極微量(掘り方)
第30層	10YR/3	暗褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
第31層	10YR/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~3mm)少量,バミズブロック(φ20mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SI-001a			
第1層	7.5YR5/4	赤い褐色土	L.R.層,バミズブロック(φ15mm)微量(埋藏)
第2層	10YR6/4	赤い黄褐色土	L.R.層,10YR7/2に赤い黄褐色土ブロック(φ20~50mm)中量(埋藏)
第3層	10YR/4	赤い黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量(埋藏)
第4層	10YR/3	赤い黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ20~50mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ3~5mm)少量(掘り方)
第5層	10YR/3	赤い黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~40mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
SI-012			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第2層	10YR/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第3層	10YR/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)少量
第4層	10YR/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第5層	10YR/2	暗褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
第6層	10YR/2	暗褐色土	バミズ粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第7層	10YR/2	暗褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~5mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ3~5mm)少量
SI-001SR-01			
第1層	10YR/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,バミズ粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量, B-Ts14a/B-Ts15a
第2層	10YR/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)微量,バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~50mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~15mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)極微量, B-Ts14a/B-Ts15a
第3層	7.5YR5/4	赤褐色土	(掘り方)ローム粒(φ1~9mm)少量,バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~70mm)少量
第4層	10YR/4	赤い黄褐色土	炭化粒(φ1~2mm)微量
第5層	10YR/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ3~5mm)少量

ザラした質感を有する。外面体部の一部が浸食により褐色・摩滅しており、内面体部一見込みにかけて使用痕が顕著である。外面口縁→内面体部にかけて煤とタール状の附着物が認められ、本資料は灯明具として転用されたと考えられる。F167はカマド第11層KP-13と第12層KCL-1の位置から出土した土師器碗で、口径15.0cm、器高5.8cm、底径5.2cm、器高指数38.6、底径指数34.6を測る。海綿骨針を含むやや粘りのある胎土で、底径幅が狭く、口径が大部分で開き気味の器形である。口縁部側の一部が剥落しており、二次被熱が顕著である。F188に示した土師土を製支脚として利用された可能性が高いが、前述のとおり出土位置は床面の位置より高い位置であり、廃棄に際して位置が多少変えられた可能性が残る。

炊具のうちF170は第9・13層、床面出土の土師器甕で、口径22.0cm、器高27.4cm、

底径11.0cmを測る。砂礫を非常に多く含む浮石混じりの粘りのやや弱い粘土で、外面体部は輪轡痕を明瞭に残している。外面は口縁部まで縦方向のヘラによる調整がなされた後に頸部に沈澱を一条入れ、その部分から上位は横方向のナデによって口縁部を形成し、頸部幅が長い印象を与える。内面は横方向のヘラによる調整で、一部木口痕が確認でき、条線状になっている箇所がある。全体的に硬質で外面は灰色を呈する部分が多く、内面は黒灰が見られる。外底面は粒子の粗い砂底で、平滑な残存部全体に砂粒が付着していた。F171はPit118覆土出土の土師器口ろ甕で、口径17.2cmを測る。非ロクロF170のように頸部幅が長めでロクロ運動により整形され、口唇端部は内側に強く意識をもって平滑な面取りがなされている。外面体部は縦方向のヘラで調整され、内面体部は一部縦方向のヘラによる調整が加わっているが、横方向の

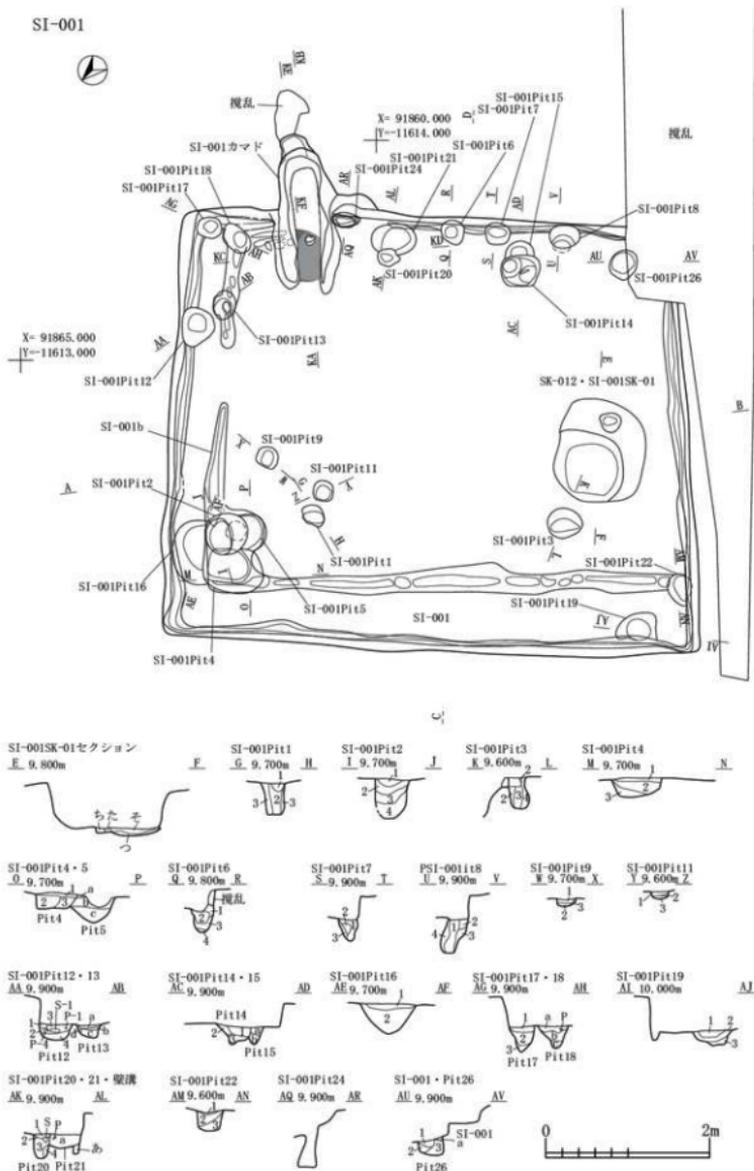


図 3-80 F-2 区 SI-001・001b-2

SI-00138-01	第2号 1018/2	灰黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~30m)少量,炭化灰(φ1~9m)中量,炭化物(φ10~20m)中量,焼土粒(φ1~9m)多量,焼土ブロック(φ10~20m)多量,Br-Ta山灰少量
	第1号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~9m)少量,焼土粒(φ1~9m)少量
	第3号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量,焼土粒(φ1~5m)少量,Br-Ta山灰少量
	第4号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~5m)少量,焼土粒(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~9m)中量
SI-00111	第1号 1018/1	黒褐色土	バミス灰(φ1~5m)少量,バミスブロック(φ15m)微量,炭化灰(φ1~9m)少量,焼土粒(φ5m)微量
	第2号 1018/2	黒褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,炭化灰(φ1~5m)少量
	第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~20m)少量,炭化灰(φ1~2m)少量
SI-00112	第1号 1018/4	にじみ黄褐色土	ローム灰(φ1~3m)多量, L.R.(φ10~15m)多量,バミス灰(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~20m)中量,炭化灰(φ1~9m)中量,焼土粒(φ3~5m)微量
	第2号 1018/3	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~20m)少量,炭化灰(φ1~5m)少量,焼土粒(φ1~5m)微量
	第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~30m)中量, L.R.(φ50~60m)少量,炭化灰(φ1~9m)中量,焼土粒(φ1m)微量
第4号 1018/6	褐色土(ローム層)		
SI-00115	第1号 1018/1	黒褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~5m)少量,焼土粒(φ1~3m)少量
	第2号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ3~5m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量
	第3号 1018/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~3m)少量,炭化灰(φ1~5m)少量,焼土粒(φ1~2m)微量
	第4号 1018/6	褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,炭化灰(φ1~9m)少量,焼土粒(φ1~2m)微量
SI-00116	第1号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~30m)中量,炭化灰(φ1~5m)少量
	第2号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~40m)中量,炭化灰(φ1~2m)少量
	第3号 1018/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)多量,バミスブロック(φ10~50m)中量, L.R.(φ50~60m)少量
第5号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~3m)少量,焼土粒(φ1~2m)微量	
第6号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~20m)少量,炭化灰(φ1~3m)微量	
第7号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~20m)少量,炭化灰(φ1~3m)微量	
第8号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~20m)少量,炭化灰(φ1~3m)微量	
SI-00117	第1号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~5m)少量,焼土粒(φ1~2m)微量
	第2号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ3~5m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量
	第3号 1018/4	にじみ黄褐色土	炭化灰(φ1~5m)少量, L.R.(φ10m)少量
SI-00118	第1号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~9m)少量,炭化物(φ15m)少量,焼土粒(φ1~2m)微量
	第2号 1018/3	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~5m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量
	第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~3m)中量,炭化灰(φ1~9m)少量,焼土粒(φ3m)微量
	第4号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)多量,バミスブロック(φ10~20m)少量,炭化灰(φ1~3m)微量,焼土ブロック(φ20m)少量
SI-00119	第1号 1018/3/4	暗褐色土	ローム灰(φ1~5m)少量,バミス灰(φ3~9m)少量,炭化灰(φ1~9m)少量,焼土粒(φ1~9m)少量
	第2号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量
	第3号 1018/6	褐色土	バミス灰(φ1~5m)少量,焼土粒(φ1~3m)少量
SI-001111	第1号 1018/3	暗褐色土	L.R.(φ20~30m)少量,バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~30m)少量,炭化灰(φ1~3m)少量,焼土粒(φ1~9m)少量
	第2号 1018/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~5m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量
	第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~3m)少量
SI-001112	第1号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~3m)少量,炭化物(φ15m)少量,焼土粒(φ1~2m)微量
	第2号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量
	第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~3m)少量
SI-001113	第1号 1018/3	暗褐色土	L.R.(φ20~30m)少量,バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~30m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量,焼土粒(φ1~9m)少量
	第2号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量
	第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~3m)少量
SI-001114	第1号 1018/3	暗褐色土	L.R.(φ10~20m)中量,バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ10~15m)少量,炭化灰(φ1~9m)少量,焼土粒(φ1~3m)微量
	第2号 1018/4	褐色土	L.R.(φ10~20m)少量,バミス灰(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~30m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量,焼土粒(φ1~9m)少量
	第3号 1018/6	褐色土	L.R.(φ10~30m)中量,バミス灰(φ1~9m)中量,炭化灰(φ1~2m)微量
SI-001115	第1号 1018/3	黒褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,炭化灰(φ1~9m)中量,焼土粒(φ1~3m)少量
	第2号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量
SI-001116	第1号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)多量,バミスブロック(φ10~60m)多量,炭化灰(φ1~3m)少量
	第2号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~60m)中量,炭化灰(φ1~2m)微量
SI-001117	第1号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,炭化灰(φ1~2m)微量
	第2号 1018/3/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~40m)中量,炭化灰(φ1~3m)少量
	第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量
SI-001118	第1号 1018/3/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~9m)少量
	第2号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量
第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量	
SI-001119	第1号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)多量,バミスブロック(φ10~50m)多量,炭化灰(φ1~5m)少量,焼土粒(φ1~3m)微量
	第2号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5m)少量,炭化灰(φ1~9m)少量,焼土粒(φ1~3m)少量
	第3号 1018/4	暗褐色土	ローム灰(φ1~9m)少量,バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~3m)少量
SI-001120	第1号 1018/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~3m)少量,焼土粒(φ1~2m)微量,焼土ブロック(φ15m)微量
	第2号 1018/4	黄褐色土	(バミス灰)
	第3号 1018/4	黄褐色土	ローム灰(φ1~9m)少量,バミス灰(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~20m)少量,炭化灰(φ1~5m)少量
	第4号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,バミスブロック(φ10~50m)中量,炭化灰(φ1~5m)少量
SI-001121	第1号 1018/3	暗褐色土	ローム灰(φ1~3m)微量,バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~9m)少量,焼土粒(φ1~9m)少量
第2号 1018/2	黒褐色土	バミス灰(φ1~3m)少量,バミスブロック(φ10~20m)少量,炭化灰(φ1~9m)中量,焼土粒(φ1~5m)少量	
SI-001122	第1号 1018/3/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~3m)中量,炭化灰(φ1~5m)中量,焼土粒(φ1~2m)微量
	第2号 1018/6	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,ローム灰(φ5~9m)少量
	第3号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~9m)少量, L.R.(φ50~60m)少量
F126	第1号 1018/4	にじみ黄褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,炭化灰(φ1~2m)少量,焼土粒(φ1~3m)少量
	第2号 1018/6	褐色土	バミス灰(φ1~9m)少量,バミスブロック(φ20m)少量,炭化灰(φ1~2m)微量,焼土粒(φ3m)微量
	第3号 1018/4	褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,炭化灰(φ1~3m)少量,焼土粒(φ1~9m)少量
SI-001	第1号 1018/1	黒褐色土	バミス灰(φ1~9m)中量,炭化灰(φ1~9m)多量,炭化物(φ10~20m)少量

3-1  
F-2区

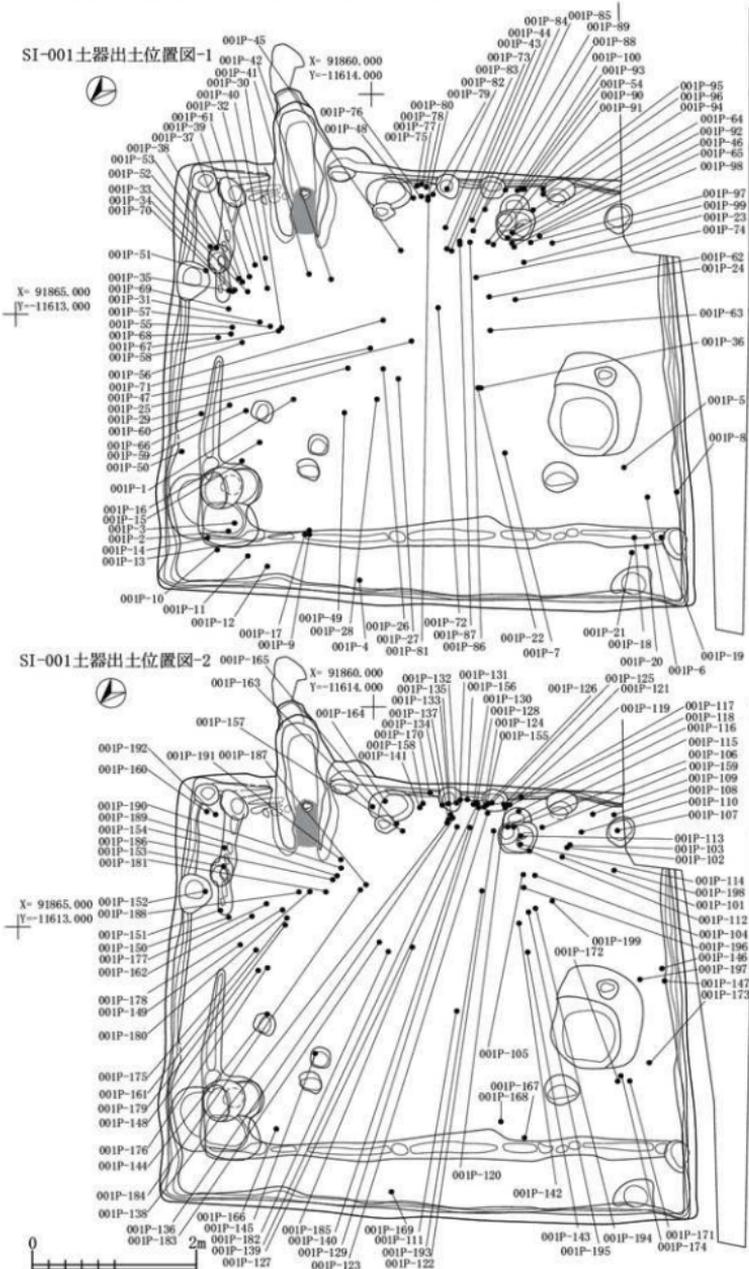
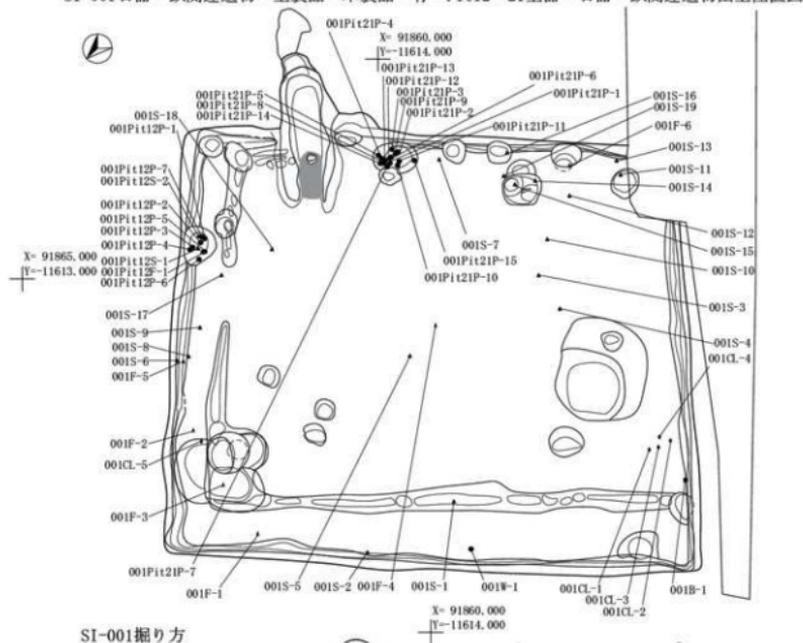


図 3-81 F-2区 SI-001・001b-3

SI-001 石器・鉄関連遺物・土製品・木製品・骨・Pit12・21土器・石器・鉄関連遺物出土位置図



SI-001掘り方

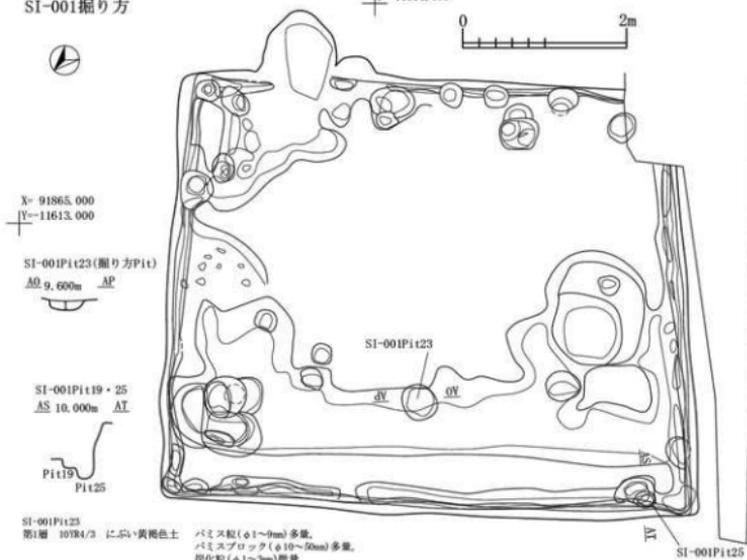


図 3-82 F-2 区 SI-001・001b-4

F-2区

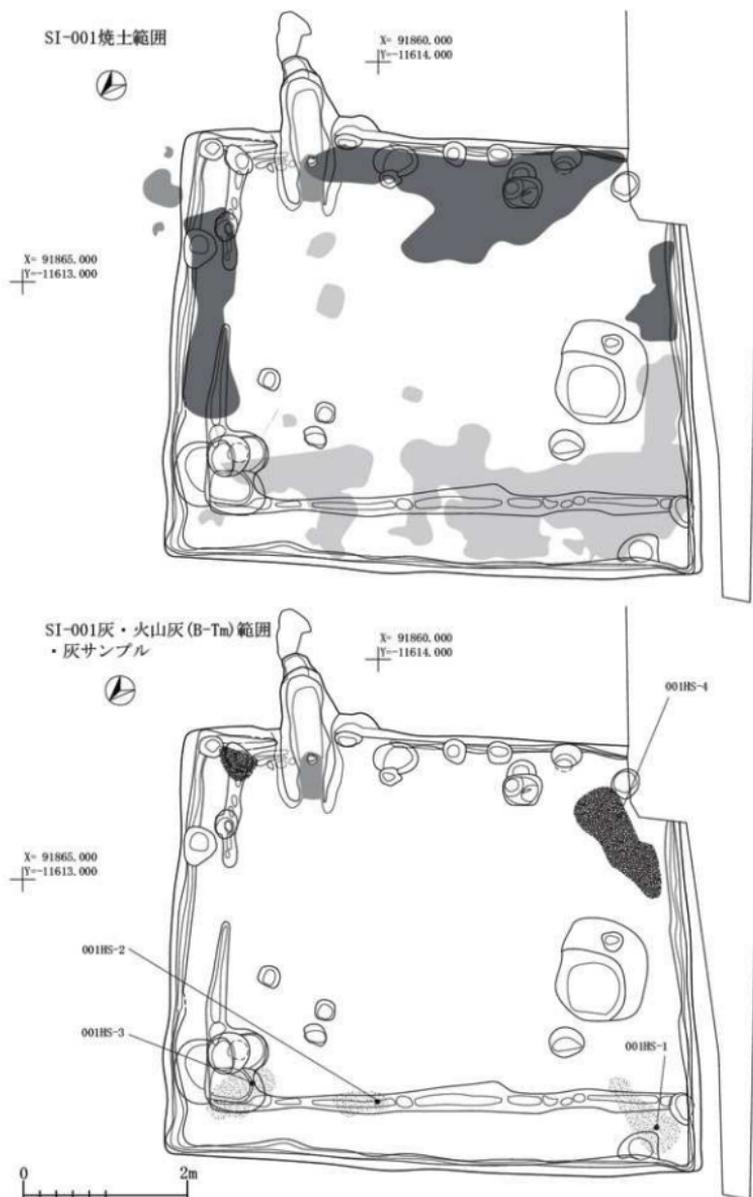


図 3-83 F-2区 SI-001・001b-5

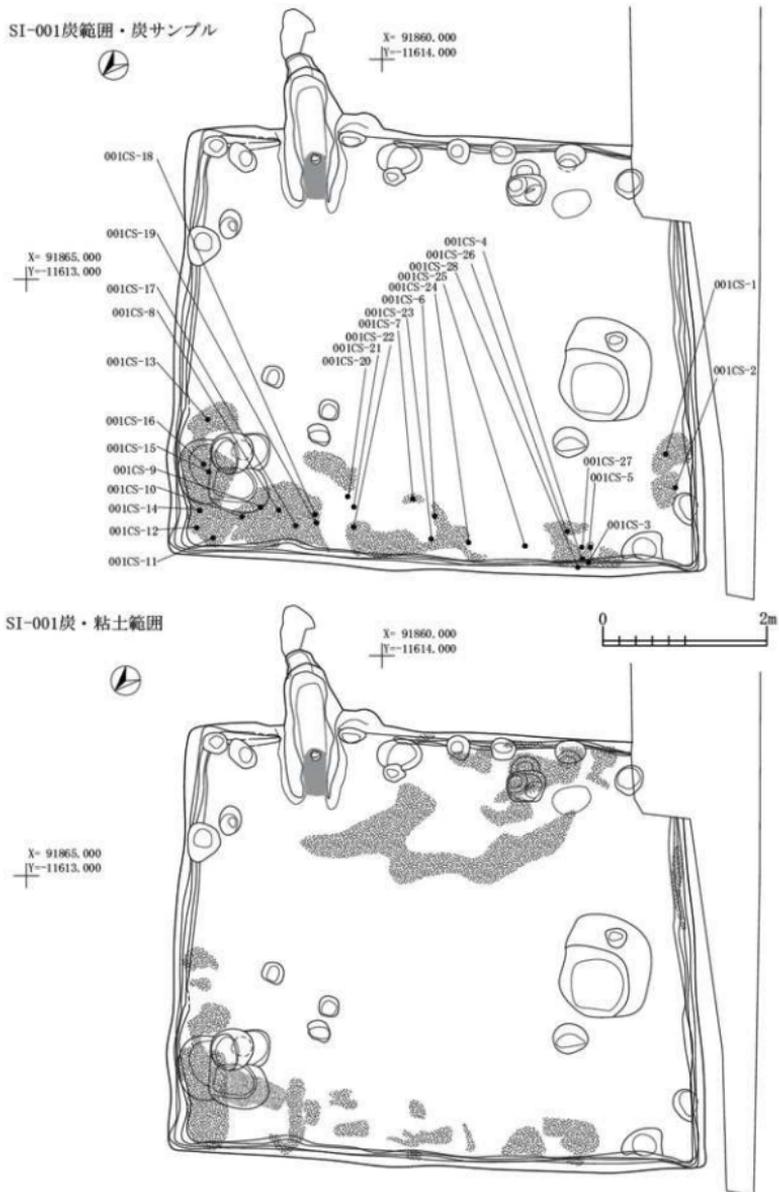
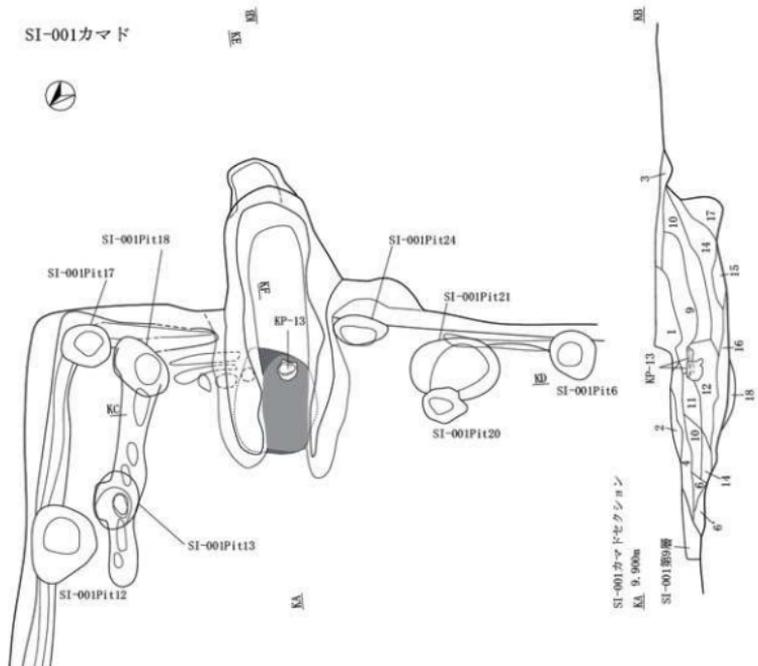


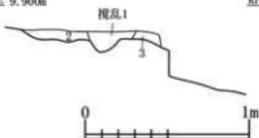
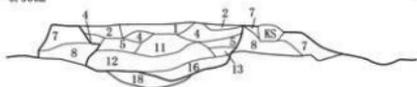
図 3-84 F-2区 SI-001・001b-6

SI-001カマド



SI-001カマドセクション  
KE 9.900m

SI-001カマドセクション(カマド煙道紙張セクション)  
KE 9.900m

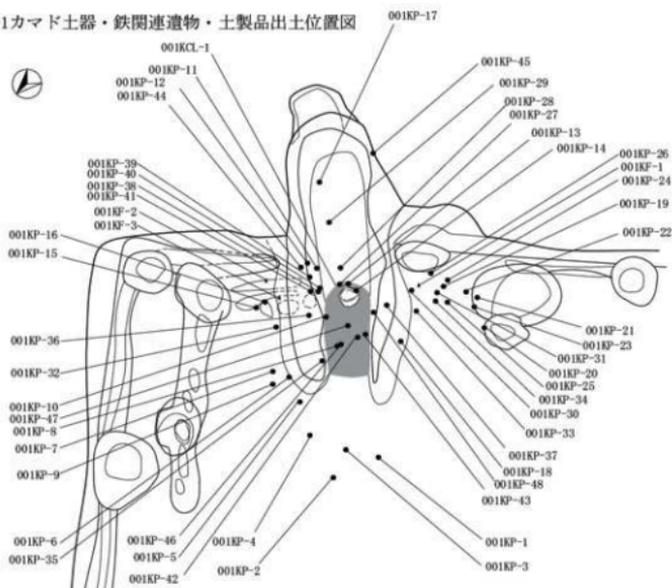


SI-001カマド

第1層	10YR3/1	黒褐色土	パミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)少量,焼土ブロック(φ10~30cm)少量	視厚I
第2層	10YR3/2	黒褐色土	パミス灰(φ1~3cm)微量,炭化灰(φ1~2cm)微量,焼土粒(φ1~9cm)中量,焼土ブロック(φ10~12cm)少量	視厚II
第3層	7.5YR4/6	褐色土	パミス灰(φ1~9cm)中量,パミスブロック(φ10~30cm)中量,炭化灰(φ1~9cm)中量,焼土層,焼熟跡	
第4層	10YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(1~2cm)微量,焼土粒(φ1~9cm)中量,焼土ブロック(φ10cm)微量	
第5層	10YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~5cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)少量	
第6層	7.5YR4/3	褐色土	パミス灰(φ1~3cm)少量,炭化灰(φ1~5cm)少量,焼土粒(φ1~3cm)少量,焼土ブロック(φ40cm大)混入	
第7層	10YR3/4	暗褐色土	炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~5cm)少量	
第8層	7.5YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~5cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)少量,焼土ブロック(φ10~30cm)中量	
第9層	10YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~2cm)中量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~2cm)微量	
第10層	7.5YR4/4	褐色土	パミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~9cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)少量,焼土ブロック(φ10~30cm)多量	
第11層	7.5YR4/3	褐色土	L.R.(φ10~20cm)少量,パミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)多量	
第12層	7.5YR4/3	褐色土	パミス灰(φ3~5cm)少量,炭化灰(φ3~5cm)少量,L.R.(φ50mm大)混入,焼土ブロック(φ10~9cm)少量	
第13層	7.5YR4/3	褐色土	パミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)多量	
第14層	7.5YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~9cm)中量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~2cm)少量	
第15層	7.5YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~3cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)中量,焼土粒(φ10~13cm)少量	
第16層	7.5YR4/4	褐色土	パミス灰(φ1~2cm)微量,焼土粒(φ1~2cm)少量	
第17層	7.5YR4/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~9cm)中量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)中量,焼土ブロック(φ10~30cm)少量	
第18層	7YR4/8	赤褐色土	パミス灰(φ1~5cm)少量,炭化灰(φ1~5cm)少量,焼土粒(φ1~2cm)微量	
SI-001			(穴断面)焼熟跡 パミス灰(φ1~9cm)少量	
第19層	10YR1/7/1	黒色土	ローム灰(φ1~2cm)少量,パミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~5cm)中量,焼土粒(φ1~9cm)中量	

図 3-85 F-2 区 SI-001・001b-7

SI-001カマド土器・鉄関連遺物・土製品出土位置図



SI-001カマド焼土範囲  
・火山灰サンプル

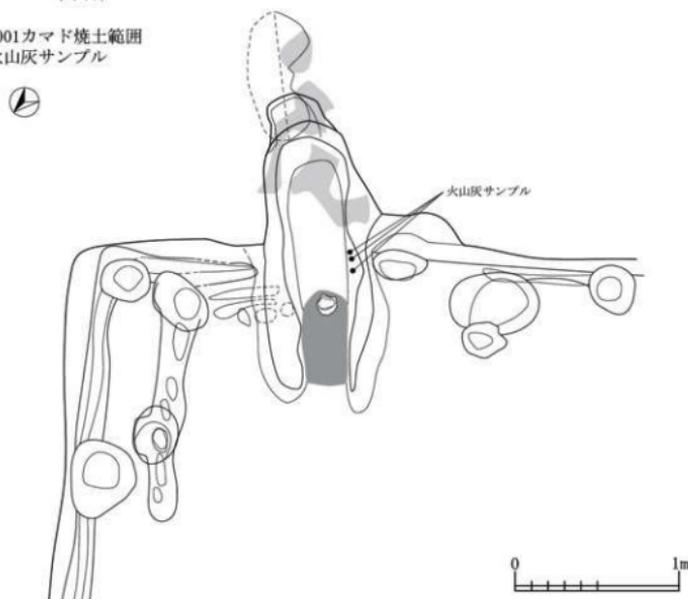
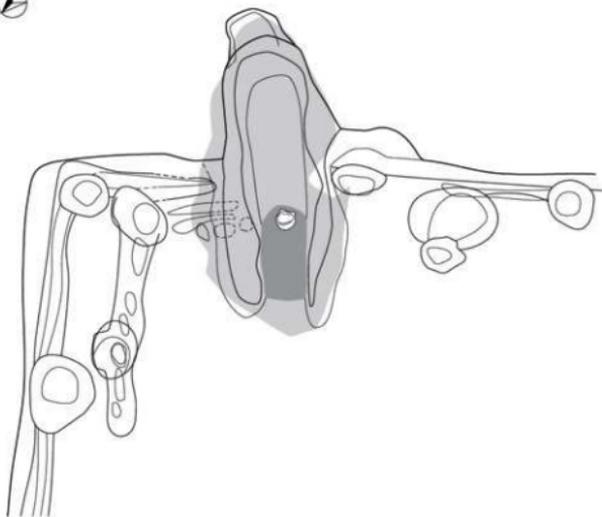


図 3-86 F-2区 SI-001・001b-8

F-2区

SI-001カマド焼土範囲



SI-001カマド掘り方

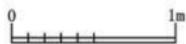
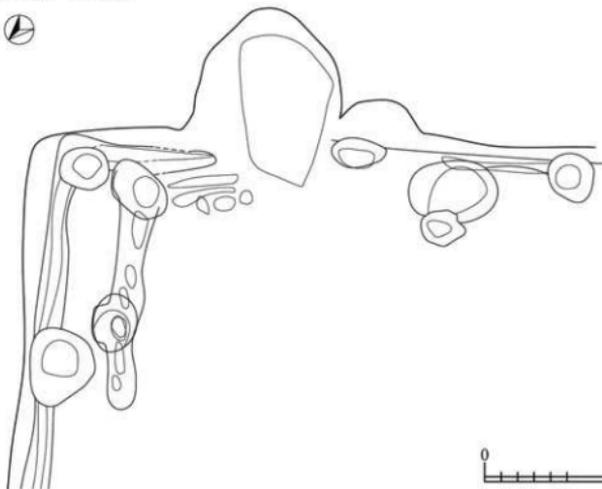


図 3-87 F-2区 SI-001・001b-9

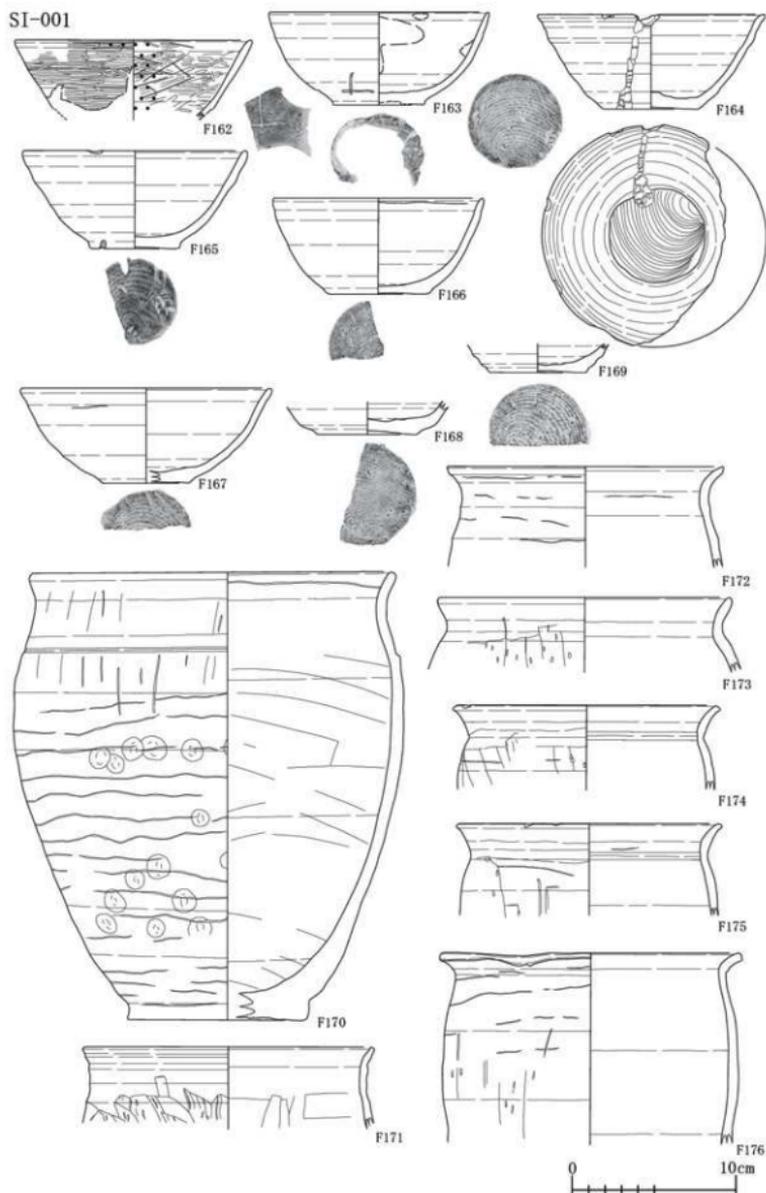


图 3-88 F-2区 SI-001·001b-10

へらによる調整がなされている。また内面には白色付着物が斑状に付着している。F172はカマド第8層出土の土師器口系甕で口径16.8cmを測る。砂粒の混入が少ない粘りのある胎土で、褐色を基調とするが、被熱により淡褐色～灰褐色を呈する部分がある。内面の頸部には煤が付着している。F171に比べると頸部の外反が明瞭で、口唇端部の面取りは外面側に意識はあるが、口唇部を先細り気味に作出する意識の方が強い。頸部以下は成形時の輪積痕が残存し、回転運動に伴う整形痕は均一であるが、充分に撫で消されていない状況である。非ロクロ甕はF176のように口唇端部を平滑な面を作出しようとしているものもあるが、不均一でいびつな形状となっており、粘土のはみ出しなどのそのまま付着している。F174・F175は口唇端部を外面側に突出させるよう意識した造りで、頸部を横方向に明瞭に撫で、体部との境界を明瞭にしている。F173は口唇端部は先細り気味であるが、頸部の横ナデが明瞭な資料で、内面には煮炊痕が見られる。F177は掘り方扱いの第16層出土の土師器甕で口径23.6cmを測る。破片資料で、浮石を含むやや粘りのある胎土であるが、器面及び破断面と摩擦が顕著である。外面の口唇部には打欠痕が見られ、外面頸部には白色の粘土が付着している。内面体部にはハケマが認められるが摩滅している。F178はPit21第1層出土の土師器甕底部片で、底径10.0cmを測る。底面は木葉痕の平行脈で、笹葉がクロスした状態での圧痕が残存している。第9層出土の土師器甕底部であるF179は底端部が突出した形状で、底面は粒子のやや細かい砂粒が中央を除きドーナツ状に付された状態である。同じく第9層と第12層出土の土師器小甕F180は口径14.8cm、器高12.3cm、底径9.0cmを測る。F170と同様した胎土、色調を呈しており、器面は灰色基調に変色している。底面は中央にF170と同様の粗めの砂粒が付着しているが、外周をへらケズリにより砂が削ぎ落とされている。外面頸部を強く撫で、体部との境界を明瞭に区別しており、口唇端部は外側に突出させるように作出している。F181はカマド第7層出土の土師器小甕で口径13.2cmを測る。砂礫をほとんど含まず金雲母が若干混入するザラザラした質感を有する胎土で、頸部は端部を折り曲げただけの短頸で、内面頸部には煮炊痕が観察され、外面口縁～体部にも吹きこぼれたような炭化物付着箇所が観察される。F183はカマド第7層出土の場の破片で口径31.8cmを測る。ロクロ系で器壁が薄造りで、浮石をやや多く含む粘りの弱い硬質な胎土である。口唇端部は面取りを行い、面取り部分に細い沈線を一列入れているが、その後のナデ調整によって沈線

は埋まり、丸みを帯びた部分が多く見られる。内外面とも青味を帯びた黒斑が観察される。F184はカマド第12層出土の羽釜で口径16.0cmを測る。破片資料であるため全体形は不明であるが、ロクロ使用で、内湾気味の器形で口縁部は直立した形で端部を平滑に作出しており、罫は貼り付けた状態で三角形に下部に傾斜を付ける形で作出している。外面口縁部の罫より上部に煤が付着しており、罫の下部は二次被熱が顕著である。F185～F187は擦文土器破片であるが、いずれも粒子の細かい砂粒を多量含むため、土師器の煮炊具で用いられるやや粘りのある胎土が選択されている。口縁部資料であるF185は口縁部に平行沈線が施され、口唇端部には間隔の狭い刻みが施される。体部資料であるF187は内面に白色付着物が認められ、外面に煤付着し、二次被熱により一部器壁が変色している。F188はカマド支脚相当の土製支脚で、上部径10.0cm、器高12.5cm、底径9.9cmを測る。製作時の底面に相当する上部は円盤状に作られた底面に粘土を輪積みで積み上げており、外面は輪積痕が残存しているが、内面は丁寧に撫で消されている。製作時底面に相当する上面には藁の圧痕が観察され、砂粒は付着しておらず、指オサエの指頭以外に半円形状の刺突痕が観察される。使用時底部の透かしは開き気味をV字状を呈しているが、破砕されているため、部分的な残存に留まっている。F190は13層出土の炭化した櫛で長さ(1.8)cm、幅(6.7)cm、厚さ0.74cmを測る。櫛種はカバノキで、炭化した状態で出土しており、壁際から出土した炭化材と同時に炭化したものと見られる。歯の先端と側縁の一方は滅失しており、部分的な出土に留まっているが、歯の間隔が狭く、精緻に作られたものと見られる。

#### S1-001b

S1-001bは、S1-001と重複しており、床面の基部のみの検出である。平面形は台形を呈し、59.30×46.20×77.0cmを測る。主軸方位はS1-001と同様にN-138°-Eである。ピットは前述のとおりS1-001扱いでほとんどのピットが精査されており、本遺構に帰属した可能性のあるものも含まれる。本遺構帰属扱いで精査されたピットは4基で、Pit1・2については柱穴として機能した可能性が高い。壁溝は東壁の中央に空閑地が存在するが、それ以外のはほぼ全周する形で検出した。

堆積土は掘り方充填土を中心に第A～E層の5層分を本遺構帰属扱いとして記録しており、埋め戻しによる人為堆積土を呈する。

カマドは南3・4の位置から検出した。構造は

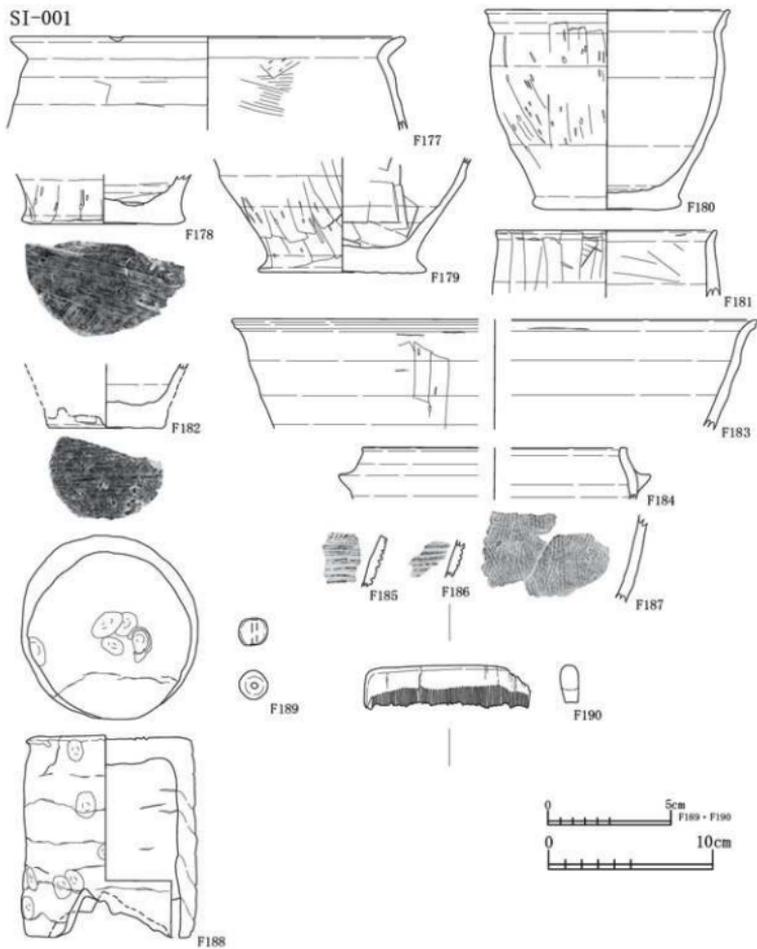
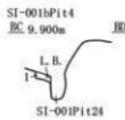
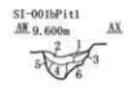
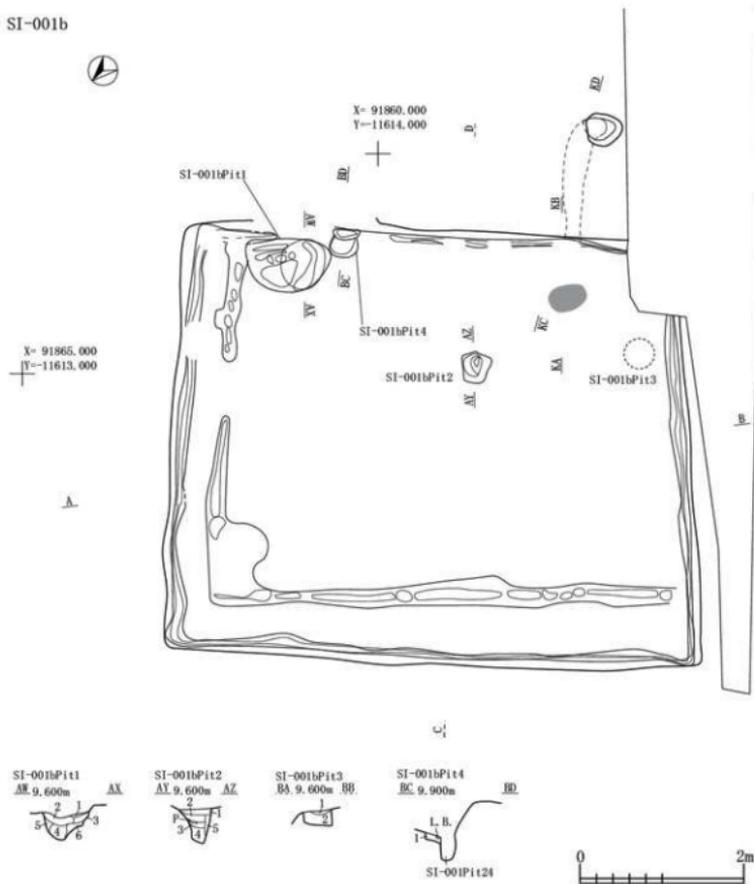


图 3-89 F-2 区 SI-001 · 001b-11

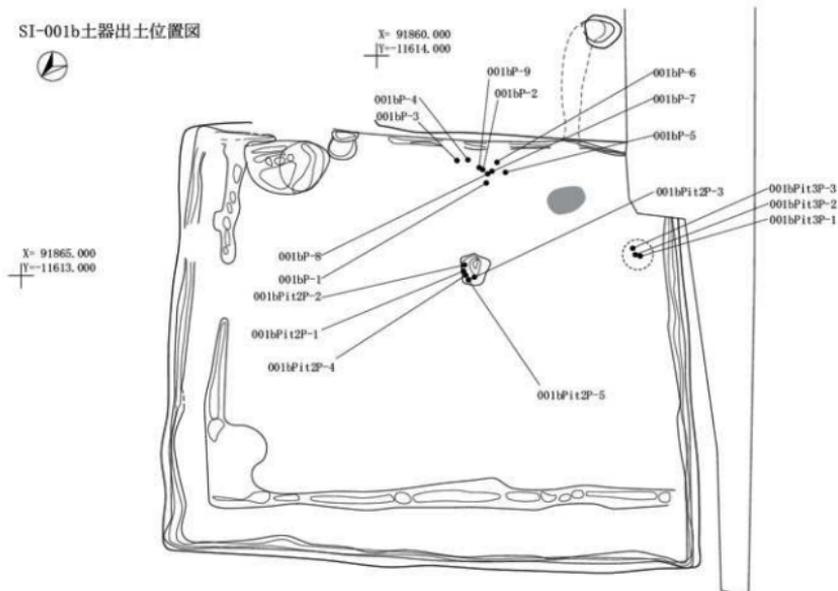
SI-001b



SI-001bPit1	第1層 7.5YR3/4 暗褐色土	ローム灰(φ1~9mm)中量,パミス粒(φ1~3mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)中量
	第2層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
	第3層 10YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)微量
	第4層 10YR2/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量
	第5層 10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)中量
	第6層 10YR4/6 褐色土	(ローム層) パミスブロック(φ50mm)少量
SI-001bPit2	第1層 10YR4/4 褐色土	L, B (φ100mm大)混入,パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~50mm)多量,炭化粒(φ1~5mm)少量
	第2層 10YR4/6 褐色土	ローム灰(φ1~2mm)少量, L, B (φ30mm大)混入,パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)少量
	第3層 10YR4/4 に二色・中褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量
	第4層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)中量
	第5層 7.5YR7/1 明褐色土	(ローム層)
SI-001bPit3	第1層 7.5YR3/3 暗褐色土	ローム灰(φ1~9mm)少量,パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)中量
	第2層 10YR4/6 赤褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)中量
SI-001bPit4	第1層 10YR2/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)中量, L, B (φ50mm大)混入,炭化粒(φ1~3mm)少量

図 3-90 F-2 区 SI-001・001b-12

SI-001b土器出土位置図



SI-001b焼土範囲

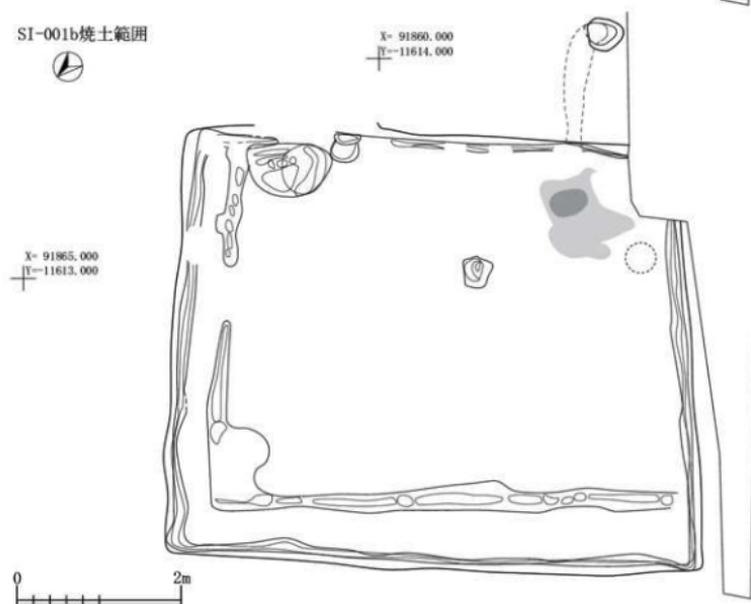


図 3-91 F-2区 SI-001・001b-13

## SI-001b掘り方

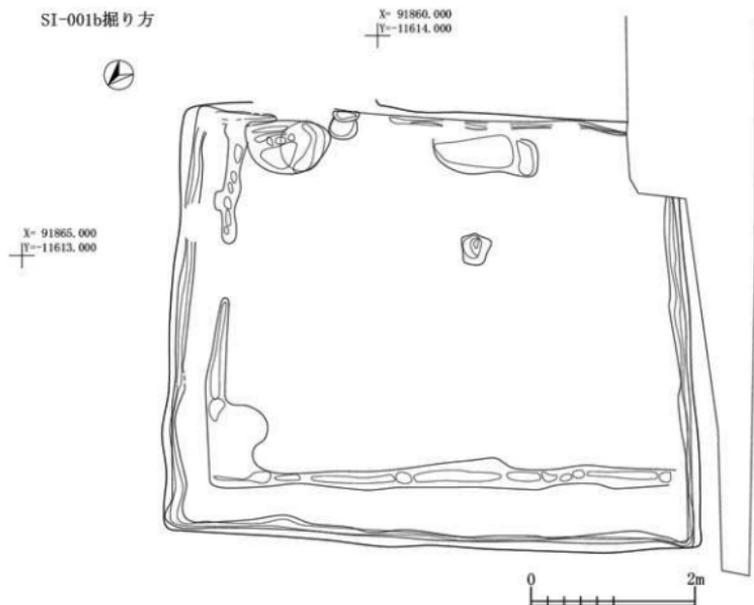


図3-92 F-2区SI-001・001b-14

地下式で、前庭部は火床面のみの検出で、煙道長146.0cmを測る。煙道は床面から6度の角度で傾斜し、途中で傾斜角を22度に変え、煙道中半で凹凸を持ちながらも平坦に奥壁に向かっている。煙出は煙道の軸線より西側に寄った位置でビット状に掘削し、煙出としている。前庭部火床面周辺から破片化して床面にめり込んだ状態で土師器甕の体部片等が出土している。

出土遺物は1点のみ図示した。F191は床面及びカマド前庭部側から出土した土師器甕の口縁部片で、口径22.2cmを測る。粒子の小さい砂粒をやや含む粘りのある胎土で、橙褐色を基調とする。内外面とも体部は輪積痕を残し、充分に撫で消されていない状況で、口縁部は外面側を明瞭に横ナゲした後に頸部をヘラで撫でつけている状況で、頸部にヘラ調整が及んだ状態である。口唇端部は上面に平滑に作出した造りで、外面側に突出した形状であるが、丸みを帯びた箇所も見られる。内外面及び断面に煤付着が見られ、接合破片間で、煤付着の不整合が認められており、破断面についても磨耗が顕著な部分が見られることから、破片の状態で被熱に差が生じた可能性がある。

## SI-002 (図3-95～100)

X=91836.000, Y=11609.000付近で検出した。SK-020・SN-012・SD-001と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整丸長方形を呈し、397.0×370.0×27.0cmを測る。主軸方位はN-160°-Eである。ビットは堅穴内から5基検出し、西壁に接したPit2・4は主柱穴として機能し、Pit3・5についても柱穴として機能した可能性がある。Pit1はカマド脇ビットに相当する。壁溝は検出しておらず、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と、緩やかに立ち上がる部分が見られる。

堆積土は16層に分層し、廃絶後の堆積土は第1～10層が相当する。流れ込みの伴う自然堆積状況を呈しており、床面直上～中層にかけての第6・7層にはB-Tm火山灰が混入し、堅穴内で面的に検出した。また、中位まで埋没した第5層上面から炭化物を検出している。

カマドは南1の位置から検出した。煙道部はSN-012と重複しており、SN-012の方が新しく、基部の一部のみしか残存していない状況である。袖部幅68.0cm、煙道長(28.0)cmを測る。右袖側から礫が出土していることから礫を芯材と

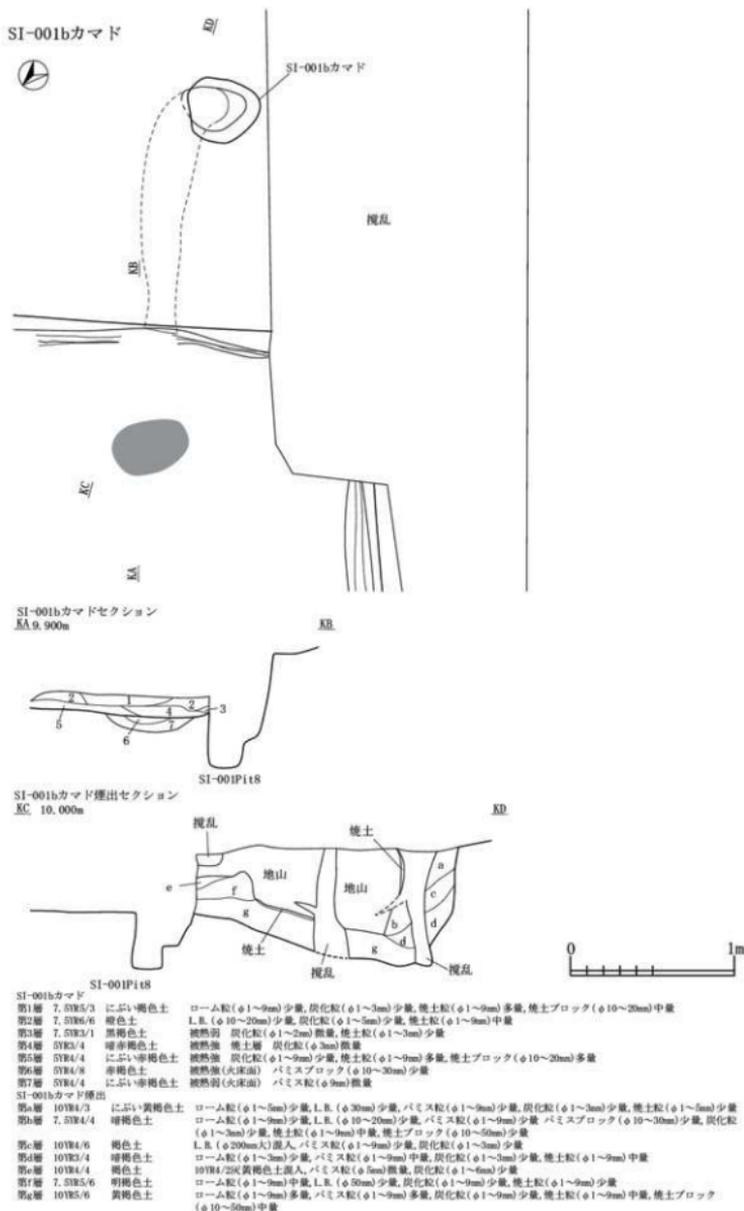
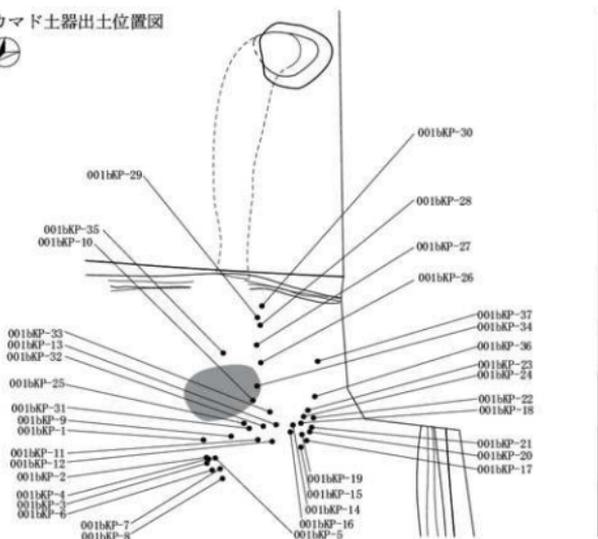


図 3-93 F-2区 SI-001・001b-15

SI-001bカマド土器出土位置図



SI-001b



SI-001bカマド焼土範囲

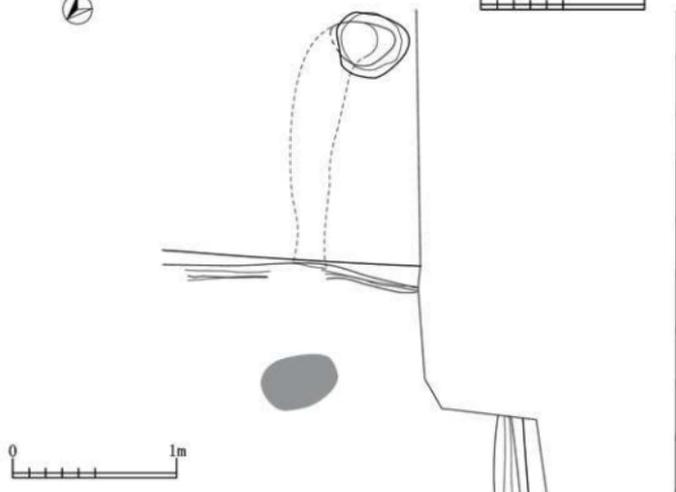
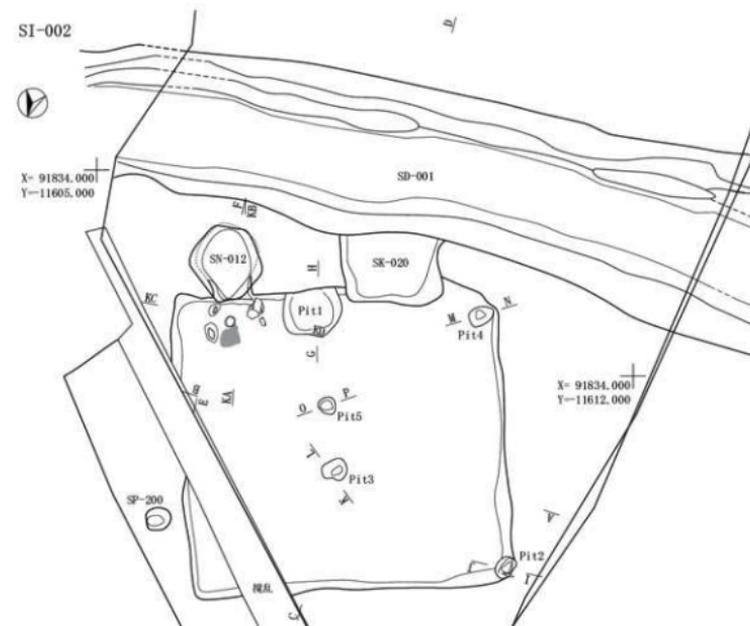
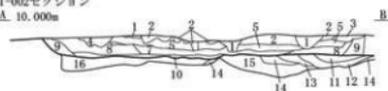


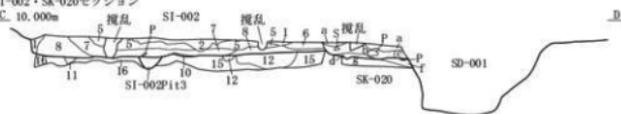
図 3-94 F-2 区 SI-001・001b-16



SI-002セクション  
A 10.000m



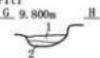
SI-002・SK-020セクション  
C 10.000m



SI-002・SN-012セクション  
E 10.000m



Pit1  
G. 9.800m H



Pit2  
I. 10.000m J



Pit3  
K. 9.700m L



Pit4  
M. 9.700m N



Pit5  
O. 9.600m P

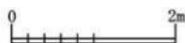


図 3-95 F-2 区 SI-002-1

SI-002		
第1層	10YR3/2 黒褐色土	バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~50mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR6/6 明黄褐色土	(粘土とバミス層)
第3層	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)少量, L.R.(φ15mm)微量,バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量
第4層	10YR2/3 黒褐色土	L.R.(φ15mm)微量,バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~20mm)少量
第5層	10YR1.7/1 黒色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第6層	10YR4/2 灰黄褐色土	L.R.(φ20mm)混入,バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量,火山灰(伊-Ta)少量
第7層	10YR4/3 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第8層	10YR3/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第9層	10YR2/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第10層	10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~30mm)多量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第11層	10YR6/6 明黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~50mm)中量,炭化粒(φ3mm)微量
第12層	10YR4/2 灰黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~60mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第13層	10YR5/6 黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第14層	10YR3/4 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~20mm)中量
第15層	10YR6/6 明黄褐色土(埋山)	
第16層	10YR6/8 明黄褐色土(埋山)	
SK-020		
第5層	10YR3/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第6層	7.5YR4/3 褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第7層	7.5YR5/3 にじい褐色土	焼土粒(φ1~3mm)少量
第8層	7.5YR4/3 褐色土	バミス灰(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第9層	10YR4/3 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第10層	10YR2/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第11層	10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9mm)多量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SN-012		
第1層	10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~6mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR6/9 褐色土	(焼土層,炭粉層)
第3層	10YR4/3 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量 - 混乱
第4層	7.5YR4/3 褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第5層	10YR4/3 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)微量,焼土粒(φ9mm)微量
第6層	10YR4/2 灰黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~13mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量
SI-002		
第7層	10YR3/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ50mm)混入,焼土粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量
第8層	10YR4/3 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
FI11		
第1層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,バミス灰(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量
FI12		
第1層	10YR3/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~30mm)少量
FI13		
第1層	10YR4/3 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量
第2層	10YR3/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)中量
FI14		
第1層	10YR4/3 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)中量,バミス灰(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR5/6 黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
FI15		
第1層	10YR4/3 にじい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR7/6 明黄褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1mm)微量

## SI-002土器・石器・土製品・鉄関連遺物出土位置図

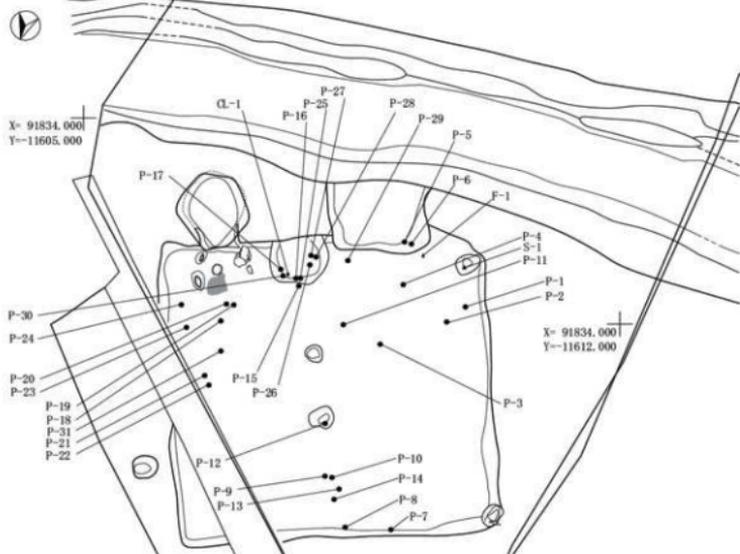
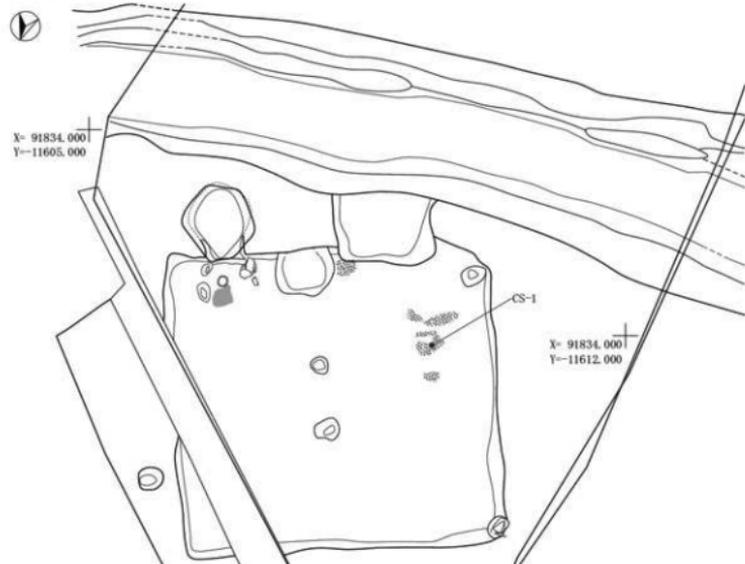


図 3-96 F-2 区 SI-002-2

SI-002炭範囲・炭サンプル



SI-002火山灰範囲・火山灰サンプル

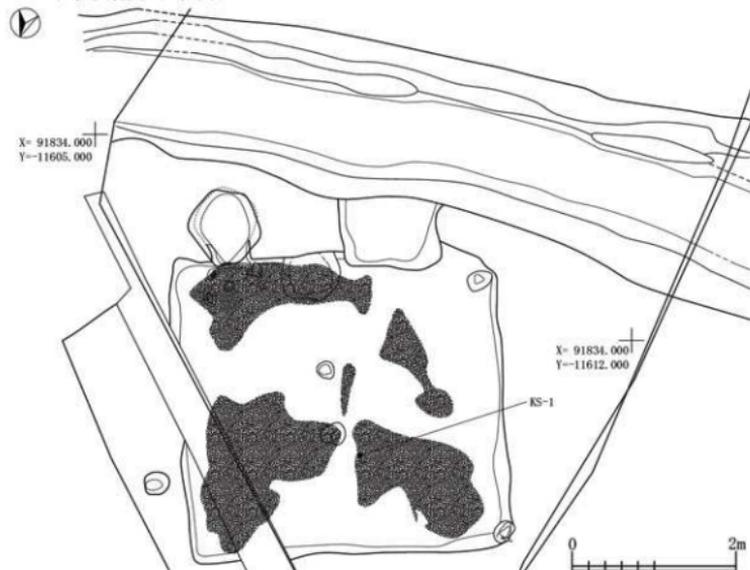


図 3-97 F-2区 SI-002-3

## SI-002掘り方

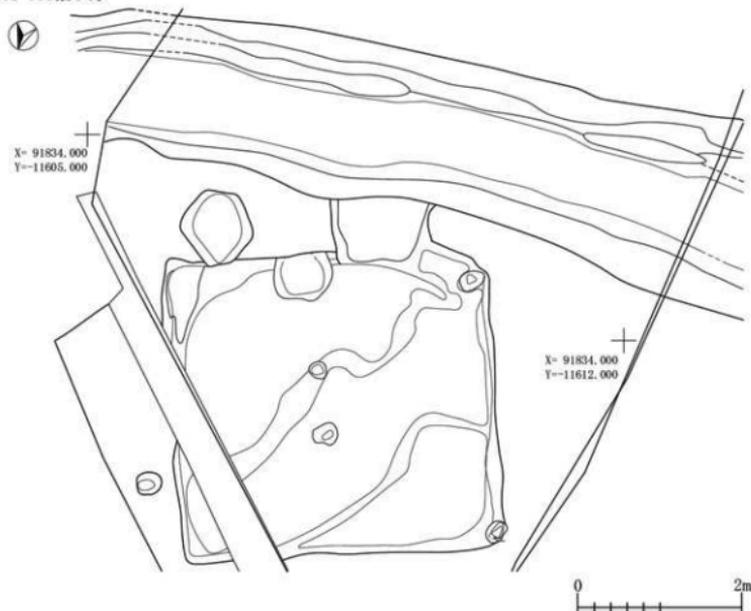


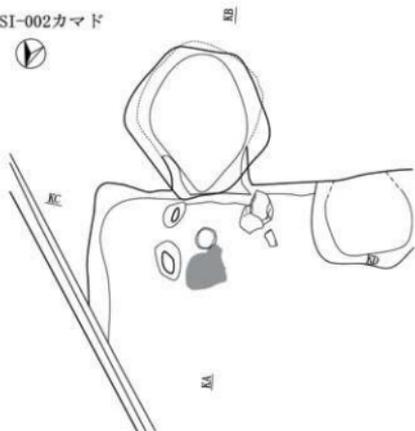
図 3-98 F-2 区 SI-002-4

し、粘土で構築されている状態で、支脚相当位置から土製支脚が出土している。煙道はSN-012によってほとんど破壊されている状況ではあるが、壁から緩やかに立ち上がる形で、半地下式を呈しているものと考えられる。

出土遺物は10点図示した。F192は第5・8層から出土した土師器甕で、口径14.8cm、器高7.7cm、底径5.4cm、器高指数52.0、底径指数36.4を測る。底径が小さく、口径が大ぶりで器高が高い。胎土は、粒子の細かい砂粒をやや含む粘りのやや弱い胎土で、内外面とも底～体部上半にかけて二次被熱に伴い変色し、煤が馬蹄形状に付着し、外面の体部下半～底面にかけて黒硬化している。全般的に器面は摩滅している状態で、破断面は一部剥落、摩滅し、丸みを帯びている部分も見られる。煮炊具のうち、F193は第7層および下層出土の土師器甕で口径20.4cmを測る。砂粒を多く含む粘りの強い胎土で、硬質に焼成され、ザラザラした質感を有する。非ロクロ甕で、輪積痕は外面で一部残存しているが内面では丁寧に撫で消されている。また粘土紐積み上げ時の指押さえ痕が部分的に明瞭に残っている部分が見られ、積み上げ幅は約1.3cm程度である。外面体部は縦方向にへ

ラによる調整が行われており、口縁部を回転運動に伴う横ナデで明瞭に体部と区切りを付けており、頸部を突き抜けた調整痕は見られない。内面は横方向のナデによる調整が観察され、頸部については外面の横ナデに対応するナデが残存している。外面体部上半に煤・炭化物付着があり、内面は体部中半に相当する位置と頸部の一部に炭化物が残存している。F194は第8層及びカマド第5層出土の土師器甕で、口径15.4cmを測る。小甕の範疇に入るタイプで、頸部はやや短めであるが、頸部の横ナデはやや粗雑ながらも明瞭に体部との境界を区分している。外面体部上半には煤状炭化物が面的に付着し、内面の体部下半側と頸部には炭化物付着が認められ、煮炊痕が残存している。内面体部下半の炭化物はやや赤茶がかった色調を呈する。F195は下層出土の土師器甕で、口径16.8cmを測る。口唇端部を突出させ、外面口縁部を明瞭な横ナデを行い体部と区画しているタイプで、口径が若干あるが、内面口縁部に煮炊痕が認められることから実質的には小甕と同様の使用形態が考えられる。内外面とも二次被熱が顕著で、破断面も一部摩滅している。F196はカマド第3層出土の土師器甕で口径16.2cmを測る。F195同様に内面頸部に煮

SI-002カマド



SI-002カマドセクション  
10.000m

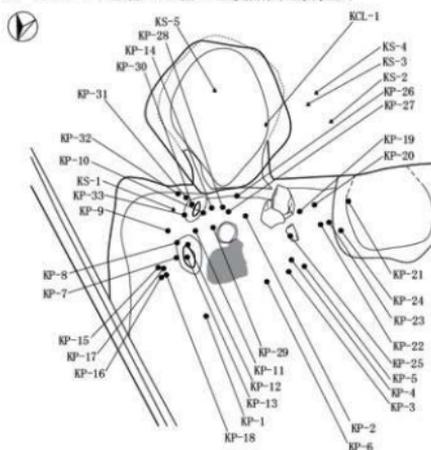
KD



SI-002カマド

- |     |               |  |
|-----|---------------|--|
| 第1層 | 10YR2/2 暗褐色土  | パミス粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~5mm)少量                       |
| 第2層 | 10YR2/3 暗褐色土  | パミス粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量                       |
| 第3層 | 10YR3/3 暗褐色土  | ローム粒(φ1~2mm)散見, パミス粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量       |
| 第4層 | 10YR3/4 暗褐色土  | パミス粒(φ1~2mm)散見, パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量 |
| 第5層 | 7.5YR3/4 暗褐色土 | パミス粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量   |
| 第6層 | 10YR3/4 暗褐色土  | パミス粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量   |
| 第7層 | 5YR4/3 赤褐色土   | 灰床面・炭熟面  |
| 第8層 | 7.5YR4/4 褐色土  | パミス粒(φ1~2mm)少量   |
| 第9層 | 7.5YR4/6 褐色土  | 灰床面・炭熟面  |

SI-002カマド土器・石器・土製品出土位置図



SI-002カマド炭化材・支脚・石器  
微細図

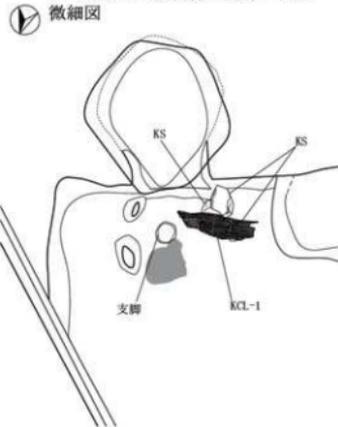


図 3-99 F-2区 SI-002-5

F-2区

SI-002

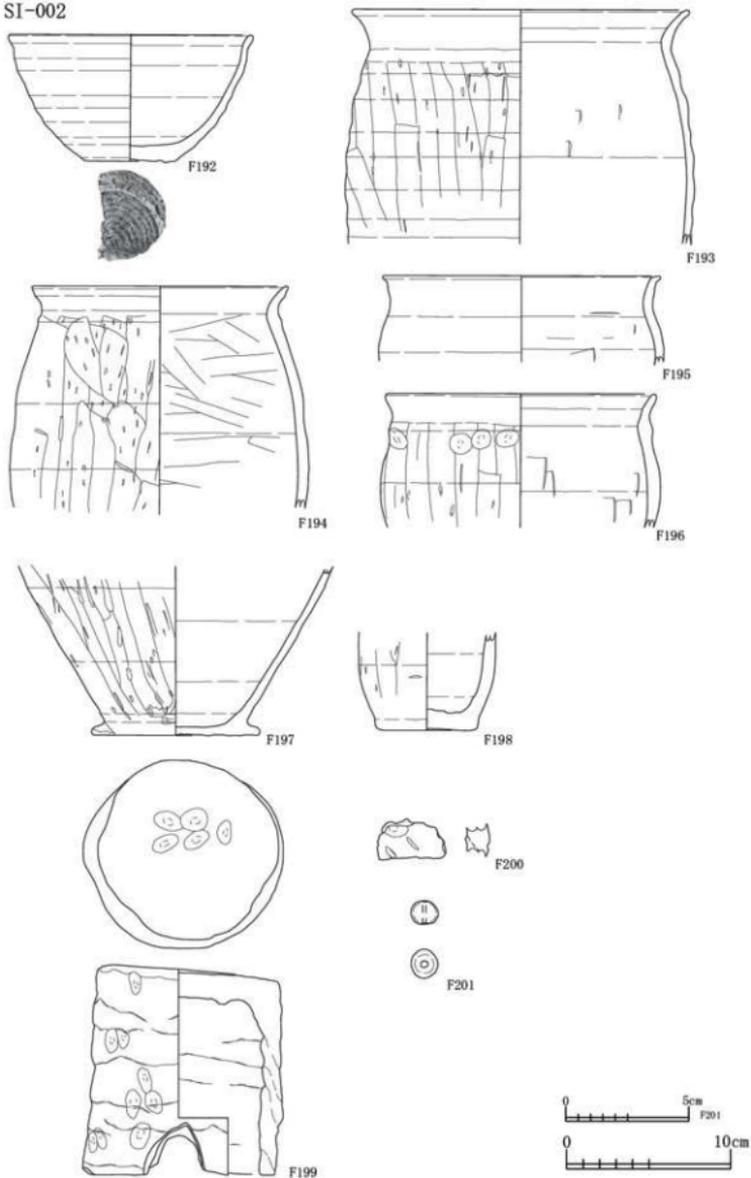


図 3-100 F-2区 SI-002-6

炊痕が認められ、使用状況としては同様の状況であったと考えられるが、本資料は器面の摩滅・浸食が顕著で、内面の煮炊痕についても褪色している。器壁がやや厚く、器形はややいびつな形状であるが、口縁部の横ナデは明瞭に行っており、横ナデによって口縁部を外反させている。F197はカマド第2・4・5層出土の土師器製の底部資料で、底径10.0cmを測る。底部が台形状に突出する形状で、S1-001で出土したF180同様に粒径の大きな砂粒が底面中央に付着し、周縁はヘラにより削ぎ落とされている。外面体部下半に煤状炭化物が付着して周辺は黒斑化し、対応する内面体部下半～底面も黒斑化している。F199はカマド支脚出土の土製支脚で、上部径11.0cm、器高13.85cm、底径11.7cmを測る。外面側は輪積痕が全面に残存しているが、内面側は、製作時の底面に相当する上部は二段目まで粘土紐の接合痕を撫で消している。それより上位の中段は撫で消されていない状態で、最後の二段については再び撫で消しを行っている。使用時の底部にあたる口縁部は平滑な面を作出し、「U」字状の切り込みと若干V字がかった切り込みを対称になるように入れている。

#### S1-003・SB-001 (図3-101～112)

X=91880.000, Y=11598.000付近で検出した。竪穴建物の南壁の延長線上に2×2間の掘立柱建物が付属しており、竪穴部分をS1-003、掘立柱建物部分をSB-001として精査している。同軸線上で付属した可能性が高いため、本項目で一括して記述した。

竪穴部分のS1-003は、隅丸方形を呈し565.0×548.0×23.0cmを測る。主軸方位はN-145°-Eである。ピットは竪穴内からPit1～34(Pit8は欠番)の33基を検出し、Pit9～12が主柱で、壁際に壁溝と共に支柱穴が展開している。本遺構はカマド2としたカマドが地下式と半地下式の2段階あり、東壁にもカマド1が存在しており、同じ竪穴内で柱の配置替え等が生じているものと推定される。また、竪穴中央周辺にSK-01・03～05、北東隅からSK-02とした土坑を検出している。廃絶後の堆積時には閉じた状態埋没している状況であるが、使用時には開口していた可能性のある土坑も含まれ、貯蔵穴の可能性が高い。

堆積土は13層に分層し、廃絶後の堆積土は第1～10層が相当し、床面直上～中層にかけて廃棄の伴う人為的な埋戻しが伴っている。B-Tm火山灰についても面的に検出はしているが、二次堆積のブロック化したものが土ごと投げ込まれるように堆積した部分が見られ、二次的な要因が高い

(※Pit9・10の抜き取り後の堆積土に相当するPit9第1・2層、Pit10第1層中にB-Tm火山灰が混入している)。

カマドは南1の地点と東3の地点から検出した。調査時に東3のカマドを「カマド1」、南1のカマドを「カマド2」として精査している。カマド2は地下式のカマドが半地下式に改築されている。

カマド1とカマド2(半地下式)は、どちらも袖が残存した状況で、場合によってはどちらも併存した可能性がある。主柱穴であると考えられるPit12がカマド2の右袖の前庭部前方に位置する形になり支障した可能性もあるが、掘り方を見る限りでは隣接するPit15もPit12を意識した掘り込みとなっており、火床面が不十分ではあるが併存の余地は残る。

カマド1は、構造は半地下式で、袖部幅84.0cm、煙道長166.0cmを測る。主軸方位はN-55°-Eである。前述のとおり袖が多少基部寄りではあるが残存する形で検出している。煙道は木根や攪乱の掘削痕に伴い、凹凸が顕著であるが、壁の中段から奥壁側に延びている。火床面の下からPit17を検出しており、最も古い段階よりは後発のカマドである。

カマド2は、構造が半地下式の長煙道タイプと短煙道タイプが重なっており、短煙道タイプが新しく、袖部幅99.0cm、煙道長42.0cmを測る。主軸方位はN-145°-Eである。半地下式の短煙道タイプで、竪穴の壁際からやや急激に立ち上がる。粘土による構築で、芯材や支脚は出土していない。火床面は前述のとおり発達していない状況で、カマド下に掘りこまれたピットの埋土上に相当し、一部はPit15によって切られている。長煙道タイプのカマドは煙道長214.0cmと長いタイプで、主軸方位はN-130°-Eである。前庭部はピット状に掘りこまれた火床面が残存しており、ほぼ同一地点を半地下式のカマドが再構築されているため構築材も残存していない。煙道部のみの残存であるが、風倒木による土層変化が生じた地点で、土層堆積にも影響が生じている。床面から凹凸がある段を持ちながら緩やかに傾斜し、155cm程度奥壁寄りの地点で30度の角度で立ち上がり、奥壁側とぶつかり、奥壁は垂直に近い形で立ち上がっている。崩落が伴った堆積状況である。

掘立柱建物であるSB-001は、カマド2設置壁である南壁側に2×2間の規模の掘立柱が伴った構造で、壁寄りの梁の中央の柱穴は欠落した状況である。本竪穴周辺からは外周溝を検出しておらず、周境については削平を受けた影響を確認していないことから、掘立柱建物のみの確認に留まっている。

出土遺物は5点図示した。F202は床面出土の

SI-003・SB-001

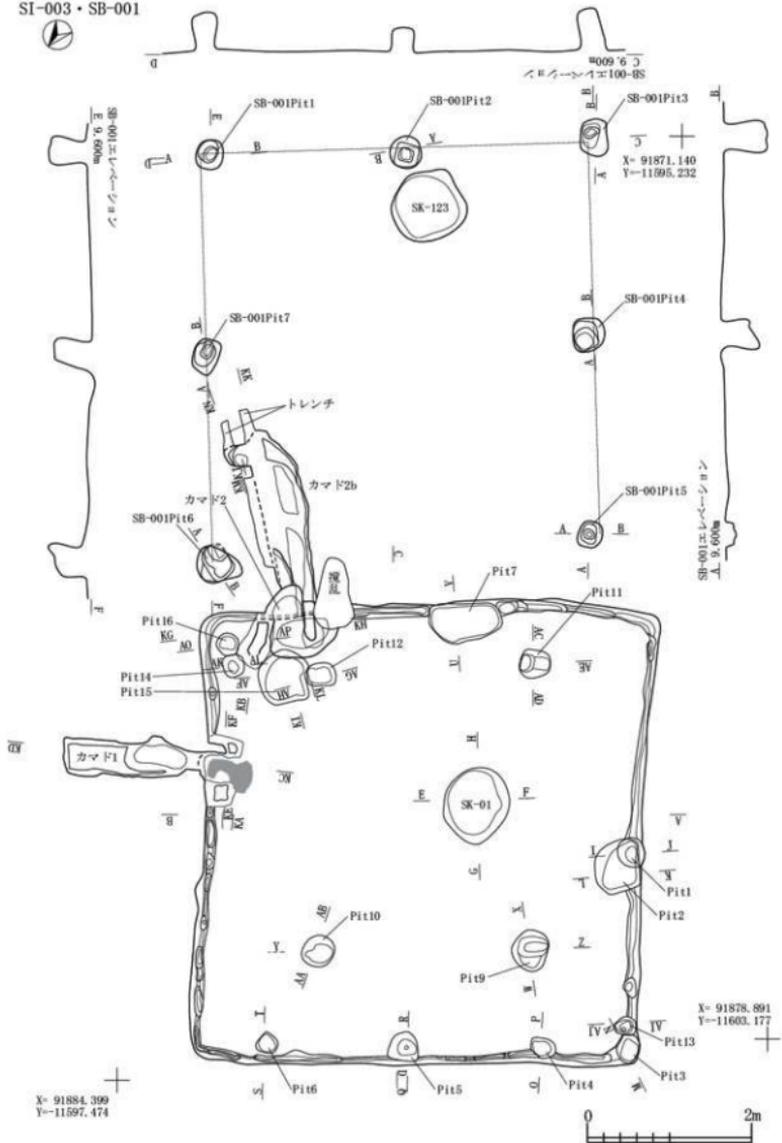


図 3-101 F-2 区 SI-003・SB-001-1



P11 第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~5mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)散見,人(φ1~2mm)散見,ROM散見	P111 第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)少量
第層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量
第層	10YR4/3	にがい黄褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR4/3	にがい黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
P12 第層	10YR5/3	にがい黄褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	P112 第層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,人(φ10~20mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)少量
第層	10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)少量
P13 第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ5~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR3/2	暗褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)少量
第層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ5~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR5/3	にがい黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR4/3	にがい黄褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,ローム粒(φ5~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	P113 第層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見
P14 第層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR4/3	褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
P15 第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR3/2	暗褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	P114 第層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)散見,焼土粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	P115 第層	10YR4/4	褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
P16 第層	10YR4/3	にがい黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見	第層	10YR4/3	褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量	第層	10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
P17 第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR4/4	褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR3/2	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR4/3	にがい黄褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)散見,ROM散見	第層	10YR3/2	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
P19 第層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR4/3	褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR4/3	にがい黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR4/4	褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR4/2	灰黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
第層	10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~2mm)散見,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見	第層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)散見,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見
P110 第層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見				
第層	10YR2/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見				
第層	10YR4/3	にがい黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見				
第層	10YR4/2	灰黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,ROM散見				

SI-003

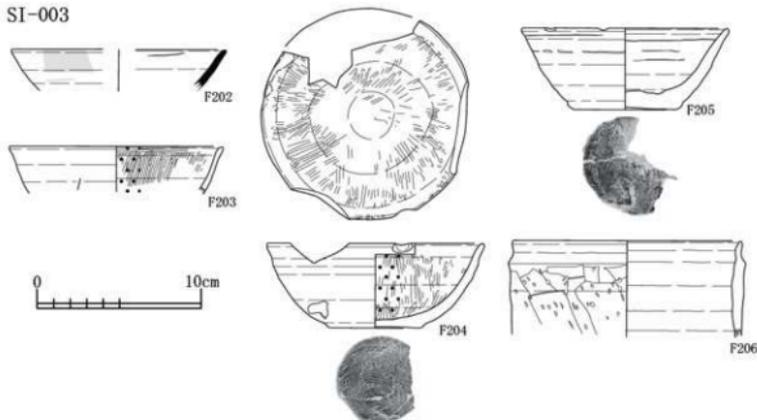


図 3-103 F-2 区 SI-003・SB-001-3

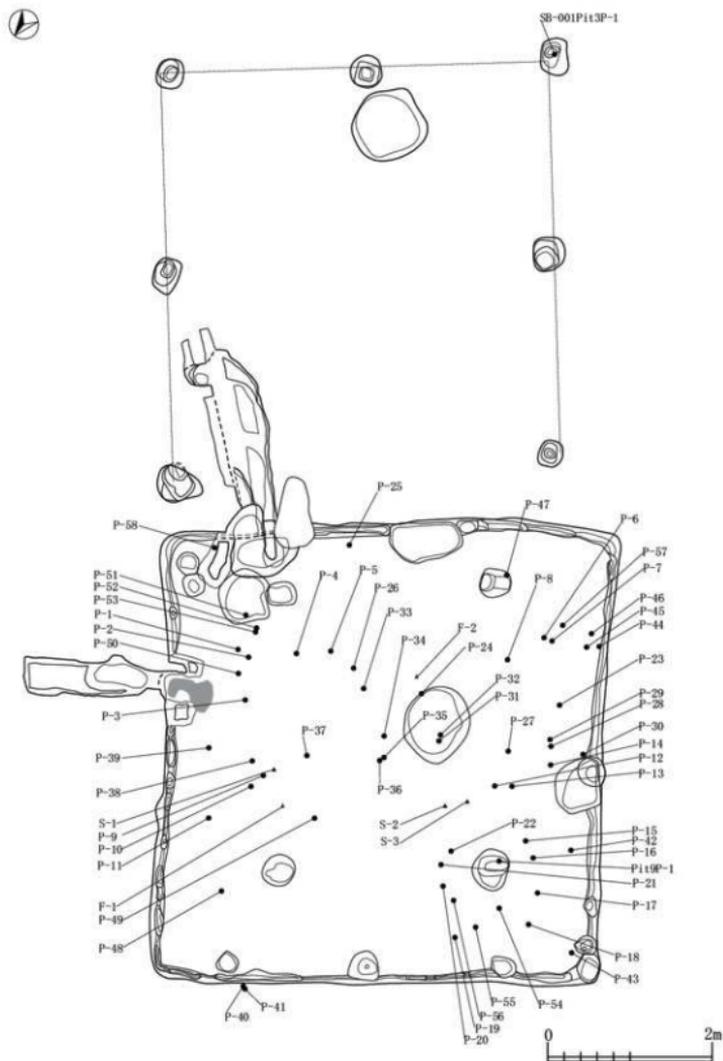
SI-003土器・石器・鉄関連遺物・SI-003Pit9土器・  
SB-001Pit3土器出土位置図

図 3-104 F-2 区 SI-003・SB-001-4

SI-003B-Tm火山灰範囲・サンプル

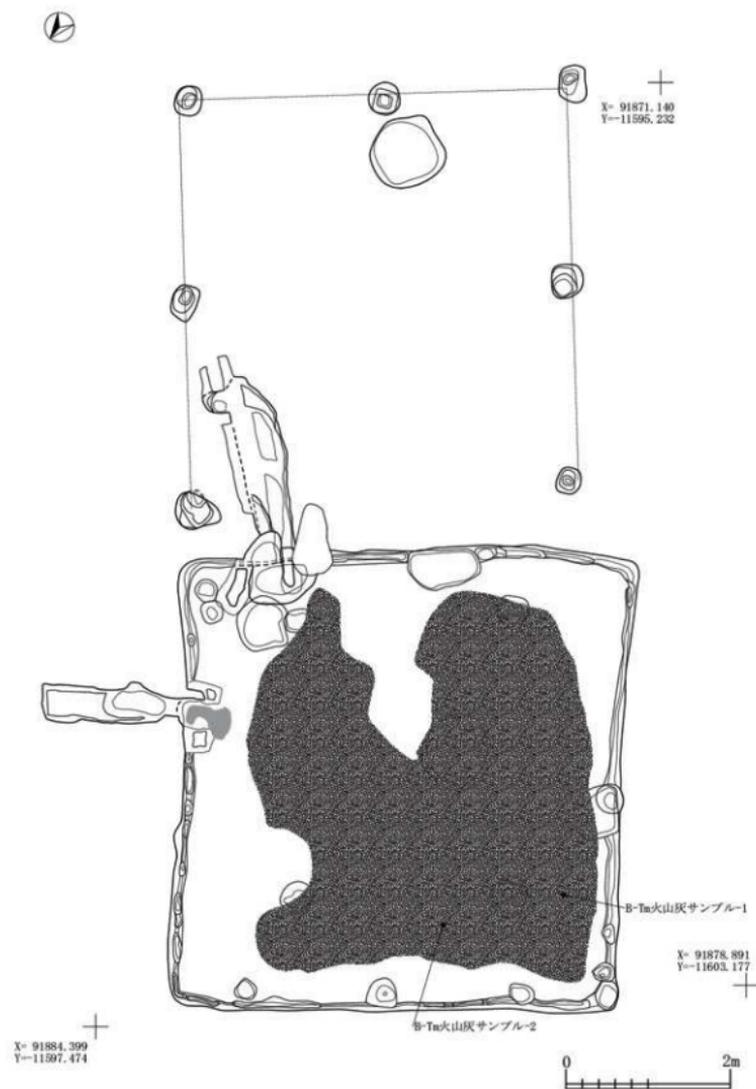


図 3-105 F-2 区 SI-003・SB-001-5

SI-003B-Tm火山灰範圍2

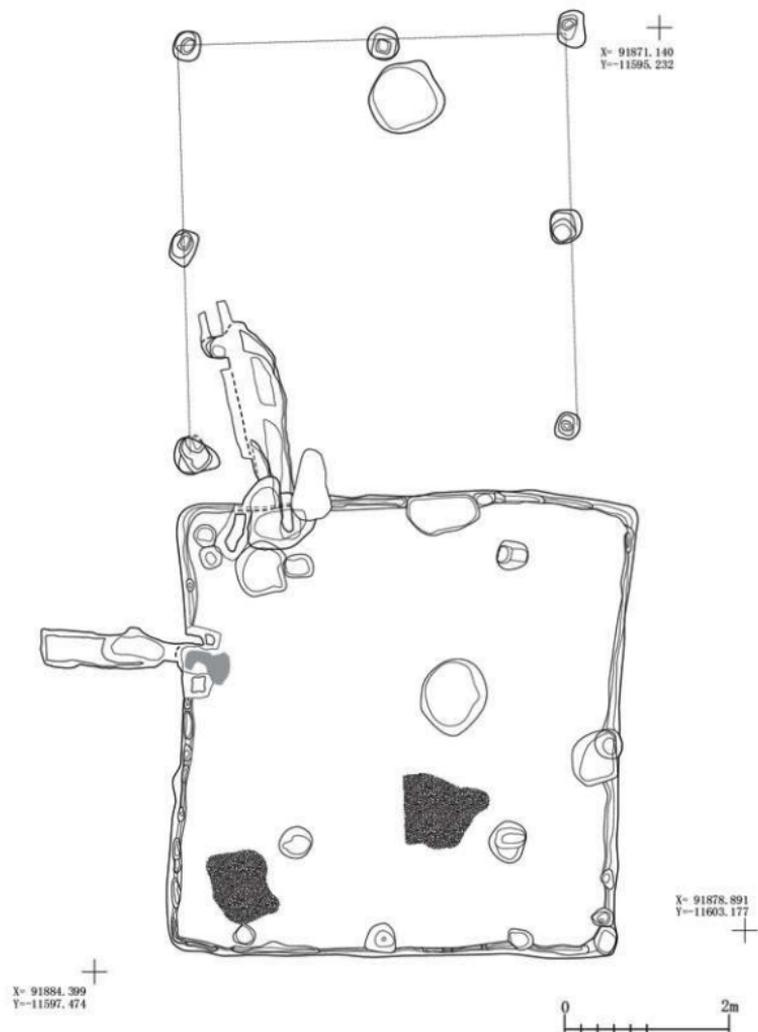


图 3-106 F-2 区 SI-003 · SB-001-6

SI-003粘土範圍

F-2区

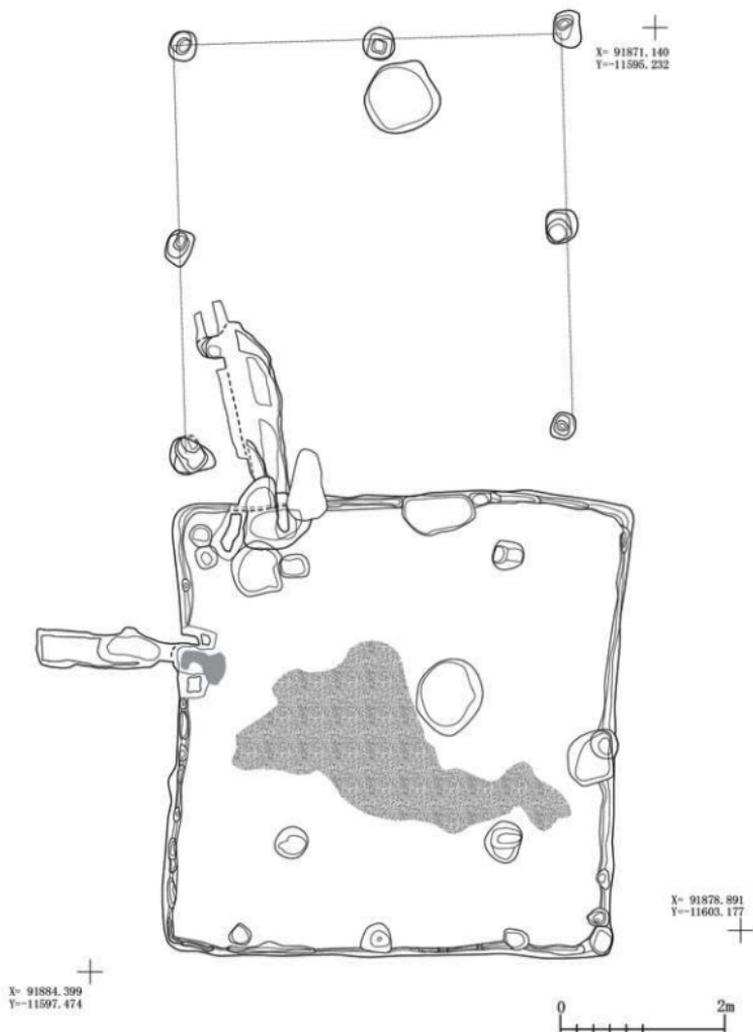


図 3-107 F-2区 SI-003・SB-001-7

## SI-003掘り方

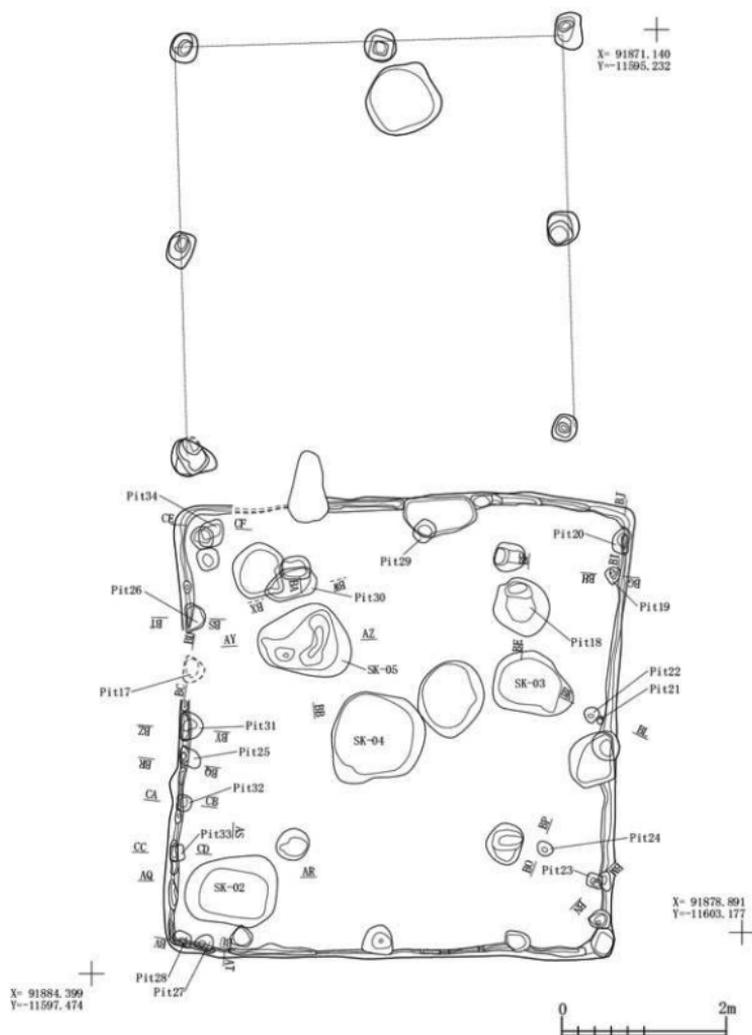
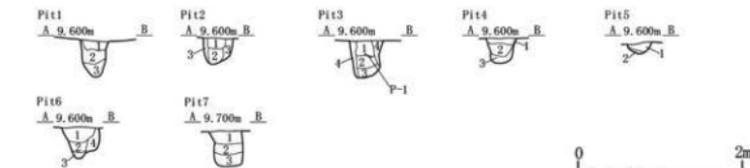


図 3-108 F-2 区 SI-003・SB-001-8



## SB-001F1セクション



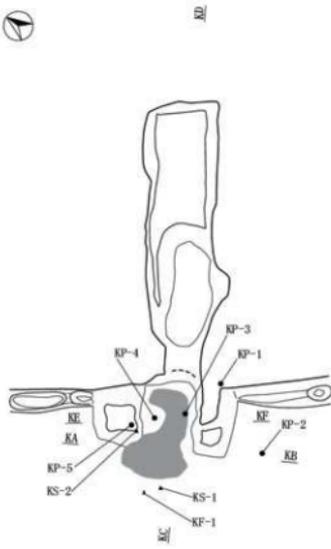
SB-001F11	SB-001F14
第1層 10YK3/3 暗褐色土	第1層 10YK3/3 暗褐色土
第2層 10YK2/3 黒褐色土	第2層 10YK2/3 黒褐色土
第3層 10YK3/1 黒褐色土	第3層 10YK2/2 黒褐色土
SB-001F12	SB-001F15
第1層 10YK2/2 黒褐色土	第1層 10YK3/2 黒褐色土
第2層 10YK3/3 暗褐色土	第2層 10YK3/3暗褐色土
第3層 10YK2/3 黒褐色土	第1層 10YK3/3 暗褐色土
SB-001F13	SB-001F16
第1層 10YK2/2 黒褐色土	第1層 10YK3/3 暗褐色土
第2層 10YK2/3 黒褐色土	第2層 10YK2/3 黒褐色土
第3層 10YK3/1 黒褐色土	第3層 10YK3/2 黒褐色土
第4層 10YK3/2 黒褐色土	第4層 10YK2/3 黒褐色土
SB-001F17	SB-001F17
第1層 10YK3/3 暗褐色土	第1層 10YK3/4 暗褐色土
第2層 10YK3/3 暗褐色土	第2層 10YK3/3 暗褐色土
第3層 10YK2/3 暗褐色土	第3層 10YK2/3 暗褐色土

図 3-110 F2区 SI-003・SB-001-10

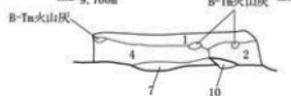
須虫器破片で、口径13.0cmを測る。海綿骨針を含む精緻な胎土で、若干開き気味の器形で外面口縁部及び内面の残存部全体は重む焼き痕で青味の強い青灰色を呈している。外面の口縁部直下には火押痕が横位に観察されるが、重む焼き痕も青灰色を呈する。断面も灰色を呈する焼成良好品で、窯詰めの際、最上位に重ねられた資料の可能性が高い。F203は第1層およびPit9第1層出土の黒色土器碗の口縁部片で、口径13.0cmを測る。砂粒をやや含む粘りのややある胎土で、外面は橙褐色を基調とする。黒色処理は内面側のみで、外面口縁部は磨かれていない。また、体部上半に細い縦線が刻書されている。F204は第2・3層出土の黒色土器碗で、口径13.0cm、器高5.2cm、底径5.6cm、器高指数40.0、底径指数43.0を測る。海綿骨針を含む粘りのある胎土で、外面の口縁部の一部も黒色化されているが、ヘラミガキは行われていない。外面口縁部を深いV字状に2箇所、浅いU字状に1箇所打欠が行われており、V字状部分の内外面にはタール状の付着物を含む煤・炭化物付着が

認められ、灯明具に転用されたものと考えられる。また外面体部は楕円形状に剝離した部分が認められ、欠損部は底部～体部上半にかけて剥落している。F205はカマド第3層および覆土KP-1から出土した土師器碗で、口径12.4cm、器高5.0cm、底径6.2cm、器高指数40.3、底径指数50.0を測る。砂礫と赤色粒をやや含む粘りのある胎土で、褐色を基調とする。器壁を充分薄く形成できておらず体部下半～中半まで厚みを持ち、体部中半で外面側を工具ないしは布当てによるロクロナデにより浅い段をつけて外反させており、器壁の厚さは残るものの先細り気味に伸ばし上げている。口唇端部は軽い打欠痕が見られるが、灯明痕は認められない。F206は床面出土の羽釜で、口径13.8cmを測る。非ロクロの小甕の規格であるが、元々の器壁をロクロナデに近い回転運動の伴うナデにより鐮状に作出している。また、鐮の下部は粗雑な斜め方向のヘラケズリによって調整されており、内面口縁部には白色付着物が認められる。

SI-003カマド1



SI-003カマド1セクション

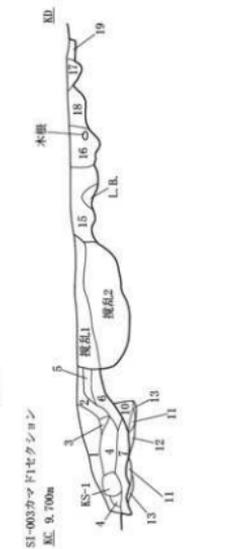


SI-003カマド1

第1層	10YR2/3	黒褐色土
第2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土
第3層	10YR3/4	暗褐色土
第4層	7.5YR4/3	褐色土
第5層	7.5YR4/3	褐色土
第6層	7.5YR3/4	暗褐色土
第7層	7.5YR4/2	灰褐色土

第8層	7.5YR4/3	褐色土
第9層	10YR5/3	にぶい黄褐色土
第10層	10YR2/3	暗褐色土
第11層	7.5YR4/4	褐色土
第12層	7.5YR4/2	灰褐色土
第13層	7.5YR5/4	にぶい褐色土
第14層	10YR4/6	褐色土
第15層	10YR3/2	暗褐色土
第16層	10YR3/3	暗褐色土
第17層	10YR3/4	暗褐色土
第18層	10YR4/4	褐色土
第19層	10YR5/3	にぶい黄褐色土
視認1	10YR2/1	黒褐色土

バミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,炭化粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量, B-Ts火山灰少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,炭化粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量, 10YR4/2灰黄褐色土少量, B-Ts火山灰少量  
 バミス粒少量,炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )少量, B-Ts火山灰少量  
 バミス粒少量,炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )少量,バミスブロック( $\phi 20\text{mm}$ )散入,炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量  
 バミス粒( $\phi 5\sim 9\text{mm}$ )少量,バミスブロック( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ )少量,炭化粒少量,焼土粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量, 7.5YR5/4にぶい褐色土少量  
 炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,焼土粒少量(袖)  
 バミスブロック( $\phi 10\text{mm}$ )散入,焼土粒少量(袖)  
 バミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,ローム粒少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量,ローム粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ )少量,炭化粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )少量(焼土層)  
 バミス粒少量,炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量  
 バミス粒( $\phi 5\sim 9\text{mm}$ )少量,炭化粒少量  
 バミス粒( $\phi 5\sim 9\text{mm}$ )少量,バミスブロック( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ )少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量,ローム粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,バミスブロック( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ )少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )少量,ローム粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,炭化粒少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )少量,ローム粒少量,炭化粒少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )少量,ローム粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,炭化粒少量  
 バミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )少量,バミスブロック( $\phi 10\sim 30\text{mm}$ )少量,ローム粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )少量, L.R. ( $\phi 10\sim 40\text{mm}$ )少量,炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )少量,焼土粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量,焼土ブロック( $\phi 20\text{mm}$ )散入  
 バミス粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量,バミスブロック( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ )少量



SI-003カマド1セクション

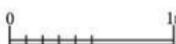
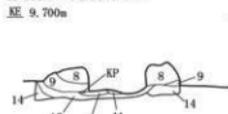


図 3-111 F-2 区 SI-003・SB-001-11

SI-003カマド2・カマド2b

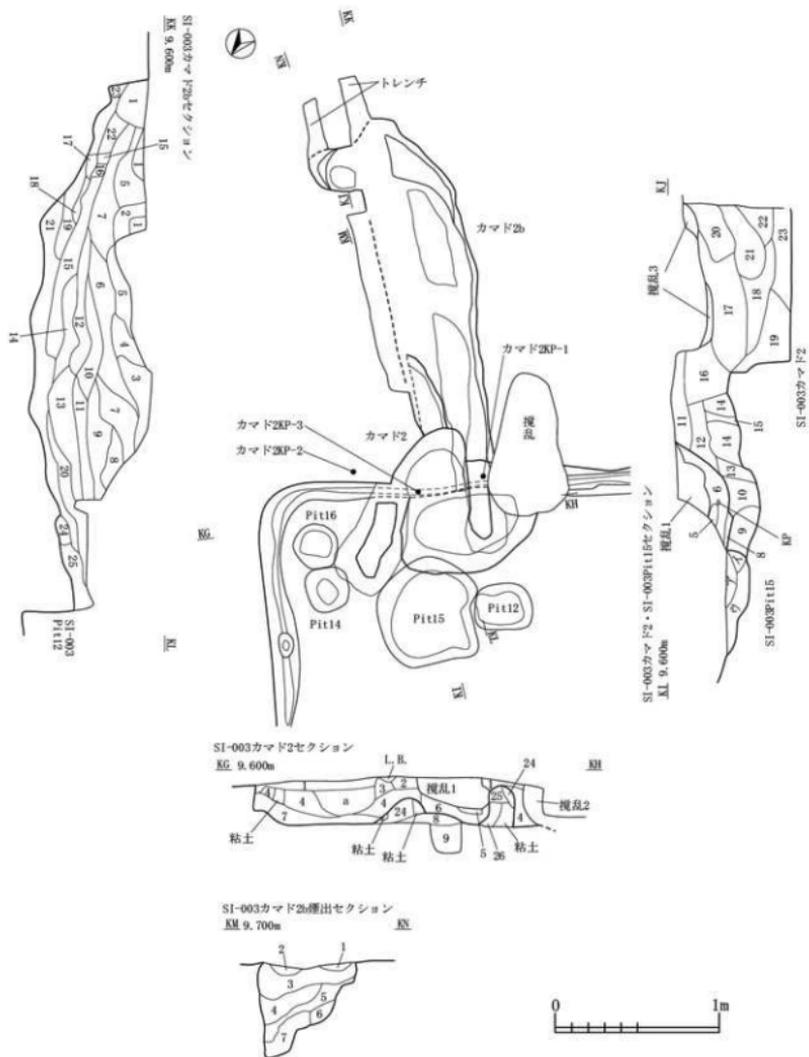


図 3-112 F-2 区 SI-003・SB-001-12

S1-003カマド2	第1層 10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)散見, L.R.(φ10~20mm)中量, 炭化灰(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量, 焼土ブロック(φ10~30mm)少量, 炭化材(φ1~5mm)少量, 白土層(φ1~5mm)少量
第2層	10YR/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, バミスブロック(φ10~15mm)散見, ローム灰(φ1~5mm)散見, 炭化灰(φ1~3mm)散見, 焼土粒(φ1~2mm)散見, 10YR2/3系褐色土ブロック(φ40mm)散見
第3層	10YR/4	褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)少量, 炭化材(φ1~5mm)少量, 白土層(φ1~5mm)少量
第4層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見, 焼土粒(φ1~3mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見, 粘土ブロック(φ10mm)散見
第5層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)散見, 焼土粒(φ1~2mm)少量
第6層	7.5YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~40mm)散見, ローム灰(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~30mm)少量, 炭化灰(φ1~5mm)少量, 炭化材(φ1~5mm)少量
第7層	10YR/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, ローム灰(φ1~3mm)散見, 焼土粒(φ1~2mm)散見
第8層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見, 焼土粒(φ1~2mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)散見
第9層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, バミスブロック(φ40mm)散見, ローム灰(φ1~5mm)散見, 10YR2/1系褐色土(φ1~3mm)少量
第10層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量
第11層	10YR/4	褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, バミスブロック(φ10~25mm)少量, ローム灰(φ1~5mm)散見, 炭化灰(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)少量, 粘土ブロック(φ10mm)散見
第12層	10YR/4	褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量, ローム灰(φ1~5mm)散見, 炭化灰(φ1~7mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)少量
第13層	10YR/4	褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~2mm)散見, 10YR5/6系褐色土ブロック(φ10~20mm)散見
第14層	10YR/3	にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~2mm)散見
第15層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~2mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見
第16層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, 炭化灰(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見
第17層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, バミスブロック(φ10~15mm)散見, ローム灰(φ1~3mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)散見
第18層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)少量
第19層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)少量
第20層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ1~30mm)少量, ローム灰(φ1~2mm)散見
第21層	10YR/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~40mm)散見, ローム灰(φ1~3mm)散見, 10YR2/3系褐色土ブロック(φ40mm)散見
第22層	10YR/3	にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~5mm)多量, バミスブロック(φ10~20mm)多量, ローム灰(φ1~3mm)散見
第23層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量
第24層	7.5YR/2	灰褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, 10YR8/7系褐色土の粒を有し, バミスブロック(φ10~15mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量, 炭化灰(φ1~2mm)散見(焼)
第25層	7.5YR/3	褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ15mm)散見, 炭化灰(φ1~3mm)散見, 焼土粒(φ1~5mm)中量(焼)
第26層	7.5YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)多量, 炭化灰(φ1~5mm)少量, 粘土10YR8/7系黄褐色土の粒(焼)
第27層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)少量, 炭化材(φ20mm)散見, 砂利など多量散見
覆土1		褐色土	白砂, 小石散見
覆土2	10YR1/7	褐色土	
覆土3	10YR/2	暗褐色土	
P115			
第1層	7.5YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~2mm)散見, 炭化灰(φ1~3mm)少量
第2層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, 炭化灰(φ1~3mm)少量
第3層	7.5YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)散見, 炭化灰(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~30mm)少量
S1-003カマド2a			
第1層	10YR/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ20mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)少量, 炭化灰(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~2mm)散見, 炭化灰(φ1~3mm)少量
第3層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~3mm)散見, バミスブロック(φ20mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)散見
第4層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)散見, 焼土粒(φ1~3mm)少量
第5層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)少量, 炭化灰(φ1~3mm)少量
第6層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)少量
第7層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)少量
第8層	10YR/3	にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~3mm)散見, ローム灰(φ1~3mm)少量, 炭化灰(φ1~3mm)少量, 10YR4/4褐色土との混入土
第9層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見, ローム灰(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量, 10YR3/1系褐色土ブロック(φ100mm)散見
第10層	10Y/1	褐色土	バミス灰(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ15mm)散見, 炭化灰(φ1~2mm)少量
第11層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ15mm)散見, 炭化灰(φ1~5mm)少量
第12層	10YR1/7	褐色土	バミス灰(φ1~5mm)中量, ローム灰(φ1~3mm)少量
第13層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~30mm)中量, ローム灰(φ1~3mm)中量, 炭化灰(φ1~5mm)少量, 炭化材(φ1~2mm)散見
第14層	7.5YR/2	暗褐色土	(焼土層)バミス灰(φ1~5mm)散見, 炭化灰(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)多量, 焼土ブロック(φ10~30mm)多量
第15層	7.5YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~3mm)中量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化灰(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)中量
第16層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量, 炭化灰(φ1~3mm)少量
第17層	10YR/3	にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~3mm)中量, ローム灰(φ1~2mm)散見
第18層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)散見
第19層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)少量, 炭化灰(φ1~3mm)少量
第20層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)散見, ローム灰(φ1~3mm)少量, 炭化灰(φ1~2mm)少量
第21層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ20mm)散見, ローム灰(φ1~2mm)散見
第22層	7.5YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量
第23層	10YR/3	にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~2mm)散見, バミスブロック(φ10~20mm)少量, ローム灰(φ1~2mm)散見
第24層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)散見, バミスブロック(φ20~30mm)散見, ローム灰(φ1~3mm)散見
第25層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ20~30mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量
S1-003カマド2b			
第1層	10YR/4	暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)中量, ローム灰(φ1~3mm)少量
第2層	10YR/1	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量
第3層	10YR/3	にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量, 10YR3/2系褐色土(φ1~3mm)少量
第4層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)中量, ローム灰(φ1~3mm)少量
第5層	10YR/3	暗褐色土	バミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量, 炭化灰(φ1~3mm)少量
第6層	10YR/2	暗褐色土	バミス灰(φ1~3mm)少量, ローム灰(φ1~3mm)少量
第7層	10YR/4	褐色土	バミス灰(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム灰(φ1~5mm)少量, L.R.(φ10~15mm)少量

## SI-004 (図3-113~121)

X=91869.000, Y=11603.000 付近で検出した。SK-110と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は台形を呈し、4.25.0×3.8.0×5.0.0cmを測る。主軸方位はN-135°-Eである。ピットはPit11×2.0×2.5の21基検出し、主柱穴はPit2・6の可能性があり、その他壁溝上にあるピットが支柱穴として機能した可能性がある。カマド脇のPit11がカマド脇ピット、堅穴南寄りの東・西壁側にSK-01・02の掘り方土坑がある。

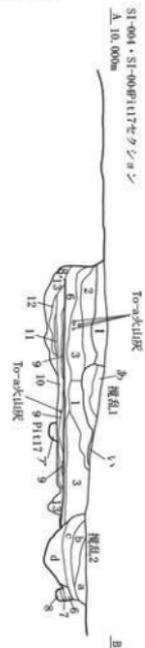
堆積土は攪乱を除き13層に分層し、廃絶後の堆積土は第1~8層が相当する。本堅穴はカマドが3段階に及ぶ変遷を経た堅穴であり、床面について

掘り方が再掘削され、貼り替えられるなど改築の要素が高い。堆積土中にT<sub>0</sub>-a火山灰を検出しているが、貼床の下や本遺構に切られているSK-110の堆積土中からも検出しており、堆積は降伏した土層が再堆積したものである。埋め戻しに伴う人為的要因が高い堆積である。

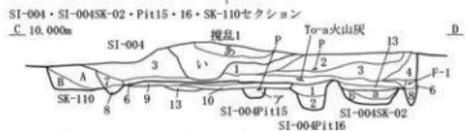
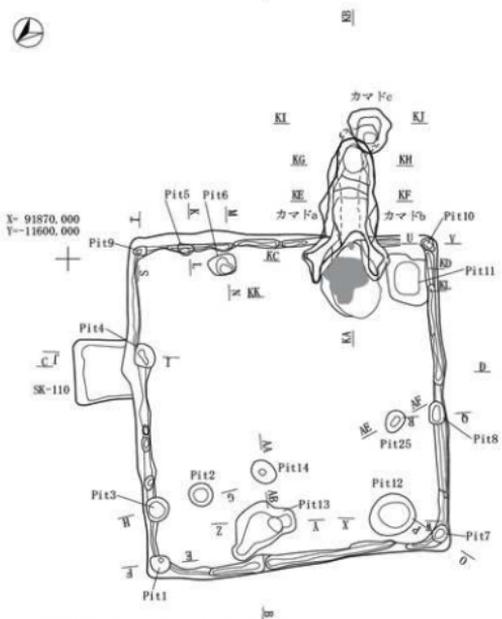
カマドは南3の位置から検出した。前述のとおり3段階の変遷を経たカマドで同一地点に構築されている。最終段階をカマドa、前段階をカマドb、初期段階をカマドcとして精査しており、主軸についてはほとんど変化がない。

カマドaは半地下で、袖部幅1105.0cm、煙道長1111.0cmを測る。前段のカマドbの煙道部を部分的に作り変えた形で、床面から

SI-004



X= 91867.754  
Y=11597.343



包含層	10TR2/2	黒褐色土
第1層	SI-004	黒褐色土
第2層	10TR3/3	暗褐色土
第3層	10TR2/2	黒褐色土
第4層	10TR4/2	灰黄褐色土
第5層	10TR4/2	灰黄褐色土
第6層	10TR3/3	暗褐色土
第7層	10TR3/2	暗褐色土
第8層	10TR4/3	にぶい黄褐色土
第9層	10TR3/4	暗褐色土
第10層	10TR4/3	にぶい黄褐色土
第11層	SK-02	暗褐色土
第12層	10TR5/4	赤褐色土
第13層	10TR5/4	にぶい黄褐色土
SK-02	10TR6/6	明黄褐色土
SK-110	SK-02	暗褐色土
SK-111	10TR3/4	暗褐色土
SK-112	10TR3/1	明黄褐色土
SK-113	10TR2/2	黒褐色土
SK-114	10TR2/2	暗褐色土
SK-115	10TR2/2	暗褐色土
SK-116	10TR2/2	暗褐色土
SK-117	10TR2/2	暗褐色土
SK-118	10TR2/2	暗褐色土
SK-119	10TR2/2	暗褐色土
SK-120	10TR2/2	暗褐色土

SI-004・SI-004SK-02・Pit15・16・SK-110セクション

バミス灰(φ1~5mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化灰(φ1~5mm)微量, 焼土粒(φ1~9mm)微量

バミス灰(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~30mm)多量, ローム粒(φ1~9mm)少量, L.R.(φ10~50mm)少量, 炭化灰(φ1~5mm)微量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, To-a火山灰微量

バミス灰(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~50mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)少量, L.R.(φ10~50mm)中量, 炭化灰(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~40mm)少量, To-a火山灰少量

バミス灰(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~90mm)多量, ローム粒(φ1~9mm)少量, L.R.(φ10~50mm)少量, 炭化灰(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, To-a火山灰中量

バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~3mm)微量

バミス灰(φ1~9mm)微量, バミスブロック(φ40mm)混入, To-a火山灰微量

バミス灰(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)少量, 炭化灰(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量, To-a火山灰少量

バミス灰(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~60mm)多量, ローム粒(φ1~9mm)多量, L.R.(φ10~100mm)多量, 炭化灰(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量, 灰床

バミス灰(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)微量, 炭化灰(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量, To-a火山灰少量, 灰床下

焼土層(焼熟灰), 灰床下

ローム層

バミス灰(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~50mm)多量, To-a火山灰少量, 灰床下

バミス灰(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~30mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)多量, L.R.(φ10~30mm)中量

バミス灰(φ1~9mm)多量, ローム粒(φ1~9mm)少量, L.R.(φ10~30mm)少量

バミス灰(φ1~9mm)少量, To-a火山灰(φ1~3mm)微量

バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ30mm)混入, ローム粒(φ1~3mm)微量

バミス灰(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~30mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~50mm)中量

バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~50mm)少量

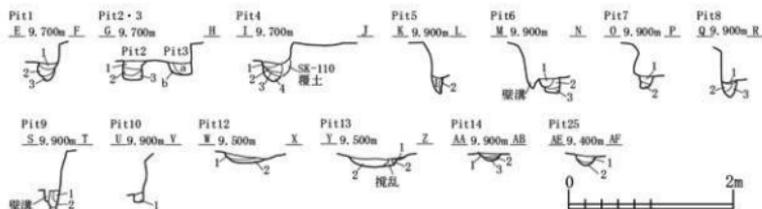
バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化灰(φ1~2mm)微量, To-a火山灰少量

バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~50mm)少量

バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量

バミス灰(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~50mm)少量, L.R.(φ50mm)混入

図 3-113 F-2区 SI-004-1



Pit1 第1層 第2層 第3層	10YR3/3 10YR3/3 10YR5/4	暗褐色土 にぶい黄褐色土 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)中量 バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量 バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~9cm)中量, L.R.(φ10~30cm)少量
Pit2 第1層 第2層 第3層	10YR3/4 10YR3/3 10YR4/4	暗褐色土 暗褐色土 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ0~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,火山灰少量 バミス灰(φ1~9cm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量 バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量
Pit3 第1層 第2層	10YR3/3 10YR4/4	暗褐色土 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量 バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量
Pit4 第1層 第2層 第3層 第4層 第5層	10YR3/4 10YR3/3 10YR3/3 10YR2/1 10YR3/3	暗褐色土 暗褐色土 暗褐色土 にぶい黄褐色土 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,To-a火山灰混入 バミス灰(φ1~9cm)中量,炭化粒(φ1~3mm)微量 バミス灰(φ1~9cm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量 バミス灰(φ1~9cm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量 バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ5mm)極微量
Pit5 第1層 第2層	10YR3/4 10YR3/3	暗褐色土 にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量 バミス灰(φ1~9cm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
Pit6 第1層 第2層 第3層	10YR3/3 10YR3/4 10YR3/3	暗褐色土 暗褐色土 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量 バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量 バミス灰(φ1~9cm)中量,ローム粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ5mm)極微量
Pit7 第1層 第2層	10YR3/3 10YR3/3	暗褐色土 にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量 バミス灰(φ1~3cm)少量,ローム粒(φ1~9cm)微量
Pit8 第1層 第2層 第3層	10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3	暗褐色土 にぶい黄褐色土 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)微量,ローム粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量 バミス灰(φ1~3cm)微量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,ローム粒(φ1~9cm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量 バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~9cm)中量
Pit9 第1層 第2層 第3層	10YR3/3 10YR3/3 10YR3/3	暗褐色土 にぶい黄褐色土 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~2mm)極微量;炭化粒(φ1~2mm)極微量 バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量 バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~3cm)中量
Pit10 第1層 第2層	10YR2/2 10YR3/3	暗褐色土 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~9cm)少量, L.R.(φ10~20cm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量
Pit11 第1層 第2層	10YR3/3 10YR4/6	暗褐色土 褐色土	ローム粒(φ1~9cm)少量, L.R.(φ10~20cm)少量,To-a火山灰混入 バミス灰(φ1~9cm)少量,ローム粒(φ1~9cm)少量,炭化粒(φ5mm)極微量
Pit13 第1層 第2層	10YR3/4 10YR3/3	暗褐色土 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,火山灰少量 バミス灰(φ1~9cm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量, L.R.(φ10~20cm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,To-a火山灰少量
Pit14 第1層 第2層 第3層 第4層	10YR2/2 10YR3/3 10YR3/3 10YR3/4	暗褐色土 暗褐色土 暗褐色土 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,To-a火山灰少量 バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,To-a火山灰少量 バミス灰(φ1~9cm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量 バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,To-a火山灰少量
Pit15 第1層 第2層 第3層	10YR3/4 10YR3/3 10YR3/3	暗褐色土 暗褐色土 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,To-a火山灰少量 バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ3~9mm)少量,To-a火山灰少量 バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ30cm)混入,炭化粒(φ1~3mm)微量,To-a火山灰混入
Pit25 第1層 第2層	10YR4/6 10YR4/6	褐色土 明黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化粒(φ3mm)極微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量 バミス灰

図3-114 F-2区 SI-004-2

50度の角度で立ち上がり、途中で角度を8度に変え、緩やかに立ち上がっている。

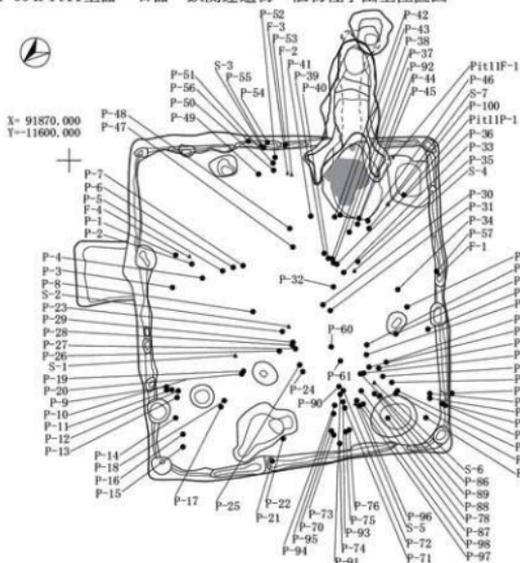
カマドbは、上面がカマドaにより削平を受けており、煙道のみの残存である。カマドa同様半地下式で、煙道長106.0cmを測る。カマドaに比べると緩やかに床面から26度の角度で立ち上がり、途中でほぼ平坦に角度を変え、奥壁側まで伸びている。煙道の床面は前段のカマドcの煙道天井に相当する地山面を削って構築しており、奥壁側に沈下している。

カマドcは構造が地下式で、煙道長156.0cmを測る。床面から20度の角度で傾斜して奥壁側に向い、ピット状に掘りこまれた煙道と合流する。煙出部は別に掘削されたようで、煙道側からの軸線

よりも西側に寄った位置で、煙出部は煙道よりも段状に下がった位置まで掘りこまれている。また、このカマドの廃絶後に同一地点上に半地下式のカマドが構築されている影響で、地下式の天井部は土圧により奥壁側に傾斜し、沈下した堆積状況を呈している。

出土遺物は26点図示した。F207は第3層出土の須恵器坏で、口径13.6cmを測る。海綿骨針をやや多く含む胎土で、外面の口唇部は青味強い青灰色、内面の口縁部は灰色気味の重ね焼き痕が残存し、内面の重ね焼き痕直下は赤灰色を呈する。口唇部は摩滅が顕著で器壁が見えている。破断面は比較的鋭利である。F208は第6層出土の須恵器広口蓋の口縁部片で口径16.0cmを測る。長

SI-004・SI-004Pit11土器・石器・鉄関連遺物・植物種子出土位置図



SI-004土器出土位置図2

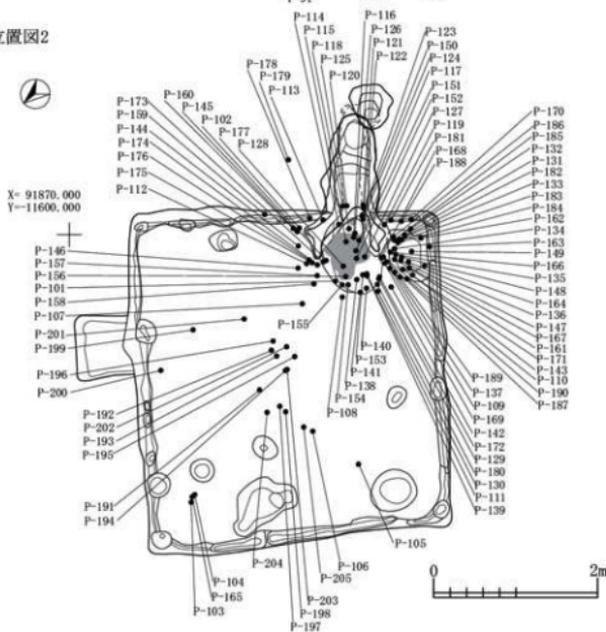
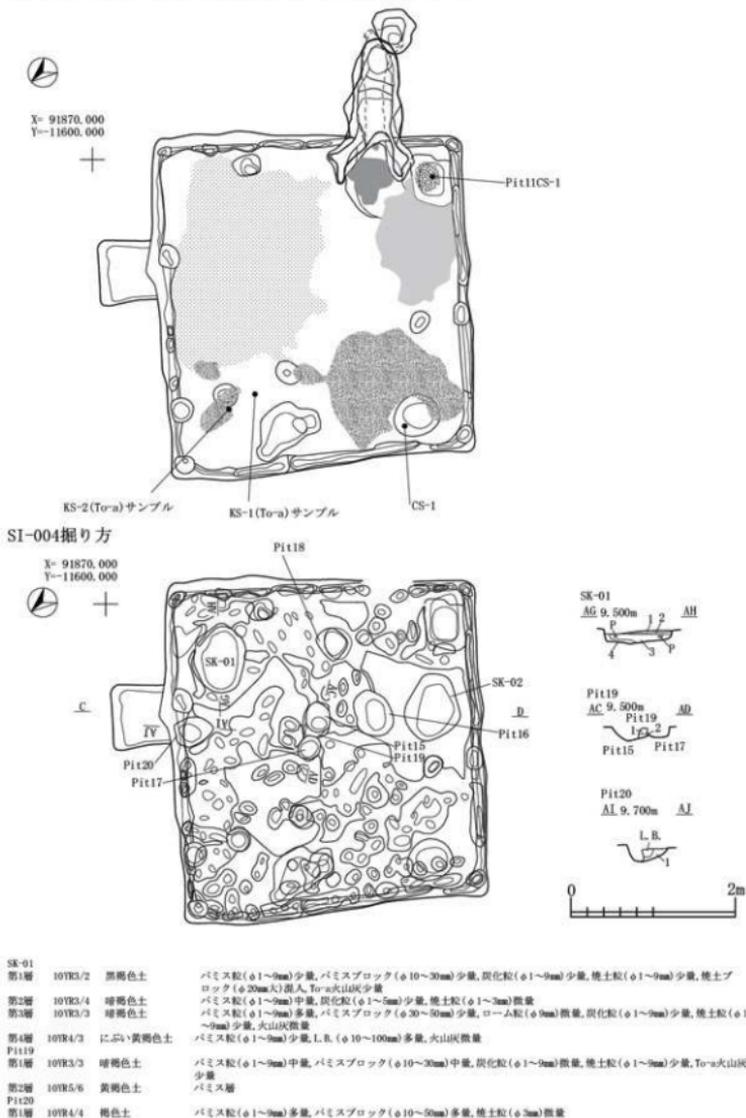


図 3-115 F-2 区 SI-004-3

SI-004炭・焼土・粘土・貼床範囲・炭・To-a火山灰サンプル



SI-004掘り方

SK-01	10YK3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ20mm大)混入,To-a火山灰少量
第2層	10YK3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第3層	10YK3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ30~50mm)少量,ローム粒(φ9mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,火山灰微量
第4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,L.R.(φ10~100mm)多量,火山灰微量
Pit19	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量,To-a火山灰少量
第2層	10YR5/6	黄褐色土	パミス層
Pit20	10YR4/4	褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~50mm)多量,焼土粒(φ3mm)微量

図 3-116 F-2 区 SI-004-4



SI-004カマドa・b・c

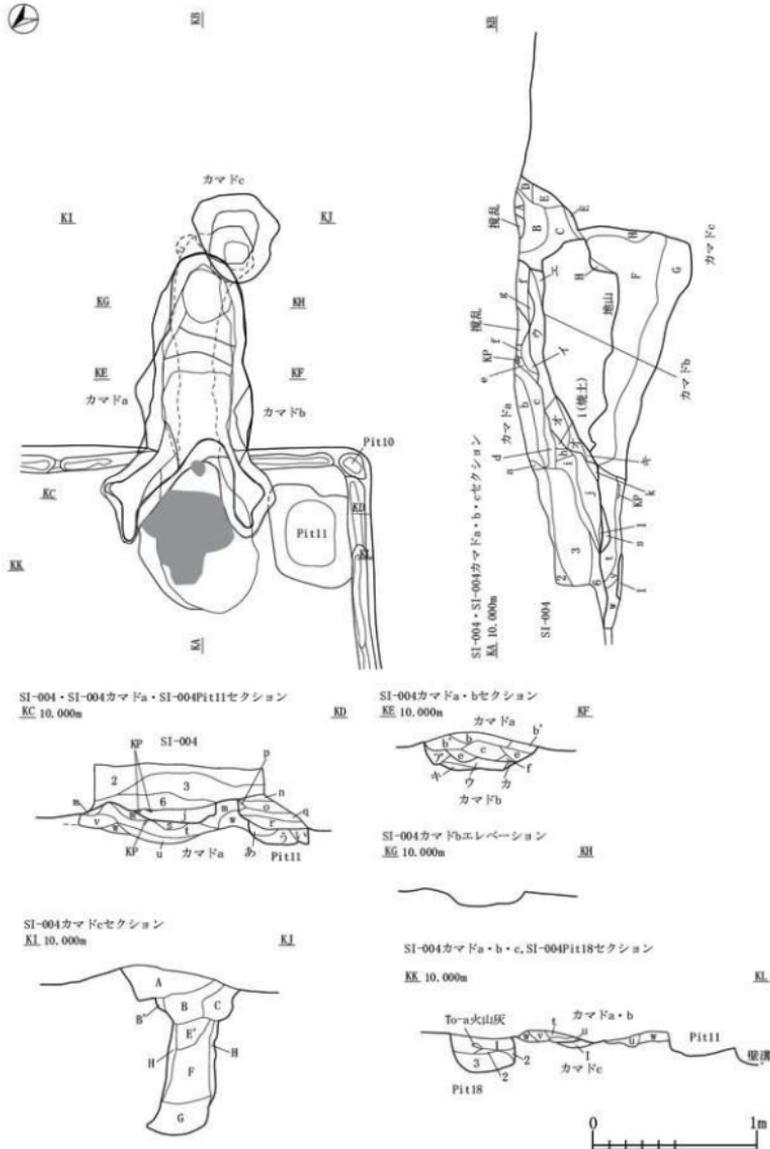


図 3-118 F-2 区 SI-004-6



SI-004

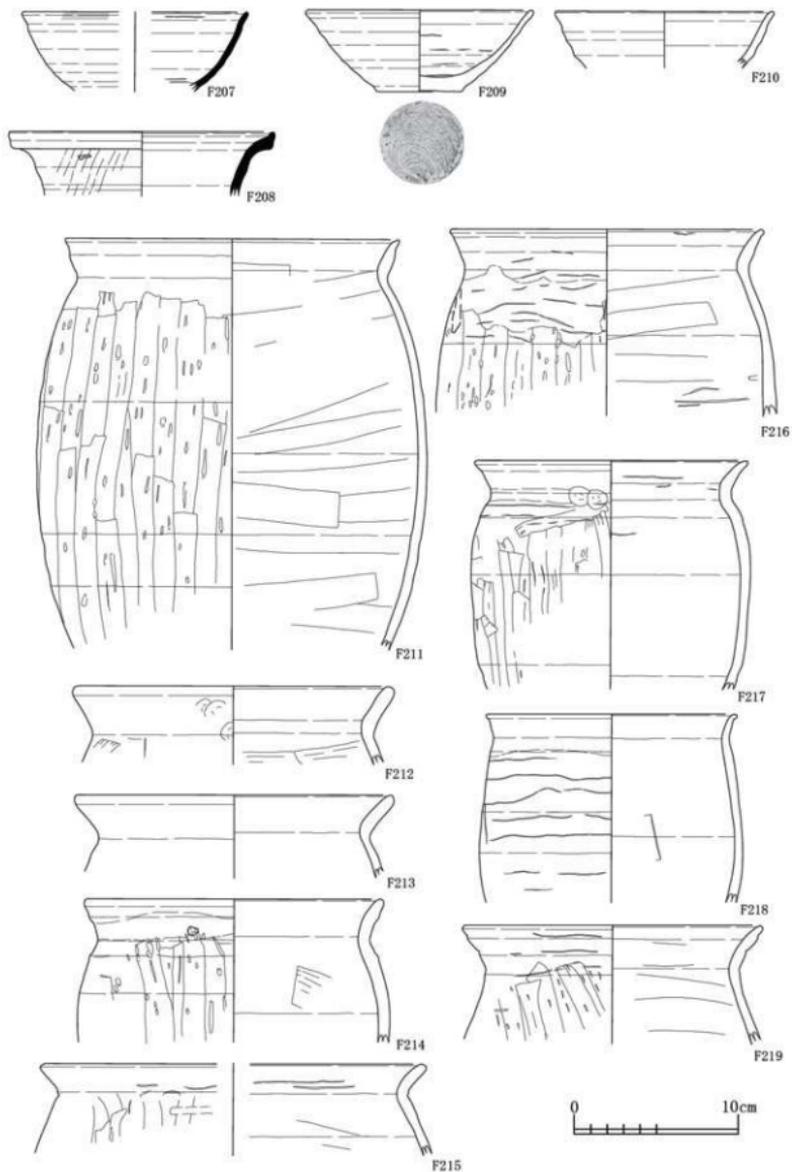


図 3-120 F-2 区 SI-004-8

石と海綿骨針を含む胎土で、断面は中心が淡茶褐色気味の色調で、内外面が灰色を呈する。外面側は降灰により灰分が細かい粒状に軸着しており、縁部部を中心に濃灰色を呈している。頸部は引き絞り痕状に浅い沈線を入れており、口ノナデにより撫で消しが行われている。破断面は銀白色であるが、外面の縁部部は摩滅が顕著で器壁が露出している。F 2 0 9 は第6・13層、カマダ a 第f層から出土した土師器甕で、口径13.6 cm、器高5.0 cm、底径5.2 cm、器高指数36.7、底径指数38.2を測る。出土位置から見ると最終段階より一段階前の時点で個体は存在していた状態と考えられ、底径・器高ともいずれも指数が40未満の資料である。砂礫をやや多く含む粘りのある資料で、出土位置の分散の影響で、破片ごとに摩滅・浸食の程度が異なり破断面に摩滅が顕著な破片がある。口唇部は丸みを帯び開き気味に立ち上がる器形で口縁部は直下に浅い稜段を付けることによって体部との境界を明瞭にしている。また内面はコテ当ての影響が右回転の砂粒の動きが顕著である。煮炊具のうちF 2 11はカマダ a・bおよびSK-01出土の土師器甕で、口径20.2 cmを測る。砂礫を多く含む粘りのやや弱い胎土で、外面に二次被熱と煤・炭化物付着により変色しているが、内面側は黄褐色を基調とする。外面体部上半に最大径があり、外面の調整は縦方向のヘラケズリ、内面は横方向のヘラによる調整で、内面のヘラは木口が部分的に残り、一部の調整痕はハゲム状を呈する。口縁部は頸部を強く撫で、口縁部と体部の境界を明瞭にさせようとしているが不均一で、一部の頸部と直接的に口縁部につながっている。口唇部は外側に突出させており、端部の内面側は内傾するように傾斜を付けている部分が見られる。外面体部中～下半にかけ煤・炭化物が付着しており、茶褐色気味に変色している。また、口縁～体部上半にかけ二次被熱により淡桃褐色気味に変色している。口唇部の一部も煤付着が見られる。出土地点は複数地点であるが、被熱や付着物は連続性があり、使用時の状態のまま破片化し分散したものと考えられる。煮炊具については頸部幅の短い資料も含まれるが、一部資料は口縁部の横ナデを明瞭にし、体部との境界を明瞭にさせているF 2 14についても同様で、口径18.0 cmを測る資料であるが、内面の頸部～体部にかけて煤・炭化物が残存部の全面に付着している。F 2 17は口径16.4 cmを測る資料であるが、粒径の大きな砂礫と海綿骨針をやや多く含む粘りのある胎土で、頸部を強く撫で、口縁部と体部の境界を明瞭にしており、体部上半と頸部の一部に強い指押さえが認められる。内面頸部にバンド状に煤付着が認められ、煮炊痕である。底部資料の第6層出土の

F 2 20は底径9.0 cmを測る。砂礫を含む粘りのある胎土で、底面は網状獣の木葉痕で、一部撫で消しが加わっている。底面～体部下半にかけ煤・炭化物付着があり、底面の一部は黒斑がある。内面側は残存部の全面が黒色化しており、煤・炭化物が付着している。F 2 21は第2・3・6層出土の土師器小甕で口径13.6 cm、器高10.3 cm、底径9.6 cmを測る。粒子の細かい砂粒を多く含むやや粘りのある胎土で、底部は重量感がある台形状に突出した端部を持ち底面は一部ヘラ調整が加わったナデ調整によるもので、中央が若干凹み周縁が高い状態になっている。体部下半が張り、口縁部は短頸であるが、内面側は「」の字に明瞭に屈曲させており、口唇部は面取りしている。内面頸部に煮炊痕がある。同じく第6層から出土した非クロコ小甕であるF 2 22は口径13.0 cmを測る。体部下半までの残存資料でF 2 21に比べても短頸で体部の張りが顕著な資料で、外面体部下半と内面頸部にバンド状の煤付着が認められる。内面の頸部直下～体部上半には黒斑がある。F 2 23は口径3.6 cmを測る。砂粒をやや含む粘りのややゆるい食膳具にも用いられる胎土で、頸部を内傾させ、口縁部を直立気味に立ち上げている。F 2 25は第5層出土の土師器場の破片資料で口径3.2.8 cmを測る。外面は輪積痕が残存し、内面側は体部側が剥落しているが、残存部は丁寧に撫で消されている。口縁はラッパ状に開き気味に外反させており、口唇部は輪積み部分を平滑に切り離した状態のままをそのまま口唇部としている。F 2 26～F 2 30は製塩土師の破片で、浮石混じりのやや粘りのある胎土が用いられており、底面の残存している資料はいずれも徑目状圧痕が観察される。内面側の器面の剥落が顕著である。F 2 31は第6層出土の土製支脚片で、上部径8.9 cmを測る。上部（製作時底部）側が破砕により残存が悪く中央が中空が中央かわからない状況である。破断面は摩滅が顕著で潰れている状況であるが、外面は破片化する前に煤が付着し淡黒化している。F 2 32は第6層出土の土玉で、長さ2.4 cm、幅1.0 cm、厚さ1.0 cmを測る。粘りのある胎土で、外面の約半分は黒斑が付いている状況である。丸玉状ではなく管玉状であるが、形がいびつで孔についても中央ではなく斜め気味で、一方は側縁側から貫通している状態である。

## SI-005 (図3-122・123)

X=91878.000, Y=11585.000付近で検出した。視乱により大部分が破壊されておらず、部分的な検出である。SX-013・016と重複しているが、SX-016よりは新しいが、SX-013について

## SI-004

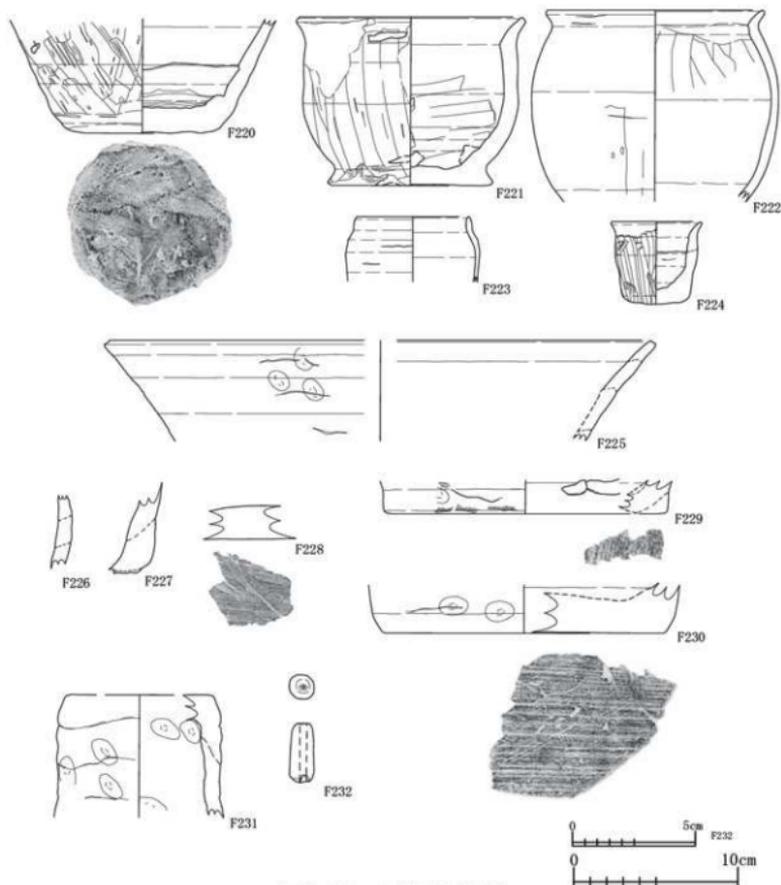


図 3-121 F-2 区 SI-004-9

ては攪乱部分での検出で詳細は不明である。

残存部の平面形は不整形を呈し、 $33.0.0 \times 32.0.0 \times 23.0$  cmを測る。主軸方位は $N-15.9^{\circ}-E$ である。

ピットは南西隅から検出した1基のみで、北西隅の対応する位置からの検出はなく、柱穴配置は不明である。また、壁溝はない。

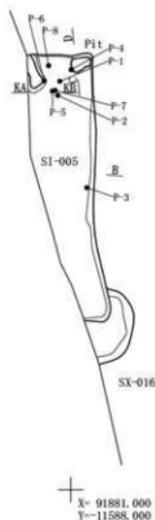
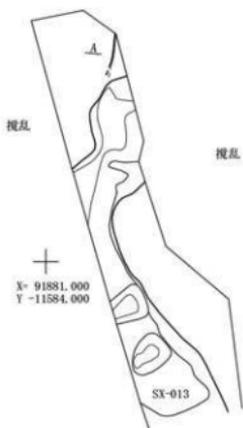
堆積土は上面の堆積は攪乱による影響でほとんど残存しておらず、掘り方の充填土のみの状態で、ブロック混じりの暗褐色土が貼床として充填されている。

カマドは南3・4の位置から検出した。右軸のみ

の検出でその他の構造は不明である。

出土遺物は床面から出土した土師器甕1点を図示した。口径は $21.8$  cmを測る。砂礫を多く含むやや粘りの弱い胎土で、楕円形気味の形状である。外面体部は輪積痕を残し、縦方向のヘラによる調整であるが、内面は頭部直下まで横位に木口の残る工具で調整されており、ハケメ痕が顕著に残る。頸部幅が広く口縁部を横方向に強く撫でることによって体部との区画を明瞭にしており、体部側からのヘラの調整はほとんど及んでいない。口唇端部は外側に鈔状に突出させ、外傾気味に面を作出させている。外面の器面の摩擦は激しく、内外面とも二次被熱が

SI-005

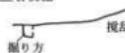


+

X= 91876.000  
Y = -11588.000

SI-005セクション

A 9.600m



SI-005掘土 B



Pitセクション

C 9.600m D



SI-005

掘り方 10YR4/3 暗褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~100mm)中量

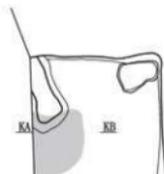
Pit

第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)微量

第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)少量



SI-005カマド



SI-005カマドセクション

KA 9.600m KB



SI-005カマド

第1層 7.5YR4/3 褐色土

パミス粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)少量

第2層 5YR4/3 にぶい赤褐色土(焼土層)

炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)多量

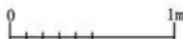


図 3-122 F-2 区 SI-005-1

SI-005掘り方

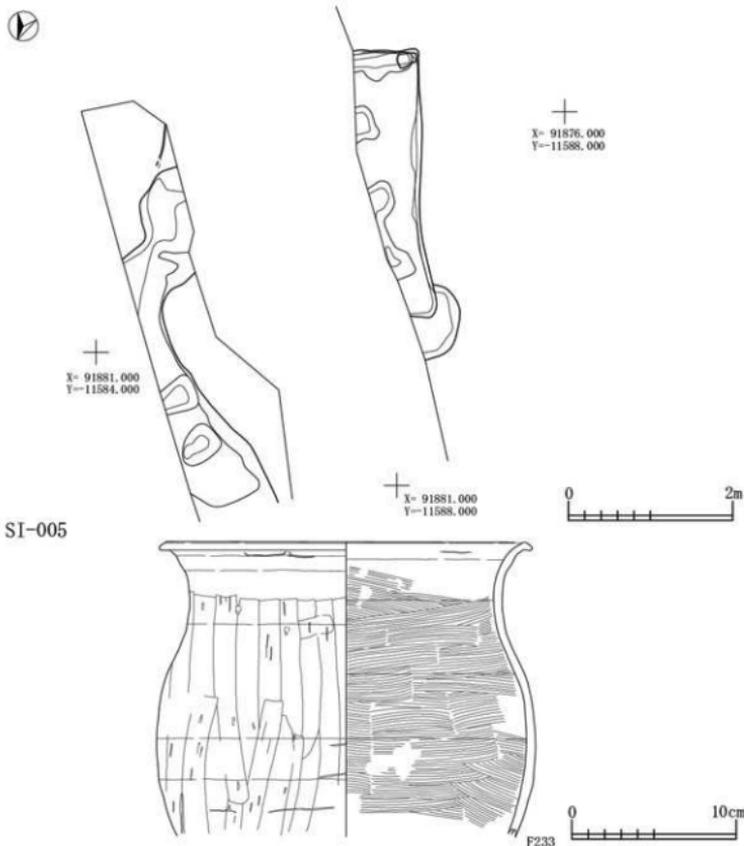


図 3-123 F-2 区 SI-005-2

生じた部分は色調が変色している。

SI-006・006b (図3-124～130)

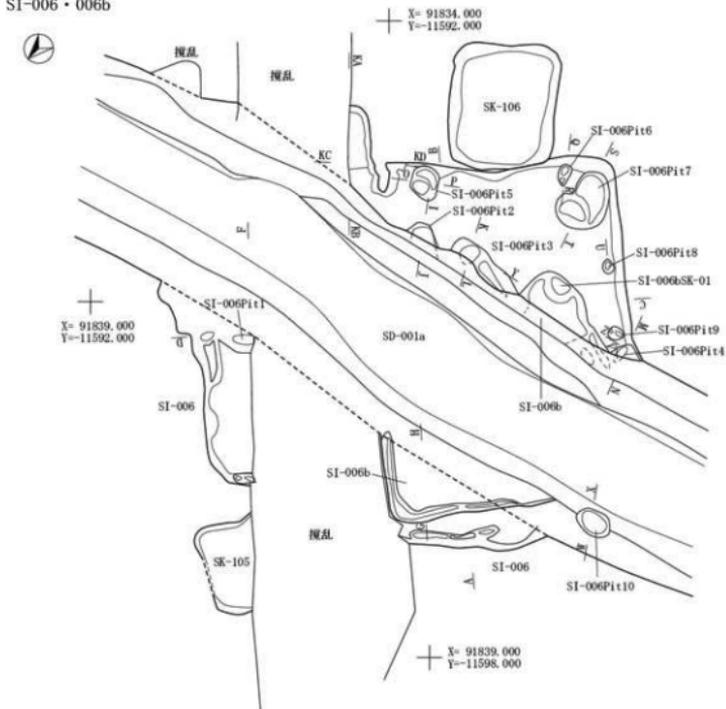
X=91836.000, Y=-11595.500 付近で検出した。SI-006とSI-006b, SD-001・001a (=2008年SD-002)と重複しており, SI-006b < SI-006 < SD-001 < SD-001a (=2008年SD-002)である。その他, SK-106が壁面と接しているが, 遺構の重複箇所以外に攪乱により破壊されている部分が多く残存状況が悪いため, 遺構側

の情報では詳細が不明である。

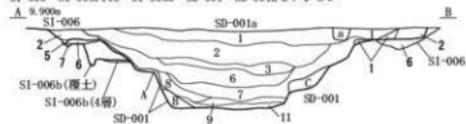
SI-006は不整形長方形を呈し, 570.0×471.0×17.0cmを測る。主軸方位はN-136°-Eである。中央がSD-001a・001によって切られているのと攪乱の影響で, 壁に関する情報が不足している。SI-006bの段階から北側と東側に拡張する形で構築されているようで, 平面形は不整形である。

ピットは堅穴内から10基検出しており, 一部SI-006bに帰属した可能性のあるピットも含まれるが, 壁際のPit5・6・

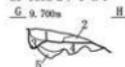
SI-006・006b



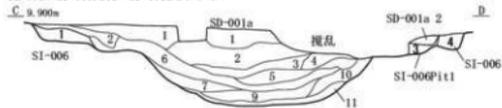
SI-006・SI-006Pit5・SI-006b・SD-001・SD-001aセクション



SI-006bセクション



SI-006・SI-006Pit1・SD-001aセクション



SI-006・SK-105・SD-001aセクション

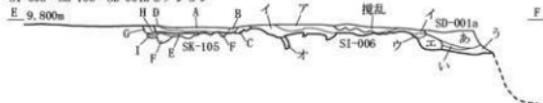
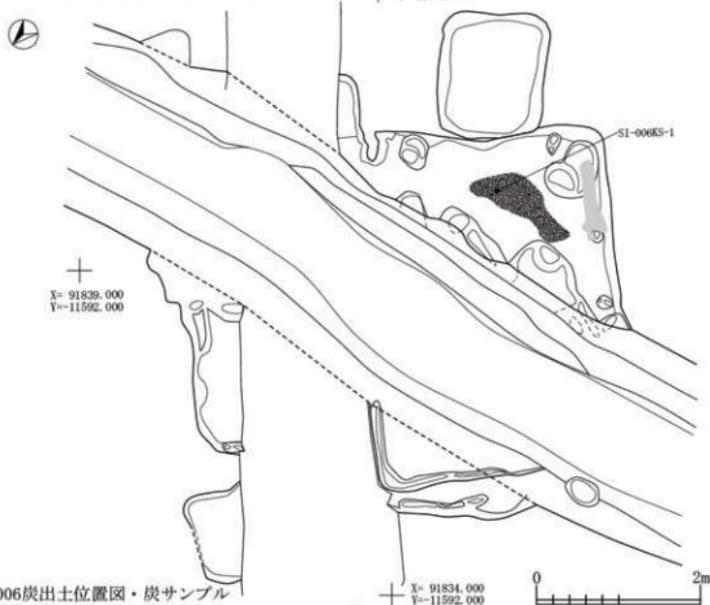


図 3-124 F-2区 SI-006・006b-1

写真  
F-2区

SI-006 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス灰(φ1~3mm)中量,パミスブロック(φ10~15mm)微量,炭化物(φ10~15mm)少量	第3層 10YR2/2 黒褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化物(φ10~15mm)少量
第2層 10YR3/4 暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)中量,炭化物(φ10~50mm)少量,Br-Ts火山灰ブロック油跡に埋積	第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化物(φ10~15mm)少量
第4層 10YR5/2 灰黄褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量	第5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,炭化物(φ10~20mm)微量
第5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス灰(φ1~9mm)微量,パミスブロック(φ10~20mm)微量	第6層 10YR7/6 明黄褐色土	パミスブロック(φ30~50mm)多量,にぶい黄褐色土10YR4/3少量
第6層 10YR7/6 明黄褐色土	パミスブロック(φ30~50mm)多量,にぶい黄褐色土10YR4/3少量	第7層 10YR3/4 暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量
第7層 10YR3/4 暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量	SI-006Pi11 第3層 10YR4/1 褐色土	パミス灰(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~30mm)多量
SI-006b 第1層 10YR3/4 暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~30mm)多量,炭化物(φ1~5mm)少量,To-c火山灰埋積	第2層 10YR5/6 黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土少量
第2層 10YR5/6 黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土少量	第3層 10YR3/4 暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)中量, L.R.(φ10~15mm)少量
第3層 10YR3/4 暗褐色土	パミスブロック(φ10~40mm), L.R.(φ10~30mm)微量, にぶい黄褐色土(10YR4/3)少量	第4層 10YR7/6 明黄褐色土	パミスブロック(φ10~25mm)少量,パミス灰(φ3~5mm)少量
第4層 10YR7/6 明黄褐色土	パミスブロック(φ10~25mm)少量,パミス灰(φ3~5mm)少量	第5層 7.0YR6/4 にぶい褐色土	パミスブロック(φ10~30mm)少量, L.R.層(φ10~30mm)
第5層 7.0YR6/4 にぶい褐色土	パミスブロック(φ10~30mm)少量, L.R.層(φ10~30mm)	SI-001 第A層 10YR6/4 にぶい黄褐色土	パミスブロック(φ10~30mm)多量
SI-001 第B層 10YR4/2 灰黄褐色土	パミス灰(φ1~5mm)多量, L.R.(φ10~20mm)多量,焼土粒(φ1mm)微量	第C層 10YR4/4 褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)少量(一部が砂の塊落土)
第C層 10YR4/4 褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)少量(一部が砂の塊落土)	第D層 10YR1/7 黒色土	炭化物(φ10~20mm)中量
SI-001a 第1層 10YR2/3 黒褐色土	パミス灰(φ1~9mm)微量,パミスブロック(φ10~15mm)微量,炭化物(φ10~15mm)少量	第E層 10YR3/2 暗褐色土	炭化物(φ10~20mm)中量
第2層 10YR4/2 灰黄褐色土	パミス灰(φ1~5mm)中量,パミスブロック(φ15~30mm)微量,炭化物(φ5~9mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量	第F層 10YR3/2 暗褐色土	炭化物(φ10~20mm)中量
SI-006Pi12	1 9.700m	SI-006Pi13	1 R. 9.700m
SI-006Pi14	1 M. 9.900m	SI-006Pi15	1 N. 9.800m
SI-006Pi16	1 P. 9.800m	SI-006Pi17	1 Q. 9.800m
SI-006Pi18	1 R. 9.800m	SI-006Pi19	1 S. 9.800m
SI-006Pi20	1 T. 9.800m	SI-006Pi21	1 U. 9.800m
SI-006Pi22	1 V. 9.800m	SI-006Pi23	1 W. 9.800m
SI-006Pi24	1 X. 9.800m	SI-006Pi25	1 Y. 9.800m
SI-006Pi26	1 Z. 9.800m	SI-006Pi27	1 AA. 9.800m
SI-006Pi28	1 AB. 9.800m	SI-006Pi29	1 AC. 9.800m
SI-006Pi30	1 AD. 9.800m	SI-006Pi31	1 AE. 9.800m
SI-006Pi32	1 AF. 9.800m	SI-006Pi33	1 AG. 9.800m
SI-006Pi34	1 AH. 9.800m	SI-006Pi35	1 AI. 9.800m
SI-006Pi36	1 AJ. 9.800m	SI-006Pi37	1 AK. 9.800m
SI-006Pi38	1 AL. 9.800m	SI-006Pi39	1 AM. 9.800m
SI-006Pi40	1 AN. 9.800m	SI-006Pi41	1 AO. 9.800m
SI-006Pi42	1 AP. 9.800m	SI-006Pi43	1 AQ. 9.800m
SI-006Pi44	1 AR. 9.800m	SI-006Pi45	1 AS. 9.800m
SI-006Pi46	1 AT. 9.800m	SI-006Pi47	1 AU. 9.800m
SI-006Pi48	1 AV. 9.800m	SI-006Pi49	1 AW. 9.800m
SI-006Pi50	1 AX. 9.800m	SI-006Pi51	1 AY. 9.800m
SI-006Pi52	1 AZ. 9.800m	SI-006Pi53	1 BA. 9.800m
SI-006Pi54	1 BB. 9.800m	SI-006Pi55	1 BC. 9.800m
SI-006Pi56	1 BD. 9.800m	SI-006Pi57	1 BE. 9.800m
SI-006Pi58	1 BF. 9.800m	SI-006Pi59	1 BG. 9.800m
SI-006Pi60	1 BH. 9.800m	SI-006Pi61	1 BI. 9.800m
SI-006Pi62	1 BJ. 9.800m	SI-006Pi63	1 BK. 9.800m
SI-006Pi64	1 BL. 9.800m	SI-006Pi65	1 BM. 9.800m
SI-006Pi66	1 BN. 9.800m	SI-006Pi67	1 BO. 9.800m
SI-006Pi68	1 BP. 9.800m	SI-006Pi69	1 BQ. 9.800m
SI-006Pi70	1 BR. 9.800m	SI-006Pi71	1 BS. 9.800m
SI-006Pi72	1 BT. 9.800m	SI-006Pi73	1 BU. 9.800m
SI-006Pi74	1 BV. 9.800m	SI-006Pi75	1 BV. 9.800m
SI-006Pi76	1 BW. 9.800m	SI-006Pi77	1 BX. 9.800m
SI-006Pi78	1 BY. 9.800m	SI-006Pi79	1 BY. 9.800m
SI-006Pi80	1 BZ. 9.800m	SI-006Pi81	1 CA. 9.800m
SI-006Pi82	1 CA. 9.800m	SI-006Pi83	1 CA. 9.800m
SI-006Pi84	1 CB. 9.800m	SI-006Pi85	1 CB. 9.800m
SI-006Pi86	1 CC. 9.800m	SI-006Pi87	1 CC. 9.800m
SI-006Pi88	1 CC. 9.800m	SI-006Pi89	1 CC. 9.800m
SI-006Pi90	1 CD. 9.800m	SI-006Pi91	1 CD. 9.800m
SI-006Pi92	1 CD. 9.800m	SI-006Pi93	1 CD. 9.800m
SI-006Pi94	1 CE. 9.800m	SI-006Pi95	1 CE. 9.800m
SI-006Pi96	1 CE. 9.800m	SI-006Pi97	1 CE. 9.800m
SI-006Pi98	1 CF. 9.800m	SI-006Pi99	1 CF. 9.800m
SI-006Pi100	1 CF. 9.800m	SI-006Pi101	1 CF. 9.800m
SI-006Pi102	1 CG. 9.800m	SI-006Pi103	1 CG. 9.800m
SI-006Pi104	1 CG. 9.800m	SI-006Pi105	1 CG. 9.800m
SI-006Pi106	1 CH. 9.800m	SI-006Pi107	1 CH. 9.800m
SI-006Pi108	1 CH. 9.800m	SI-006Pi109	1 CH. 9.800m
SI-006Pi110	1 CH. 9.800m	SI-006Pi111	1 CH. 9.800m
SI-006Pi112	1 CI. 9.800m	SI-006Pi113	1 CI. 9.800m
SI-006Pi114	1 CI. 9.800m	SI-006Pi115	1 CI. 9.800m
SI-006Pi116	1 CI. 9.800m	SI-006Pi117	1 CI. 9.800m
SI-006Pi118	1 CI. 9.800m	SI-006Pi119	1 CI. 9.800m
SI-006Pi120	1 CI. 9.800m	SI-006Pi121	1 CI. 9.800m
SI-006Pi122	1 CI. 9.800m	SI-006Pi123	1 CI. 9.800m
SI-006Pi124	1 CI. 9.800m	SI-006Pi125	1 CI. 9.800m
SI-006Pi126	1 CI. 9.800m	SI-006Pi127	1 CI. 9.800m
SI-006Pi128	1 CI. 9.800m	SI-006Pi129	1 CI. 9.800m
SI-006Pi130	1 CI. 9.800m	SI-006Pi131	1 CI. 9.800m
SI-006Pi132	1 CI. 9.800m	SI-006Pi133	1 CI. 9.800m
SI-006Pi134	1 CI. 9.800m	SI-006Pi135	1 CI. 9.800m
SI-006Pi136	1 CI. 9.800m	SI-006Pi137	1 CI. 9.800m
SI-006Pi138	1 CI. 9.800m	SI-006Pi139	1 CI. 9.800m
SI-006Pi140	1 CI. 9.800m	SI-006Pi141	1 CI. 9.800m
SI-006Pi142	1 CI. 9.800m	SI-006Pi143	1 CI. 9.800m
SI-006Pi144	1 CI. 9.800m	SI-006Pi145	1 CI. 9.800m
SI-006Pi146	1 CI. 9.800m	SI-006Pi147	1 CI. 9.800m
SI-006Pi148	1 CI. 9.800m	SI-006Pi149	1 CI. 9.800m
SI-006Pi150	1 CI. 9.800m	SI-006Pi151	1 CI. 9.800m
SI-006Pi152	1 CI. 9.800m	SI-006Pi153	1 CI. 9.800m
SI-006Pi154	1 CI. 9.800m	SI-006Pi155	1 CI. 9.800m
SI-006Pi156	1 CI. 9.800m	SI-006Pi157	1 CI. 9.800m
SI-006Pi158	1 CI. 9.800m	SI-006Pi159	1 CI. 9.800m
SI-006Pi160	1 CI. 9.800m	SI-006Pi161	1 CI. 9.800m
SI-006Pi162	1 CI. 9.800m	SI-006Pi163	1 CI. 9.800m
SI-006Pi164	1 CI. 9.800m	SI-006Pi165	1 CI. 9.800m
SI-006Pi166	1 CI. 9.800m	SI-006Pi167	1 CI. 9.800m
SI-006Pi168	1 CI. 9.800m	SI-006Pi169	1 CI. 9.800m
SI-006Pi170	1 CI. 9.800m	SI-006Pi171	1 CI. 9.800m
SI-006Pi172	1 CI. 9.800m	SI-006Pi173	1 CI. 9.800m
SI-006Pi174	1 CI. 9.800m	SI-006Pi175	1 CI. 9.800m
SI-006Pi176	1 CI. 9.800m	SI-006Pi177	1 CI. 9.800m
SI-006Pi178	1 CI. 9.800m	SI-006Pi179	1 CI. 9.800m
SI-006Pi180	1 CI. 9.800m	SI-006Pi181	1 CI. 9.800m
SI-006Pi182	1 CI. 9.800m	SI-006Pi183	1 CI. 9.800m
SI-006Pi184	1 CI. 9.800m	SI-006Pi185	1 CI. 9.800m
SI-006Pi186	1 CI. 9.800m	SI-006Pi187	1 CI. 9.800m
SI-006Pi188	1 CI. 9.800m	SI-006Pi189	1 CI. 9.800m
SI-006Pi190	1 CI. 9.800m	SI-006Pi191	1 CI. 9.800m
SI-006Pi192	1 CI. 9.800m	SI-006Pi193	1 CI. 9.800m
SI-006Pi194	1 CI. 9.800m	SI-006Pi195	1 CI. 9.800m
SI-006Pi196	1 CI. 9.800m	SI-006Pi197	1 CI. 9.800m
SI-006Pi198	1 CI. 9.800m	SI-006Pi199	1 CI. 9.800m
SI-006Pi200	1 CI. 9.800m	SI-006Pi201	1 CI. 9.800m
SI-006Pi202	1 CI. 9.800m	SI-006Pi203	1 CI. 9.800m
SI-006Pi204	1 CI. 9.800m	SI-006Pi205	1 CI. 9.800m
SI-006Pi206	1 CI. 9.800m	SI-006Pi207	1 CI. 9.800m
SI-006Pi208	1 CI. 9.800m	SI-006Pi209	1 CI. 9.800m
SI-006Pi210	1 CI. 9.800m	SI-006Pi211	1 CI. 9.800m
SI-006Pi212	1 CI. 9.800m	SI-006Pi213	1 CI. 9.800m
SI-006Pi214	1 CI. 9.800m	SI-006Pi215	1 CI. 9.800m
SI-006Pi216	1 CI. 9.800m	SI-006Pi217	1 CI. 9.800m
SI-006Pi218	1 CI. 9.800m	SI-006Pi219	1 CI. 9.800m
SI-006Pi220	1 CI. 9.800m	SI-006Pi221	1 CI. 9.800m
SI-006Pi222	1 CI. 9.800m	SI-006Pi223	1 CI. 9.800m
SI-006Pi224	1 CI. 9.800m	SI-006Pi225	1 CI. 9.800m
SI-006Pi226	1 CI. 9.800m	SI-006Pi227	1 CI. 9.800m
SI-006Pi228	1 CI. 9.800m	SI-006Pi229	1 CI. 9.800m
SI-006Pi230	1 CI. 9.800m	SI-006Pi231	1 CI. 9.800m
SI-006Pi232	1 CI. 9.800m	SI-006Pi233	1 CI. 9.800m
SI-006Pi234	1 CI. 9.800m	SI-006Pi235	1 CI. 9.800m
SI-006Pi236	1 CI. 9.800m	SI-006Pi237	1 CI. 9.800m
SI-006Pi238	1 CI. 9.800m	SI-006Pi239	1 CI. 9.800m
SI-006Pi240	1 CI. 9.800m	SI-006Pi241	1 CI. 9.800m
SI-006Pi242	1 CI. 9.800m	SI-006Pi243	1 CI. 9.800m
SI-006Pi244	1 CI. 9.800m	SI-006Pi245	1 CI. 9.800m
SI-006Pi246	1 CI. 9.800m	SI-006Pi247	1 CI. 9.800m
SI-006Pi248	1 CI. 9.800m	SI-006Pi249	1 CI. 9.800m
SI-006Pi250	1 CI. 9.800m	SI-006Pi251	1 CI. 9.800m
SI-006Pi252	1 CI. 9.800m	SI-006Pi253	1 CI. 9.800m
SI-006Pi254	1 CI. 9.800m	SI-006Pi255	1 CI. 9.800m
SI-006Pi256	1 CI. 9.800m	SI-006Pi257	1 CI. 9.800m
SI-006Pi258	1 CI. 9.800m	SI-006Pi259	1 CI. 9.800m
SI-006Pi260	1 CI. 9.800m	SI-006Pi261	1 CI. 9.800m
SI-006Pi262	1 CI. 9.800m	SI-006Pi263	1 CI. 9.800m
SI-006Pi264	1 CI. 9.800m	SI-006Pi265	1 CI. 9.800m
SI-006Pi266	1 CI. 9.800m	SI-006Pi267	1 CI. 9.800m
SI-006Pi268	1 CI. 9.800m	SI-006Pi269	1 CI. 9.800m
SI-006Pi270	1 CI. 9.800m	SI-006Pi271	1 CI. 9.800m
SI-006Pi272	1 CI. 9.800m	SI-006Pi273	1 CI. 9.800m
SI-006Pi274	1 CI. 9.800m	SI-006Pi275	1 CI. 9.800m
SI-006Pi276	1 CI. 9.800m	SI-006Pi277	1 CI. 9.800m
SI-006Pi278	1 CI. 9.800m	SI-006Pi279	1 CI. 9.800m
SI-006Pi280	1 CI. 9.800m	SI-006Pi281	1 CI. 9.800m
SI-006Pi282	1 CI. 9.800m	SI-006Pi283	1 CI. 9.800m
SI-006Pi284	1 CI. 9.800m	SI-006Pi285	1 CI. 9.800m
SI-006Pi286	1 CI. 9.800m	SI-006Pi287	1 CI. 9.800m
SI-006Pi288	1 CI. 9.800m	SI-006Pi289	1 CI. 9.800m
SI-006Pi290	1 CI. 9.800m	SI-006Pi291	1 CI. 9.800m
SI-006Pi292	1 CI. 9.800m	SI-006Pi293	1 CI. 9.800m
SI-006Pi294	1 CI. 9.800m	SI-006Pi295	1 CI. 9.800m
SI-006Pi296	1 CI. 9.800m	SI-006Pi297	1 CI. 9.800m
SI-006Pi298	1 CI. 9.800m	SI-006Pi299	1 CI. 9.800m
SI-006Pi300	1 CI. 9.800m	SI-006Pi301	1 CI. 9.800m
SI-006Pi302	1 CI. 9.800m	SI-006Pi303	1 CI. 9.800m
SI-006Pi304	1 CI. 9.800m	SI-006Pi305	1 CI. 9.800m
SI-006Pi306	1 CI. 9.800m	SI-006Pi307	1 CI. 9.800m
SI-006Pi308	1 CI. 9.800m	SI-006Pi309	1 CI. 9.800m
SI-006Pi310	1 CI. 9.800m	SI-006Pi311	1 CI. 9.800m
SI-006Pi312	1 CI. 9.800m	SI-006Pi313	1 CI. 9.800m
SI-006Pi314	1 CI.		

SI-006B-Tm火山灰・焼土範囲・B-Tm火山灰サンプル + X= 91834.000  
Y=-11592.000



SI-006炭出土位置図・炭サンプル

+ X= 91834.000  
Y=-11592.000

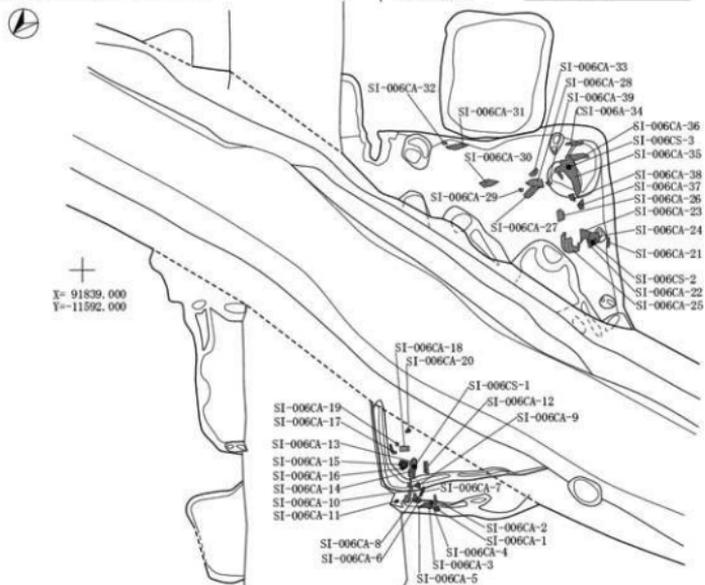


図 3-126 F-2区 SI-006・006b-3

SI-006土器・石器・SI-006Pit1鉄関連遺物・SI-006b土器・  
SI-006bSK-01土器・石器出土位置図

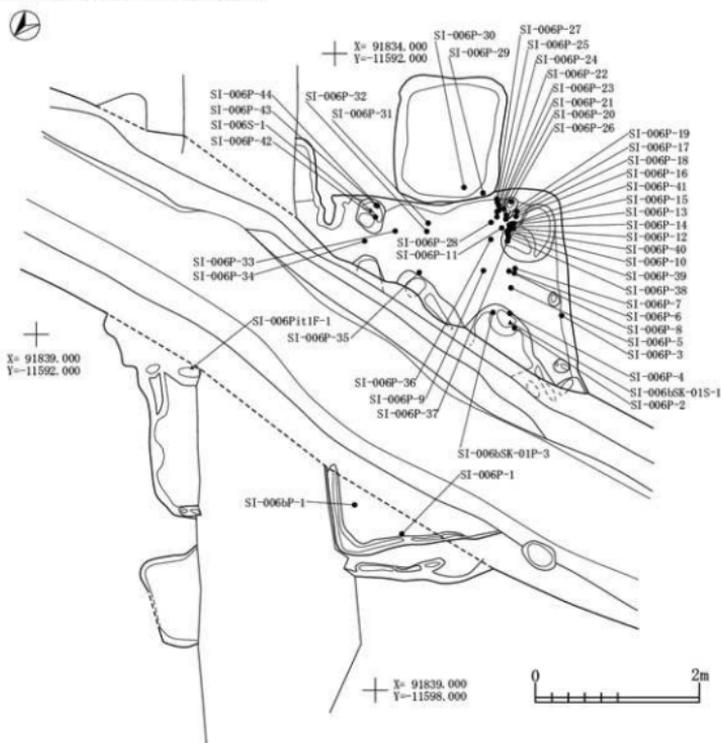


図 3-127 F-2 区 SI-006・006b-4

10が軸線に対応する柱穴配置となっている。壁溝は北壁と東壁の一部で部分的に検出し、西壁と南壁は柱穴のみの検出である。

堆積土は7層に分層し、ブロック混じりの土が堆積し、堅穴部を埋没させている第2層中からはB-Tm火山灰を面的に検出した。床面直上から炭化物を検出しており、廃棄に伴う焼成が行われている可能性が高い。

カマドは(南2)の位置から検出した。構造は平地式で、前庭部は右袖のみの検出で、煙道長77.0cmを測る。検出部分は粘土による構築で、芯材や支脚は出土していない。

SI-006bはSI-006の下から検出した長方形を呈する堅穴で、433.0×322.0×37.0cmを測る。主軸方位はN-130°-Eである。前述のとおり上面で検出したSI-006

のピットとして取り扱われたピットがほとんどで、SI-006b扱いは土坑扱いのSK-01のみである。壁溝が北壁と東壁の一部で検出しているが、西・南壁は新しい段階のSI-006同様検出していない。

堆積土は5層に分層し、第1層からT-o-a火山灰を粒状に検出している。

出土遺物は9点図示した。隣接するSK-106と重複するSD-001aにも遺物が分布しており、一部資料は遺構間接合資料となっている。F234はSI-006床直と第2層及びSK-106底面ならびにSD-001aから出土した須恵器長頸瓶の図上復元資料で、底径8.0cmを測る。底面が回転糸切で、胎土の色調は明灰色を基調とし、断面も濃灰色を呈し、頸部にリング突帯が付く。外面の残存部の約2/3程度は灰かぶりの状態

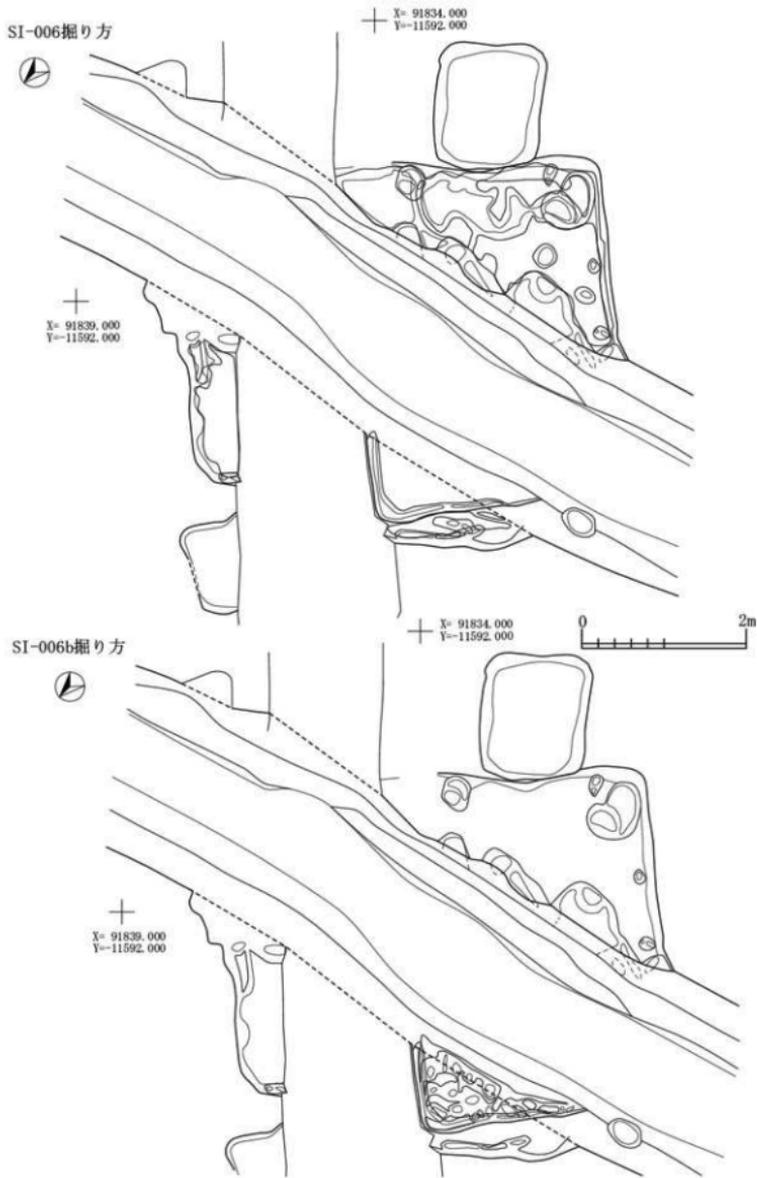


図 3-128 F-2 区 SI-006・006b-5

で自然釉が付着しており、内面の片面には頸部～体部下半まで灰の流入に伴う軸着物の付着が確認できる。廃棄に際し意図的に破砕され、内外面ともチップの生じるような剥離が生じ、肩部の一部では楕円形の打欠痕が残っている。F235はS1-006第2層、SK-106第1・2層と底面から出土した長頸瓶の体～底部にかけての資料で、底径8.2cmを測る。実質的にF234と図3-143に図示したSK-106単独出土の長頸瓶が一括廃棄された可能性が高い。本資料もF234と同様にリング付の突帯部を若干残し、その直上から体部上半の一部と底部側の一部を欠損して出土している。破片化した内面を細かく敲打で雨垂石状に凹凸を付けており、外面の肩部には楕円形状の打欠が同じ高さの部分に三箇所行われている。底面は菊花状削り、肩部には浅いへら記号がある。胎土は青緑がかった青灰色を呈し、五所川原産の可能性が高い。F236は第1・2層出土の土師器碗で、口径13.2cm、器高5.1cm、底径6.0cm、器高指数38.6、底径指数45.4を測る。浮石を含む砂粒をやや多く含む軽質な胎土で摩滅が顕著で、ザラザラした質感を有する。外面側は右上がりのロクロアザ痕が残存し、口唇端部は丸みを帯び聞き気味に立ち上がる。外底面は持ち上げの際の指の圧に伴う凹凸のまま完成している。また、内外面とも煤・炭化物付着が顕著で、特に内面口縁部にはバンド状に付着している。F237はPit5から出土した土師器碗で、口径14.2cmを測る。海綿骨針を含む粘りのある胎土で、焼成はやや軟質で淡褐色を呈する。内外面とも浅く間隔の狭い稜段が顕著で、口唇端部は内面側の口唇直下をやや強めに力を入れ、外面側の口唇端部直下で受けるように撫で上げ玉縁状に丸みを帯びさせており、浅い沈線を入れている。煮炊具のうちF238は床直及び第2層・覆土出土の土師器甕で頸部直下～底部にかけての残存で、底径9.4cmを測る。平底のロクロ系で、底面は無調整気味にしているが、中央を凹ませ、周縁をわずかに盛り上げるように撫で付けており、砂粒は付着していない。頸部直下～体部上半にかけて回転運動によるナデで整形しており、その後縦方向のへらケズリを施し調整している。内面は横位のナデによる調整である。外面体部上半よりやや上部まで粘土と煤・炭化物付着が見られ、底部から体部上半の一部は面的に炭化物のこびり付きが顕著な面がある。内面は体部上半よりやや下の位置で喫水線状の煤のこびり付きが見られる。F239は床面直上出土の土師器甕の底部で、底径8.8cmを測る。海綿骨針を含まず、砂礫の混入が少ない粘りのある胎土で、色調は褐色を基調とする。底部の円盤部分と体部側の粘土紐の接合部は部分的に段状にずれた

形状となっており、体部の器壁は比較的薄い。底面はへらによる調整で、ナデク状に粘土がこびり付いた底跡がある。外面は煤付着が顕著で、内面は汚れが付着している程度である。F240は床面および第1層出土の土師器小甕で口径12.4cm、器高14.0cm、底径6.0cmを測る。砂礫を多量含む粘りのやや弱い胎土で、淡黄褐色を基調とし、被熱箇所によっては灰黄褐色～淡褐色を呈する部分が見られる。ロクロ成形で、体部下～中半への変化点と体部中～上半への変化点の径があまり差がない状態で、口径に最大径を持つタイプである。製作時点で砂礫を多く含む胎土を選択しているため、食膳具の製作とは分けた資料である。内面の頸部に煮炊痕があり、頸部直下～体部下半にかけ同質の淡黒褐色の付着物が観察される。外面は体部下半に煤付着があり、他の部分は淡黒斑気味に色調が灰黄褐色に変色している。E241・E242は第1層出土の土師器碗の破片資料で、いずれも類似した器形・口径・胎土の特徴であることから同一個体の可能性が高い。口径は28.0cmを測る。砂粒をやや多く含む粘りのやや弱い胎土で、外面は二次被熱により橙桃褐色を呈する部分がある。また、E242の口唇部は淡黒斑化している。外面体部は粘土紐の接合部分に沿って剥落している。口唇端部は上面側を平滑気味にして外部側に突出させている。

#### S1-62 (図3-131～134)

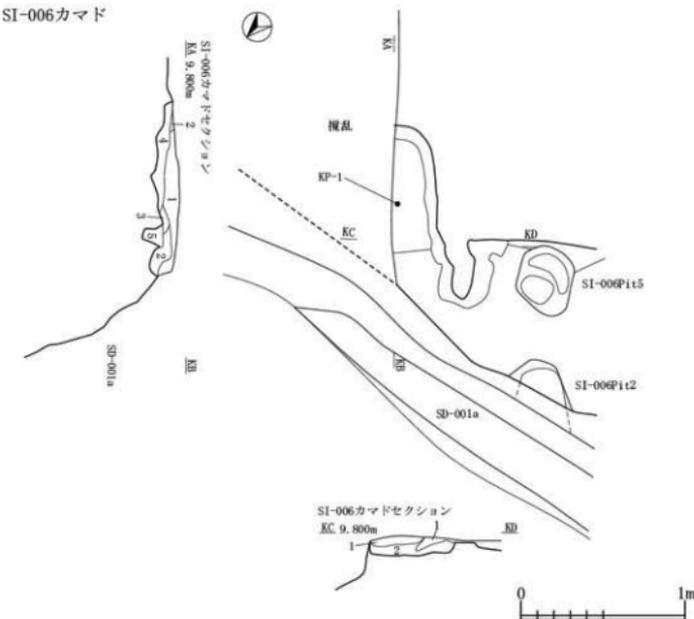
X=91873.500, Y=11576.000付近で検出した。東側をE区内で2005年に精査し、残りの部分を2009年にF2区内で精査しているため狭いずれが生じているが、平面形は不整形を呈し、565.0×400.0×26.0cmを測る。主軸方位はN-149°-Eである。SD-87が重複しており、本遺構の方が古い。

ピットは竪穴内から10基検出しているが、Pit8は主柱穴で、他にPit6・7は対応した柱穴配置で、壁溝上にはPit3・9・10等も主柱穴としての機能を果たし得る深さを有しているが、柱穴の可能性の高いPitと近接したものも存在する。中央にSK-01とした土坑があるが、2009年に記録したA-Bラインのセクション図では竪穴の堆積土を切る形で土坑の堆積土が記録されており、重複した土坑である可能性がある。

堆積土は2005年に記録されたE-Fラインでは15層、2009年に記録されたA-B・C-Dラインのセクション図では第a～g層の7層に分層されている。ブロック混じりの一部埋め戻しの伴う堆積で、B-Tm火灰が粒状に混入し堆積している。

カマドは南3の位置から検出した。火床面のみの

## SI-006カマド



## SI-006カマド

第1層	101W/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)多量,パミスブロック(φ20~30mm)中量,焼土ブロック(φ20~50mm)中量
第2層	101W/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)中量,焼土粒(φ3~5mm)少量
第3層	101W/4	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1mm)少量
第4層	101W/4	褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~50mm)中量
第5層	101W/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ3~5mm)中量

図 3-129 F-2区 SI-006・006b-6

検出で袖や芯材・支脚等の構築材は残存していない。地下式の場合煙道が傾斜するため、火床面より下から検出可能なことを考慮すると、木遣構のカマドについては半地下式であった可能性が高い。

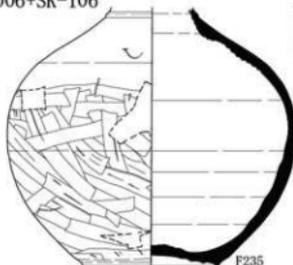
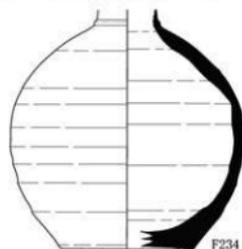
出土遺物は6点図示した。F243はPit8第2層から出土した土師器甕で、口径14.4cmを測る。粒子の細かい赤色粒をやや多く含む褐色を呈する粘りのある胎土で、焼成は若干軟質であるが良好品である。口縁部は間隔の狭いロクロナデを加えることによって浅く外反させており、口唇端部は先細り気味に作出しているが、一部は面的に当たった痕跡があり、潰れている。内面には浅い斜線状の刻線が一条入っており、ある程度乾燥が進んだ時点で入れられた可能性が高い。F244はカマド出土の土師器甕の口縁部片で、口径23.4cmを測る。浮石などの砂礫を多量含む粘りの弱い胎土で、ガラガラした質感を有する。内面側は器壁が浸食されており、砂粒が顕著に浮き上がっている。外面の口唇部直下には煤が付着し、頸部側は二次被熱が生じている。F245・F246はSK-01から出

土した同一個体の土師器甕で口径16.0cmを測る。F246側の方が二次被熱が顕著で、器面の摩擦が著しく橙褐色を呈する。F245側は被熱の程度が部分的で内外面とも黒斑が見られ、褐色を呈する。F247・F248は製塩土器で、Pit8第3層出土のF247が口縁部資料、第6層出土のF248が底部資料に相当する。口縁部資料は口径19.8cmを測る。粒子の細かい砂粒をやや多く含むやや粘りのある胎土で、外面は輪積痕を顕著に残し、内面側は頸部の一部で残存しながらも他は撫で消されている。内外面とも二次被熱が顕著で、色調は淡橙褐色から赤橙褐色気味に変色している部分が多い。F248は底部資料で、底面には柵目状圧痕が観察され外面側には砂粒付着が顕著で、指押さえの跡が観察される。二次被熱で温度がかなり上がった状態で、赤橙褐色～淡桃褐色～白褐色に変色した部分が見られる。内面側は剥落しており、粘土の接合痕に沿って剥落している。

F-2区

SI-006+SK-106+SD-001a

SI-006+SK-106



SI-006

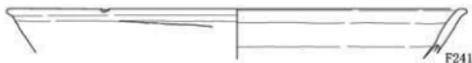
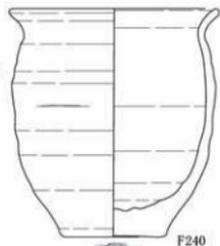
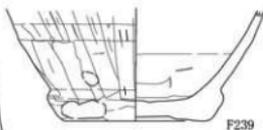
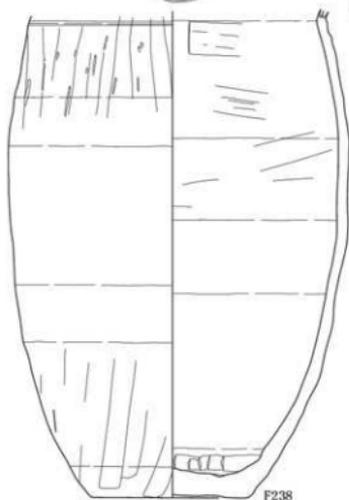
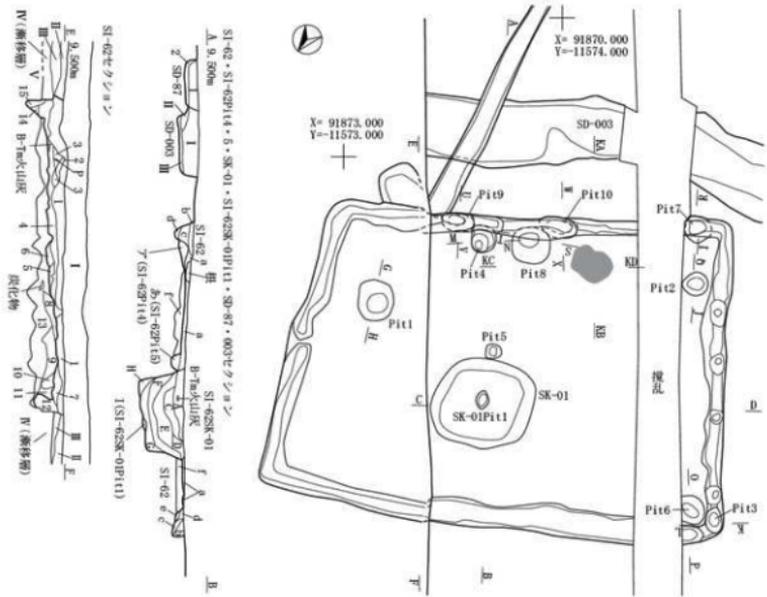


図 3-130 F-2区 SI-006・006b-7

W-1  
F-2区

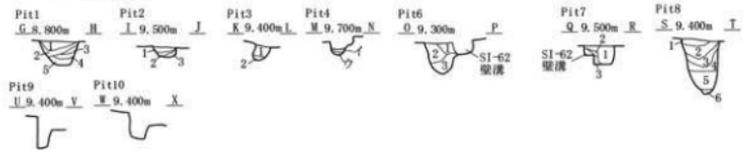
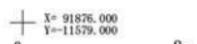
SI-62



SI-62・SI-62SK-01・SI-62SK-01Pit11セクション



D E区 ⇄ F-2区



SI-62	10YR2/1	黒色土
第1層	10YR2/2	黒褐色土
第2層	10YR2/2	黒褐色土
第3層	10YR2/1	黒褐色土
第4層	10YR2/1	黒褐色土
第5層	10YR3/4	暗褐色土
第6層	10YR2/3	黒褐色土
第7層	10YR2/3	黒褐色土
第8層	10YR3/4	暗褐色土
第9層	10YR3/1	黒褐色土
第10層	10YR2/2	黒褐色土
第11層	10YR2/3	黒褐色土
第12層	10YR2/2	黒褐色土
第13層	10YR4/4	暗褐色土
第14層	10YR2/3	黒褐色土
第15層	10YR3/3	暗褐色土
柱本層序		
第I層	10YR2/1	黒色土
第II層	10YR2/1	黒色土
第III層	10YR2/2	黒褐色土
第IV層	10YR3/4	暗褐色土
第V層	10YR5/6	黄褐色土

パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)少量,焼土ブロック(φ20mm)極微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)極微量,焼土粒(φ7~9mm)極微量  
 パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~35mm)微量,炭化粒(φ5~9mm)微量,炭化物(φ10~15mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ5~9mm)極微量  
 パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,炭化物(φ15mm)極微量,焼土粒(φ1~2mm)少量  
 パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)極微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)極微量  
 パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)極微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~140mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)極微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒

図 3-131 F-2区 SI-62-1

SI-62 第1層 10TR/3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量
SI-62壁溝 第1層 10TR/3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/4/3	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ3~5mm)微量
SI-62掘り方 第1層 10TR/5/4	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~100mm)中量
第1層 10TR/5/8	黄褐色土	パミス層
PI14 第1層 10TR/3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~12mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
PI15 第1層 10TR/4/3	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SI-62S-01 第1層 10TR/2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,0-7m火山灰少量
第1層 10TR/2/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~2mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)少量,炭化粒(φ3~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/4/3	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ3~9mm)少量
第1層 10TR/4/4	褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~50mm)中量,炭化粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第1層 10TR/4/5	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ10~200mm)多量,焼土粒(φ1~9mm)少量
第1層 10TR/2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)少量
第1層 10TR/4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~50mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)微量
SI-62S-01PI11 第1層 10TR/4/3	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量
SI-003 第1層 10TR/3/2	黒褐色土	パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ3~5mm)微量,パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)少量,Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 少量
第1層 10TR/3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ5mm)混入
SI-87 第1層 10TR/2/1	黒色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第1層 10TR/3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)少量
PI11 第1層 10TR/2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,パミスブロック(φ15~20mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/2/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第1層 10TR/5/6	黄褐色土	パミス層
第1層 10TR/2/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量,パミスブロック(φ10~20mm)微量
第1層 10TR/3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)微量
PI12 第1層 10TR/2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)中量,焼土ブロック(φ10~12mm)少量
第1層 10TR/2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第1層 10TR/4/3	にがい黄褐色土	ローム粒(φ3~5mm)微量,パミス粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量
PI13 第1層 10TR/2/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量
第1層 10TR/3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/2/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第1層 10TR/3/1	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)中量
第1層 10TR/4/3	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,1.B.(φ10~50mm)少量
第1層 10TR/3/1	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
PI18 第1層 10TR/4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)中量,焼土ブロック(φ10~30mm)少量
第1層 10TR/4/3	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第1層 10TR/5/4	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第1層 10TR/5/6	黄褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量
第1層 10TR/3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量

SI-62

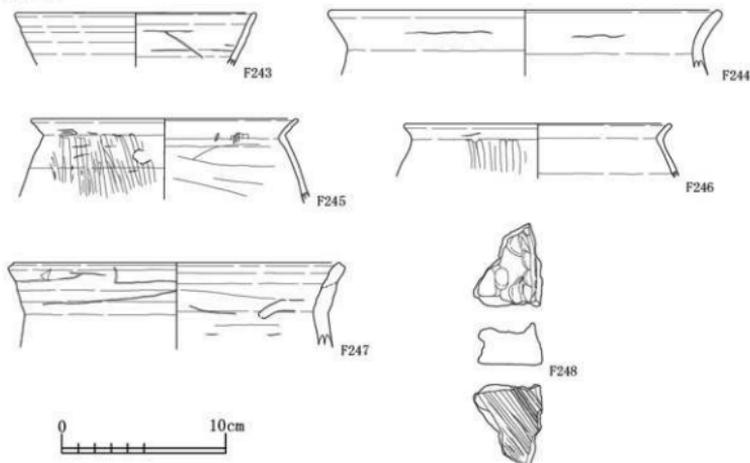
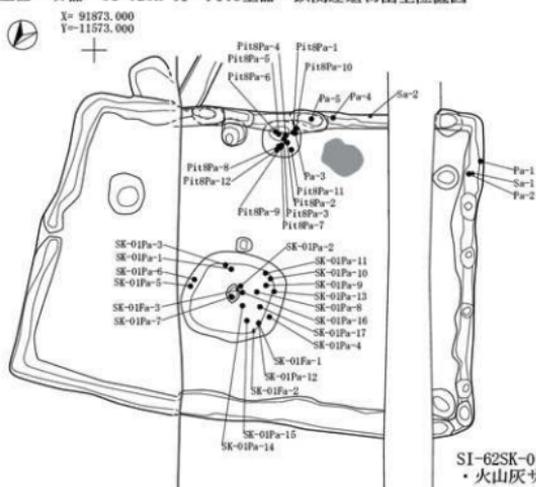


図 3-132 F-2 区 SI-62-2

SI-62土器・石器・SI-62SK-01・Pit8土器・鉄関連遺物出土位置図



SI-62掘り方

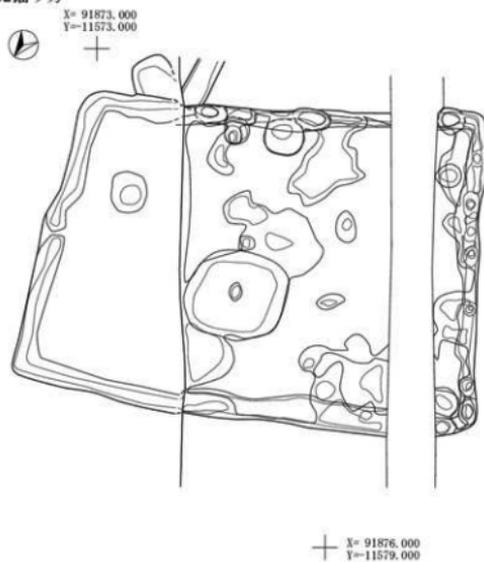
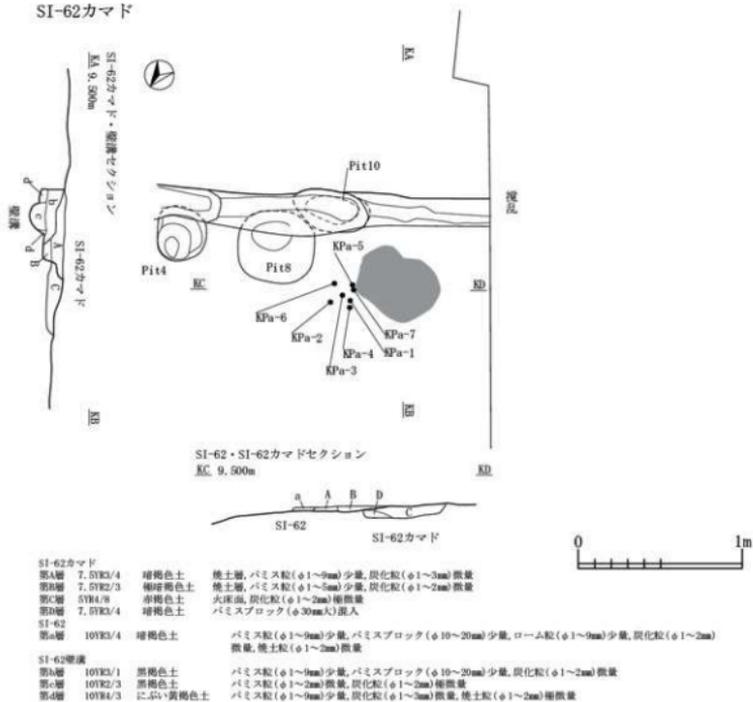
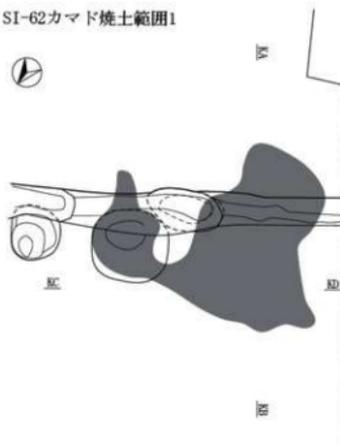


図 3-133 F-2区 SI-62-3

SI-62カマド



SI-62カマド焼土範囲1



SI-62カマド焼土範囲2

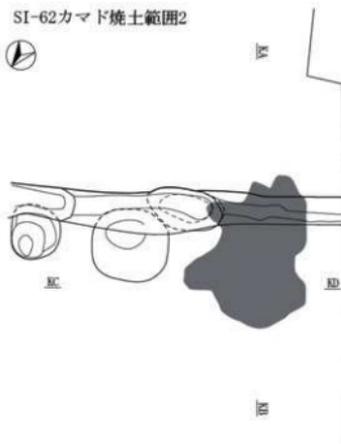


図3-134 F-2区SI-62-4

## 2. 土坑

## SK-0001 (図3-135)

X=91787.200, Y=-11644.800 付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、 $185.0 \times 156.0 \times 35.0$  cmを測る。断面形は鍋底形で、壁の途中で角度を変え開き気味に立ち上がっている。堆積土は4層に分層し、流れ込みを含む自然堆積状況を呈する。出土遺物は覆土中から薄手で軟質な無文の縄文土器1点を図示した。外面は縦方向のミガキで、内外面とも煤が付着しており、内面側は炭化物のこびり付きが顕著である。詳細時期は不明である。

## SK-0002 (図3-135)

X=91785.900, Y=-11646.900 付近で検出した。SP-0070と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は不整形を呈し、 $116.0 \times 63.0 \times 37.0$  cmを測る。断面形は柱穴状で、堆積状況も柱穴の埋め戻しに伴う人為的な堆積状況で、柱穴として利用されたものと考えられる。

## SK-0003 (図3-135)

X=91782.400, Y=-11656.000 付近で検出した。平面形は小判形を呈し、 $141.0 \times 75.0 \times 23.0$  cmを測る。断面形は若干傾斜があり、壁の一部は袋状、一部は緩やかに立ち上がる形状である。堆積土は6層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

## SK-0004 (図3-135)

X=91727.000, Y=-11685.600 付近で検出した。平面形は不整形四角形を呈し、 $125.0 \times 118.0 \times 9.0$  cmを測る。断面形は若干凹凸があり、壁の一部は袋状、開き気味に立ち上がる形状である。堆積土は3層に分層し、第2層は炭層で、本遺構は製炭土坑である。炭層の上に堆積する第1層中にはB-Tm火山灰が混入している。

## SK-0006 (図3-136)

X=91739.000, Y=-11702.000 付近で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、 $167.0 \times 153.0 \times 24.0$  cmを測る。断面形は箱形で、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は5層に分層し、底面直上に堆積する第5層は炭化物の堆積層で、本遺構は製炭土坑である。炭層の上に堆積する第3層中にB-Tm火山灰が混入している。

## SK-0007 (図3-136)

X=91747.500, Y=-11703.500 付近で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、 $178.0 \times 153.0 \times 32.0$  cmを測る。断面形は箱形で、中央より

南西側の部分にビット状の掘り方の落ち込みがあり、深さは $53.0$  cmを測る。壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は10層に分層し、掘り方充填にはバミスブロック主体の土が充填されている。底面直上に堆積する第5～9層中に炭化物と焼土を検出しており、本遺構内で焼成された可能性が高い。上面の第2層中にはB-Tm火山灰が混入している。

## SK-0011 (図3-136)

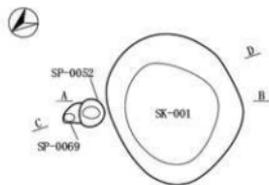
X=91771.800, Y=-11633.800 付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、 $215.0 \times 138.0 \times 57.0$  cmを測る。断面形は段状に立ち上がる形で、西側と南側の一部が袋状に入り込んでいる。壁は袋状に入り込む部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は9層に分層し、壁際は崩落に伴う流れ込みの堆積で、自然堆積状況を呈する。

## SK-0012 (図3-137～139)

X=91860.800, Y=-11618.600 付近で検出した。SI-001・001bの項目で記述したが、SI-001内SK-001の上面にSI-001の埋没過程の途中で再掘削された部分をSK-0012として取り扱っている。平面形は不整形四角形を呈し、 $127.0 \times 105.0 \times 38.0$  cmを測る。断面形は楕円形で、壁は開き気味に緩やかに立ち上がる。垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は7層に分層し、流れ込みの伴う堆積状況である。B-Tm火山灰は下位にあるSK-001内から検出したものが主である。また、焼土と炭化物を下位から検出しているが、本遺構扱いのものではなく、火山灰同様にSK-001に帰属する資料である。

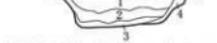
出土遺物は覆土上の6点を図示したが、重複するSI-001SK-001に帰属した可能性の高い資料である。F250は土師器碗で口径 $12.8$  cm、器高 $5.4$  cm、底径 $5.8$  cm、器高指数 $42.1$ 、底径指数 $45.3$ を測る。砂粒をやや多く含むやや粘りのある胎土で、器面と破断面の磨耗が著しい。F251・F252は土師器非口器で、F251は摩滅が顕著な資料で、口径 $23.0$  cmを測る。浮石や粒子の細かな砂粒をやや多く含むやや粘りの弱い胎土で、外面体部は乱雑なヘラケズリに加えて、工具の先端で刺突したり、工具の部分的な面を当てて、狭い工具痕を残している。内面側の体部はヘラによる調整であるが、一部木口痕がありハケメ状に観察できる部分がある。内面側の屈曲を「く」の字状にさせ、頸部を意識的に撫でることによって口唇部直下の外反をやや強めにさせている。外面口縁部に白色付着物があり、外面体部

SK-001



SK-001セクション

A. 8.700m

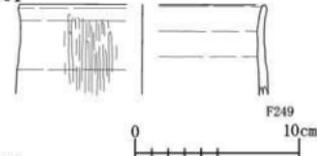


SP-0052・0069・SK-001エレベーション

C. 8.700m



SK-001

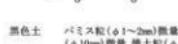


SK-003



SK-003セクション

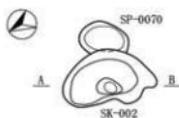
A. 8.800m



SK-003

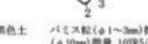
- 第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~2mm)微量,パミスブロック(φ10mm)微量,焼土粒(φ3~5mm)微量
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 パミス粒(φ1~2mm)微量,パミスブロック(φ10mm)少量,10YR3/2黒褐色土ブロック(φ10~15mm)微量
- 第3層 7.5YR1.7/1 黒色土 7.5YR6/3に多い褐色土ブロック(φ10~20mm)少量,10YR6/1灰白土ブロック(φ10mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量
- 第4層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~5mm)中量,10YR3/2黒褐色土ブロック(φ10~15mm)少量
- 第5層 7.5YR3/1 黒褐色土 5YR3/6球赤褐色の鉄分の多い土粒(φ3~5mm)微量,パミス粒(φ1~5mm)中量
- 第6層 7.5YR4/1 焼灰色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,7.5YR4/2灰褐色の粘りのある土ブロック(φ10~20mm)微量

SK-002



SK-002セクション

A. 8.700m



SK-001

- 第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~3mm)微量,パミスブロック(φ10mm)微量,10YR5/6黄褐色土粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ3~5mm)微量,炭化粒(φ5~9mm)微量
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 7.5YR5/3に多い褐色土粒(φ5~9mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,パミス粒(φ1~3mm)微量,パミスブロック(φ10mm)微量
- 第3層 2.5Y2/1 黒色土 10YR8/2灰白色土粒(φ3~5mm)微量,褐色ブロック(φ10mm)微量
- 第4層 7.5YR2/1 黒色土 7.5YR4/2灰褐色土粒(φ1~9mm)少量,ブロック(φ10~20mm)少量,パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~15mm)少量

SK-002

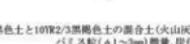
- 第1層 10YR2/1 黒色土 7.5YR4/2灰褐色土ブロック(φ30×30mm)大量,10YR7/3に多い黄褐色土ブロック(φ20~30mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量,5YR3/1黒褐色土ブロック(φ10~15mm)少量
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/3に多い黄褐色土粒(φ3~5mm)微量
- 第3層 7.5YR2/1 黒色土 10YR6/2灰黄褐色土粒(φ1~3mm)微量,パミスブロック(φ15~20mm)微量
- 第4層 7.5YR3/1 黒褐色土 7.5YR4/3褐色土ブロック(φ15~20mm)少量,鉄分が多い土粒(φ3~5mm)微量

SK-004



SK-004セクション

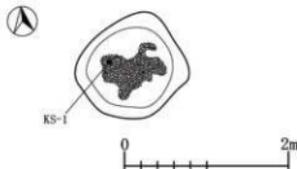
A. 11.500m



SK-004

- 第1層 10YR2/1黒色土と10YR2/3黒褐色土の混合土(火山灰層) パミス粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,火山灰(B-7a)中量
- 第2層 10YR1.7/1 黒色土 (炭層) パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ2~3mm)微量
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量

SK-004B-Tm火山灰範囲・火山灰サンプル



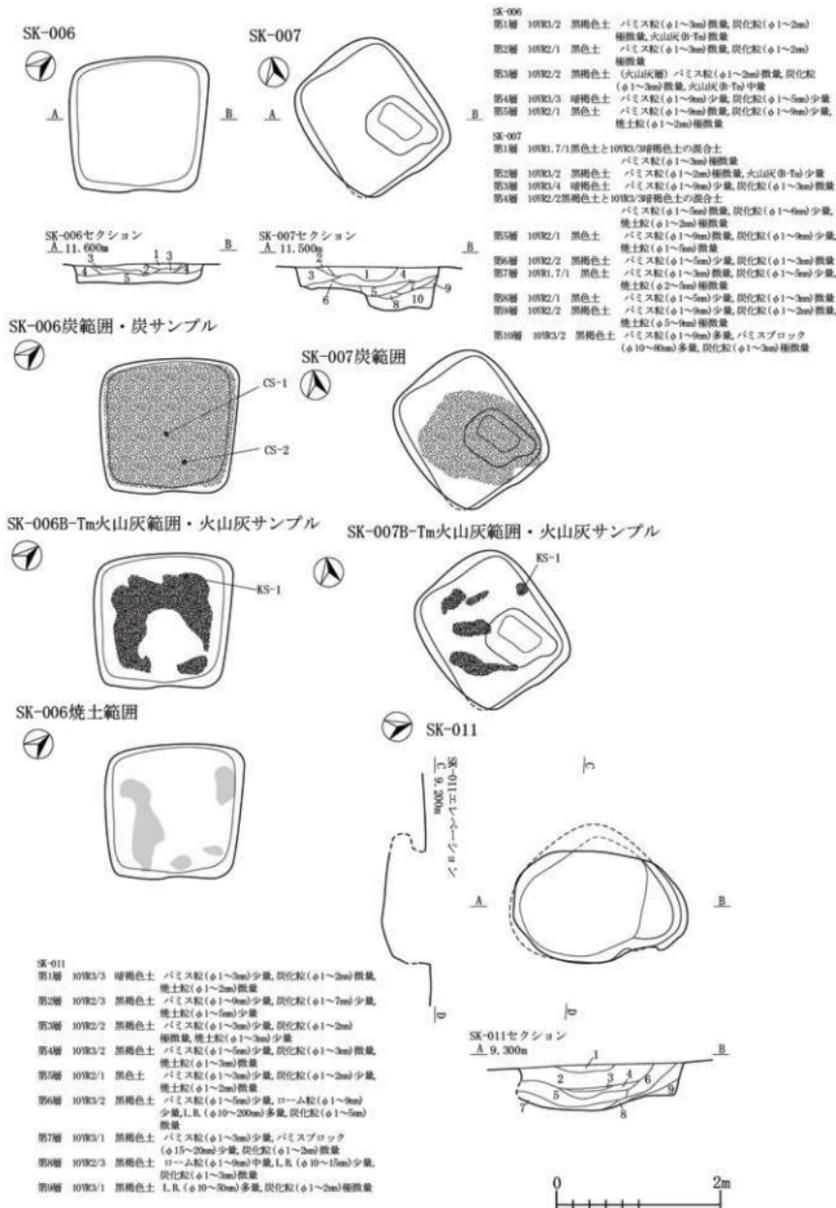
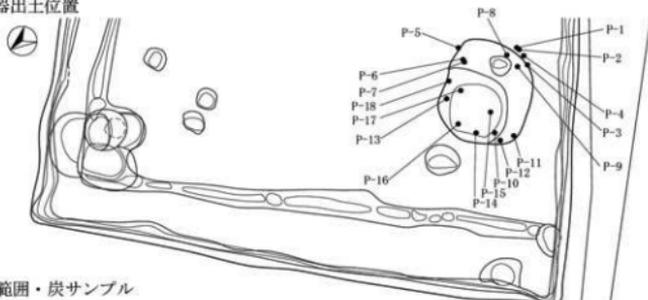


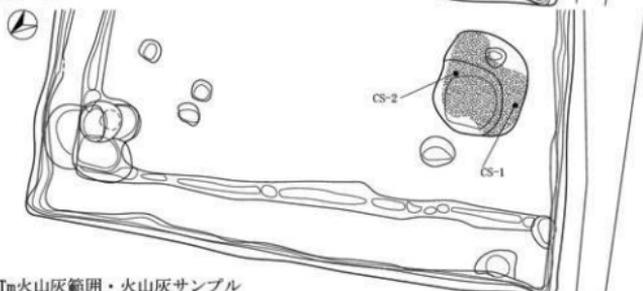
図 3-136 F-2区 SK-2



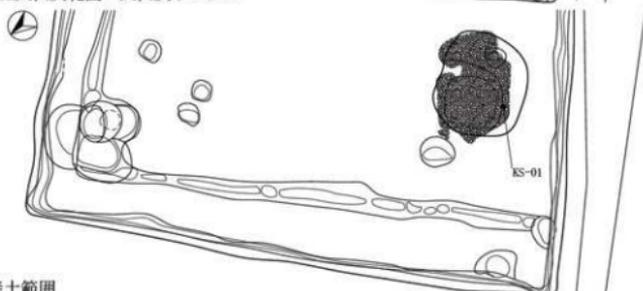
SK-012土器出土位置



SK-012炭範囲・炭サンプル



SK-012B-Tm火山灰範囲・火山灰サンプル



SK-012焼土範囲

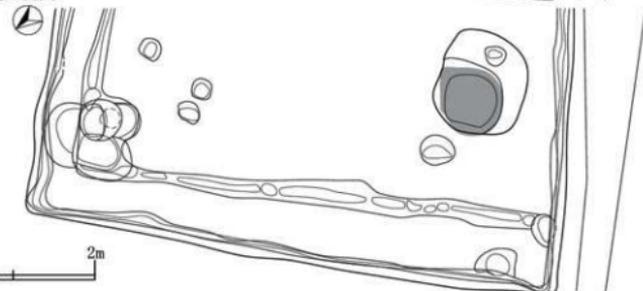
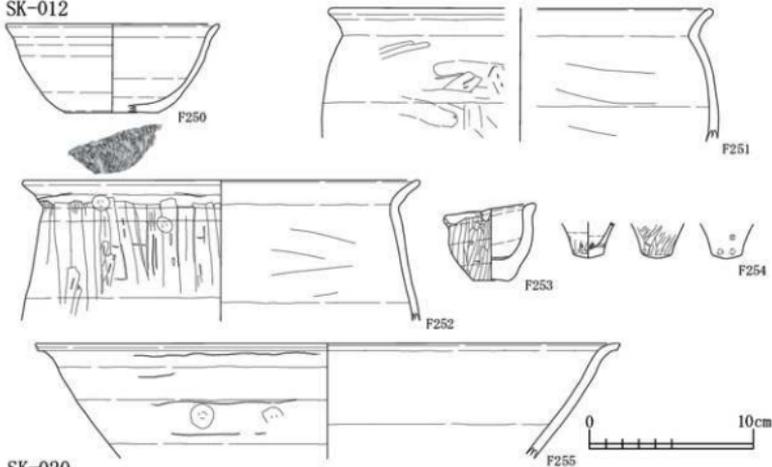


図 3-138 F-2区 SK-4

SK-012



SK-020

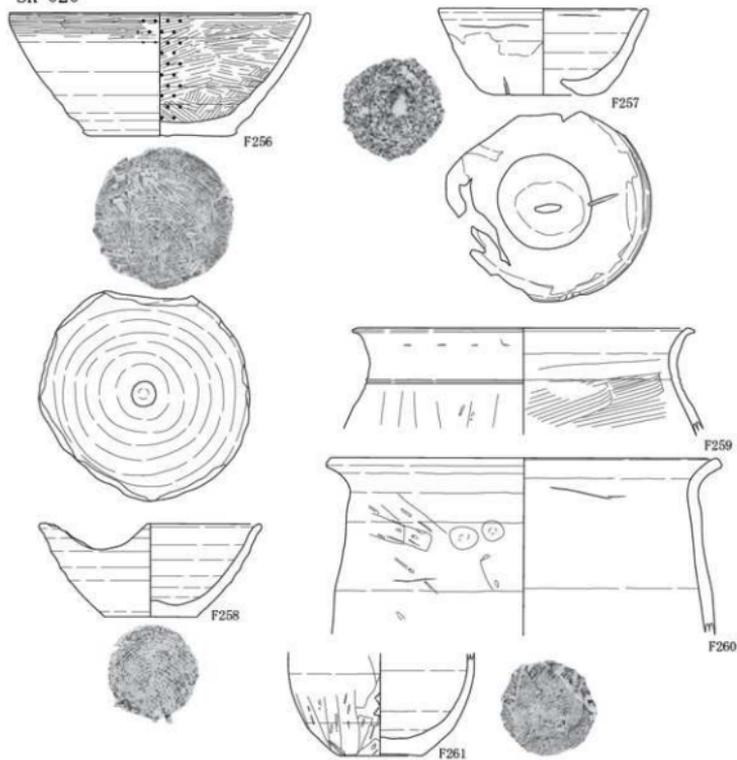


図 3-139 F-2区 SK-5

は二次被熱により色調が橙褐色を呈する部分が見られる。F 2 5 2 は非ロクロの土師器甕で、口径 24.0 cm を測る。粒径の非常に細かい砂粒を多く含むが、粒径が 0.5 mm 程度の砂粒の混入は比較的少ない。やや粘りのある胎土である。内外面とも煤が付着しており、二次被熱により内面頸部～外面にかけ変色している。外面のヘラによる調整は縦方向に行われているが粘土の寄せ上げはなく、頸部で軽く返されている状況である。F 2 5 3・F 2 5 4 は小型土器で、F 2 5 3 は外面体部下半～底面にかけ二次被熱を受け、体部下半の境界部にはバンド状に煤付着が認められる。底部資料の F 2 5 4 は対称になるように三箇所穿孔されているが貫通しているのは一箇所のみである。F 2 5 5 の場合は口径 35.4 cm を測るが焼き歪みのある部分で径と傾きについては若干再考の余地がある。硬質で、砂礫を多く含む粘りのやや弱い胎土である。内外面とも二次被熱による変色と器面及び破断面の磨耗が顕著で、流動の要因が非常に強い資料である。なお重複する S I-0 0 1 内では図 3-8 9 の F 1 8 3 として図示した場の口唇端部の形態が本資料と類似し、器面の状態や口径に差があることを差し引くと同一個体ないしは類似資料として考慮できる。

#### SK-0 2 0 (図 3-139～141)

X=91833.900, Y=11608.800 付近で検出した。S I-0 0 2・SD-0 0 1・0 0 1 a (2008 年 SD-0 0 2) と重複しており、S I-0 0 2 より新しく、SD-0 0 1・0 0 1 a より古い。南側が SD-0 0 1・0 0 1 a によって切られているため、残存した情報であるが、平面形は(隅丸長方形)を呈し、(110.0)×117.0×27.0 cm を測る。断面形は箱形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる。また底面は掘り方があり、バミス質の土が充填され床面となっている。堆積土は 7 層に分層し、前述の掘り方充填土は第 f・g 層が相当し、その上位に堆積する第 a～e 層が埋土に相当する。多量の土器・被熱を受けた礫が廃棄されており、一部には焼土粒が伴う。周辺には S N-0 1 2 とした S I-0 0 2 のカマド煙道部を利用して焼成坑も存在し、関連した廃棄土坑である可能性もある。

出土遺物は 8 点図示した。F 2 5 6 は第 d 層出土の黒色土器甕で口径 18.0 cm、器高 7.5 cm、口径 9.4 cm、器高指数 4.1.6、底径指数 5.2.2 と大型で鉢に類する規格である。海綿骨針を含む粘りのある胎土で、褐色を基調とするが底面には黒斑がある。器壁は非常に厚く重量感があり、内面側は体部中半～下半にかけ稜段が顕著であるが、ヘラミガキにより段は充分均質化されておらず、段が残った状況である。ヘラミガキは内面の底面に

放射状で、その部分を切る形で横方向にヘラミガキが口縁部まで及んでいる。外面は一部体部下半まで黒色化が進んでいる部分があるが、口唇部から 1.5 cm 程度の幅を均一に横方向にヘラミガキが加えられている。底面は前述の黒斑以外に製作時のヘラオコシ痕が複数観察される。F 2 5 7 は第 b 層出土の土師器甕で口径 12.6 cm、器高 5.3 cm、底径 6.2 cm、器高指数 4.2.0、底径指数 4.9.2 を測る。砂粒をやや多く含む粘りのやや弱い胎土で、外面は底面～体部中半まで敲打により面が潰されており、底面中央は長さ 1.5 cm、幅 0.5 cm 程度の孔が穿たれている。「可蓋」のような酒器の要素も否定できないが、外面口唇部に打欠があり、灯明痕が認められ、灯明具として使用されたのは確実である。また、外面のみ敲打により孔が穿たれている状況で、底面中央に向かって低くなるように作出されており、外面側との関係が考慮できる。例えば容量の大きな甕と重ね合わせることで油の供給が容器内単独より増加させることが可能となることなども考慮できる。F 2 5 8 は第 e 層出土の土師器甕で、口径 13.4 cm、器高 5.7 cm、底径 5.6 cm、器高指数 4.2.5、底径指数 4.1.7 を測る。砂粒をやや多く含む粘りのやや弱い胎土で、二次被熱により外面口縁部直下で円形に変色している。また外面体部の一面は淡青灰色の黒斑が生じている。浸食に伴い器面のひび割れが顕著である。外面が「U」字状や潰しのような状態で打欠が加えられており打欠部分の内外面の一部には煤付着が認められ、本資料も灯明具として使用されている。煮炊具のうち F 2 5 9 は第 b・g 層出土の土師器甕で口径 20.0 cm を測る。海綿骨針と粒子の細かい砂粒をやや多く含む粘りの弱い軽質胎土で、内外面とも二次被熱で色調が変色している。外面は体部と口縁部の境界に沈線が一条入り、沈線の上部には微隆起させた段を設け、口縁部は明顯な横ナデを加えている。口唇端部は上面から平滑に撫で、端部を外面側に鈎状に突出させている。内面の体部は横方向の幅広のハケメで、口縁部との境界は外面の境界部に対応する形で横ナデが加えられている。口縁部外面には粘土が付着している。F 2 6 0 は第 b 層出土の土師器甕で、口径 23.4 cm を測る。砂礫を極多量含む粘りのやや弱い胎土で、内面の頸部はひび割れが生じている。器形的には平滑な口唇端部を有するロクロ系甕の形状にも類似するが、指押さえが顕著で、ヘラズリは浅く斜め方向に入れられる程度で調整は粗雑である。内外面とも口縁部は二次被熱により褐色から淡橙褐色に変色し、体部側は内外面とも灰褐色に変色している。F 2 6 1 は第 b 層出土の土師器小甕の体～底部にかけての資料で、底径 5.0 cm を測る。粒子の細かい砂粒をやや多く含むや



SK-020土器・石器出土位置図

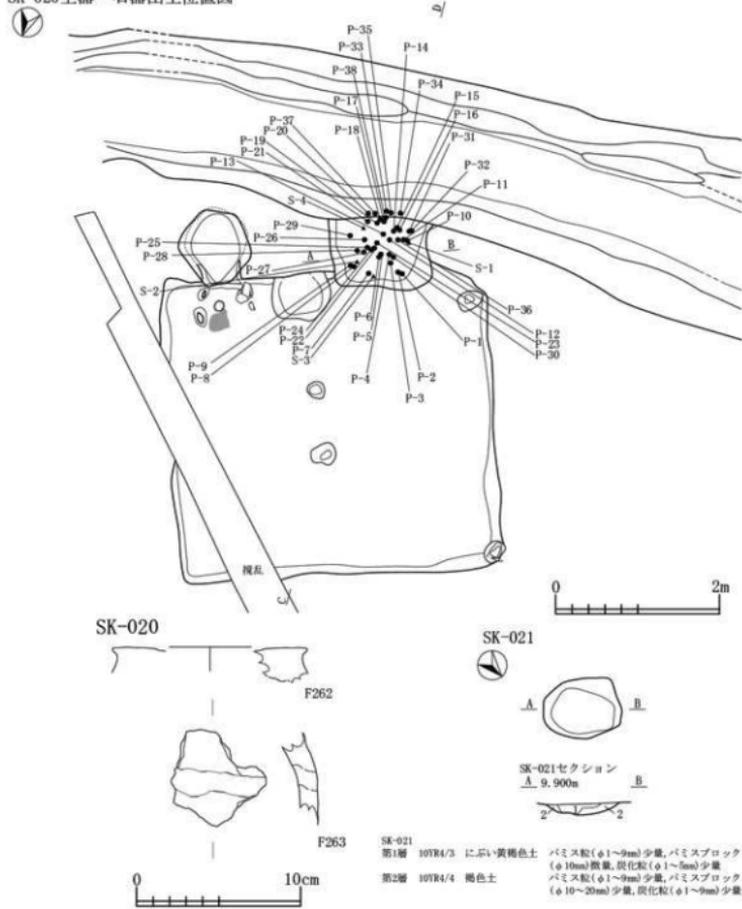


図 3-141 F-2区 SK-7

や粘りのある胎土で、淡黄褐色を基調とする。底面は中央が若干凹み外周がヘラケズリにより面が整えられている。外面の器面は縦方向のヘラケズリ、内面はナデによる調整で、外面の体部下半には削りといった粘土が隆起して付着した状態で焼成されている。外面体部の一部は二次被熱により赤橙褐色に変色しており、体部中半から下半にかけて不均一に打欠きが行われ、灯明具として利用していたようで、破断面も含めた内外面とも油分の多い煤・炭化物がこびり付いた状態である。F262は土製支脚の上部片（製作時底部）にあたり、上部径5.75cmを

測る。粒子の細かい砂粒が上面に付着している。F263は製塩土器の破片で色調はF262にも類似するが、内面が被熱により剥落している。外面に粒子の細かい砂粒が多量付着した部分が見られる。

## SK-021 (図3-141)

X=91823.500, Y=-11609.500付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、95.0×75.0×13.0cmを測る。断面形は皿形で、壁は開き気味に緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分層し、流れ込みに伴う自然堆積状況を呈する。

## SK-105 (図3-142)

X=91840.000, Y=11595.000 付近で検出した。攪乱により南側が破壊されている。また、SI-006と近接しており、構築前の周辺の堆積土の一部で切り合いが生じているが、直接の切り合い関係は存在しない。残存部の平面形は(不整隅丸方形)を呈し、 $115.0 \times (72.0) \times 10.0$  cmを測る。断面形は箱形で、底面は掘り方を有し凹凸が顕著で、パミスブロック主体の土が充填されている。壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は9層に分層し、第E・F・H・I層が掘り方充填土に相当する。底面直上に堆積する第B・D層が炭化物層に相当し、本遺構は製炭土坑である。構築前の第C層中にT0-a火山灰がブロック状に混入している。

## SK-106 (図3-143)

X=91833.800, Y=11593.500 付近で検出した。SI-006と接する位置に壁があるが、重複部分は攪乱によって破壊されており、明確な新旧関係は不明である。平面形は不整隅丸方形を呈し、 $155.0 \times 132.0 \times 26.0$  cmを測る。断面形は底面が緩やかに凹凸がある形状で、底面は掘り方があり、パミスブロック主体の土が充填されている。壁は途中で角度を変え段状に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は4層に分層し、B-Tm火山灰を含む第1層は炭化材などを含む土器・土製品・礫等が廃棄層である。壁際の第2層にはT0-a火山灰が混入している。

出土遺物は6点図示した。隣接するSI-006の遺物の項目でも記述したが、SI-006と本遺構に破片が廃棄された長頸瓶が2個体あり、SI-006側に図示しているが、本遺構単独で廃棄された長頸瓶が1個体あり、F264として図示した。SI-006出土の資料に比べると頸部の残存率は高いが、体部は同様に敲打・打欠がなされており、体部中～下半の打欠率が非常に高い。底径8.0 cmを測る。内外面は灰色、断面の剥落面は淡灰色を呈しており、焼成良好品である。なで肩気味の肩部で、頸部にはリング状の突起がついているが、上端・下端を沈線状に工具を入れ、微隆起させている程度である。肩部に「+」が刻書されており、縦棒が先で、横棒が後に記入されている。底部切離しは右回転糸切で、持ち上げた際の指紋が部分的に残存している。外面の器面は体～底部に煤が付着しているが、打欠痕の部分には煤が付着しておらず、煤が付着した後に打欠が行われ、最終的な廃棄がなされたものと見られる。F265は底面出土の土師器椀で口径13.0 cmを測る。砂粒をやや多く含む粘りのやや弱いバサバサした質感を有する胎土で、内外面とも摩滅により凹凸が生じ、破断面も摩滅して

いる。口唇端部は丸みを帯び端反である。F266は第2層出土の土師器小壺で口径12.6 cm、器高10.2 cm、底径9.6 cmを測る。砂粒を非常に多く含むねばりのやや弱い胎土で、器面は淡黄褐色を基調とするが、二次被熱により桃褐色～淡黒褐色に変色している。底面はヘラケズリにより胎土に含まれている砂粒が流動した状態で、円盤状に作られた底部に輪積みで成形している。調整が粗雑で体部が膨らみを持たせて張る部分と直線的に近い形で底部につながる部分が見られ、口縁部も傾斜した造りである。口唇端部は粘土紐をそのまま積み上げた部分、面に当たって不均一な平滑面が形成されている部分など統一感がない状態であるが、内面は頸部直下が全面煤状の炭化物付着しており、外面も煤付着と二次被熱が顕著で使用感が強い状態である。F267は第2層出土の砥石で長さ10.75 cm、幅6.3 cm、厚さ2.89 cmを測り、204.9 gを量る。石質は凝灰岩である。白みがかかった色調で、両面とも面的に平滑になる程度擦られている。なお、実測図上では表現されていないが、掘り面の両面にφ5 mm程度の孔が穿たれているが貫通していない。F268・F269は第2層出土の炭化した木器で、F268は曲物容器、F269は高台椀で、いずれも図上回復元資料でF269の高台径は12.2 cmを測る。台部の中心側は煤化しており中実のような残存状況であるが、確定はできない。また、椀部は稜段がある椀の形状を作出しているようである。

## SK-107 (図3-144)

X=91833.500, Y=11599.500 付近で検出した。SD-001・001a(2008年SD-002)によって切られており、本遺構の方が古い。残存部の平面形は不整円形を呈し、 $157.0 \times (150.0) \times 30.0$  cmを測る。断面形は傾斜があり、壁は開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は6層に分層し、中層に堆積する第2層は灰層である。なお、出土遺物は破片のため図示に至っていない。

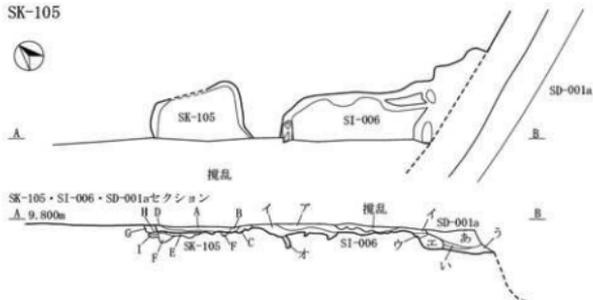
## SK-110 (図3-144)

X=91870.500, Y=11601.300 付近で検出した。SI-004と重複しており、本遺構の方が古い。残存部の形状は(隅丸長方形)を呈し $(70.0) \times 81.0 \times 31.0$  cmを測る。断面形は箱形で、垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は2層に分層し、第1層中にT0-a火山灰が混入している。

## SK-111・112 (図3-145～147)

X=91869.000, Y=11580.000 付近で検出した。

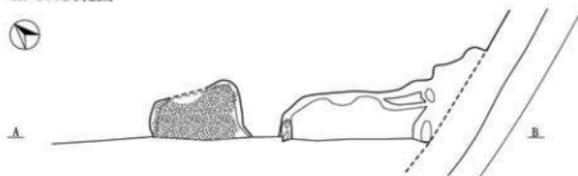
SK-105



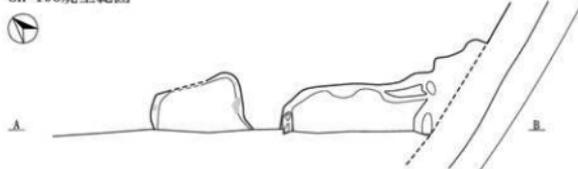
SI-006

第1層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ5~9mm)少量,パミスブロック(φ30mm)微量
第2層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ5mm)中量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ3~25mm)中量
第4層	10YR3/2	暗褐色土	パミス粒(φ1~7mm)多量,パミスブロック(φ10~25mm)中量
第5層	10YR3/2	暗褐色土	パミス粒(φ3~5mm)少量
SD-001a			
第6層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ5~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)微量
第7層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ5~9mm)微量
第8層	10YR3/4	暗褐色土	パミスブロック(φ10~30mm)中量
SK-105			
第9層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ5~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ3~5mm)少量,To-a火山灰中量
第10層	10YR3/3	暗褐色土	炭化粒(φ10~20mm)中量
第11層	10YR3/2	暗褐色土	パミス粒(φ3~5mm)少量,To-a火山灰微量
第12層	10YR1.7/1	黒色土	炭層,焼土粒(φ1~5mm)少量
第13層	10YR5.6黄褐色土と10YR4/3に富み黄褐色土の混合土		
第14層	10YR4/3	に富み黄褐色土	パミス粒(φ5~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ3mm)微量
第15層	10YR5/2	に富み黄褐色土	パミスブロック(φ15mm)少量
第16層	10YR5.6	黄褐色土	
第17層	10YR4/3	に富み黄褐色土	パミス粒(φ1mm)微量

SK-105炭範囲



SK-105焼土範囲



SK-105掘り方

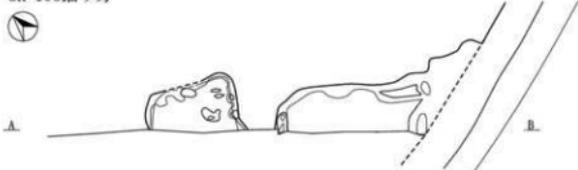
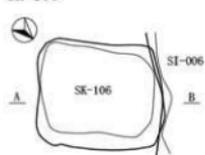
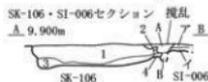


図 3-142 F-2区 SK-8

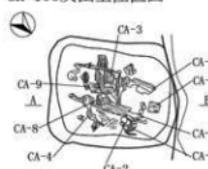
SK-106



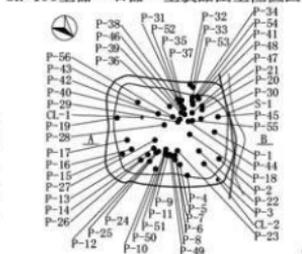
SK-106			
第1層	10YR4/4	褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~50mm)中量,炭化物・粒(φ1~30mm)中量,焼土粒(φ5mm)少量, B-Tox山灰少量
第2層	7.5YR6/8	褐色土と10YR7/1灰白色(Tox山灰)の混合土	
第3層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量,パミスブロック(φ15~20mm)微量
第4層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)多量
第5層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量
第6層	10YR2/3	黒褐色土	砂粒(φ1mm)少量
第7層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化物(φ3~5mm)少量
第8層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ15~20mm)中量,炭化物(φ15~20mm)中量



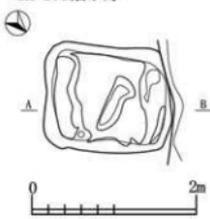
SK-106炭出土位置図



SK-106土器・石器・土製品出土位置図



SK-106掘り方



SK-106

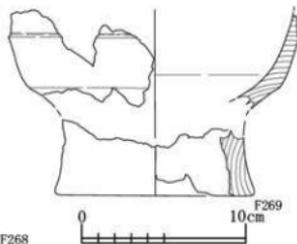
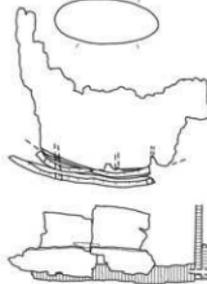
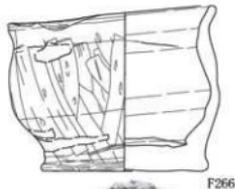
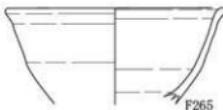
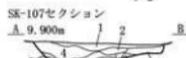
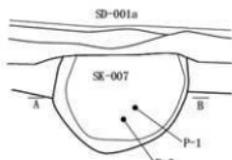
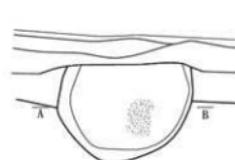


図 3-143 F-2区 SK-9

SK-107

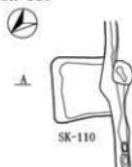


SK-107灰範囲

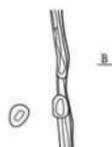


SK-107	層	土質	特徴
第1層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	(灰層)
第3層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ5mm)微量
第4層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~15mm)少量
第5層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ5~9mm)微量
第6層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~25mm)中量

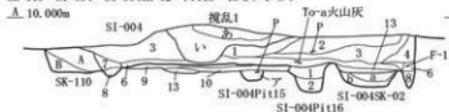
SK-110



SI-004



SK-110・SI-004・SI-004SK-02・Pit15・I6セクション



SK-110	層	土質	特徴
第10層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,To-w火山灰微量
第8層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ30mm)混入,ローム粒(φ1~3mm)微量
SI-004			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~30mm)多量,ローム粒(φ1~9mm)少量,L.R.(φ10~60mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量,To-w火山灰微量
第2層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~50mm)中量,ローム粒(φ1~9mm)少量,L.R.(φ10~50mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~40mm)少量,To-w火山灰少量
第3層	10YR4/2	灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~90mm)多量,ローム粒(φ1~9mm)少量,L.R.(φ10~50mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,To-w火山灰中量
第4層	10YR4/2	灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)極微量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第5層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブロック(φ40mm)混入,To-w火山灰微量
第6層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量,To-w火山灰少量
第7層	10YR4/3	にぶ黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第8層	10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,ローム粒(φ1~2mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量,To-w火山灰少量
第9層	10YR4/3	にぶ黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)極多量,バミスブロック(φ10~60mm)極多量,ローム粒(φ1~9mm)極多量,L.R.(φ10~100mm)多量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量,陥床
第10層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,To-w火山灰少量,陥床下
第11層	5YR5/8	赤褐色土	ローム層
第12層	10YR5/4	にぶ黄褐色土	ローム層
第13層	10YR6/6	明黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~50mm)多量,To-w火山灰少量,陥床下
SI-004SK-02			
第1層	10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~30mm)多量,ローム粒(φ1~9mm)多量,L.R.(φ10~30mm)中量
第2層	10YR5/4	にぶ黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,ローム粒(φ1~9mm)少量,L.R.(φ10~30mm)少量
SI-004Pit15			
第1層	10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~50mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,To-w火山灰微量
SI-004Pit16			
第1層	10YR2/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~50mm)中量,L.R.(φ50mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ3~9mm)少量,To-w火山灰少量
第2層	10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ30mm)混入,炭化粒(φ1~3mm)微量,To-w火山灰混入
埋戻し			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量,ローム粒(φ1~9mm)中量,L.R.(φ10~50mm)中量
第1層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,To-w火山灰少量

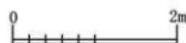
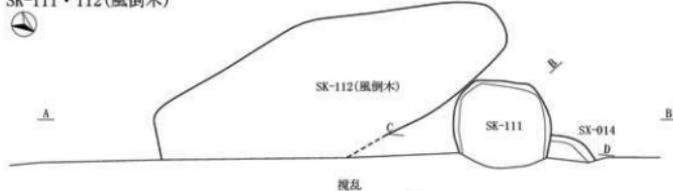


図 3-144 F-2 区 SK-10

SK-111・112(風倒木)



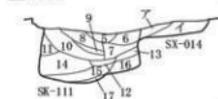
SK-111・112(風倒木)セクション



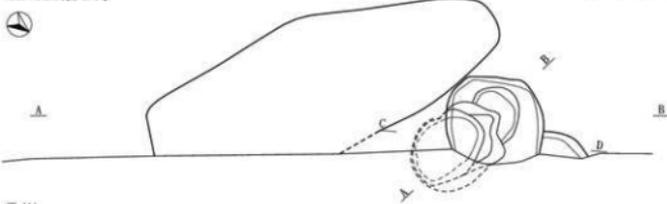
SK-111エレベーション  
A 9.600m



SK-111・SX-014セクション  
C 9.600m



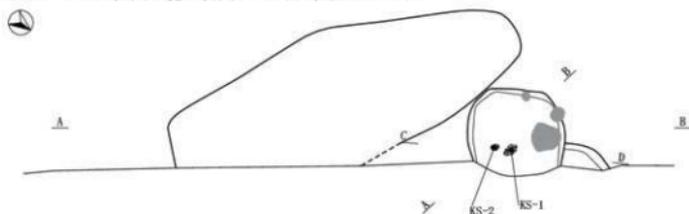
SK-111掘り方



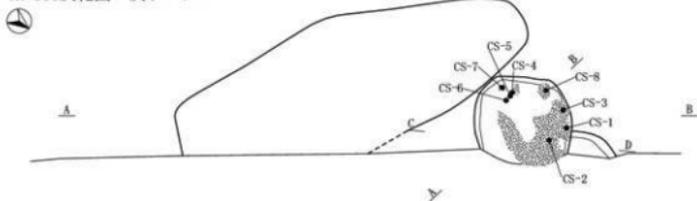
SK-111			
第1層	10YR2/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 炭化物(φ10~15mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~20mm)少量, To-a山灰少量
第3層	7.5YR5/4	にぶい褐色土	焼土層, パミス粒(φ1~9mm)少量
第4層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量, 炭化物(φ10~100mm)多量
第5層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 炭化物(φ10~30mm)中量, 焼土粒(φ1~5mm)微量
第6層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~9mm)少量
第7層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)微量, To-a山灰混入
第8層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量, To-a山灰少量
第9層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第10層	10YR4/4	褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~20mm)少量, L.R.(φ20mm)混入, 炭化粒(φ1~3mm)微量, 炭化物(φ10~12mm)少量, To-a山灰少量
第11層	10YR6/6	明黄褐色土	L.R.(φ10~50mm)少量, パミス層
第12層	10YR2/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~30mm)少量
第13層	10YR3/4	暗褐色土	ローム層, 炭化粒(φ1~9mm)少量, L.R.(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第14層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ10~50mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~50mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)極微量
第15層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~20mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~30mm)中量, 炭化粒(φ3mm)極微量
第16層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
第17層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ローム層, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
SK-112(風倒木)			
第1層	10YR2/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, To-a山灰微量
第2層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~15mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
第3層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR3/2	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第5層	10YR2/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~20mm)微量, ローム粒(φ5~9mm)微量
第6層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~15mm)少量
第7層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)多量, L.R.(φ10~120mm)中量
第8層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, L.R.(φ50mm)混入
第9層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~20mm)微量
第10層	10YR4/4	褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ50~70mm)中量
第11層	10YR5/6	黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ20mm)混入
第12層	10YR4/4	褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ10~100mm)多量
SX-014			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~70mm)中量, 炭化粒(φ1~3mm)極微量

図 3-145 F-2 区 SK-11

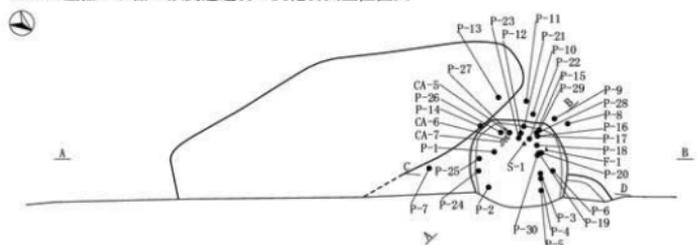
SK-111 To-a火山灰・焼土範囲1・To-a火山灰サンプル



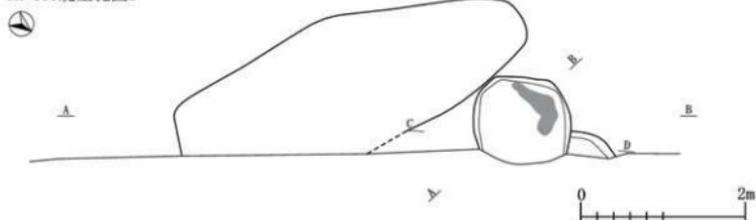
SK-111炭範囲・炭サンプル



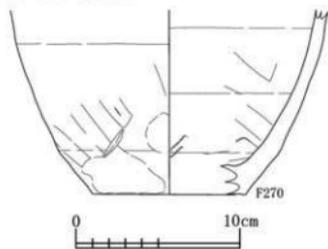
SK-111土器・石器・鉄関連遺物・炭化物出土位置図



SK-111焼土範囲2



SK-111+SK-117



SK-111

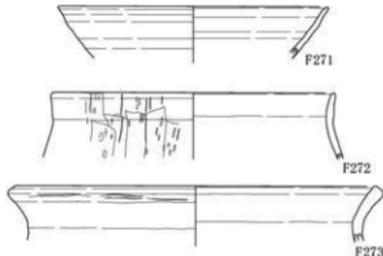


図3-147 F-2区SK-13

SK-112はSK-111と重複する風倒木で、緻密には遺構ではないが、SK-111と切り合い関係が生じているため、土坑番号を付し精査している。規模等の情報は記述せず、堆積土の説明の際に触れることとする。また、北東側は擾乱によって破壊されている。SK-111はSK-014とも重複し、SK-111の方が新しい。

SK-111は残存部は不整形円形を呈し、 $117.0 \times 116.0 \times 89.0$  cmを測る。断面形は段状に立ち上がり下部は袋状に入り込み、フラスコ状を呈する。堆積土は17層に分層し、袋状に入り込む部分が先に掘削され、ある程度埋没した後再度第10層の下部を底面とする形で掘削がなされている。下層の第11～17層はバミス・ロームブロックなどが多く含まれる崩落・埋め戻しに伴う堆積で、その上位に堆積する第1～10層中にはTora火山灰が粒状に堆積し、風倒木のSK-112の最上面に堆積する第6層中にもTora火山灰が混入している。第4層下の部分から炭化物を検出し、焼土層も検出していることから廃棄の伴う焼成が行われた可能性が高い。

出土遺物は遺構間接合資料を含め4点図示した。F270は第1・4層出土資料とSK-117第1層出土の遺構間接合資料の土師器甕の体～底部資料で底径9.2 cmを測る。砂礫をやや多く含むやや粘りの弱い胎土で、淡橙褐色を基調とする。ロクロ整形のロクロ系の甕に用いられる胎土で、底面が無調整であることから、本資料もロクロ系である可能性が高い。外面には炭化物と粘土が付着しており、器面は部分的に粒子の細かい砂粒がまもって付着している。第1層出土でF273に図示したロクロ系甕の口縁部資料は本資料と類似した胎土で、輪積成形・ロクロ整形である資料であることから同一個体の可能性が高い。F271は第4層出土の土師器甕で口径16.2 cmを測る。粒子の細かい砂粒を

含む粘りのある胎土で、器壁は薄造りで、硬質な焼成である。内外面とも摩滅しており、内面には煤が付着している。F272は第4層出土の土師器甕で口径17.0 cmを測る。口唇部が開き気味の器形で復元径と器形が流動する恐れのある資料であるが、砂粒を中量含むやや粘りのある胎土で、外面は残存部全体に煤付着、内面は頸部を中心に煤・炭化物が付着しており、小甕と同様の使用形態の可能性が高い。F273は前述の第1層出土のロクロ系甕で、口径21.8 cmを測る。内面の頸部に煤が付着しているが、一部は破断面部分に及んでいる。

SK-113 (図3-148)

X=91879.000, Y=-11582.000付近で検出した。擾乱によって西側と南側が破壊されている状態で、残存部の平面形は(不整形)を呈し、 $(141.0) \times (62.0) \times 27.0$  cmを測る。残存部の断面形は段状に立ち上がる形状で、堆積土は6層に分層し、南側はブロック混じりの人為的な埋め戻しの一部併い、その後流れ込みの伴う自然堆積で埋没している。

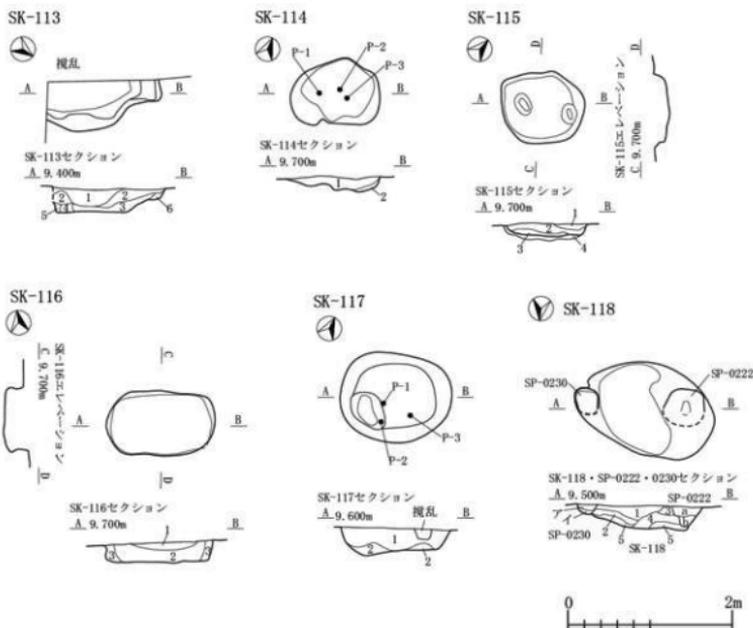
SK-114 (図3-148)

X=91862.800, Y=-11590.000付近で検出した。平面形は不整形円形を呈し、 $109.0 \times 81.0 \times 16.0$  cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。堆積土は2層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状態で、第1層中からTora火山灰を検出している。

出土遺物は破片のため図示に至っていない。

SK-115 (図3-148)

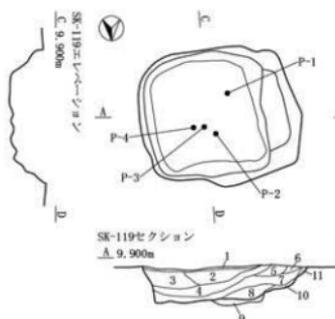
X=91863.000, Y=-11587.000付近で検出した。平面形は不整形円形を呈し、 $102.0 \times 87.0$



SK-113		
第1層	10TR3/2	黒褐色土
第2層	10TR4/2	灰黄褐色土
第3層	10TR4/3	にぶい黄褐色土
第4層	10TR4/2	灰黄褐色土
第5層	10TR5/4	にぶい黄褐色土
第6層	10TR4/2	灰黄褐色土
SK-114		
第1層	10TR3/3	暗褐色土
第2層	10TR4/3	にぶい黄褐色土
SK-115		
第1層	10TR2/3	黒褐色土
第2層	10TR3/1	黒褐色土
第3層	10TR2/2	黒褐色土
第4層	10TR3/4	暗褐色土
SK-116		
第1層	10TR3/1	暗褐色土
第2層	10TR2/3	暗褐色土
第3層	10TR3/3	暗褐色土
SK-117		
第1層	10TR3/3	暗褐色土
第2層	10TR3/4	暗褐色土
雑乱	10TR3/1	黒褐色土
SK-118		
第1層	10TR2/2	黒褐色土
第2層	10TR3/1	黒褐色土
第3層	10TR2/3	黒褐色土
第4層	10TR3/4	暗褐色土
第5層	10TR4/3	にぶい黄褐色土
SP-0222		
第6層	10TR2/3	黒褐色土
第7層	10TR3/3	暗褐色土
SP-0230		
第7層	10TR3/4	暗褐色土
第7層	10TR3/2	黒褐色土
		バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,To-wick山灰少量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~50mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ30mm大)混入
		バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~70mm)中量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,下面に堆土ブロック(φ100mm大)混入
		(掘り方)バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)中量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ5~9mm)微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~25mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,To-wick山灰極微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)微量,ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ40mm大)混入,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10mm大)混入,ローム粒(φ1~2mm)極微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ40mm大)混入,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)極多量,ローム粒(φ1~5mm)少量
		バミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量
		バミス粒(φ3~5mm)少量,バミスブロック(φ10mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)少量
		バミス粒(φ5~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)少量
		バミス粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量

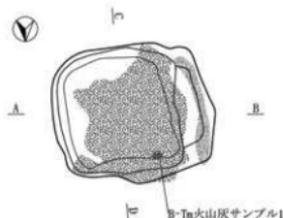
図 3-148 F-2 区 SK-14

SK-119

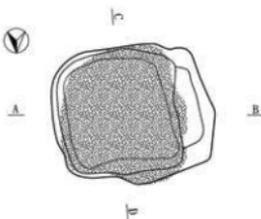


SK-119			
第1層	2.5Y3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,炭化物(φ10~20mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,炭化物(φ10~30mm)中量,To-a火山灰混入
第3層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,炭化物(φ1~9mm)少量,To-a火山灰混入
第4層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)多量,炭化物(φ10~30mm)中量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第5層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)微量,To-a火山灰混入,ローム層
第6層	10YR5/4	にがい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ20mm A)混入,To-a火山灰混入
第7層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~30mm)多量
第8層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
第9層	10YR5/6	黄褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量,ロームブロック(φ10~30mm)多量
第10層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,ローム粒(φ1~9mm)中量
第11層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量

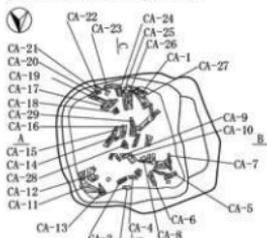
SK-119炭・粘土範囲・B-Tn火山灰サンプル



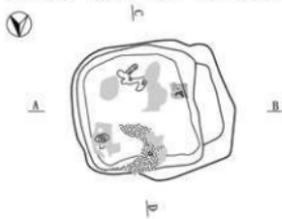
SK-119炭範囲



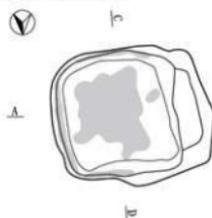
SK-119炭化材出土位置図



SK-119炭・焼土・粘土・To-a火山灰範囲



SK-119焼土範囲



SK-119掘り方

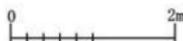
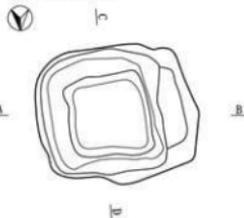
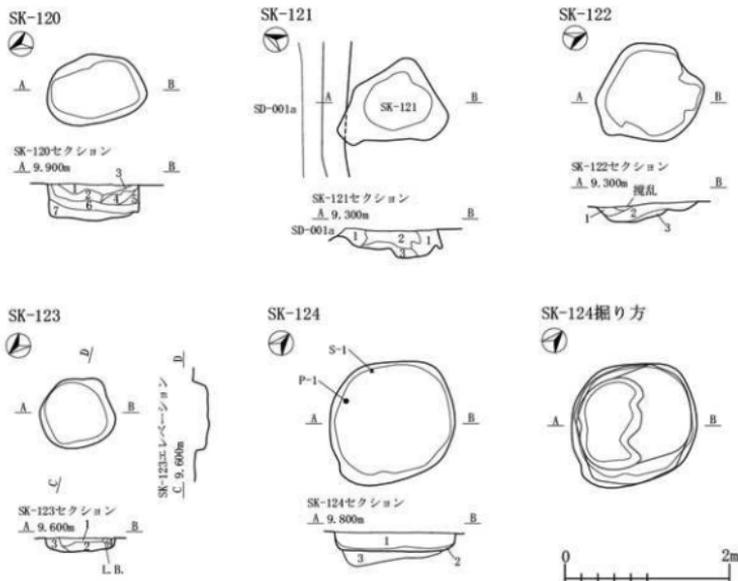


図 3-149 F-2 区 SK-15



SK-120			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~0.9mm)少量, To-a式山灰微量
第2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~0.9mm)少量, To-a式山灰微量
第3層	10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量
第4層	10YR2/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量, バミスブロック(φ10~20mm)微量
第5層	10YR4/4	褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ5mm大)混入
第6層	10YR4/6	褐色土	バミス粒(φ1~0.9mm)中量, バミスブロック(φ50~100mm)中量
第7層	10YR5/6	黄褐色土	バミス層
SK-121			
第1層	10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~0.9mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, 10YR4/2灰黄褐色土中量混入
第2層	10YR1, 7/1	黒色土	バミス粒(φ1~0.9mm)微量, バミスブロック(φ10~15mm)微量
第3層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~0.9mm)微量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, 10YR4/2灰黄褐色土中量混入
SK-122			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量
第2層	10YR3/2	暗褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土少量混入, バミス粒(φ1~3mm)微量
第3層	10YR4/2	灰黄褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ20~40mm)少量
視乱	10YR1, 7/1	黒色土	バミス粒(φ1~3mm)少量
SK-123			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~12mm)微量, バミスブロック(φ20mm大)混入, ローム粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
第2層	10YR3/2	暗褐色土	バミス粒(φ1~0.9mm)少量, バミスブロック(φ10mm大)混入, ローム粒微量, 炭化粒極微量
第3層	10YR2/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量, バミスブロック(φ10~15mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)少量
第4層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
SK-124			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~0.9mm)少量, 炭化粒(φ1~0.9mm)微量, To-a式山灰少量
第2層	10YR4/2	灰黄褐色土	バミス粒(φ1~0.9mm)中量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第3層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~0.9mm)多量, バミスブロック(φ10~50mm)多量, ローム粒(φ3~6mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量, 植土粒(φ3~5mm)極微量(掘り方)

図 3-150 F-2区 SK-16

×21.0cmを測る。断面形は鍋底形で、丸みを底端部は丸みを帯び、壁は垂直に近い形で立ち上がる。底面は掘り方が壁面を一部含めほぼ底面全面に及び、一部ビット状の掘り込みとなっているが、バミスブロック主体の土が充填されている。充填された底面は一部赤化しており、本遺構で焼成されたものと判断できる。堆積土は4層に分層し、第4層が掘り方充填土に相当し、廃絶後の堆積土は第1～3層が相当し、埋め戻しに伴う人為堆積状況である。

#### SK-1116 (図3-148)

X=91869.000, Y=-11589.500付近で検出した。平面形は小判形を呈し、132.0×82.0×26.0cmを測る。断面形は一部袋状を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分が多く見られる。堆積土は3層に分層し、一部崩落に伴いながらもブロック混じりの埋め戻しによる堆積である。

#### SK-1117 (図3-147・148)

X=91874.000, Y=-11586.000付近で検出した。平面形は楕円形を呈し136.0×110.0×26.0cmを測る。また底面西側からビット状の浅い掘り込みを検出し、54.0×35.0×7.0cmを測る。断面形は一部段状に立ち上がる形状で、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は2層に分層し、バミスブロック混じりの人為的埋め戻しによる堆積で、第1層中にT<sub>0</sub>-a火山灰が混入している。出土遺物はSK-1111との遺構間接合の資料を図3-147に図示した。

#### SK-1118 (図3-148)

X=91888.000, Y=-11598.200付近で検出した。SP-0222・0230と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整形多角形を呈し、153.0×112.0×29.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は5層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

#### SK-1119 (図3-149)

X=91850.000, Y=-11598.000付近で検出した。平面形は不整形多角形を呈し、197.0×173.0×41.0cmを測る。断面形は段状に立ち上がり、壁は壁の途中で角度を変え、開き気味に立ち上がる形状である。底面中央を中心に掘り方があり、ロームと黒褐色土主体の土が充填されている。本遺構は製炭土坑で、底面と壁面が赤化し、西側のテラス状の部分には焼土化した粘土が貼りついた状況であった。底面直上に炭化材が残存する状況で検出し、炭

化物を面的に検出している。また、堆積土中にT<sub>0</sub>-a火山灰を含む土が堆積しており、上面の第2層中からはB-Tm火山灰がブロック状になった状態で混入していた。

出土遺物は碎片のため図示に至っていない。

#### SK-120 (図3-150)

X=91847.500, Y=-11600.500付近で検出した。平面形は小判形を呈し、120.0×85.0×45.0cmを測る。断面形は底面に凹凸があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は7層に分層し、下部はローム主体の埋め戻し土で、上面はT<sub>0</sub>-a火山灰が混入した土が流れ込んでいる。

#### SK-121 (図3-150)

X=91843.500, Y=-11568.000付近で検出した。SD-001・001a(2008年SD-002)によって切られており、本遺構の方が古い。残存部の平面形は不整形を呈し、125.0×103.0×33.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は段状に立ち上がる部分とオーバールンクして立ち上がる部分がある。堆積土は3層に分層し、埋め戻しに伴う人為堆積状況を呈する。

#### SK-122 (図3-150)

X=91840.800, Y=-11566.000付近で検出した。平面形は不整形を呈し、133.0×126.0×19.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は段状に立ち上がる部分と開き気味に立ち上がる部分がある。堆積土は3層に分層し、自然堆積状況を呈する。

#### SK-123 (図3-150)

X=91874.000, Y=-11593.200付近で検出した。平面形は不整形多角形を呈し、94.0×90.0×16.0cmを測る。断面形は鍋底形で、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は4層に分層し、崩落・流れ込みの伴う自然堆積状況を呈する。

#### SK-124 (図3-150)

X=91832.000, Y=-11591.800付近で検出した。平面形は不整形多角形を呈し、162.0×150.0×23.0cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる。また、南西側は掘り方があり、バミスブロック主体の土で充填されている。堆積土は3層に分層し、前述の掘り方充填土は第3層が相当し、廃絶後の堆積土は第1・2層が相当する。流れ込みによる自然堆積状況を呈しており、第1層中からT<sub>0</sub>-a火山灰を検出した。

出土遺物は碎片のため図示に至っていない。

## 3. 井戸跡

SE a-001 (SK-005) (図3-151)

X=91800.600, Y=-11662.000 付近で検出した。調査時にSK-005として精査したが、井戸跡としての機能が想定されたことからSE aの略号に変更した。緩やかに傾斜する沢地形の最も低い地点に位置し、周辺にはSN-008と取り扱われた焼土層が検出している。平面形は不整形円形を呈し、 $170.0 \times 146.0 \times 190.0$  cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は底面から円筒形状に立ち上がるが、途中で窄まり途中から開き気味に立ち上がる。崩落と湧水のため最下層の欠測があるが、分層した中層下部までの土層は13層(第1~11層+第a・b層)に分層した。第5層以下はブロック混じりの埋め戻しに伴う土が主体を占め、第6層はB-Tm火山灰が混入している。また、第4層はB-Tm火山灰がブロック状に再堆積した土層である。出土遺物は自然木主体であったが、小片ではあるが、曲物側板片が1点下層から出土している。長さ(4.1) cm、幅(4.5) cm、厚さ0.38 cmを測る。樹種はスギで木取は柱目取りである。

## 4. 焼土状遺構・炭窯

SN-001 (図3-152)

X=91835.000, Y=-11635.800 付近で検出した。 $71.0 \times 63.0 \times 8.0$  cmの浅い円形の掘り込みの上面に灰と炭化物混じりの土層が堆積し、焼土化していた。

SN-002 (図3-152)

X=91827.400, Y=-11632.300 付近で検出した。 $111.0 \times 63.0 \times 12.0$  cmの浅い小判形の掘り込みの上面が焼土化しており、炭化物・灰・骨片が混入していた。

SN-003 (図3-153)

X=91827.500, Y=-11631.500 付近で検出した。 $128.0 \times 85.0 \times 14.0$  cmの浅い小判形の掘り込みの上面に灰と炭化物混じりの土層が堆積し、焼土化していた。焼土化は掘り込みの外の部分に不整形に広がっていた。

SN-004 (図3-153)

X=91822.100, Y=-11633.200 付近で検出した。 $106.0 \times 63.0 \times 16.0$  cmの浅い小判形の掘り込みの上面に灰と炭化物混じりの土層が堆積し、焼土化していた。

SN-005 (図3-153)

X=91837.500, Y=-11613.000 付近で検出した。

$67.0 \times 63.0 \times 13.0$  cmの浅い円形の掘り込みの上面に炭化物混じりの土層が堆積し、焼土化していた。

SN-006 (図3-153)

X=91739.300, Y=-11670.200 付近で検出した。 $59.0 \times 56.0 \times 14.0$  cmの浅い不整形の掘り込みの上面に炭化粒混じりの土層が堆積し、焼土化していた。

SN-007 (図3-153)

X=91749.000, Y=-11667.100 付近で検出した。 $54.0 \times 38.0 \times 16.0$  cmの浅い小判形の掘り込みの上面に炭化粒とバミス混じりの土層が堆積し、焼土化していた。

SN-008 (図3-154)

X=91803.000, Y=-11633.200 付近で検出した。SE a-001 (SK-005) を検出した緩やかな沢地形の最も低い地点で、 $513.0 \times 491.0$  cmの部分でB-Tm火山灰混じりの焼土層が堆積していた。SE a-001 (SK-005) の堆積土中にもB-Tm火山灰が含まれる堆積土が認められることから、いずれもB-Tm火山灰降灰前後に関連した遺構であった可能性が高い。

SN-009 (図3-154)

X=91770.500, Y=-11673.400 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、 $172.0 \times 58.0$  cmの焼土範囲を検出した。遺構密度がまばらな地点で、付近にはSTP-004が所在するが、関連性は不明である。

SN-010 (図3-155・156)

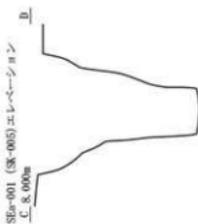
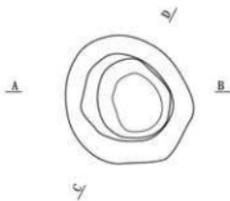
X=91800.000, Y=-11608.000 付近で検出した。炭窯で、平面形は鍵穴状を呈し、 $492.0 \times 292.0 \times 18.0$  cmを測る。削平のため前庭部側の残存状況が悪い状況であるが、二股に分かれた形状を持つ。燃焼室は掘り方が残存し、深さ47.0 cmを測る。奥壁側はバミスブロックを多く含む土が充填されていた。

SN-010a (図3-157)

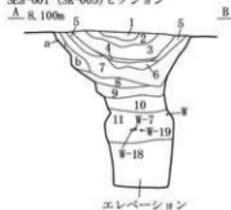
X=91871.000, Y=-11610.500 付近で検出した。北側が調査区外に延び、(97.0) × (33.0) × 18.0 cmを測る。不整形円形の掘り込みの底面付近が焼土化し、上位に炭化物・焼土が堆積していた。

SN-011 (図3-157)

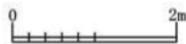
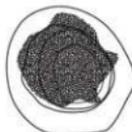
SEa-001 (SK-005)



SEa-001 (SK-005) セクション



SEa-001 (SK-005) B-Tm火山灰範囲

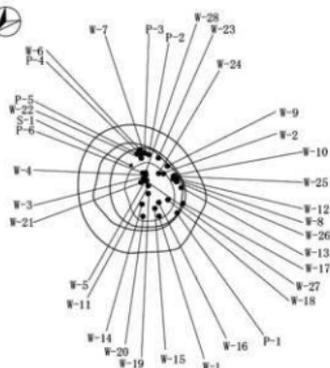


SEa-001 (SK-005)

- |                     |   |
|---------------------|---|
| 第1層 10Y1/2 黒色土      | バミス灰(φ1~2m)極微量, 10Y4/2灰黄褐色土粒(φ3~5mm)極微量   |
| 第2層 10Y1.7/1 黒色土    | バミス灰(φ9m)流入, 10Y15/1褐色土粒(φ5mm)微量  |
| 第3層 10Y1/1 黒褐色土     | バミス灰(φ1~2m)少量, 7.5YR4.6褐色土粒(φ3~5mm)微量, 10Y15/3に多い黄褐色土(φ5~9mm)微量   |
| 第4層 10Y16/4 に多い黄褐色土 | (火山灰層)火山灰(伊-Tm)多量   |
| 第5層 10Y12/2 黒褐色土    | バミス灰(φ3~9m)少量, バミスブロック(φ10~20m)微量, 7.5YR6/3に多い黄褐色土ブロック(φ10~40m)少量, 7.5YR6/3に多い褐色土粒(φ1~9mm)少量  |
| 第6層 X 1.5/0 黒色土     | 火山灰粒(φ3~5mm)微量, バミス灰(φ1~2m)微量, バミスブロック(φ20m)流入  |
| 第7層 7.5Y2/1 黒色土     | バミス灰(φ5~9m)少量, バミスブロック(φ10~20m)少量, 7.5YR7.6褐色土(粘土質)ブロック(φ10~20m)中量, 10Y16/4に多い黄褐色土火山灰少量, 10Y16/4に多い黄褐色土火山灰少量, 10Y17/3に多い黄褐色土粘土ブロック(φ20~30m)中量(φ30~40mm)流入 |
| 第8層 10Y1/1 褐色土      | バミス灰(φ1~9m)中量, バミスブロック(φ20~30m)少量, 7.5Y15.6明褐色土バミス灰(φ7~9m)少量, バミスブロック(φ10~15m)少量, 10Y17/3に多い黄褐色土粘土ブロック(φ10~20m)微量   |
| 第9層 10Y12/1 黒色土     | バミス灰(φ1~5m)少量, バミスブロック(φ10m)微量, 10Y17/3に多い黄褐色土粘土ブロック(φ10~15m)少量, 10Y16/6明褐色土および土ブロック(φ10~15m)微量   |
| 第10層 5Y3/1 オリーブ黒色土  | 5Y7.1/1灰色粘土ブロック(φ10~20m)少量, 7.5Y13/4黒褐色土粒(φ5mm)極微量  |
| 第11層 5Y2/1 黒色土      | 5Y5.1/1灰色土粒(φ3~5mm)中量, 同粘土ブロック(φ10~15m)少量, 2.5Y1/2灰黄色土粒(φ3~5mm)少量, 10Y14.6褐色土の砂の粒(φ1~5mm)少量, 10Y12/1黒色土少量, 2.5Y1/1オリーブ灰色土粒(φ5~9mm)少量, ブロック(φ10~15m)少量     |

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 第12層 10Y1.7/1 黒色土  | バミス灰(φ1~2m)極微量  |
| 第13層 10Y14/2 灰黄褐色土 | バミス(φ5~9m)微量, 10Y17/3に多い黄褐色土ブロック(φ10~15m)微量, 10Y15/2灰黄褐色土粒(砂質土)(φ1~5mm)少量 |

SEa-001 (SK-005) 土器・石器・木製品出土位置図



SEa-001 (SK-005)

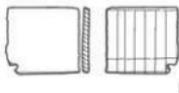


図 3-151 F-2 区 SE

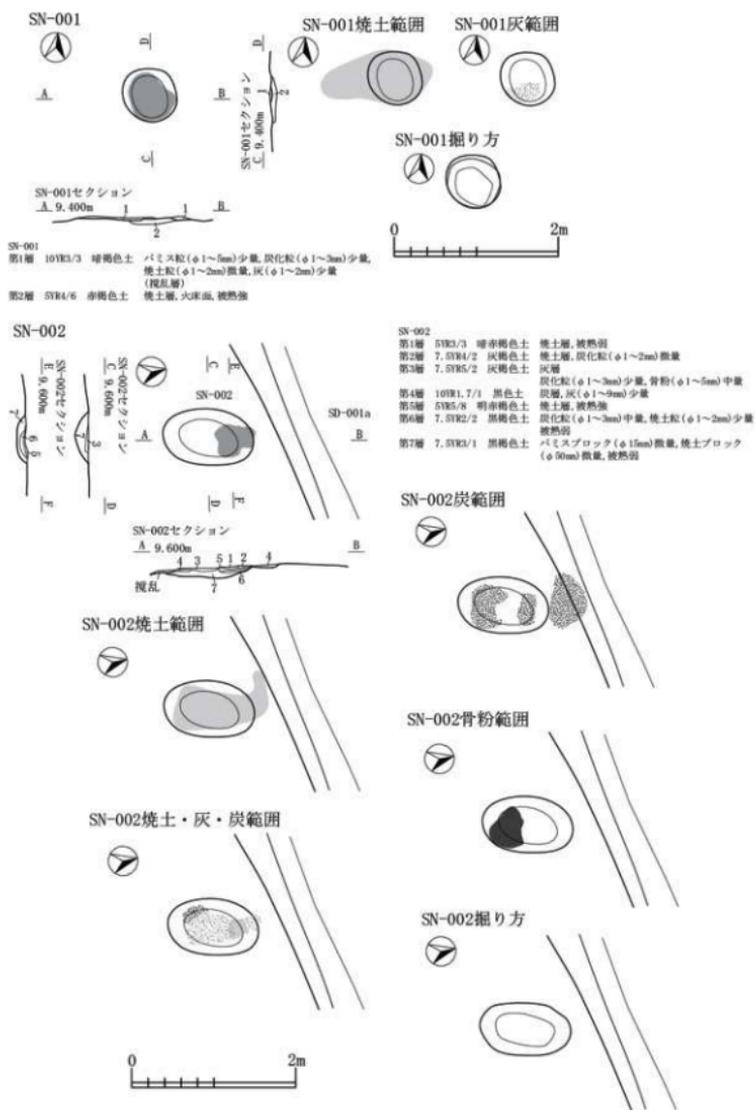
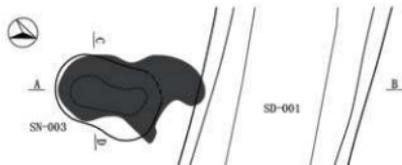


図 3-152 F-2区 SN-1

SN-003



SN-003セクション



SN-003

攪乱1 10YR3/2

攪乱2 10YR3/3

攪乱3 10YR2/2

第1層 7.5YR5/3

第2層 5YR6/8

第3層 2.5YR5/8

第4層 5YR2/2

黒褐色土  
 黒褐色土  
 黒褐色土  
 にぶい褐色土  
 棕色土  
 明赤褐色土  
 黒褐色土

パミス粒( $\phi$ 1~5mm)少量,炭化粒( $\phi$ 1~5mm)少量,焼土粒( $\phi$ 1~9mm)少量  
 パミス粒( $\phi$ 1~9mm)少量,炭化粒( $\phi$ 5~9mm)微量,焼土粒( $\phi$ 1~9mm)少量,  
 焼土ブロック( $\phi$ 10~40mm)中量  
 パミス粒( $\phi$ 1~2mm)微量,焼土粒( $\phi$ 1~3mm)微量  
 灰層,骨片( $\phi$ 1~3mm)微量  
 焼土層,被熱炭(第3層より被熱炭)  
 焼土層,被熱炭  
 焼土粒( $\phi$ 1~3mm)微量,焼土層,被熱炭

SN-003炭・灰範囲



SN-003火床面



SN-003掘り方



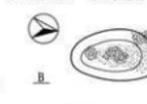
SN-004



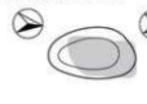
SN-004セクション



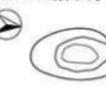
SN-004炭・灰範囲



SN-004焼土範囲



SN-004掘り方



SN-004

第1層 10YR1.7/1

第2層 5YR5/1

第3層 7.5YR3/1

第4層 5YR6/8

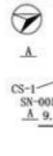
第5層 7.5YR2/2

第6層 10YR3/2

黒色土  
 焼灰色土  
 黒褐色土  
 棕色土  
 黒褐色土  
 黒褐色土

炭化物層  
 骨片( $\phi$ 1~7mm)多量,炭( $\phi$ 1~3mm)少量  
 灰層,骨片( $\phi$ 1~3mm)少量  
 炭化粒( $\phi$ 1~5mm)中量,被熱炭  
 焼土層,火床面  
 パミス粒( $\phi$ 1~2mm)微量,炭化粒( $\phi$ 1~2mm)微量,  
 焼土粒( $\phi$ 1~3mm)少量,被熱炭,掘り方  
 パミス粒( $\phi$ 1~2mm)微量,掘り方

SN-005



SN-005

第1層 10YR3/1

第2層 10YR2/1

第3層 10YR3/1

第4層 10YR3/4

黒褐色土  
 黒褐色土  
 黒褐色土  
 暗褐色土

パミス粒( $\phi$ 1~9mm)少量,炭化粒( $\phi$ 1~9mm)多量,  
 炭化物( $\phi$ 10~30mm)多量,焼土粒( $\phi$ 1~3mm)微量,  
 焼土ブロック( $\phi$ 50~60mm)中量  
 (炭化物層)  
 炭化粒( $\phi$ 1~9mm)多量,炭化物( $\phi$ 10~30mm)多量  
 パミス粒( $\phi$ 1~9mm)多量,パミスブロック  
 ( $\phi$ 10~50mm)多量,炭化粒( $\phi$ 1~3mm)少量

SN-006



SN-007



SN-006

第1層 10YR2/1

第2層 10YR2/2

SN-007

第1層 10YR2/2

第2層 10YR3/2

第3層 10YR2/2

黒色土  
 黒褐色土

パミス粒( $\phi$ 1~5mm)微量,焼土ブロック  
 ( $\phi$ 10~20mm)中量,炭化粒( $\phi$ 1~9mm)中量  
 パミス粒( $\phi$ 1~9mm)少量,パミスブロック  
 ( $\phi$ 10~20mm)少量,炭化粒( $\phi$ 1~2mm)微量

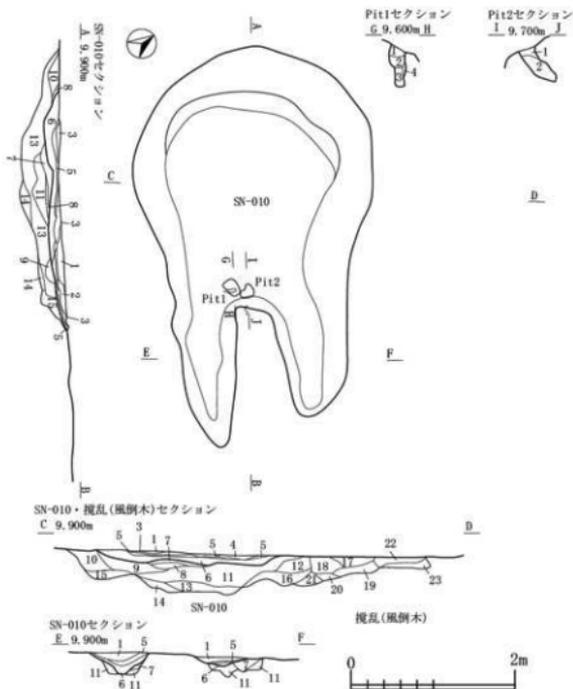
黒褐色土と黒褐色土の混合土  
 パミス粒( $\phi$ 1~5mm)微量,炭化粒( $\phi$ 1~3mm)微量  
 パミス粒( $\phi$ 1~5mm)少量,炭化粒( $\phi$ 1~3mm)微量,  
 焼土粒( $\phi$ 1~9mm)中量,焼土( $\phi$ 10~20mm)中量  
 パミス粒( $\phi$ 1~5mm)少量,パミスブロック  
 ( $\phi$ 10~20mm)微量



図3-153 F-2区SN-2



SN-010



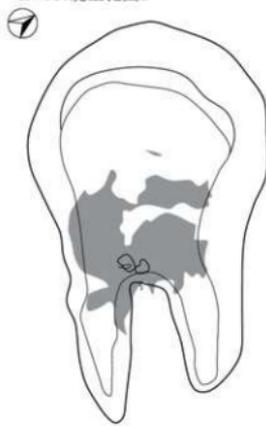
SN-010			
第1層 10YK3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,バニス粒(φ1~9mm)少量,バニスブロック(φ10~40mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量	
第2層 10YR4/2	灰黄褐色土	ローム粒(φ1~3mm)微量,バニス粒(φ1~9mm)多量,バニスブロック(φ10~60mm)中量,焼土粒(φ1~2mm)微量,焼土ブロック(φ10~12mm)少量,炭化粒(φ3~9mm)少量	
第3層 10YR5/6	明赤褐色土	(焼土層)バニス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)少量	
第4層 10YK3/3	増褐色土	バニス粒(φ5mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ15mm)微量	
第5層 10YR1/7/1	黒色土	(炭層)炭化粒(φ1~9mm)多量,炭化物(φ10~70mm)多量,焼土粒(φ1~9mm)少量	
第6層 10YK3/2	黒褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量	
第7層 10YK3/4	増褐色土	バニス粒(φ1~9mm)中量,バニスブロック(φ10~30mm)少量	
第8層 10YK2/3	黒褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量	
第9層 10YK2/2	黒褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量,バニスブロック(φ10~50mm)少量	
第10層 10YR4/2	灰黄褐色土	バニス粒(φ1~9mm)多量,バニスブロック(φ10~70mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,1.R.(φ10~30mm)少量	
第11層 10YK3/1	黒褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量	
第12層 10YK2/3	黒褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量	
第13層 10YK3/1	黒褐色土	ローム粒(φ9mm)微量,バニス粒(φ1~9mm)中量,バニスブロック(φ10~30mm)少量	
第14層 10YK3/4	増褐色土	バニス粒(φ1~9mm)中量,バニスブロック(φ10~30mm)中量	
第15層 10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1~3mm)少量,バニス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量	
第16層 10YK3/6	黄褐色土	(バニス層)	
掘孔(風倒木)			
第17層 10YK3/3	増褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量,バニスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量	
第18層 10YK2/3	黒褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量,バニスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量	
第19層 10YR4/2	灰黄褐色土	バニス粒(φ1~9mm)中量	
第20層 10YK3/2	黒褐色土	バニス粒(φ1~5mm)少量	
第21層 10YK2/2	黒褐色土	バニス粒(φ1~2mm)少量	
第22層 10YR4/2	にぶい黄褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量	
第23層 10YR4/4	褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量,バニスブロック(φ10~50mm)少量	
Pit1			
第1層 10YK3/4	増褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量,バニス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量	
第2層 10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)少量,バニス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量	
第3層 10YK3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,バニス粒(φ1~9mm)少量	
第4層 10YK5/4	ローム層		
Pit2			
第1層 10YK3/3	増褐色土	バニス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量	
第2層 10YR4/3	にぶい黄褐色土	バニス粒(φ1~9mm)中量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量	

図3-155 F-2区 SN-4

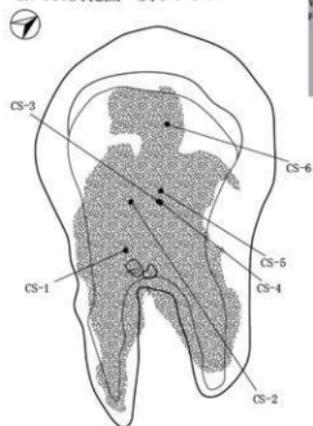
SN-010焼土・粘土範囲



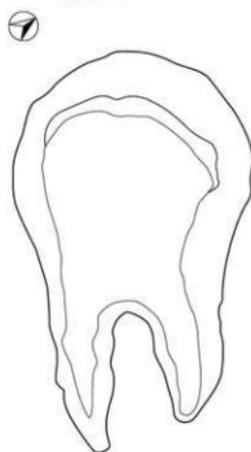
SN-010焼土範囲2



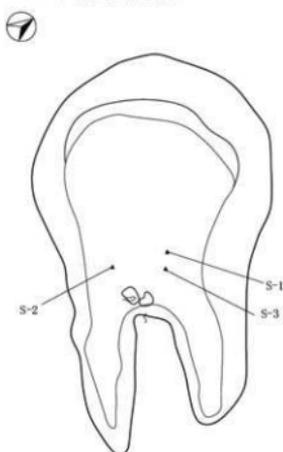
SN-010炭範囲・炭サンプル



SN-010(作業面)



SN-010石器出土位置図



SN-010掘り方

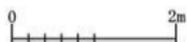
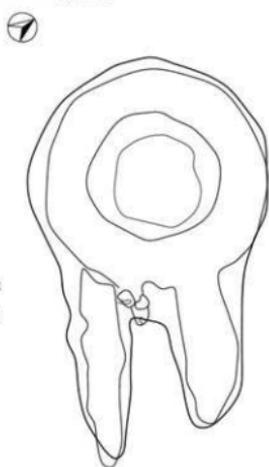


図 3-156 F-2区 SN-5

F-2区

SN-010a



SN-010a炭範囲



SN-010aセクション



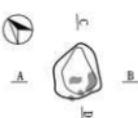
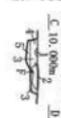
SN-010a掘り方



SN-010a

- |     |           |      |                     |
|-----|-----------|------|---------------------|
| 第1層 | 7.5YR3/1  | 黒褐色土 | 焼熟炭, 炭化粒(φ1~9mm)中量  |
| 第2層 | 5YR6/6    | 褐色土  | 焼土層, 炭粉強            |
| 第3層 | 10YR1.7/1 | 黒色土  | 炭化粒(φ1~9mm)多量, 炭化物層 |
| 第4層 | 7.5YR2/2  | 黒褐色土 | 焼熟炭, 焼土層            |

SN-011



SN-011鉄関連遺物微細図



SN-011セクション



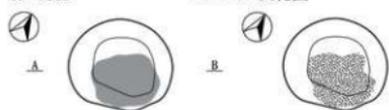
SN-011

- |     |          |      |   |
|-----|----------|------|---|
| 第1層 | 7.5YR4/6 | 褐色土  | バミス粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~9mm)中量                                       |
| 第2層 | 10YR3/4  | 暗褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量                        |
| 第3層 | 10YR3/3  | 暗褐色土 | バミスブロック(φ30mm大)散入, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~15mm)少量 |
| 第4層 | 10YR3/4  | 暗褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)微量, 焼土粒(φ1~9mm)少量                        |
| 第5層 | 10YR3/3  | 暗褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量, 焼土ブロック(φ10~20mm)少量    |
| 第6層 | 10YR3/2  | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~70mm)中量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量   |

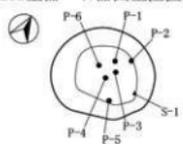


SN-011a

SN-011a炭範囲



SN-011a土器・石器出土位置図



SN-011aセクション



SN-011a



F275



SN-011a

- |     |           |         |   |
|-----|-----------|---------|---|
| 第1層 | 10YR3/2   | 暗褐色土    | バミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量                      |
| 第2層 | 10YR5/3   | にぶい黄褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量 |
| 第3層 | 10YR3/3   | 暗褐色土    | バミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)少量                      |
| 第4層 | 7.5YR4/6  | 褐色土     | 焼土層, 炭粉強, 炭化粒(φ1~5mm)微量   |
| 第5層 | 10YR1.7/1 | 黒色土     | 粉埃層, 焼土粒(φ1~3mm)少量  |
| 第6層 | 10YR4/3   | にぶい黄褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量 |

図 3-157 F-2区 SN-6

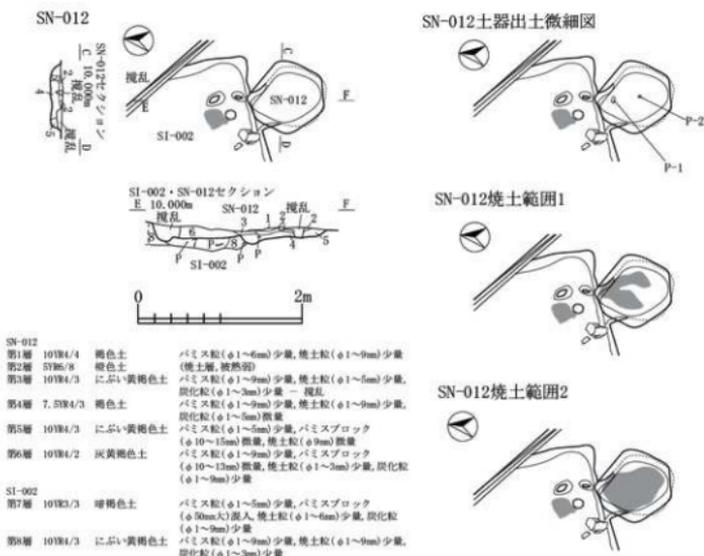


図3-158 F-2区 SN-7

X=91829.400, Y=11611.200 付近で検出した。7.0×6.2×7.0 cmの浅い不整形の掘り込みの上面に焼土と炭化粒混じりの土層が堆積し、一部焼土化していた。

## SN-011a (図3-157)

X=91846.000, Y=11613.800 付近で検出した。12.6×11.0×2.3 cmの楕円形の掘り込みの中心に炭化粒混じりの焼土層を検出した。

出土遺物は中層から出土した土師器甕底部1点を図示した。底径11.0 cmを測る。砂礫をやや多く含む粘りのある胎土で、円盤状に作られた底部と体部との境界の一部は粘土織の接合痕の段差が外面側に生じている。底面はヘラケズリをほぼ同一方向に行い面を調整しており、同一の工具で外面体部側も調整している。器面は内外面とも二次被熱が生じているが、接合破片ごとには被熱の連続性は認められず、破断面の磨耗も隙間が生じる程度となっていることから破片化した状態で被熱が生じたことが想定される。

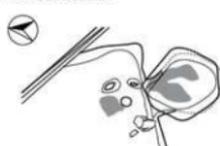
## SN-012 (図3-158)

X=91834.500, Y=11606.500 付近で検出した。SI-002と重複しており、SI-002のカマドの煙道部を土坑状に掘削して利用している。平面形は不整隅丸方形を呈し、83.0×80.0×

## SN-012土器出土微細図



## SN-012焼土範囲1



## SN-012焼土範囲2



17.0 cmを測る。断面形は鍋底状を呈し、壁の一部は途中で角度を変え開き気味に立ち上がる。一部攪乱により堆積に影響が生じている。

## SN-015 (図3-159)

X=91858.000, Y=11587.600 付近で検出した。180.0×157.0×26.0 cmの不整楕円形の掘り込みの底面灰混じりの炭化物層が堆積し、その上位には黒色土が焼土化した褐色土が堆積している。

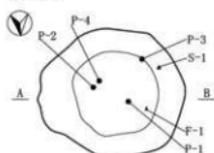
## SN-016 (図3-159)

X=91854.800, Y=11587.500 付近で検出した。143.0×126.0×22.0 cmの不整隅丸長方形の掘り込みの底面直上に灰混じりの炭化物層が堆積し、上位には焼土化した土が堆積している。

## SN-017 (図3-159)

X=91852.100, Y=11556.500 付近で検出した。SD-001・001aと重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整長方形を呈し、(150.0)×83.0×18.0 cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。堆積土は5層に分層し、第1層はB-Tm火山灰混じりの土の中から鉄滓が多量出土している。

SN-015



SN-015セクション



- SN-015  
 第1層 7.5YR5/4 にぶい褐色土 バミズ粒(φ3~9mm)極微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量,灰少量混入  
 第2層 5YR5/6明赤褐色土と7.5YR6/6褐色土の混合土 バミズ粒(φ1~2mm)極微量,炭化粒(φ2~3mm)極微量  
 第3層 7.5YR3/3暗褐色土と7.5YR6/6褐色土の混合土 炭化粒(φ1~2mm)少量,灰微量混入  
 第4層 7.5YR3/1 黒褐色土 炭化粒(φ1~5mm)少量  
 第5層 7.5YR2/6 暗褐色土 バミズ粒(φ2~5mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 第6層 7.5YR6/6 褐色土 バミズ粒(φ2~3mm)極微量  
 第7層 7.5YR2/1 黒色土(炭層) 炭化粒(φ1~9mm)多量,炭化物(φ10~30mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量,灰少量混入

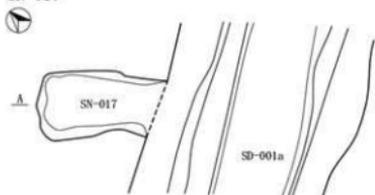
埋山

- 第8層 7.5YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量  
 第9層 10YR3/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~25mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量

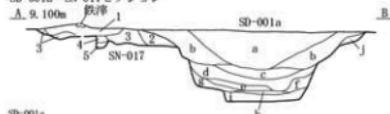
SN-016

- 第1層 5YR5/6明赤褐色土と7.5YR6/6褐色土の混合土 バミズ粒(φ2~3mm)極微量,炭化粒(φ2~3mm)極微量,7.5YR4/2灰褐色土少量混入  
 埋山 炭化粒(φ1~9mm)多量,灰微量  
 第3層 7.5YR3/1 黒褐色土 バミズ粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量  
 第4層 10YR3/3 暗褐色土 バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)極微量  
 第5層 10YR2/3 黒褐色土 バミズ粒(φ1~3mm)少量  
 第6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)極微量

SN-017



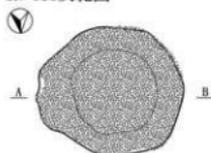
SD-001a・SN-017セクション



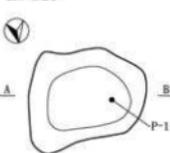
SD-001a

- 第5層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量  
 第6層 10YR3/1 黒褐色土 バミズ粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量  
 第7層 10YR1/7 黒色土(黒色炭層) バミズ粒(φ1~2mm)微量,10YR3/1暗褐色土少量混入  
 第8層 10YR3/1 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 第9層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR2/2 灰褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,砂少量  
 第3層 10YR4/2 灰褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)微量,砂少量  
 第4層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量  
 SN-017  
 第1層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~25mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)微量,炭化物(φ10~15mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)微量,砂少量  
 第2層 10YR3/1 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~50mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)極微量  
 第4層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 第5層 10YR3/2 黒褐色土 バミズブロック(φ10~30mm)多量

SN-015炭範囲



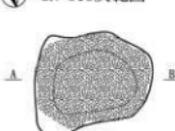
SN-016



SN-016セクション



SN-016炭範囲



SN-019



SN-019



SN-019

- 第1層 7.5YR3/4 暗褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量

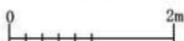


図3-159 F-2区 SN-8

SN-019 (図3-159)

X=91864.700, Y=-11611.100 付近で検出した。  
 54.0×46.0×4.0cm, 46.0×36.0

×8.0cmの不整楕円形の掘り込みを二箇所検出し、炭化粒混じりの焼土を検出した。

## 5. 溝状土坑 (Tピット)

STP-001 (図3-160)

X=91746.900, Y=-11665.100付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $342.0 \times 39.0 \times 83.0$  cmを測る。断面形は長軸側が凹凸があり、壁は袋状を呈し、短軸側は溝状で垂直に近い形で立ち上がる壁であるが、上部で角度を変え開き気味に立ち上がる部分がある。

STP-002 (図3-160)

X=91812.500, Y=-11645.300付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $304.0 \times 34.0 \times 73.0$  cmを測る。断面形は長軸側が凹凸があり、壁は袋状を呈し、短軸側は溝状で垂直に近い形で立ち上がる壁であるが、上部の一部で角度を変え開き気味に立ち上がる。

STP-003 (図3-160)

X=91807.000, Y=-11654.500付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $310.0 \times 16.0 \times 58.0$  cmを測る。断面形は長軸の壁側が若干丸みを帯びた形状で、壁は袋状を呈し、短軸側は溝状で垂直に近い形で立ち上がる

STP-004 (図3-160)

X=91772.000, Y=-11671.000付近で検出した。平面形は溝状を呈し、 $368.0 \times 26.0 \times 66.0$  cmを測る。断面形は長軸側が凹凸があり、壁の一部は袋状を呈し、短軸側は溝状で垂直に近い形で立ち上がる。

## 6. その他の遺構

SX-001 (図3-161)

X=91765.500, Y=-11673.000付近で検出した。平面形が不整形を呈する $123.0 \times 101.0$  cmを測る粘土範囲を検出した。

SX-002 (図3-161 ~ 163)

X=91796.000, Y=-11665.500付近で検出した。SX-004と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整形長槽形を呈し、 $427.0 \times 206.0 \times 73.0$  cmを測る。断面形は凹凸がある形状で、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに開き気味に立ち上がる部分が見られる。堆積土は6層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積で、第*a*・*i*層からB-Tm火山灰を検出した。

出土遺物は上・中層および覆土出土の須恵器環で、口径13.4 cm、器高5.1 cm、底径5.8 cm、器高指数3.8、底径指数4.3.2を測る。石英や

長石などの砂粒をやや含む胎土で、灰黄褐色を基調とし、外面の口縁～体部中半にかけて重ね焼き痕と内面に火押痕があるが、淡赤褐色を呈している。須恵器としては軟質で、焼き縮まりも弱く、断面は淡橙褐色で中心が淡灰色を呈している。器形は底部の円柱が微高台状に残り、開き気味に二段階に立ち上げており、口縁は開き気味に端反させている。体部中半に指オサニによる器壁の潰れが観察される。

SX-003 (図3-164)

X=91764.700, Y=-11699.000付近で検出した。平面形は不整形を呈し、 $108.0 \times (81.0) \times 38.0$  cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は袋状に入り込む部分と段状に立ち上がる部分が見られる。堆積土は4層に分層し、流れ込みの伴う堆積である。

出土遺物は上層と遺構外包含層出土の接合資料である縄文時代中期円筒土層*a*式期の土器1点を図示した。SX-003出土の破片は隆帯が剥落し、遺構外出土の方が摩滅が顕著である。

SX-004 (図3-161 ~ 163)

X=91798.000, Y=-11668.200付近で検出した。SX-002と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は不整形を呈し、 $(428.0) \times 25.0 \times 53.0$  cmを測る。断面形は凹凸がある形状で壁は開き気味に立ち上がる部分が多く見られる。堆積土は16層に分層し、中位に堆積する第5層はB-Tm火山灰の再堆積層である。

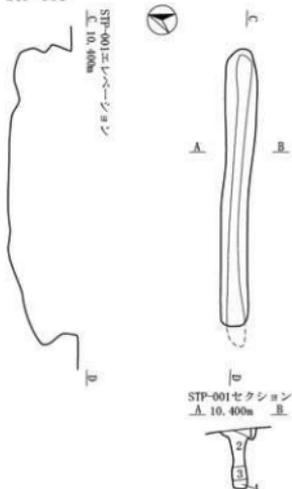
出土遺物は2点図示したが、同一個体の須恵器環で、全体形わかるE277は口径13.4 cm、器高5.5 cm、底径4.8 cm、器高指数4.1.0、底径指数3.5.8を測る。底径幅の狭い楕円形を呈する器形で、胎土は長石・石英などを少量含む。外面口縁部は重ね焼き痕が濃灰色を呈し、火押痕は内外面認められるが内面側が非常に薄い青灰色で、外面は底面から口縁部直下まで十字になった状態で濃い青灰色を呈している。外面体部に刻線があり、欠損のため全体形は不明であるが、正位の状態で「上」のような記号で、筆順は下の横棒→縦棒→上の横棒の順番である。破片資料のF277も含め外面体部下半側が打欠による剥落箇所が確認できる。

SX-005 (図3-164)

X=91782.500, Y=-11683.200付近で検出した。平面形は不整形判形を呈し、 $137.0 \times 85.0 \times 30.0$  cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。堆積土は4層に分層し、ローム・バミスブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

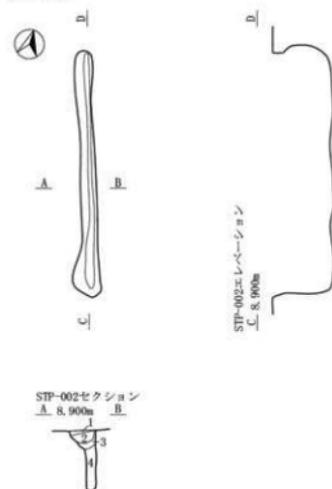
3F-2区

STP-001



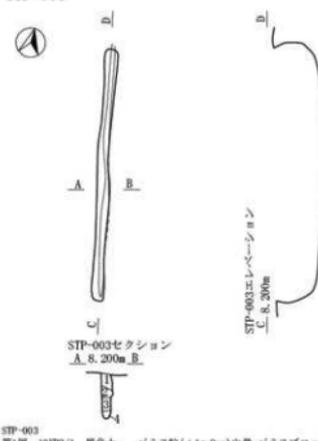
- STP-001
- 第1層 10YK2/1 黒色土 バミス粒(φ1~2mm)少量
- 第2層 10YK2/1 黒色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)極微量
- 第3層 10YK2/1黒色土と10YK3/2黒褐色土の混合土  
バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック  
(φ10~15mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量,  
ローム粒(φ5~9mm)少量
- 第4層 10YK3/2 黒褐色土  
バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック  
(φ10~20mm)少量, L, R (φ10~30mm)少量,炭化粒  
(φ1~3mm)微量

STP-002



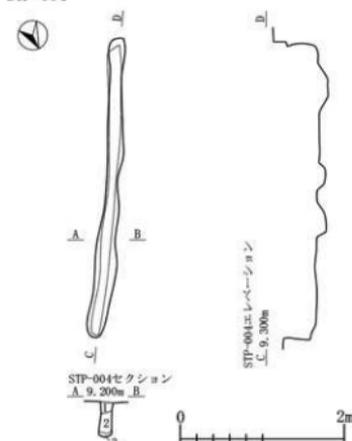
- STP-002
- 第1層 10YK3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~2mm)微量
- 第2層 10YK2/2 黒褐色土 10YK4/2灰黄褐色土粒(φ5~9mm)微量,バミス粒  
(φ5~9mm)微量
- 第3層 10YK3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)中量
- 第4層 10YK2/1 黒色土 バミス粒(φ1~2mm)微量,10YK2/2黒褐色土少量

STP-003



- STP-003
- 第1層 10YK2/1 黒色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック  
(φ10~20mm)微量,5YR4/6赤褐色土粒(φ3~5mm)  
微量
- 第2層 10YK1.7/1 黒色土 バミス粒(φ1~2mm)極微量
- 第3層 10YK3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~2mm)極微量,バミスブロック  
(φ10~20mm)微量
- 第4層 2.5Y2/1 黒色土 バミスブロック(φ10~20mm)微量,10YK5/3に  
黄褐色土ブロック(φ10~15mm)少量

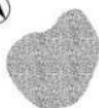
STP-004



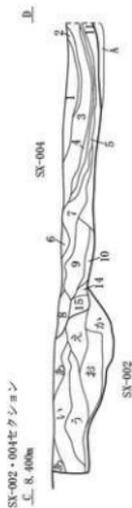
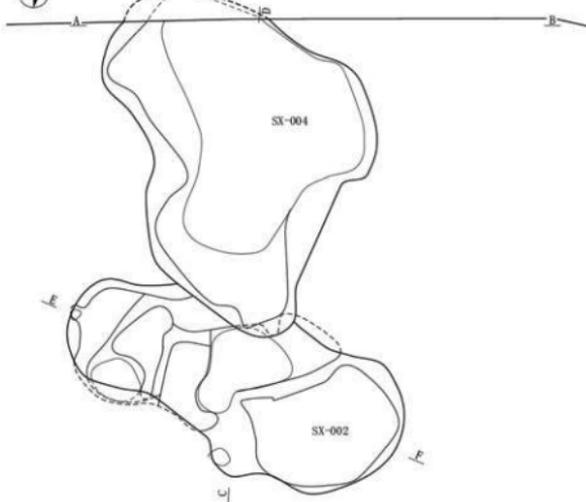
- STP-004
- 第1層 10YK2/1 黒色土 バミス粒(φ1~3mm)微量,10YK4/3に黄褐色土  
少量混入
- 第2層 10YK1.7/1 黒色土 バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブロック  
(φ30~40mm)極微量
- 第3層 10YK2/1 黒色土 バミス粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量

図 3-160 F-2区 STP

SX-001粘土範囲

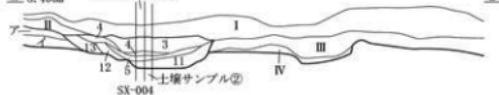


SX-002・004



SX-004・基本層序セクション

A. 8,400m 土壌サンプル①



SX-002エレベーション

E. 8,300m



図 3-161 F-2区 SX-1

SX-002		
第2層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )少量, パミスブロック( $\phi 10\sim 120\text{mm}$ )多量, 粘土ブロック( $\phi 20\sim 40\text{mm}$ )少量, 炭化粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )微量, 火山灰(0-Ta)微量
第1層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )少量, パミスブロック( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ )微量, 粘土粒( $\phi 5\sim 9\text{mm}$ )微量, 火山灰(0-Ta)少量, 10YR2/2黒褐色土少量混入
第9層	10YR2/1黒色土と10YR3/2黒褐色土の混合土	パミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )少量, パミスブロック( $\phi 10\sim 100\text{mm}$ )中量, 粘土ブロック( $\phi 20\sim 60\text{mm}$ )少量, 炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量
第2層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )微量
第3層	10YR2/1 黒色土	パミスブロック( $\phi 10\sim 120\text{mm}$ )多量, 粘土ブロック( $\phi 10\sim 40\text{mm}$ )少量
第5層	10YR6/6明黄褐色土と10YR2/1黒色土の混合土	パミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )中量, パミスブロック( $\phi 10\sim 30\text{mm}$ )中量, 粘土ブロック( $\phi 10\sim 50\text{mm}$ )少量

SX-004		
第1層	10YR1.7/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量
第2層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量
第3層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )微量
第4層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )微量, 粘土粒( $\phi 1\text{mm}$ )極微量
第5層	10YR3/2 黒褐色土	火山灰類, 火山灰(0-Ta)多量
第6層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )少量, 粘土粒( $\phi 5\sim 9\text{mm}$ )中量, 炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量
第7層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量, 炭化粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )微量, 火山灰(0-Ta)少量
第8層	10YR2/2 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量, 炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )微量
第9層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量, 炭化粒( $\phi 1\text{mm}$ )極微量
第10層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )微量, 炭化粒( $\phi 1\text{mm}$ )極微量, 粘土粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量
第11層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )中量, 炭化粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )微量, 粘土粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )少量, 砂少量
第12層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )微量, 炭化粒( $\phi 1\text{mm}$ )極微量
第13層	10YR2/2 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量, 粘土粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )微量
第14層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )微量
第15層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量, 炭化粒( $\phi 2\sim 3\text{mm}$ )極微量
第16層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 9\text{mm}$ )少量, パミスブロック( $\phi 10\sim 30\text{mm}$ )中量, L.R. ( $\phi 10\sim 20\text{mm}$ )少量, 粘土ブロック( $\phi 10\sim 15\text{mm}$ )少量, 10YR2/1黒色土少量混入

## 基本編序

第1層	10YR2/1黒色土と10YR3/1黒褐色土の混合土	パミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )微量, 炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量, 粘土粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量
第2層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )極微量, 炭化粒( $\phi 1\text{mm}$ )極微量, 粘土粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )微量
第3層	10YR2/1 黒色土	パミス粒( $\phi 1\sim 5\text{mm}$ )少量, 炭化粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )極微量, 粘土粒( $\phi 1\sim 2\text{mm}$ )微量
第4層	10YR4/2 褐色土	パミス粒( $\phi 1\sim 3\text{mm}$ )極微量, 粘土粒( $\phi 2\sim 5\text{mm}$ )微量

## SX-004土器・石器・木製品出土位置図

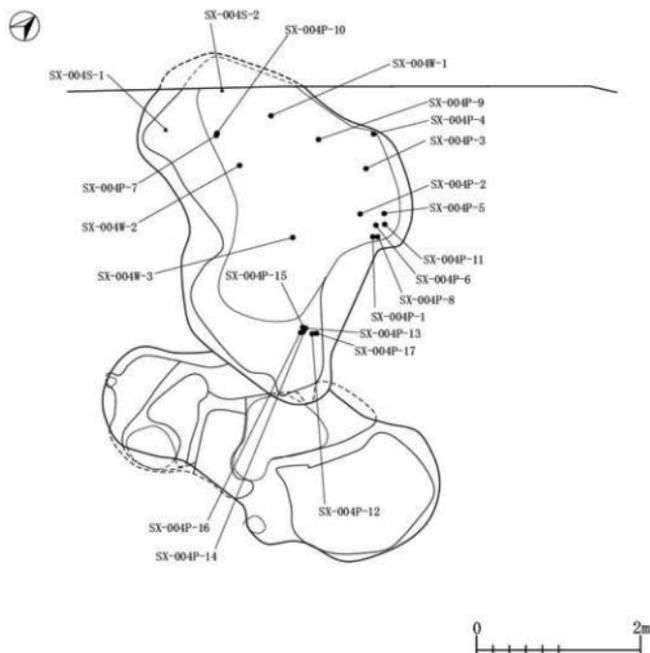


図 3-162 F-2 区 SX-2

## SX-002・004B-Tm火山灰範囲・火山灰サンプル

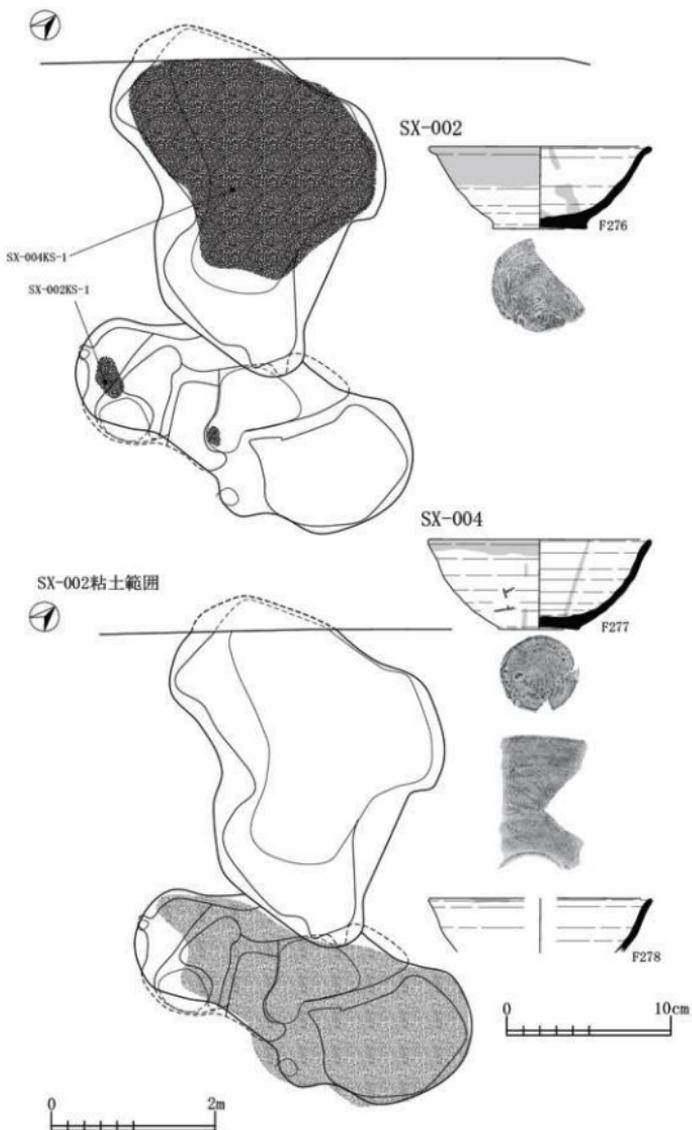
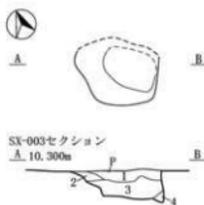


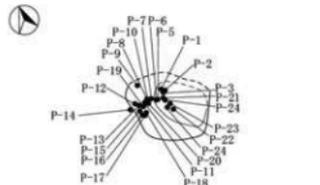
図 3-163 F-2区 SX-3

SX-003

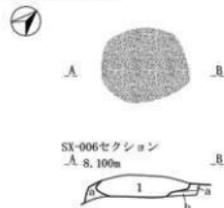


- SX-003  
 第1層 10YR2/3 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 第2層 10YR3/4 黒褐色土 バミス粒(φ1~5mm)微量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)極微量  
 第4層 10YR2/3 黒褐色土 バミス粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)極微量

SX-003土器出土位置図

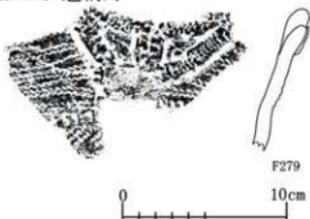


SX-006粘土範囲

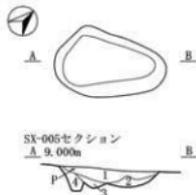


- SX-006  
 第1層 10YR3/2 黒褐色土 粘質土,バミス粒(φ1~9mm)少量, L.R.  
 (φ10~30mm)少量,粘土ブロック(φ10~40mm)  
 多量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 第2層 10YR1, 7/1 黒色土 バミス粒(φ1~3mm)極微量,炭化粒(φ1mm)  
 極微量 - 埴山  
 第3層 10YR4/2 灰黄褐色土 粘質土,バミス粒(φ1~3mm)微量,粘土ブロック  
 (φ10~30mm)中量 - 埴山

SX-003+遺構外



SX-005



- SX-005  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック  
 (φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)極微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 第3層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック  
 (φ10~15mm)微量  
 第4層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~5mm)少量

SX-005土器出土位置図

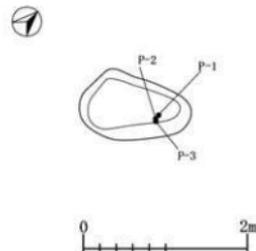


図 3-164 F-2区 SX-4

出土遺物は破片のため図示に至っていない。

SX-006 (図3-164)

X=91799.500, Y=-11667.200付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、107.0×88.0×26.0cmを測る。断面形は段状に立ち上がり、壁は一部袋状に入り込む部分が見られる。堆積土は1層に分層し、粘土ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

SX-010 (図3-165)

X=91883.800, Y=-11587.200付近で検出した。攪乱により一部破壊されているが、平面形は不整小判形を呈し、74.0×40.0×20.0cmを測る。断面形は北側が一段下がった形状で、壁は垂直に近い形で立ち上がる。

SX-011 (図3-165)

X=91888.000, Y=-11585.700付近で検出した。一部攪乱により破壊され、東側はE区の境界部分に

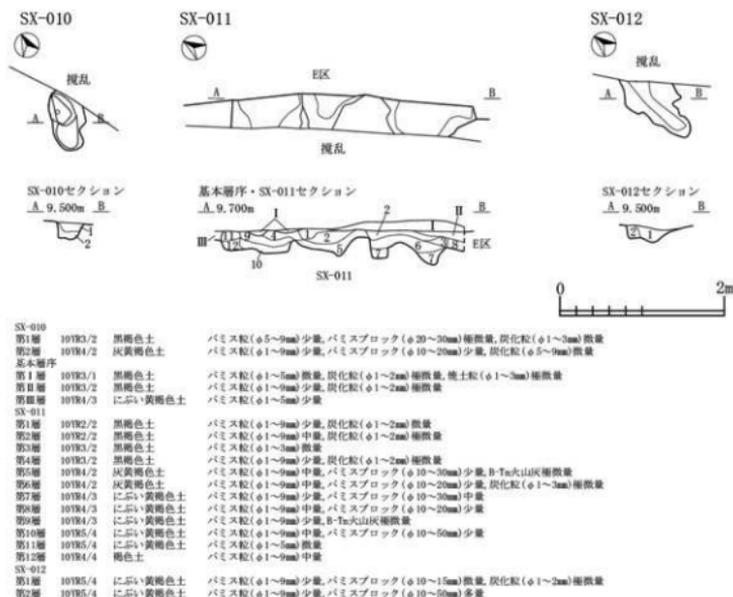


図3-165 F-2区 SX-5

相当し、E区側では確認していなかったため、全容は不明であるが、不整形な凹凸のある掘り込みを296.0×46.0×5.0cmの規模で検出している。第5・9層にB-Tm火山灰が混入しているが詳細は不明である。

## SX-012 (図3-165)

X=91888.000, Y=-11588.900付近で検出した。北東側が擾乱で破壊されており、平面形は不整形を呈し、(109.0)×54.0×19.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と開き気味に立ち上がる部分が見られる。堆積土は2層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状況である。

## SX-013 (図3-166)

X=91882.000, Y=-11586.000付近で検出した。S1-005と重複しているが、擾乱部分での検出で詳細は不明である。平面形は不整形の溝状を呈しており、556.0×221.0×55.0cmを測る。断面形は凹凸が顕著で、壁は開き気味に立ち上がる。堆積土は6層に分層し、ブロック混じりの人為的な埋め戻しに伴う堆積である。

## SX-014 (図3-166)

X=91870.100, Y=-11580.500付近で検出した。SK-111と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は重複するSK-111と擾乱によってほとんど残存していない状況であるが、残存部は(不整形楕円形)を呈しており、(60.0)×(28.0)×17.0cmを測る。断面形は若干傾斜があり、壁は開き気味に立ち上がっている。堆積土は2層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

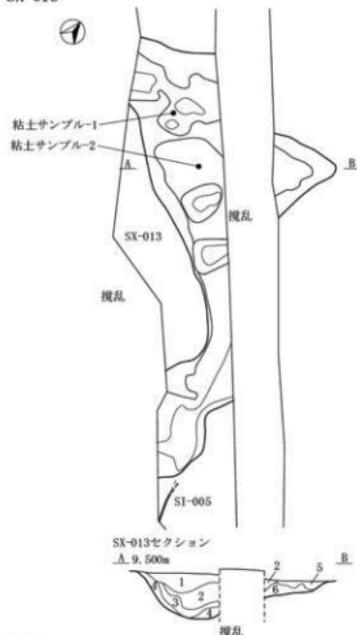
## SX-016 (図3-167)

X=91879.000, Y=-11587.500付近で検出した。S1-005と重複しており、本遺構の方が古い。東側が擾乱により破壊されているが、平面形は不整形を呈し、(92.0)×(60.0)×33.0cmを測る。断面形は底面は平坦面が少なく、壁は開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は3層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状況である。

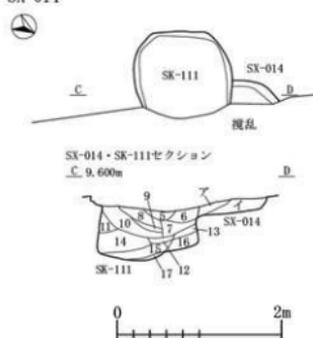
## SX-017 (図3-167)

X=91844.000, Y=-11598.900付近で検出した。平面形は不整形長楕円形を呈し、124.0×53.0

SX-013



SX-014



SX-013			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化灰(φ1~3mm)微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~3mm)微量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,炭化灰(φ1~3mm)微量
第4層	10YR1/3	黒褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム灰(φ3~9mm)微量,炭化灰(φ2~3mm)微量
第5層	10YR1/3	にぶい黄褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~3mm)微量
第6層	10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土		パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)中量,炭化灰(φ1~2mm)微量
SX-014			
第7層	10YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)微量
第8層	10YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~70mm)中量,炭化灰(φ1~3mm)微量
第9層	10YR2/3	黒褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,ローム灰(φ1~2mm)微量,炭化灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量
第10層	10YR2/2	黒褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ10~15mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~20mm)少量,To-a火山灰少量
第11層	7.5YR5/4	にぶい褐色土	焼土層,パミス灰(φ1~9mm)少量
第12層	10YR3/2	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~100mm)多量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第13層	10YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~50mm)中量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第14層	10YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量
第15層	10YR1/3	にぶい黄褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)微量,To-a火山灰層入
第16層	10YR3/3	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,炭化灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~20mm)微量,To-a火山灰少量
第17層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,ローム灰(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~50mm)中量,炭化灰(φ1~2mm)微量
第18層	10YR4/4	褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)少量, L.R.(φ20mm)層入,炭化灰(φ1~3mm)微量,炭化物(φ10~12mm)少量,To-a火山灰少量
第19層	10YR6/6	明黄褐色土	L.R.(φ10~50mm)少量,パミス層
第20層	10YR3/3	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量
第21層	10YR3/4	暗褐色土	ローム灰(φ1~9mm)少量, L.R.(φ10~30mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)微量
第22層	10YR1/3	にぶい黄褐色土	パミス灰(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~50mm)中量,ローム灰(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~50mm)少量,炭化灰(φ1~3mm)微量
第23層	10YR3/2	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,炭化灰(φ10~20mm)中量,ローム灰(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~30mm)中量,炭化灰(φ3mm)微量
第24層	10YR3/4	暗褐色土	パミス灰(φ1~9mm)中量,炭化灰(φ1~3mm)微量
第25層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ローム層,炭化灰(φ1~2mm)微量

図3-166 F-2区 SX-6

×17.0cmを測る。断面形は丸みを帯び、壁は開き気味に立ち上がる。堆積土は2層に分層し、壁際は崩落が伴う自然堆積状況を示す。

SX-018 (図3-167)

X=91836.000, Y=-11600.500付近で検出した。

SD-001・001aと重複しており、本遺構の

方が古い。平面形は不整楕円形を呈し、(189.0)×(130.0)×32.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は6層に分層し、流れ込みの伴う自然堆積状況である。

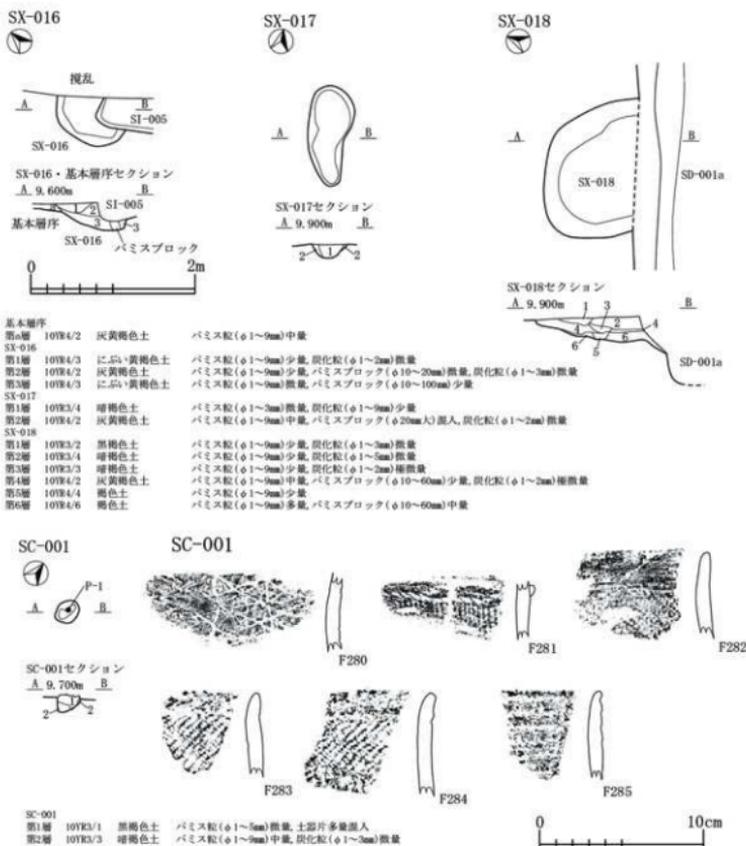


図3-167 F-2区 SX-7,SC

## 7. 土器埋設遺構

SC-001 (図3-167)

X=91884.000, Y=-11594.000 付近で検出した。通常の土器埋設遺構のような縄文土器を個体の状態で埋設しているのではなく、31.0×26.0×2.2.0cmを測る平面形が楕円形のピットの中に縄文土器片を5~6cm程度の破片とし、充填する形で埋められていた。出土遺物として図3-167に6点図示したが、円筒下層b式とc式中心の混在した構成で、器面と破断面の摩滅が顕著であり、特定の個体の破片が顕的に卓越する訳でもなく、複数個体の口縁部に近い資料が混在する形で、色調や被熱の状態などに差は見られない。

## 8. ピット (図3-168~177)

調査区内から121基検出した。SI-003に付属したと考えられるSBa-001のように掘立柱建物として認定できるものはないが、調査区東側では、SP-234・236・240、SP-203・204・227・228・258・268などのように複数のピットが同一軸線上に並ぶものが多いと認められる。

一方、土坑や溝状土坑主体の調査区西側では散発的な検出にとどまり、2基が近接した位置に配置する事例が多いもの、3基が1列に並ぶ事例は見られない。出土遺物もなく、時期等の情報は不明である。

なお、規模等の情報は遺構観察表にまとめた。

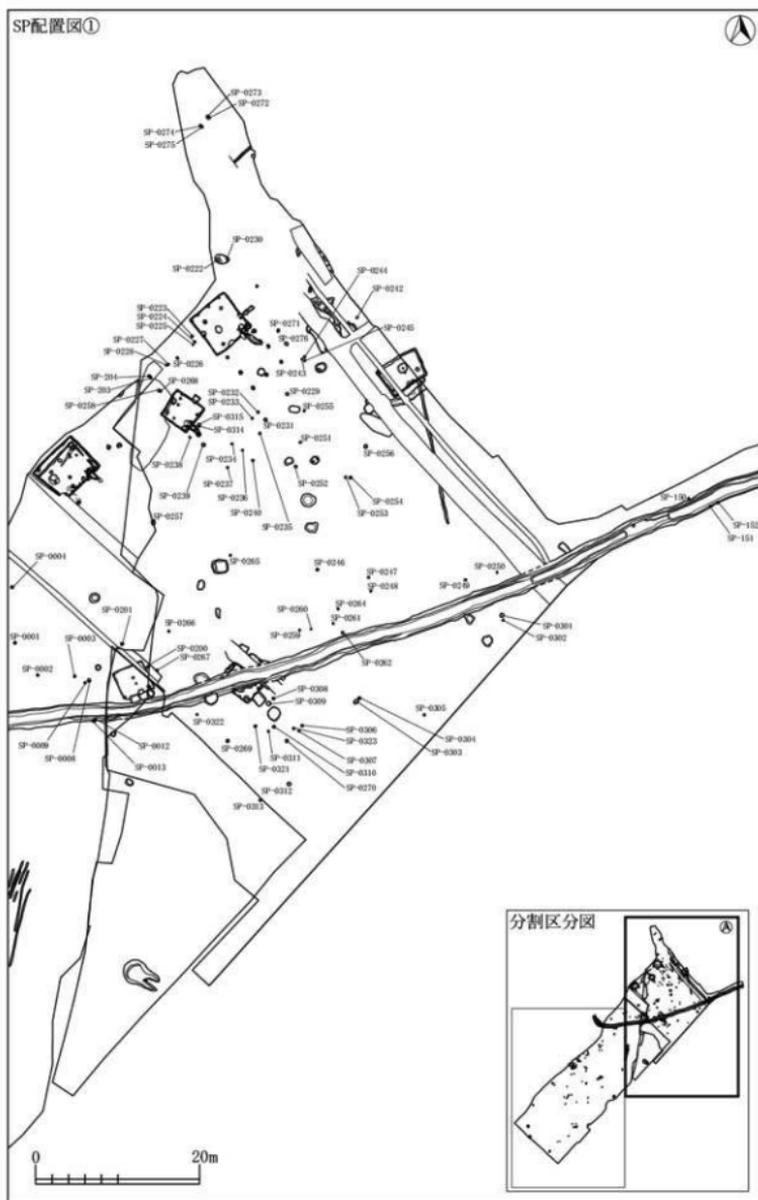


図 3-168 F-2 区 SP-1

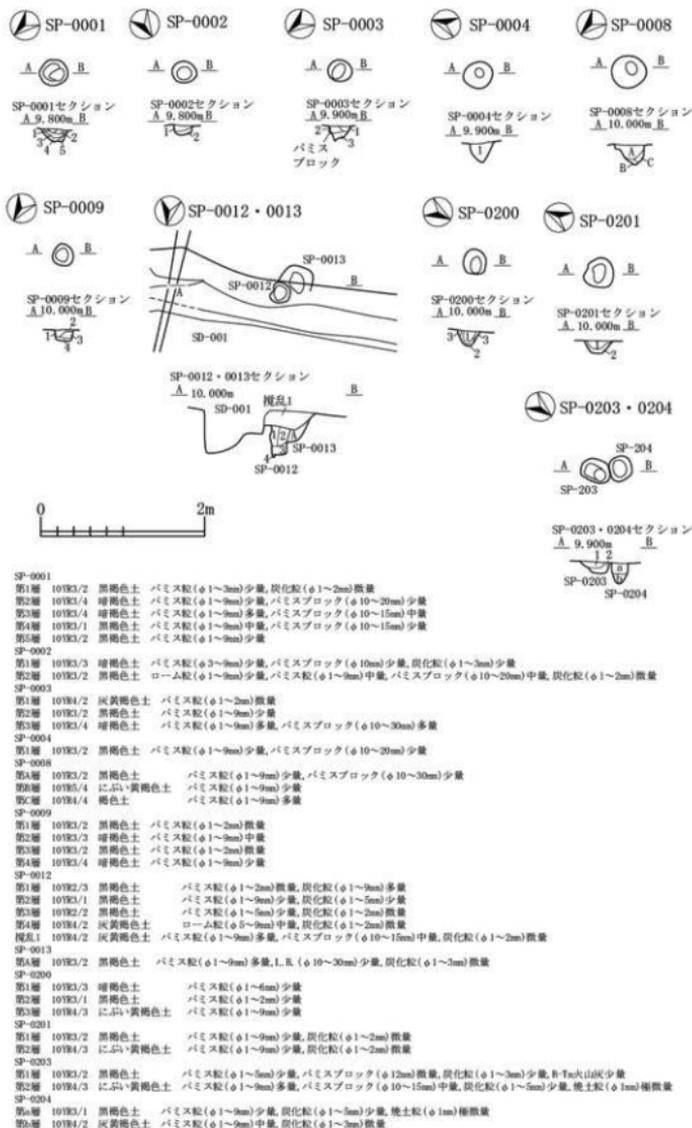
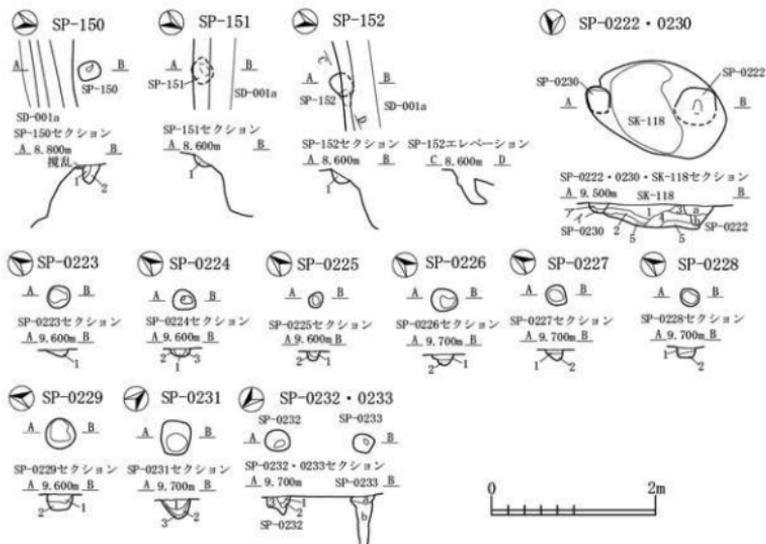


図 3-169 F-2 区 SP-2



SP-150 第1層 10YR3/1 黒褐色土 第2層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量 バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)少量	SP-0225 第1層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量, バミスブ ロック(φ10mm)乱入, ローム粒(φ1 ~2mm)微量, 粘土粒(φ1~2mm)少量
SP-151 第1層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)少量, ローム粒 (φ1~2mm)微量
SP-152 第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量	SP-0226 第1層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10~12mm)微量, 炭化粒(φ1 ~2mm)少量, 粘土粒(φ1~2mm)少量
SP-0222 第0層 10YR2/3 黒褐色土 第1層 10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)少量, ローム粒 (φ1~3mm)微量
SP-0230 第7層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ5~9mm)少量, バミスブロック (φ10~20mm)中量, ローム粒(φ1~5mm) 少量	SP-0227 第1層 10YR3/3 暗褐色土 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10~15mm)微量, ローム粒(φ 1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)少量
SK-118 第1層 10YR2/2 黒褐色土 第2層 10YR3/1 黒褐色土 第3層 10YR2/3 黒褐色土 第4層 10YR3/4 暗褐色土 第5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック (φ10~20mm)微量, ローム粒(φ1~5mm) 微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量 バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10mm)乱入, ローム粒(φ1~2mm)微 量, 炭化粒(φ1~3mm)少量 バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10mm)乱入, ローム粒(φ1~2mm)微 量, 炭化粒(φ1~3mm)少量 バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)多量, ローム粒(φ1~5 mm)少量	SP-0228 第1層 10YR2/3 黒褐色土 第2層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量, ローム粒(φ 1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量 バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)微量, 10YR3/2黒 褐色土(φ1~3mm)少量
SP-0223 第1層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)少 量, 炭化粒(φ1~3mm)少量	SP-0229 第1層 10YR2/3 黒褐色土 第2層 10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量, ローム粒(φ 1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量 バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブ ロック(φ10~15mm)微量, ローム粒(φ 1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)少 量
SP-0224 第1層 10YR2/3 黒褐色土 第2層 10YR3/2 黒褐色土 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量, ローム粒(φ1 ~5mm)少量, 粘土粒(φ1~2mm)微量, 炭 化粒(φ1~3mm)少量 バミス粒(φ1~9mm)微量, バミスブ ロック(φ10mm)乱入, 粘土粒(φ1~3mm)微 量, 炭化粒(φ1~2mm)少量, ローム粒(φ1 ~2mm)微量 バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブ ロック(φ10mm)乱入, 炭化粒(φ1~2mm)少 量, 粘土粒(φ1~2mm)微量, ローム粒(φ1~2 mm)微量	SP-0231 第1層 10YR3/3 暗褐色土 第2層 10YR3/4 暗褐色土 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)少量, バミスブ ロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ 1~5mm)中量, To=砂乱入
SP-0225 第1層 10YR2/3 黒褐色土 第2層 10YR3/2 黒褐色土 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量 バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2 mm)少量	SP-0232 第1層 10YR3/4 暗褐色土 第2層 10YR4/4 褐色土 第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 第0層 10YR2/2 黒褐色土 第0層 10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1 ~2mm)微量 バミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ2 mm)微量 バミス粒(φ1~3mm)微量

図3-170 F-2区 SP-3

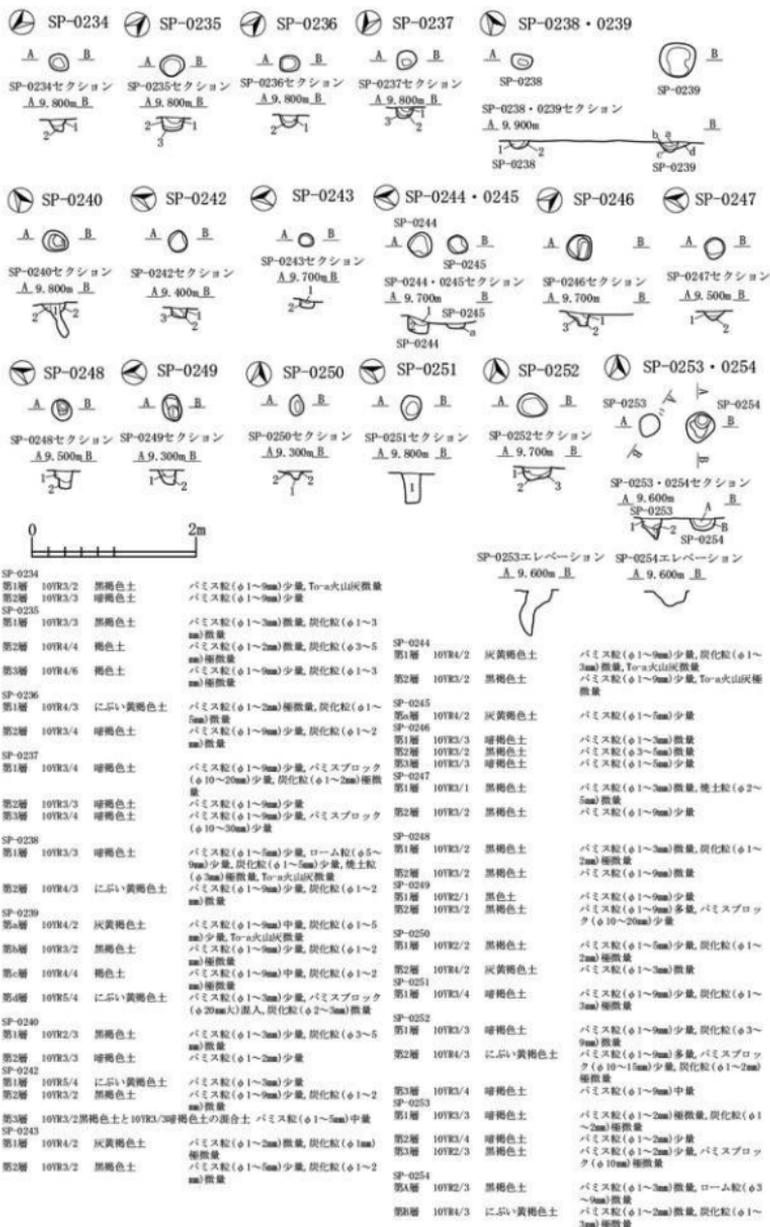


図 3-171 F-2 区 SP-4

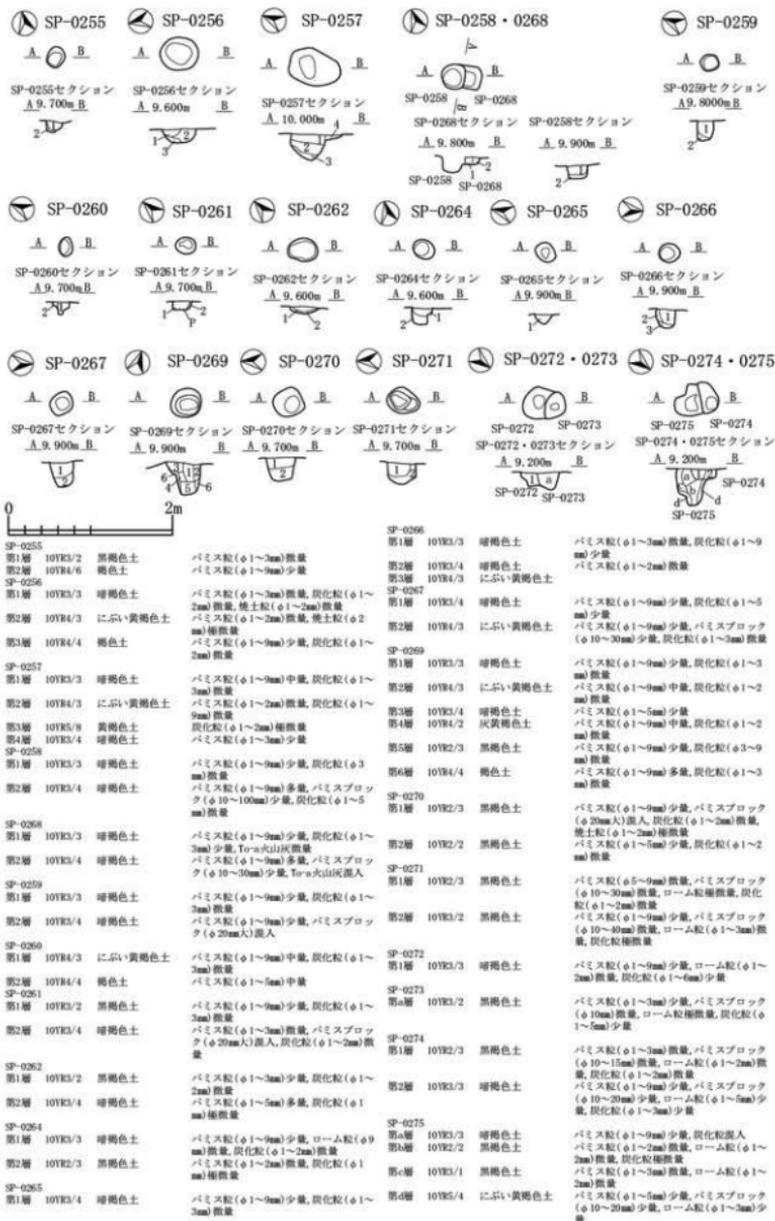


図3-172 F-2区 SP-5

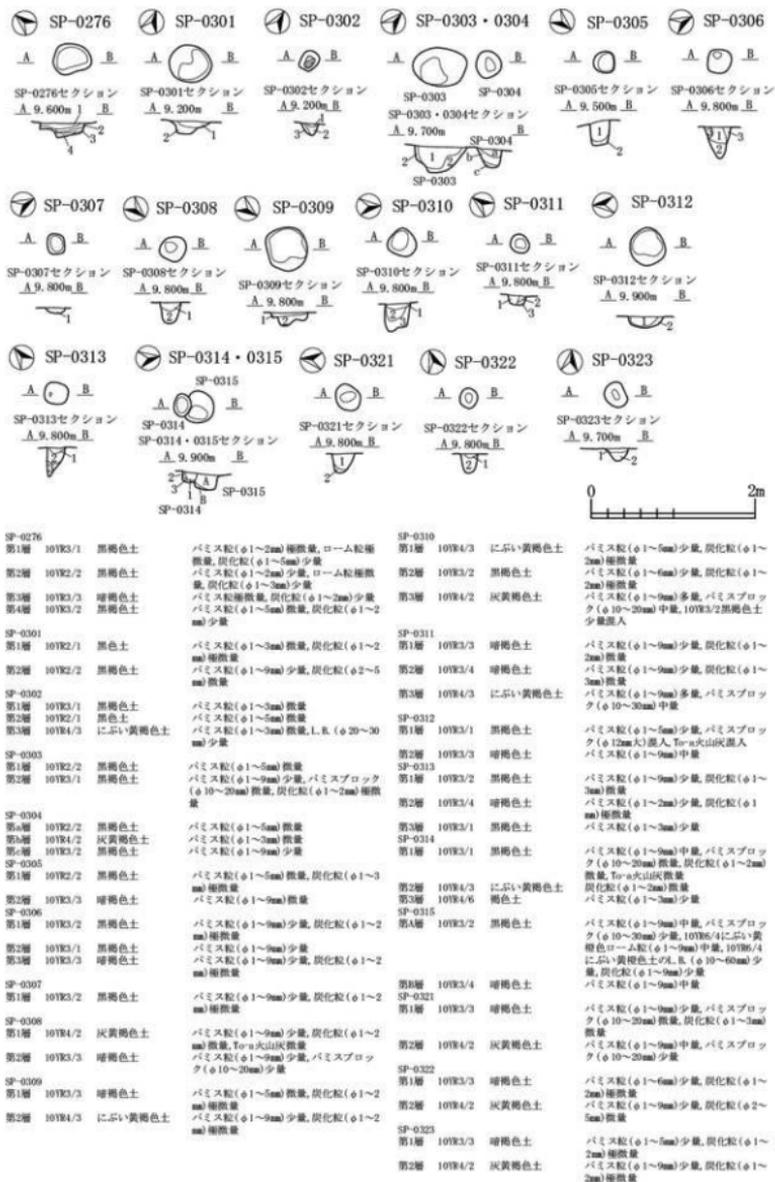


図 3-173 F-2 区 SP-6

F-2区

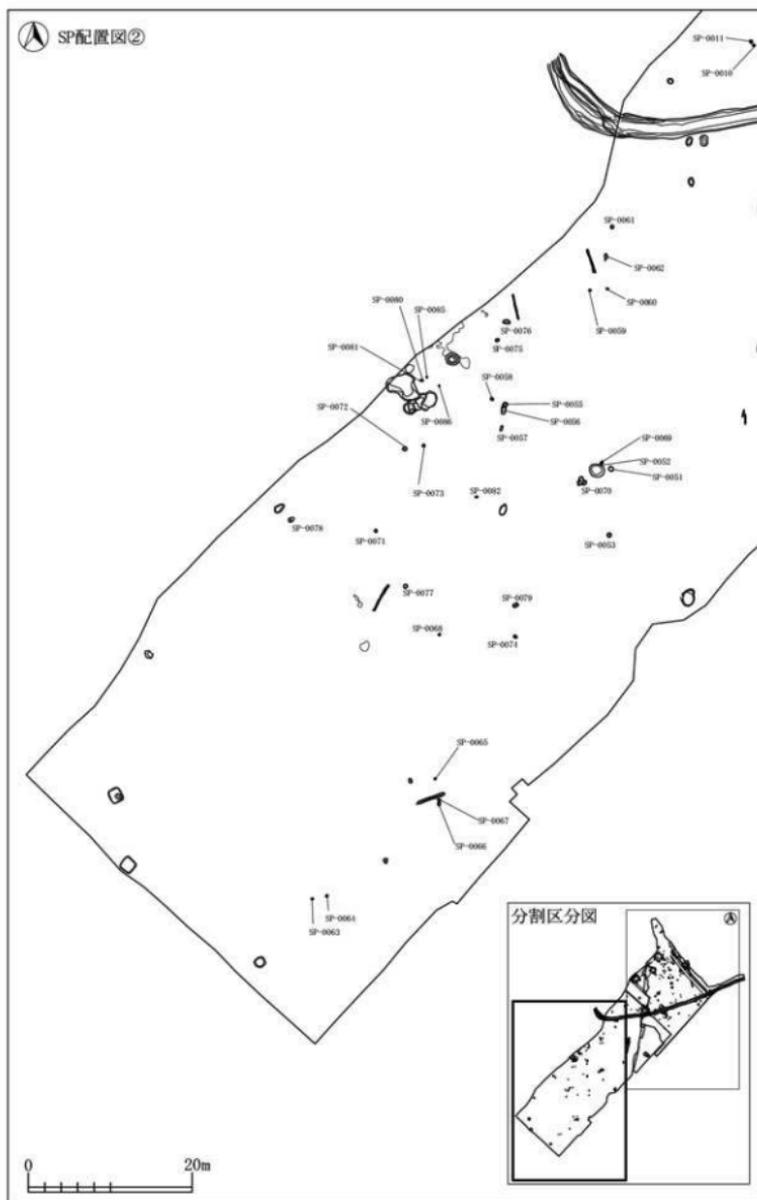
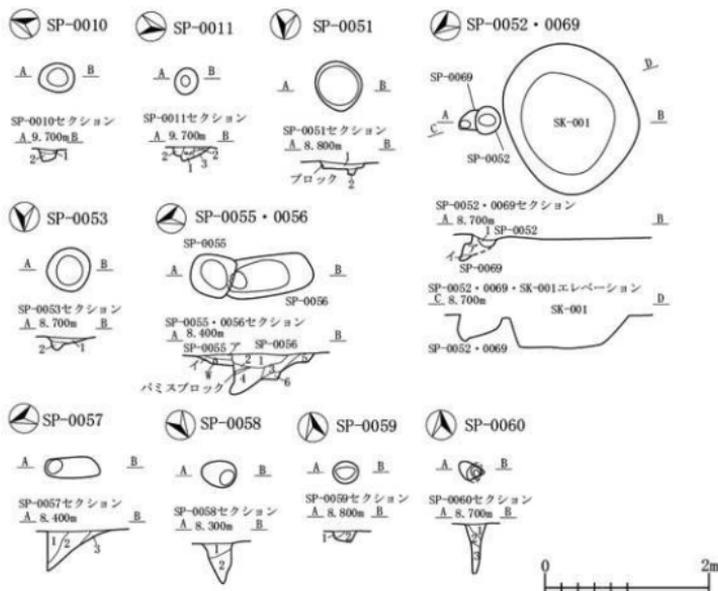


図 3-174 F-2区 SP-7



SP-0010	第1層 10YK3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ3~5mm)少量
	第2層 10YK3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)中量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
SP-0011	第1層 10YK3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ30~50mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
	第2層 10YK3/4 暗褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量, L.R.(φ20mm大)混入, バミス粒(φ1~9mm)中量
	第3層 10YK3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ10~60mm)多量
SP-0051	第1層 10YK2/1 黒色土	10YR5/2黄褐色土(φ1~2mm)少量, 10YR7/2にぶい黄褐色土ブロック(φ15×15mm大)混入, 10YR6/0明黄褐色土ブロック(φ10~15mm)微量
	第2層 10YK1.7/1 黒色土	10YR6/0明黄褐色土(φ1~5mm)少量, 10YR6/6明黄褐色土ブロック(φ10~15mm)少量
SP-0052	第1層 10YK2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, 鉄分が多い土粒(φ1~3mm)微量, バミスブロック(φ10~20mm)微量
SP-0059	第1層 10YK3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~30mm)多量, 10YR4/2黄褐色土ブロック(φ10~20mm)少量
	第2層 10YK2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)少量
SP-0053	第1層 7.5YR2/1 黒色土	7.5YR7/2明褐色の粘土(φ3~9mm)少量, 10YR5/2黄褐色の粘土ブロック(φ10~20mm)少量,
	第2層 10YK1.7/1 黒色土	7.5YR7/6褐色の鉄分が多い土ブロック(φ20mm大)混入,
SP-0055	第1層 7.5YR1.7/1 黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量, バミスブロック(φ20mm大)混入, 5YR2/3暗褐色の鉄分が多い土粒(φ3~5mm)微量
	第2層 10YK1.7/1 黒色土	7.5YR5/2黄褐色土ブロック(φ20~30mm)少量, バミス粒(φ1~2mm)微量
SP-0056	第1層 7.5YR1.7/1 黒色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)微量, 7.5YR4/2黄褐色土ブロック(φ10mm)微量
	第2層 10YK1.7/1 黒色土	バミスブロック(φ30×30mm大)混入, バミス粒(φ1~3mm)微量, 10YR5/2にぶい黄褐色土ブロック(φ10mm)微量
	第3層 10YK2/1 黒色土	10YR4/1褐色土(φ8~9mm)微量, ブロック(φ10mm)微量, バミス粒(φ1~2mm)微量
	第4層 2.5Y2/1 黒色土	2.5YR4/1黄褐色土(φ7~8mm)少量
	第5層 10YR4/1 褐色土	7.5YR5/2黄褐色土ブロック(φ20~25mm)微量, バミス粒(φ5~9mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)微量
	第6層 7.5YR3/1 黒褐色土	5YR3/0暗赤褐色の鉄分が多い土粒(φ7~9mm)少量, バミス粒(φ1~3mm)微量, 10YR2/2黒褐色土ブロック(φ10~20mm)少量
SP-0057	第1層 10YK2/1 黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量, 7.5YR5/2黄褐色土(φ6~7mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)中量
	第2層 10YK1.7/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10mm)微量, 7.5YR5/2黄褐色土(φ8~9mm)微量
	第3層 10YK2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, 10YR4/1褐色土(φ5~6mm)少量, 同色ブロック(φ10~15mm)微量, 10YR6/3にぶい黄褐色土ブロック(φ10mm)微量
SP-0058	第1層 10YK1.7/1 黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量, バミスブロック(φ10mm)微量, 5YR4/4にぶい赤褐色の鉄分が多い土粒(φ5~6mm)微量,
	第2層 10YK2/1 黒色土	7.5YR5/2黄褐色土ブロック(φ10mm)微量,
	第3層 10YK1.7/1 黒色土	バミス粒(φ3~5mm)微量, バミスブロック(φ10~15mm)微量, 10YR4/1褐色土(φ8~9mm)少量
SP-0059	第1層 10YK3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量
	第2層 10YK3/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)少量
SP-0060	第1層 10YK3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YK2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
	第3層 10YK2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)中量

図 3-175 F-2 区 SP-8

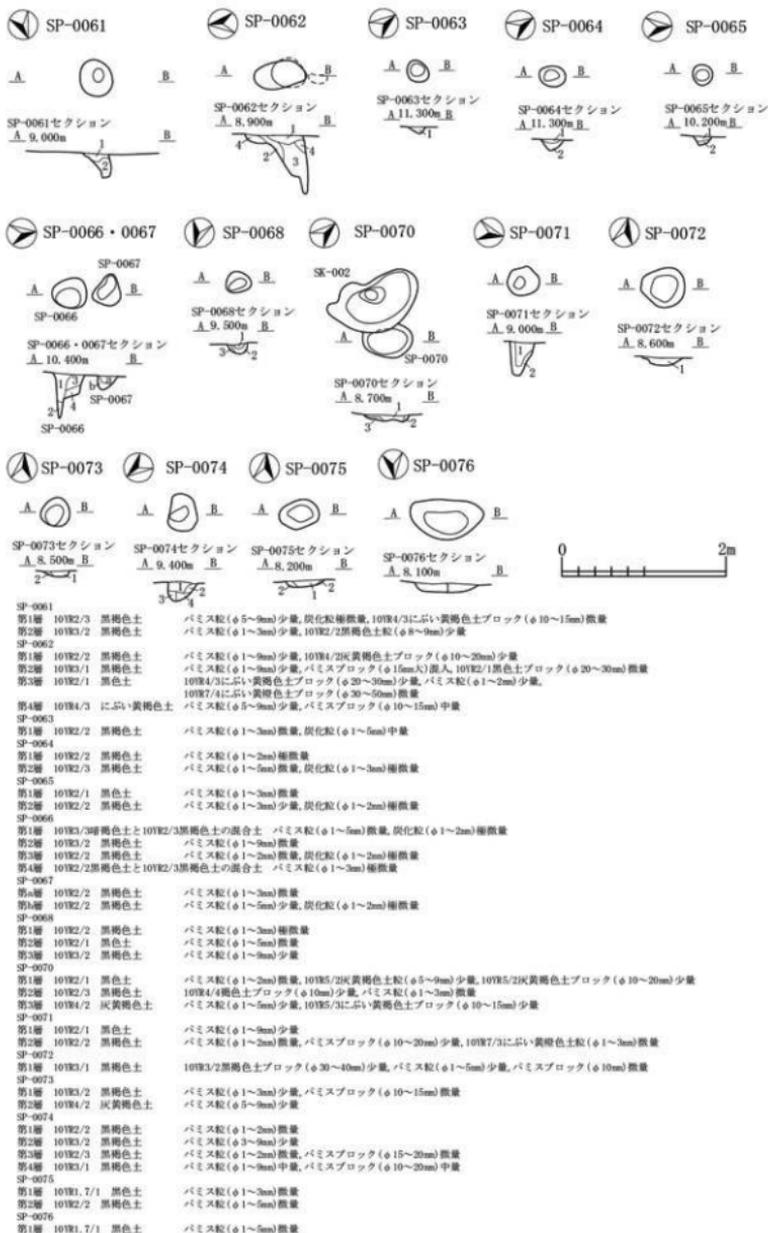
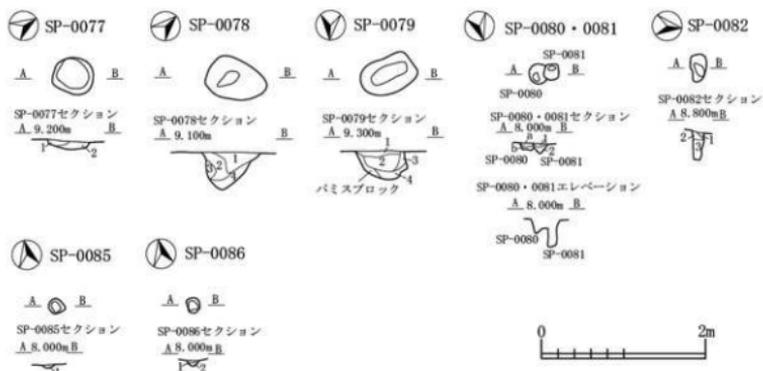


図 3-176 F-2 区 SP-9



SP-0077		
第1層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)微量
第2層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~5mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SP-0078		
第1層 10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)微量
第2層 10YR3/2	黒褐色土と10YR4/3に黄褐色土の混合土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第3層 10YR4/6	褐色土	バミス粒(φ1~3mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第4層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~40mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量
SP-0079		
第1層 10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ20~30mm)微量
第2層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ3~5mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)少量
第3層 10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)中量,バミスブロック(φ10mm)微量
第4層 10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,バミスブロック(φ10~15mm)微量
SP-0080		
第a層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量
第b層 10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
SP-0081		
第1層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~3mm)極微量
第2層 10YR3/1	黒褐色土と10YR4/3に黄褐色土の混合土	バミス粒(φ1~2mm)極微量
SP-0082		
第1層 10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)中量,炭化粒(φ1mm)極微量
第2層 10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量
第3層 10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量
SP-0085		
第1層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,ローム粒(φ2~5mm)微量
SP-0086		
第1層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~2mm)極微量
第2層 10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)極微量

図3-177 F-2区 SP-10

## 9. 溝跡

SD-001・001a・002 (図3-178~190)

平成20年度(2008年)と平成21年度(2009年)で検出した連続した溝跡であるが、調査年度ごとに認定が異なり、平成20年度ではSD-001とSD-002と認定し、SD-002側が新しい取り扱いとし、平成21年度ではSD-001とSD-001aとしてSD-001a側が新しいと取り扱っている。実質的にSD-001とSD-001より新しいSD-002=SD-001aという二段階に分かれる溝跡である。

この溝跡はE区ではSD-51、D区およびF-1区ではSD-83とされた溝跡で、高間(1)遺跡内を大規模に巡る区画溝である。本調査区内では南西のコーナー部分を検出した形であるが、新旧で地点が若干異なる位置で曲っており、方形を呈する直角な曲がり方ではなく、丸みを帯び緩やかに曲

がる形で、コーナー部分以外はほぼ同一地点を利用し、溝としている。

調査区内での検出情報として、SD-001はX=91837.227, Y=-11650.024~X=91862.211, Y=-11529.256の地点で検出し、長さ134.2m、幅250.0cm、深さ137.0cmを測る。

SD-001a・002は、X=91837.625, Y=-11649.598~X=91862.211, Y=-11529.256の地点で検出し、長さ129.7m、幅258.0cm、深さ92.0cmを測る。

出土遺物は、SD-001・002の重複部分から出土した縄文土器片をF286、SD-001上層に混入した近代の印判の徳利の口縁部(F287)と体部(F288)を図示し、図3-190ではSD-001a扱いの出土資料を図示した。溝が実質的に機能した時期の資料はなく、縄文時代と平安時代の土器のみの出土で、F289は縄

高岡  
F-2区

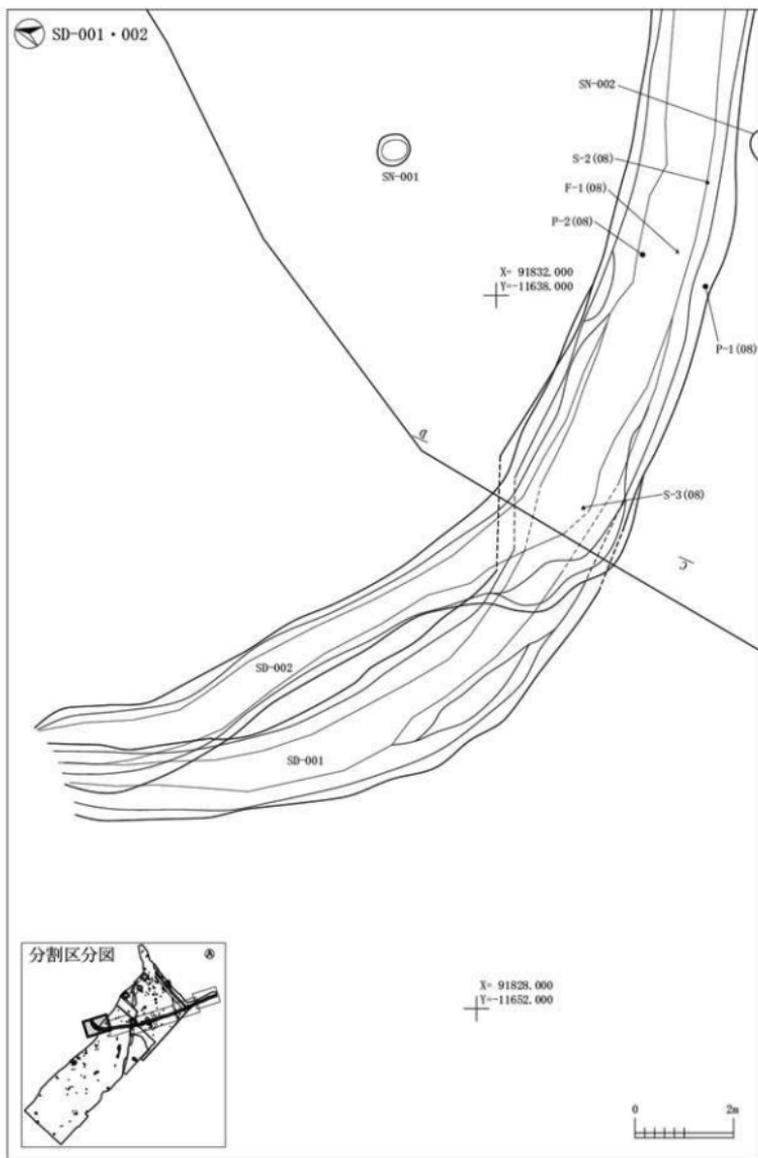


図 3-178 F-2区 SD-1

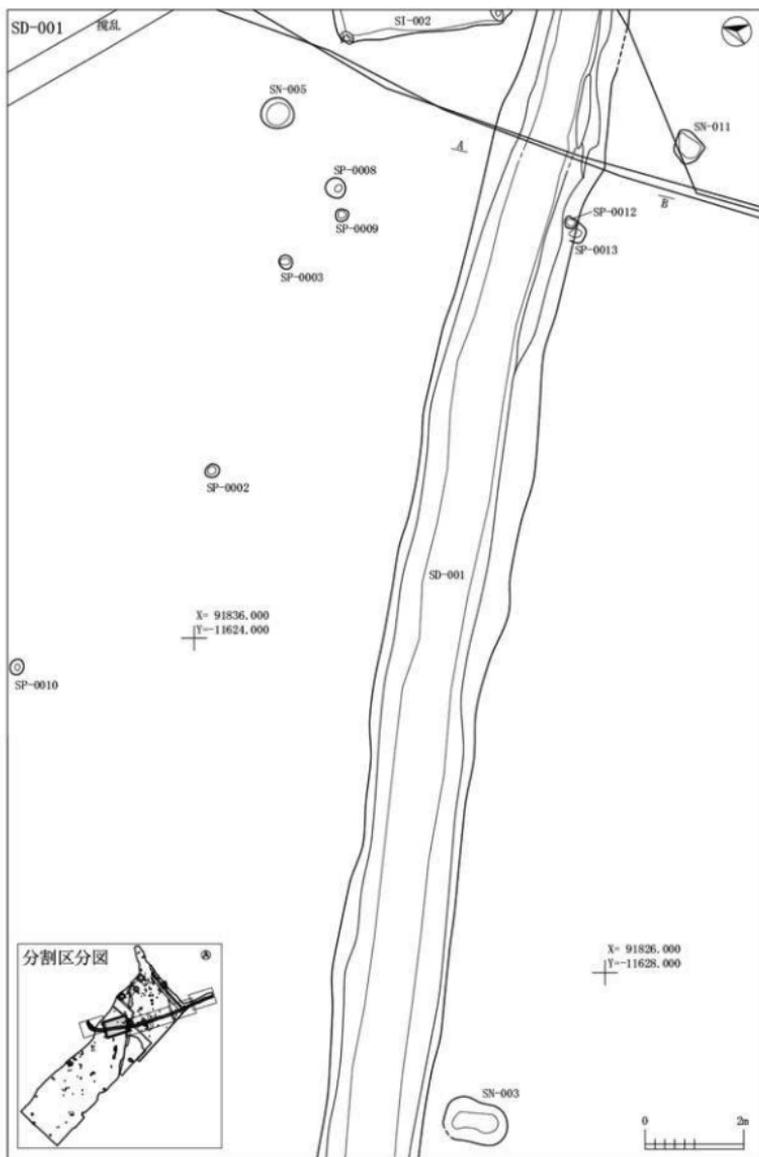
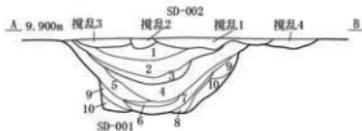


図 3-179 F-2区 SD-2

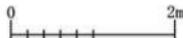
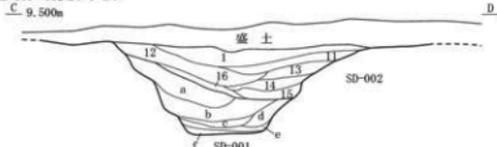
SD-001・002セクション



SD-002

第1層	10R3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第2層	10R3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第3層	10R2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量
SD-001			
第4層	10R2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)少量
第5層	10R5/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第6層	10R1,7/1	黒色土	粉埃層
第7層	10R3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~7mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量
第8層	10R2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第9層	10R4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~7mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第10層	10R5/4	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量
視丘1	10R4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~15mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量
視丘2	10R4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量
視丘3	10R4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~7mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
視丘4	10R3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~20mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)極微量

SD-001・002セクション



SD-002

第1層	10R3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第11層	10R4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~7mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1mm)極微量
第12層	10R3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第13層	10R3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
第14層	10R3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~7mm)中量,パミスブロック(φ10~25mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1mm)極微量
第15層	10R4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~40mm)中量,炭化粒(φ1~7mm)少量,鉄分混入
第16層	10R4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量,鉄分混入
盛土	10R3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
SD-001			
第a層	10R2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量,鉄分混入
第b層	10R4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~7mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)少量,鉄分混入
第c層	2.0Y/1	黒色土	パミス粒(φ1~6mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,鉄分混入
第d層	10R4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ25mm)微量,炭化粒(φ1mm)極微量,鉄分混入
第e層	2.0Y/3	暗オリーブ褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)多量, L.H.(φ10~30mm)多量,炭化粒(φ1~3mm)少量,鉄分混入
第f層	2.0Y/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量, L.H.(φ10~40mm)多量,炭化粒(φ1~2mm)極微量,鉄分混入

SD-001・002



F286

SD-001



F287



F288



図3-180 F-2区 SD-3

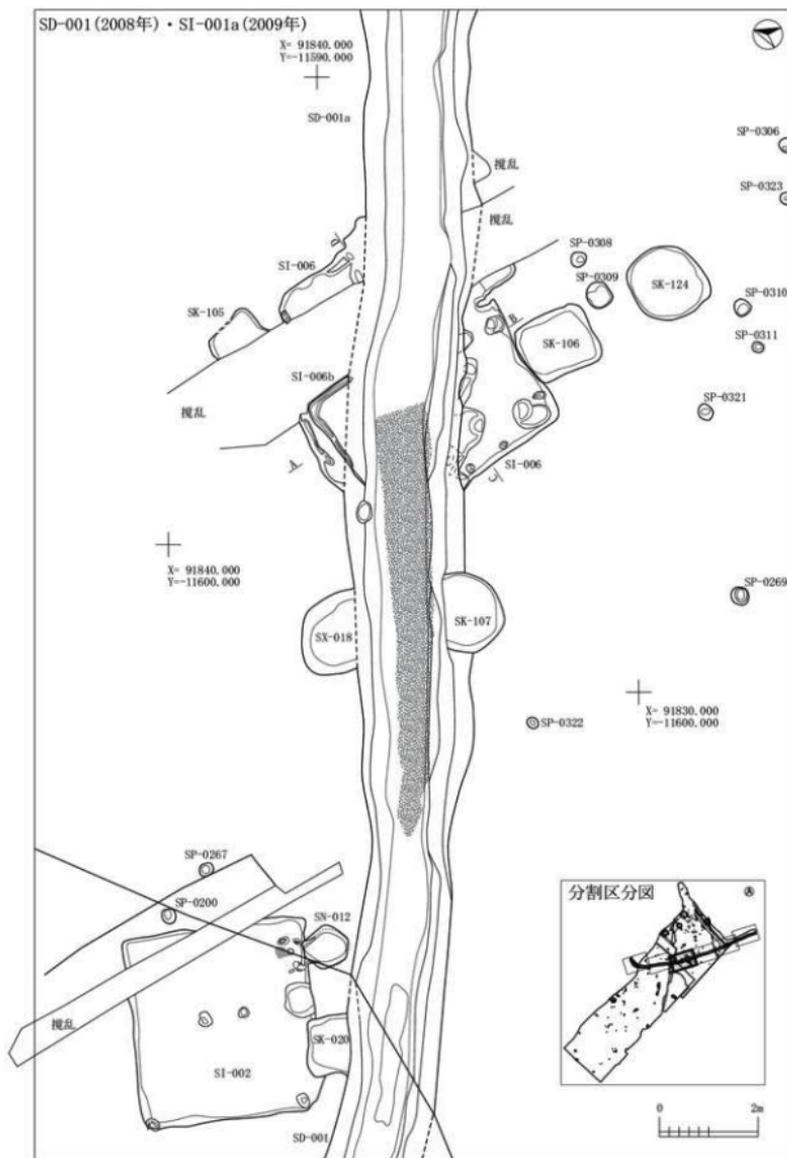


图 3-181 F-2区 SD-4

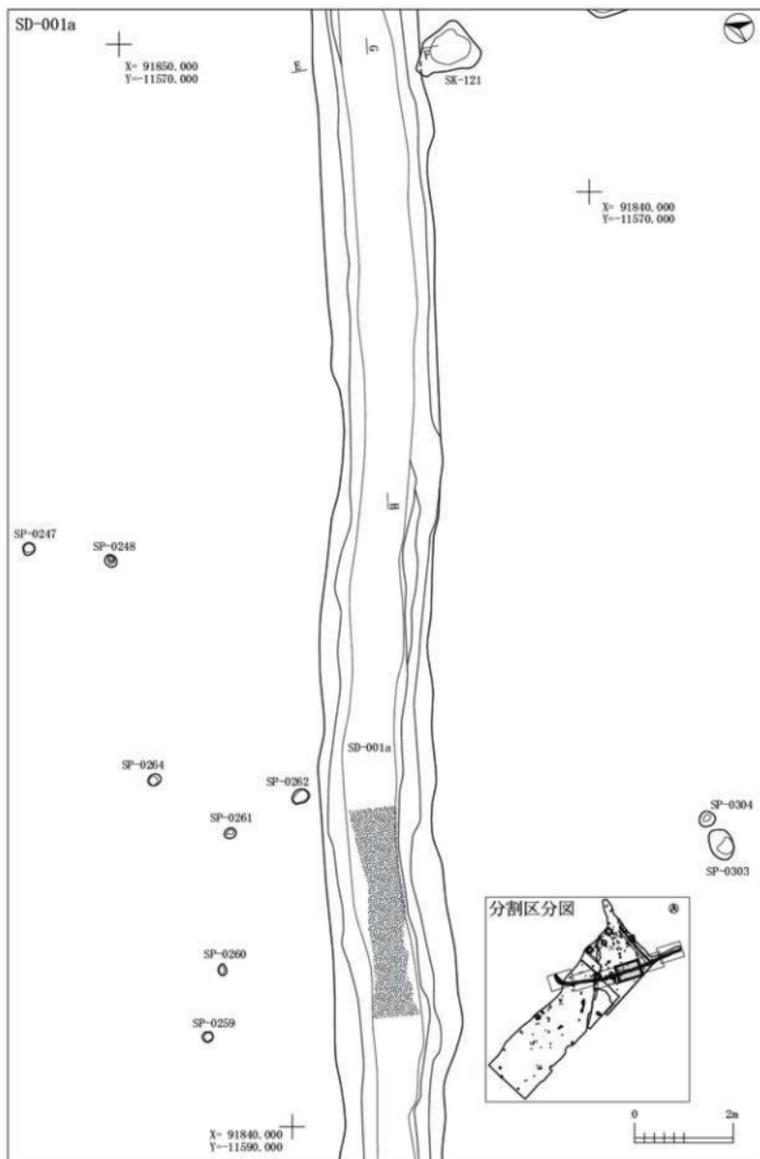


図 3-182 F-2 区 SD-5

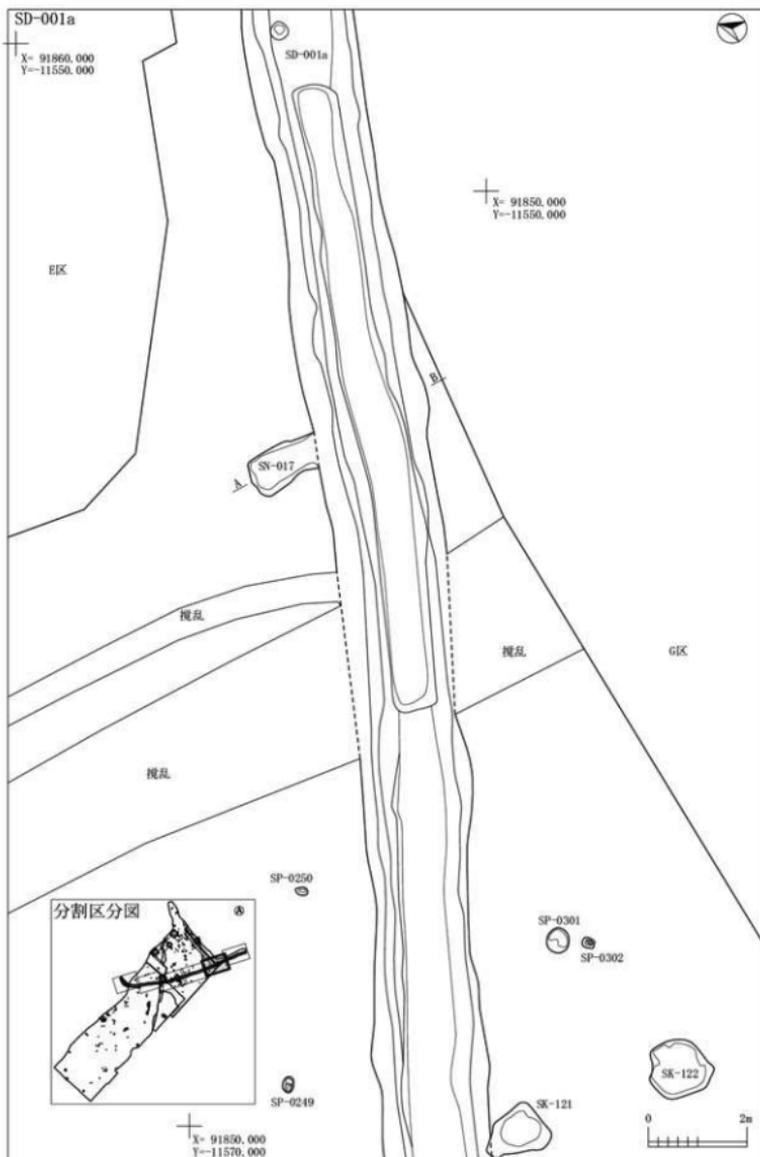


图 3-183 F-2 区 SD-6

F-2区

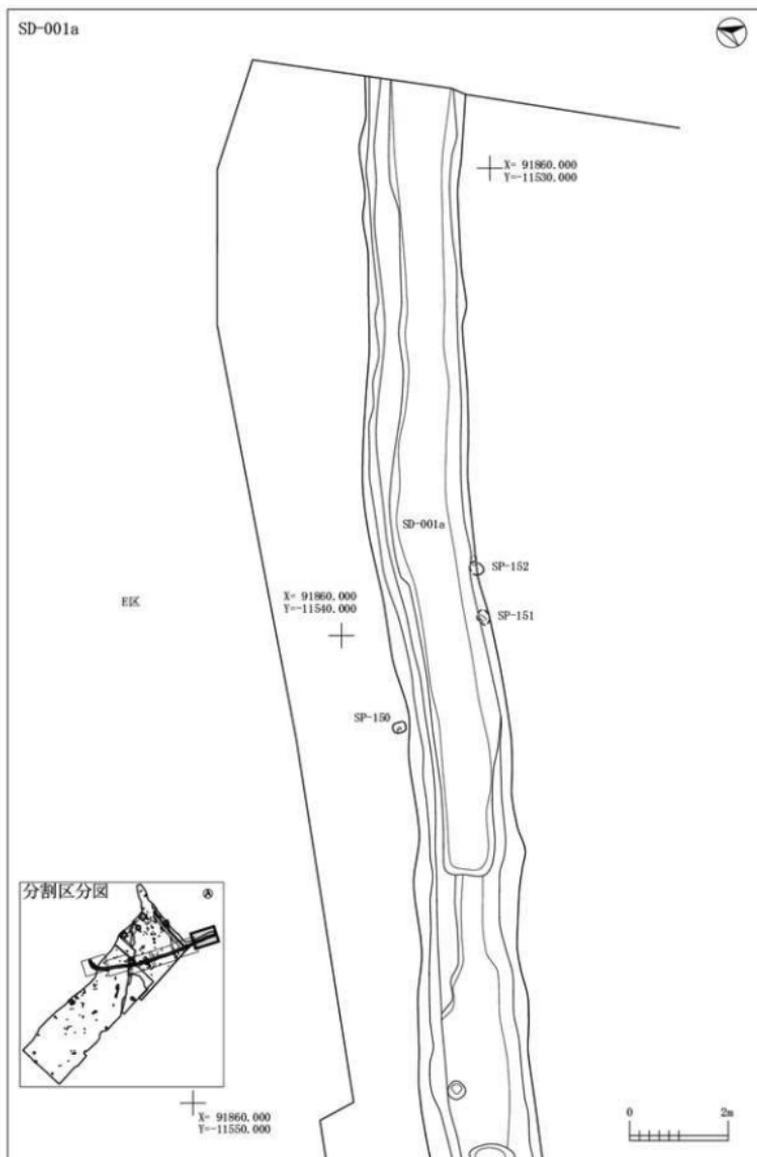
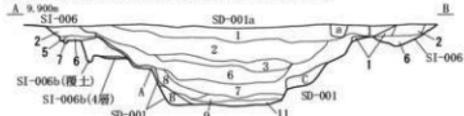
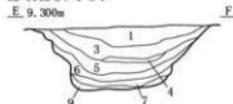


図 3-184 F-2区 SD-7

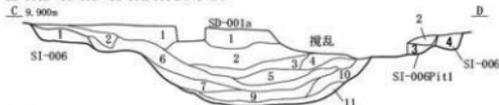
SD-001・SD-001a・SI-006・SI-006P15・SI-006bセクション



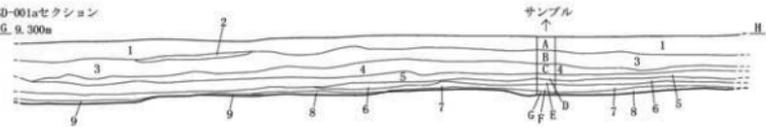
SD-001aセクション



SD-001a・SI-006・SI-006P11セクション



SI-006 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~3mm)中量,バミスブ ロック(φ10~15mm)微量,炭化物(φ 10~15mm)少量	SD-001a 第1層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブ ロック(φ10~15mm)少量,炭化物 (φ10~15mm)少量
第2層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブ ロック(φ10~30mm)中量,炭化物(φ 10~50mm)少量,Te-Ta火山灰ブロッ ク中に埋積	第2層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)中量,バミスブ ロック(φ15~30mm)微量,炭化粒 (φ5~9mm)少量,焼土粒(φ1~5mm) 微量
第4層 10YR5/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブ ロック(φ10~30mm)少量	第3層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブ ロック(φ10~60mm)多量
第5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブ ロック(φ10~20mm)微量	第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブ ロック(φ10~20mm)少量
第6層 10YR7/6 明黄褐色土	バミスブロック(φ30~50mm)多量,に ぶい黄褐色土10YR4/3少量	第5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ10~20mm)少量,バミスブ ロック(φ10~20mm)少量
第7層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)極多量,バミスブ ロック(φ10~30mm)極多量	第6層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ10~20mm)少量,バミスブ ロック(φ20~30mm)少量
SI-006P11 第3層 10YR4/1 褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,炭化粒(φ1 ~5mm)少量,Te-Ta火山灰粒微量	第7層 10YR5/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
SI-006b 第1層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ10~30mm)多量,炭化粒(φ1 ~5mm)少量,Te-Ta火山灰粒微量	第8層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒 (φ5mm)少量
第2層 10YR5/6 黄褐色土	10YR4/3にぶい黄褐色土少量	第9層 2.5Y2/1 黒色土	炭化粒(φ1~9mm)中量
第3層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブ ロック(φ10~30mm)中量, L.R.(φ10 ~15mm)少量	第10層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量
第4層 10YR7/6 明黄褐色土	バミスブロック(φ10~40mm), L.R. (φ10~30mm)微量,にぶい黄褐色土 (10YR4/3)少量	第11層 10YR2/2 黒褐色土	にぶい黄褐色土10YR7/4)上位に 局所的に埋積
第5層 7.5YR6/4 にぶい褐色土	バミスブロック(φ10~30mm)少量, L.R.層(φ10~30mm)	第6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミスブロック(φ10~30mm)中量
SD-001 第4層 10YR6/4 にぶい黄褐色土	バミスブロック(φ10~30mm)多量	SD-001a 第6層 10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)極微量
第5層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)多量, L.R.(φ 10~20mm)多量,焼土粒(φ1mm)微量	第7層 10YR1/7 黒褐色土	バミス粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第6層 10YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブ バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブ バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブ バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブ	第8層 10YR2/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量
SD-001a・SN-017セクション A 9.100m		第9層 10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,砂少量
SN-017 第1層 10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブ バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量	第1層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブ バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブ バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブ バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブ
第2層 10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量	第2層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量
第3層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)極微量		
第4層 10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量		
第5層 10YR3/2 黒褐色土	バミスブロック(φ10~30mm)多量		
SD-001aセクション G 9.300m			
SD-001a 第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブ バミス粒(φ5~9mm)中量,バミスブ バミス粒(φ3~5mm)少量,バミスブ バミス粒(φ3~5mm)少量,炭化粒(φ10~15mm)局所的に中量		
第2層 10YR3/3 暗褐色土	バミスブロック(φ30~70mm)少量, L.R.(φ10~15mm)少量		
第3層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)中量,炭化土(水成堆積)		
第4層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)中量(局次に水成堆積)		
第5層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)少量, L.R.(φ10~15mm)微量		
第6層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)中量,炭化土(水成堆積)		
第7層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)中量, L.R.(φ10~15mm)微量		
第8層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量(局次に水成堆積)		
第9層 10YR4/1 褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~15mm)中量		



SD-001a 第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブ バミス粒(φ5~9mm)中量,バミスブ バミス粒(φ3~5mm)少量,バミスブ バミス粒(φ3~5mm)少量,炭化粒(φ10~15mm)局所的に中量
第2層 10YR3/3 暗褐色土	バミスブロック(φ30~70mm)少量, L.R.(φ10~15mm)少量
第3層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)中量,炭化土(水成堆積)
第4層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)中量(局次に水成堆積)
第5層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)少量, L.R.(φ10~15mm)微量
第6層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)中量,炭化土(水成堆積)
第7層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)中量, L.R.(φ10~15mm)微量
第8層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量(局次に水成堆積)
第9層 10YR4/1 褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, L.R.(φ10~15mm)中量

図 3-185 F-2区 SD-8

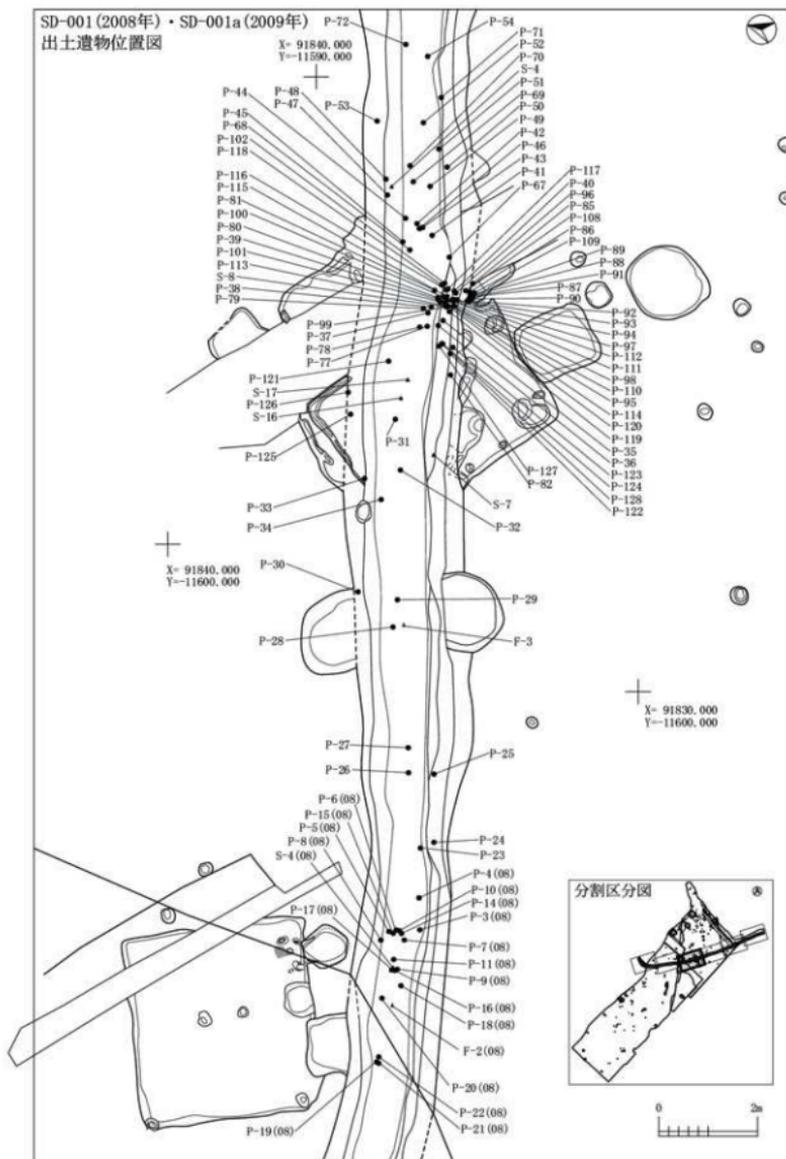


図 3-186 F-2 区 SD-9

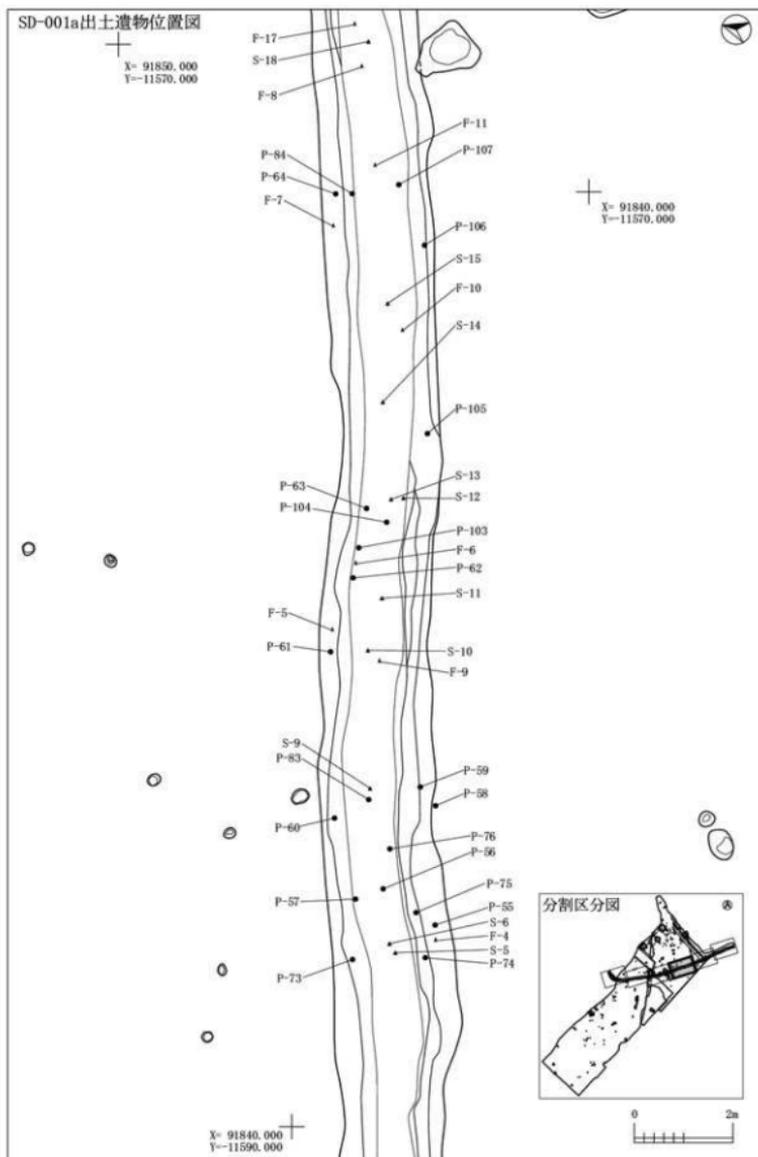


図 3-187 F-2 区 SD-10

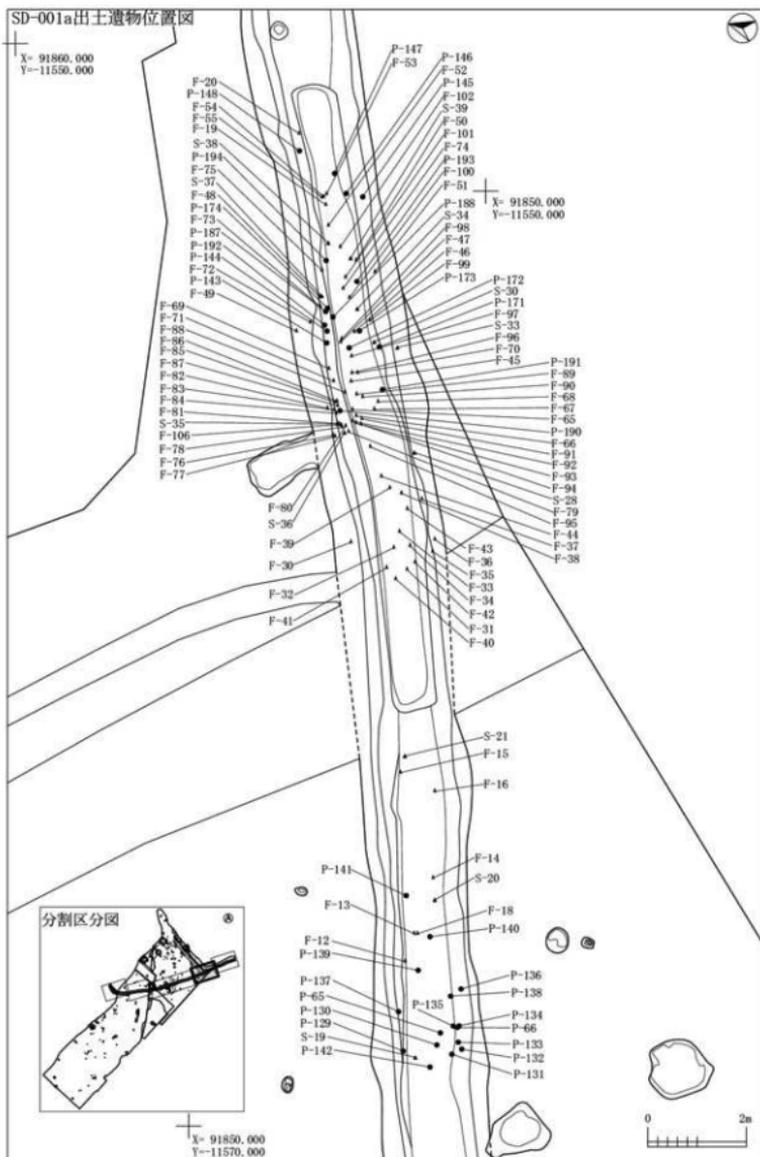


図 3-188 F-2 区 SD-11

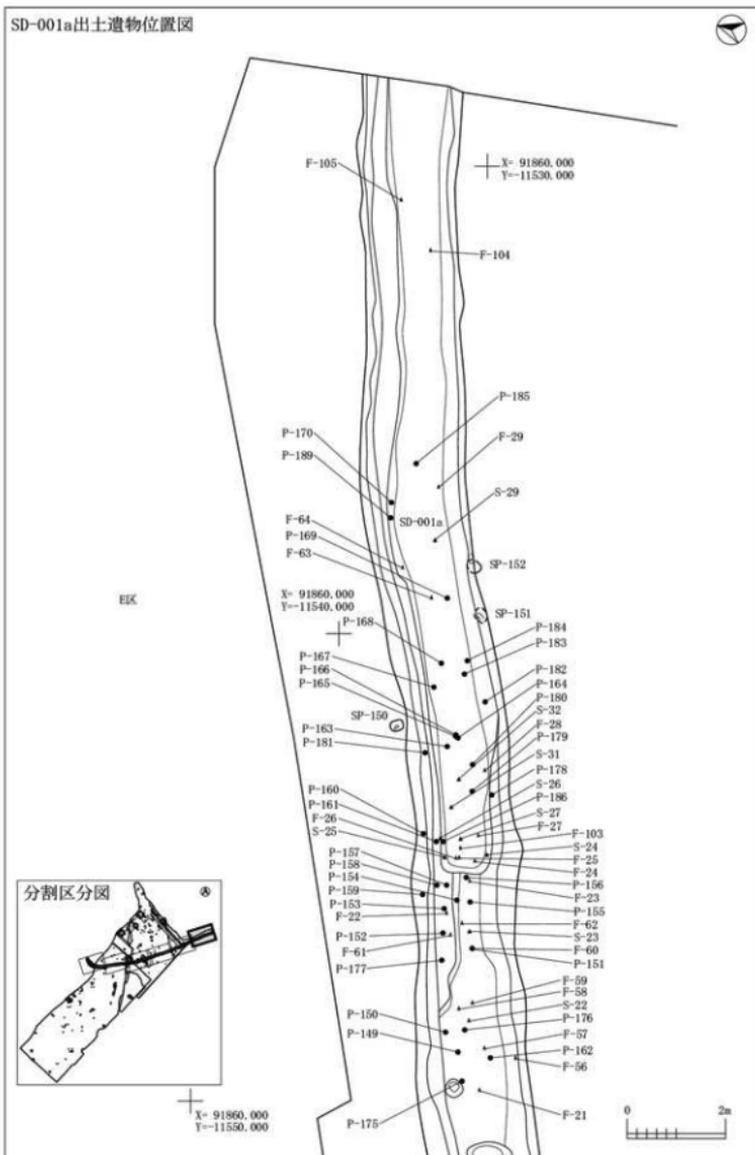


図 3-189 F-2 区 SD-12

文時代中期円筒上層b式の口縁部片、F290～F292は須恵器環、F293は長頸瓶の頸部で、縦棒三本の刻書がある。F294は鉢、F295は土師器椀底部、F296～F298は土師器非ロクロ甕で、F296は沈線で体部と口縁部を区画している。F299は土師器小甕の口縁～体部、F300は非ロクロ小甕の底部で、底面は細いヘラで乱雑に調整されている。F301は原文土器の口縁部片で、口唇にキザミ、外面口縁部は平行沈線が施されている。

## SD-003 (図3-191)

X=91872.172, Y=-11573.770～X=91870.180, Y=-11577.718の地点で検出し、長さ4.7m、幅

88.0cm、深さ24.0cmを測る。SD-87と重複しており、本遺構の方が古い。堆積土は3層に分層し、第1層からT<sub>0</sub>-a火山灰を検出した。

## SD-85 (図3-192)

X=91901.375, Y=-11594.854～X=91899.508, Y=-11596.882の地点で検出した。E区で検出したSD-85の延長部に相当し、本調査区内では長さ2.8m程度を検出している。溝の中にはビット状の落ち込みを4箇所検出している。

## SD-87 (図3-191・192)

X=91872.844, Y=-11574.490～X=91855.602, Y=-11570.896の地点で検出した。E区で検出した

## SD-001a

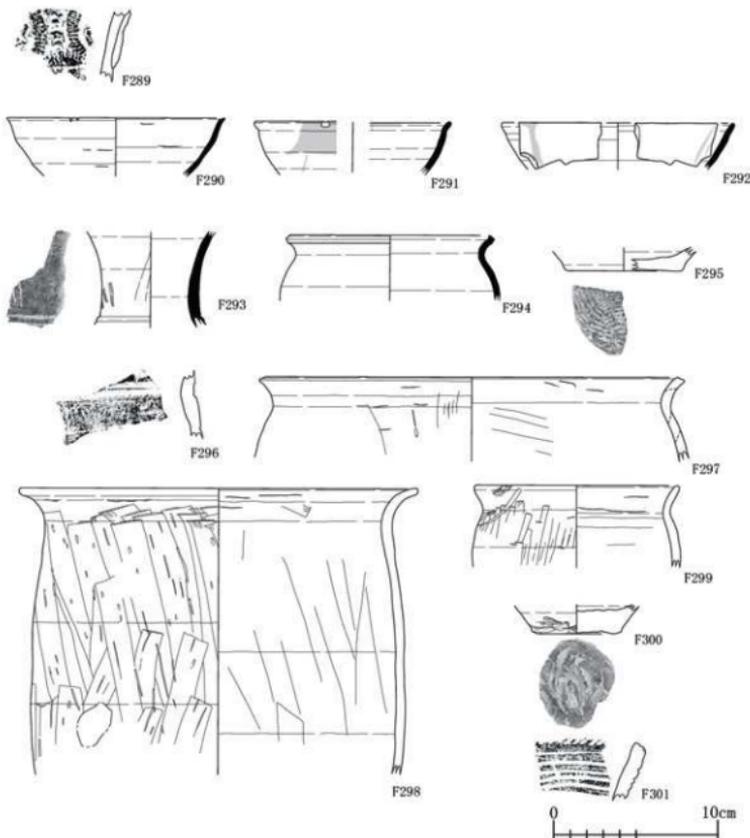


図3-190 F-2区SD-13

SD-003・87

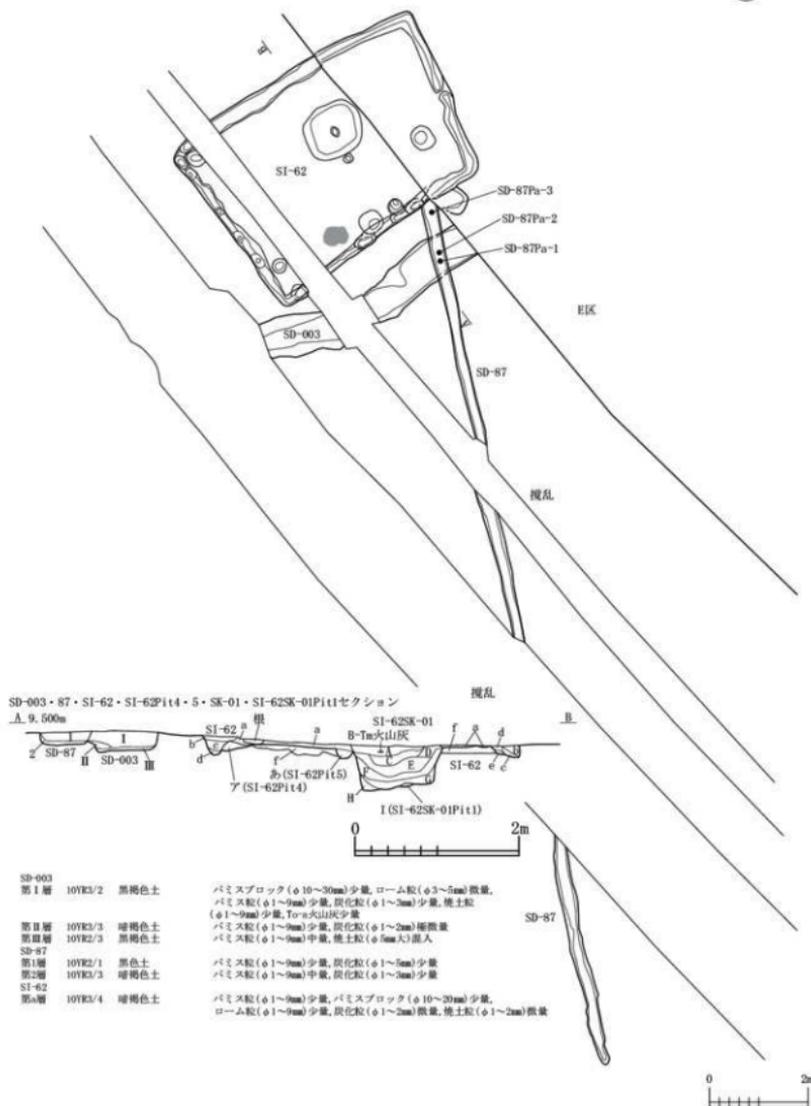
Ⅷ-2  
F-2区

図 3-191 F-2 区 SD-14

F-2区

SI-62遺構		
第1層	101R2/1	黒褐色土
第2層	101R2/2	黒褐色土
第3層	101R4/3	にがい黄褐色土
第4層	101R3/1	黒褐色土
SI-62掘り方		
第7層	101R5/4	にがい黄褐色土
第8層	101R5/5	黄褐色土
P14		
第7層	101R3/3	暗褐色土
P15		
第6層	101R4/3	にがい黄褐色土
第5層	101R4/3	にがい黄褐色土
第4層	101R2/2	黒褐色土
第3層	101R3/3	暗褐色土
第2層	101R4/3	にがい黄褐色土
第1層	101R4/4	褐色土
第0層	101R3/1	黒褐色土
第7層	101R2/2	黒褐色土
第6層	101R4/2	灰黄褐色土
第5層	101R2/2	黒褐色土
SI-62R-01P11		
第7層	101R4/3	にがい黄褐色土

パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
 パミス粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量  
 パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量  
 パミス粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ3~5mm)極微量  
 パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~100mm)中量  
 パミス層  
 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~12mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量  
 パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
 パミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,Br-Ts穴山石少量  
 パミス粒(φ1~2mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)少量,炭化粒(φ3~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量  
 パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ3~9mm)少量  
 パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~50mm)中量,炭化粒(φ1~6mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量  
 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ10~20mm)多量,焼土粒(φ1~9mm)少量  
 パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)少量  
 パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量  
 パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~50mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)微量  
 パミス粒(φ1~6mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量

SD-85

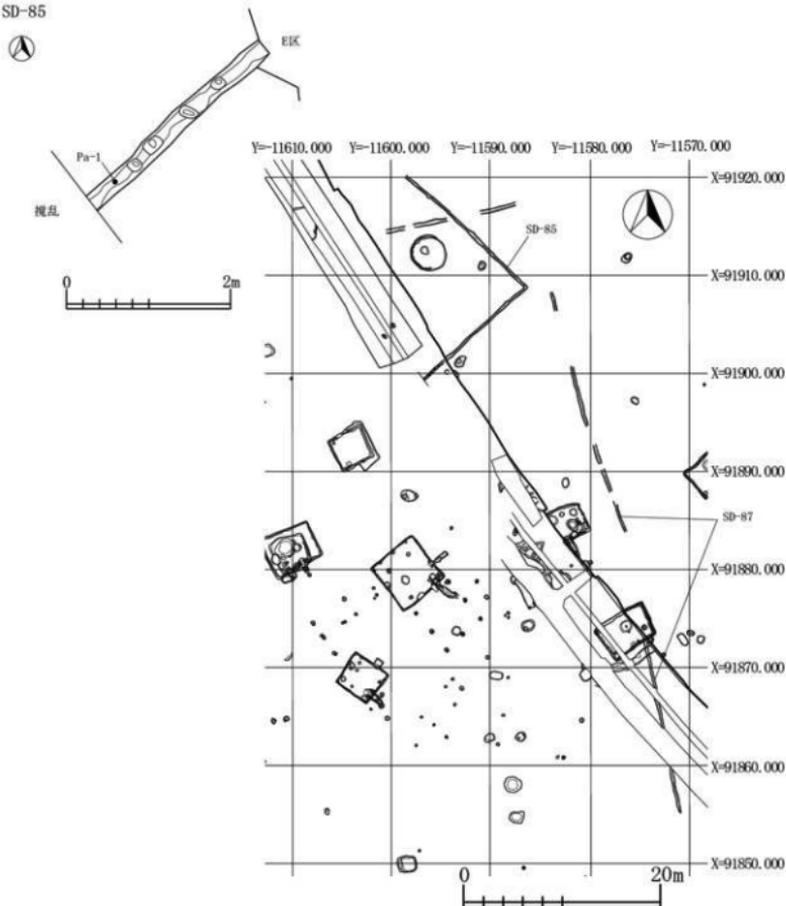


図 3-192 F-2 区 SD-15

SD-87の延長部に相当し、本調査区内では長さ18mを検出している。S1-62とSD-003と重複し、本遺構の方が新しい。

#### 10. 遺構外出土遺物 (図3-193)

11点図示した。F302は縄文時代中期円筒上層a式の口縁部の橋状把手部、F303は口縁部文様帯の構成が不明であるので詳細時期は不明だが円筒上層式の口縁部資料、F304は円筒上層d式の口縁部資料、F305は大木10式併行の体部資料で、いずれも破断面は摩滅している。

F306は五所川原窯須恵器の体部片で、MD16窯以降の資料である。断面が赤橙色を呈し、内外面とも浅黄橙色気味の色调で、外面に焼き台ないしは重ね焼き痕が見られるが、その部分のみ褐灰色を呈している。破断面は摩滅し、器面も摩滅が顕著で、流動した要素が強い。本調査区内の古代の資料としては最も新しい段階の資料に相当する。F307は土師器甕で、口径21.4cmを測る。砂礫の混入量が少なく食膳具の胎土にも類する褐色を呈するやや粘りの弱い胎土である。短頸で、体部中

半に最大径があるタイプで、器面及び破断面の摩滅は顕著である。

F308～F311は近代以降の陶磁器で、F308は陶器の鉢、F309は印判の皿で若干輪花がかつた口縁部である。F310・F311は猪口で、F311は赤絵の印判である。

F312は磨製石斧の破片で、石質は黒色片岩である。表面は精緻に研磨され光沢を帯びている。刃部側からの打点に伴って剝離した状態で、使用に伴う刃こぼれの可能性が高い。

#### 遺構外出土遺物

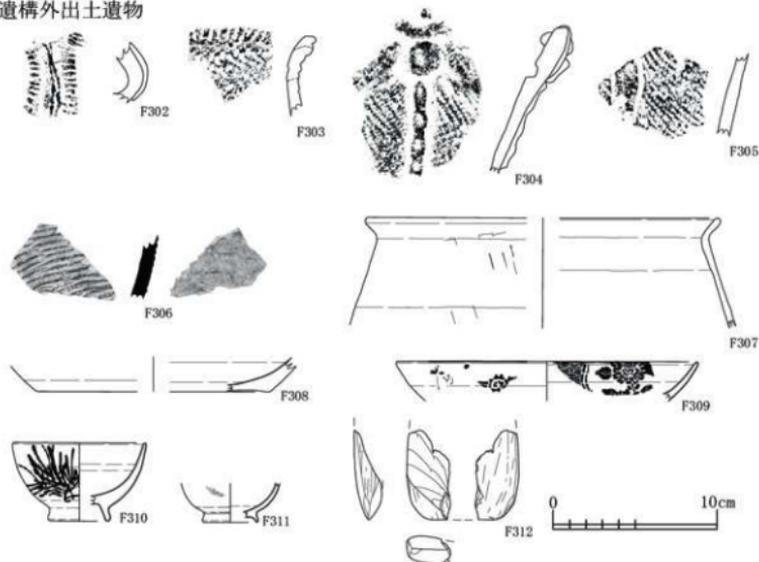


図3-193 F-2区遺構外出土遺物



## 第3節 F-3区

## 1. 竪穴住居跡

SI-007 (図3-195~197)

X=91700.000, Y=-11700.000 付近で検出した。北東側が乱れにより破壊されているが、残存部の平面形は楕円形を呈し、(292.0) × (247.0) × 13.0 cmを測る。ピットは竪穴内から6基、外周部から3基検出し、いずれも小規模で浅いピットである。炉跡は中央よりやや北西寄りの部分から大木10式併行期の土器4個体以上の土器片を利用した土器敷設炉を1基検出した。掘り方は隅丸方形で、底面の壁際の部分を溝状に切つて、その部分に土器片を壁に沿わせるように立て掛け、底面には土器片を敷き詰め充填している。

出土土器は前述の土器敷設炉から出土した5点を図示した。底部資料はF314に図示した小型の資料のみで、大部分が口縁~体部下半にかけての破片を利用している。大部分の破片はF313に図示した大型の深鉢で口径(47.1) cmを測る。破片ごとに被熱や煤付着の状況が異なっているが、内面の口縁部直下6 cmの位置に幅6~7 cm程度のバンド状の煮炊痕が認められる。F314は唯一の底部資料で、底径6.0 cmを測る。小型な器形で、胎土の質感は他の資料と類似するが、器形的に他の口縁~体部下半の残存資料に接合する余地はないものと判断される。摩滅・剥落が顕著で、外面側は剥落した部分に炭化物の付着が見られる。底面は棒状の工具で刻線のように刻んでおり、底面には油分の多い煤が付着している。F315はF313を小型化した資料で、口径(18.2) cmを測る。他の資料と同様に破片単位で被熱等の状態が異なる部分もあるが、外面は口縁~体部の約2/3程度が煤付着と淡黒色化しており、体部中~下半にかけ二次被熱とともに液垂れしたような煤の付着痕が観察される。内面は体部下半に煤付着と炭化物のこびり付きが顕著で、一部が口縁~体部下半にかけ煤の付着痕が認められる。F316は、口縁が山形突起状で二箇所残存しているが、一箇所は外面中央にφ1 cm程度の円形の凹部をつけ、その外周にφ3~4 mm程度の棒状の工具による刺突で開入している。刺突列はそのまま一列の状態で、口縁部を巡り、もう一箇所の突起部には凹形の凹部が付けられておらず、刺突が3箇所加えられているのみである。沈線の幅を比較すると刺突と沈線に使用された工具は同一である。外面体部上半の一部が楕円形の黒斑があり、外部上半に底状に煤付着が認められ、接合破片間である程度連続性が認められる。内面の付着物は不均一な残存で、一部二次被熱により色調が変色している箇所がある。F317については体部下半にかけての資料で同一個体の可能性もある資料である。

## 2. 土坑

SK-125 (図3-198)

X=91735.000, Y=-11728.000 付近で検出した。平面形は不整小判形を呈し、123.0 × 68.0 × 20.0 cmを測る。一部木根による影響が生じているが、断面形は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は2層に分層し、流れ込みに伴う堆積状況を呈している。

SK-126 (図3-198)

X=91688.000, Y=-11711.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、156.0 × 144.1 × 0 × 7.0 cmを測る。中央に小ピットがあり、28.0 × 23.0 × 35.0 cmを測る。断面形は底面がほぼ平坦で、壁は垂直に近い形で立ち上がり、一部で途中角度を変え開き気味に立ち上がる部分がある。また、北壁の一部が袋状に入り込む箇所が見られる。堆積土は7層に分層し、崩落の伴う堆積状況を呈する。

SK-127 (図3-198)

X=91707.000, Y=-11718.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、96.0 × 87.0 × 23.0 cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に緩やかに立ち上がる。堆積土は1層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積である。

SK-128 (図3-198)

X=91711.000, Y=-11717.000 付近で検出した。平面形は不整小判形を呈し、147.0 × 122.0 × 26.0 cmを測る。断面形は底面に凹凸があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は4層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

SK-129 (図3-198)

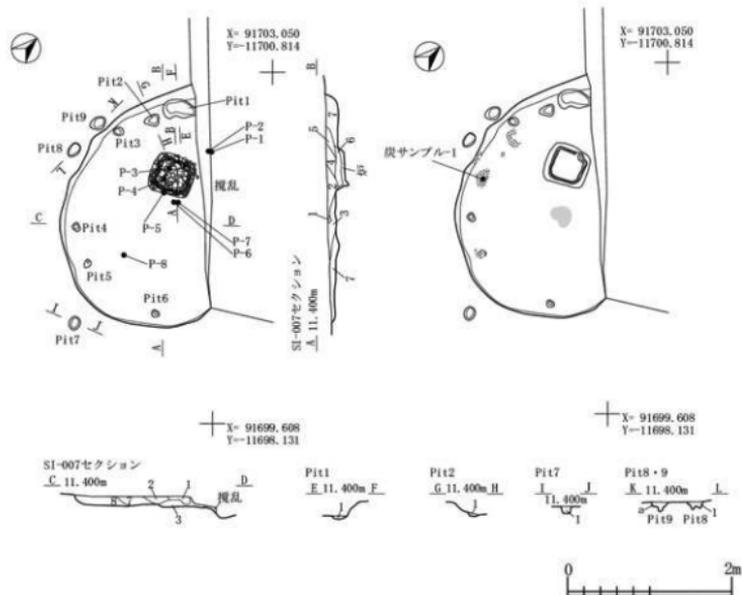
X=91729.000, Y=-11718.000 付近で検出した。SK-130・SP-0334・0335と重複しており、SK-130より新しくSP-0334・0335より古い。平面形は不整楕円形を呈し、142.0 × 113.0 × 37.0 cmを測る。断面形は若干傾斜があり、壁は開き気味に立ち上がる。堆積土は2層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状況を呈する。

SK-130 (図3-198)

X=91730.000, Y=-11719.000 付近で検出した。SK-129・SP-0331と重複しており、い

SI-007

SI-007炭・焼土範囲・炭サンプル



SI-007		
攪乱	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~15mm)少量
第1層	10YR2/1 黒色土と7.5YR4/6褐色土の混合土	バミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)中量,焼土ブロック(φ10~30mm)少量(底土層)
第2層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量
第3層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第4層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第5層	10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第6層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量(砂の層)
第7層	10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~20mm)少量
第8層	10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
Pit1		
第1層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
Pit2		
第1層	10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
Pit7		
第1層	10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
Pit8		
第1層	10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
Pit9		
第1層	10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量

図3-195 F-3区 SI-007-1

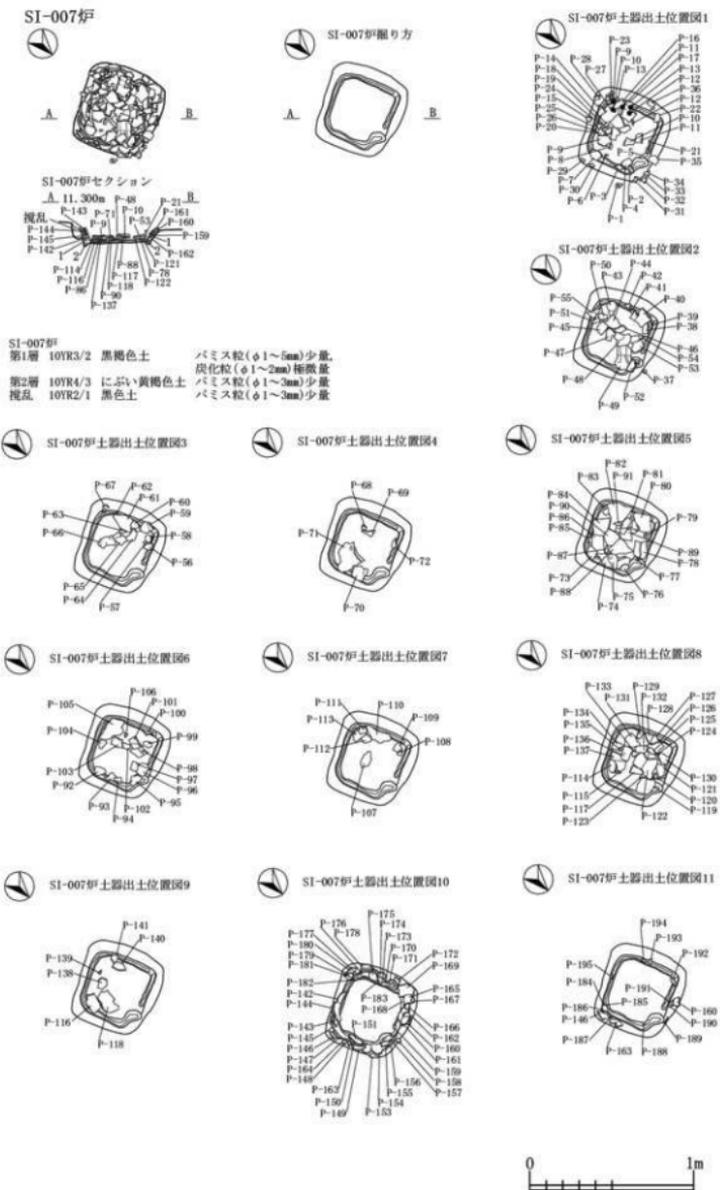


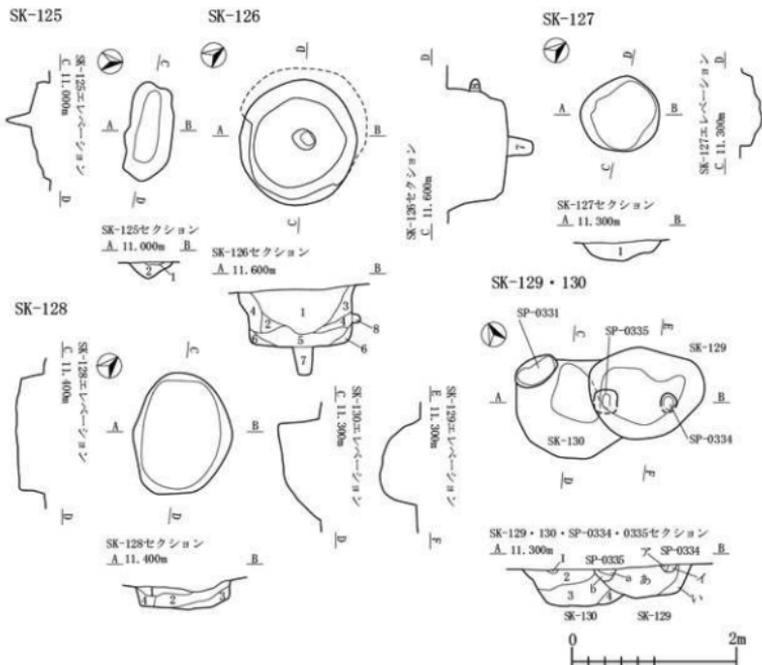
図 3-196 F-3 区 SI-007-2

SI-007

W-1  
F-3区



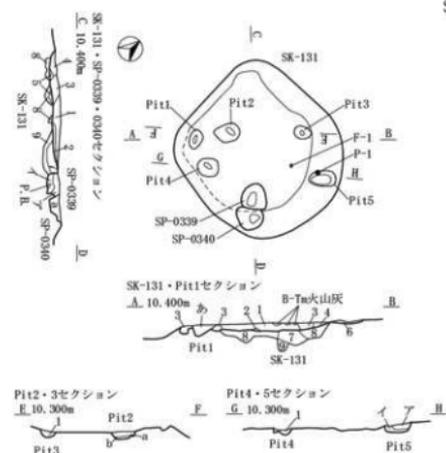
図 3-197 F-3区 SI-007-3



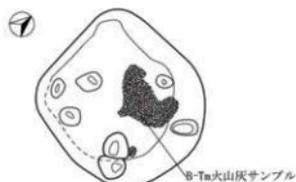
SK-125		
第1層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,バミスブロック(φ15~20mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量
第2層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ5~9mm)微量,バミスブロック(φ10~30mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量
SK-126		
第1層	10YR2/1黒色土と10YR3/2黒褐色土の混合物	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第2層	10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第3層	10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第4層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第5層	10YR2/1黒色土と10YR3/2黒褐色土の混合物	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~60mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,同層雜炭入
第6層	10YR6/6 明黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~100mm)多量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第7層	10YR6/3 にぶい黄褐色土	粘土質,バミス粒(φ5~9mm)微量,L.R.(φ10~60mm)多量
第8層	10YR7/4 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,10YR3/3暗褐色土少量混入
SK-127		
第1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,10YR2/3黒褐色土少量混入
SK-128		
第1層	10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~15mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量
第3層	10YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブロック(φ10~12mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)少量
第4層	10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ5~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒極少量
SK-129		
第1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~7mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,10YR3/3暗褐色土少量混入
第2層	10YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~50mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SK-130		
第1層	10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第3層	10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量,10YR4/4褐色土との混合物
第4層	10YR3/2 暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極少量
第5層	10YR4/3 褐色土	バミス粒(φ5~9mm)少量,バミスブロック(φ10~40mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量
SP-0334		
第1層	10YR4/3 褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量,10YR3/2黒褐色土粒微量混入
第2層	10YR3/2 暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量,10YR2/2黒褐色土ブロック(φ10~12mm)微量
SP-0335		
第1層	10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量,10YR2/2黒褐色土(φ10~30mm)微量
第2層	10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,バミスブロック(φ10~25mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量

図 3-198 F-3区 SK-1

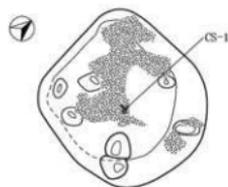
SK-131



SK-131炭範囲1・B-Tm火山灰サンプル



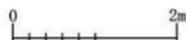
SK-131炭範囲2・炭サンプル



SK-131焼土範囲



SK-131掘り方



SK-131

SK-131			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)微量,ローム粒極微量,炭化粒(φ1~3mm)少量
第3層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ3~5mm)微量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR1/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第5層	7.5YR1.7/1	黒色土	炭化粒(φ1~3mm)中量,焼土粒(φ1~2mm)少量
第6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~2mm)極微量,バミスブロック(φ10mm大)混入,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量
第7層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒微量(掘り方)
第8層	10YR4/4	褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量(掘り方)
第9層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ5~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量(掘り方)
Pit11			
第10層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ5~9mm)微量,バミスブロック(φ10~12mm)極微量,ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第11層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~12mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第12層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量,バミスブロック(φ10mm)極微量,ローム粒(φ1~2mm)極微量
Pit13			
第13層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)中量,バミスブロック(φ10~12mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量
Pit14			
第14層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~25mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒極微量
Pit15			
第15層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,バミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)極微量
第16層	10YR2/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,バミスブロック(φ10~15mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)少量
SP-0339			
第17層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ5~9mm)少量,バミスブロック(φ10~12mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)極微量
第18層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,φ40mm大)混入,ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0340			
第19層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)極微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)極微量

図 3-199 F-3区 SK-2

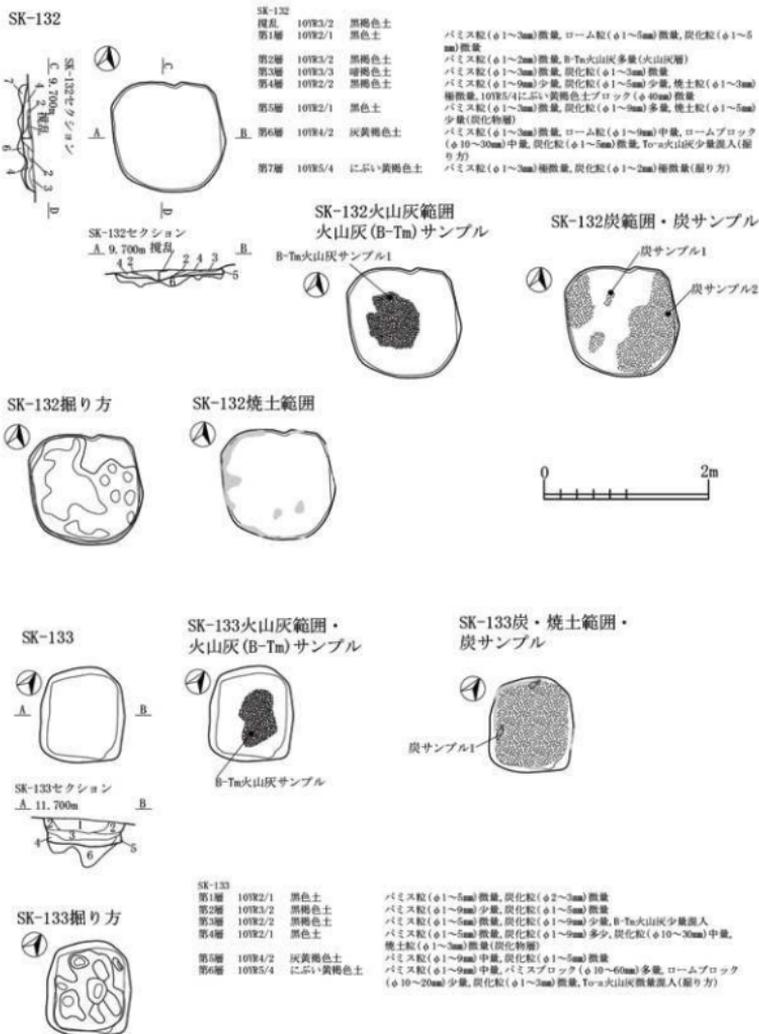


図 3-200 F-3 区 SK-3

ずれの遺構よりも本遺構の方が古い。重複している遺構によって切られているため、部分的な残存であるが、残存部の平面形は(不整形円形)を呈し、(116, 0) × 120, 0 × 52, 0 cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は4層に分層し、埋め戻しに伴う堆積である。

SK-131 (図3-199)

X=91725.000, Y=11733.000付近で検出した。SP-0339・0340と重複し、本遺構の方が古い。平面形は不整形円形を呈し、196, 0 × 185, 0 × 9, 0 cmを測る。断面形は若干凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。また、凹凸のある掘り方を有し、パミスブロック主体の土が充填

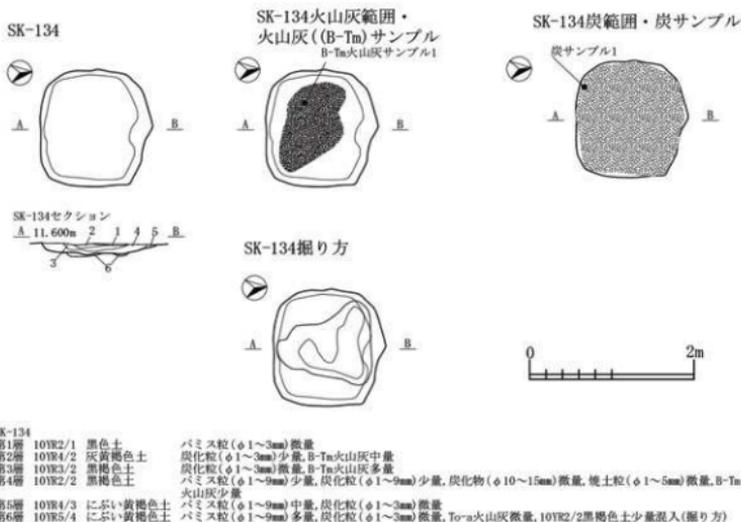


図 3-201 F-3 区 SK-4

されている。堆積土は掘り方部分を含め9層に分層し、底面直上に堆積する第3・4層中には焼成に伴った炭化物和焼土粒を検出している。また、腐絶後に堆積した第1層の上面からB-Tm火山灰を検出している。本遺構は製炭土坑である。

## SK-132 (図3-200)

X=91711.000, Y=11737.000 付近で検出した。平面形は不整隅丸方形を呈し、136.0×134.0×12.0cmを測る。断面形は若干凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる部分と袋状にオーバーハンクする部分が見られる。また、凹凸のある掘り方を有し、パミスブロック主体の土が充填されている。堆積土は掘り方部分を含め7層に分層し、底面直上に堆積する第5層から焼成に伴った炭化物多量検出している。また、腐絶後に堆積した第2層からB-Tm火山灰を検出している。本遺構は製炭土坑である。

## SK-133 (図3-200)

X=91733.000, Y=11706.000 付近で検出した。平面形は不整隅丸方形を呈し、116.0×103.0×32.0cmを測る。断面形は若干凹凸があり、壁は壁の途中で角度を変え、壁の前半から開き気味に立ち上がる。また、凹凸のある掘り方を有し、To-a火山灰とパミスブロック主体の土

が充填されている。堆積土は掘り方部分を含め6層に分層し、底面直上に堆積する第4層は焼成に伴った炭化物和焼土粒を検出している。また、腐絶後に堆積した第3層からB-Tm火山灰を検出している。本遺構は製炭土坑である。

## SK-134 (図3-201)

X=91724.000, Y=11695.000 付近で検出した。平面形は不整隅丸方形を呈し、145.0×136.0×13.0cmを測る。断面形は若干凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。また、凹凸のある掘り方を有し、To-a火山灰とパミスブロック主体の土が充填されている。堆積土は掘り方部分を含め6層に分層し、底面直上に堆積する第4層中には焼成に伴った炭化物和焼土粒を検出している。また、第2~4層からB-Tm火山灰を検出している。本遺構は製炭土坑である。

## 3. 焼土状遺構

## SN-018 (図3-202)

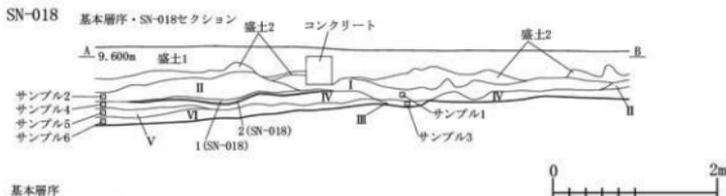
X=91716.000, Y=11744.000 付近で検出した。基本土層セクション上で確認した焼土層で、セクション第IV層上で検出している。平面的に確認していないため詳細は不明であるが、セクション上でも2.5m程度の幅で焼土層を確認しているため、面的な焼成を受けた可能性が高い。

## 4. 溝状土坑（Tピット）

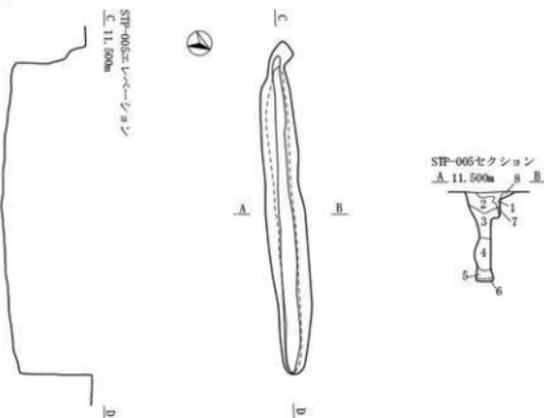
STP-005（図3-202）

X=91741.000, Y=-11717.000 付近で検出した。平面形は溝形を呈し、411.0×49.0×110.0cmを測る。断面形は底面に若干凹凸が

あり、壁は凹凸があるが、垂直に近い形で立ち上がり、一部の壁上部で角度を変え、開き気味に立ち上がる。堆積土は8層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。



## STP-005



## STP-005

第1層	10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第3層	10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量,ローム粒(φ1~9mm)少量,L.B.(φ10~40mm)少量
第5層	10YR5/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,L.B.(φ10~30mm)中量
第6層	10YK3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量
第7層	10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第8層	10YR4/3 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量

図3-202 F-3区 SNSTP

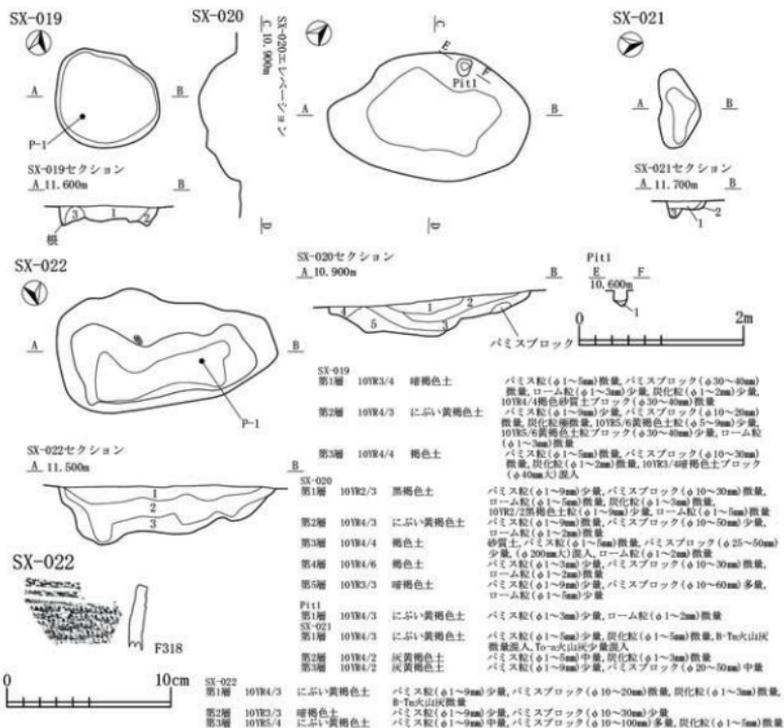


図 3-203 F-3 区 SX

## 5. その他の遺構

## SX-019 (図 3-203)

X=91714.000, Y=11715.000 付近で検出した。平面形は不整形円形を呈し、126.0×118.0×24.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は3層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。出土遺物は碎片のため図示に至っていない。

## SX-020 (図 3-203)

X=91730.000, Y=11731.000 付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、246.0×159.0×44.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は段状に立ち上がり、壁際は垂直に近い形で立ち上がる。北側からPit1とした22.0×18.0×21.0cmの小ピット1基を検出したが、掘り下がった時点で確認したため、明確な層関係は不明である。堆積土は5層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

## SX-021 (図 3-203)

X=91731.000, Y=11702.000 付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、96.0×50.0×20.0cmを測る。断面形は柱穴状で、壁は段状に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状況で、第1層からT<sub>o</sub>-a火山灰・B-T<sub>m</sub>火山灰を検出した。

## SX-022 (図 3-203)

X=91745.000, Y=11712.000 付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、265.0×150.0×72.0cmを測る。断面形は凹凸が顕著で、壁は段状に立ち上がり、壁際は開き気味に立ち上がる部分が多い。堆積土は3層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状況で、第1層からB-T<sub>m</sub>火山灰を検出した。

上層から縄文土器片1点が出土した。

## 6. ビット (図3-204～206)

調査区内から25基検出した。掘立柱建物跡として認定できるような柱穴列は検出していない。ただ、SP-326・327・328・332・333・333・334は長楕円形気味に開く配置を呈している。

出土遺物はSP-0338第1層および覆土から同一個体と考えられる縄文土器体部片を出土し、図

3-205に図示した。比較的薄手で外面は結束第一種(羽状縄文)が施されている。F319の方が二次被熱により色調が淡赤褐色を呈しており、破片化後に被熱の影響があったものと見られる。内面側は両方の破片とも剥落しており、同様の状態であったと考えられる。

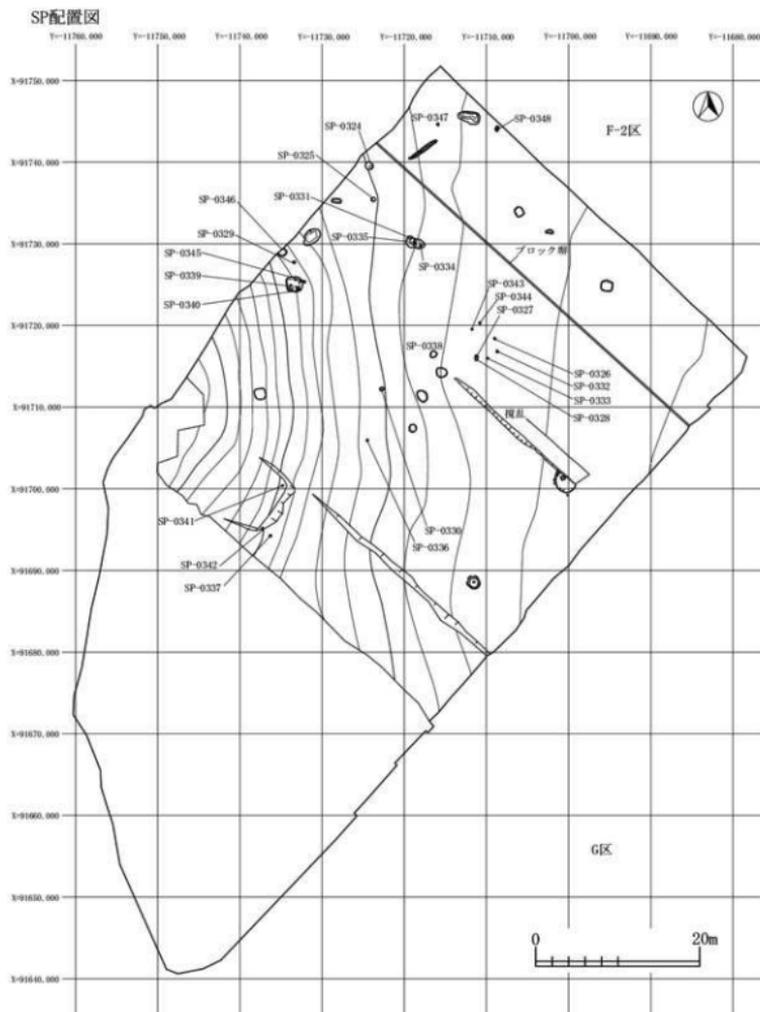
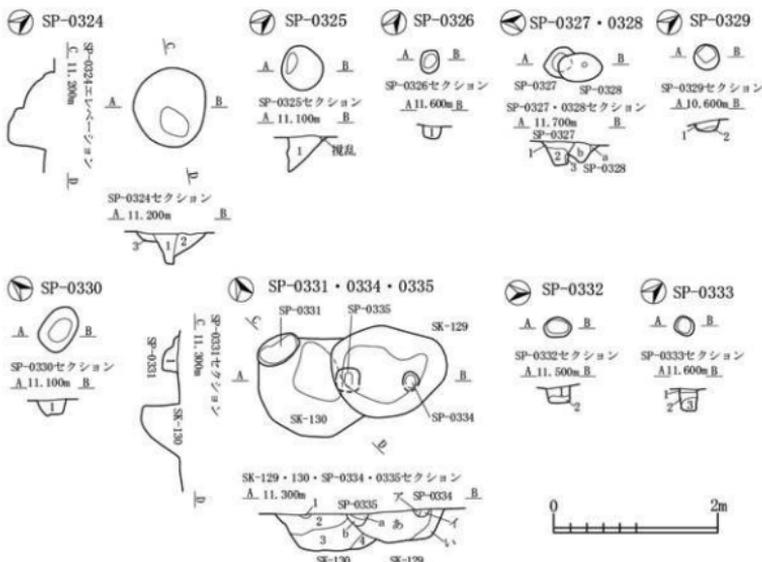
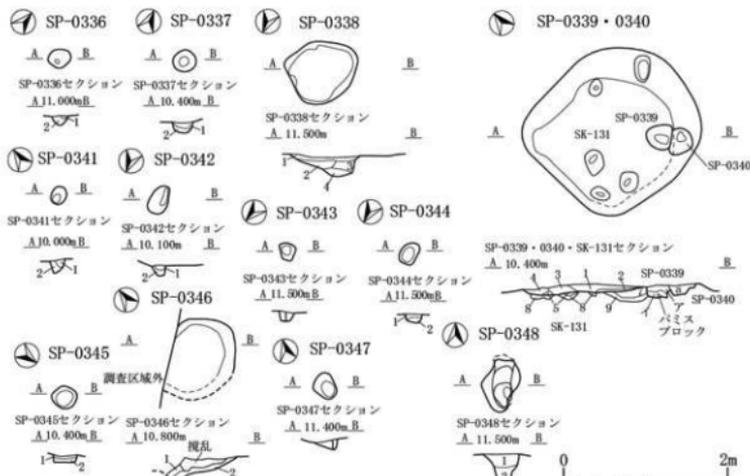


図3-204 F-3区 SP-1



SP-0324	第1層 10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量	SK-130	第1層 10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
	第2層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量	第2層 10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量	パミス粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,10YR4/6褐色土との混入
	第3層 10YR4/3 に近い黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,10YR3/4暗褐色土ブロック(φ30~40mm)少量混入	第3層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量	パミス粒(φ1~3mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量
SP-0325	第1層 10YR4/6 褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~12mm)少量,10YR3/3暗褐色土少量混入	SP-0334	第7層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
SP-0326	第1層 10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量	第4層 10YR4/4 褐色土	第4層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,10YR2/2黒褐色土ブロック(φ10~12mm)少量
SP-0327	第1層 10YR4/3 に近い黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10mm)混入,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量	SP-0335	第6層 10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,10YR2/2黒褐色土粒(φ1~5mm)少量,10YR2/2 黒褐色土ブロック(φ10~30mm)少量
	第2層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量	第5層 10YR3/4 暗褐色土	第5層 10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~2mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
	第3層 10YR5/4 に近い黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量	SP-0332	第1層 10YR4/3 に近い黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量
	第4層 10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)極少量,ローム粒極少量,炭化粒(φ1~3mm)少量	第2層 10YR3/4 暗褐色土	第2層 10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
	第5層 10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量	SP-0333	第1層 10YR4/6 褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,10YR5/6黄褐色土ブロック(φ30~40mm)少量
SP-0329	第1層 10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~2mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量	第2層 10YR3/4 暗褐色土	第2層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
	第2層 10YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~5mm)極少量,10YR3/1黒褐色土粒(φ1~5mm)極少量	第3層 10YR2/3 黒褐色土	第3層 10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~2mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,10YR5/6黄褐色土ブロック(φ30~40mm)少量
SP-0330	第1層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量,炭化粒(φ1~7mm)少量	SK-129	第1層 10YR4/3 に近い黄褐色土	パミス粒(φ1~7mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,10YR3/3暗褐色土粒(φ1~5mm)少量
SP-0331	第1層 10YR4/3 に近い黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量	第1層 10YR4/4 褐色土	第1層 10YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~50mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量

図3-205 F-3区 SP-2



SP-0336	10YR/4	褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0337	10YR/3	暗褐色土	バミズ粒微量, ローム粒微量
SP-0338	10YR/2/3	黒褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)極微量, ローム粒(φ1~2mm)極微量, L.B.(φ10~12mm)極微量
SP-0339	10YR/3/4	暗褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)少量, バミズブロック(φ10~20mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0341	10YR/2/3	黒褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)少量, バミズブロック(φ10~12mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0342	10YR/3/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)極微量, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0343	10YR/4/3	にぶい黄褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)少量, バミズブロック(φ10~20mm)中量, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0344	10YR/5/6	黄褐色土	バミズ粒(φ3~5mm)微量, バミズブロック(φ10~20mm)中量, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0345	10YR/4/6	褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)微量, バミズブロック(φ10~12mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)少量
SP-0346	10YR/1/7/1	黒色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量, B-Tex1山灰ブロック混入
SP-0347	10YR/2/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~3mm)少量, バミズブロック(φ10~30mm)微量, ローム粒微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
SP-0348	10YR/2/3	黒褐色土	バミズ粒(φ10~20mm)微量, 炭化粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
SP-0349	10YR/3/1	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量, バミズブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
SP-0350	7.SR1.7/1	黒色土	炭化粒(φ1~3mm)中量, 焼土粒(φ1~2mm)少量
SP-0351	10YR/4/3	にぶい黄褐色土	バミズ粒(φ1~2mm)極微量, バミズブロック(φ10~20mm)混入, ローム粒(φ1~2mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
SP-0352	10YR/2/3	暗褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)微量, バミズブロック(φ10~30mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
SP-0353	10YR/4/4	褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量, バミズブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
SP-0354	10YR/3/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量, バミズブロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)少量
SP-0339	10YR/2/3	黒褐色土	バミズ粒(φ5~9mm)少量, バミズブロック(φ10~12mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量, バミズ粒(φ1~5mm)微量, バミズブロック(φ10~20mm)微量, B-Tex1山灰混入, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0340	10YR/2/3	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)中量, バミズブロック(φ10~20mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)極微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)極微量

SP-0341	10YR/2/2	黒褐色土	バミズ粒(φ3~5mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
SP-0342	10YR/3/2	暗褐色土	バミズ粒(φ1~3mm)極微量, 炭化粒(φ1~2mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)少量, L.B.(φ10~12mm)少量
SP-0343	10YR/4/6	褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)微量, バミズブロック(φ10~15mm)微量, ローム粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
SP-0344	10YR/4/6	褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)少量, バミズブロック(φ10~15mm)微量, ローム粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
SP-0345	10YR/3/3	暗褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量, バミズブロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
SP-0346	10YR/3/3	暗褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量, バミズブロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
SP-0347	10YR/2/3	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量, バミズブロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-0348	10YR/3/3	暗褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
SP-0349	10YR/4/3	にぶい黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)中量, バミズブロック(φ10~70mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
SP-0338			



図 3-206 F-3区 SP-3

## 7. 遺構外出土遺物 (図3-207)

4点図示した。F321は縄文時代前期末円筒下層の体部片で、単軸絡糸体1a類の木目状撚糸文が施されている。F322は大木10式併行期の口縁部資料で、口縁部は波状気味である。F323は縄文時代後期十腰内1式の浅鉢形ないしは鉢形の口縁部資料で、口唇端部は一部潰れ、煤が付着している。F324は近代の皿形の陶磁器で、文様は内面側のみに印判で付けられている。

## 遺構外出土遺物



図3-207 F-3区遺構外出土遺物

高間(1)G区全体図 S=1/1800

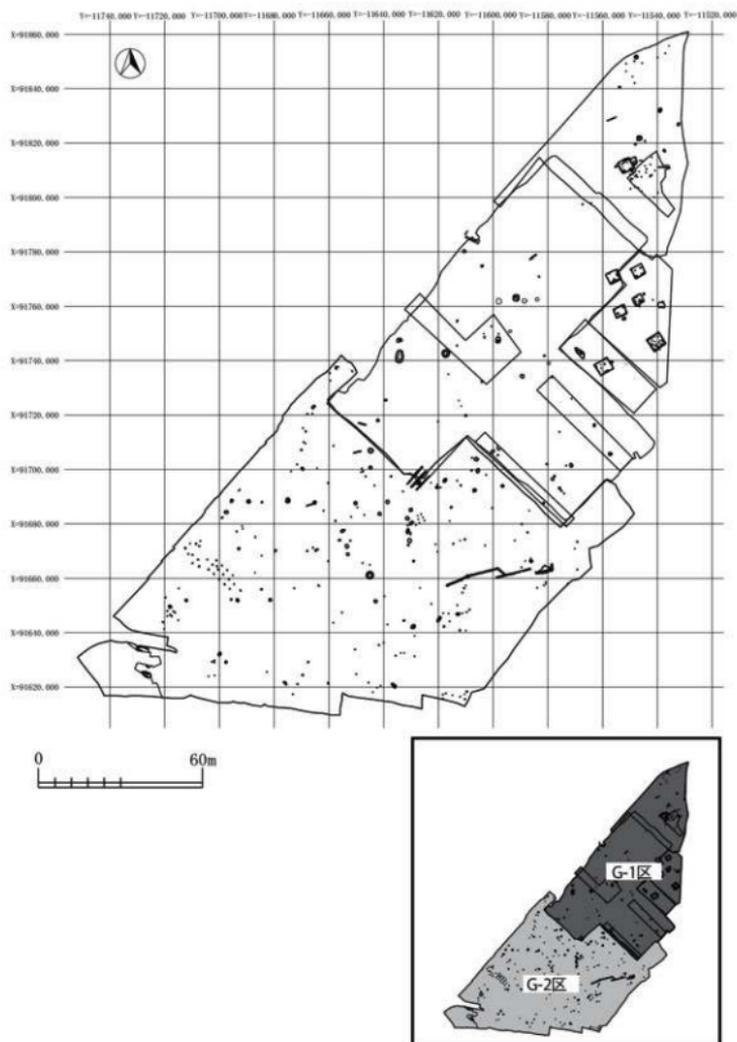


図 3-208 G区遺構配置図



## 第Ⅷ章 G区

G区の調査は、遺跡の南側に相当し、25,681㎡を対象とした。平成17年度に土地承諾のとれた部分的な調査区、平成18年度にはH区の隣接部分の調査、平成20年度には面的な精査が可能となり、平成21年度には最南端の部分で面的な調査を実施し、終了している。断続的な調査部分を含む平成20年度以前の調査区をG-1区、面的な精査が実施できた平成21年度の調査区をG-2区と設定し、報告することとする。なお、遺構番号について調査年度ごとに遺構番号が付された影響で同一番号の遺構が複数存在する。凡例で提示のとおり、調査年度が先のを優先し、調査年度が後のものについては、遺構略号の前に調査年の2桁の数字を付し、区別して表記した。

### 第1節 G-1区

#### 1. 竪穴住居跡

S1-01 (図3-210～214)

X=91737.000, Y=-11560.000 付近で検出した。平面形は長方形を呈し、5.63.0×4.89.0×2.7.0cmを測る。主軸方位はN-153°-Eである。SK-01と重複しており、本遺構の方が新しい。ピットは竪穴内から19基検出し、Pit1はカマド脇ピットに相当する。主柱配置はPit5・10・14がカマド設置壁と西壁に接した方形配置を呈しており、西壁側ではPit14とは均等配置にはならないが、Pit10と同軸線上の壁溝側からPit12を検出しおり、柱穴として機能した可能性がある。また、南西隅以外の3つのコーナーではPit2～4の柱穴を検出し、いずれも柱穴として機能した構造である。壁溝が全周し、主柱穴と壁柱穴が組み合わされた構造である可能性がある。そのほかSK-01・02とした土坑状の掘りこみを検出している。堆積土はPit1などを含めた17層に分層しているが、第1～10・13層が廃絶後の堆積土で、第16層と粘床とした土層が竪穴構築時の土層に相当する。堆積土中には炭化材・物が伴っており、中層に相当する第3層にはB-Tm火山灰が伴っている。下層は廃棄の伴う堆積状況で、上層は自然堆積状況を呈している。カマドは南3の位置から検出した。残存状況が悪い状態で、前庭部は袖がなく、構築材の一部であると考えられる自然礫が散逸した状態で出土している。構造は短煙道タイプの半地下式で、煙道長は28.0cmを測る。支脚設置相当位置からKS-3とした自然礫が出土しているが、流動の可能性も否定できない。

出土遺物は10点図示したが、いずれも使用痕が顕著で、G001の黒色土器椀、G007・G

010の土師器鉢・小壺には刻書が記入されている。また、G001については灯明具として転用されている。カマドが破壊され、大型の煮炊具が図示可能な資料が含まれていない点など、廃絶の廃棄に際し、意図的な分別がなされた可能性がある。

06\_S1-01 (図3-215～221)

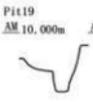
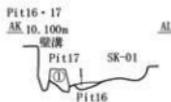
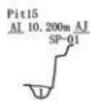
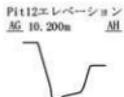
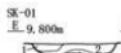
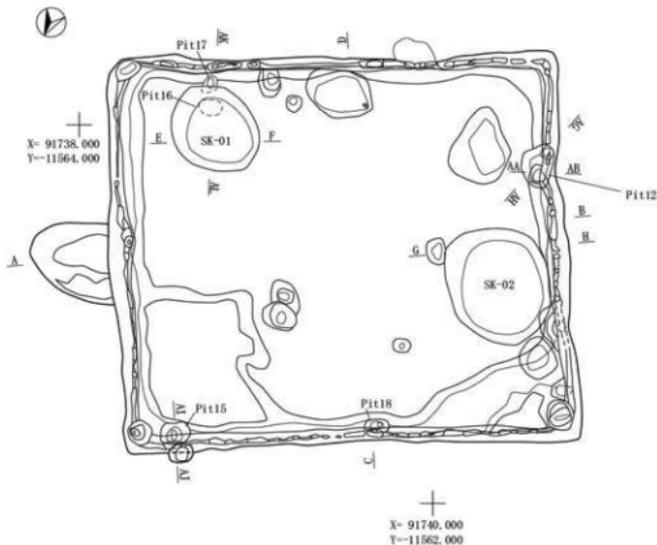
X=91773.000, Y=-11547.000 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、4.33.0×4.12.0×2.2.0cmを測る。主軸方位はN-158°-Eである。06\_SK-03と重複しており、本遺構の方が新しい。ピットは竪穴内から7基検出し、主柱穴はPit3～6が相当し、カマド設置壁側に寄った配置を呈する。また、Pit12がカマド脇ピットに相当する。堆積土は7層に分層し、第1～5層が廃絶後の堆積土に相当する。竪穴中央付近に堆積する第2層中からB-Tm火山灰を微量検出している。カマドは南1の位置から検出した。構造は半地下式の短煙道タイプで、袖部幅96.0cm、煙道長14.0cmを測る。芯材に礫が用いられ、粘土による構築で、支脚としてG025に図示した土製支脚とG024に図示した土師器甕底部資料が重なった状態で検出している。

出土遺物は、20点図示した。G011は下層P-36の地点から出土した須恵器甕の体部下半の資料で、C-2区S1-001等で出土した酸化焼成の内面に放射状の当て具痕(蓮藕文)を持つ須恵器甕である。本資料も他の資料同様酸化焼成で、焼きが甘い資料である。食膳具のうち全体形がわかる資料はG012～G016に図示したが、外面体部を敲打したり(G012・G015、破片資料ではG018)、口唇部を打欠き灯明具として利用したりと想定できる資料(G013・G014)など転用した資料が多い。G013については外面にやや幅広い鋭利な工具で付けられた沈線と細い線描状の刻線が観察される。煮炊具は回転運動の伴うG019・G021、伴わないG020・G022・G023があり、頸部幅が短めで、G023のように体部上半に最大径があるタイプも見られる。カマド支脚として用いられたG024と胎土・調整方法が類似し、同一個体の可能性のあるG020はカマド第2層、上・中層出土扱いの資料で、支脚の使用感を踏まえるとカマドの構築材中に含まれていた可能性もある。G026～G030は竪穴の中・下層から出土した焼成粘土板であるが、たたら状に板を貼り合わせ接合部分はハケメ状の工具で調整し、貼り合せやすいように調整している。G027のように立体的形状の形状であったことを想起させる端部が見られ





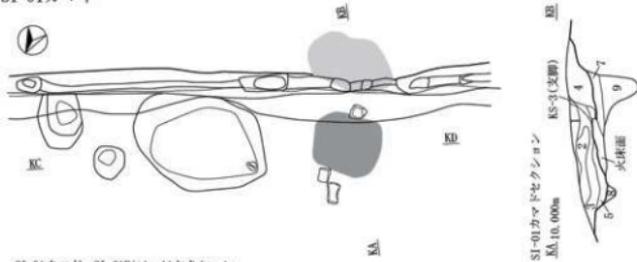
SI-01掘り方



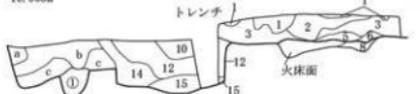
- SK-01  
 第1層 10YR4/6 褐色土 バミス粒(φ2~9m)中量,バミスブロック(φ20~40m)多量,ロームブロック(φ10~30m)少量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ2~9m)多量,バミスブロック(φ10~60m)中量,炭化配(φ2~5m)微量  
 第3層 10YR5/6 黄褐色土 バミス粒(φ2~9m)多量,バミスブロック(φ10~40m)中量  
 SK-02  
 第1層 10YR4/6 褐色土 バミス粒(φ2~9m)多量,バミスブロック(φ10~60m)中量,ロームブロック(φ10~30m)少量,炭化配(φ2~5m)極微量,小礫微量
- Pit12  
 第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ2~9m),バミスブロック(φ10~50m)中量,ロームブロック(φ20~40m)微量,炭化物(φ10~20m)極微量  
 Pit15  
 第1層 10YR4/4 褐色土 バミス粒(φ2~9m)少量,バミスブロック(φ10~70m)多量,ロームブロック(φ20~40m)少量  
 Pit16  
 第1層 10YR5/6黄褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土 バミス粒(φ2~9m)中量,バミスブロック(φ10~60m)多量,ロームブロック(φ20~30m)少量,炭化配(φ2~5m)極微量  
 Pit17  
 第1層 10YR5/4 にがい黄褐色土 バミス粒(φ2~9m)中量,バミスブロック(φ10~30m)少量,炭化配(φ5~9m)微量,炭化物(φ10~20m)極微量

図 3-212 G-1 区 SI-01-3

## SI-01カマド



SI-01カマド・SI-01Pit1・11セクション  
 1/10,000



## SI-01カマド

SI-01カマド	SI-01Pit11	SI-01Pit1
第1層 10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ2~9mm)少量(耕作土)
第2層 10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ2~9mm)微量,炭化粒(φ2~5mm)極微量,焼土粒(φ2~5mm)微量(一部耕作土)
第3層 10YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ2~9mm)少量,炭化粒(φ5~9mm)微量,炭化物(φ20~20mm)極微量,焼土粒(φ5~9mm)微量
第4層 7.5YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ2~9mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)少量,焼土粒(φ2~9mm)中量,焼土ブロック(φ10~20mm)少量
第5層 10YR4/4	褐色土	バミス粒(φ2~5mm)少量,焼土粒(φ2~5mm)少量,焼土ブロック(φ30~50mm)極微量
第6層 10YR5/6	黄褐色土	バミス粒(φ2~5mm)中量,焼土粒(φ2~3mm)微量
第7層 10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ2~9mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)極微量,焼土粒(φ5~9mm)微量
第8層 10YR4/6	褐色土	バミス粒(φ2~3mm)少量,炭化粒(φ2~3mm)極微量
第9層 10YR4/4	褐色土	バミス粒(φ2~9mm)中量,バミスブロック(φ10~70mm)中量,ロームブロック(φ30~50mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)微量,焼土ブロック(φ10~20mm)微量(壁溝)

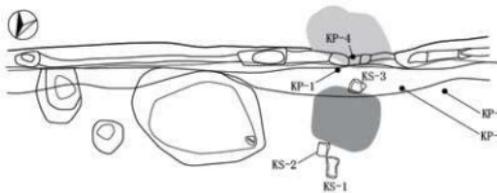
火床面 7.5YR4/6褐色土と7.5YR5/8明褐色土の混合土 バミス粒(φ2~5mm)微量,炭化粒(φ2~5mm)極微量,焼土粒(φ2~5mm)中量

第9層 10YR6/6	明黄褐色土	バミス粒(φ2~9mm)少量,バミスブロック(φ20~30mm)多量,炭化粒(φ2~5mm)微量
第10層 10YR4/4	褐色土	バミス粒(φ2~9mm)中量,炭化粒(φ2~6mm)少量
第11層 10YR6/6	明黄褐色砂	バミス粒(φ2~5mm)微量,炭化粒(φ2~3mm)極微量

## Pit11

第10層 10YR5/6	黄褐色土	バミス粒(φ2~9mm)中量,ローム粒(φ2~9mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)微量
第11層 10YR6/6	明黄褐色土	バミス粒(φ2~5mm)少量
第12層 10YR5/4	にぶら黄褐色土	バミス粒(φ2~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)微量,炭化物(φ10~30mm)微量,焼土粒(φ5~9mm)微量
第14層 10YR5/6	黄褐色土	バミス粒(φ2~9mm),バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ4~9mm)少量,炭化粒(φ5~9mm)微量,焼土ブロック(φ10~20mm)極微量
第15層 7.5YR6/6	褐色土	バミス粒(φ2~9mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)少量,焼土粒(φ2~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~25mm)少量
Pit11		
第1層 10YR6/6	明黄褐色土	バミス粒(φ2~5mm)微量,炭化粒(φ2~3mm)極微量

## SI-01カマド土器・石器出土位置図



## SI-01カマド掘り方

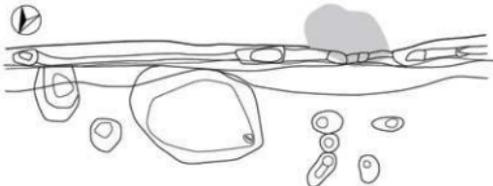


図 3-213 G-1区 SI-01-4

SI-01

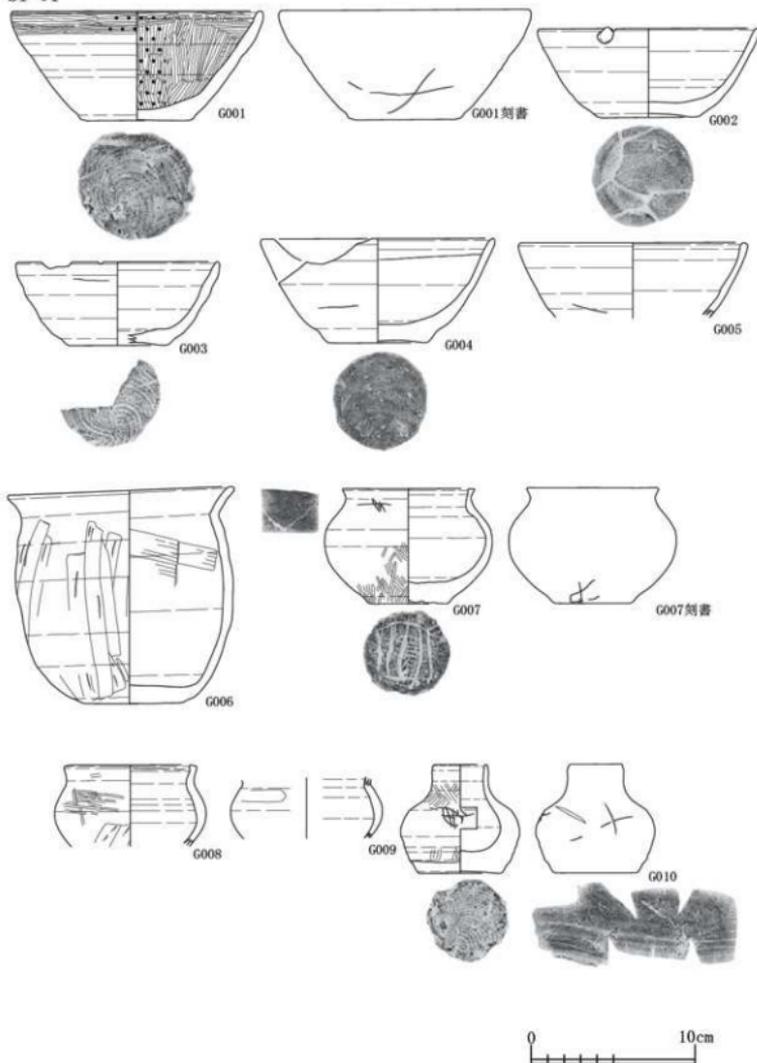
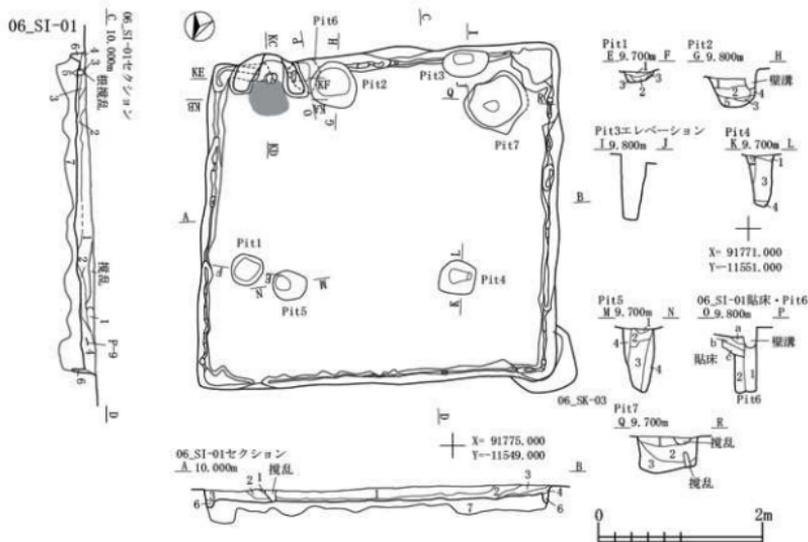


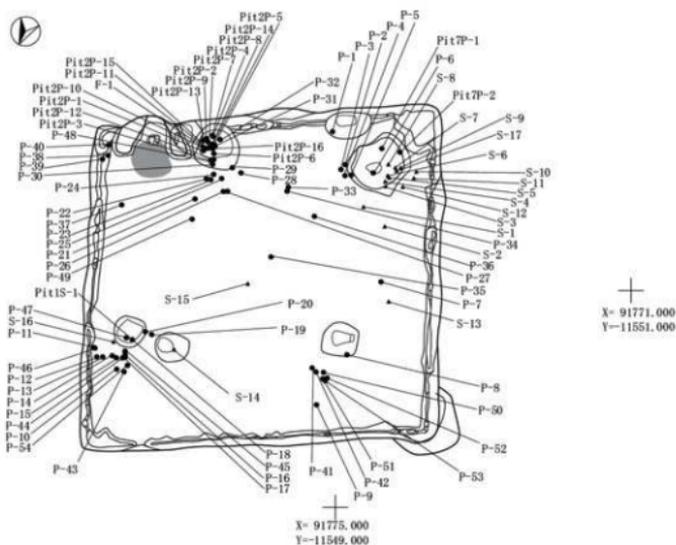
図 3-214 G-1 区 SI-01-5



06_SI-01			
第1層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,10YR2/2黒褐色土混入(耕作土)	
第2層	10YR2/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)極微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,Br-Tx6山灰中量	
第3層	10YR2/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ2~9mm)少量,焼土粒(φ5~9mm)微量,Br-Tx6山灰微量	
第4層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~35mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ5~9mm)微量,炭化物一部腐状に混入	
第5層	10YR4/4 褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量	
第6層	10YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)極微量(腐炭)	
第7層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~125mm)多量,ロームブロック(φ10~30mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)極微量(貼床)	
Pit1			
第1層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)極微量	
第2層	10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)中量	
第3層	10YR2/2 暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量	
Pit2			
第1層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,パミスブロック(φ10~25mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~30mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)極微量,Br-Tx6山灰少量	
第2層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,パミスブロック(φ10~30mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)微量,炭化物(φ10~25mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量	
第3層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量	
第4層	10YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量	
第5層	7.5YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)中量,10YR5/2R黄褐色土粒(φ3~6mm)少量	
Pit4			
第1層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)極微量	
第2層	10YR2/2 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)微量	
第3層	10YR2/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ5~9mm)少量,ロームブロック(φ10~25mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)微量	
第4層	10YR5/6 黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)多量	
Pit5			
第1層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量	
第2層	10YR2/2 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量	
第3層	10YR2/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~6mm)微量	
第4層	10YR4/3 にじみ黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~40mm)中量,ロームブロック(φ20~40mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)極微量	
Pit6			
第1層	10YR4/3 にじみ黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ3~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)極微量	
第2層	10YR5/4 にじみ黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~40mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)極微量	
貼床			
第6層	10YR4/3 にじみ黄褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量	
第7層	10YR6/4 にじみ黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,ロームブロック(φ10~30mm)少量	
第8層	10YR4/3 にじみ黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ3~9mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)極微量	
Pit7			
第1層	10YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量,ローム粒(φ3~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量	
第2層	10YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)中量,ローム粒(φ1~9mm)微量,ロームブロック(φ10~45mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)極微量	
第3層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~35mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)極微量	

図 3-215 G-1区 06\_SI-01-1

06\_SI-01土器・石器・鉄関連遺物出土位置図



06\_SI-01B-Tm火山灰範囲・サンプル、焼土範囲

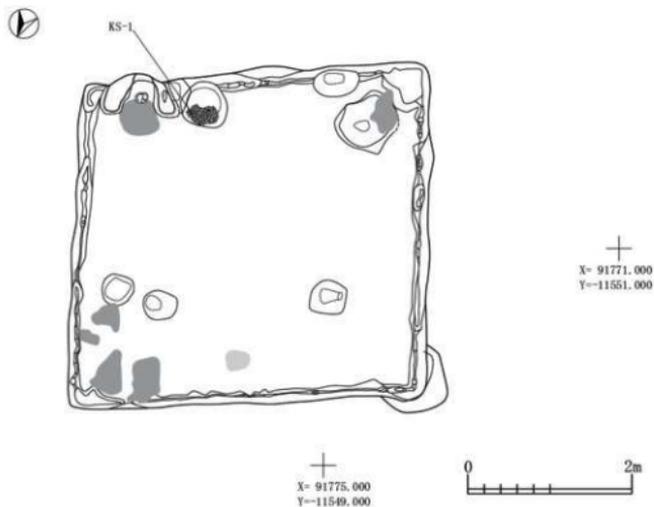
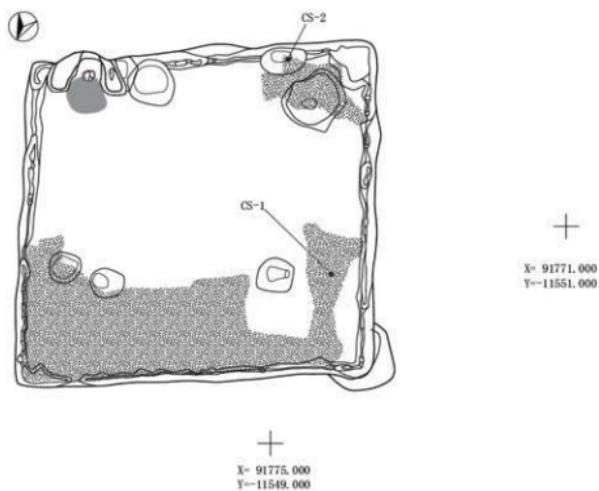


図 3-216 G-1 区 06\_SI-01-2

06\_SI-01炭範囲・炭サンプル



06\_SI-01掘り方

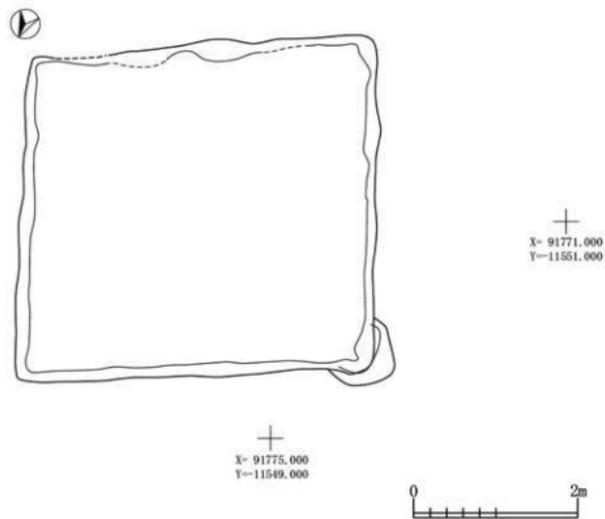
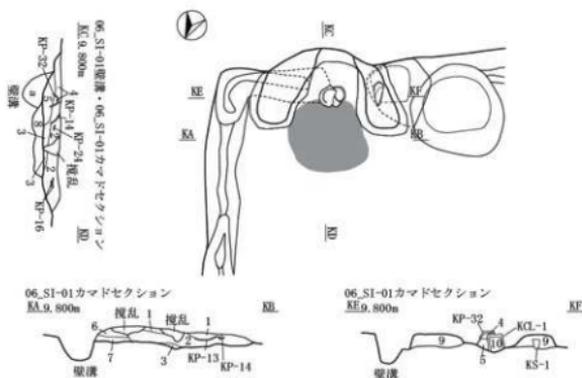


図 3-217 G-1区 06\_SI-01-3

06\_SI-01カマド



06\_SI-01カマド

第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~6mm)微量
第2層 10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)中量
第3層 10YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第4層 7.5YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~30mm)少量
第5層 7.5YR5/6 明褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)中量
第6層 10YR4/3 にごり・黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第7層 10YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ5~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第8層 3R5/8 明褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量(5枚程度)
第9層 10YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ3~9mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)微量,焼土ブロック(φ20~30mm)極微量(植)
第10層 10YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量(支脚内部土層)
06_SI-01層表	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第11層 10YR4/4 褐色土	

06\_SI-01カマド土器・支脚・芯材出土位置図

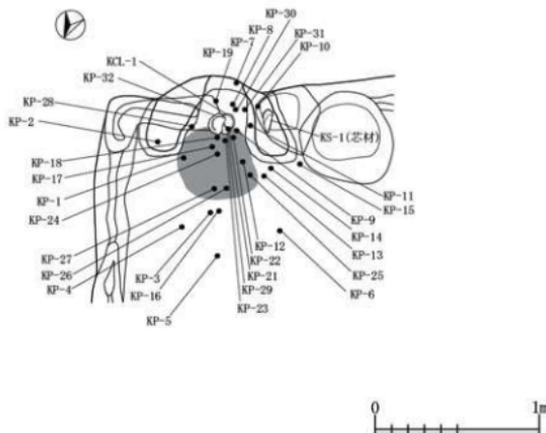
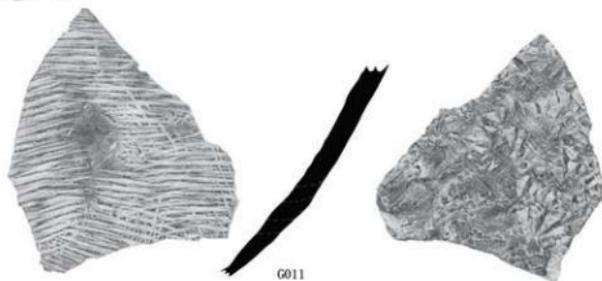


図 3-218 G-1 区 06\_SI-01-4

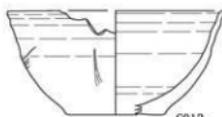
06\_SI-01



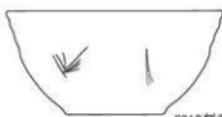
G011



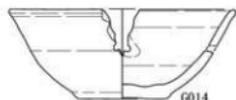
G012



G013



G013刻痕



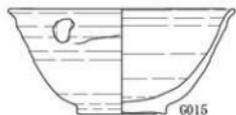
G014



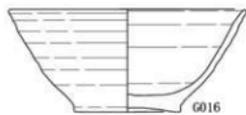
G017



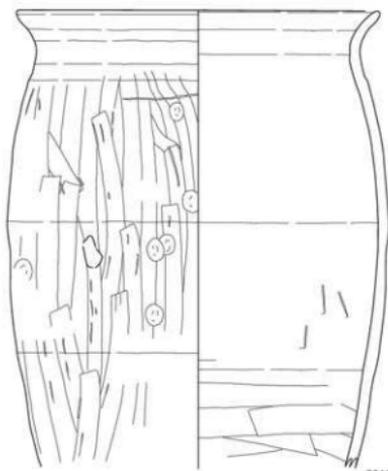
G018



G015



G016



G019



图 3-219 G-1 区 06\_SI-01-5

06\_SI-01

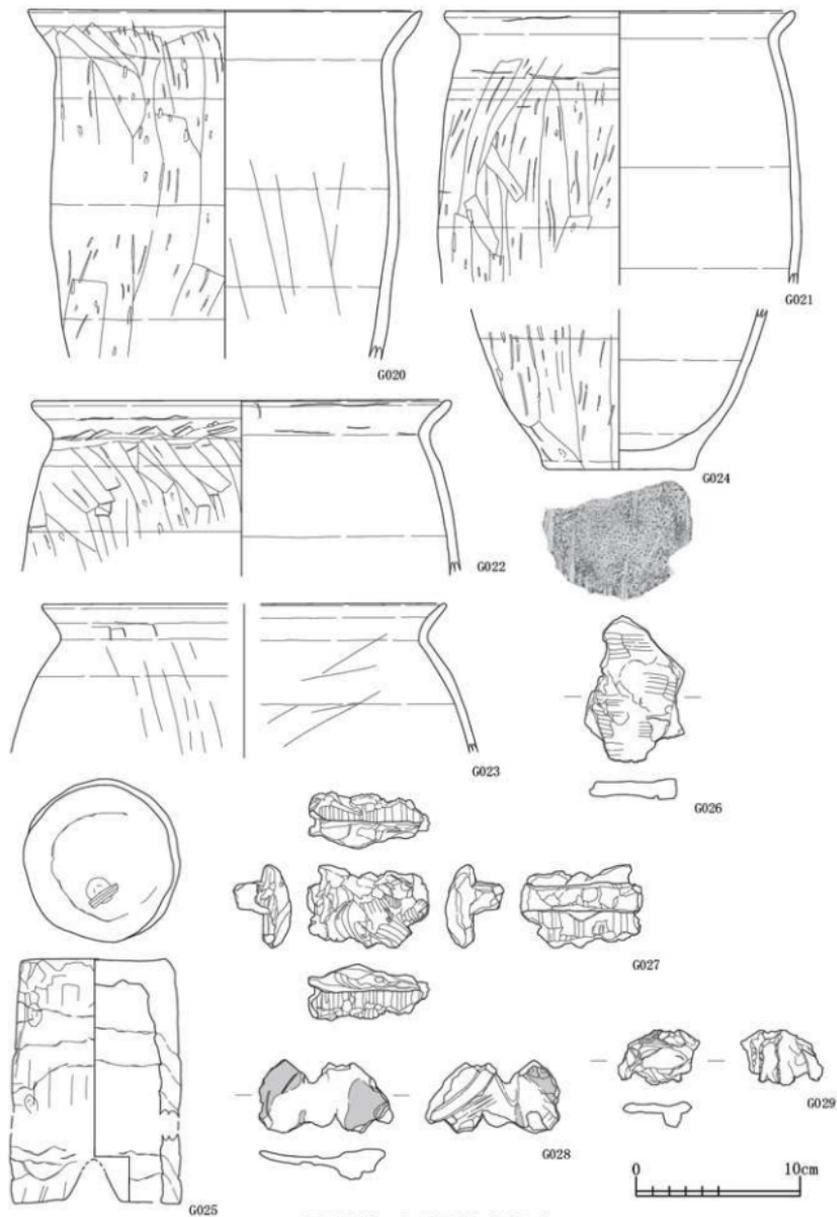


図 3-220 G-1 区 06\_SI-01-6

## 06\_SI-01

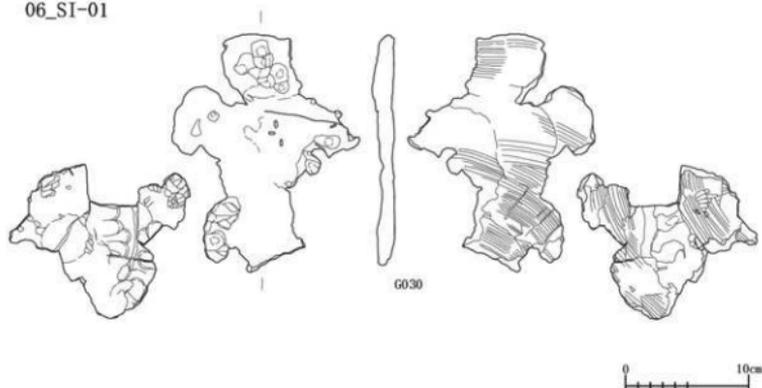


図 3-221 G-1区 06\_SI-01-7

るが、接合破片は部分的であったことから全体形は不明である。

## SI-02 (図 3-222 ~ 225)

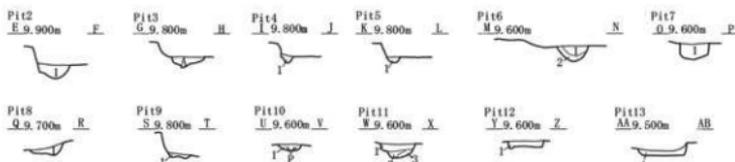
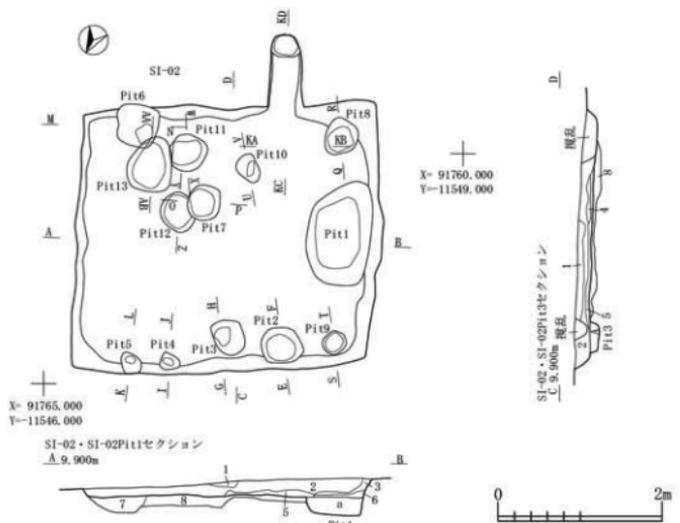
X=91763.000, Y=11547.000 付近で検出した。平面形は不整形長方形を呈し、 $366.0 \times 330.0 \times 22.0$  cm を測る。主軸方位は  $N-151^\circ$  - E である。ピットは堅穴内から 13 基検出したが、Pit 1 については土坑状の掘り込みで、その他のピットは掘り込みが浅く、Pit 11 のように柱状の堆積状況を呈するピットは少なく、不明瞭な状況である。壁溝がなく、北壁と南壁寄りの部分からピットが検出される事例が多いことから、壁柱穴主体の柱穴配置であったことが考えられる。堆積土は 8 層に分層し、廃絶後の堆積土は第 1 ~ 6 層が相当する。床面直上から上の地点で堆積する土から炭化物・焼土粒を検出し、上 ~ 中層に堆積する第 2 層や壁際に堆積する第 3 層中から炭化材を検出していることから埋没の途中で焼成に伴う廃棄がなされた可能性がある。覆土中にロームやバミス粒・ブロックの混入が顕著で、火山灰は確認されていない。カマドは南 3 の位置から検出した。前底部の袖や火床面が残存しておらず、記録写真を確認したところ粒状の焼土粒やバミスブロック等が含まれる土層が視認できることから破壊されていたものと考えられる。構造は半地下式で、煙道長は 99.0 cm を測る。煙出の底部直上から G042 に図示した土師器小甕が出土した。出土遺物は 15 点図示したが、近隣の堅穴と類似した遺物の出土が見られ、第 2 層出土の G033 は 06\_SI-01 出土の G011 と類似の酸化焼成の須恵器甕で、内面の当て具痕は他の資

料同様放射状（漣腐文）で、底部に近い破片であるため当て具の残存が少ない。食膳具は近隣の堅穴同様二次的な影響の大きな資料が多く、打欠や内外面に敲打痕が見られる資料がある。全体形のわかる資料は第 2 層出土の G034 であるが、体部下半 ~ 底部にかけ、敲打による剥落が顕著である。残存部分の法量は口径 13.8 cm、器高 5.5 cm、底径 5.2 cm、器高指数 39.8、底径指数 37.6 を測る。煮炊具は前述のカマド煙出部から出土した小甕以外全体形のわかる資料はないが、全体的に頸部幅が短く口縁部の外反が強い床面出土の G038 や直立気味に立ち上がる Pit 10 覆土出土の G039、さらに頸部を肥厚化して段口縁状になる Pit 7 出土の G040、ロクロ系の Pit 6 出土の G041 などバリエーションに富んだ破片が出土している。G044 は製塩土器の底部資料である。

## SI-03 (図 3-226 ~ 228)

X=91758.000, Y=11553.000 付近で検出した。平面形は不整形長方形を呈し、 $445.0 \times 353.0 \times 16.0$  cm を測る。主軸方位は  $N-164^\circ$  - E である。ピットは堅穴内から 8 基検出したが、Pit 1 については土坑状の掘り込みである。その他のピットは SI-02 同様浅いピットで、均等な配置を想定した場合、Pit 2・3・5・6 が長方形状に配置している。また、Pit 2 と Pit 6 の中間地点には Pit 8 が所在している。壁溝はカマド設置部分以外全周する形で構築されており、カマド設置場所を決定の上、壁溝を予め掘らずに構築されたものとする。堆積土は 8 層に分層し、廃絶後の堆積は第 1 ~ 7 層が相当する。第 2 層の上位から B

SI-02

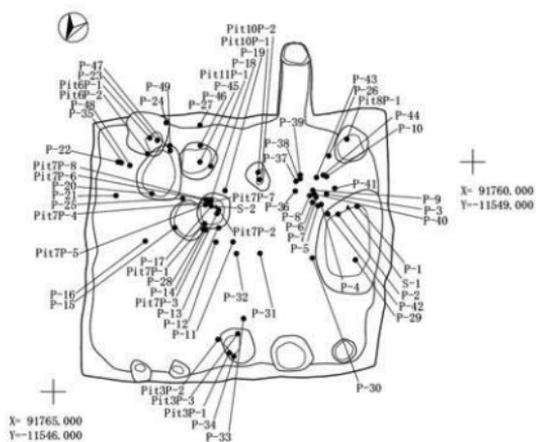


SI-02

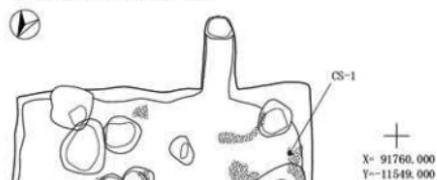
第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~15mm)中量,炭化灰(φ1~9mm)微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~20mm)中量,炭化灰・炭化物(φ1~15mm)中量,焼土粒(φ1~5mm)微量
第3層	10YR2/1	褐色土	炭化灰・炭化物(φ1~20mm)多量
第4層	10YR2/3	暗褐色土	ローム軟(φ1~5mm)少量,炭化灰(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)中量
第5層	10YR2/3	黒褐色土	ローム軟(φ1~5mm)多量,炭化灰(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第6層	10YR2/2	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~50mm)中量
第7層	10YR2/3	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~30mm)中量(陥床)
第8層	10YR3/4	暗褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~50mm)中量(陥床)
Pit1			
第a層	10YR2/3	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~60mm)多量,炭化灰(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量
Pit2			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ5~30mm)多量,炭化灰(φ1~5mm)少量
Pit3			
第A層	10YR3/3	暗褐色土	ローム軟・ブロック(φ5~40mm)少量,炭化灰(φ1~5mm)少量
Pit4			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ5~15mm)少量,炭化灰(φ1~5mm)微量
Pit5			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム軟・ブロック(φ5~20mm)多量
Pit6			
第1層	10YR2/1	褐色土	ローム軟(φ5~9mm)少量,炭化灰(φ1~5mm)微量
第2層	10YR3/3	暗褐色土	ローム軟・ブロック(φ5~30mm)多量,焼土粒・ブロック(φ5~30mm)少量
Pit7			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ5~30mm)中量,炭化灰(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)中量
Pit8			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~30mm)中量
Pit9			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム軟(φ1~5mm)少量
Pit10			
第1層	10YR4/4	褐色土	ローム軟(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~3mm)微量,焼土粒・ブロック(φ1~30mm)少量
Pit11			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム軟(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR4/4	褐色土	ローム軟(φ1~5mm)少量,炭化灰(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第3層	10YR4/4	褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~50mm)中量,炭化灰(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)少量
Pit12			
第1層	10YR3/4	暗褐色土	ローム軟・ブロック(φ1~30mm)多量,炭化灰(φ1~3mm)微量
Pit13			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム軟(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~5mm)中量

図 3-222 G-1区 SI-02-1

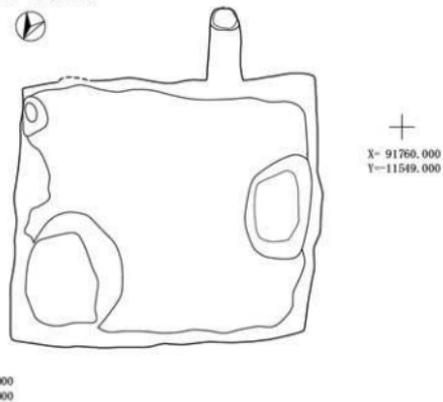
## SI-02土器・石器出土位置図



## SI-02炭範囲・炭サンプル



## SI-02掘り方



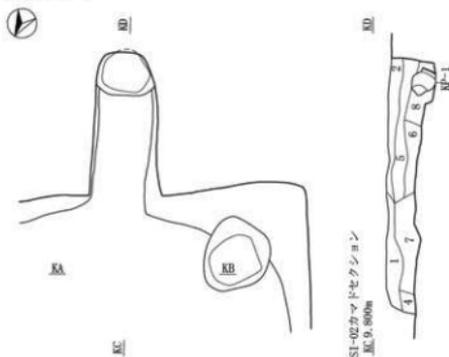
X= 91765.000  
Y=11546.000



X= 91765.000  
Y=11546.000

図 3-223 G-1区 SI-02-2

SI-02カマド



SI-02カマドセクション

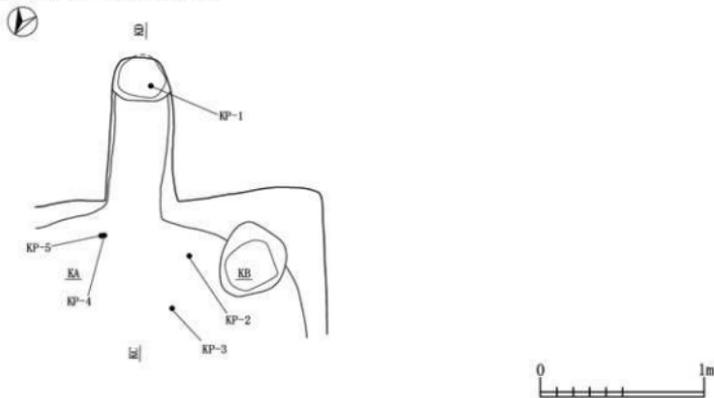
KA 9.800m



SI-02カマド

- |     |           |      |  |
|-----|-----------|------|--|
| 第1層 | 10YK1/7/1 | 黒色土  | ローム粒(φ1~5mm)少量   |
| 第2層 | 7.5YK3/4  | 暗褐色土 | ローム粒(φ5~9mm)少量,炭化粒・炭化物(φ1~15mm)少量,焼土粒(φ5~9mm)微量,焼土ブロック(φ10~20mm)少量 |
| 第3層 | 10YK2/3   | 暗褐色土 | ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量,炭化粒・炭化物(φ5~20mm)中量,焼土粒(φ5~9mm)微量              |
| 第4層 | 10YK3/4   | 暗褐色土 | ローム粒(φ5~9mm)微量,焼土ブロック(φ10~20mm)少量                                  |
| 第5層 | 10YK2/3   | 暗褐色土 | ローム粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)微量                         |
| 第6層 | 10YK3/4   | 暗褐色土 | ローム粒・ブロック(φ5~20mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)                                   |
| 第7層 | 10YK3/3   | 暗褐色土 | ローム粒・ブロック(φ1~30mm)中量,炭化粒(φ5~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)微量                   |
| 第8層 | 10YK2/2   | 暗褐色土 | ローム粒・ブロック(φ1~15mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量                                 |

SI-02カマド土器出土位置図



SI-02

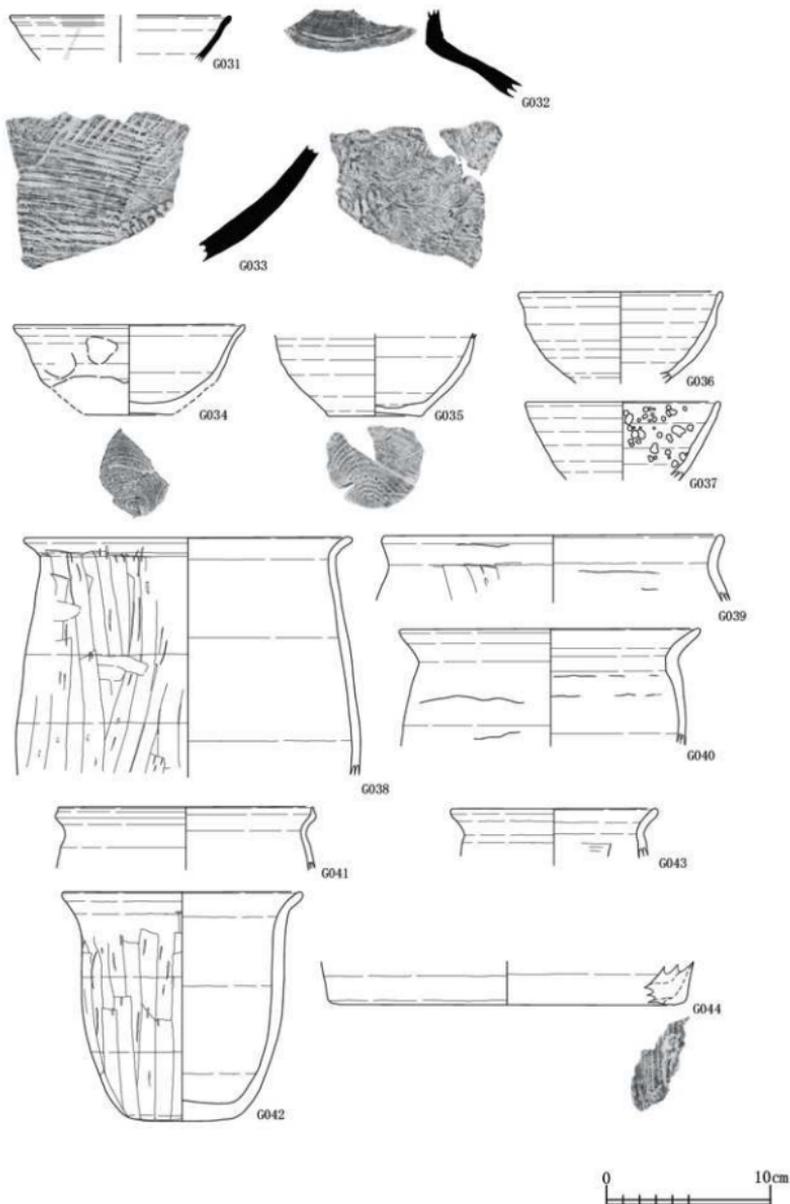
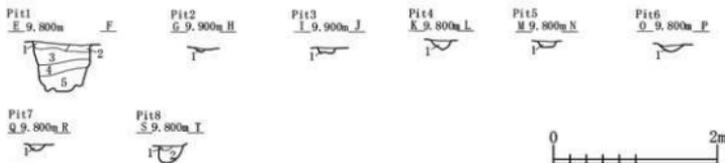
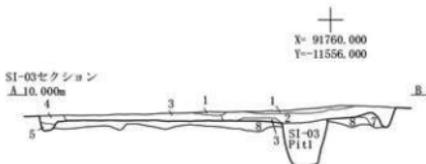
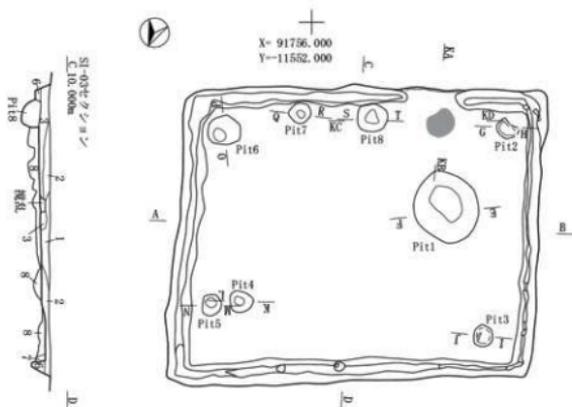


图 3-225 G-1 区 SI-02-4

SI-03

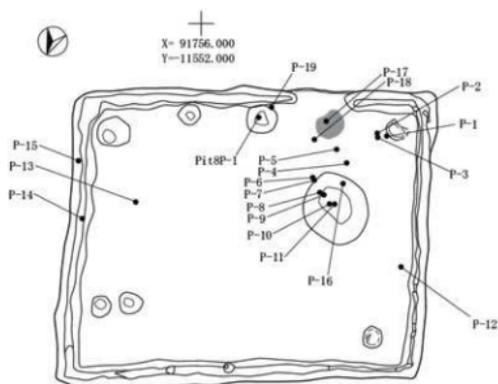


SI-03

第1層	10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ5~9mm)少量,Br-Tsukida灰中量
第3層	10YR2/3	暗褐色土	ロームブロック(φ15~20mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第4層	10YR2/3	暗褐色土	ロームブロック(φ10~20mm)多量
第5層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ5~9mm)少量
第6層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ5~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第7層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~30mm)多量
第8層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)中量
Pit11			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)少量,炭化粒(φ1mm)微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~50mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第4層	10YR2/2	黒褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)中量
第5層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)少量
Pit12			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量
Pit13			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)微量
Pit14			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)微量
Pit15			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~15mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)少量
Pit16			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量
Pit17			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~10mm)中量,炭化物(φ1mm)微量
Pit18			
第1層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化物(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~10mm)少量
第2層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)中量,焼土粒(φ1~5mm)少量

図 3-226 G-1 区 SI-03-1

SI-03土器出土位置図



SI-03B-Tm火山灰範囲・サンプル

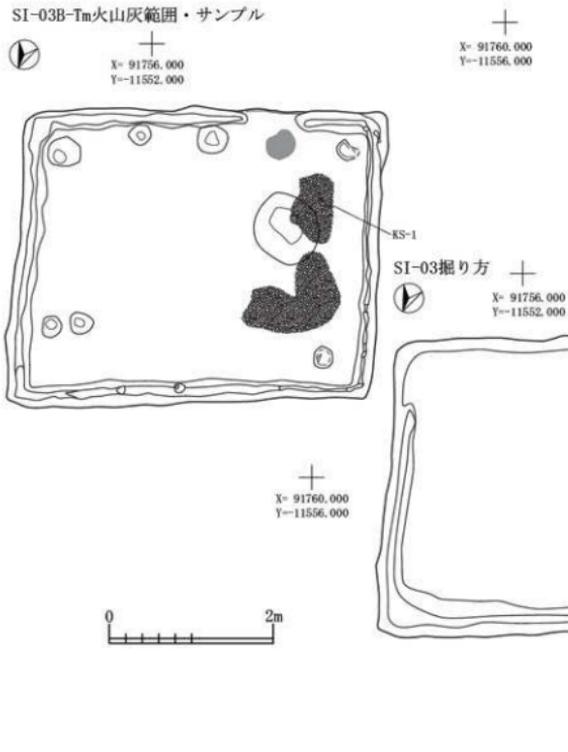
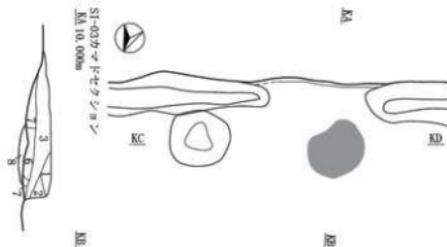
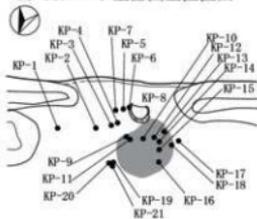


図 3-227 G-1区 SI-03-2

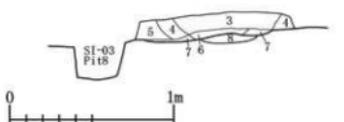
SI-03カマド



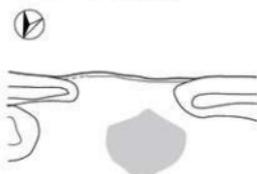
SI-03カマド土器出土位置図



SI-03カマドセクション  
KC, 10,000m



SI-03カマド焼土範囲



SI-03カマド

第1層 10YR1/7	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量、炭化粒(φ1~5mm)微量、焼土粒(φ1~5mm)微量
第2層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ5mm)微量、炭化粒(φ5~9mm)微量、焼土粒(φ5mm)微量
第3層 10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)微量、焼土粒(φ1~9mm)少量
第4層 10YR2/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)微量、焼土粒(φ1~5mm)微量
第5層 10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量、炭化粒(φ1~5mm)少量、焼土粒(φ1~9mm)中量
第6層 5YR3/6	暗赤褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量
第7層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量、焼土粒(φ1~2mm)微量
第8層 5YR4/6	赤褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量、火床面

SI-03

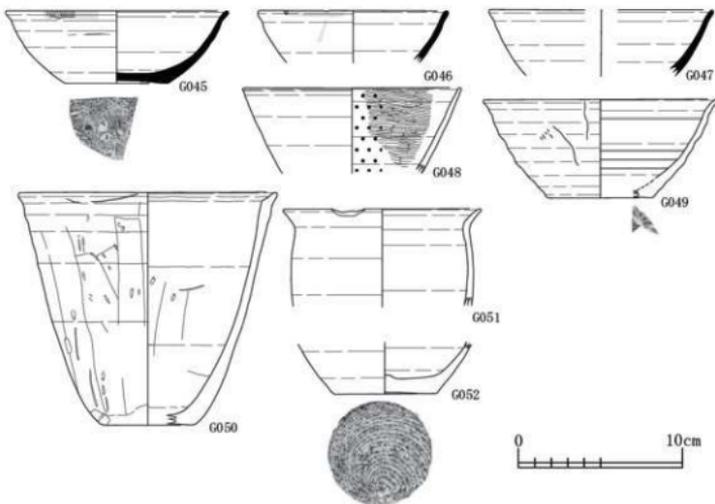


図 3-228 G-1 区 SI-03-3

一Tm火山灰を検出している。カマドは南3の位置から検出した。構造は短煙道の平地下式で、火床面と支脚の一部は残存しているが、前庭部は残存しておらず、破壊された構築材が火床面上に堆積している状況であった。煙道は平面図上では明確に図示されていないが、断面図と記録写真で確認する限り浅く緩やかに立ち上がる形状で、壁面から14cm程度である。

出土遺物は8点図示した。G045は第2層から出土した須恵器杯で、口径13.4cm、器高4.4cm、底径6.2cm、器高指数32.8、底径指数46.2を測る。浅身で、底径幅が広い資料である。同じく第2層出土で、破片資料の黒色土器碗のG048は口径13.0cmを測る。直立気味に直線的に立ち上がる器形で、ヘラミガキは横方向に精緻に磨かれている。カマド出土の土師器碗であるG049は口径14.2cm、器高6.0cm、底径6.2cm、器高指数42.2、底径指数43.6を測る。外面の間隔の狭い稜段が顕著で、内面はコテ当てに伴うクロク挽きの条線がある。また外面口唇部直下へ体部にかけて刻線が観察される。G050は堅穴第1・2層、覆土、カマド覆土の接合資料の甕で口径15.6cm、器高14.0cm、底径5.6cmを測る。規格的に小甕の部類であるが、口径を基準とした本報告書中の全体上、甕の範疇となった。口縁部は若干括れがあるもののほとんど無頸で内面側が面取り状に凹みがあり、口唇部の突出を作出しているが、体部側から聞き気味に立ち上がる形状である。内外面とも縦方向のヘラによる調整を基本とし、横方向の撫でにより調整している。G051はカマド支脚として用いられた土師器クロク小甕で口径12.0cmを測る。頸部内面には煮炊痕が認められ、使用の上転用されたものと判断できる。同質の胎土で火床面上から散逸して出土したG052は土師器小甕の底部に相当し、G051の底部に相当する可能性がある。

#### SI-05 (図3-229～234)

X=91747.000, Y=-1154000付近で検出した。平面形は方形を呈し、543.0×537.0×13.0cmを測る。主軸方位はN-152°-Eである。ピットは堅穴内から18基検出し、Pit1については土坑状の掘り方である。主柱穴はPit3・8・13・18で、カマド設置壁側が壁に接する位置から検出している4本柱で、北壁側はPit2・4・6・7が主柱穴よりも浅い掘り込みであるが、均等に配置しており、壁柱穴の可能性がある。カマド設置壁側もPit11・12・14・15・17と小ピットであるが、柱穴があり、壁部分の支柱穴等の機能が相当できる。また、南東側からSK

01を検出した。断面形がフラスコ状を呈する土坑で規模は153.0×150.0×74.0cmを測る。貯蔵穴としての機能が想定される。溝溝は堅穴内を全周しており、カマド設置部分についても掘削がなされている。堆積土は掘り方を含め7層に分層し、廃絶後の堆積土は第1～5層を相当する。削平の影響で残存部分が少ないが、第1層とした土層中からB-Tm火山灰を検出した。カマドは調査時に南壁側から2基扱いで精査されており、南2の地点をカマド1、南3の地点をカマド2と取り扱っている。いずれも前庭部の残存がなく、カマド1の支脚相当位置からはG059に図示した土製支脚が出土している程度で、礎土が含まれる土層が認められる程度である。カマド2は、構築材である粘土が散乱し、火床面上の位置からKP-6とした土師器甕底部が倒伏の状態であるなど廃棄時まで使用されていた痕跡があることから、実質的にカマド2が廃棄時まで使用されていたものと考えられる。

カマド2は平地下式で、周辺が削平を受け、前庭部は破壊により残存していないが、残存部の煙道長60.0cmを測る。煙道は掘り方を有し、土が充填され、使用時には床面から緩やかに立ち上がる形状となっている。

出土遺物は8点図示したが、破片資料が多い状況で、全体的な資料はG053に図示した碗1点とG058に図示した小甕1点程度である。G053は第2層から出土した土師器碗で、口径13.8cm、器高6.5cm、底径5.6cm、器高指数47.1、底径指数40.5を測る。二次被熱が顕著で内外面とも剥落が生じており、湯痕の付着が見られる。器壁は薄手で、体部下半が膨らみを持たせた後、やや直線的に聞き気味に立ち上がる。煮炊具は口径の小さい資料が多く、G055で17.8cm、G056で16.8cmを測る。口縁部は直立気味ないしは軽く押し返すように作出しているが、体部中半から緩やかに屈曲するように頸部幅がやや幅広く、G056は二段口縁状に屈曲させている。非クロクの小甕であるG057も体部中半から緩やかに屈曲している。カマド2出土でクロク小甕のG058は、口径13.2cm、器高11.0cm、底径7.8cmを測る。器壁が厚く体部の最大径と口径がほぼ同じ程度である。G059はカマド1のKCL-1の地点から出土した土製支脚で、上端が打欠きによる欠損があるが、下端の透かしの切り込みに対応する構りの入った状況である。G060はカマド2の前庭部から出土した土製品で、用途は不明であるが、一端の先端が先細り気味で、鉤状に反り返った形状を呈する。

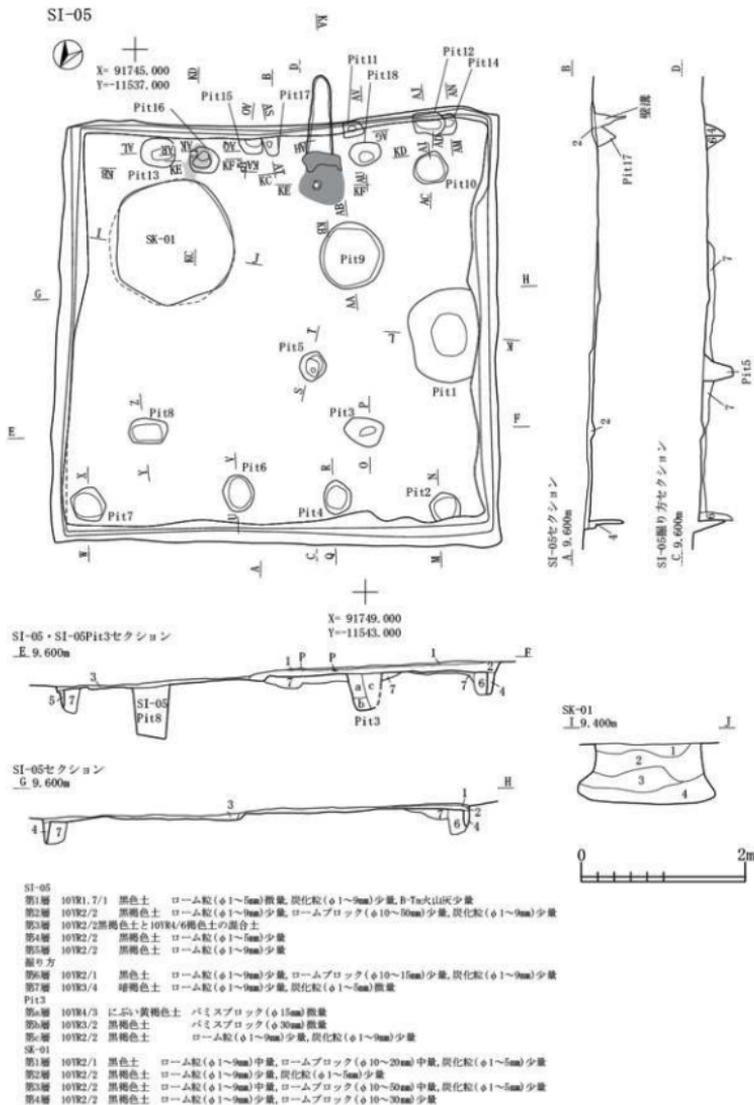
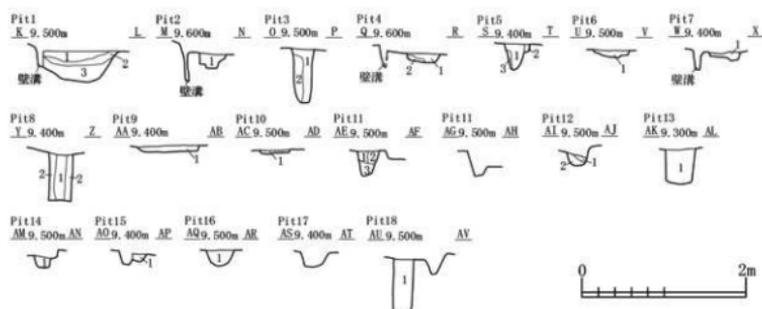


図 3-229 G-1 区 SI-05-1

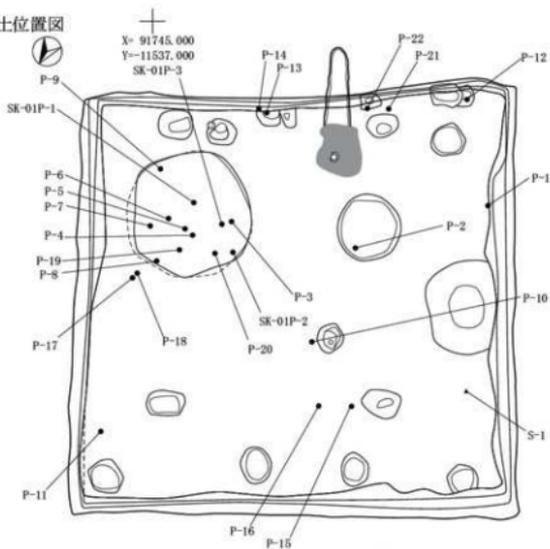
## SI-05



Pit1	第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~30mm)多量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
	第2層 10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~30mm)多量, 炭化粒(φ5~9mm)微量
	第3層 10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
Pit2	第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
Pit3	第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量
	第2層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ5~9mm)多量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
Pit4	第1層 10YR2/2	黒褐色土	ロームブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
	第2層 10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ5~9mm)少量, ロームブロック(φ10~40mm)少量
Pit5	第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
	第2層 10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量
	第3層 10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
Pit6	第1層 10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ5~9mm)多量, ロームブロック(φ10~30mm)多量, 炭化粒(φ1~9mm)少量
Pit7	第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~40mm)多量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
	第2層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)中量, 炭化粒(φ1~9mm)少量
	第3層 10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ5~9mm)多量, ロームブロック(φ10~40mm)多量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
Pit9	第1層 10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)微量, 炭化粒(φ1~5mm)微量
Pit10	第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)中量, 炭化粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量
Pit11	第1層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)少量
	第2層 10YR4/3	濃い黄褐色土	10YR2/1黒色土とバミスブロック(φ10~20mm)少量
	第3層 10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量
Pit12	第1層 10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量
	第2層 10YR2/3	暗褐色土	ローム粒(φ5~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量
Pit13	第1層 10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ5~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ5~9mm)少量, 焼土ブロック(φ10~15mm)少量
Pit14	第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
Pit15	第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ5~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量
Pit16	第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~50mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)微量
Pit18	第1層 10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ5~9mm)微量

図 3-230 G-1 区 SI-05-2

SI-05土器・石器出土位置図



SI-05炭・粘土範囲・炭サンプル

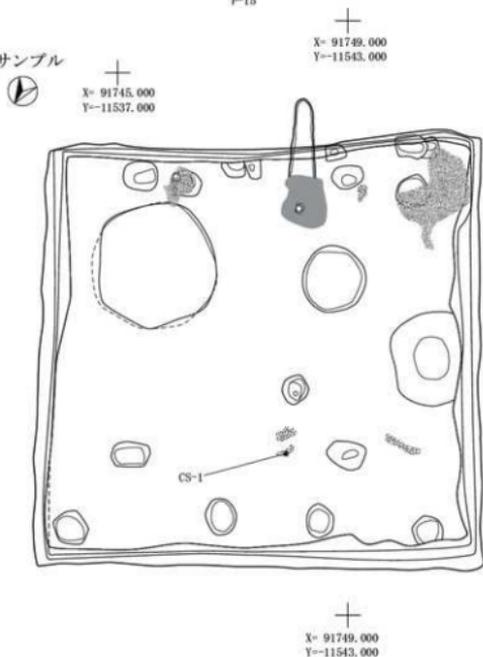
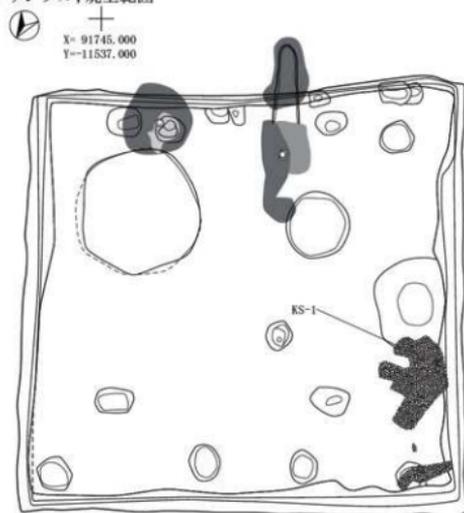


図 3-231 G-1区 SI-05-3

SI-05 B-Tm火山灰範囲・サンプル, 焼土範囲



SI-05掘り方

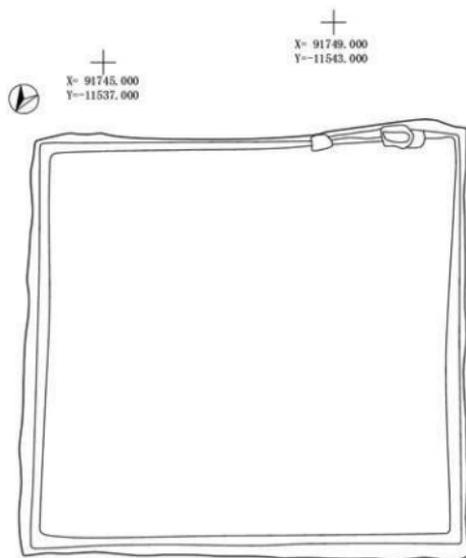
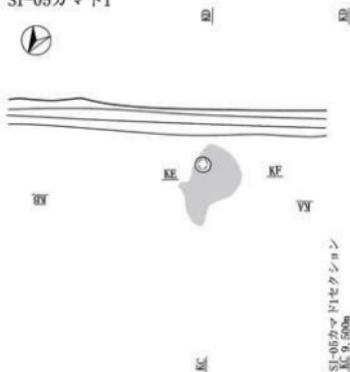
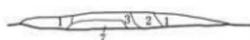


図 3-232 G-1区 SI-05-4

SI-05カマド1



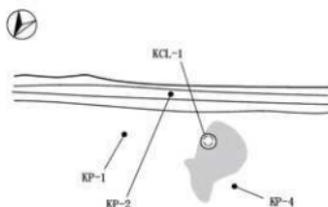
SI-05カマド1セクション  
KA 9.500m



SI-05カマド1セクション  
KH KE 9.500m



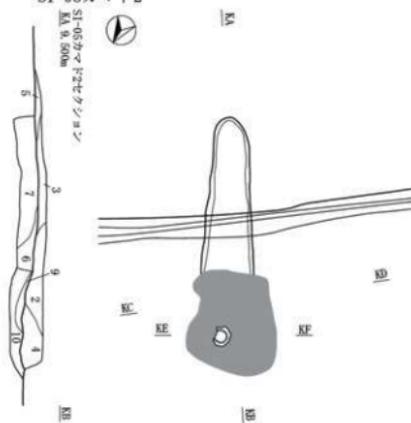
SI-05カマド1土器・土製品出土位置図



SI-05カマド1

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~9mm)少量,焼土粒(φ5~9mm)微量
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ5~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~15mm)少量
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)微量
- 第5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5~9mm)微量,焼土粒(φ5~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~15mm)少量
- 第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)多量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量
- 第7層 7.5YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~9mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土ブロック(φ10~20mm)少量

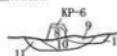
SI-05カマド2



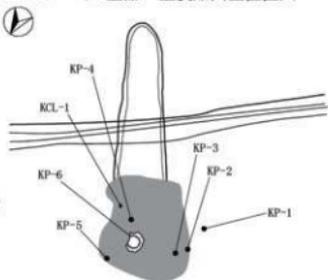
SI-05カマド2セクション  
KC 9.500m



SI-05カマド2セクション  
KD KE 9.500m



SI-05カマド2土器・土製品出土位置図



SI-05カマド2

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ5~9mm)少量,焼土粒(φ5~9mm)少量
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量
- 第3層 10YR3/2 暗褐色土 炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ5~9mm)多量,焼土ブロック(φ10~15mm)多量
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量
- 第5層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)微量
- 第6層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量
- 第7層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
- 第8層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量
- 第9層 5YR4/8 赤褐色土 炭化粒(φ1~5mm)微量
- 第10層 5YR4/6 赤褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量,火床面
- 第11層 7.5YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量,火床面



図 3-233 G-1 区 SI-05-5

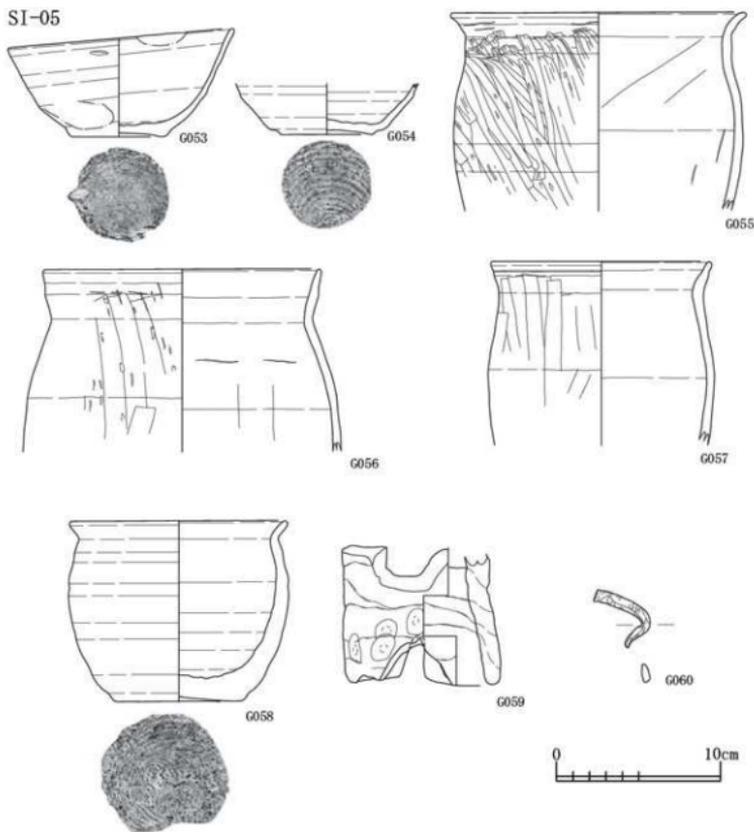


図 3-234 G-1 区 SI-05-6

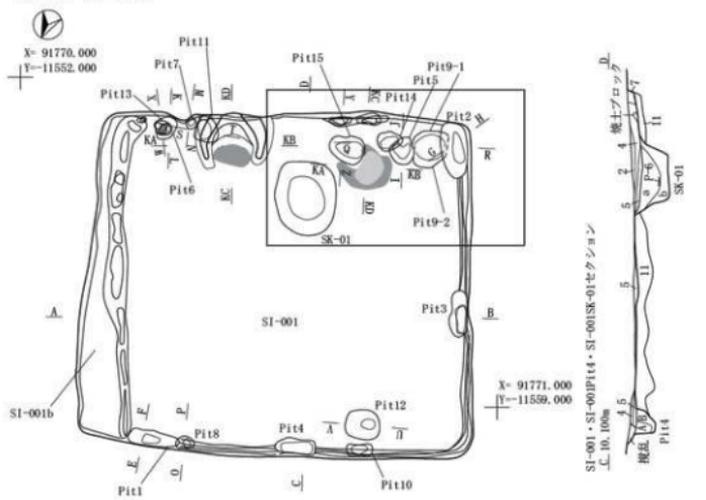
SI-001・SI-001b (図 3-235～239)

X=91771.000, Y=11556.000 付近で検出した。本遺構は新旧二段階あり、廃棄時の資料をSI-001、旧段階のものをSI-001bと取り扱っている。ただし、SI-001bについては東壁の位置が異なっていたため新旧関係が把握できたに過ぎず、他の壁はSI-001の重複位置上で、掘り方も同じ土層が堆積していることから詳細は不明である。

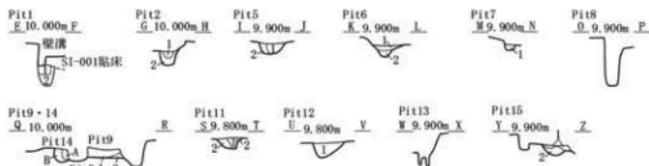
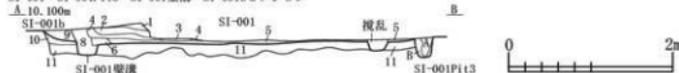
SI-001は長方形を呈し、 $443.0 \times 414.0 \times 24.0$  cmを測る。主軸方位は $N-15.8^{\circ}-E$ である。ピットは竪穴内から15基検出しているが、前述の前段階の竪穴にあたるSI-001bに帰属する可能性のあるピットも一括して精査している。Pit1については壁溝の重複箇所

の貼床の下部から検出しており、前段階に帰属する可能性が高い。他のピットは明瞭に前段階に帰属した可能性を示す堆積状況ではないが、主柱穴として機能した可能性のあるピットはPit8・10程度で、カマド設置壁側に柱穴が複数見られるが、十分な大きさや深さを持つピットがなく、不明瞭である。また、西壁のPit3についても柱穴として機能した可能性が高く、同規模のピットが南西隅にPit2、北壁にPit4として存在していることから、壁溝の部分に支柱穴が存在していたものと思われる。堆積土はSI-001bの堆積土を含め11層に分層しており、掘り方に相当する第11層の充填土はSI-001の部分とSI-001bの部分とはほぼ同一の土層が堆積している。SI-001bの土層は第9・10層が相当し、第9層中にT<sub>0</sub>

SI-001・SI-001b



SI-001・SI-001Pit3・SI-001壁溝・SI-001bセクション



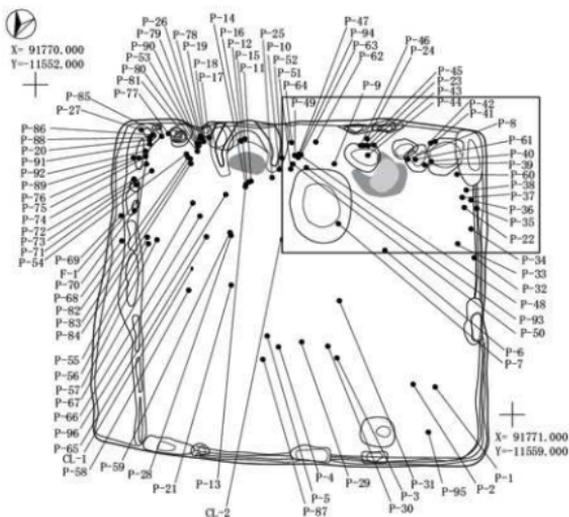
SI-001			
第1層 10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量,火山灰(Tp)少量	SI-001b
第2層 10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量	第9層 10YR4/3
第3層 10YR3/4	球褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)(φ1~5mm)微量	第10層 10YR4/3
第4層 10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ10~20mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量	にぶい・黄褐色土
第5層 10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)極微量	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)(φ10~15mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量
第6層 10YR3/3	球褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)極微量	SI-001SK-01
第7層 10YR3/4	球褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)微量	第6層 10YR3/2
第8層 10YR4/3	にぶい・黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,10YR7/6明黄褐色土ブロック(φ10~30mm)少量	球褐色土
第11層 10YR4/3Cにぶい・黄褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土(貼床)		バミス粒(φ1~9mm)多量,炭化粒(φ1~2mm)多量,炭化粒(φ1~3mm)極微量	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量
			SI-001Pit3・4
			第9層 10YR2/3
			黒褐色土
			バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
			にぶい・黄褐色土
			バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量

図 3-235 G-1区 SI-001-1

SI-001P11	貼床	10TR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)中量
第1層	10TR3/3	暗褐色土		パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第2層	10TR3/3	暗褐色土		パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SI-001P12	第1層	10TR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第2層	10TR3/3	暗褐色土		パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SI-001P15	第1層	10TR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10TR3/3	暗褐色土		パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SI-001P16	第1層	10TR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10TR4/3	にぶい黄褐色土		パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量
SI-001P17	第1層	10TR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒・焼土粒(φ1~2mm)微量

SI-001P19	第1層	10TR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第2層	10TR4/6	褐色土		パミスブロック(φ10~25mm)多量
SI-001P114	第6層	10TR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第8層	10TR4/3	にぶい黄褐色土		パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量
SI-001P111(掘り方)	第1層	10TR3/2	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10TR3/3	暗褐色土		パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)中量
SI-001P112(掘り方)	第1層	10TR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~8mm)多量
SI-001P115	第1層	10TR3/2	暗褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10TR4/4	褐色土		パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)中量

## SI-001土器・石器・鉄関連遺物・土製品出土位置図



## SI-001SK-01・Pit9土器出土位置図

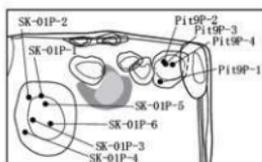
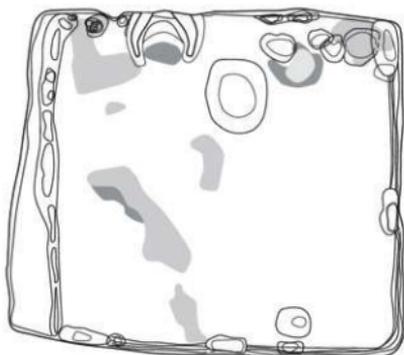


図 3-236 G-1区 SI-001-2

SI-001焼土・ローム範囲

X= 91770.000

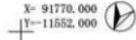
Y=11552.000



SI-001炭範囲・炭サンプル

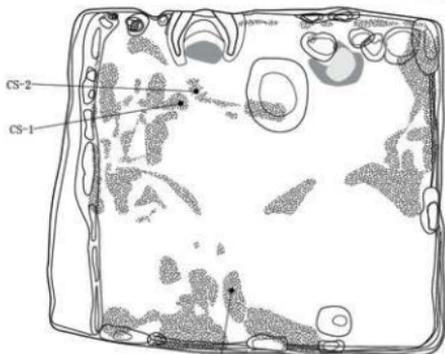
X= 91770.000

Y=11552.000



X= 91771.000

Y=11559.000



X= 91771.000

Y=11559.000



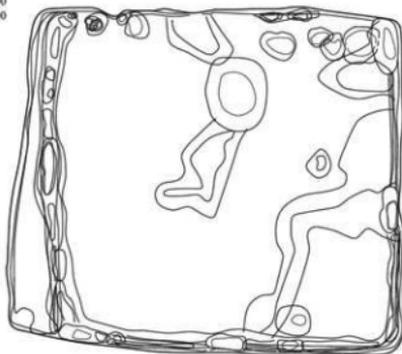
SI-001・SI-001b掘り方



X= 91770.000

Y=11552.000

CS-3



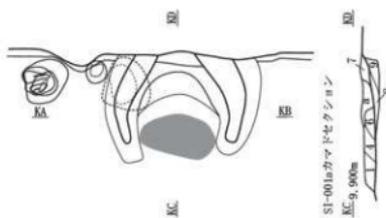
X= 91771.000

Y=11559.000

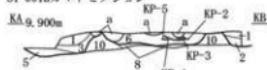


図 3-237 G-1区 SI-001-3

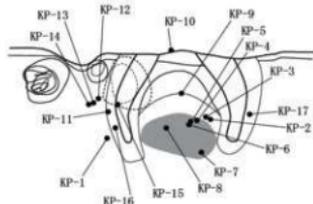
SI-001カマドa



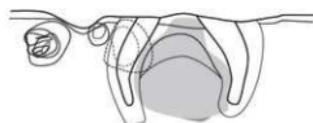
SI-001aカマドセクション



SI-001カマドa土器出土位置図



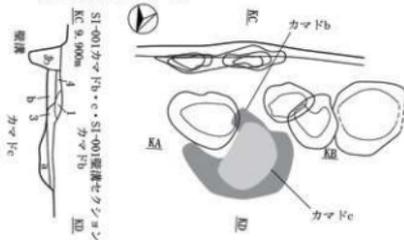
SI-001カマドa焼土範囲



SI-001カマドa

- |      |                                |   |
|------|--------------------------------|---|
| 第0層  | 10YR2/1 黒色土                    | パミス灰(φ1~5mm)微量(覆乱)  |
| 第1層  | 10YR3/2 黒褐色土                   | パミス灰(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量                    |
| 第2層  | 10YR3/3 暗褐色土                   | パミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量                    |
| 第3層  | 10YR3/3 暗褐色土                   | パミス灰(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量                                  |
| 第4層  | 10YR4/3 にぶい黄褐色土                | パミス灰(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量                    |
| 第5層  | 10YR3/3 暗褐色土                   | パミス灰(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)少量                    |
| 第6層  | 7.5YR4/4褐色土と7.5YR5/6明褐色土の混合土   | パミス灰(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)中量,焼土ブロック(φ10~15mm)微量 |
| 第7層  | 10YR4/3 にぶい黄褐色土                | パミス灰(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)微量                    |
| 第8層  | 10YR4/3 にぶい黄褐色土                | パミス灰(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量                                  |
| 第9層  | 10YR4/3 にぶい黄褐色土                | パミス灰(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~25mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量(カマド入り方)     |
| 第10層 | 10YR5/6黄褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土 | パミス灰(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ1~2mm)微量(袖)                           |

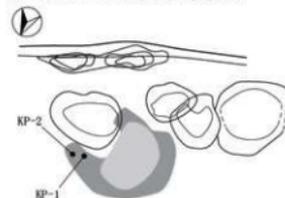
SI-001カマドb・c



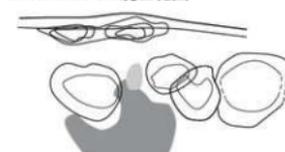
SI-001カマドb・cセクション



SI-001カマドb土器出土位置図



SI-001カマドb焼土範囲



覆乱 10YR2/1 黒色土 パミス灰(φ1~3mm)微量

SI-001カマドb

- |          |              |   |
|----------|--------------|---|
| 第1層      | 10YR3/3 暗褐色土 | パミス灰(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ20~30mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量,焼土粒(φ1~9mm)中量 |
| 第2層      | 10YR3/3 暗褐色土 | パミス灰(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)中量                                    |
| 第3層      | 5YR4/8 赤褐色土  | パミス灰(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)中量,焼土ブロック(φ10~30mm)多量(大床面)            |
| 第4層      | 10YR2/2 暗褐色土 | パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)極微量,焼土粒(φ1~5mm)微量 |
| SI-001埋溝 |              |   |
| 第5層      | 10YR2/2 暗褐色土 | パミス灰(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量                                   |

SI-001カマドc

- |     |                            |  |
|-----|----------------------------|--|
| 第5層 | 7.5YR4/4褐色土と5YR4/6赤褐色土の混合土 | パミス灰(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)多量(大床面)                |
| 第6層 | 10YR3/3 暗褐色土               | パミス灰(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量 |



図 3-238 G-1区 SI-001-4

SI-001

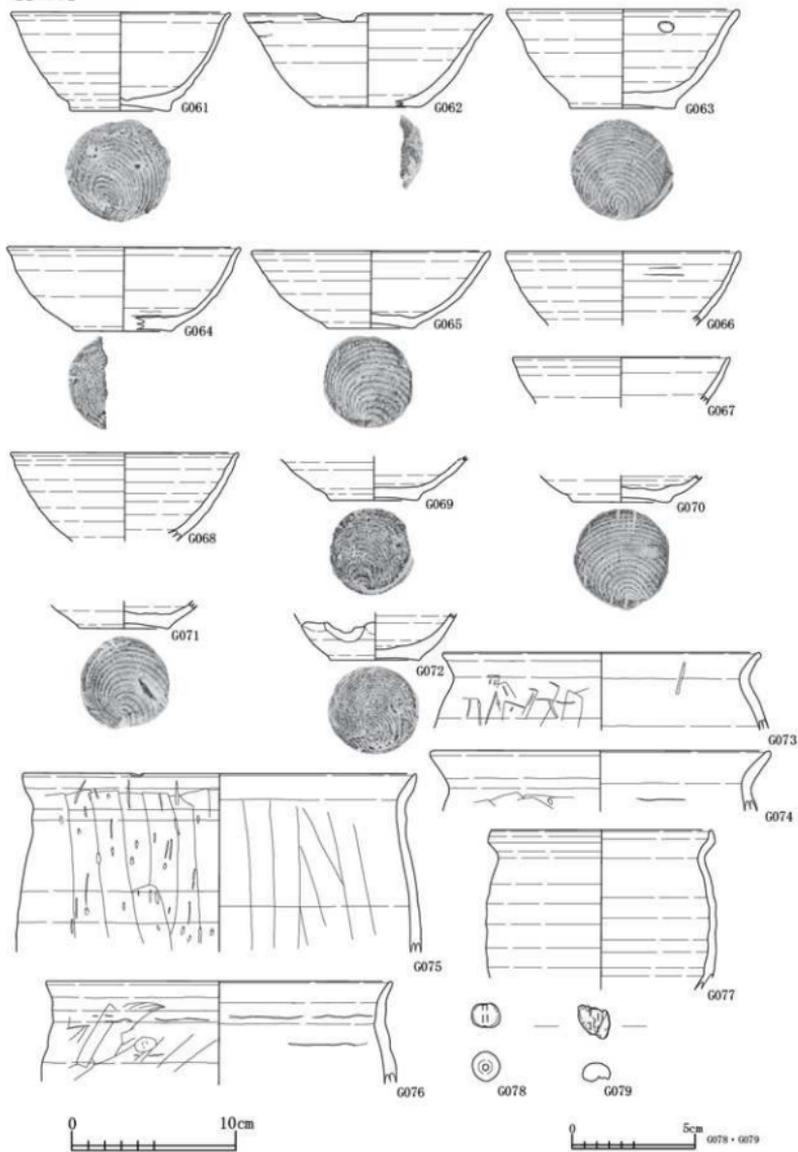


図 3-239 G-1区 SI-001-5

— a 火山灰が混入している。また、S I—0 0 1の廃絶後の土層は第1～8層が相当し、第1層中にB—T m火山灰が堆積している。また、第5層の上面で焼土が伴った炭化材の検出があり、廃棄時に焼成が伴った可能性が高い。炭化材は壁際を中心に出土している。カマドは南2の位置からカマド aとした半地下式の短煙道タイプを1基検出しており、南3の位置から火床面を検出している。南3の火床面については調査時にカマド bとカマド cの別々の取り扱いで精査しているが、双方とも床面より落ち込んだ位置から検出しており、S I—0 0 1 bの帰属の可能性が高い。

南2のカマド aは前述のとおり短煙道タイプの半地下式で、袖部幅93.0 cm、煙道長133.0 cmを測る。粘土による構築で、K P—9の位置からG 0 6 5に図示した土師器碗が倒位に出土している。

出土遺物は19点図示した。土器のうち全体形の追える資料は食膳具のG 0 6 1～G 0 6 5に図示した資料のみで、打欠など転用の要素が認められる資料が含まれる。G 0 6 1は中層出土の土師器碗で、口径13.2 cm、器高6.0 cm、底径6.0 cm、器高・底径指数は45.4である。体部を膨らませ、外面側は稜段を顕著にさせ、口縁部は端反である。底部切離し時に円柱を残し、微高台状を呈している。G 0 6 2は、中層および覆土出土の土師器碗で口径15.0 cm、器高5.7 cm、底径6.4 cm、器高指数38.0、底径指数42.6を測る。巻上成形痕を持ち、体部下半にやや厚みを持ち、体部中半から開き気味に伸ばし上げるように外反させ、口唇部は先細りの形状である。口縁部は打欠痕が認められる。G 0 6 3は下層出土の土師器碗で、口径14.0 cm、器高6.1 cm、底径6.2 cm、器高指数43.5、底径指数44.2を測る。内面見込み部分が平滑で、体部中半に最大肥厚部が認められ、そこから軽くそり返すように伸ばし上げている。口唇部は丸みを帯びた形状で、内面には粘土付着が認められる。G 0 6 4は壁溝出土の土師器碗で、口径14.0 cm、器高5.1 cm、底径5.8 cm、器高指数36.4、底径指数41.4を測る。後述するG 0 6 5と同様に体部の丸みを帯びた器形で、底部に厚みを持ち、体部中半に最大厚を有する点ではG 0 6 3、器壁の薄さと口唇部の端反についてはG 0 6 1にも通ずる特徴でもある。G 0 6 5は前述のカマド支脚相当位置から出土した土師器碗で、口径14.4 cm、器高4.8 cm、底径5.2 cm、器高指数33.3、底径指数36.1を測る。浅身の碗形で、底部は幅広い回転糸切痕で、体部中半を膨らませ、そこから開き気味に引き伸ばすように立ち上げている。煮炊具は基本的に短頸であるが、体部上半から緩やかに屈曲するG 0 7 5・G 0 7 6のよう

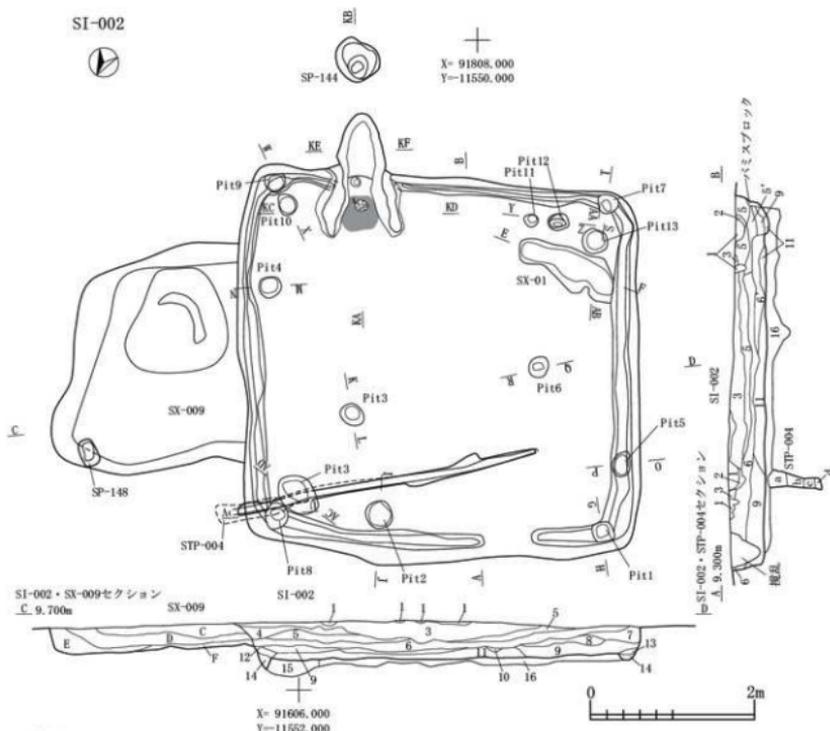
な資料も含まれる。小甕はG 0 7 7のクロコ小甕のみ図示可能で、受け口状の口縁部を呈する。土製品のうち、G 0 7 8・G 0 7 9はいずれも土玉で、G 0 7 8は中層出土、G 0 7 9は下層出土である。

#### S I—0 0 2 (図3-240～247)

X=9182.000, Y=11551.500付近で検出した。S T P—0 0 4・S X—0 0 9と重複しており、いずれの遺構よりも新しい。平面形は不整形を呈し、49.0×47.9×48.0 cmを測る。主軸方位はN—159°—Eである。ピットは壁穴内から14基検出し、比較的浅いものが多い。壁溝のない壁溝に近接した位置から多く検出しており、支柱穴配置については不明である。また、S X—0 0 1とした溝状の浅い掘り込みには焼土や炭化物等灰溜みピットのような堆積物が認められる。壁溝は北壁の中央部分のみ空いた状況で、カマド設置部分にも土層固を確認する限り、カマドの構築前に壁溝は掘削されていたものと判断できる。堆積土は掘り方部分を含め18層に分層し、床面直上に堆積する第9・11層、中層に堆積する第5・6・6'層、でT o— a火山灰、上面に堆積する第3層中にB—T m火山灰が堆積している。T o— a火山灰についてはS X—0 1・P i t 9などでも認められており、二次的な混入が顕著な状況と判断した。

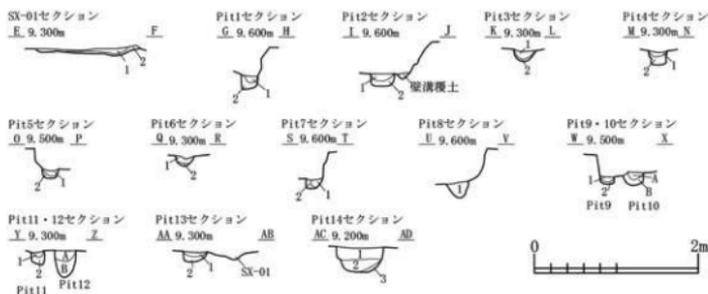
カマドは南1・2の位置から検出した。半地下式で袖部幅102.0 cm、煙道長73.0 cmを測る。粘土による構築であるが、前底部に羽口の出土が認められることから芯材として利用された可能性が残る。火床面の奥壁寄り部分からK P—1と取り扱いG 0 8 1に図示した須臾器坏が倒位に置かれており、壁穴壁際の部分からK P—47と取り扱いG 0 9 5に図示した土師器小甕が倒位の状態で出土しており、いずれかが支脚として機能した可能性がある。煙道の奥壁の延長線上にS P—144が存在しているが、直接の関連性については不明である。

出土遺物は混入した縄文土器片を含め20点図示した。G 0 8 0は第6層およびカマド第8・9層ならびにF区S D—0 0 1 a上層から出土した須臾器中甕で口径21.6 cm、器高(5.2.8) cm、底径(9.4) cmを測る。丸底でC—2区S I—0 0 1等で出土している酸化焼成で、内面に放射状の当て具痕(漣痕)を有する須臾器甕と同様の調整手法で製作された須臾器甕である。ただ、本資料は外面の色調が若干還元があった灰色気味の色調を呈し、口唇部の形状が面取部分を持たない平滑な形状である点が異なる点で、それ以外の叩き目の条数(3 cmあたり7程度)や内面の当て具痕の形状は同一であり、非五所川原産の同列の資料であると考えられる。G 0 8 1はカマドの支脚相当位置か



SI-002				SI-002掘り方		
第1層	10YR3/1 黒褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量(埋没)		第15層	10YR3/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~50cm)多量
第2層	10YR2/3 黒褐色土	バミス灰(φ1~3cm)埋没(埋没)		第16層	10YR4/6 褐色土	
第3層	10YR2/1 黒色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,To-α火山灰少量		STP-004		
第4層	10YR2/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~15cm)少量,炭化灰(φ1~2cm)埋没		第1層	10YR2/2 黒褐色土	ローム灰(φ1~9cm)少量,バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)埋没
第5層	10YR3/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)多量,炭化灰(φ1~3cm)埋没,To-α火山灰少量		第2層	10YR3/1 黒褐色土	ローム灰(φ1~5cm)少量,炭化灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~50cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)埋没
第5層	10YR3/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)埋没,To-α火山灰少量		第3層	10YR4/2 灰黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~50cm)少量,炭化灰(φ1~5cm)埋没
第6層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~20cm)多量,炭化灰(φ1~3cm)埋没,To-α火山灰少量		第4層	10YR4/1 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~20cm)少量,炭化灰(φ1~2cm)埋没
第6層	10YR3/2 黒褐色土	ローム灰(φ1~9cm)中量,ロームブロック(φ10~30cm)中量,バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~20cm)少量,炭化灰(φ1~5cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)中量,To-α火山灰少量		SX-000		
第7層	10YR3/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)中量,火山灰少量		第1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~50cm)多量
第8層	10YR2/3 黒褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化灰(φ1~9cm)少量,To-α火山灰少量		第2層	10YR3/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~50cm)少量,炭化灰(φ1~5cm)埋没
第9層	10YR3/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~100cm)中量,炭化灰(φ1~5cm)埋没,To-α火山灰少量		第3層	10YR2/2 黒褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~2cm)埋没
第10層	10YR3/1 黒褐色土	バミス灰(φ1~5cm)少量,焼土粒(φ3cm大)散在		第4層	10YR3/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ50cm大)散在,炭化灰(φ1~3cm)埋没
第11層	10YR2/3 黒褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化灰(φ1~9cm)少量,To-α火山灰少量		第5層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~50cm)中量,炭化灰(φ1~3cm)埋没
第12層	10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~50cm)多量		第6層	10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量
第13層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量				
第14層	10YR4/6 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~50cm)多量				

図3-240 G-1区 SI-002-1



SX-01 第1層 第2層	10YR3/3 暗褐色土 10YR3/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~20cm)少量,炭化灰(φ1~9cm)少量,炭化物(φ10~30cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)中量,粘土ブロック(φ10~30cm)少量,Toys火山灰混入,バミス粒(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)少量,焼土粒(φ1~5cm)少量	Pit17 第1層 第2層	10YR3/3 暗褐色土 10YR4/3 にがい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~15cm)少量 バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)中量,炭化灰(φ1~2cm)微量
Pit1 第1層 第2層	10YR3/2 黒褐色土 10YR3/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~20cm)中量,炭化灰(φ1~2cm)微量 バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)中量	Pit18 第1層	10YR3/3 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化灰(φ1~2cm)微量
Pit2 第1層 第2層	10YR2/3 黒褐色土 10YR5/6 黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~20cm)中量 バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)多量	Pit19 第1層 第2層	10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4 暗褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ40mm)混入,Toys火山灰混入 バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~20cm)少量
Pit3 第1層 第2層	10YR2/3 黒褐色土 10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~20cm)少量,炭化灰(φ3~5cm)少量 バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ30mm)混入	Pit10 第1層 第2層	10YR3/3 暗褐色土 10YR4/3 にがい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~15cm)少量,炭化灰(φ1~2cm)微量 バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)中量,炭化灰(φ1~2cm)微量
Pit4 第1層 第2層	10YR3/3 暗褐色土 10YR2/2 黒褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~2cm)微量,焼土粒(φ1~5cm)少量 バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化灰(φ1~9cm)微量	Pit11 第1層 第2層	10YR4/2 灰黄褐色土 10YR4/3 にがい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,炭化灰(φ1~3cm)微量,焼土粒(φ1~9cm)混入 バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)中量
Pit5 第1層 第2層	10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ15mm)混入 バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)中量	Pit12 第1層 第2層	10YR4/2 灰黄褐色土 10YR4/6 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)中量,バミスブロック(φ10~30cm)少量,炭化灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)多量
Pit6 第1層 第2層	10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4 褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~3cm)少量 バミス灰(φ1~9cm)少量,炭化灰(φ1~2cm)少量,焼土粒(φ1~9cm)少量	Pit13 第1層 第2層	10YR3/3 暗褐色土 10YR4/3 にがい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)少量,バミスブロック(φ10~15cm)少量,炭化灰(φ1~2cm)微量 バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)中量
			Pit14(掘り方) 第1層 第2層 第3層	10YR4/4 暗褐色土 10YR3/1 黒褐色土 10YR5/4 にがい黄褐色土	バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~70cm)多量,炭化灰(φ1~5cm)微量(局所) バミス灰(φ1~9cm)多量,バミスブロック(φ10~30cm)中量 バミス灰

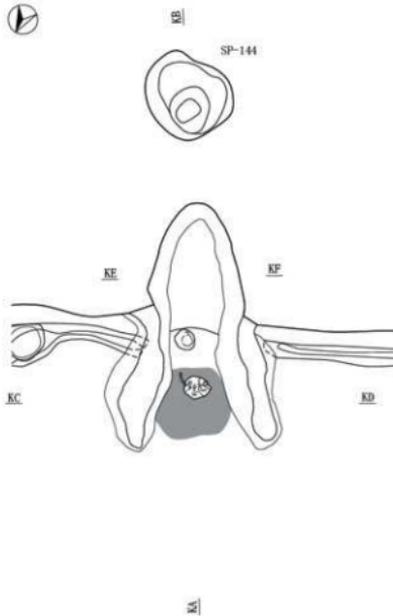
図 3-241 G-1区 SI-002-2

ら出土した須志器環で口径12.9cm、器高5.8cm、底径4.9cm、器高指数4.4、底径指数3.7.9を測る。海綿骨針を含まない胎土で、被熱により色調に変化が生じている。重ね焼き痕は認められるが火障痕はなく、非五所川原産的な様相を呈する。G082は第6層出土の黒色土器碗で、底部が欠損しており、口径16.4cmとやや大ぶりの資料で、内面は全面、外面は口縁部のみ横方向にヘラミガキが施され、黒色処理がなされている。G083はカマド出土の土師器碗で、口径13.4cm、器高6.8cm、底径5.6cm、器高指数5.07、底径指数4.1.7を測る。深身の碗形で、体部は丸みを帯びた立ち上がりで、口縁部はやや直立気味に開くように立ち上げ口唇部は先細り気味である。内面はヘラミガキが施されているが、出土位置がカマドであった影響なのか黒色処

理ではなく、赤色化しており、土師師の範疇で取り扱った。G084は第6層から出土した土師器碗で口径12.8cm、器高5.3cm、底径6.2cm、器高指数4.1.4、底径指数4.8.4を測る。底径幅があり、器壁の厚さも体部中〜下半に集中する。G085は第1・6層出土の土師器碗で、口径13.0cm、器高4.5cm、底径6.8cm、器高指数3.4.6、底径指数5.2.3を測る。浅身の環形を呈する土器で、器壁が全般的に厚く、口唇部は先細り状を呈するが、シャープさには欠ける。口唇部が打欠きがあり、内外面とも煤付着が認められ、灯明具としての転用が想定される。煮炊具については全体形のわかる資料はないが、床面直上に堆積する第11層中から出土したG089は頸部幅があり、同じく床面直上に相当するカマド11層から出土したG092についても「く」の字状に屈曲

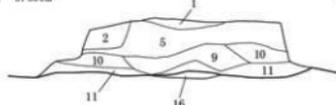


## SI-002カマド



## SI-002カマドセクション

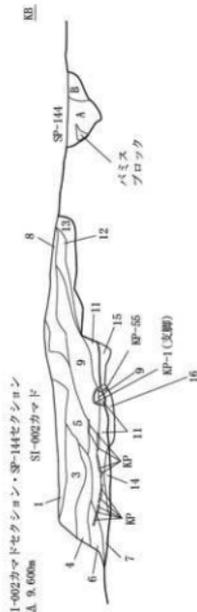
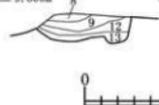
KC 9.600m



KD

## SI-002カマドセクション

KE 9.600m

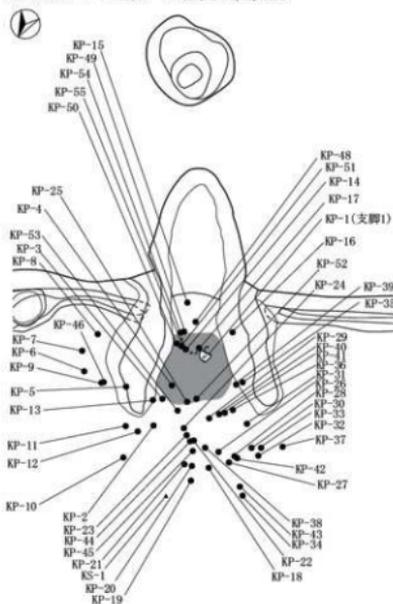


## カマド

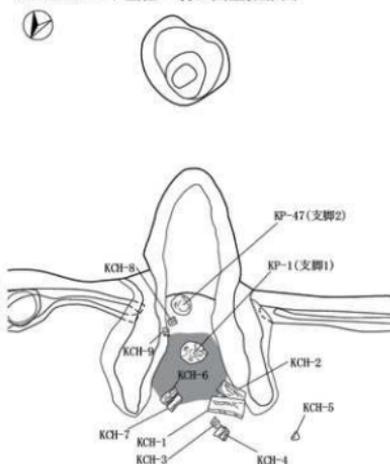
第1層	10YR3/3	暗褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,パミズブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR2/3	黒褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,パミズブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第3層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)中量,パミズブロック(φ10~20mm)中量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR2/3	黒褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1mm)微量
第5層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミズ粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)少量
第6層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
第7層	10YR2/3	黒褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,パミズブロック(φ20mm大)混入,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~9mm)少量,焼土崩じりのロームブロック(φ50mm大)混入
第8層	7.5YR5/4	にぶい褐色土	焼土崩じりの粒土層
第9層	5YR4/6	赤褐色土	(焼土層)
第10層	10YR3/4	暗褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)中量,パミズブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量
第11層	10YR3/3	にぶい黄褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)中量
第12層	10YR4/3	暗褐色土	パミズ粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)少量
第13層	10YR4/4	褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量
第14層	10YR2/3	黒褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)中量,炭化物(φ10~20mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)中量,焼土ブロック(φ10~20mm)中量
第15層	7.5YR3/2	黒褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)中量,パミズブロック(φ10~40mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第16層	7.5YR3/4	暗褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,パミズブロック(φ15mm大)混入,炭化粒(φ1~3mm)少量
SP-144			
第17層	10YR3/4	暗褐色土	パミズ粒(φ1~9mm)少量,パミズブロック(φ15mm大)混入,炭化粒(φ1~3mm)少量
第18層	10YR3/3	にぶい黄褐色土	パミズ粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量

図 3-243 G-1区 SI-002-4

SI-002カマド土器・石器出土位置図



SI-002カマド土器・羽口出土微細図



SI-002カマド粘土範囲

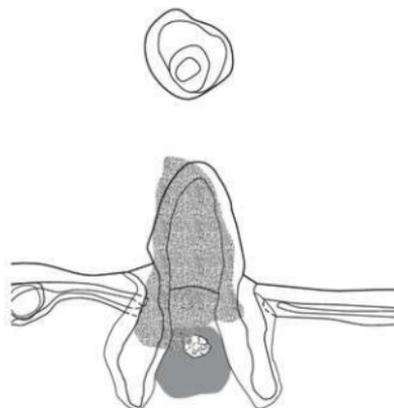


図 3-244 G-1区 SI-002-5

SI-002+F-2区SD-001a

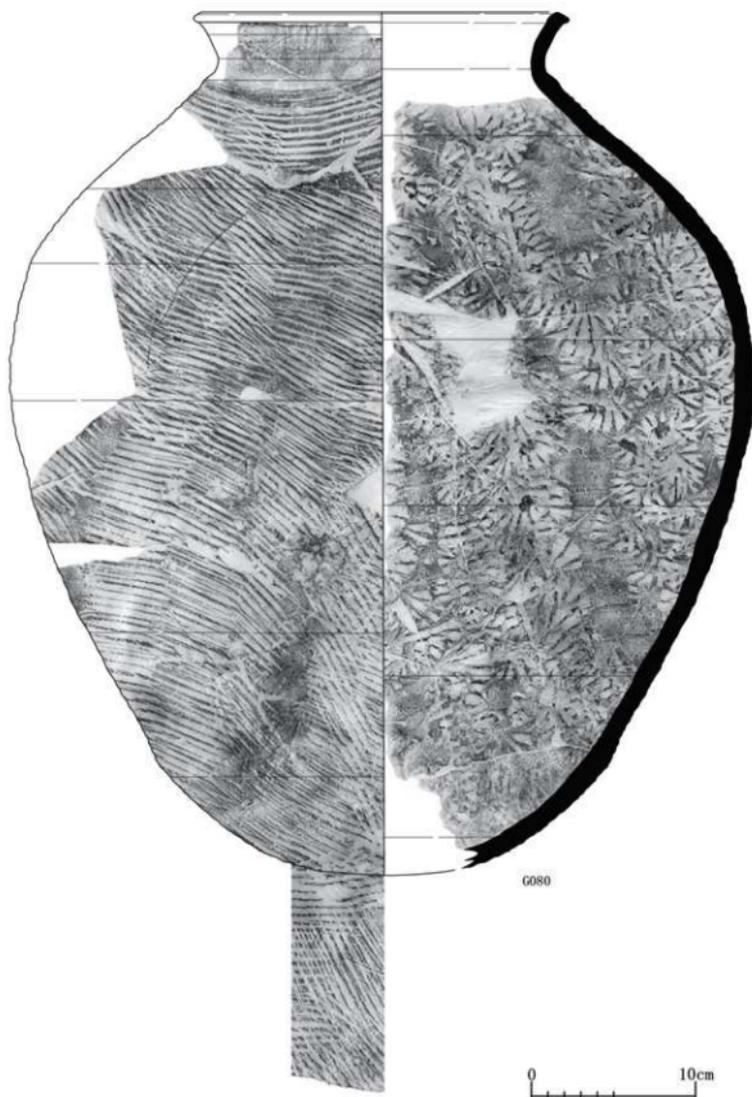


图 3-245 G-1区 SI-002-6

SI-002

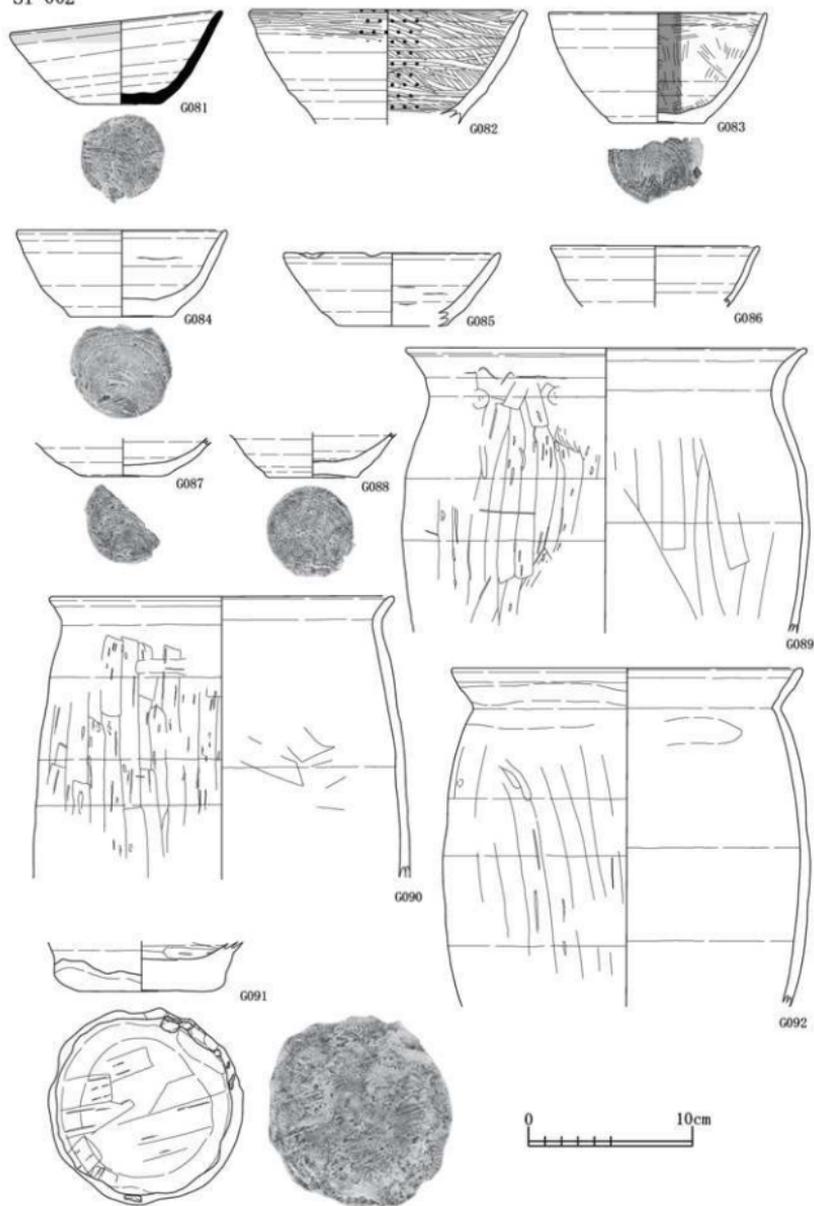


図 3-246 G-1区 SI-002-7

## SI-002

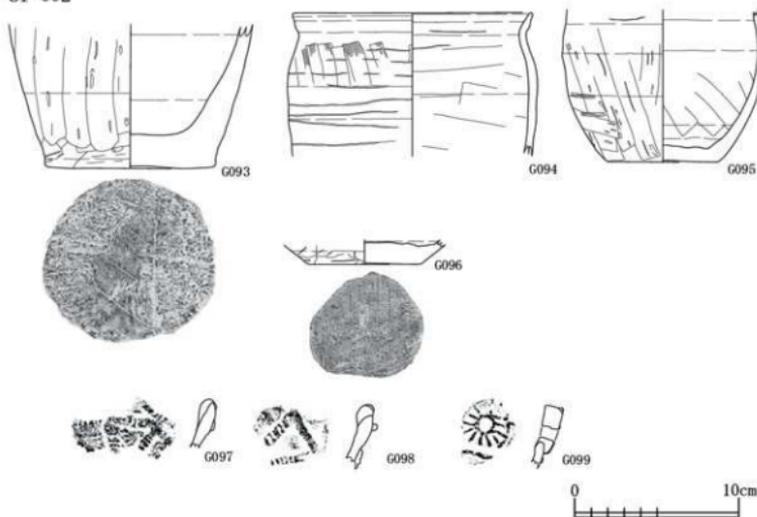


図 3-247 G-1区 SI-002-8

し、頸部幅のある程度持つタイプが伴う。ただ、同じくカマド第11層と第10層の接合資料であるG090を見ると頸部幅の狭い資料があり、小甕などの資料も短頭のもの認められる。

## SI-003 (SI-001c) (図 3-248)

X=91785.000, Y=-11607.000 付近で検出した。削平面の一部で焼土と炭化物を61.5×17.5 cmの範囲の中で検出し、調査時にはSI-001cとして取り扱った。遺物の出土もなく、焼土・炭化物以外の詳細も不明であるが、他の塚穴と同様に南側にカマド設置を想定した場合、主軸方位は(N-13.2°-E)となる。

## 2. 土坑

## SK-01 (図 3-249)

X=91739.000, Y=-11555.700 付近で検出した。SI-01と重複しており、本遺構の方が古い。SI-01に切られており、残存部の平面形は(不整楕円形)を呈し、(96.0)×98.0×28.0 cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は緩やかに段状に立ち上がる。堆積土は2層に分層し、ブロック混じりの土が底面直上に堆積している。

## SK-02 (図 3-250)

X=91743.000, Y=-11568.500 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、506.0×183.0×50.0 cmを測る。断面形は凹凸が顕著で、段状に立ち上がる。壁際はなだらかに立ち上がる。堆積土は5層に分層し、擾乱の影響が生じているが、ブロック混じりの流れ込みに伴う堆積状況を呈する。上面の第2層中からB-Tm火山灰を検出した。

## SK-03 (図 3-250)

X=91706.000, Y=-11557.500 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、123.0×103.0×87.0 cmを測る。断面形は袋状を呈しており、底面は中央が凹んだ形状である。堆積土は2層に分層し、中央を中心に人為的な再掘削痕があり、人為的な埋め戻しが伴っている。再掘削前の堆積は壁際の袋状に入り込んだ部分に残存している。

## SK-04 (図 3-251)

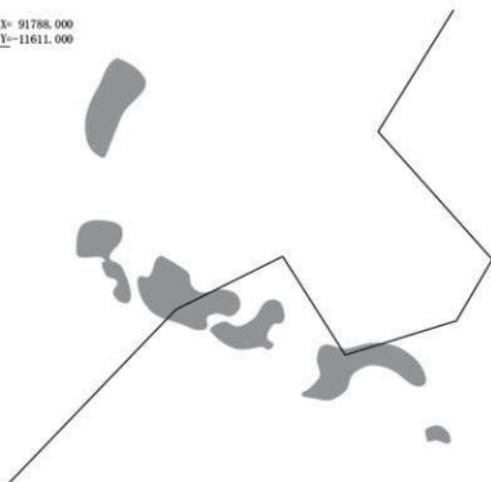
X=91716.500, Y=-11563.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、108.0×82.0×36.0 cmを測る。断面形は柱穴状を呈し、堆積土は6層に分層したが、堆積状況も柱穴の埋土と同様の堆積状況である。

## SK-05 (図 3-251)

SI-003(SI-001c) 焼土範囲



X= 91788.000  
Y=-11611.000

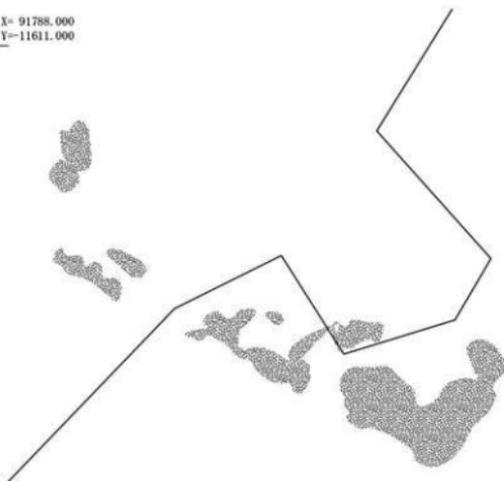


X= 91783.000  
Y=-11604.000

SI-003(SI-001c) 炭範囲



X= 91788.000  
Y=-11611.000

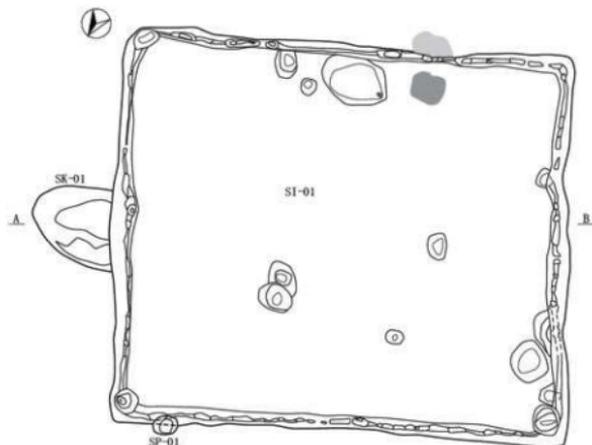


X= 91783.000  
Y=-11604.000

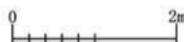


図 3-248 G-1 区 SI-003

SK-01



SI-01・SK-01セクション

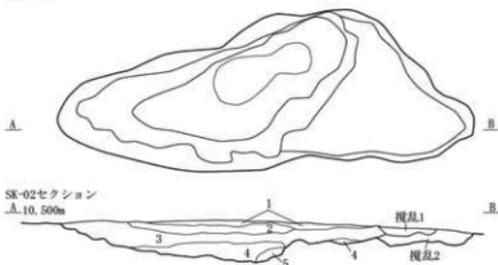


SK-01

- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)少量
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)少量,パミスブロック(φ20~70mm)多量
- SI-01
- 第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ2~9mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)極微量
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)微量
- 第3層 10YR3/2 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ2~5mm)極微量,焼土粒(φ2~5mm)極微量,Br-Ts火山灰少量
- 第4層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm),パミスブロック(φ10~60mm)中量,炭化粒(φ2~5mm)極微量
- 第5層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)少量,炭化粒(φ2~3mm)極微量
- 第6層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)多量
- 第7層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)中量,パミスブロック(φ10~40mm)少量
- 第8層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm),パミスブロック(φ10~60mm)中量,炭化粒(φ2~3mm)極微量
- 第9層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)微量,炭化粒(2~3mm)極微量
- 第13層 10YR4/4 褐色土 パミス粒(φ2~9mm),パミスブロック(φ10~15mm)少量,焼土ブロック(φ10~20mm)極微量(壁状?)
- 壁状(掘り方)
- 第16層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2~9mm)少量,パミスブロック(φ10~60mm)多量
- 貼床 10YR4/6 褐色土 パミス粒(φ2~9mm)多量,パミスブロック(φ10~60mm)中量,ロームブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)極微量,小粒微量混入
- 機具1 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ2~5mm)微量
- 機具2 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ2~9mm)微量,黒褐色土(10YR2/2)少量混入
- 機具3 10YR1, 7/1 黒色土 パミス粒(φ2~9mm)中量(耕作土)

図 3-249 G-1 区 SK-1

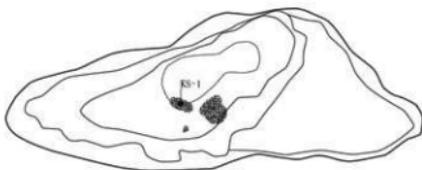
SK-02



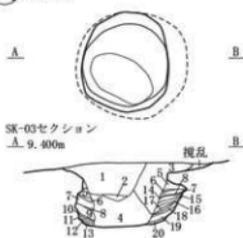
SK-02

- |     |                 |  |
|-----|-----------------|--|
| 第1層 | 10YR3/1 黒褐色土    | パミス粒(φ2~9mm)微量                                 |
| 第2層 | 10YR2/1 黒色土     | パミス粒(φ2~9mm)微量,パミスブロック(φ10~30mm)微量, B-Tn火山灰粒少量 |
| 第3層 | 10YR2/4 暗褐色土    | パミス粒(φ3~8mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量             |
| 第4層 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | パミス粒(φ3~7mm)少量,パミスブロック(φ11~40mm)少量             |
| 第5層 | 10YR4/2 灰黄褐色土   | パミスブロック(φ30~140mm)多量                           |
| 視乱1 | 10YR3/4 暗褐色土    | パミス粒(φ2~6mm)微量,パミスブロック(φ10~20mm)微量             |
| 視乱2 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | パミス粒(φ2~8mm)微量少量,パミスブロック(φ15~50mm)少量           |

SK-02火山灰範囲・火山灰サンプル



SK-03



SK-03

- |      |                                 |                                    |
|------|---------------------------------|------------------------------------|
| 第1層  | 10YR1.7/1 黒色土                   | パミス粒(φ1~8mm)微量,パミスブロック(φ10~15mm)微量 |
| 第2層  | 10YR4/2 灰黄褐色土                   | パミス粒(φ1~3mm)多量                     |
| 第3層  | 10YR2/2 黒褐色土                    | パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量 |
| 第4層  | 10YR2/1 黒色土                     | パミス粒(φ5mm)少量                       |
| 第5層  | 10YR2/1 黒色土                     | パミス粒(φ1mm~3mm)少量                   |
| 第6層  | 10YR4/3 にぶい黄褐色土                 | パミス粒(φ1~3mm)多量,パミスブロック(φ10mm)少量    |
| 第7層  | 10YR2/3 暗褐色土                    | パミス粒(φ1~3mm)少量,パミスブロック(φ40mm)少量    |
| 第8層  | 10YR5.8 黄褐色土                    | パミスブロック層                           |
| 第9層  | 10YR2/2 黒褐色土                    | パミス粒(φ1~3mm)微量,パミスブロック(φ10mm)微量    |
| 第10層 | 10YR2/1 黒色土                     | パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ40mm)中量    |
| 第11層 | 10YR3/1 黒褐色土                    | パミス粒(φ1~2mm)少量,パミスブロック(φ40mm)少量    |
| 第12層 | 10YR3/1 黒褐色土                    | パミスブロック(φ20mm)中量                   |
| 第13層 | 10YR3/1 黒褐色土                    | パミス粒(φ1~5mm)少量                     |
| 第14層 | 10YR3/2 暗褐色土                    | パミス粒(φ1~3mm)少量                     |
| 第15層 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土                 | パミス粒(φ1~1mm)少量,パミスブロック(φ40mm)中量    |
| 第16層 | 10YR5.6 黄褐色土                    | パミスブロック層                           |
| 第17層 | 10YR3/1 黒褐色土                    | パミス粒(φ1mm)微量                       |
| 第18層 | 10YR5.6 黄褐色土                    | パミスブロック層                           |
| 第19層 | 10YR3/2 暗褐色土                    | パミス粒(φ1~2mm)微量                     |
| 第20層 | 10YR3/2 暗褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土 | パミス粒(φ1mm)微量                       |

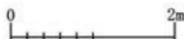
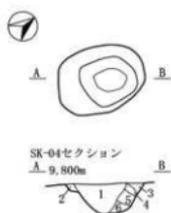


図 3-250 G-1 区 SK-2

SK-04



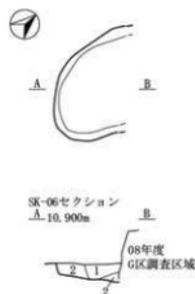
- SK-04  
 第1層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
 第2層 10YR4/2灰黄褐色土と10YR3/1黒褐色土の混合土 パミス粒(φ1~2mm)微量  
 第3層 10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)微量  
 第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 パミスブロック(φ60mm)中量  
 第5層 10YR3/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10mm)微量  
 第6層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ4~9mm)微量

SK-05



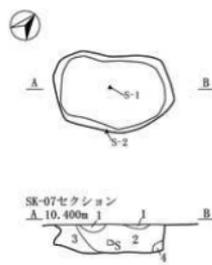
- SK-05  
 第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~2mm)微量,パミスブロック(φ10~13mm)微量  
 第2層 10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ2~6mm)微量

SK-06



- SK-06  
 第1層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~6mm)微量,パミスブロック(φ10~12mm)微量,炭化粒(φ3mm)微量  
 第2層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~16mm)微量,炭化粒(φ3mm)微量

SK-07



- SK-07  
 第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~25mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量  
 第3層 10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量  
 第4層 10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(1~9mm)微量

SK-07焼土範囲



図 3-251 G-1区 SK-3

X=91687.800, Y=-11581.500 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $79.0 \times 66.0 \times 18.0$  cmを測る。断面形は柱穴状を呈し、中央が凹み壁際が段状に立ち上がる。堆積土は2層に分層し、人為堆積状況を呈する。

#### SK-06 (図3-251)

X=91708.000, Y=-11598.000 付近で検出した。東側が年度が異なる調査区に伸びた形で、別年度の調査の際では区境が不明瞭で残存部を検出していないようで、残念ながら東側を欠測している。残存部の平面形は不整楕円形を呈し、 $150.0 \times 102.0 \times 23.0$  cmを測る。断面形は底面がやや傾斜した形状で、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は2層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状況を呈する。

#### SK-07 (図3-251)

X=91707.000, Y=-11600.000 付近で検出した。平面形は不整小判形を呈し $150.0 \times 96.0 \times 34.0$  cmを測る。断面形は垂直に近い形で立ち上がる部分と袋状に近い形で入り込む部分が見られ、底面はやや凹凸がある。堆積土は4層に分層し、炭化物が全般的に混入し、混入物には記録されていないが、堆積土中で焼土が面的に検出した。また、第2層中から自然礫2点が出土した。

#### SK-08 (図3-252)

X=91748.000, Y=-11598.000 付近で検出した。SK-09と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整小判形を呈し $226.0 \times 164.0 \times 17.0$  cmを測る。断面形は皿形に中央に向かって傾斜する形で、壁際は段状に立ち上がる。堆積土は10層に分層し、一部注記情報の不足した土層が存在するが、灰や焼土・炭化粒混じりの土が堆積し、炭化物を面的に検出しており、焼成が行われた可能性が高い。その他第5層中からT<sub>0-a</sub>火山灰を検出している。

#### SK-09 (図3-252)

X=91747.000, Y=-11598.000 付近で検出した。SK-08と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は不整形を呈し、 $138.0 \times 110.0 \times 43.0$  cmを測る。断面形は柱穴状で、人為的に埋め戻された堆積状況を呈している。第4層中にT<sub>0-a</sub>火山灰らしき灰を検出しており、重複するSK-08起源か周辺の堆積土起源の可能性が高い。

#### SK-15 (図3-252)

X=91738.900, Y=-11551.000 付近で検出した。

約80 cmの範囲に焼土化した部分が2箇所検出し、SK-15として記録しているのみで、それ以外の記録がなく詳細は不明である。削平が顕著であったことが想定される。

#### 06\_\_SK-01 (図3-253)

X=91761.000, Y=-11538.000 付近で検出した。06\_\_SK-05と重複しており、本遺構の方が新しい。また、上端部が耕作土による影響があり、隣接する06\_\_SK-04と接した形にはなっていない。掘り込み部分での重複関係はない。平面形は不整長楕円形を呈し、 $252.0 \times 185.0 \times 72.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈する部分があり、重複している06\_\_SK-05もプラスチック状土坑であることから、元々は縄文時代のプラスチック土坑であった可能性がある。ただ、出土遺物や堆積土を確認すると堆積土の第1~8層部分までが再掘削されたような痕跡が確認でき、堆積土中から平安時代の須恵器・土師器などの土器が出土し、第4層にB-Tm火山灰の堆積が認められることから、平安時代に掘削され、遺物の混入とB-Tm火山灰の堆積が起こったようである。また、縄文時代中期の口縁部片が本遺構掘いで出土している。G100は内面当て具痕が放射状(蓮華文)の須恵器で、類似資料は本調査区内のSI-002などで出土している。

#### 06\_\_SK-02 (図3-254)

X=91755.500, Y=-11552.000 付近で検出した。平面形は楕円形を呈し $137.0 \times 108.0 \times 35.0$  cmを測る。断面形は凹凸がある形状で、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と壁上部の一部が緩やかに立ち上がる部分が見られる。堆積土は2層に分層し、再掘削が行われた堆積状況を呈する。SI-003の南東側に近接した位置関係である。

#### 06\_\_SK-03 (図3-254)

X=91773.800, Y=-11549.500 付近で検出した。06\_\_SI-01と重複しており、本遺構の方が古い。残存部の平面形は不整隅丸方形を呈し $86.0 \times (36.0) \times 31.0$  cmを測る。断面形は開き気味に立ち上がる形状で、底面のほとんどは残存していない。堆積土は1層で、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

#### 06\_\_SK-04 (図3-253)

X=91761.700, Y=-11538.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し $43.0 \times 38.0 \times 63.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈する。06\_\_SK-01の項目で記載したが、開口部付近が耕

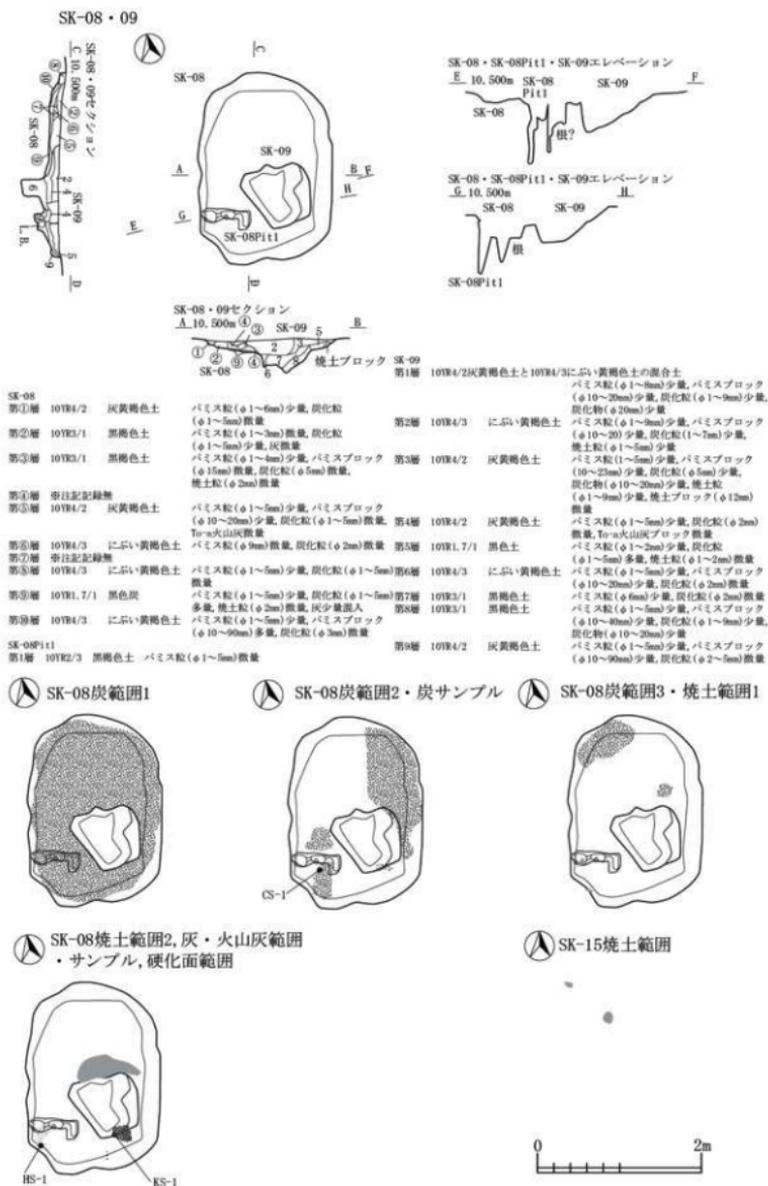
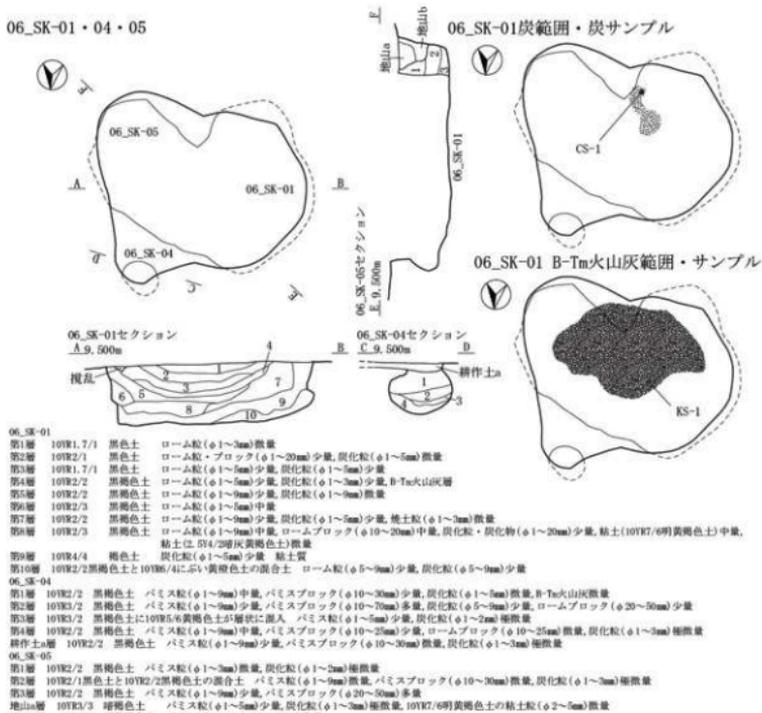


図 3-252 G-1区 SK-4



06\_SK-01土器・石器・木製品出土位置図

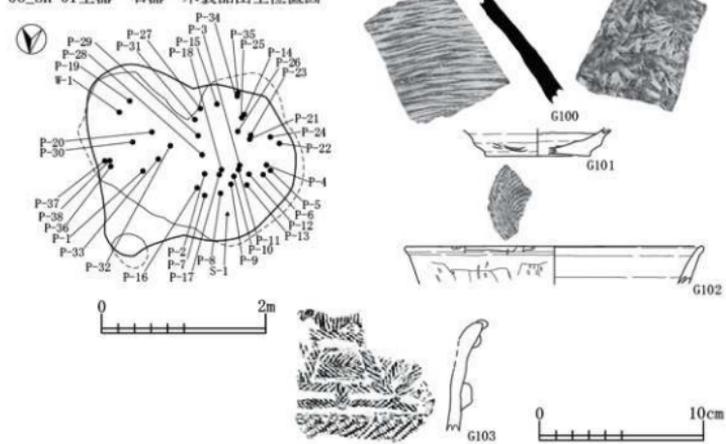
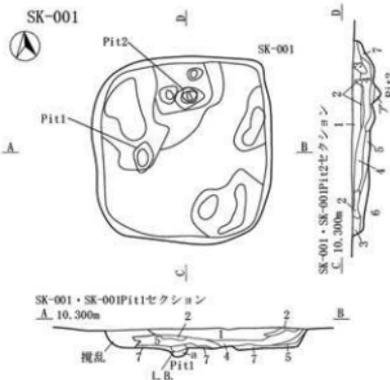
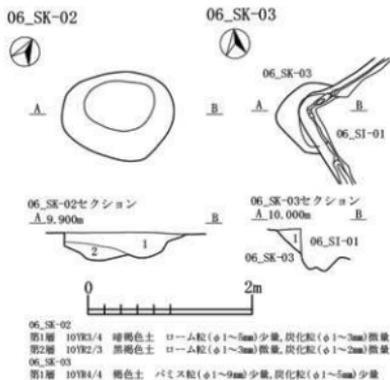


図 3-253 G-1区 SK-5



- SK-001  
第1層 2.5Y2/1 黒色土 パミス粒(φ1~5mm)微量,ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ10~20mm)少量,火山灰(B-Ta)微量  
第2層 10YR2/1 黒色土 火山灰(B-Ta)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)微量  
第3層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)微量,ロームブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,炭化物(φ10mm)微量,火山灰(B-Ta)微量  
第4層 N2/0 黒色土 炭化物層,炭化物極多量,炭化粒(φ1~9mm)多量,ローム粒(φ5~9mm)微量  
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)微量,火山灰(B-Ta)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,炭化物(φ10mm)微量

- SK-001炭範囲1  
SK-001炭範囲2・炭サンプル  
SK-001焼土範囲  
SK-001 B-Ta火山灰範囲

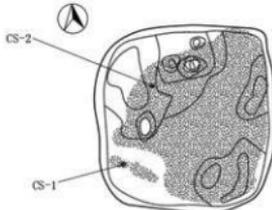
SK-001炭範囲1



SK-001焼土範囲



SK-001炭範囲2・炭サンプル



SK-001 B-Ta火山灰範囲

火山灰サンプル



図 3-254 G-1区 SK-6

作土の影響により06\_\_SK-01と接する形となっているが、直接の重複関係はない。ただ、第1層に06\_\_SK-01と同様にB-Tm火山灰が混入していることから平安時代に開口していた可能性がある。

#### 06\_\_SK-05 (図3-253)

X=91761.000, Y=-11537.500 付近で検出した。06\_\_SK-01と重複しており、06\_\_SK-01の精査途中で、切られた本遺構を確認しており、本遺構の方が古い。崩落後の状況であるが、(125.0)×(115.0)×63.0cmを測る。残存部の断面形は袋状を呈し、所謂フラスコ状土坑である。

#### SK-001 (図3-254)

X=91763.000, Y=-11591.500 付近で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、229.0×217.0×27.0cmを測る。底面は凹凸があり、ビット状の浅い掘り込みがある。壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は攪乱やビット扱いとした堆積土を除き7層に分層し、底面から若干土が堆積した第4層が炭化物層に相当する。焼土や灰なども検出しており、本遺構は製炭土坑であった可能性が高い。また、第1～3層中からB-Tm火山灰を検出した。

#### SK-002 (図3-255)

X=91780.500, Y=-11610.700 付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、126.0×104.0×24.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は段状に立ち上がる部分が見られる。堆積土は5層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況を呈する。

#### SK-003 (図3-255)

X=91775.000, Y=-11604.000 付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、95.0×77.0×16.0cmを測る。断面形は一部攪乱の影響が生じているが鈍角なV字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は攪乱を除き1層に分層し、ブロック混じりの人為的堆積状況を呈する。

#### SK-004 (図3-255)

X=91734.000, Y=-11589.500 付近で検出した。平面形は不整形隅丸方形を呈し、147.0×128.0×24.0cmを測る。断面形は皿形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。堆積土は4層に分層し、底面直上に堆積する第3・4層は地山ブロックが貼られたような状態で、上位に堆積する第1・2層は自然堆積状況を呈する。

#### SK-005 (図3-255)

X=91701.500, Y=-11571.500 付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、140.0×97.0×74.0cmを測る。断面形は袋状を呈しており、底面は凹凸がある。堆積土は9層に分層し、一部崩落に伴う堆積状況を呈している。

#### SK-006 (図3-256)

X=91696.500, Y=-11578.300 付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、105.0×93.0×32.0cmを測る。断面形は袋状で、上面が削平を受けているがフラスコ状土坑である。堆積土は4層に分層し、崩落に伴う自然堆積状況を呈する。

#### SK-007 (図3-256)

X=91693.100, Y=-11576.200 付近で検出した。SP-019と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整形楕円形を呈し、87.0×76.0×33.0cmを測る。断面形は垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる形状で、底面は平坦部がない。堆積土は3層に分層し、埋め戻しに伴う人為的堆積状況を呈する。

#### SK-009 (図3-256)

X=91718.000, Y=-11642.000 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、106.0×102.0×30.0cmを測る。断面形は柱穴状を呈し、堆積状況も人為的堆積状況を呈する。

#### SK-010 (図3-256)

X=91747.200, Y=-11634.000 付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、197.0×144.0×46.0cmを測る。断面形は柱穴状に中央が凹んだ形状で、堆積土もSK-009同様に人為的堆積状況を呈する。

#### SK-036 (図3-256)

X=91827.000, Y=-11532.000 付近で検出した。平面形は小判形を呈し、120.0×84.0×13.0cmを測る。底面は若干傾斜があり、壁は一部で軽く段状に立ち上がる部分が見られ、それ以外の部分は垂直に近い形で立ち上がる。

### 3. 井戸跡

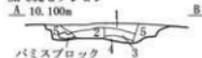
#### SE-001 (図3-257)

X=91832.000, Y=-11539.000 付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、126.0×117.0×17.5.0cmを測る。他の調査区の井戸跡に比べると浅い資料であるが、標高の高い本調査区内では湧水層に達する深度が比較的浅いことが影響してい

## SK-002



## SK-002セクション



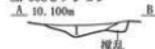
## SK-002

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土  
バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量,炭化粉(φ10~15mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)少量
- 第2層 10YR2/3 黒褐色土  
バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)少量
- 第3層 10YR3/3 暗褐色土  
バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量
- 第4層 10YR4/3 に近い黄褐色土  
バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)少量,ロームブロック(φ15~20mm)少量
- 第5層 10YR3/4 暗褐色土  
バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ50×20mm大)混入(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,10YR2/3暗褐色土粒(φ80×40mm大)混入,10YR2/3暗褐色土粒(φ5~9mm)少量

## SK-003



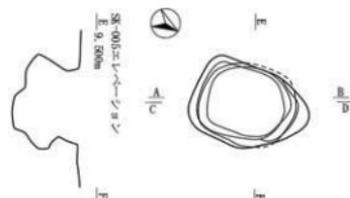
## SK-003セクション



## SK-003

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土  
バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ15mm大)混入,10YR3/2暗褐色土粒(φ1~3mm)少量

## SK-005



## SK-005セクション



## SK-005エレベーション



## SK-004



## SK-004セクション



## SK-004

- 第1層 10YR4/3 に近い黄褐色土  
バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ20~40mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
- 第2層 10YR4/4 褐色土  
バミス粒(φ5~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,ロームブロック(φ100×10mm)混入
- 第3層 10YR4/2 灰黄褐色土  
ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)少量,10YR4/6褐色粘土ブロック(φ20~30mm)少量
- 第4層 10YR4/6 褐色土  
ローム粒(φ5~9mm)少量,ロームブロック(φ20~40mm)少量

## SK-005

- 第1層 10YR1.7/1 黒色土  
バミス粒(φ1~3mm)少量,バミスブロック(φ10mm)少量,ローム粒(φ9mm)少量
- 第2層 10YR2/1 黒色土  
10YR3/3暗褐色土ブロック(φ10mm)少量,10YR4/3に近い黄褐色土粒(φ1~5mm)少量,10YR4/3に近い黄褐色土粒(φ15~20mm)少量
- 第3層 7.5YR2/1 黒褐色土  
バミス粒(φ1~3mm)少量,10YR3/2暗褐色土ブロック(φ10mm)少量
- 第4層 7.5YR2/1 黒褐色土  
7.5YR3/3暗褐色土粒(φ1~5mm)少量,7.5YR3/3暗褐色土粒(φ10mm)少量
- 第5層 10YR2/1 黒褐色土  
ローム粒(φ1~2mm)少量,バミス粒(φ1~3mm)少量
- 第6層 N1.5/0 黒色土  
ローム粒(φ1~5mm)少量
- 第7層 2.5Y2/1 褐色土  
10YR5/2灰黄褐色土粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量
- 第8層 10YR3/1暗褐色土と10YR3/2暗褐色土の混合土  
10YR3/3に近い黄褐色土粒(φ1~5mm)少量,10YR5/2灰黄褐色土粒(φ1~5mm)少量
- 第9層 10YR2/2暗褐色土と10YR4/2灰黄褐色土の混合土  
ローム粒(φ1~2mm)少量,10YR4/3に近い黄褐色土粒(φ1~3mm)少量

図 3-255 G-1区 SK-7

SK-006



- SK-006
- 第1層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10mm)微量,パミス粒(φ1~3mm)微量
- 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)中量,パミス粒(φ1~3mm)微量,10YR2/3黒褐色土粒(φ5~9mm)微量
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~3mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)微量,ローム粒(φ1~3mm)微量,10YR3/3暗褐色土ブロック(φ10~20mm)微量
- 第4層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)微量,ローム粒(φ5~9mm)微量,ロームブロック(φ15~25mm)少量,10YR4/2灰黄褐色土ブロック(φ10~15mm)少量

SK-009



- SK-009
- 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量
- 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)少量,炭化物(φ10~30mm)微量
- 第3層 10YR2/2 黒褐色土 炭化粒(φ1~10mm)少量
- 第4層 7.5YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)微量,炭化粒(φ3~10mm)微量
- 第5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)少量,ロームブロック(φ20mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量
- 第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~10mm)少量

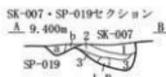
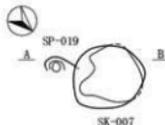
SK-036



SK-036

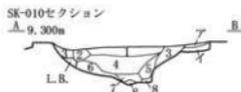
- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
- 第3層 10YR3/2 黒褐色土 パミス粒(φ3~5mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)微量

SK-007



- SK-007
- 第1層 10YR1/7/1 黒色土 パミス粒(φ1~9mm)微量,10YR2/2黒褐色土ブロック(φ10~20mm)少量
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~5mm)微量,10YR3/3暗褐色土ブロック(φ10~15mm)微量
- 第3層 10YR3/1黒褐色土 + 10YR3/2黒褐色土の混合土 10YR4/3にふい黄褐色土ブロック(φ10~20mm)少量
- SP-019
- 第a層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)微量,ロームブロック(φ10~15mm)微量
- 第b層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10mm)混入

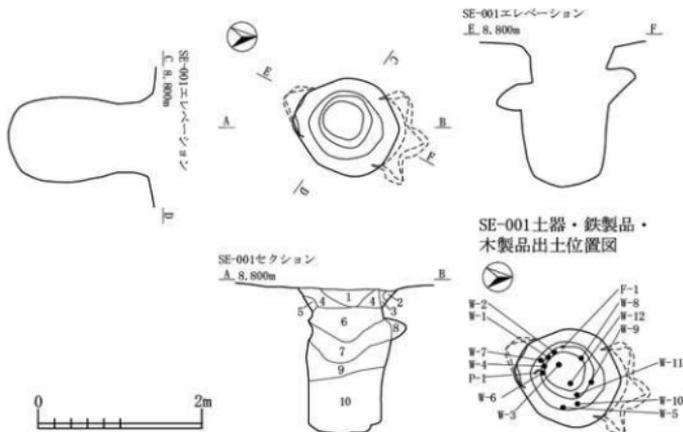
SK-010



- SK-010
- 第1層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)中量
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~3mm)少量,ロームブロック(φ10~15mm)微量
- 第3層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,パミスブロック(φ10mm)微量,ロームブロック(φ10~15mm)微量
- 第5層 10YR3/2黒褐色土 + 10YR2/3黒褐色土の混合土 ローム粒(φ1~3mm)少量
- 第6層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,10YR2/1黒色土ブロック(φ10~15mm)微量
- 第7層 10YR2/2 黒褐色土 7.5YR6/6紅色土ブロック(φ20~30mm)微量,ローム粒(φ1~9mm)少量,7.5YR2/3暗褐色土ブロック(φ10~15mm)微量
- 第8層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒(φ1~9mm)中量,10YR7/3にふい黄褐色土粒(φ1~5mm)少量,10YR7/3にふい黄褐色土ブロック(φ20~50mm)混入
- 第a層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~5mm)微量,パミスブロック(φ10~15mm)微量
- 第b層 10YR4/2灰黄褐色土 + 10YR3/3暗褐色土の混合土 パミス粒(φ1~3mm)微量,ローム粒(φ1~3mm)少量,ロームブロック(φ10~15mm)微量

図 3-256 G-1 区 SK-8

## SE-001

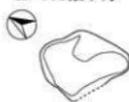


SE-001		
第1層	10YR2/1 黒色土	焼土粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第3層	10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量, 焼土粒(φ1~9mm)少量
第5層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)中量, 焼土粒(φ1~3mm)少量
第6層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ20~30mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量
第7層	2.5Y4/1 黄灰色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~30mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)少量
第8層	10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量
第9層	5Y3/1 オリーブ黒色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)多量
第10層	5Y2/1 黒色土	ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~100mm)多量, 炭化粒(φ1~9mm)多量

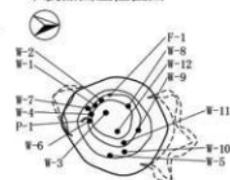
## SN-001



## SN-001掘り方



SN-001		
第1層	7.5YR4/6 褐色土	焼土層
第2層	7.5YR3/1 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ20mm大)混入, ローム粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量
第3層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
第4層	10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
第5層	10YR4/3 に近い黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~30mm)中量, 炭化粒(φ3~5mm)微量

SE-001土器・鉄製品・  
木製品出土位置図

## SE-001



G104

る。断面形は円筒形であるが、上部の一部で袋状に入り込む部分が見られた。堆積土は10層に分層し、焼土・炭化粒が混入する土層が多く堆積している。第10層から木製品や自然木が出土しており、枝落としがされたG104の樹根はキハダである。その他鉄滓や土器破片が出土しているが、土器については破片のため図示に至っていない。

#### 4. 焼土状遺構

##### SN-001 (図3-257)

X=91817.000, Y=11537.500 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、112.0×88.0×17.0cmを測る。土坑状の掘り込みがあり、堆積土の上面の第1層が焼土層に相当する。

#### 5. 溝状土坑 (Tピット)

##### STP-0001 (図3-258)

X=91811.200, Y=11538.000 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、362.0×26.0×82.0cmを測る。周辺の地形が畑地の影響により改変されていたため、コンターラインとの整合性は比較できないが、東側の方が下がった地点に相当し、軸線も傾斜を意識したつくりである。断面形は長軸方向は一部袋状に入り込む部分が見られ、短軸方向は直立気味に立ち上がる。堆積土は表土部分を含め5層に分層しているが、表土部分は転地返しが生じており、実質的な堆積土は第3～5層が相当する。崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

##### STP-001 (図3-258)

X=91778.000, Y=11585.500 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、323.0×35.0×83.0cmを測る。宅地であった地点で周辺の地形の改変が顕著であるため、コンターラインとの比較ができないが、北東方向へ傾斜する地形で、主軸も沿った形であったものと思われる。断面形は長軸方向が袋状、短軸方向が直立気味に立ち上がり、壁上部で開き気味に立ち上がる形状である。堆積土は4層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

##### STP-002 (図3-258)

X=91716.900, Y=11647.800 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、274.0×39.0×96.0cmを測る。コンターラインとは垂直・平行関係ではなく、北西-南東軸で南東方向が斜面下方に相当する。断面形は長軸方向が袋状、短軸方向が垂直に近い形で立ち上がり、開口部の一部が若干開き気味に立ち上がる箇所が見られる。堆積土は10層に分層し、崩落の伴う堆積状況を呈する。堆積土中から縄文時代中期の土器片が出土し、G

105として図示した。

##### STP-003 (図3-259)

X=91829.000, Y=11557.000 付近で検出した。平面形は溝状を呈し、368.0×22.0×103.0cmを測る。検出地点はコンターラインが若干広めになった部分に相当し、傾斜方向とは無関係に南西-北西側を主軸とする。断面形は長軸方向が段状に立ち上がり、壁は袋状を呈し、短軸方向は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は4層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

##### STP-004 (図3-259)

X=91813.000, Y=11551.700 付近で検出した。SI-002と重複しており、本遺構の方が古い。上半部をSI-002に削平されている状況であるが、平面形は溝状を呈し、372.0×21.0×123.0(堅穴検出面からの深さ)cmを測る。コンターラインとはほぼ直交する形で掘削されており、東側に傾斜している状況である。断面形は長軸方向が袋状を呈し、短軸方向は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は4層に分層し、ブロック混じりの崩落した堆積状況を呈する。

#### 6. その他の遺構

##### SX-001 (図3-260)

X=91743.000, Y=11617.500 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、317.0×289.0×54.0cmを測る。断面形は段状を呈しているが、本遺構は風倒木で、南東方向に倒れた堆積状況を呈している。

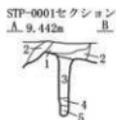
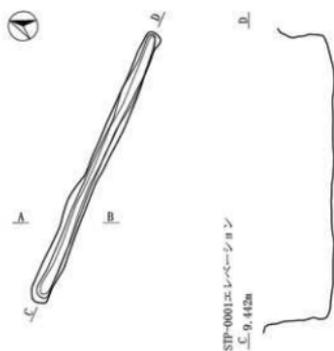
##### SX-002 (図3-260)

X=91695.000, Y=11628.000 付近で検出した。SD-002と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整形楕円形を呈し、上部がSD-002等の影響により削平を受けている状況であるが、202.0×144.0×73.0cmを測る。断面形は楕円状を呈し、中央が凹み壁際に向かって緩やかに立ち上がる。堆積土は3層に分層し、周辺からの流れ込みも含む自然堆積状況を呈する。

##### SX-003 (図3-260)

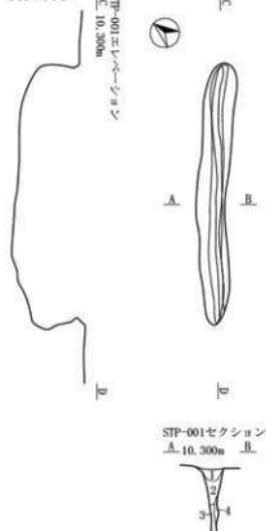
X=91742.000, Y=11634.000 付近で検出した。平面形は小判形を呈し、471.0×275.0×26.0cmを測る。断面形は凹凸がある形状で、壁は垂直に立ち上がる部分と、壁上部の一部で緩やかに立ち上がる部分が見られる。堆積土は7層に分層し、ブロック混じりの土が流れ込んだ自然堆積状況を呈する。

## STP-001



表土			
第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量
STP-001			
第3層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~12mm)少量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量
第5層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~15mm)中量
STP-002			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~2mm)少量,パミスブロック(φ15mm大)数個
第3層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量
第4層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~2mm)中量
STP-002			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量
第2層	10YR2/2黒褐色土と10YR4/4褐色土の混合土	ローム粒(φ5~10mm)微量	
第3層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~10mm)微量
第4層	10YR2/1黒色土と10YR3/2暗褐色土の混合土	ロームブロック(φ20mm)微量	
第5層	10YR5/4	にじみ黄褐色土	
第6層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量
第7層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ3~5mm)微量
第8層	10YR4/4	褐色土	
第9層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)微量
第10層	10YR3/2	黒褐色土	

## STP-001



## STP-002

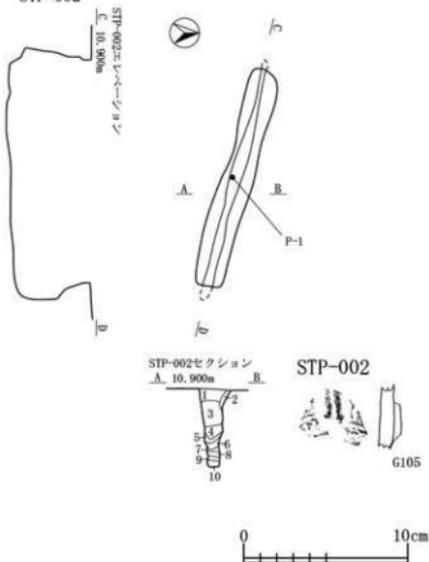
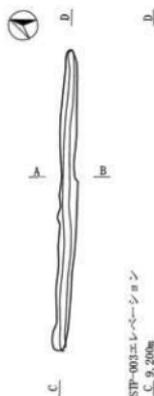


図 3-258 G-1 区 STP-1

STP-003



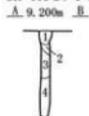
STP-003

第1層 10TR2/2 黒褐色土 パミス灰(φ1~5mm)少量  
 第2層 10TR3/1 黒褐色土 パミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~2mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量

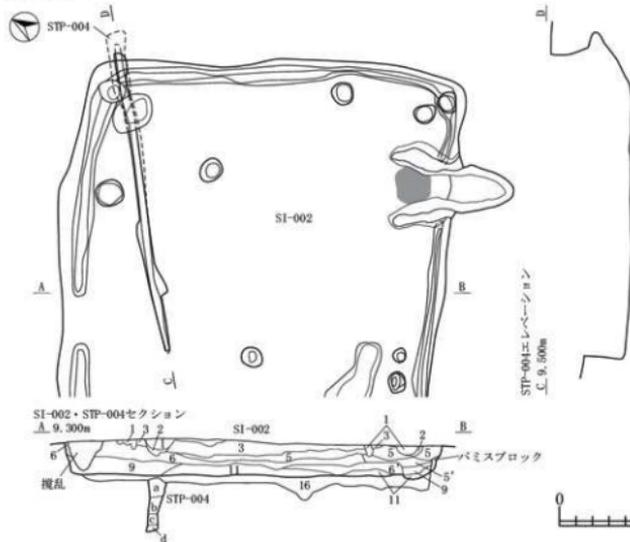
SI-002

第3層 10TR1, 7/1 黒色土 パミス灰(φ1~5mm)少量, ローム灰(φ1~9mm)少量  
 第4層 2.SI2/1 黒色土 パミス灰(φ1~9mm)少量, ローム灰(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~12mm)少量  
 第5層 10TR3/4 暗褐色土 パミス灰(φ1~9mm)少量(攪乱)  
 第6層 10TR3/3 にぶい黄褐色土 パミス灰(φ1~9mm)少量, B-To火山灰中量  
 第7層 10TR3/2 黒褐色土 パミス灰(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~15mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量  
 第8層 10TR3/3 暗褐色土 パミス灰(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ10~30mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量, To-a火山灰中量  
 第9層 10TR3/4 暗褐色土 パミス灰(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量  
 第10層 10TR3/1 黒褐色土 パミス灰(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量, To-a火山灰少量  
 第11層 10TR2/3 暗褐色土 パミス灰(φ1~9mm)中量, To-a火山灰少量  
 第12層 10TR4/4 褐色土 パミス灰(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, To-a火山灰少量  
 第13層 10TR4/3 にぶい黄褐色土 パミス灰(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ10~50mm)多量  
 第14層 10TR4/6 褐色土 パミス灰(φ1~9mm)中量  
 SI-002掘り方 暗褐色土 パミス灰(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ10~50mm)多量  
 第15層 10TR3/3 暗褐色土  
 第16層 10TR4/6 褐色土(パミス層)

STP-003セクション



STP-004



SI-002・STP-004セクション

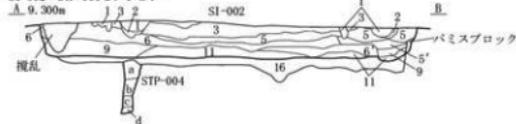
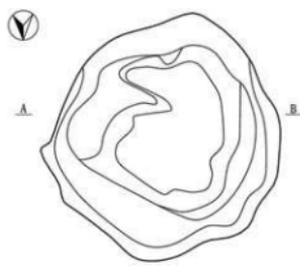


図 3-259 G-1 区 STP-2

SX-001(風倒木)

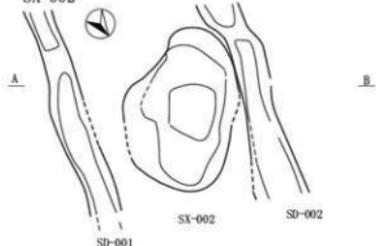


SX-001(風倒木)セクション

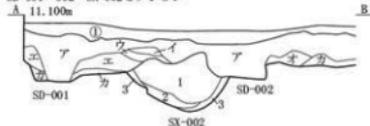


- SX-001(風倒木)
- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量
- 第2層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)微量
- 第3層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,ロームブロック(φ60×200mm大)混入,パミスブロック(φ10~20mm)少量
- 第5層 10YK3/3暗褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土 10YR4/2灰黄褐色土ブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)少量
- 第6層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量
- 第7層 10YR5/2灰黄褐色土と10YR4/2灰黄褐色土の混合土 10YR3/3暗褐色土ブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量
- 風倒木
- 第8層 10YR6/3にぶい黄褐色土と10YR7/6明黄褐色土の混合土 ローム粒(φ3~9mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)少量,パミス粒(φ1~5mm)少量
- 第9層 10YR7/3にぶい黄褐色土と10YR8/3浅黄褐色土の混合土 砂質土
- 第10層 10YR2/2黒褐色土と10YK3/3暗褐色土の混合土 ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~50mm)少量

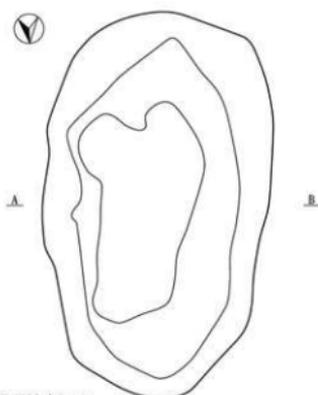
SX-002



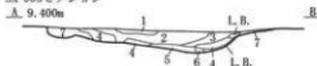
SD-001・002・SX-002セクション



SX-003



SX-003セクション



- SX-003
- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ20~30mm)微量
- 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)少量
- 第3層 10YK3/1暗褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合土 パミス粒(φ1~5mm)微量
- 第4層 10YK3/3 暗褐色土 10YR1.7/1黒色土混入,パミス粒(φ1~2mm)微量,パミスブロック(φ20~30mm)微量,7.5YR6/6暗褐色土ブロック(φ20mm大)混入,ローム粒(φ1~9mm)微量,ロームブロック(φ10~50mm)中量
- 第5層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10mm)微量
- 第6層 10YK3/2 暗褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10mm)微量
- 第7層 7.5YR5/3にぶい褐色土と10YR1/3にぶい黄褐色土の混合土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ30~40mm)微量

表土

第①層 10YR2/2 黒褐色土

SD-001・002・003

第ア層 10YR2/2 黒褐色土(底土)

第イ層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)少量

第ウ層 10YR2/3 暗褐色土

第エ層 10YR2/1 黒色土

第オ層 10YR5/6 黄褐色土

第カ層 10YK3/3暗褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土

SX-002

第1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ10~20mm)微量

第2層 10YR2/1黒色土と10YK3/3暗褐色土の混合土

第3層 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)微量



図 3-260 G-1 区 SX-1

## SX-006 (図3-261)

X=91811.500, Y=-11555.200 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $88.0 \times 63.0 \times 21.0$  cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は4層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

## SX-007 (図3-261)

X=91851.500, Y=-11547.500 付近で検出した。平面形は不整形で、 $138.0 \times 137.0 \times 67.0$  cmを測る。断面形は段状に立ち上がる形で、壁上部の一部で緩やかに立ち上がる。堆積土は10層に分層し、再掘削が伴った堆積状況を呈する。

## SX-008 (図3-261)

X=91822.000, Y=-11546.500 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $214.0 \times 187.0 \times 56.0$  cmを測る。断面形は段状に立ち上がる形状であるが、堆積土第7・8層の堆積の後に再掘削がなされ、段状の形状を成している。堆積土は8層に分層し、再掘削後の堆積土は6層に分層し、流れ込みの伴う自然堆積状況を呈する。

## SX-009 (図3-261)

X=91813.500, Y=-11548.700 付近で検出した。S1-002と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整形を呈し、 $(238.0) \times 271.0 \times 46.0$  cmを測る。また、底面から土坑状の浅い落ち込みを検出し、 $138.0 \times 113.0 \times 13.0$  cmを測る。堆積土は7層に分層し、上面の第A層はバミヌ質の地山土が充填されている。

## 7. ビット (図3-262～275)

調査区内から73基検出した。散発的な検出で、掘立柱建物として認定できる資料はない。分割図B・Dに図示したS1-002の南側周辺で多く検出している。出土遺物は、分割図Hに掲載した06\_S P-01から土師器甕底部が出土している程度で時期特定の可能な資料がほとんどない状況である。

## 8. 溝跡 (畝跡) (図3-276)

X=91697.000, Y=-11627.000 周辺でSD-001～003の3条検出した取り扱いとなっている。しかし、SD-001～003は等間隔に平行し、その深さも均一で、土地の境界の軸線とも平行する形である。調査時には畑地として利用されていなかった地点であるが、比較的近接した時期の畑の畝跡の可能性が高い。SD-002がSX-002と重複しており、SD-002が新しい。



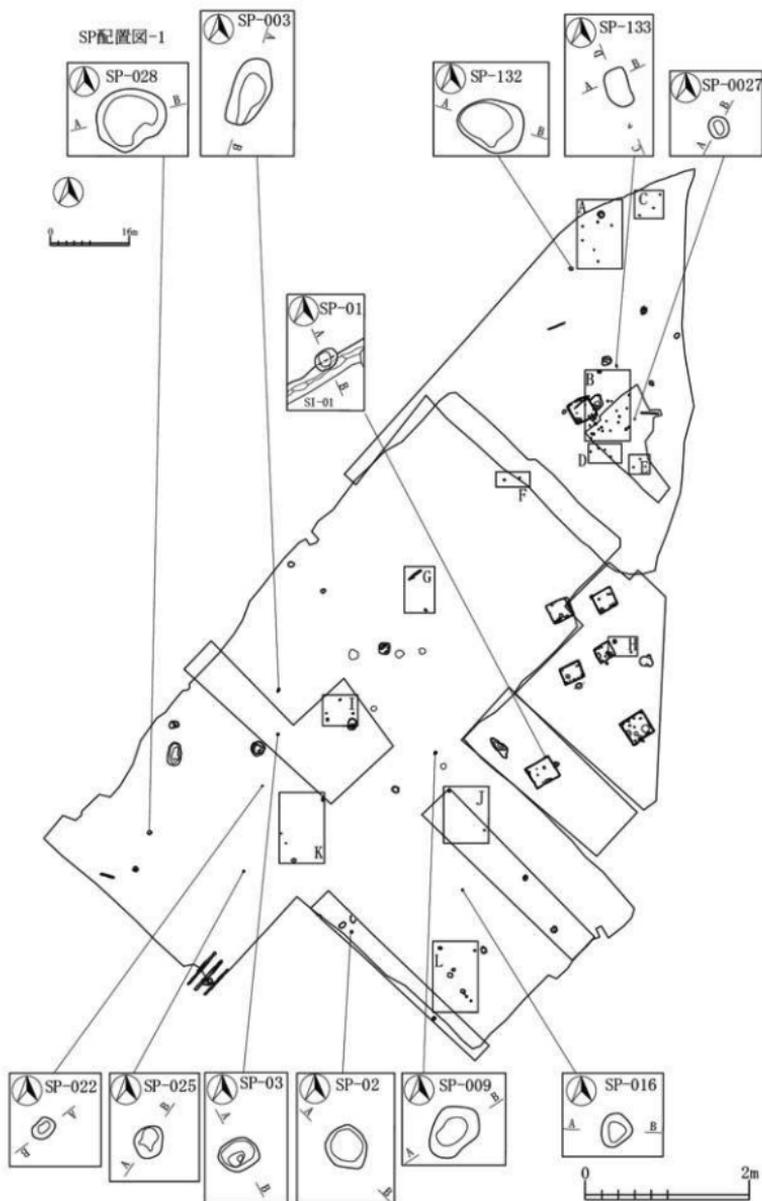
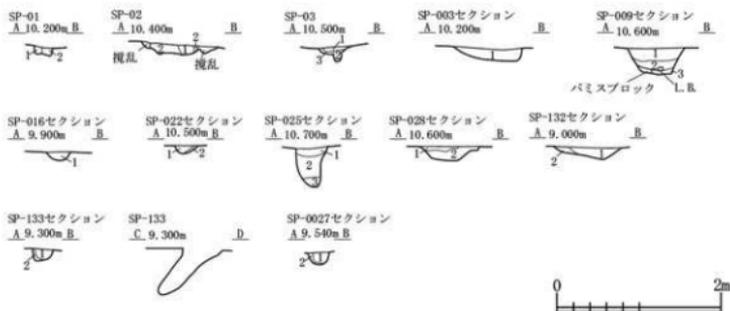


図 3-262 G-1 区 SP-1



SP-01	第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SP-02	第1層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10mm)微量
	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ20~30mm)微量
	視乱 10YR5/4 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
SP-03	第1層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
	第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~6mm)微量,炭化粒(φ2mm)微量
SP-009	第1層 10YR4/4 褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)微量,ローム粒(φ1~5mm)少量,ロームブロック(φ10~15mm)少量,10YR3/1黒褐色土粒(φ1~5mm)少量
	第2層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~25mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
	第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	10YR3/2黒褐色土粒(φ5~9mm)少量,2,3YR7/6暗色のロームブロック(φ40×60mm大)混入,ローム粒(φ1~5mm)微量,バミスブロック(φ15~20mm)極微量,バミス粒(φ1~9mm)少量
	第3層 10YR2/3 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~15mm)微量,バミス粒(φ1~3mm)極微量,バミスブロック(φ40×160mm大)混入
SP-016	第1層 10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,バミスブロック(φ10mm大)混入
SP-022	第1層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)極微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,炭化物(φ10mm大)混入
	第2層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,バミスブロック(φ10mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
SP-025	第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロックロームブロック(φ20mm大)混入
	第3層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,ローム粒(φ1~3mm)少量
SP-028	第1層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,バミスブロック(φ30mm大)混入,ローム粒(φ1~5mm)極微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,バミスブロック(φ10mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量,ロームブロック(φ10~15mm)微量
SP-132	第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量
	第2層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量
SP-133	第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
	第2層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量
SP-027	第1層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)極微量,10YR2/2黒褐色土少量混入

図 3-263 G-1 区 SP-2

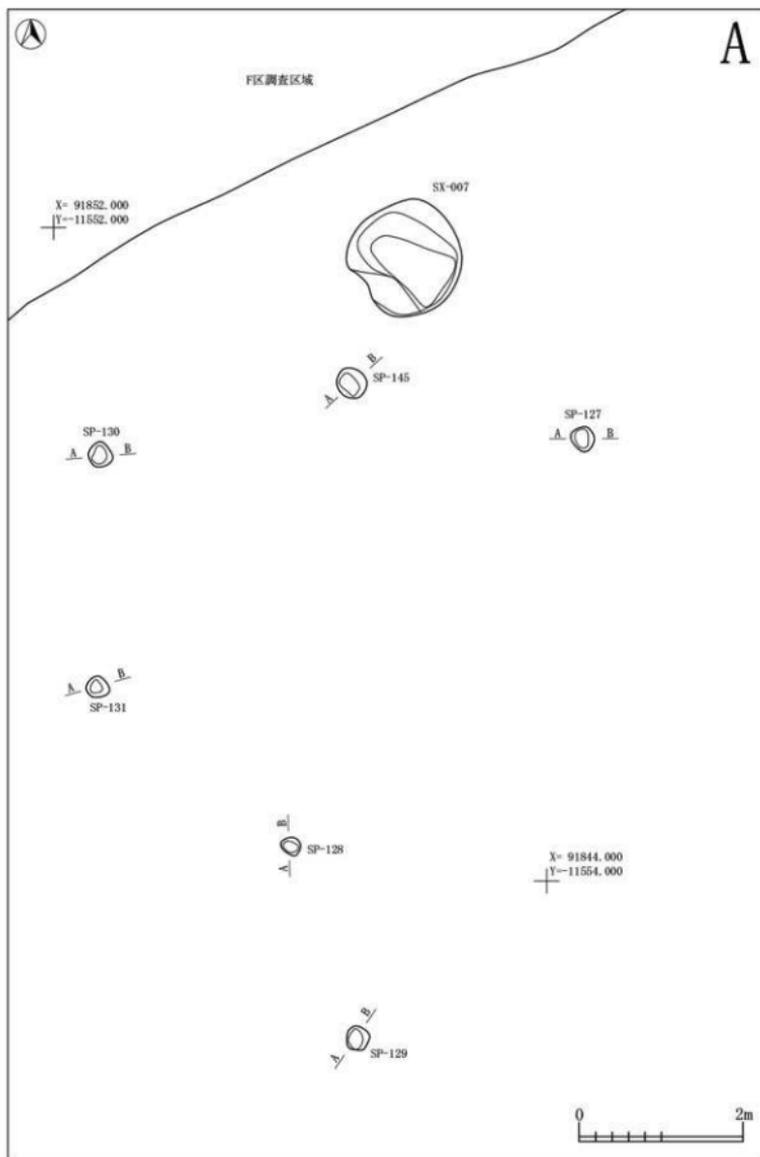


図 3-264 G-1 区 SP-3

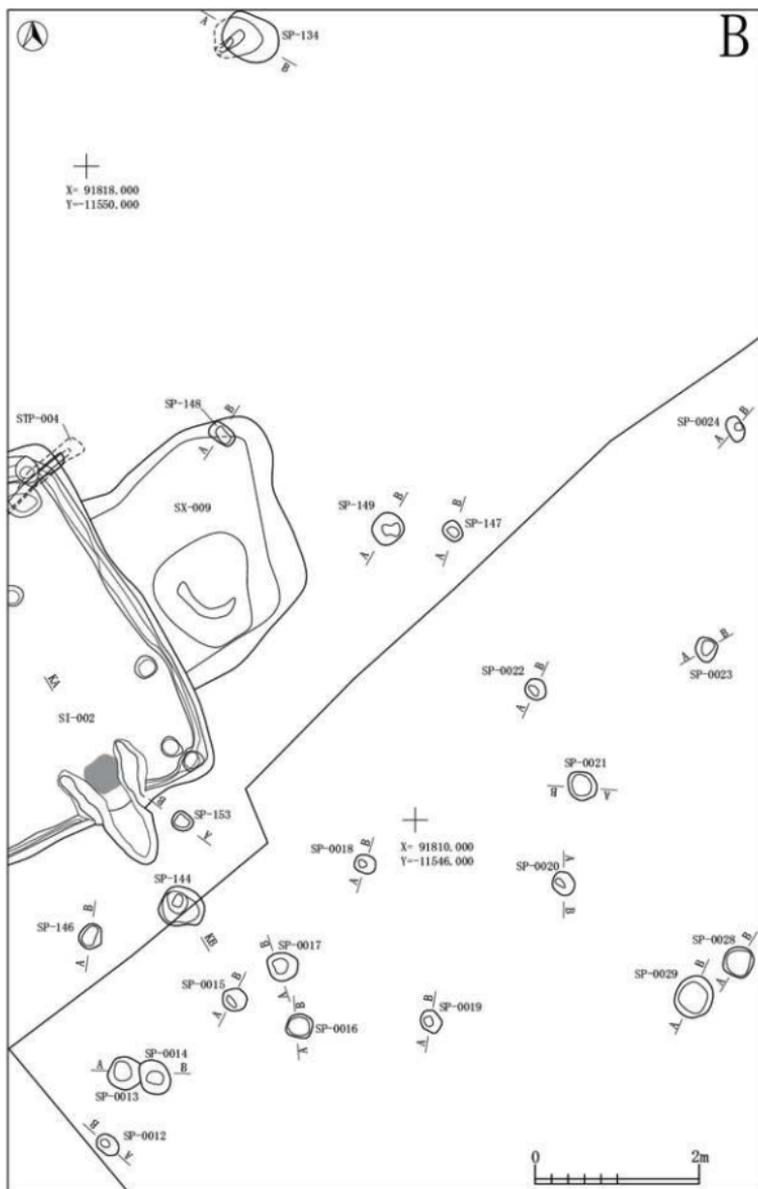


图 3-265 G-1 区 SP-4

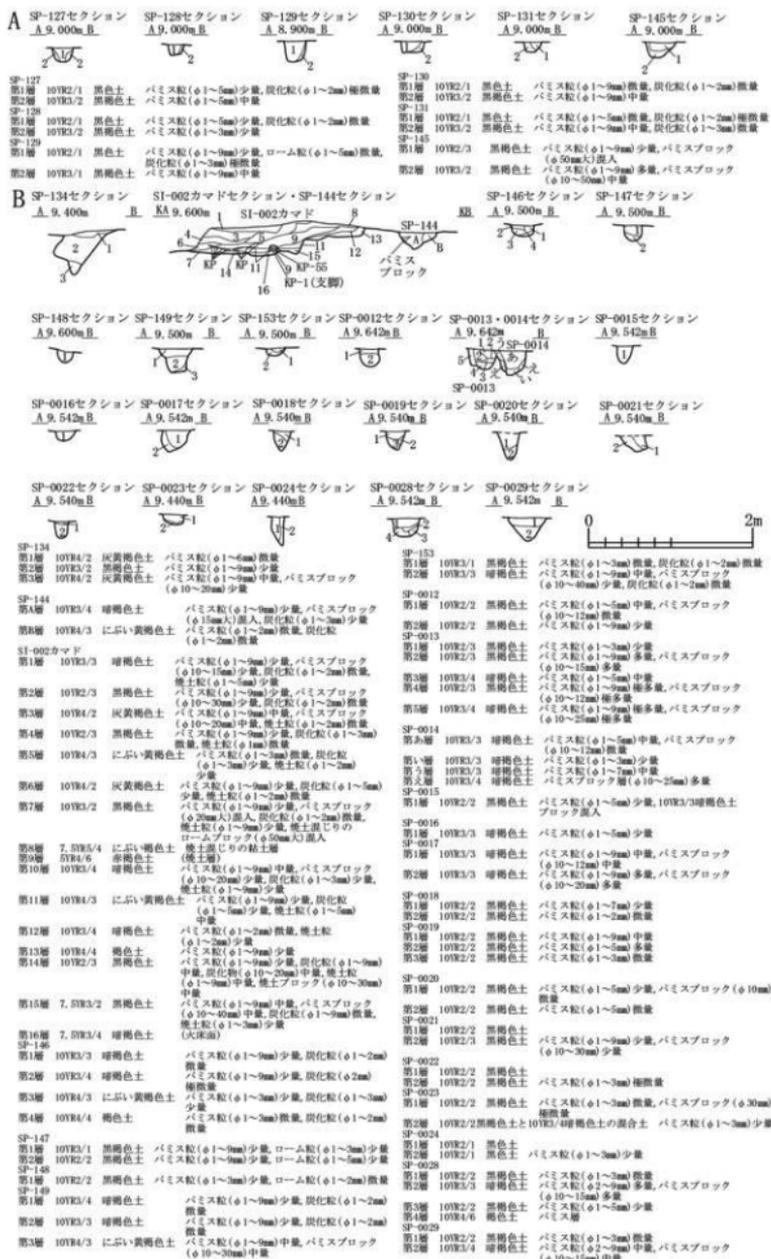


図3-266 G-1区 SP-5

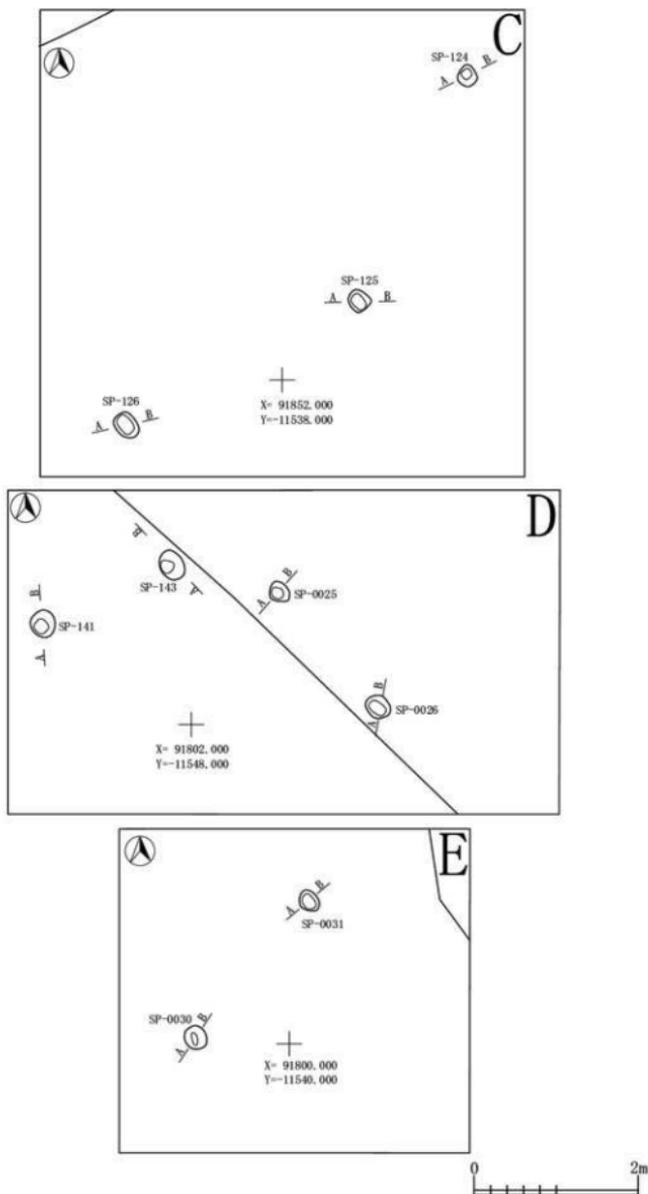


图 3-267 G-1 区 SP-6

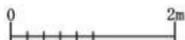
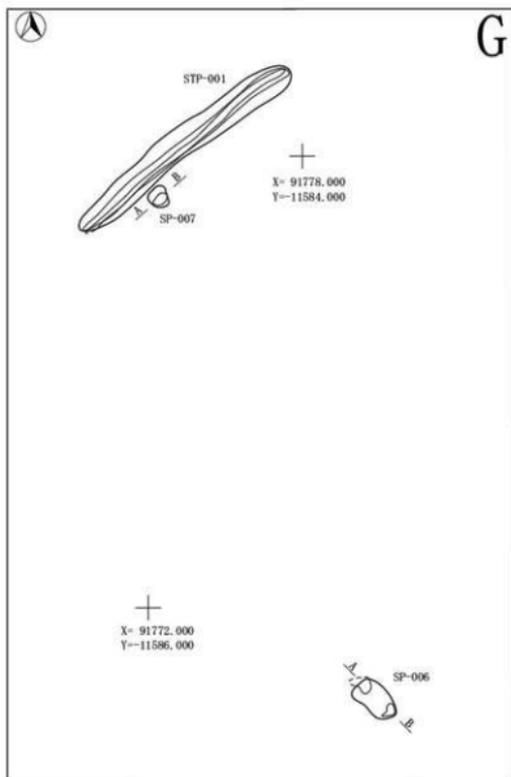
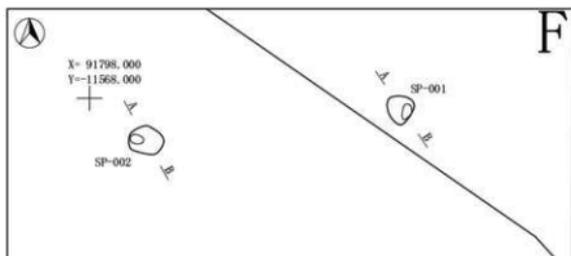
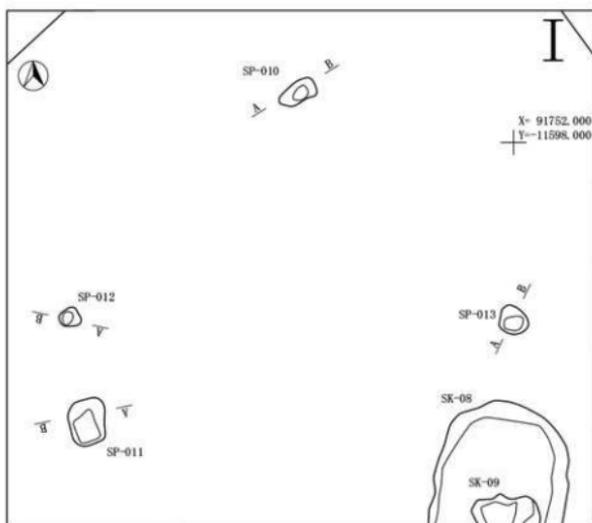
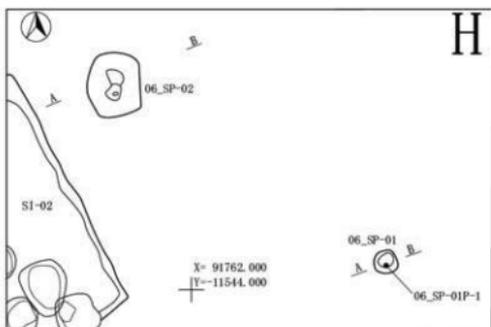


図 3-268 G-1区 SP-7





06\_SP-01

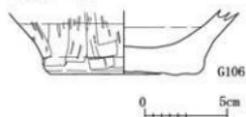


図 3-270 G-1区 SP-9

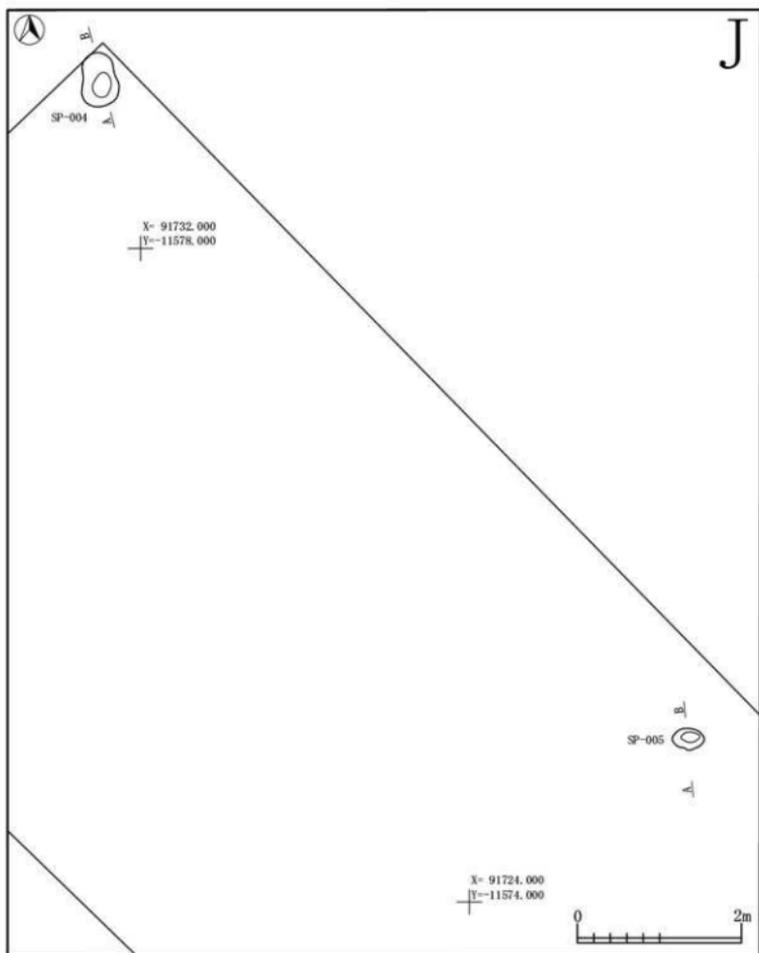
圖-1  
G-1區

圖 3-271 G-1區 SP-10

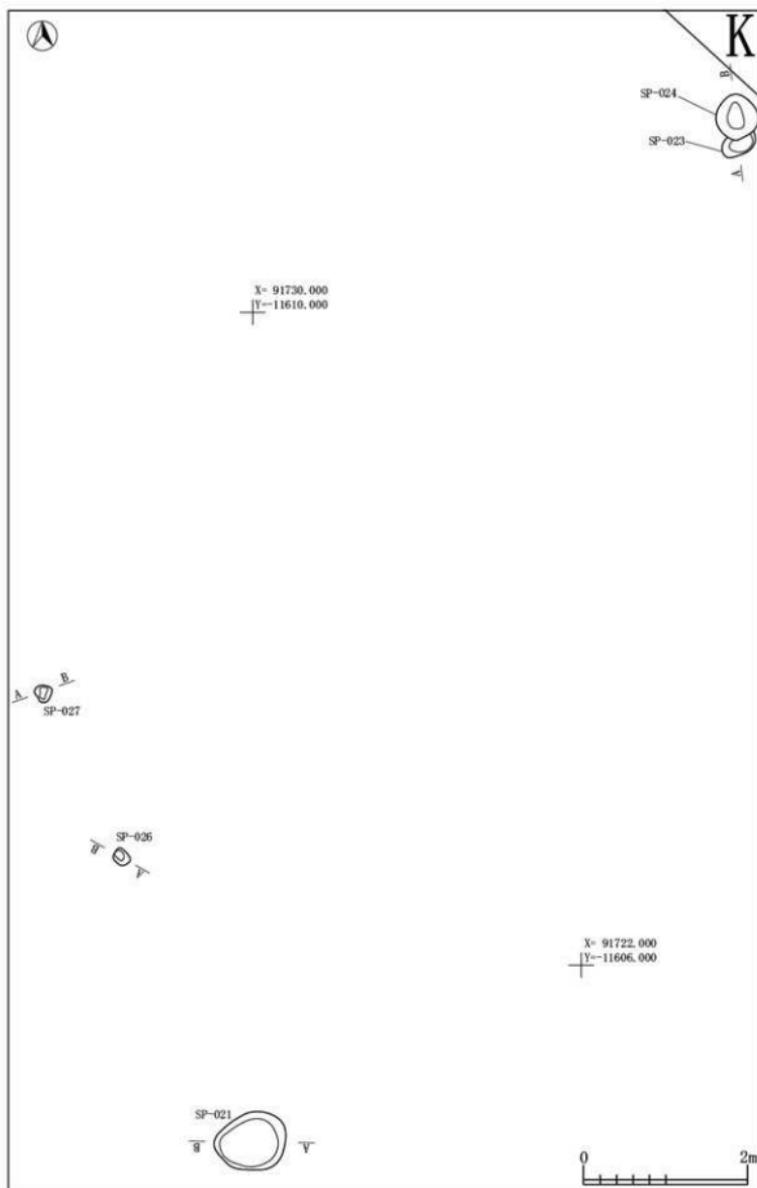


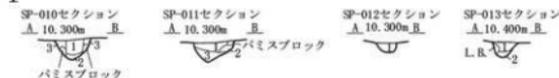
図 3-272 G-1 区 SP-11

## H



- 06\_SP-01  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~7mm)少量,炭化粒(φ1mm)微量  
06\_SP-02  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量

## I



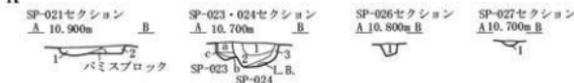
- SP-010  
第1層 10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ20~30mm)少量,10YR3/4暗褐色土粒(φ1~5mm)微量,ローム粒(φ1~5mm)少量  
第2層 7.5YR5/3 にぶい褐色土 パミスブロック(φ20~25mm)微量,ローム粒(φ3~9mm)少量  
第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10mm)微量,ローム粒(φ1~5mm)少量  
SP-011  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ1~3mm)中量,パミスブロック(φ10~15mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量,ローム粒(φ1~3mm)微量  
第2層 10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)微量,パミスブロック(φ10mm,25mm大)混入,ローム粒(φ1~5mm)少量  
第3層 10YR4/4 褐色土 パミス粒(φ1~3mm)微量,パミスブロック(φ10~15mm)極微量,ローム粒(φ1~5mm)少量  
SP-012  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ25mm大)混入,ローム粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量  
SP-013  
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~25mm)少量,10YR3/2黒褐色土粒(φ1~5mm)微量,10YR3/2黒褐色土ブロック(φ20mm大)混入,ローム粒(φ1~9mm)微量  
第2層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ30~40mm)微量,ローム粒(φ1~5mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)少量

## J



- SP-004  
第1層 10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量,パミスブロック(φ10mm)微量  
第2層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ1~3mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)極微量  
第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 パミス粒(φ1~2mm)微量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量  
SP-005  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ1~5mm)微量,パミスブロック(φ10mm)微量

## K



- SP-021  
第1層 10YR3/3暗褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土 パミス粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量  
第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ30×100mm大)混入,パミスブロック(φ10~20mm)微量  
SP-023  
第6層 10YR3/4暗褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土 パミス粒(φ1~5mm)少量  
第5層 10YR2/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土 パミスブロック(φ20mm)微量  
第4層 10YR3/4暗褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土 ローム粒(φ1~5mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)少量  
SP-024  
第1層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,10YR5/3にぶい黄褐色土ブロック(φ10~25mm)少量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~2mm)微量  
第3層 10YR3/3暗褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)微量  
SP-026  
第1層 10YR3/4 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)少量,ロームブロック(φ10mm大)混入  
SP-027  
第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)微量,ロームブロック(φ10mm大)混入

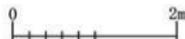


図 3-273 G-1区 SP-12

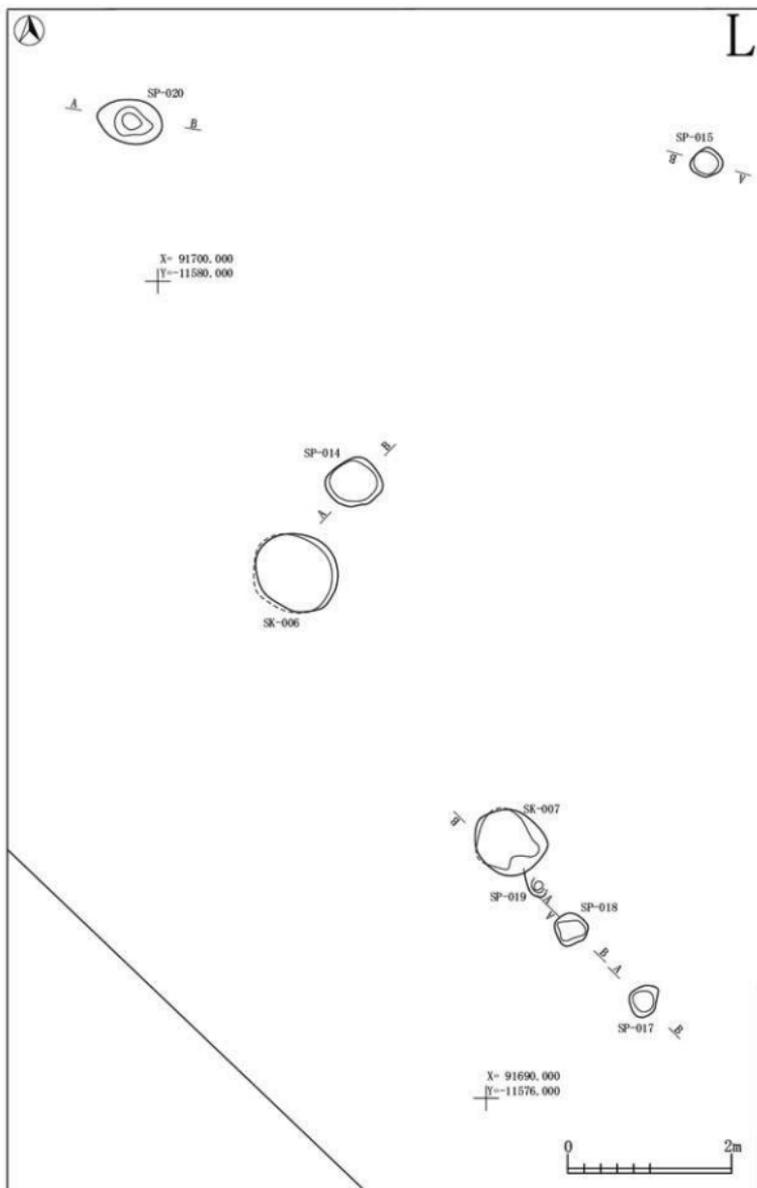
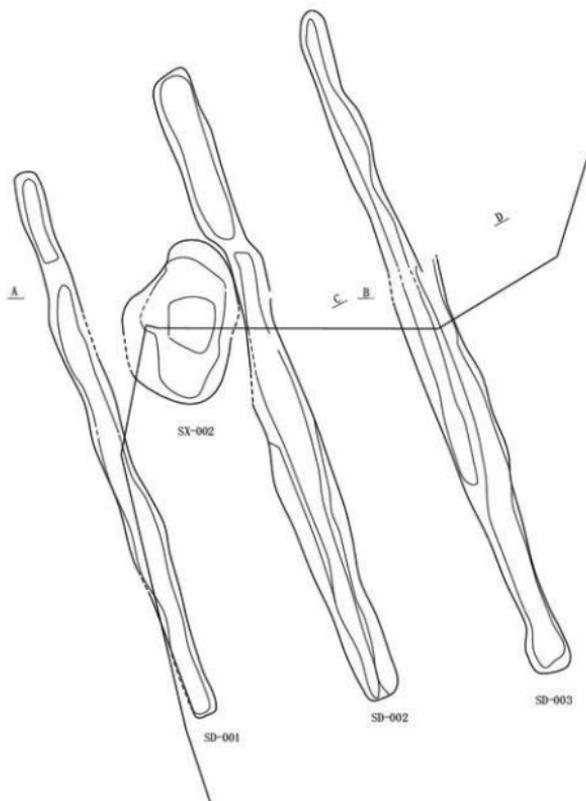


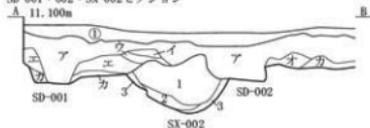
図 3-274 G-1 区 SP-13



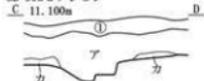
SD-001・002・003



SD-001・002・SX-002セクション



SD-003セクション



表土  
第①層 10YR2/2 黒褐色土

SD-001・002・003

第①層 10YR2/2 黒褐色土(盛土)

第②層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)少量

第③層 10YR2/3 黒褐色土

第④層 10YR2/1 黒色土

第⑤層 10YR5/6 黄褐色土

第⑥層 10YR3/3 暗褐色土と10YR2/2 黒褐色土の混合土

SX-002

第1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ10~20mm)微量

第2層 10YR2/1 黒色土と10YR3/3 暗褐色土の混合土

第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)微量



図 3-276 G-1 区 SD

高間(1)G-2区遺構配置図 S=1/1000

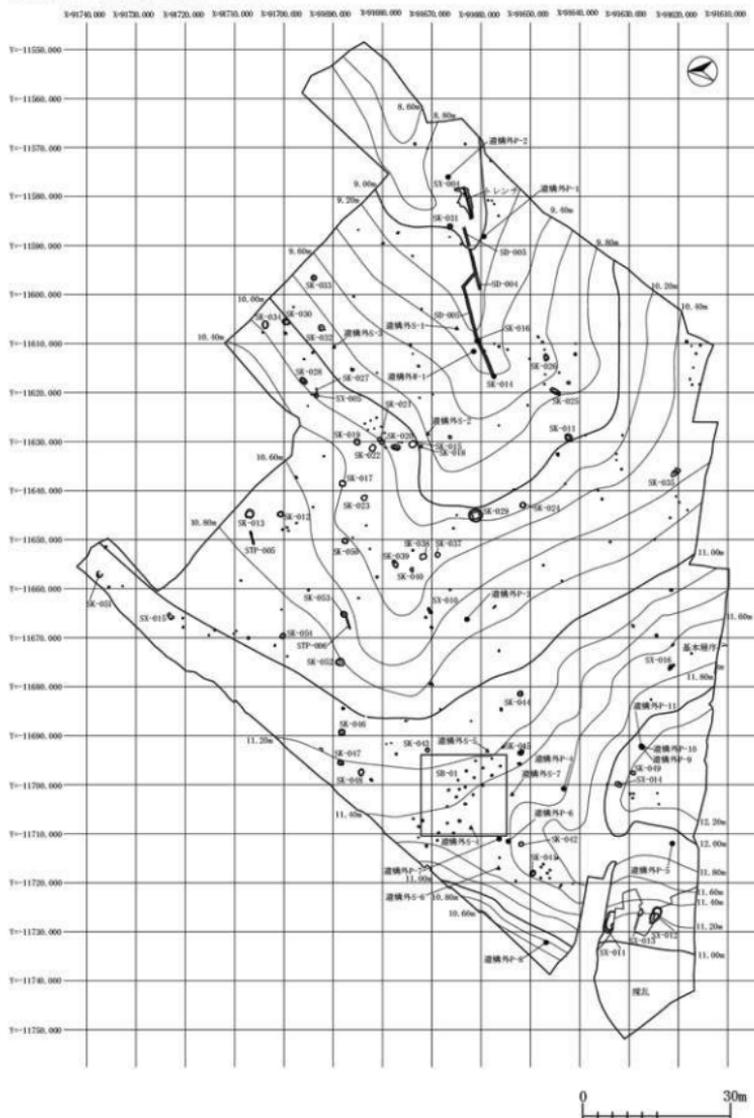


図 3-277 G-2 区遺構配置図

## 第2節 G-2区

## 1. 土坑

## SK-011 (図3-278)

X=91642.300, Y=-11629.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $183.0 \times 129.0 \times 13.0$  cmを測る。断面形は血形を呈し、壁は削平のため残存が悪いが、緩やかに立ち上がっている。堆積土は3層に分層し、壁際に流れ込みのブロック混じりの土が堆積している状態で、自然堆積状況を呈している。

## SK-012 (図3-278)

X=91700.500, Y=-11645.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $113.0 \times 110.0 \times 17.0$  cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は上部で角度を変え開き気味に立ち上がっている。堆積土は7層に分層し、埋め戻し等による人為堆積状況を呈する。

## SK-013 (図3-278)

X=91707.000, Y=-11645.000 付近で検出した。平面形は不整隅丸方形を呈し、 $173.0 \times 166.0 \times 47.0$  cmを測る。断面形は底面中央が凹んだ形状で、底面中央から開き気味に立ち上がり、壁の部分で角度を変え立ち上がった形状である。堆積土は2層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

## SK-014 (図3-278)

X=91657.200, Y=-11616.500 付近で検出した。SD-005と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整形を呈し、 $84.0 \times 82.0 \times 39.0$  cmを測る。断面形は柱穴状に中央が落ち込んだ形状で、中段で段状に角度を変え、開き気味に立ち上がっている。土坑部分の堆積土については4層に分層し、埋め戻しの伴う堆積状況である。

## SK-015 (図3-279)

X=91674.000, Y=-11630.500 付近で検出した。平面形は長楕円形を呈し、 $185.0 \times 108.0 \times 18.0$  cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は4層に分層し、流れ込みを含めた自然堆積状況を呈する。

## SK-016 (図3-279)

X=91660.700, Y=-11609.400 付近で検出した。SD-005と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整長楕円形を呈し、 $124.0 \times 78.0 \times 33.0$  cmを測る。断面形は鍋底形で、壁上部

の一部で角度を変え開き気味に立ち上がっている。堆積土は2層に分層し、ブロック混じりの自然堆積状況を呈する。

## SK-017 (図3-279)

X=91688.300, Y=-11638.500 付近で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、 $122.0 \times 116.0 \times 58.0$  cmを測る。断面形は円筒形を基本とするが、南北方向の壁の一部では下部が袋状に入り込んだ形状を呈している。堆積土は14層に分層し、中層に相当する第5～8層までが焼土層や炭化物層を検出し、中位まで埋没の時点で焼成が伴っている。

## SK-018 (図3-280)

X=91672.200, Y=-11631.000 付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、 $143.0 \times 130.0 \times 26.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈しており、削平が顕著であるが、フラスコ状土坑の底部付近に相当する。堆積土は3層に分層し、崩落の伴う堆積状況を呈し、第1層中から炭化物を検出した。

## SK-019 (図3-280)

X=91685.000, Y=-11630.000 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、 $128.0 \times 115.0 \times 11.0$  cmを測る。削平を受けているが、断面形は円筒形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は2層に分層し、自然堆積状況を呈する。

## SK-020 (図3-280)

X=91680.000, Y=-11630.200 付近で検出した。SK-021と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は円形を呈し、 $96.0 \times 96.0 \times 33.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈し、削平を受けているがフラスコ状土坑の可能性が高い。堆積土は5層に分層し、崩落土の流れ込み等を含めた自然堆積状況を呈する。

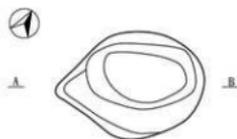
## SK-021 (図3-280)

X=91680.700, Y=-11629.500 付近で検出した。SK-020と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は不整楕円形を呈し、 $83.0 \times 77.0 \times 26.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈し、重複するSK-020と同様フラスコ状土坑であった可能性が高い。堆積土は3層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う人為堆積状況を呈する。

## SK-022 (図3-280)

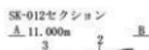
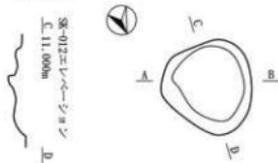
X=91682.200, Y=-11631.300 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $132.0 \times 107.0 \times 46.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈すフラス

SK-011



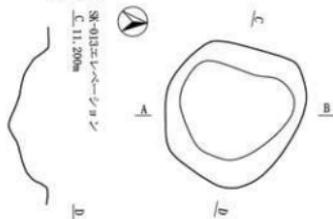
- SK-011
- |     |         |      |  |
|-----|---------|------|--|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,炭化物(φ3mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量 |
| 第2層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量                                 |
| 第3層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)中量   |

SK-012



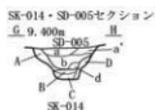
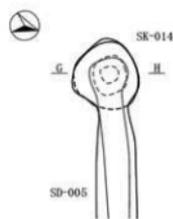
- SK-012
- |     |         |         |   |
|-----|---------|---------|---|
| 第1層 | 10YR3/3 | 暗褐色土    | パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量 |
| 第2層 | 10YR3/2 | 黒褐色土    | パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~80mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量 |
| 第3層 | 10YR3/4 | 暗褐色土    | パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10mm)量入,ローム粒(φ1~2mm)微量    |
| 第4層 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~70mm)中量,ローム粒(φ1~2mm)微量 |
| 第5層 | 10YR3/1 | 黒褐色土    | パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量                     |
| 第6層 | 10YR4/6 | 褐色土     | パミス粒(φ1~2mm)微量,パミスブロック(φ60mm)量入                   |
| 第7層 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量                     |

SK-013



- SK-013
- |     |         |      |   |
|-----|---------|------|---|
| 第1層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)中量,ローム粒(φ1~9mm)少量   |
| 第2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | パミス粒(φ1~9mm)極多量,パミスブロック(φ10~100mm)多量,ローム粒(φ1~9mm)少量 |

SK-014

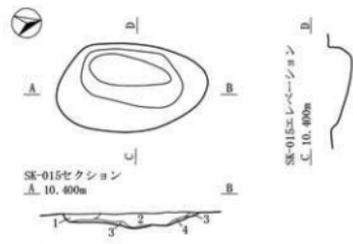


- SK-014
- |     |         |      |  |
|-----|---------|------|--|
| 第1層 | 10YR2/1 | 黒色土  | 10YR4/1褐色土ブロック(φ10~40mm)多量                     |
| 第2層 | 2.5Y2/1 | 黒色土  | 砂中量,5YR2/8灰オレンジ色土(φ1~5mm)少量                    |
| 第3層 | 2.5Y2/1 | 黒色土  | 2.5Y6/1黄褐色土粒(φ1~9mm)微量                         |
| 第4層 | 2.5Y4/1 | 黄褐色土 | 5Y6/1灰色土ブロック(φ10~20mm)中量,2.5Y7/4褐色土粒(φ5~9mm)少量 |
- SK-014・SD-005セクション
- |     |         |     |                          |
|-----|---------|-----|--------------------------|
| 第5層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 5Y5/1灰色土粒(φ1~5mm)微量      |
| 第6層 | 10YR4/1 | 褐色土 | 2.5Y6/1黄褐色土ブロック(φ20mm)微量 |
| 第7層 | 10YR2/1 | 黒色土 | 5Y5/1灰色土粒(φ1~9mm)少量      |
| 第8層 | 10YR4/1 | 褐色土 | 5Y6/1灰色土ブロック(φ10~20mm)少量 |



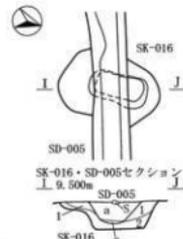
図 3-278 G-2 区 SK-1

SK-015



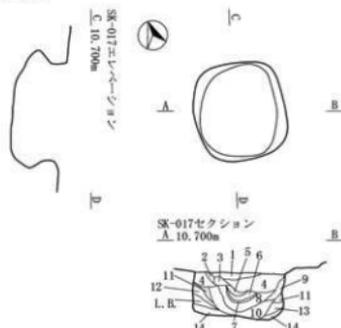
- SK-015
- |     |         |      |  |
|-----|---------|------|--|
| 第1層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | パミス粒(φ1~2mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)極微量, 炭化土(φ1~2mm)微量                     |
| 第2層 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | パミス粒(φ1~9mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量, 10YR4/1褐色ローム粒(φ1~9mm)少量             |
| 第3層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | パミス粒(φ1~5mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~50mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量 |
| 第4層 | 10YR4/6 | 褐色土  | パミス粒(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ30mm)散入                                   |

SK-016



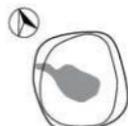
- SK-016
- |        |            |         |  |
|--------|------------|---------|--|
| 第1層    | 10YR1, 7/1 | 黒色土     | Sf6/1灰色土ブロック(φ10~15mm)微量                         |
| 第2層    | 10YR2/1    | 黒色土     | Sf6/1灰色土ブロック(φ10~15mm)微量, Sf6/4に赤い黄色土粒(φ5~9mm)少量 |
| SK-005 |            |         |  |
| 第5層    | 10YR2/1    | 黒色土     | Sf5/1灰色土粒(φ1~5mm)微量                              |
| 第6層    | Sf6/2      | 灰オリーブ色土 | 砂多量  |

SK-017



- SK-017
- |      |             |                      |  |
|------|-------------|----------------------|--|
| 第1層  | 10YR2/1     | 黒色土                  | パミス粒(φ1~3mm)極微量, ローム粒(φ5~9mm)微量                                      |
| 第2層  | 10YR2/2     | 黒褐色土                 | パミス粒(φ1~2mm)極微量  |
| 第3層  | 10YR3/1     | 黒褐色土                 | パミス粒(φ1~3mm)少量   |
| 第4層  | 10YR2/3     | 黒褐色土                 | パミス粒(φ1~5mm)微量, 焼土粒(φ3~5mm)微量, 10YR3/2黒褐色土少量散入, 焼土粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒散入 |
| 第5層  | 7.SfR2/1    | 黒色土                  | 焼土粒(φ1~9mm)極多量, 焼土ブロック(φ10~15mm)少量                                   |
| 第6層  | 7.SfR3/1    | 黒褐色土                 | 焼土粒(φ1~3mm)微量  |
| 第7層  | 7.SfR1, 7/1 | 黒色土                  | 焼土粒(φ1~9mm)中量, 焼土ブロック(φ10~15mm)少量                                    |
| 第8層  | 10YR2/1     | 黒色土                  | 焼土粒(φ3~5mm)微量, 炭化粒極  |
| 第9層  | 10YR3/2     | 黒褐色土                 | パミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~15mm)少量                  |
| 第10層 | 10YR3/1     | 黒褐色土                 | パミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~5mm)中量, 10YR2/3黒褐色土中量散入                      |
| 第11層 | 10YR2/2     | 黒褐色土                 | パミス粒(φ1~2mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)少量                                       |
| 第12層 | 10YR3/3     | 暗褐色土                 | パミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~5mm)少量, ロームブロック(φ10mm)微量                     |
| 第13層 | 10YR3/4     | 暗褐色土                 | パミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~20mm)少量                  |
| 第14層 | 10YR3/1     | 黒褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土 | ローム粒(φ1~9mm)微量, 10YR6/4に赤い黄色土ブロック(φ10~20mm)少量                        |

SK-017焼土範囲1



SK-017焼土範囲2

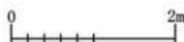
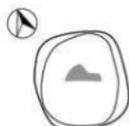


図 3-279 G-2 区 SK-2

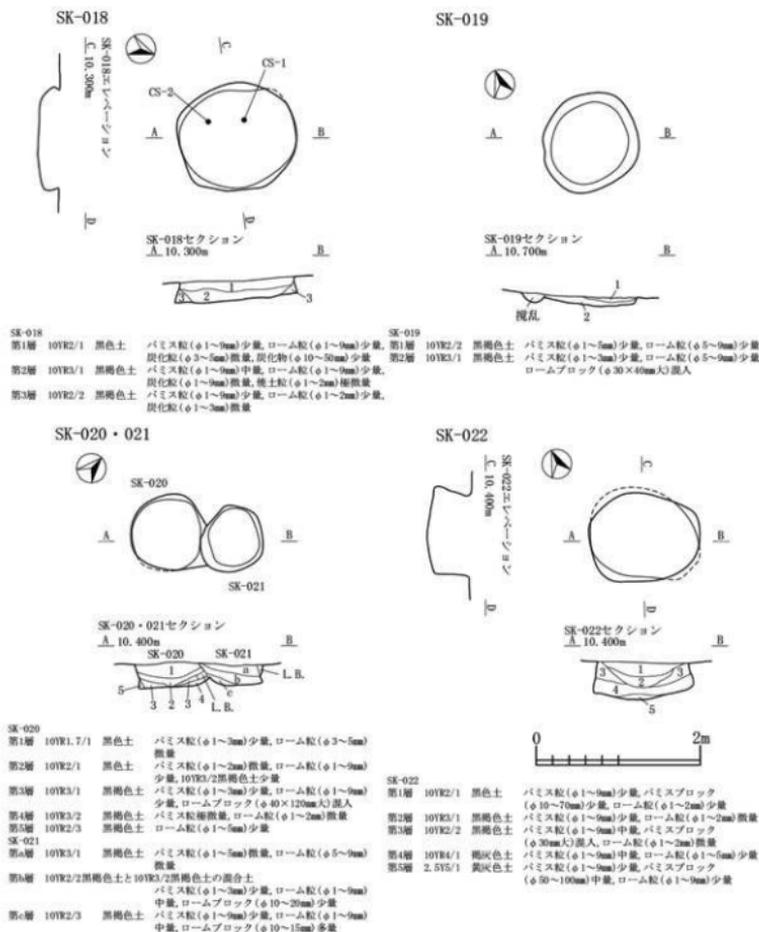


図3-280 G-2区 SK-3

コ状を呈する。堆積土は5層に分層し、流れ込みを含む自然堆積状況を呈する。

## SK-023 (図3-281)

X=91683.500, Y=-11641.200付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、123.0×102.0×27.0cmを測る。断面形は袋状を呈し、削平を受けている影響で底部付近のみ残存であるが、元々はフラスコ状土坑であった可能性が高い。堆積土は4層に分層し、一部削平に伴う影響が生じてい

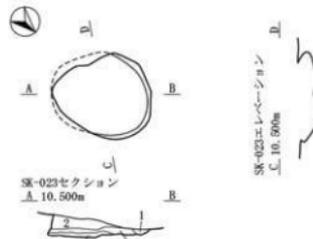
るが、残存部は自然堆積状況を呈する。

## SK-024 (図3-281)

X=91651.500, Y=-11642.700付近で検出した。平面形は円形を呈し、111.0×107.0×16.0cmを測る。断面形は鍋底形で、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は3層に分層し、自然堆積状況を呈する。

## SK-025 (図3-281)

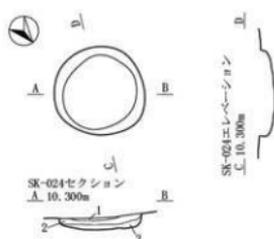
SK-023



SK-023

第1層	10YR4/1	褐色色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ20~50mm)少量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ9mm)微量
第3層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)中量
第4層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, ローム粒(φ1~5mm)少量

SK-024



SK-024

第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ2mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量
第3層	2.5Y2/1	黒色土	炭化粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)中量

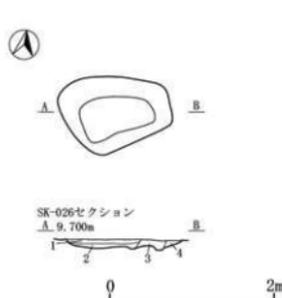
SK-025



SK-025

第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR4/1	褐色色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第5層	5Y2/2	オリーブ黒色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~50mm)中量

SK-026



SK-026

第1層	2.5Y2/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
第2層	5Y2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
第3層	10YR2/1	黒色土	パミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR4/1	褐色色土	炭化粒(φ1~3mm)微量

図 3-281 G-2 区 SK-4

X=91644.000, Y=-11620.000 付近で検出した。平面形は不整形長方形を呈し、218.0×90.0×22.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は途中で角度を変える部分と、開き気味に緩やかに立ち上がる部分が見られる。堆積土は5層に分層し、流動の伴った自然堆積状況を呈する。

SK-026 (図3-281)

X=91646.400, Y=-11613.000 付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、140.0×96.0×11.0cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に緩やかに立ち上がる。堆積土は4層に分層し、自然堆積状況を呈する。

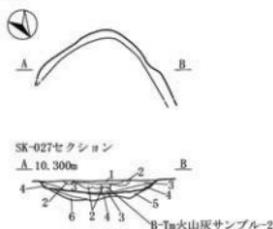
SK-027 (図3-282)

X=91694.000, Y=-11620.000 付近で検出した。削平のため、残存部が限られるが元々は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈していたものと見られ、(130.0)×(128.0)×17.0cmを測る。残存部の底面のほとんどに掘り方を有し、パミスブロック混じりの土が充填されている。底面と壁面が赤化しており、土器等の出土がないものの、製炭土坑ないしは焼成坑の可能性が有る。堆積土は掘り方を含め6層に分層し、第2層中からB-Tm火山灰を検出している。

SK-028 (図3-282)

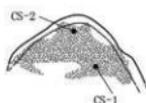
X=91696.000, Y=-11617.500 付近で検出し

SK-027

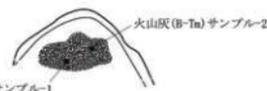


SK-027			
第1層	10YK2/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~3mm)少量
第2層	10YK3/1	黒褐色土	B-Tm火山灰多量
第3層	10YK2/1	黒色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
第4層	10YK1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)多量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
第5層	10YK3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~100mm)多量, ローム粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量(振り方)
第6層	10YK4/3	にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~70mm)中量(振り方)

SK-027炭範囲・炭サンプル



SK-027火山灰(B-Tm)範囲・火山灰(B-Tm)サンプル



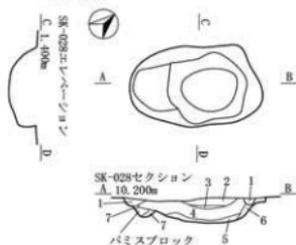
SK-027焼土範囲



SK-027掘り方

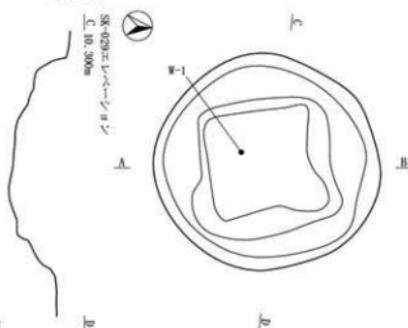


SK-028



SK-028			
第1層	10YK3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)中量(復乱)
第2層	10YK3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)少量
第3層	10YK2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, ローム粒(φ1~5mm)少量
第4層	10YK3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
第5層	10YK2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~30mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)多量
第6層	10YK3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~60mm)多量, ローム粒(φ1~9mm)少量
第7層	10YK3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~6mm)少量, バミスブロック(φ120mm)塊入

SK-029



SK-029			
第1層	10YK2/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~100mm)多量
第2層	10YK1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)少量
第3層	10YK6/6	明黄褐色土と10YK2/1黒色土の混合土	



図 3-282 G-2 区 SK-5

た。平面形は小判形を呈し、 $161.0 \times 99.0 \times 30.0$  cmを測る。断面形は段状に立ち上がる形状で、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は攪乱扱いの第1層を含め7層に分層し、底部および壁面に堆積する第5・6層は人為的に充填された可能性があり、その上位に堆積する第2~4層は自然堆積状況を呈する。

## SK-029 (図3-282)

X=91661.500, Y=-11645.000付近で検出した。平面形は円形を呈し、 $272.0 \times 260.0 \times 43.0$  cmを測る。また、中央は第1層が堆積する部分が相当するが、方形な掘り込みとなっており、 $180.0 \times 169.0 \times 56.0$  cmを測る。中央を方形に掘り込むような構造で、井戸を志向した可能性がある。調査時にも比較的浅い掘り込みに関わらず湧水が認められた。第1層中から木材が出土したが、腐材であったため図示に至っていない。

## SK-030 (図3-283)

X=91699.500, Y=-11605.500付近で検出した。平面形は楕円形を呈し、 $155.0 \times 125.0 \times 35.0$  cmを測る。また、北壁よりの底面からPit 1とした浅いピットを検出しており、 $62.0 \times 45.0 \times 8.0$  cmを測る。断面形は一部袋状に入り込む部分が見られるが、壁は開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は6層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

## SK-031 (図3-283)

X=91666.300, Y=-11586.000付近で検出した。平面形は不整形円形を呈し、 $110.0 \times 105.0 \times 62.0$  cmを測る。断面形は段状に立ち上がる形状で、壁の一部は袋状に入り込む部分が見られる。堆積土は7層に分層し、流れ込みを含めた自然堆積の状況を呈する。中~下層にかけ棒状の木が14本、下層に相当する第5層からG107に図示した銅版転写の近代の陶磁器の皿が1点出土した。

## SK-032 (図3-283)

X=91692.500, Y=-11606.800付近で検出した。平面形は円形を呈し、 $122.0 \times 118.0 \times 61.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈し、底面中央と西側および壁の南壁側に小ピットがあり、フラスコ状土坑である。堆積土は焼土・炭化粒が含まれる土層が流れ込み主体の自然堆積状況を呈し、第3層部分では炭化物を面的に検出している。

## SK-033 (図3-284)

X=91694.000, Y=-11596.500付近で検出した。平面形は円形を呈し、 $105.0 \times 100.0 \times 54.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈し、フラスコ状土坑で、底面中央には小ピット1基を検出している。堆積土は攪乱扱いで第1~3層、土坑堆積土として第4~6層9層分記録されているが、フラスコ状土坑部分の形状に沿って攪乱掘削がなされているとは考えにくいことから第1~3層は再掘削の痕跡に相当する可能性が高く、壁露の自然堆積層を切る形で人為的な掘削・埋め戻しが伴っている状況である。

## SK-034 (図3-284)

X=91703.800, Y=-11606.000付近で検出した。平面形は不整形円形を呈し、 $155.0 \times 133.0 \times 5.0$  cmを測る。断面形は血形に緩やかな弧状に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる箇所が見られる。堆積土は3層に分層し、ブロック混じりの自然堆積状況を呈する。

## SK-035 (図3-284)

X=91620.500, Y=-11636.500付近で検出した。平面形は不整形楕円形を呈し、 $217.0 \times 112.0 \times 41.0$  cmを測る。断面形は南東側の底面が柱穴状に落ち込んでおり、堆積土もその部分を中心とした堆積状況を呈する。

## SK-037 (図3-284)

X=91668.800, Y=-11653.000付近で検出した。平面形は不整形円形を呈し、 $96.0 \times 94.0 \times 16.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈し、削平を受けているがフラスコ状土坑である。堆積土は1層で自然堆積状況を呈する。

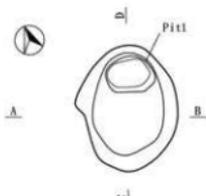
## SK-038 (図3-284)

X=91671.700, Y=-11653.300付近で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、 $132.0 \times 103.0 \times 12.0$  cmを測る。断面形は箱形で、垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は1層で黒味が強い土が自然堆積状況を呈している。

## SK-039 (図3-284)

X=91677.000, Y=-11655.000付近で検出した。平面形は長楕円形を呈し、 $126.0 \times 93.0 \times 37.0$  cmを測る。また、ほぼ同軸で40cm程度東側に突出した状態で、再掘削がされており、第1層が再掘削部分の堆積土に相当する。堆積土は再掘削部分を含め2層に分層し、最初に掘削された側の堆積土は水の影響により若干緑色した黒色土が堆積している。流れ込みに伴う自然堆積状況を呈する。

SK-030



SK-030セクション  
A. 10.200m

SK-030

- 第1層 10YR3/1 黒褐色土
- 第2層 10YR3/1 黒褐色土
- 第3層 10YR3/2 黒褐色土
- 第4層 10YR2/3 黒褐色土
- 第5層 10YR4/2 灰黄褐色土
- 第6層 10YR3/2 黒褐色土
- Pit1 第6層 10YR2/3 黒褐色土
- 第6層 10YR2/2 黒褐色土
- 第6層 10YR4/3 に近い黄褐色土

- パミス粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~30mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)中量, 炭化粒(φ1~5mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~5mm)少量, パミスブロック(φ30~100mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ30~100mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)少量
- パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)少量

SK-031

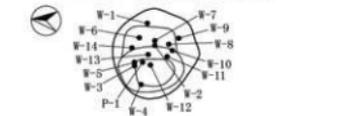


SK-031・SP-089セクション  
A. 9.300m

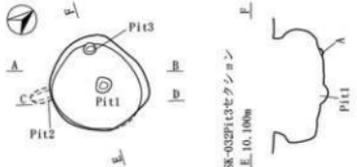
SK-031

- 第1層 10YR2/1 黒色土
- 第1層 10YR1/7/1 黒色土
- 第2層 2.5Y2/1 黒色土
- 第2層 10YR1/7/1 黒色土
- 第2層 2.5Y2/1 黒色土
- 第2層 10YR2/1 黒色土
- 第2層 5Y2/1 黒色土
- SP-089 第1層 10YR3/1 黒褐色土
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土

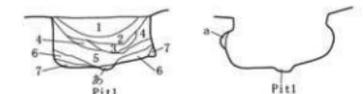
SK-031土器・木製品出土位置図



SK-032



SK-032・SK-032Pit1セクション  
A. 10.100m

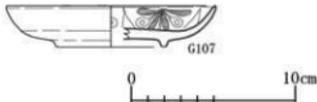


SK-032

- 第1層 10YR2/7/1 黒色土
- 第2層 10YR2/1 黒色土
- 第3層 10YR3/1 黒褐色土
- 第4層 10YR3/2 黒褐色土
- 第5層 10YR3/1 黒褐色土
- 第6層 10YR4/1 褐色土
- 第7層 10YR6/4 に近い黄褐色土
- Pit1 第6層 10YR4/1 褐色土
- Pit2 第6層 10YR3/2 黒褐色土
- Pit3 第6層 10YR3/2 黒褐色土

- パミス粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ2mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)少量
- パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~5mm)少量, パミスブロック(φ30mm)少量, パミスブロック(φ30mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)中量, ローム粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
- パミス粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ2mm)微量
- ローム粒(φ3~9mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
- パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~5mm)微量

SK-031



SK-032炭範囲・炭サンプル

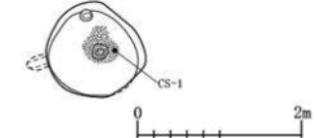


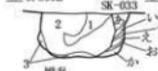
図 3-283 G-2 区 SK-6

SK-033



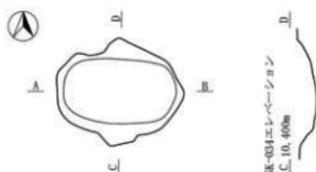
SK-033エレベーション  
SK-033 Pit1のスケッチ  
A. 9.800m

SK-033・複乱セクション  
A. 9.800m



- 複乱
- 第1層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~2mm)微量,パミスブロック(φ15mm)混入
  - 第2層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)中量
  - 第3層 10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,ローム粒(φ1~9mm)中量
- SK-033
- 第4層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~3mm)少量
  - 第5層 10YR3/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)中量,雑土(φ1~3mm)中量
  - 第6層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ5~9mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量
  - 第7層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~3mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量
  - 第8層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量
  - 第9層 10YR4/1 褐色土 パミス粒(φ1~2mm)微量,ローム粒(φ1~9mm)少量
- Pit1
- 第A層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~12mm)微量
  - 第B層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm)中量,ロームブロック(φ10~20mm)微量

SK-034



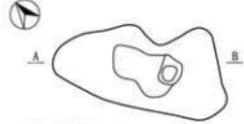
SK-034エレベーション  
A. 10.400m

SK-034セクション  
A. 10.400m



- SK-034
- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量
  - 第2層 10YR3/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量
  - 第3層 10YR4/3 暗褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1mm)微量

SK-035



SK-035セクション  
A. 10.600m



- SK-035
- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 パミス粒(φ1~5mm)微量
  - 第2層 10YR1.7/1 黒色土 10YR3/2黒褐色土が層状に少量
  - 第3層 10YR1.7/1 黒色土 パミス粒(φ1~3mm)微量

SK-038

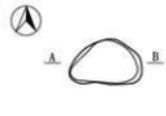


SK-038セクション  
A. 10.300m



- SK-038
- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量

SK-040



SK-040セクション  
A. 10.400m

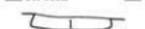


- SK-040
- 第1層 10YR2/1 黒色土 10YR6/4ふい黄褐色土少量

SK-037

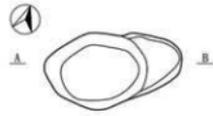


SK-037セクション  
A. 10.500m



- SK-037
- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量

SK-039



SK-039セクション  
A. 10.400m



- SK-039
- 第1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量
  - 第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量,ロームブロック(φ10~30mm)微量



図 3-284 G-2 区 SK-7

## SK-040 (図3-284)

X=91674.000, Y=11656.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $90.0 \times 55.0 \times 9.0$  cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、一部で緩やかに立ち上がる部分が見られる。堆積土は1層に分層し、白色粘土が水の影響により流れ込んだ自然堆積状況を呈する。

## SK-041 (図3-285)

X=91649.500, Y=11718.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $123.0 \times 104.0 \times 71.0$  cmを測る。断面形は柱穴状を呈し、底面は段状に立ち上がっている。堆積土は11層に分層し、下部の第6～11層は柱穴の堆積状況を呈しており、上面の堆積土である第1～5層は抜き取り部分の堆積状況を呈する。堆積土中から自然礫2点を出した。

## SK-042 (図3-285)

X=91651.700, Y=11712.000 付近で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、 $91.0 \times 80.0 \times 16.0$  cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、北壁側が若干開いているもの、垂直に近い形で立ち上がっている。堆積土は2層に分層し、第2層はブロック主体の土が堆積し、上部の第1層は黒色土が自然堆積したものである。

## SK-043 (図3-285)

X=91670.800, Y=11693.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $86.0 \times 78.0 \times 13.0$  cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、SK-042と同様若干北側が開き気味ではあるが、垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は2層に分層し、自然堆積状況を呈する。

## SK-044 (図3-285)

X=91652.000, Y=11681.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $106.0 \times 96.0 \times 62.0$  cmを測る。断面形は円筒形を呈するが、壁上部の一部で角度を変え、開き気味に立ち上がる部分が見られる。堆積土は8層に分層し、底部付近は自然堆積であるが、中層から上位は埋め戻し等による人為堆積状況である。

## SK-045 (図3-285)

X=91652.000, Y=11693.500 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $78.0 \times 68.0 \times 76.0$  cmを測る。底面中央に幅の狭い小ビットがあり、南側には不整楕円形の掘り方が存在する。掘り方の規模は $115.0 \times 80.0 \times 8.0$  cmを

測る。断面形は円筒形を呈し、垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は8層に分層し、第8層の掘り方を切って掘削し、土坑内の堆積土は第1～7層が相当し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

## SK-046 (図3-286)

X=91688.200, Y=11689.500 付近で検出した。平面形は不整楕円形で、 $138.0 \times 120.0 \times 78.0$  cmを測る。また、底面中央にSK-045と同じく幅の狭い小ビットを検出している。断面形は円筒形を基本とするが、西側の一部が袋状を呈している。堆積土はビットを含め8層に分層し、壁際の崩落・流れ込みを含む自然堆積状況を呈する。

## SK-047 (図3-286)

X=91688.500, Y=11695.000 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $122.0 \times 93.0 \times 65.0$  cmを測る。底面中央にはSK-045・046と同様に幅の狭い小ビットを検出しており、本遺構とSK-046についてはコンターラインに直交するような同軸線上に位置し、SK-046のさらに東側には後述するSK-052が配置している。堆積土は6層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

## SK-048 (図3-286)

X=91684.000, Y=11697.400 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $138.0 \times 110.0 \times 16.0$  cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は4層に分層し、崩落・流れ込みの伴う自然堆積状況を呈する。

## SK-049 (図3-286)

X=91629.000, Y=11697.500 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $79.0 \times 67.0 \times 50.0$  cmを測る。断面形は袋状を呈し、小規模ながらフラスコ状土坑である。堆積土は4層に分層し、自然堆積状況を呈する。

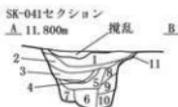
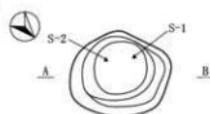
## SK-050 (図3-286)

X=91687.500, Y=11650.100 付近で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、 $122.0 \times 100.0 \times 33.0$  cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は5層に分層し、流れ込みによる自然堆積状況を呈する。

## SK-051 (図3-287)

X=91737.000, Y=11657.000 付近で検出した。斜面下方が削平により残存していない状況であるが、平面形は(不整楕円形)を呈し、 $(116.0)$

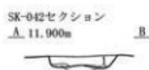
SK-041



SK-041

第1層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ10~20mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~20mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第3層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~7mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第5層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量
第6層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ5mm)少量
第7層	10YR5/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ5~7mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)多量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第8層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~25mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第9層	10YR5/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~30mm)中量
第10層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ロームブロック(φ20~70mm)多量, 炭化粒(φ5mm)微量
第11層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量

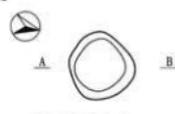
SK-042



SK-042

第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量

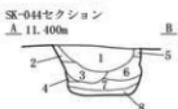
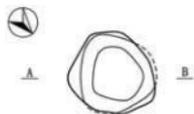
SK-043



SK-043

第1層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR5/1	暗灰色土	パミス粒(φ1~5mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量

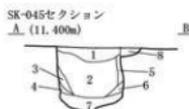
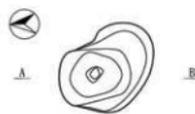
SK-044



SK-044

第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~7mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第2層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第3層	10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量, ロームブロック(φ10~30mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第4層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ5~9mm)中量
第5層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~7mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第6層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
第7層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第8層	10YR5/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ10~12mm)少量

SK-045



SK-045

第1層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)少量
第2層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)少量
第3層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ15mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第4層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ30mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第5層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~7mm)中量, 炭化粒(φ1mm)極微量
第6層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1mm)極微量
第7層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)微量
第8層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~7mm)少量

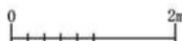
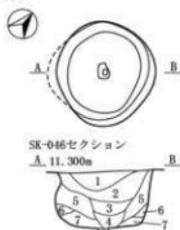


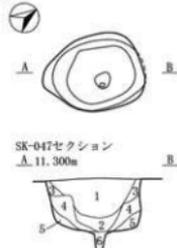
図 3-285 G-2 区 SK-8

SK-046



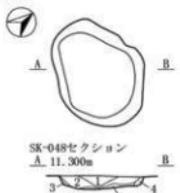
SK-046		
第1層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~5mm)微量
第2層	10YR2/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第3層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~9mm)少量
第4層	10YR2/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)少量
第5層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~50mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第6層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~100mm)多量
第7層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第8層	10YR5/3 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,10YR3/2黒褐色土少量

SK-047



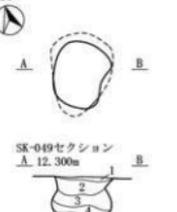
SK-047		
第1層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量
第3層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量
第4層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第5層	10YR3/1黒褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)少量
第6層	10YR2/2黒褐色土と5YR5/3にぶい黄褐色土の混合土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量

SK-048



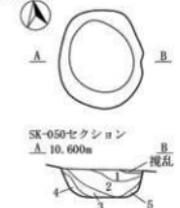
SK-048		
第1層	10YR3/1 黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)極微量,焼土粒(φ1~3mm)極微量
第2層	10YR4/2 灰黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量
第3層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~20mm)中量
第4層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量

SK-049



SK-049		
第1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第2層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第3層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR2/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~15mm)少量,10YR5/3にぶい黄褐色土少量

SK-050



SK-050		
第1層	10YR1.7/1 黒色土	パミス粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,10YR3/2黒褐色土少量
第3層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量,10YR5/2灰黄褐色土少量
第4層	10YR5/4 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,10YR3/2黒褐色土中量
第5層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,砂少量

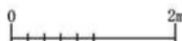
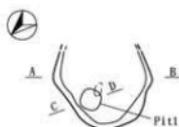


図 3-286 G-2 区 SK-9

SK-051



SK-051セクション  
A. 10.500m

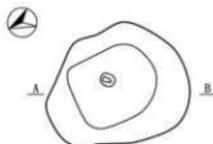
SK-051Pit1セクション  
C. 10.500m



SK-051

- |      |               |  |
|------|---------------|--|
| 第1層  | 10YR3/3 暗褐色土  | パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量                     |
| 第2層  | 10YR3/2 黒褐色土  | パミス粒(φ1~3mm)微量                                   |
| 第3層  | 10YR4/2 灰黄褐色土 | パミス粒(φ1~5mm)微量                                   |
| Pit1 |               |  |
| 第1層  | 10YR2/2 黒褐色土  | パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量 |

SK-052



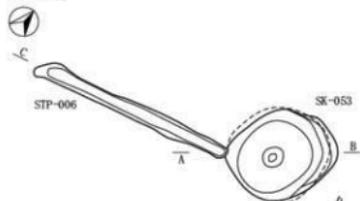
SK-052セクション  
A. 10.900m



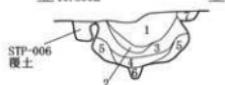
SK-052

- |      |                 |                                     |
|------|-----------------|-------------------------------------|
| 第1層  | 10YR2/1 黒色土     | パミス粒(φ5~9mm)微量,焼土粒(φ5~9mm)微量        |
| 第2層  | 10YR1/1 黒色土     | 焼土粒(φ1~2mm)微量                       |
| 第3層  | 10YR2/2 黒褐色土    | パミス粒(φ1~5mm)中量,パミスブロック(φ20~30mm)少量  |
| 第4層  | 7.5YR2/1 黒色土    | 焼土層が腐状に堆積                           |
| 第5層  | 10YR2/1 黒色土     | パミス粒(φ1~9mm)微量                      |
| 第7層  | 2.5Y7/4 浅黄色土    | パミス粒(φ1mm)微量                        |
| 第9層  | 10YR5/2 灰黄褐色土   | 黒褐色土(10YR2/2)腐状に堆積,焼土粒(φ5~5mm)微量    |
| 第9層  | 10YR2/2 黒褐色土    | パミス粒(φ1~3mm)微量                      |
| 第10層 | 10YR5/3 にぶい黄褐色土 | パミスブロック(φ10~15mm)少量,黒褐色土(10YR2/2)少量 |
| 第11層 | 10YR2/2 黒褐色土    |                                     |
| 第12層 | 10YR2/6 明黄褐色土   |                                     |
| 第12層 | 10YR2/2 黒褐色土    | 10YR7/6(明黄褐色土の間層)                   |
| 第13層 | 10YR2/1 黒色土     | パミス粒(φ1mm)微量                        |
| 第14層 | 10YR6/4 にぶい黄褐色土 | 焼灰色土(10YR4/1)粒(φ5~9mm)微量            |

SK-053



SK-053セクション  
A. 10.800m



STP-006・SK-053エレベーション  
C. 10.800m



SK-053

- |     |                |                                    |
|-----|----------------|------------------------------------|
| 第1層 | 10YR2/1 黒色土    | パミス粒(φ1~9mm)微量,焼土粒(φ2~3mm)微量       |
| 第2層 | 10YR2/1 黒色土    | パミス粒(φ1~5mm)微量                     |
| 第3層 | 10YR5/3にぶい黄褐色土 | 中量                                 |
| 第4層 | 10YR2/1 黒色土    | パミス粒(φ1~9mm)少量                     |
| 第4層 | 10YR2/1 黒色土    | パミス粒(φ1~9mm)微量                     |
| 第5層 | 7.5YR3/1 黒褐色土  | パミス粒(φ1~9mm)微量                     |
| 第5層 | 10YR5/3にぶい黄褐色土 | が腐状に混入                             |
| 第6層 | 10YR3/1 黒褐色土   | パミス粒(φ1~2mm)微量                     |
| 第7層 | 10YR3/1 黒褐色土   | パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ50~70mm)微量 |

SK-054



SK-054セクション  
A. 11.100m



SK-054

- |     |                                |                              |
|-----|--------------------------------|------------------------------|
| 第1層 | 10YR3/2 黒褐色土                   | パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量 |
| 第2層 | 10YR3/2黒褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土 | パミス粒(φ1~9mm)少量               |
| 第3層 | 10YR3/3 暗褐色土                   | パミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)微量 |



図 3-287 G-2 区 SK-10

×106.0×8.0cmを測る。また、北壁寄りの底面からビット1基を検出した。断面形は開き気味に立ち上がる形状である。堆積土は3層に分層し、自然堆積状況を呈する。

#### SK-052 (図3-287)

X=91688.800, Y=-11675.000付近で検出した。平面形は不整形円形を呈し、176.0×146.0×57.0cmを測る。底面中央付近に小ビット1基を検出した。また、断面形は袋状を呈している。堆積土は15層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。前述したとおり、本遺構の斜面上方に相当する西側にはSK-046・047が配置しており、本遺構とほぼ同軸線上に位置し、中央に幅の狭い小ビットが掘り込まれるなど共通する要素がある。

#### SK-053 (図3-287)

X=91687.800, Y=-11665.200付近で検出した。STP-006と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は不整形円形を呈し、126.0×104.0×62.0cmを測る。底面中央には小

ビットが掘削されている。断面形は袋状を呈し、フラスコ状を呈する。堆積土は掘り方部分を除くと6層で、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。前述のSK-052のさらに東側の斜面下方に位置しており、ほぼ同軸線上に位置することから本遺構についても他の3基と同様近接した時期の所産である可能性が高い。

#### SK-054 (図3-287)

X=91700.400, Y=-11669.800付近で検出した。平面形は不整形長円形を呈し、121.0×83.0×33.0cmを測る。断面形は一部袋状に入る部分が見られるがほとんどは垂直に近い形で立ち上がっている。堆積土は3層に分層し、自然堆積状況を呈する。

## 2. 溝状坑 (Tビット)

#### STP-005 (図3-288)

X=91706.400, Y=-11650.000付近で検出した。平面形は溝状を呈し、276.0×32.0×116.0cmを測る。断面形は長軸方向が袋状、短軸方向は直立気味に立ち上がり、開口部の一部が

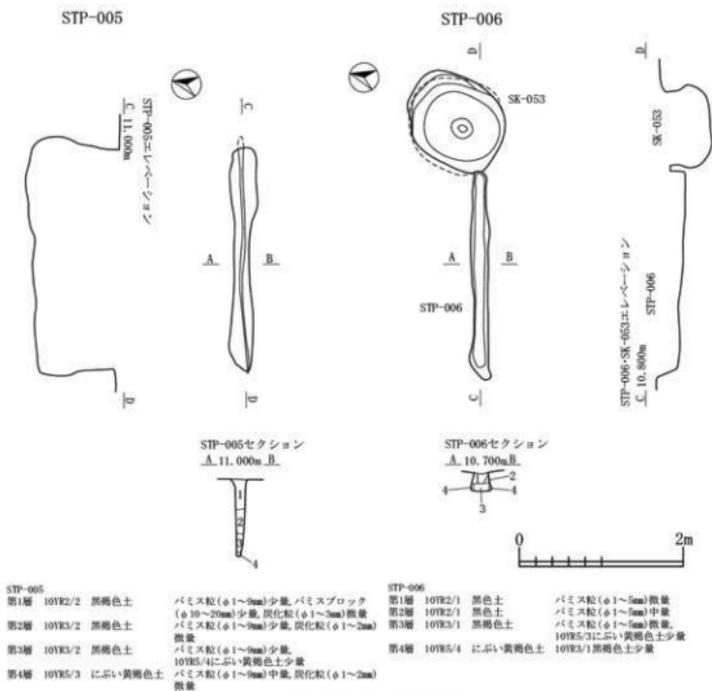


図3-288 G-2区STP

開き気味に立ち上がっている。堆積土は4層に分層し、自然堆積状況を呈する。

#### STP-006 (図3-288)

X=91687.000, Y=-11667.000 付近で検出した。SK-053と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は溝状を呈し、 $257.0 \times 23.0 \times 21.0$  cmを測る。削平を受けているが、断面形は台形状に若干入り込んだ形状で、堆積土は4層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

### 3. その他の遺構

#### SX-004 (図3-289)

X=91664.000, Y=-11581.000 付近で検出した。斜面下方に相当すると考えられる北側が削平されており、方形を呈すると考えられる掘り込みとB-Tm火山灰・焼土範囲を検出している。堅穴建物の可能性が高いが、記録情報が少ないため、調査時の遺構略号により、本項で記載した。平面形は(不整形)を呈していたものと見られ、 $654.0 \times (271.0) \times 10.0$  cmを測る。断面形は削平のためほとんど壁が残存していない状況であるが、開き気味に立ち上がる。掘り込み内からピット2基を検出しており、 $Pit1=25 \times 17 \times 9$  cm、 $Pit2=33 \times 30 \times 20$  cmを測る。Pit2の1層から枝状の自然木が出土している。堆積土は3層に分層し、床(底)面直上にB-Tm火山灰が堆積している。また、別地点の床面直上に堆積する第2層は焼土層である。

#### SX-005 (図3-290)

X=91693.300, Y=-11620.500 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、 $84.0 \times 57.0 \times 8.0$  cmを測る。断面形は皿形で、壁は開き気味に立ち上がる。なお、平面図上で焼土範囲として記録されている範囲については焼土粒の混入範囲で、焼土化した記録図ではない。堆積土は2層に分層し、第1層に炭化・焼土粒が混入する。

#### SX-010 (図3-290)

X=91670.500, Y=-11662.700 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、 $132.0 \times 62.0 \times 28.0$  cmを測る。断面形は西側が直立的、東側が開き気味、南北が緩やかに立ち上がる形状を呈する。堆積土は2層に分層し、埋め戻しによる人為堆積状況を呈する。

#### SX-011 (図3-290)

X=91634.000, Y=-11728.000 付近で検出した。南側の一部が擾乱により破壊されているが、平面形

は不整形を呈し、 $453.0 \times (165.0) \times 33.0$  cmを測る。断面形は直立気味に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がある。堆積土は4層に分層し、流れ込みによる自然堆積状況を呈する。

#### SX-012 (図3-290)

X=91624.200, Y=-11727.000 付近で検出した。擾乱により南側の一部が破壊されているが、平面形は不整形を呈し、 $368.0 \times (180.0) \times 61.0$  cmを測る。断面形は段状を呈し、壁は開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は4層に分層し、底面直上に地山起源の土が充填され、黒色土が自然堆積し、その上位に人為的な埋め戻し土が堆積している。

#### SX-013 (図3-291)

X=91627.800, Y=-11726.000 付近で検出した。北側が擾乱により破壊されているが、平面形は不整形を呈し、 $142.0 \times (76.0) \times 11.0$  cmを測る。断面形は皿形を呈し、開き気味に立ち上がる。

#### SX-014 (図3-291)

X=91632.000, Y=-11700.000 付近で検出した。平面形は小判形を呈し、 $134.0 \times 96.0 \times 37.0$  cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と壁上部の一部で角度を変え緩やかに立ち上がる部分が見られる箇所がある。堆積土は2層に分層し、自然堆積状況を呈する。

#### SX-015 (図3-291)

X=91723.000, Y=-11665.500 付近で検出した。斜面下方が一部削平しているが、平面形は不整形を呈し、 $133.0 \times (93.0) \times 44.0$  cmを測る。断面形は北西側が袋状に入り込み、傾斜した形状を呈している。堆積土は4層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

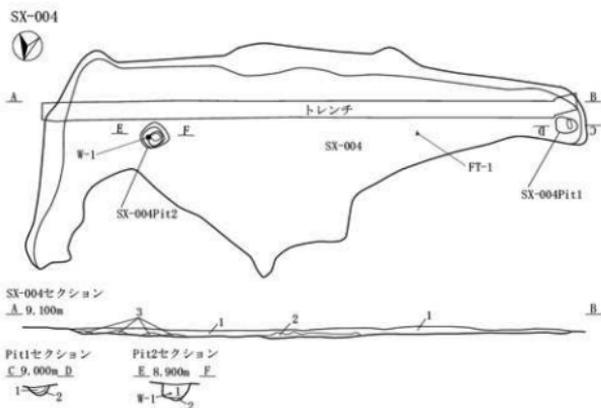
#### SX-016 (図3-291)

X=91621.500, Y=-11676.000 付近で検出した。平面形は不整形を呈し、 $162.0 \times 76.0 \times 34.0$  cmを測る。断面形は段状に立ち上がり、壁上部の一部で角度を変え開き気味に立ち上がる部分が見られる。

### 4. 掘立柱建物跡

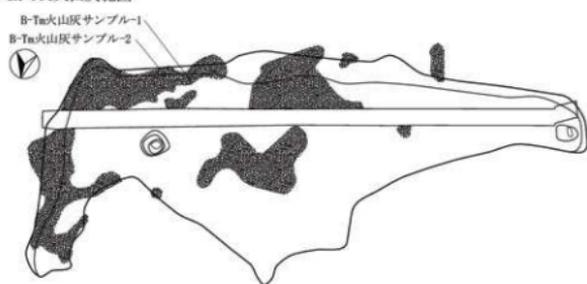
#### SB-001 (図3-292・293)

X=91663.000, Y=-11700.000 付近で検出した。調査時にPit1~31まで認定し、精査している



SX-004			
第1層	10YR1, 7/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)少量, 10YR2/2黒褐色土少量
第2層	7.5YR2/2	黒褐色土	焼土粒(φ1~2mm)少量, 焼土ブロック(φ10~15mm)中量(焼土層)
第3層	10YR3/1	黒褐色土	B-Tn火山灰中量(火山灰層)
Pit1			
第1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)微量
第2層	2.5Y2/1	黒色土	パミル粒(φ1~2mm)微量, ローム粒(φ1~5mm)少量
Pit2			
第1層	10YR1, 7/1	黒色土	
第2層	2.5Y5/1	黄灰色砂	10YR8/2灰白色土ブロック(φ10~15mm)微量

## SX-004火山灰範囲



## SX-004焼土範囲

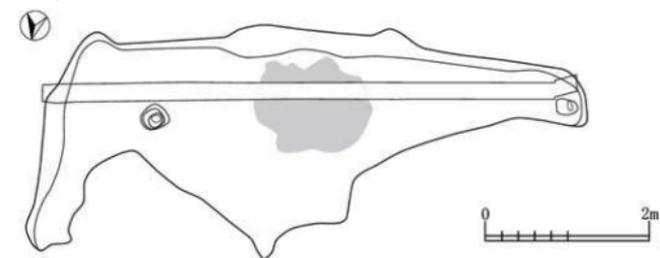


図 3-289 G-2 区 SX-1

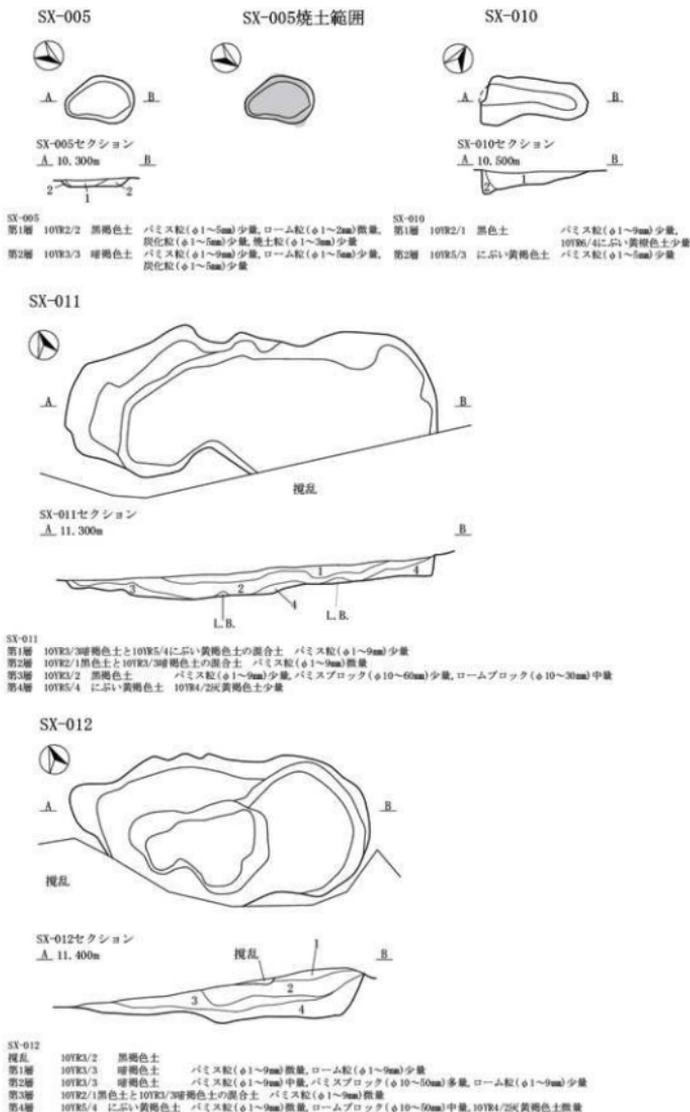


図 3-290 G-2 区 SX-2

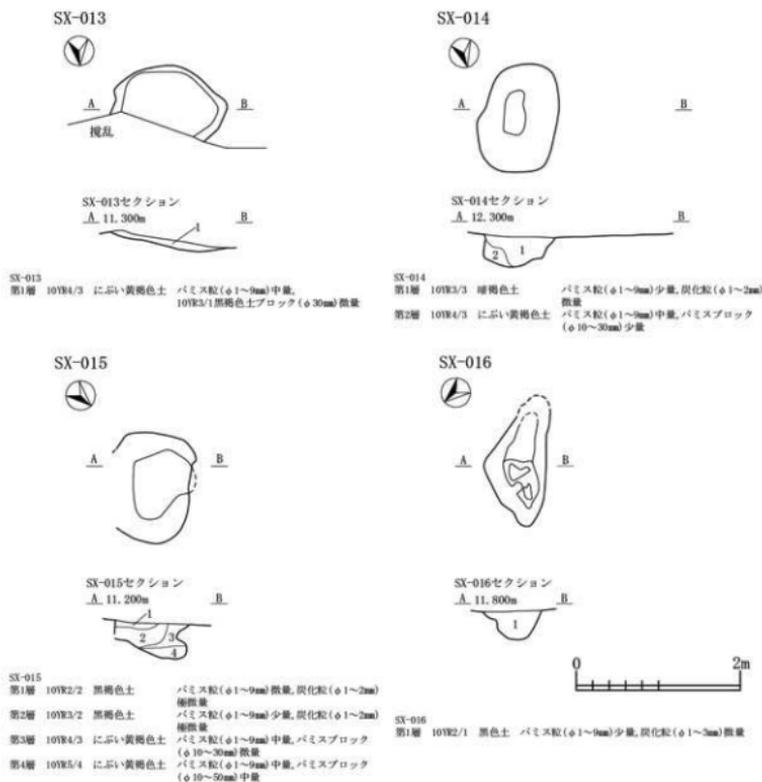


図 3-291 G-2 区 SX-3

が、Pit 30・31については軸線上には並ばない状況で、逆に調査時にSP-196・206と取り扱ったピットが本建物の軸線上に並ぶ。南東側のPit 2・3、4・5、6・7など重複関係にあり、建替がなされた可能性があり、中村隼人氏によって二段階の建物に認定された。旧段階がPit 2・5・7・9・11・12・16・18・21・23・24・26・28・29, SP-196、新段階がPit 1・3・4・6・8・10・13・14・15・17・19・20・22・23・25・26・27, SP-196・206が該当する。堆積土中からビニール等も出土していることから限りなく現代に近い建物跡である可能性が高い。

### 5. ピット (図 3-294 ~ 339)

調査区内から169基検出した。各ピットの情報は遺構観察表にまとめ、個別の記述は行わない

が、一部のピットは前述のSB-001の軸線上に並ぶものや、分割図Lに図示したSP-035~040・056のように軸線が不均一であるが、掘立柱建物状に並ぶものも見られる。SP-029は削平によりほとんど残存していない状況であるが、底面直上から縄文時代後期前葉の十腰内I式の壺形土器の体~底部にかけての破片が出土している。

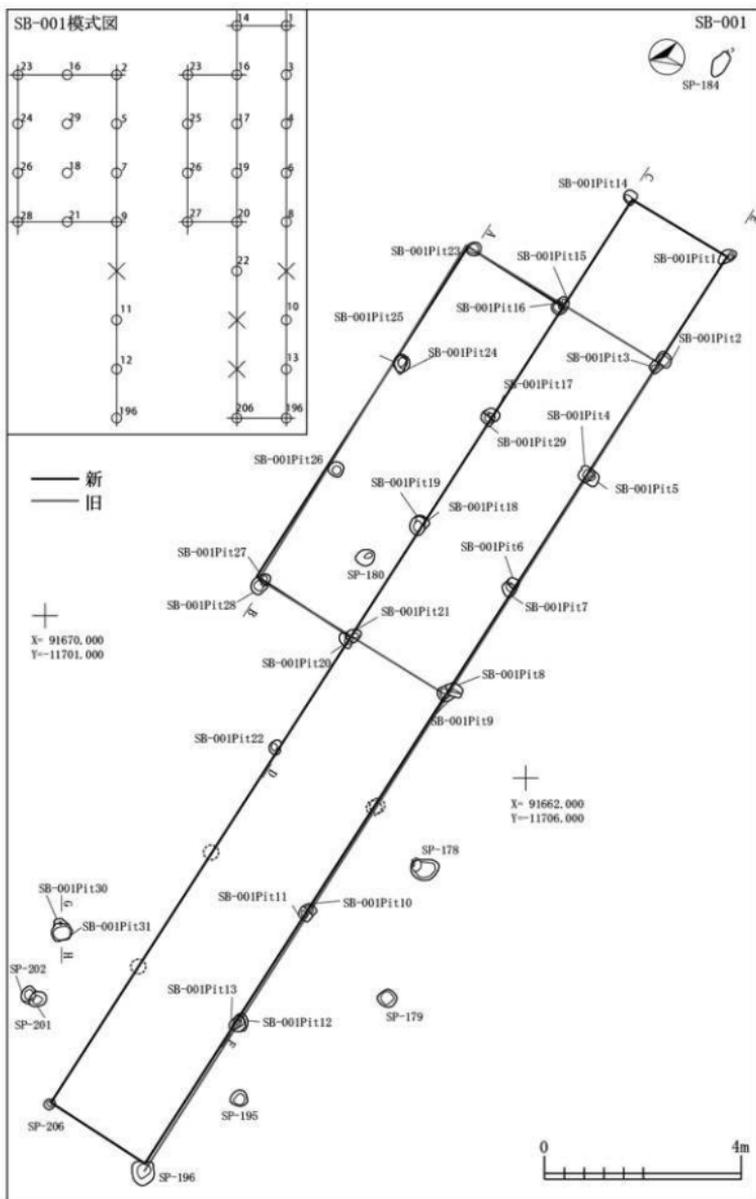


図 3-292 G-2 区 SB-001-1

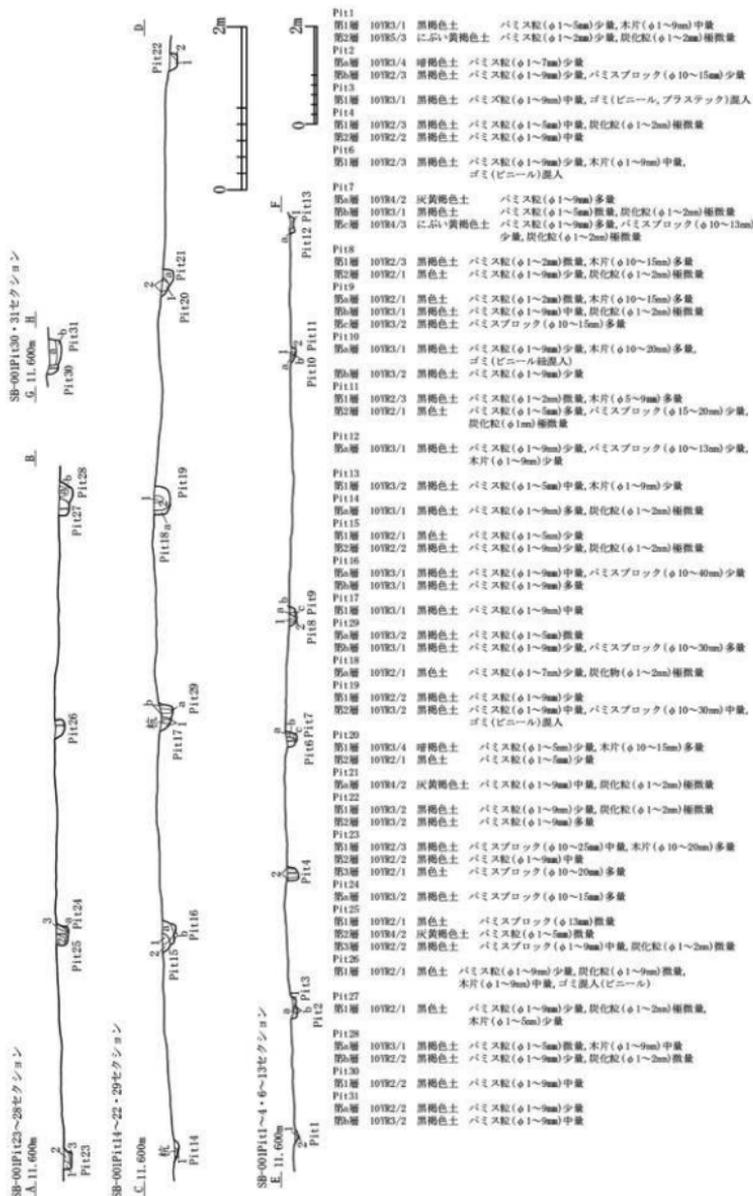


図 3-293 G-2区 SB-001-2

G-2区 SP配置図

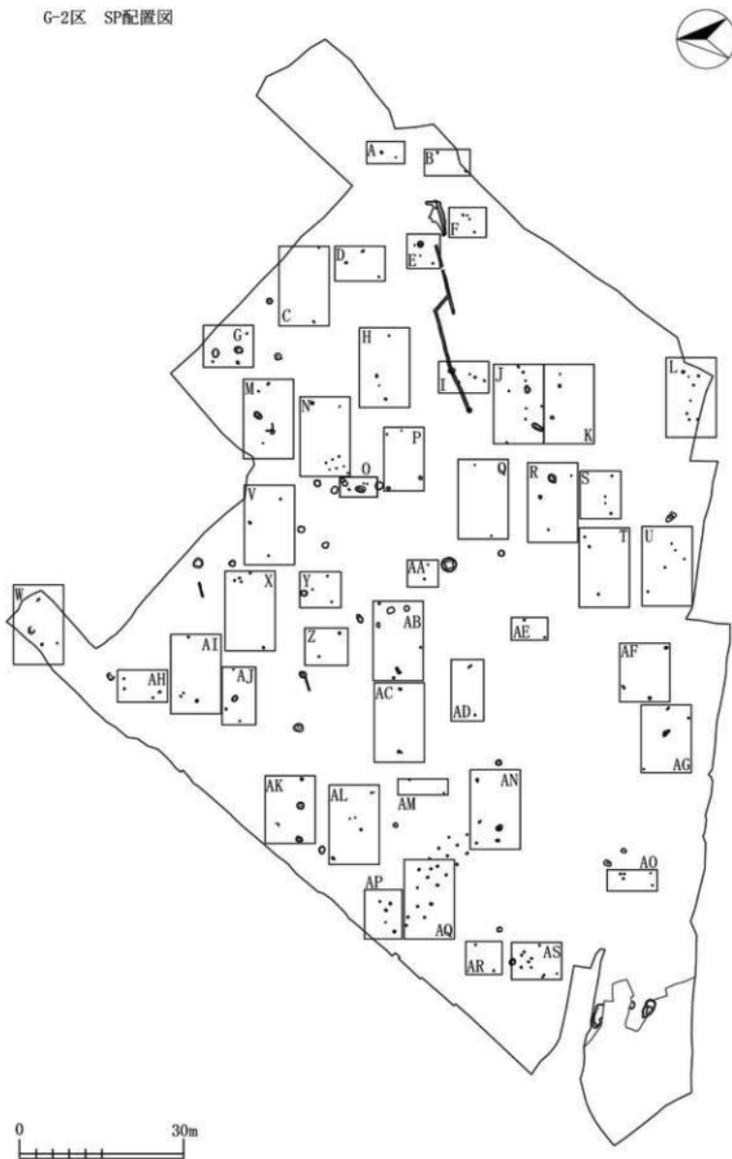
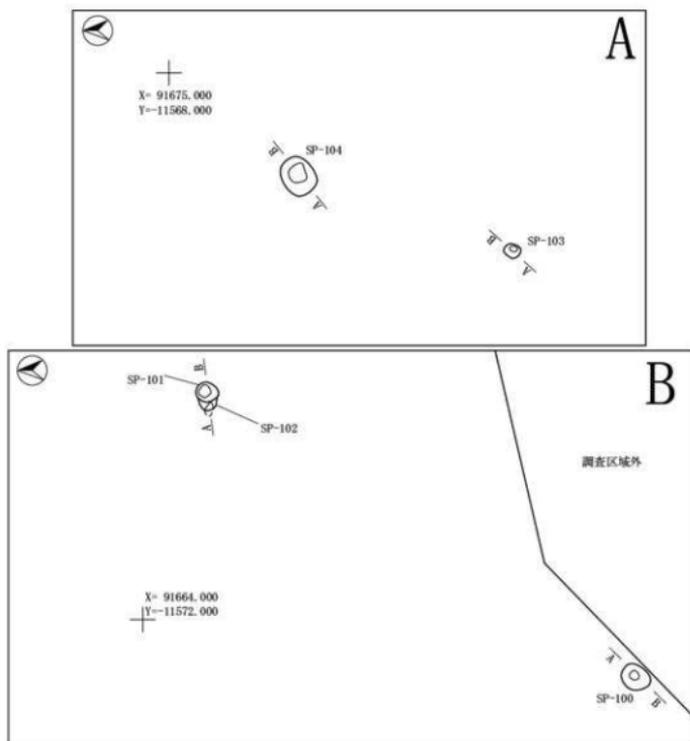


図 3-294 G-2区 SP-1



A SP-103セクション  
A 9.000m B



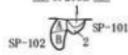
SP-104セクション  
A 8.900m B



B SP-100セクション  
A 9.300m B



SP-101・102セクション  
A 9.200m B



SP-103			
第1層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~3mm)少量
SP-104			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)極微量
第2層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~9mm)微量
第3層	2.5Y2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量
第4層	2.5Y3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量、 ローム粒(φ1~9mm)少量
第5層	2.5Y2/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)中量

SP-100			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量、ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-101			
第1層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量、パミスブロック(φ10~30mm)中量、 ローム粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量、パミスブロック(φ10~30mm)少量、 ローム粒(φ1~3mm)少量
SP-102			
第A層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~2mm)微量
第B層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)少量、ローム粒(φ1~2mm)微量

図 3-295 G-2 区 SP-2

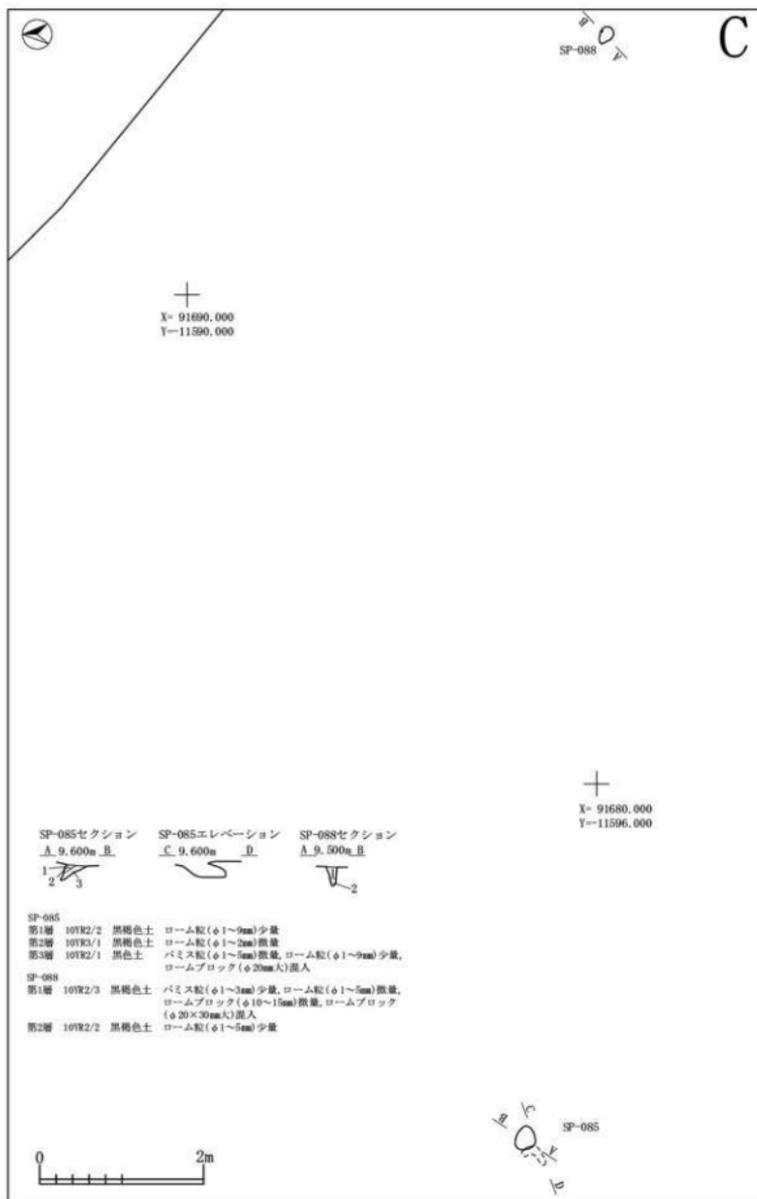


図 3-296 G-2 区 SP-3

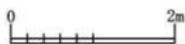
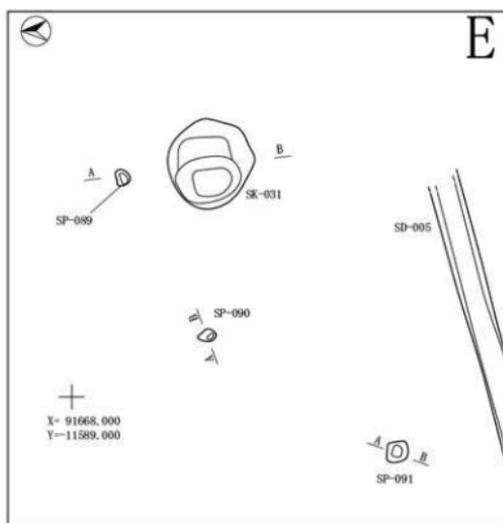
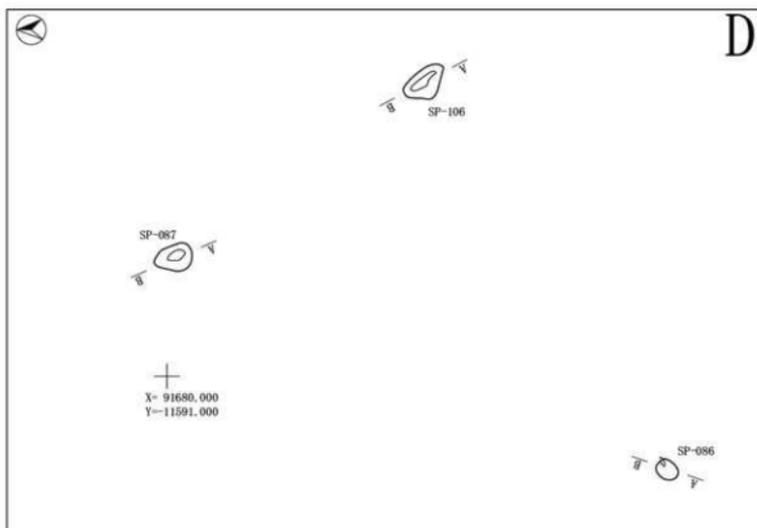


图 3-297 G-2 区 SP-4

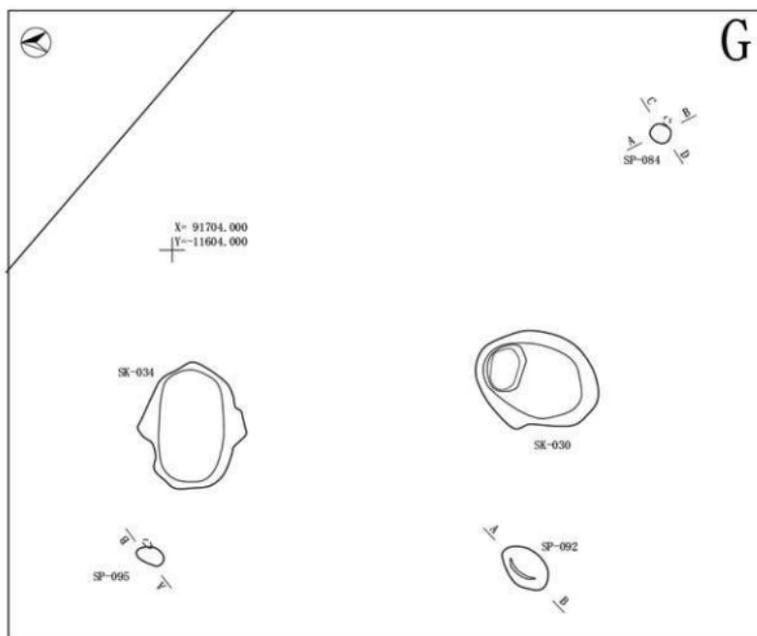
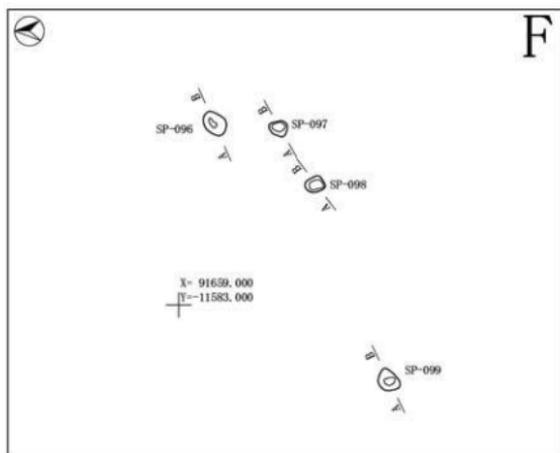


図 3-298 G-2 区 SP-5

## D

SP-086セクション      SP-087セクション      SP-106セクション  
 A. 9.400m B.      A. 9.400m B.      A. 9.200m B.



SP-086			
第1層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)少量, ローム粒(φ5~9mm)微量, ロームブロック(φ10mm大)混入	
第2層	10YR2/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)微量, ロームブロック(φ10mm大)混入	
SP-087			
第1層	10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)微量, ロームブロック(φ20×80mm大)混入	
第2層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量	
SP-106			
第1層	10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量	
第2層	10YR3/1 黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)中量	

## E

SK-031・SP-089セクション      SP-090セクション      SP-091セクション  
 A. 9.300m B.      A. 9.200m B.      A. 9.200m B.



SK-031			
第1層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)中量, 同色のロームブロック(φ10~50mm)少量	
第1層	10YR1.7/1 黒色土	ローム粒(φ1~2mm)極微量	
第5層	2.5Y2/1 黒色土	ローム粒(φ1~2mm)極微量	
第5層	10YR1.7/1 黒色土	10YR4/1暗灰色土(φ10mm大)混入	
第2層	2.5Y2/1 黒色土	バミス粒(φ1~2mm)少量	
第5層	10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~2mm)微量	
第5層	5Y2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量	
SP-089			
第1層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量	
第2層	10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)中量	
SP-090			
第1層	10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)少量, 10YR3/2黒褐色土中量	
第2層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10mm)微量	
SP-091			
第1層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量, ローム粒(φ1~3mm)微量, ロームブロック(φ15mm大)混入	
第2層	10YR2/2 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)中量, ロームブロック(φ15mm大)混入	
第3層	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~20mm)多量	

## F

SP-096セクション      SP-097セクション      SP-098セクション      SP-099セクション  
 A. 9.200m B.      A. 9.200m B.      A. 9.200m B.      A. 9.200m B.



SP-096			
第1層	10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量	
第2層	10YR5/4 にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量	
SP-097			
第1層	10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)少量, ロームブロック(φ10~30mm)少量	
SP-098			
第1層	10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~3mm)微量	
第2層	10YR5/4 にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量	
SP-099			
第1層	10YR2/1 黒色土	ローム粒(φ1~2mm)微量	

## G

SP-084セクション      SP-084エレベーション      SP-092セクション      SP-095セクション  
 A. 10.200m B.      C. 10.200m D.      A. 10.300m B.      A. 10.500m B.



SP-084			
第1層	10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, ローム粒(φ5~9mm)微量	
第2層	10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量, ローム粒(φ1~5mm)中量, ロームブロック(φ10~15mm)微量	
SP-092			
第1層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)中量, 炭化粒(φ1~5mm)微量	
第2層	10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量	
第3層	10YR3/4 暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量, ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量	
第4層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1~9mm)多量, ロームブロック(φ10~100mm)多量	
第5層	10YR6/3 にぶい黄褐色土	(ローム層)	
SP-095			
第1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量	



図 3-299 G-2 区 SP-6

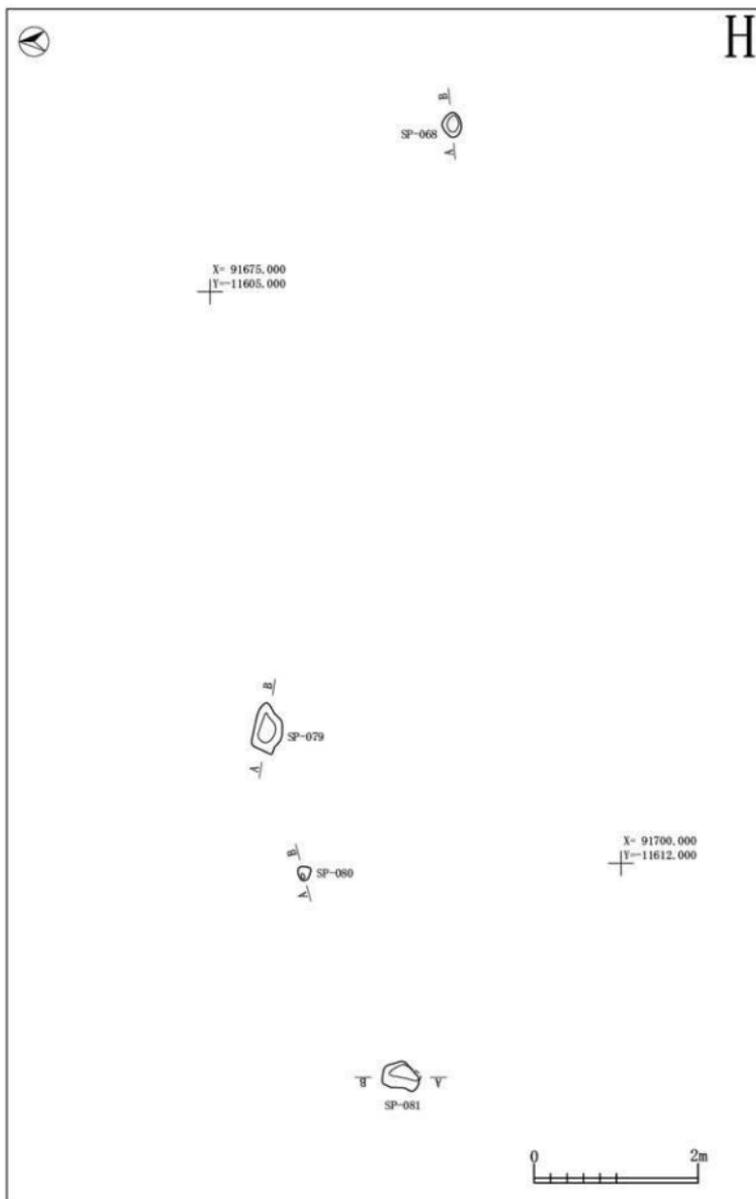
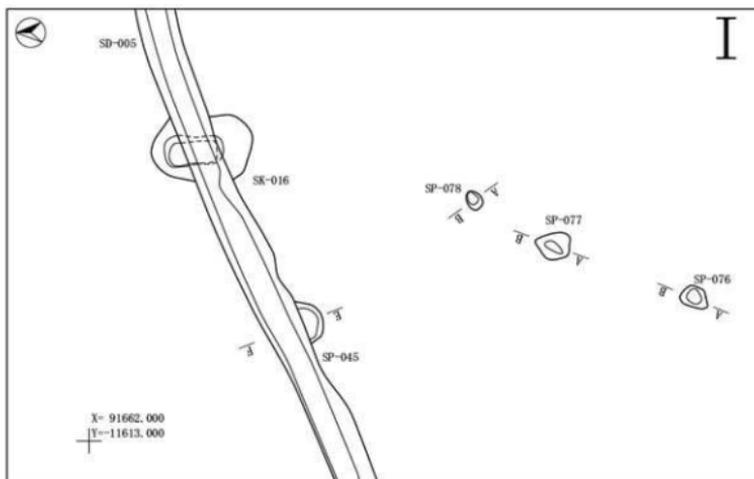


図 3-300 G-2 区 SP-7


 Ⅲ-2  
 G-2区

H

 SP-068セクション  $\Delta$  9.500m  $\bar{B}$       SP-079セクション  $\Delta$  9.800m  $\bar{B}$       SP-080セクション  $\Delta$  9.800m  $\bar{B}$       SP-081セクション  $\Delta$  9.800m  $\bar{B}$ 


- SP-068  
 第1層 10YK3/1 黒褐色土 バミズ粒極微量, ローム粒( $\phi$ 1~5mm)微量, ロームブロック( $\phi$ 10~12mm)微量, 10YR2/3黒褐色土少量
- SP-079  
 第1層 10YK2/2 黒褐色土 バミズ粒( $\phi$ 1~5mm)少量, ローム粒( $\phi$ 1~9mm)微量, ロームブロック( $\phi$ 10~20mm)微量  
 第2層 10YK2/3 黒褐色土 バミズ粒( $\phi$ 1~3mm)少量, ローム粒( $\phi$ 1~9mm)少量, ロームブロック( $\phi$ 50×120mm大)塵入  
 第3層 10YK3/1 黒褐色土 バミズ粒( $\phi$ 1~5mm)少量, ローム粒( $\phi$ 1~5mm)少量, ロームブロック( $\phi$ 10mm)微量
- SP-080  
 第1層 10YK3/2 黒褐色土 ローム粒( $\phi$ 1~3mm)極微量, ロームブロック( $\phi$ 10mm大)塵入  
 第2層 10YK2/2 黒褐色土 バミズ粒極微量, ローム粒( $\phi$ 1~9mm)微量
- SP-081  
 第1層 10YK2/1 黒褐色土 バミズ粒( $\phi$ 1~3mm)微量, ローム粒( $\phi$ 1~9mm)中量, ロームブロック( $\phi$ 10~15mm)少量  
 第2層 10YK3/1 黒褐色土 バミズ粒極微量, ローム粒( $\phi$ 1~9mm)少量

I

 SD-005・SP-045セクション  $\bar{E}$  9.400m  $\bar{F}$       SP-076セクション  $\Delta$  9.600m  $\bar{B}$       SP-077セクション  $\Delta$  9.600m  $\bar{B}$       SP-078セクション  $\Delta$  9.500m  $\bar{B}$ 


- SD-005  
 第a層 10YK2/1 黒褐色土 5Y5/1灰色土粒( $\phi$ 1~5mm)微量  
 第b層 10YK2/1 黒褐色土 5Y5/1灰色土粒( $\phi$ 1~9mm)少量  
 第c層 5YR6/2 灰オリーブ色土 砂多量
- SP-045  
 第a層 10YK2/1 黒褐色土 5Y5/1灰色土粒( $\phi$ 3~9mm)微量
- SP-076  
 第1層 10YK7/1 黒褐色土 10YK7/1灰白土粒( $\phi$ 1~5mm)少量, 10YR3/3暗褐色土粒( $\phi$ 3~5mm)微量  
 第2層 10YK3/2 黒褐色土 ローム粒( $\phi$ 1~3mm)少量, 10YK2/3黒褐色土粒( $\phi$ 5~9mm)微量
- SP-077  
 第1層 10YK3/1 黒褐色土 ローム粒( $\phi$ 1~3mm)少量, 10YR6/2R黄褐色土粒( $\phi$ 1~5mm)少量  
 第2層 10YK2/1 黒褐色土 10YR6/3に多い黄褐色土粒( $\phi$ 1~9mm)中量, 同色ブロック( $\phi$ 10~12mm)少量
- SP-078  
 第1層 10YR1.7/1 黒褐色土 バミズ粒極微量, ローム粒( $\phi$ 1~3mm)少量, 10YR5/1褐色土粒( $\phi$ 1~5mm)少量

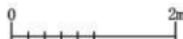


図 3-301 G-2区 SP-8

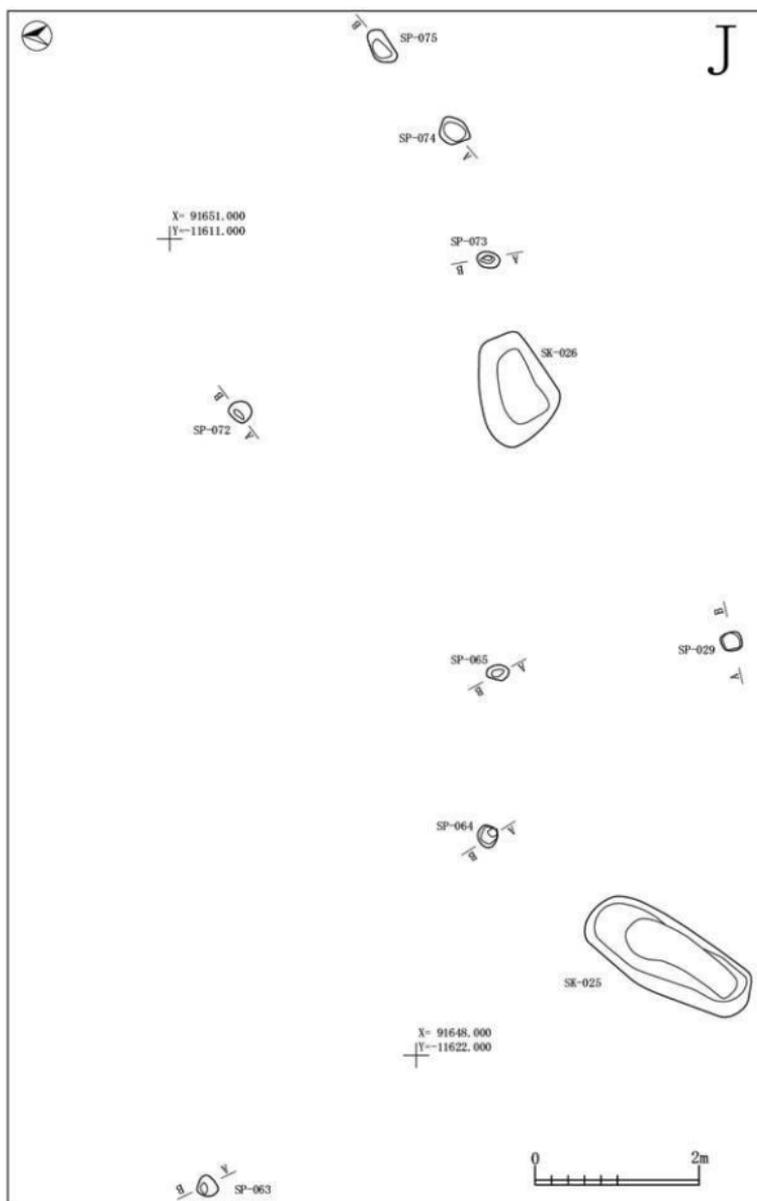


図 3-302 G-2区 SP-9



图-2  
G-2区

图 3-303 G-2 区 SP-10

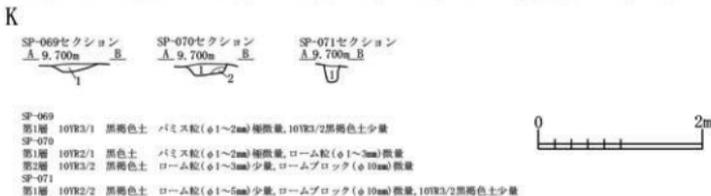
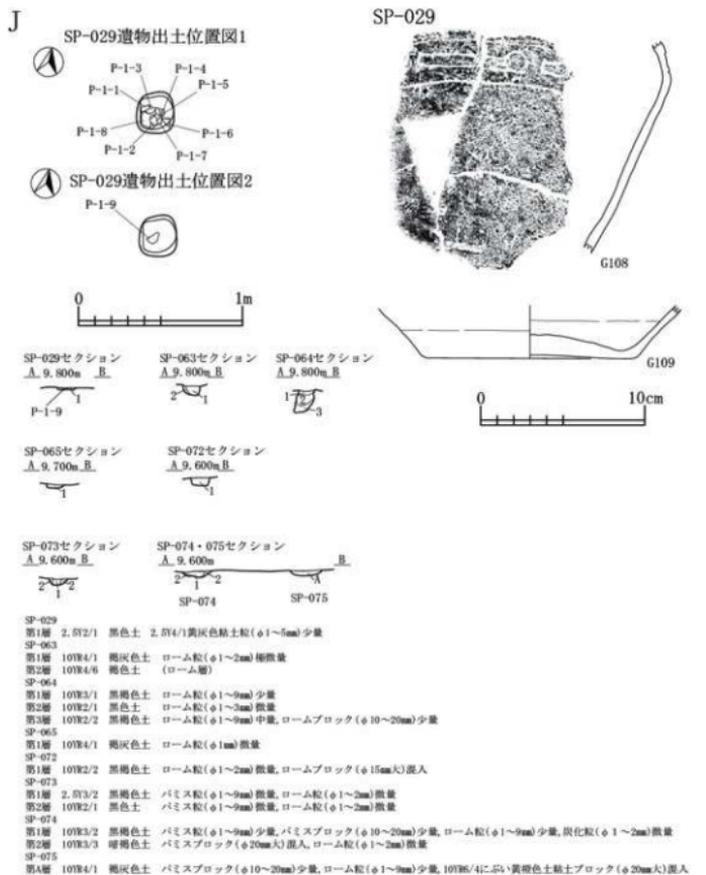


図 3-304 G-2 区 SP-11

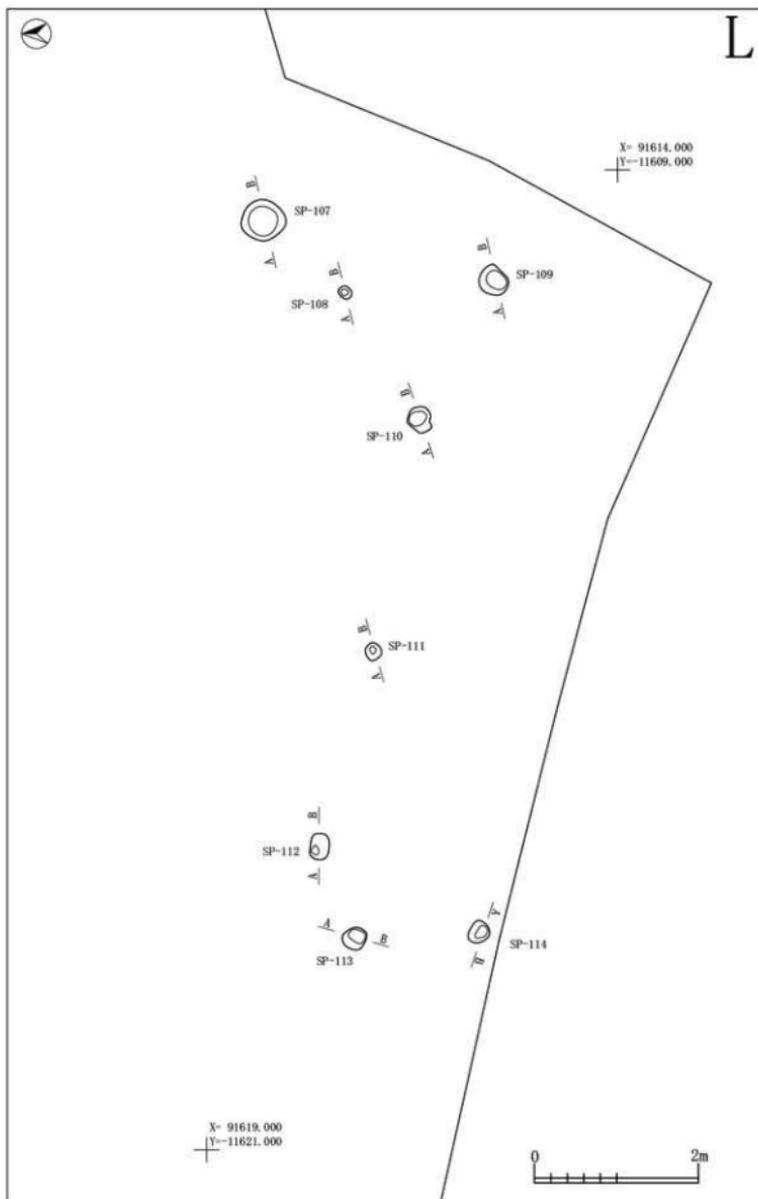


图-2  
G-2区

图 3-305 G-2 区 SP-12

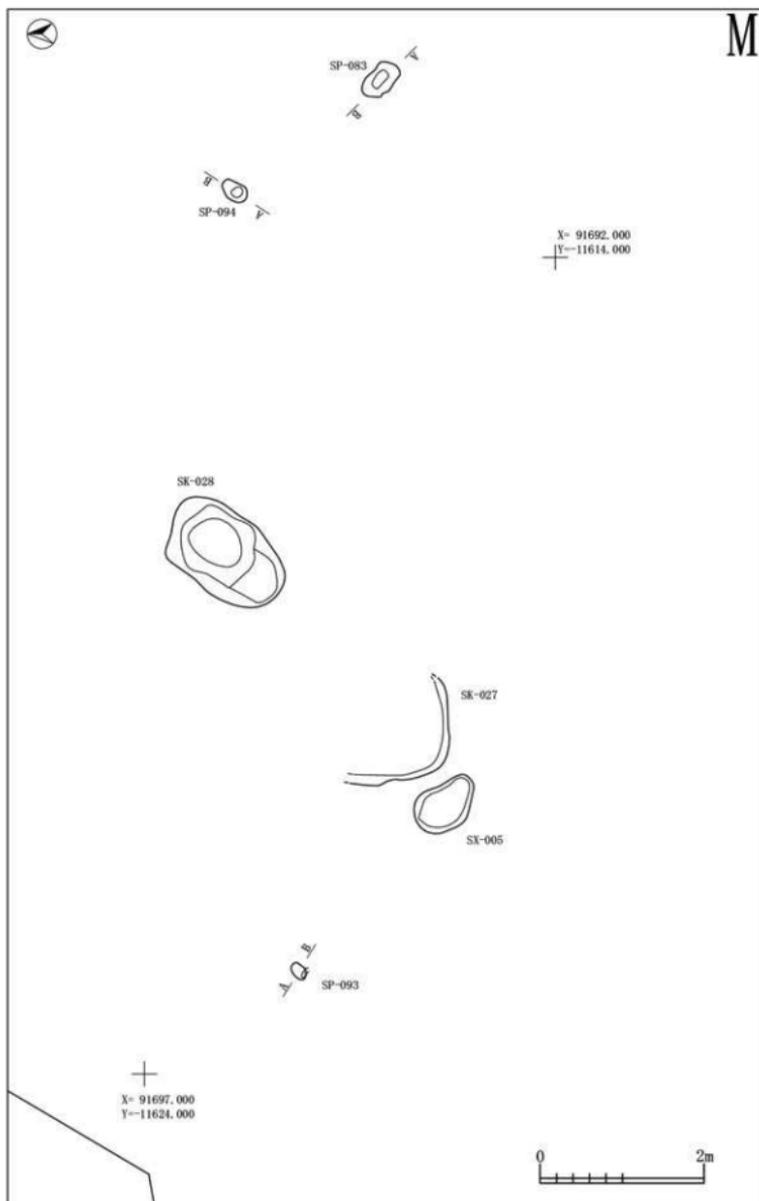
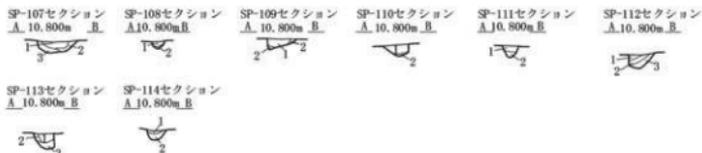


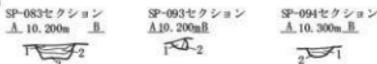
図 3-306 G-2 区 SP-13

## L



SP-107	第1層 10YK2/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~30mm)少量
	第2層 10YK4/3	にぶい黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)極多量,バミズブロック(φ10~20mm)少量
	第3層 10YK6/3	にぶい黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)極多量
SP-108	第1層 10YK3/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量
	第2層 10YK5/4	にぶい黄褐色土	バミズ粒(φ1~3mm)少量
SP-109	第1層 10YK3/1	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量
	第2層 10YK4/2	灰黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)少量
SP-110	第1層 10YK3/1	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量
	第2層 10YK2/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ30mm)混入
SP-111	第1層 10YK3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YK3/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~3mm)微量,バミズブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)微量
SP-112	第1層 10YK3/1	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量
	第2層 10YK4/2	灰黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)多量,バミズブロック(φ10~20mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)少量
	第3層 10YK2/1	黒色土	バミズ粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-113	第1層 10YK2/1	黒色土	バミズ粒(φ1~5mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量
	第2層 10YK2/2	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~20mm)少量,ローム粒(φ1~3mm)少量
	第3層 10YK4/3	にぶい黄褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)極多量,バミズブロック(φ10~40mm)多量
SP-114	第1層 10YK2/1	黒色土	バミズ粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YK3/1	黒褐色土	バミズ粒(φ1~5mm)多量

## M



SP-083	第1層 10YK1/1	黒褐色土	バミズ粒(φ1~3mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量
	第2層 10YK2/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)極微量
	第3層 10YK3/3	碌褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)多量,バミズブロック(φ10~30mm)多量
SP-093	第1層 10YK2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)少量,バミズ粒(φ1~9mm)少量
	第2層 10YK4/3	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ1~3mm)少量,バミズ粒(φ1~9mm)少量
SP-094	第1層 10YK3/1	黒褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)微量,バミズブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YK3/4	碌褐色土	バミズ粒(φ1~9mm)多量,バミズブロック(φ10~30mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)中量

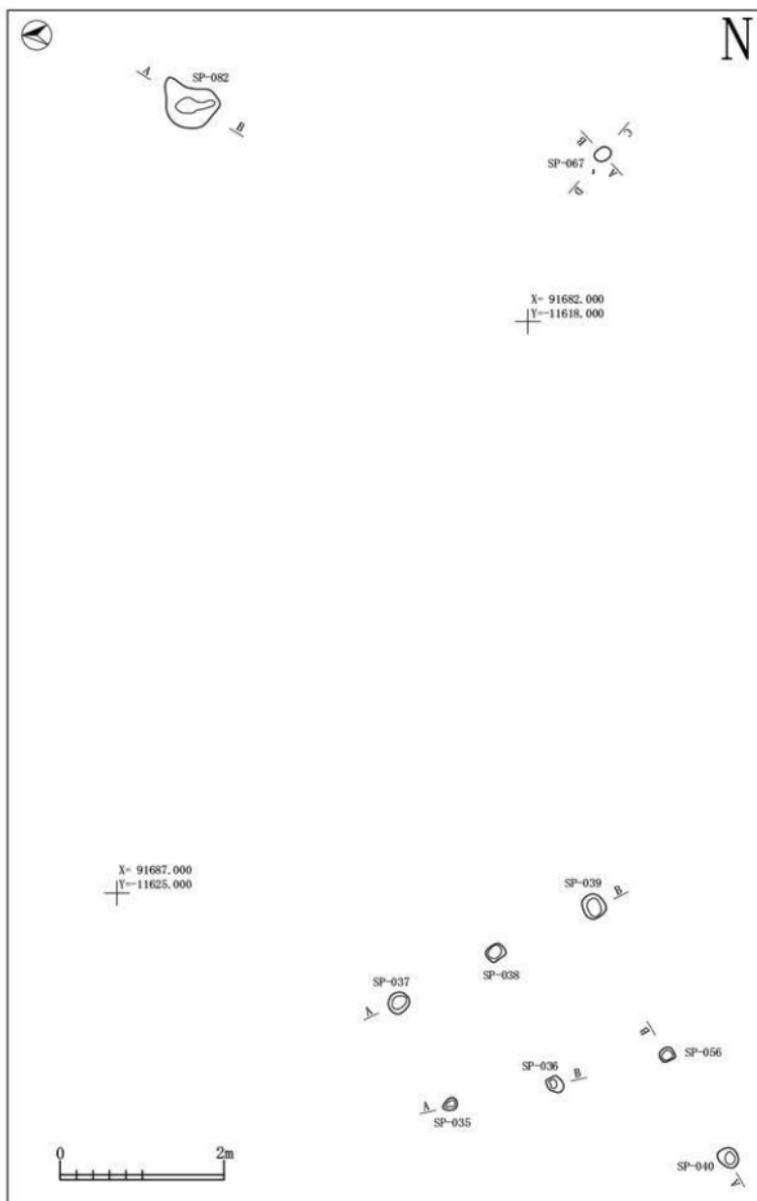
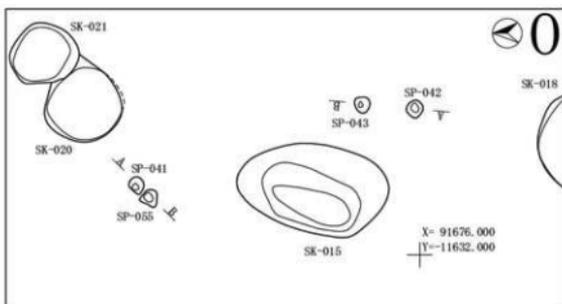
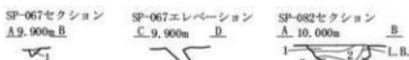
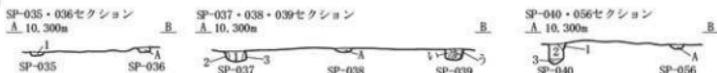


図 3-308 G-2 区 SP-15

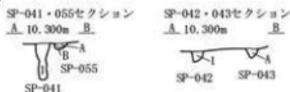


N



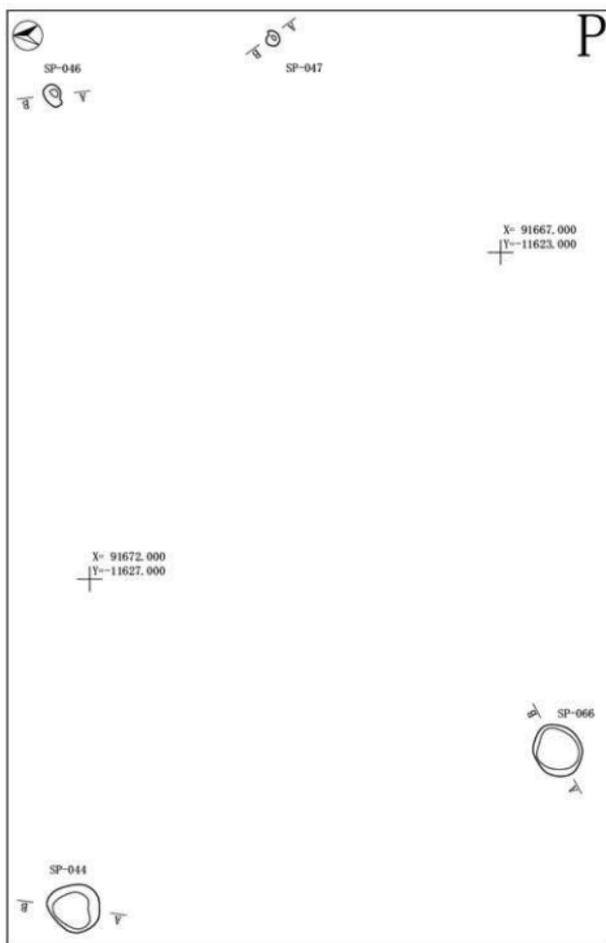
SP-035	第1層 10YK3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
SP-036	第1層 10YK3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~4mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
SP-037	第1層 10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1~5mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量
	第2層 10YK3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量
	第3層 10YK3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量, ローム粒(φ1~3mm)微量
SP-038	第1層 10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量
SP-039	第1層 10YK1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
	第1層 10YK3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ3~5mm)微量
	第2層 10YK3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~2mm)中量
SP-040	第1層 10YK3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量
	第2層 10YK3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量
	第3層 10YR4/1	暗灰色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)少量
SP-056	第1層 10YK3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量
SP-067	第1層 10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~2mm)微量, ローム粒(φ1~9mm)少量
SP-082	第1層 10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~2mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)微量, ロームブロック(φ10~15mm)微量
	第2層 10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1~2mm)微量, ローム粒(φ1~5mm)微量, 10YR3/2黒褐色土少量
	第3層 10YR2/3黒褐色土と10YK3/2黒褐色土の混合土		ローム粒(φ1~3mm)微量, ロームブロック(φ10~12mm)微量
	第4層 10YR4/2	灰黄褐色土	ローム粒(φ1~5mm)微量, ロームブロック(φ10~60mm)多量

O

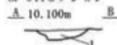


SP-041	第1層 10YK3/1	黒褐色土	10YK5/2灰黄褐色土粘土粒(φ1~3mm)微量
SP-055	第1層 10YK3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量
	第2層 10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量
SP-042	第1層 10YK3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~12mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)少量
SP-043	第1層 10YK3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)微量

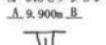
図 3-309 G-2 区 SP-16



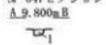
SP-044セクション



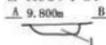
SP-046セクション



SP-047セクション



SP-066セクション



- SP-044  
 第1層 101R2/1 黒色土 パミス粒(φ1~5mm)微量,101R5/1褐色土の粘土粒(φ1~9mm)少量
- SP-046  
 第1層 101R3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~2mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
- SP-047  
 第1層 101R2/1 黒色土 ローム粒(φ1~2mm)極微量
- SP-066  
 第1層 101R2/1 黒色土 パミス粒(φ1mm)極微量,ローム粒(φ1~9mm)少量



図 3-310 G-2 区 SP-17

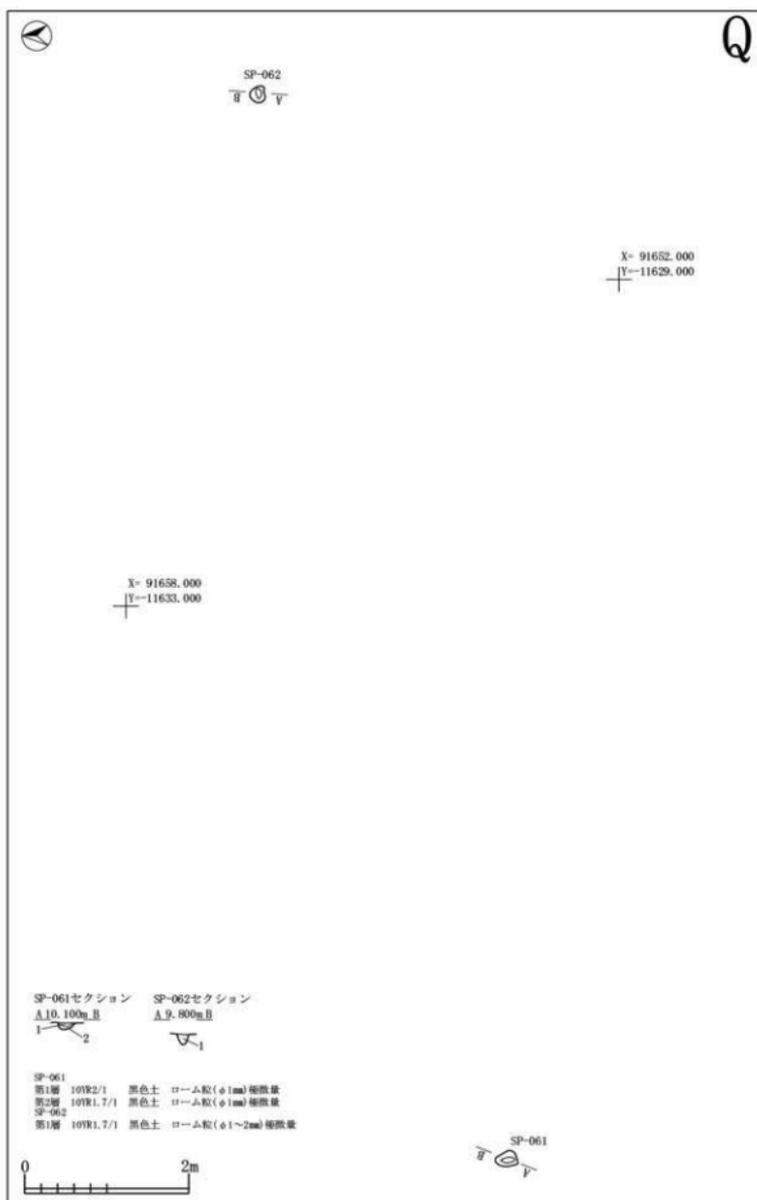


図 3-311 G-2 区 SP-18

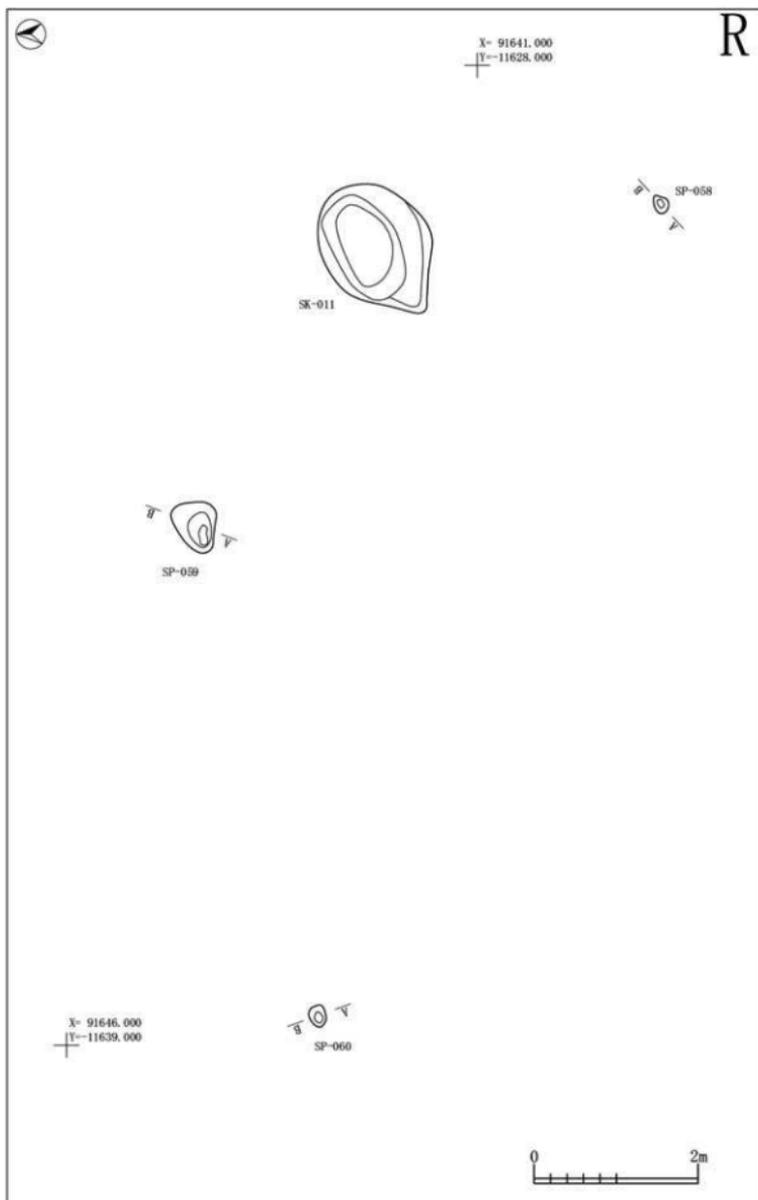
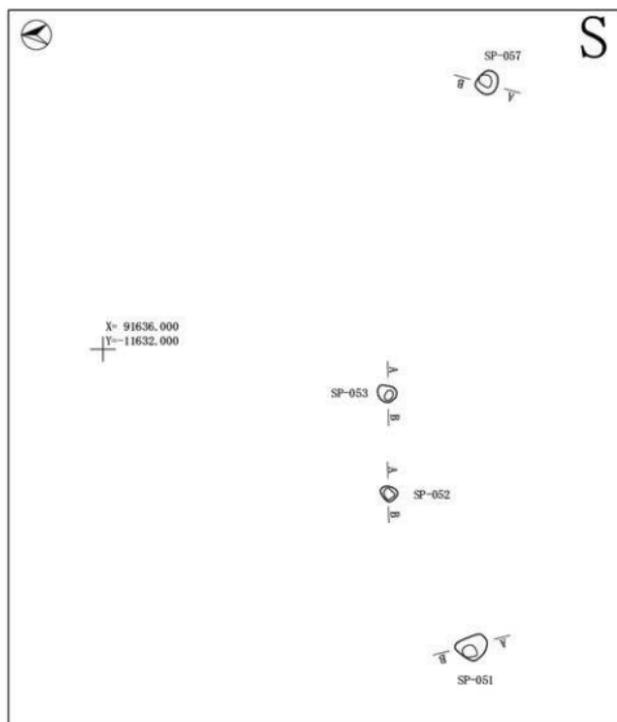


図 3-312 G-2 区 SP-19


 図-2  
G-2区

R

 SP-058セクション  
A 10. 100m B

 SP-059セクション  
A 10. 100m B

 SP-060セクション  
A 10. 300m B


SP-058

第1層 10YR4/1 褐色灰色土と2.5Y4/1 黄灰色土の混合土 ローム粒(φ1~2mm) 微量

SP-059

第1層 10YR4/1 褐色灰色土 ローム粒(φ1~2mm) 微量, 炭化粒(φ1~2mm) 微量

第2層 2.5Y3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm) 少量, ロームブロック(φ10~70mm) 中量

第3層 5Y3/2 オリーブ黒色土 ローム粒(φ1~2mm) 少量, 炭化粒(φ1~5mm) 少量

第4層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~2mm) 少量

第5層 10YR5/1 褐色灰色土 バミス粒(φ5~9mm) 少量

SP-060

第1層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm) 少量, ロームブロック(φ30~40mm) 少量

第2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~9mm) 中量, 炭化粒(φ1~2mm) 微量

第3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~2mm) 微量

S

 SP-051セクション  
A 10. 400m B

 SP-052セクション  
A 10. 300m B

 SP-053セクション  
A 10. 300m B

 SP-057セクション  
A 10. 400m B


SP-051

第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~3mm) 少量, ローム粒(φ1~9mm) 少量

SP-052

第1層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm) 少量, ローム粒(φ1~2mm) 微量

SP-053

第1層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~5mm) 少量, ローム粒(φ1~3mm) 中量

SP-057

第1層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~5mm) 微量, ローム粒(φ1~3mm) 中量



図 3-313 G-2 区 SP-20

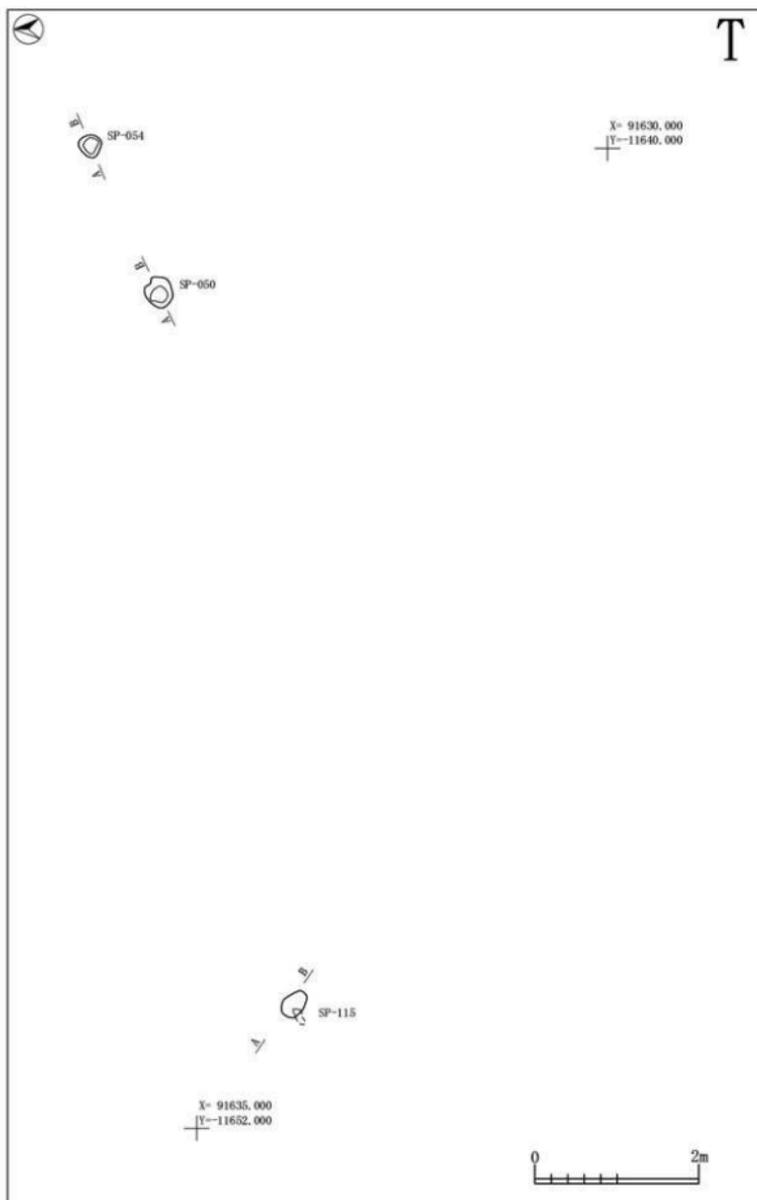


図 3-314 G-2 区 SP-21

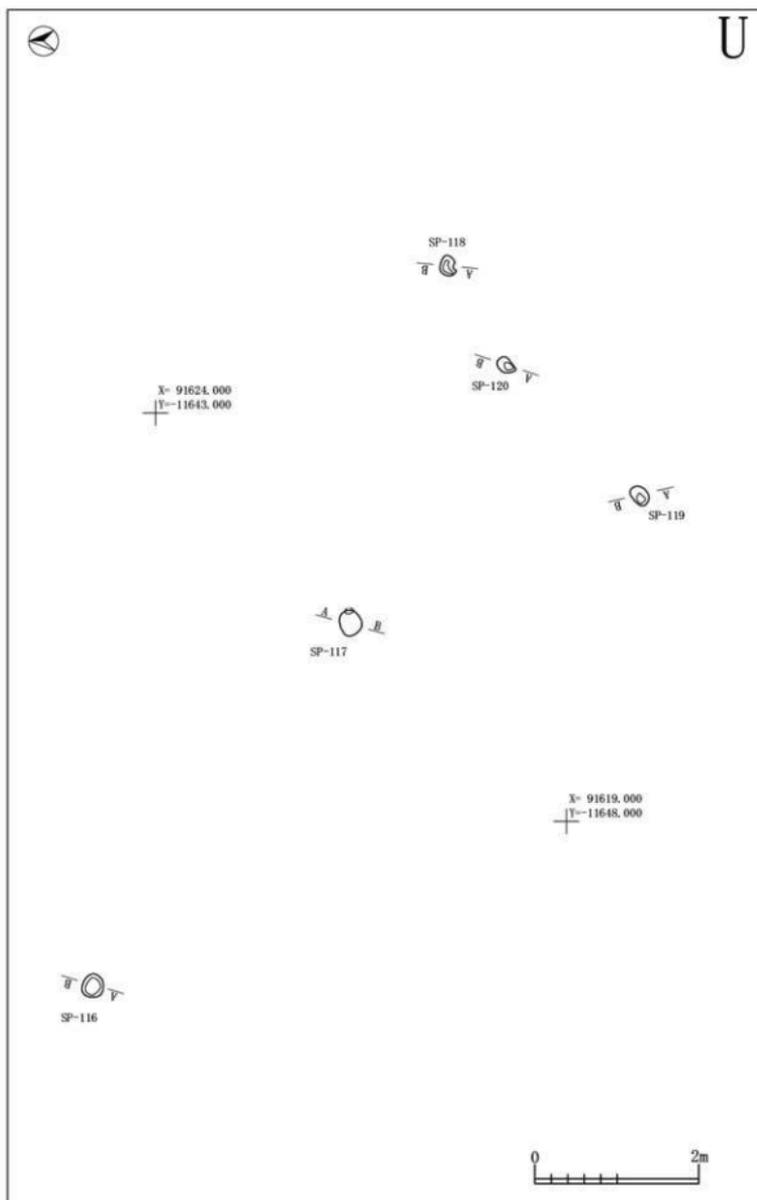


图 3-315 G-2 区 SP-22

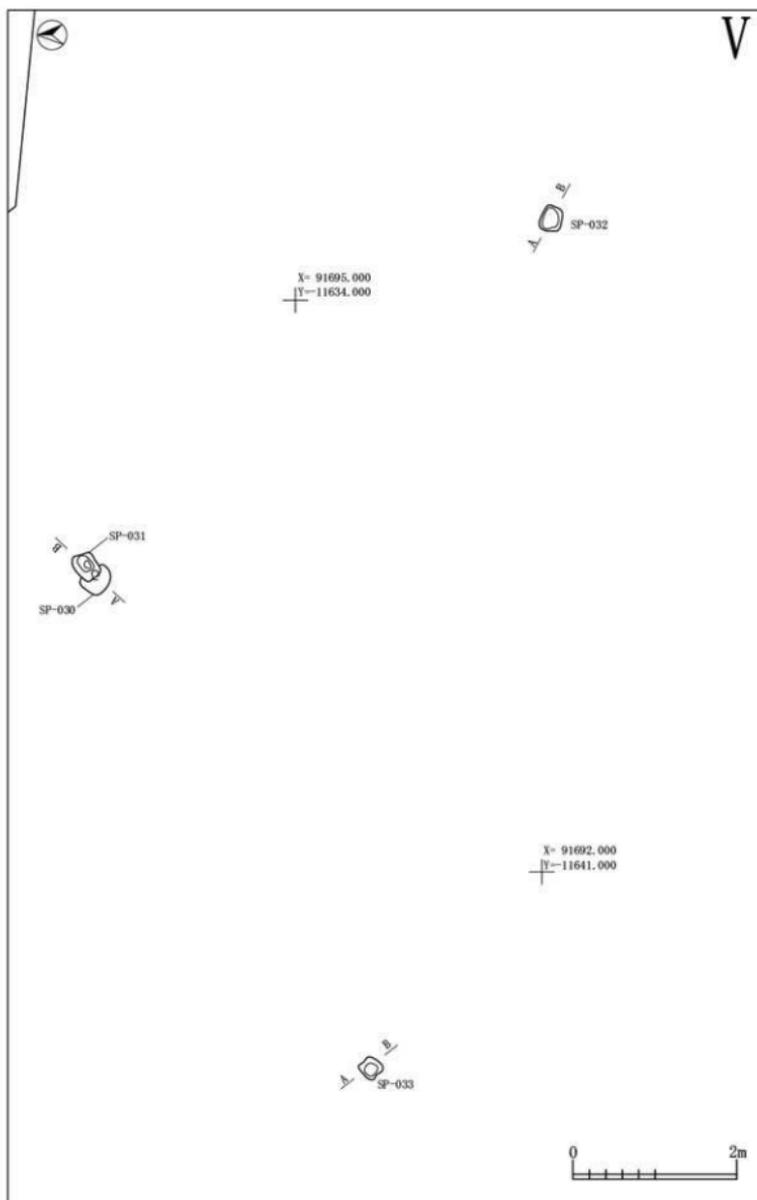


図 3-316 G-2 区 SP-23

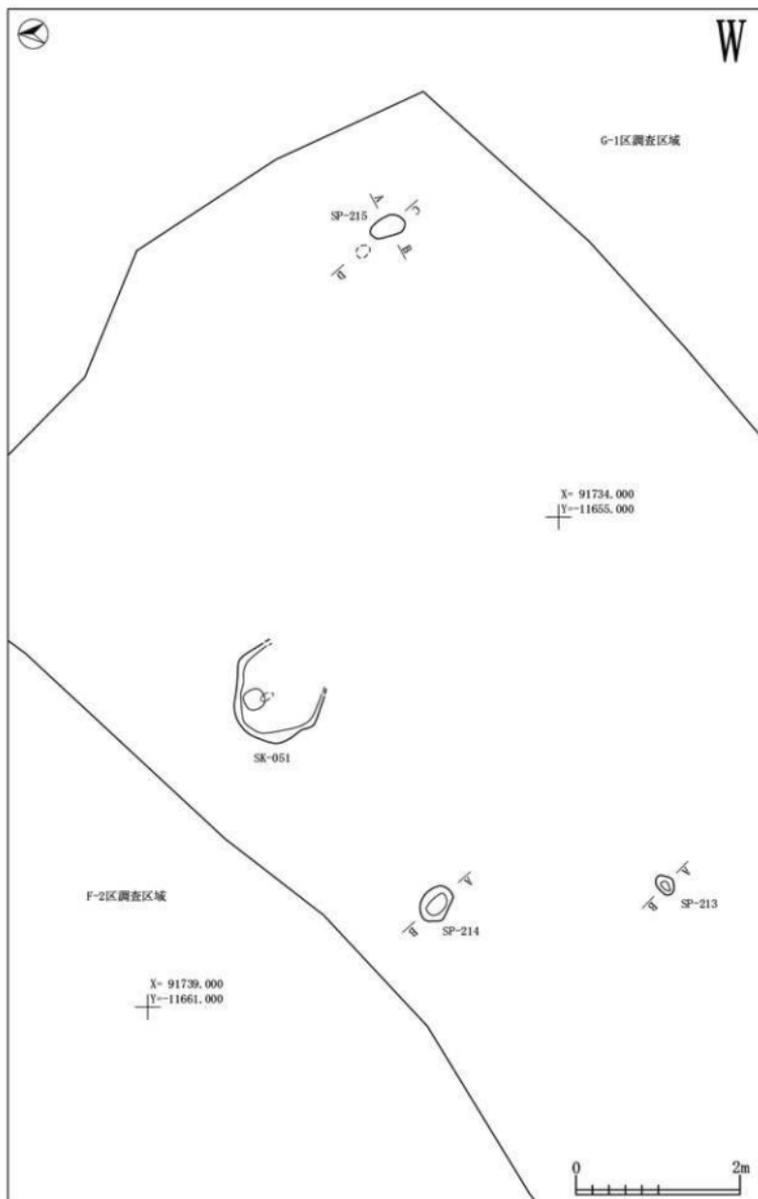


图 3-17  
G-2 区

图 3-17 G-2 区 SP-24

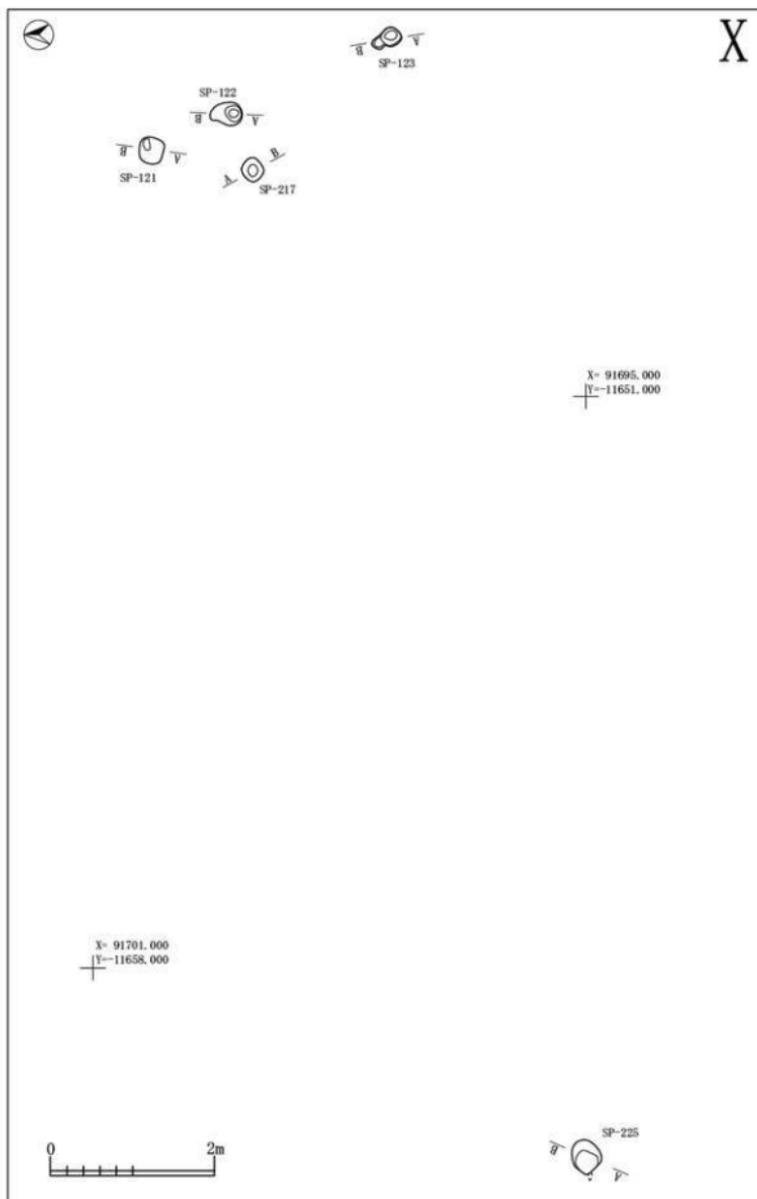
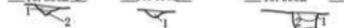


図 3-318 G-2 区 SP-25

## T

SP-050セクション  $\overline{A}$  10.500m  $\overline{B}$       SP-054セクション  $\overline{A}$  10.400m  $\overline{B}$       SP-115セクション  $\overline{A}$  10.900m  $\overline{B}$



SP-050			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ2~3mm)微量
第2層	2.5Y2/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)極微量
SP-054			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~9mm)少量
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)微量, ロームブロック(φ10~15mm)少量
第3層	5Y2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量, 10YR3/1黒褐色土少量
第4層	2.5Y2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)少量, 砂粒少量

## U

SP-116セクション  $\overline{A}$  10.900m  $\overline{B}$       SP-117セクション  $\overline{A}$  10.800m  $\overline{B}$       SP-118セクション  $\overline{A}$  10.800m  $\overline{B}$       SP-119セクション  $\overline{A}$  10.900m  $\overline{B}$       SP-120セクション  $\overline{A}$  10.800m  $\overline{B}$



SP-116			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~5mm)微量
SP-117			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR1.7/1	黒色土	ロームブロック(φ20~30mm)少量
SP-118			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR6/6	明黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量
SP-119			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~3mm)微量
第2層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)中量
SP-120			
第1層	10YR1.7/1	黒色土	バミス粒(φ1~5mm)微量
第2層	10YR1.7/1	黒色土	10YR6/4にぶい黄褐色土粒(φ3~9mm)少量

## V

SP-030・031セクション  $\overline{A}$  10.800m  $\overline{B}$       SP-032セクション  $\overline{A}$  10.700m  $\overline{B}$       SP-033セクション  $\overline{A}$  10.800m  $\overline{B}$



SP-030			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
SP-031			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ10mm大)混入
第2層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
第3層	10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR3/2暗褐色土の混合土		バミスブロック(φ30mm)混入
SP-032			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)少量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, ローム粒(φ1~2mm)極微量
SP-033			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)少量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
第3層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~20mm)少量

## W

SP-213セクション  $\overline{A}$  10.700m  $\overline{B}$       SP-214セクション  $\overline{A}$  10.700m  $\overline{B}$       SP-215セクション  $\overline{A}$  10.500m  $\overline{B}$       SP-215エレベーション  $\overline{C}$  10.500m  $\overline{D}$



SP-213			
第1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
SP-214			
第1層	10YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, バミスブロック(φ10~30mm)多量
第2層	10YR6/6	明黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
SP-215			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量

## X

SP-121セクション  $\overline{A}$  11.000m  $\overline{B}$       SP-122セクション  $\overline{A}$  11.000m  $\overline{B}$       SP-123セクション  $\overline{A}$  10.900m  $\overline{B}$       SP-217セクション  $\overline{A}$  10.900m  $\overline{B}$       SP-225セクション  $\overline{A}$  10.800m  $\overline{B}$



SP-121			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量
第3層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)微量, バミスブロック(φ10~20mm)少量
SP-122			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
SP-123			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~20mm)中量
SP-217			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
SP-225			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)中量
第2層	10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~5mm)微量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量

0 2m

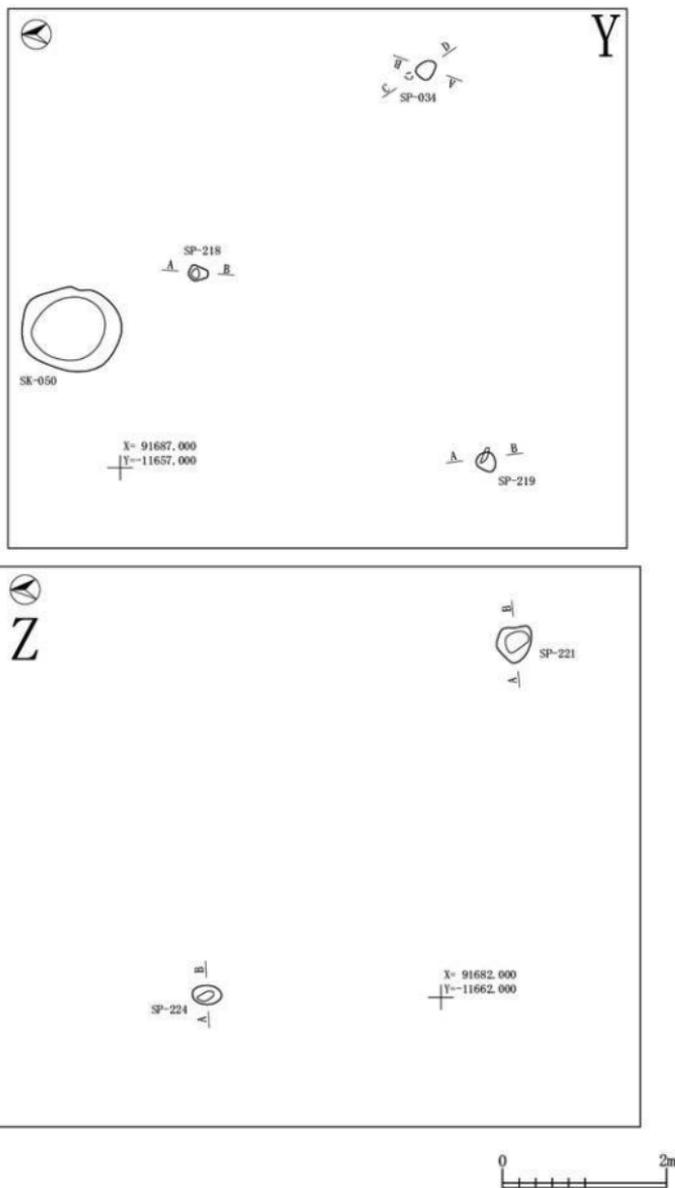
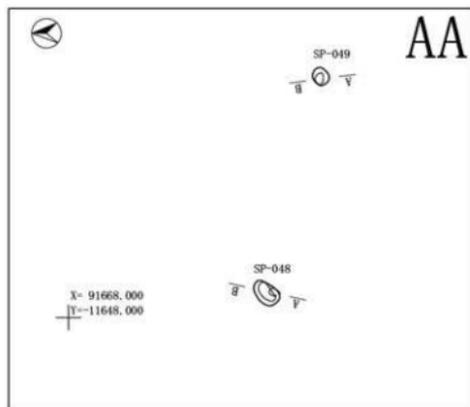


図 3-320 G-2 区 SP-27


 図-2  
 G-2区

Y

 SP-034セクション  
 A\_10.400m B

 SP-034エレベーション  
 C\_10.400m D

 SP-218セクション  
 A\_10.500m B

 SP-219セクション  
 A\_10.500m B


SP-034

第1層 10YR1/1 褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量

SP-218

第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~9mm)微量

SP-219

第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~9mm)微量

Z

 SP-221セクション  
 A\_10.500m B

 SP-224セクション  
 A\_10.700m B


SP-221

第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~9mm)微量

第2層

10YR4/2 灰黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~30mm)多量

SP-224

第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~5mm)微量

AA

 SP-048セクション  
 A\_10.500m B

 SP-049セクション  
 A\_10.300m B


SP-048

第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~2mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)少量

SP-049

第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~3mm)少量, ロームブロック(φ10mm大)混入, 焼土粒(φ3mm)極微量



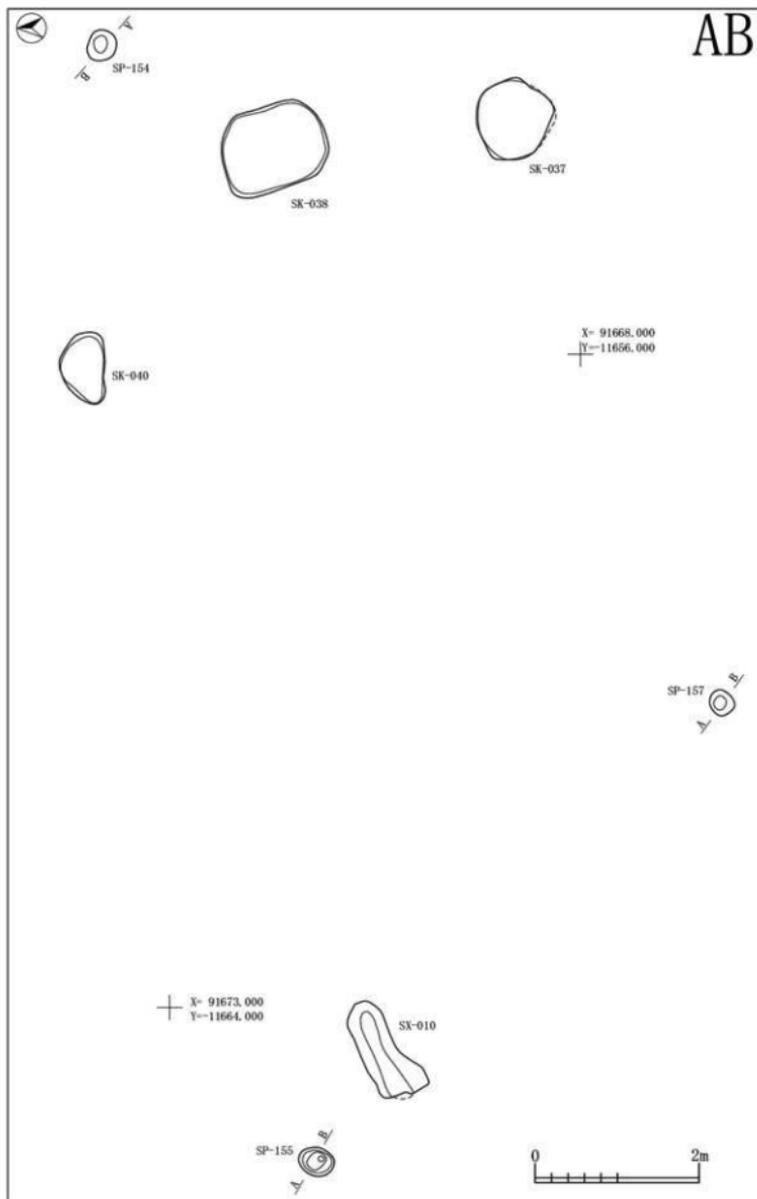


図 3-322 G-2 区 SP-29

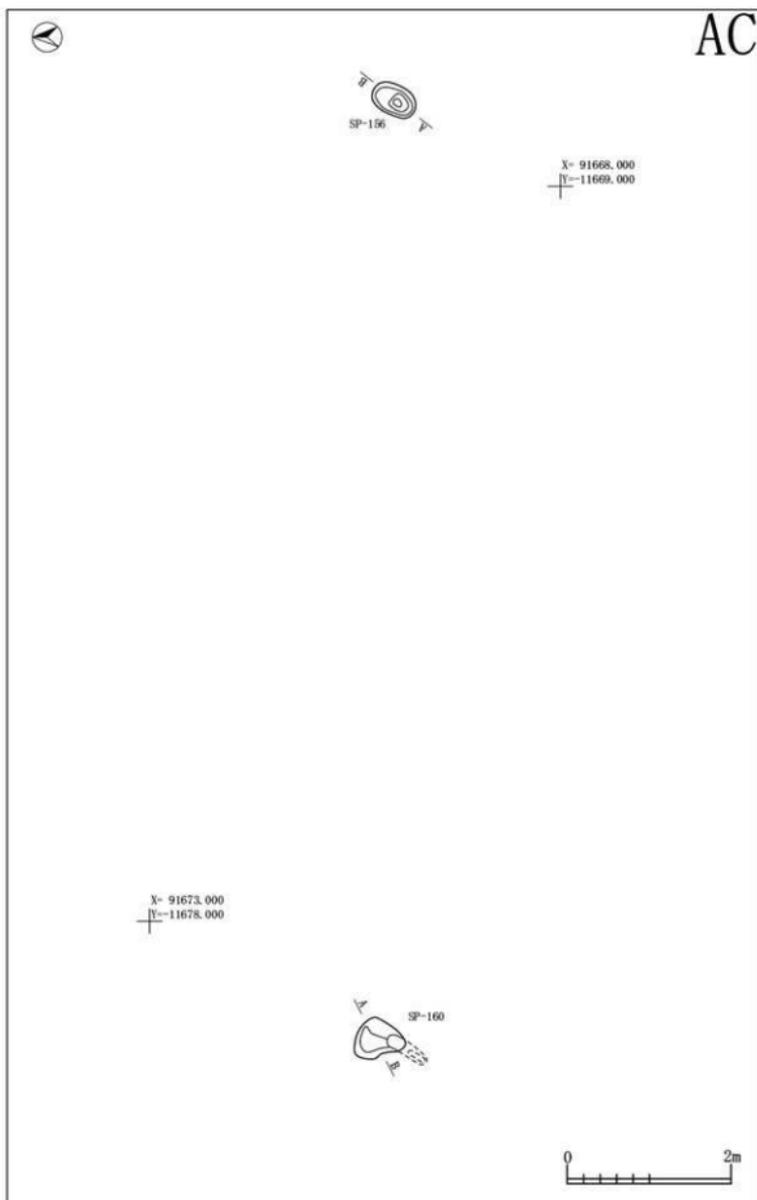


图 3-323 G-2 区 SP-30

遺跡  
G-2区

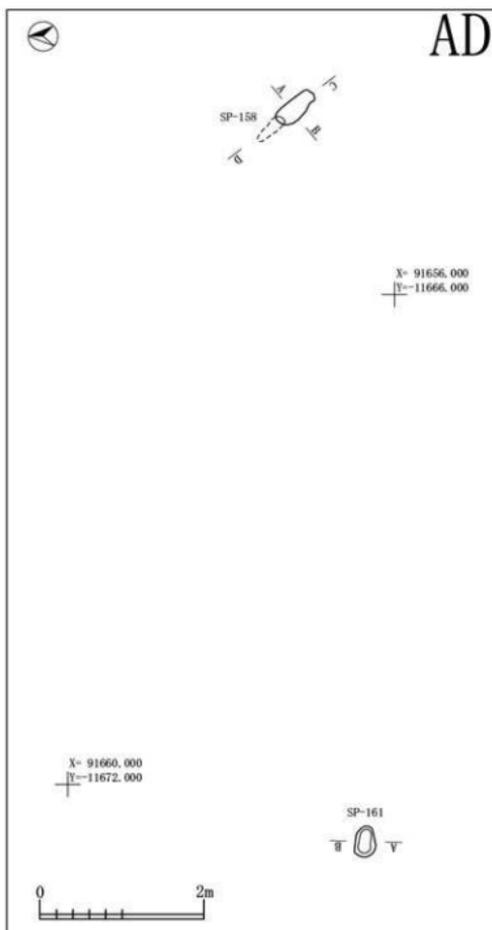
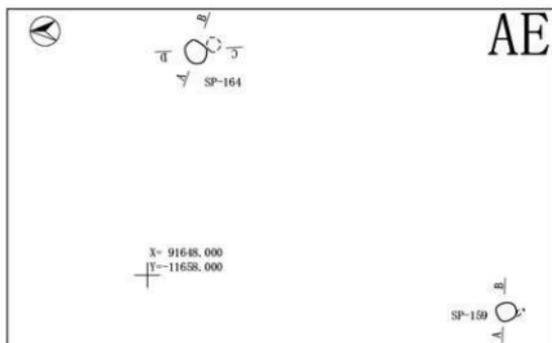
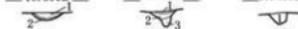


図 3-324 G-2 区 SP-31



## AB

SP-154セクション      SP-155セクション      SP-157セクション  
 A 10.300m B      A 10.600m B      A 10.500m B



SP-154  
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR2/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量  
 SP-155  
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~3mm)微量, 10YR6/4にぶい黄褐色土中量  
 第3層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~5mm)少量  
 SP-157  
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)微量

## AC

SP-156セクション      SP-160セクション  
 A 10.700m B      A 10.900m B



SP-156  
 第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR4/1 褐灰色土 バミス粒(φ1~5mm)微量, 砂少量混入  
 第3層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量  
 SP-160  
 第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~5mm)微量  
 第2層 10YR4/2 灰黄褐色土 バミスブロック(φ10~80mm)中量

## AD

SP-158セクション      SP-158エレベーション      SP-161セクション  
 A 10.700m B      C 10.700m D      A 10.900m B



SP-158  
 第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~5mm)微量, 10YR6/3にぶい黄褐色土少量  
 SP-161  
 第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~5mm)微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)中量

## AE

SP-159セクション      SP-164セクション      SP-164エレベーション  
 A 10.700m B      A 10.700m B      C 10.700m D



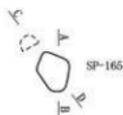
SP-159  
 第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量  
 SP-164  
 第1層 10YR1.7/1 黒色土 バミス粒(φ1~5mm)微量



AF



X= 91625.000  
Y= 11665.000



SP-165セクション

A. 11.400m B.



SP-165エレベーション

C. 11.400m D.



SP-204セクション

A. 11.600m B.



SP-205セクション

A. 11.200m B.



SP-165

第1層 101K2/1 黒色土 バミス粒(φ1~5mm)微量

SP-204

第1層 101K2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量

第2層 101K2/2

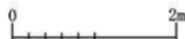
黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量

SP-205

第1層 101K2/1 黒色土 バミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量

第2層 101K3/1

黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)中量



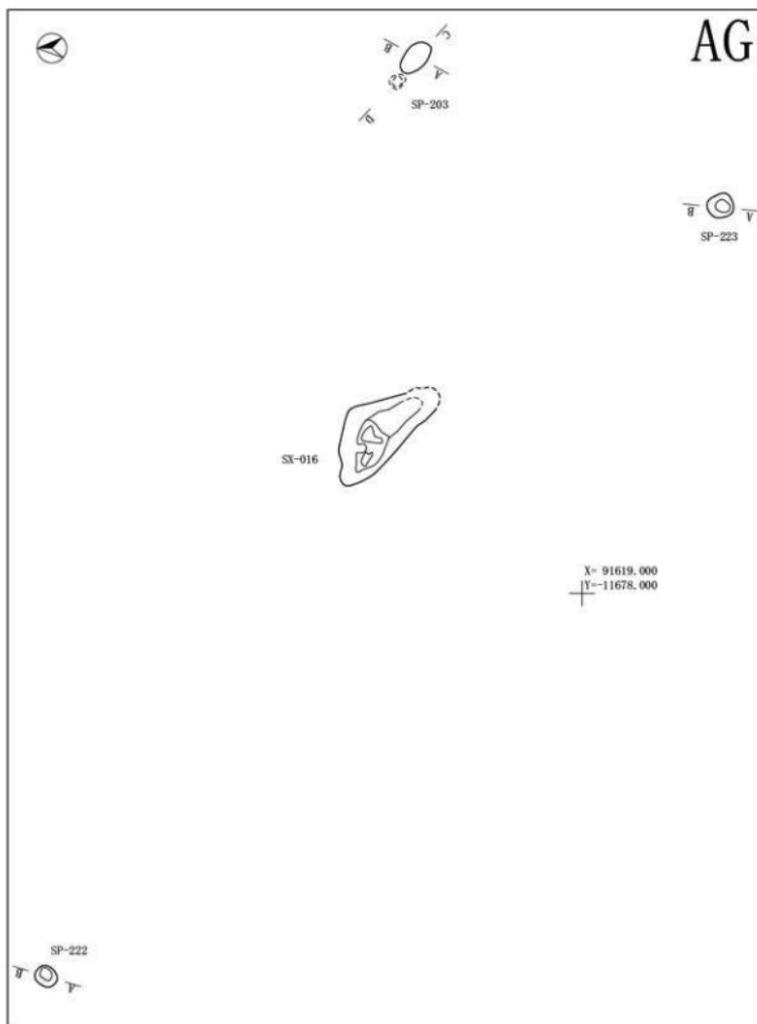
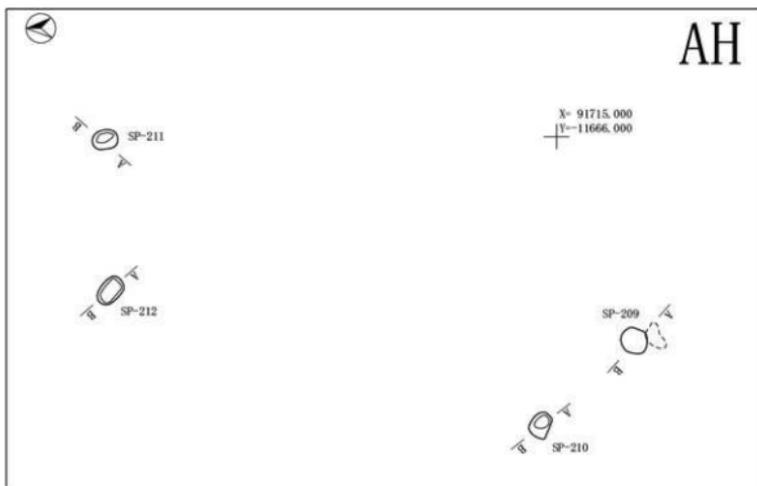
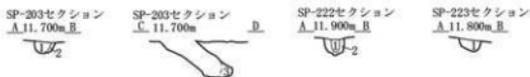


图-2  
G-2区

图 3-327 G-2 区 SP-34



### AG



SP-203

- 第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~2mm)微量  
 第2層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~2mm)微量  
 第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 バミスブロック(φ10~30mm)多量, 10YR4/2R黄褐色土少量

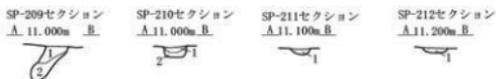
SP-222

- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~2mm)微量  
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 バミス粒(φ1~2mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)少量

SP-223

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~2mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量

### AH



SP-209

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量  
 第2層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~2mm)微量

SP-210

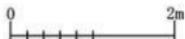
- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~2mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量  
 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 バミス粒(φ1~2mm)多量, 炭化粒(φ1~2mm)微量

SP-211

- 第1層 10YR4/4 褐色土 バミス粒(φ1~2mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量

SP-212

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~2mm)少量, ローム粒(φ1~5mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量



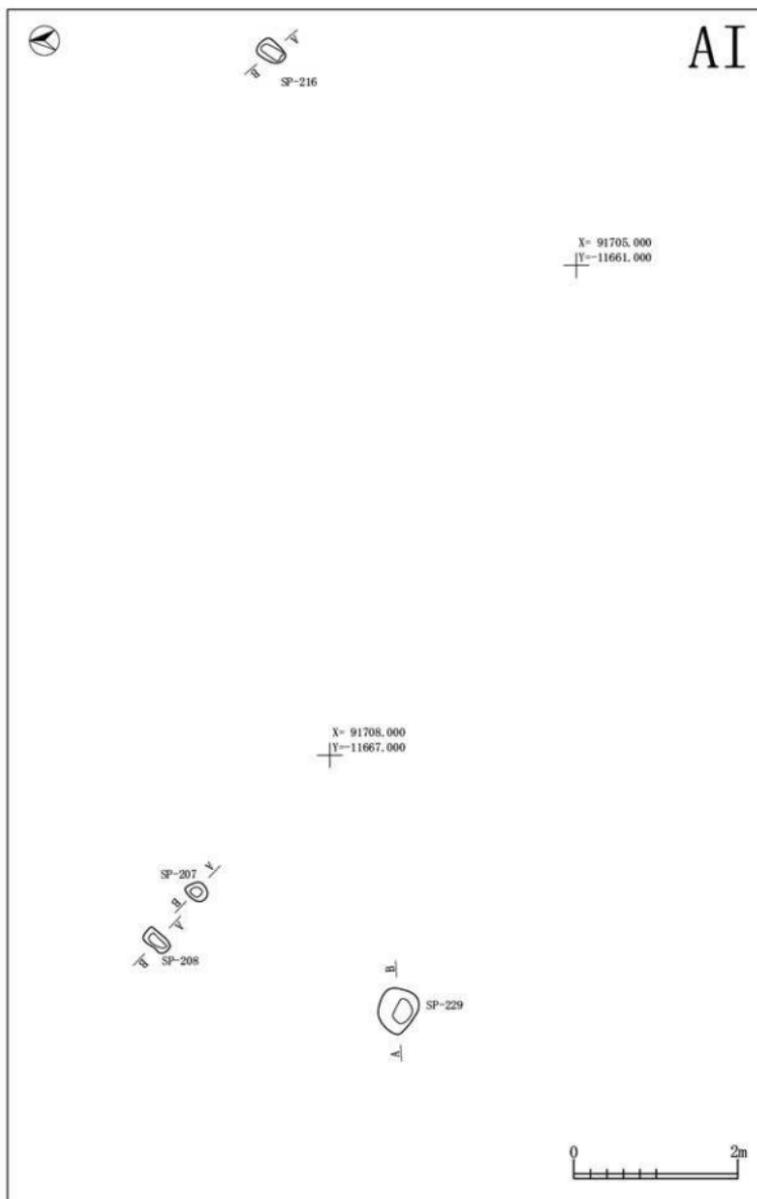


图 3-329 G-2 区 SP-36

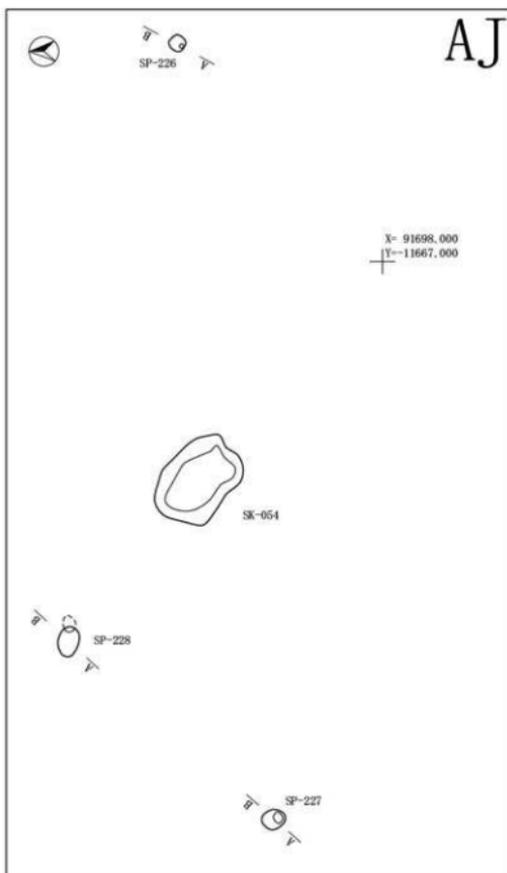


図 3-330 G-2 区 SP-37

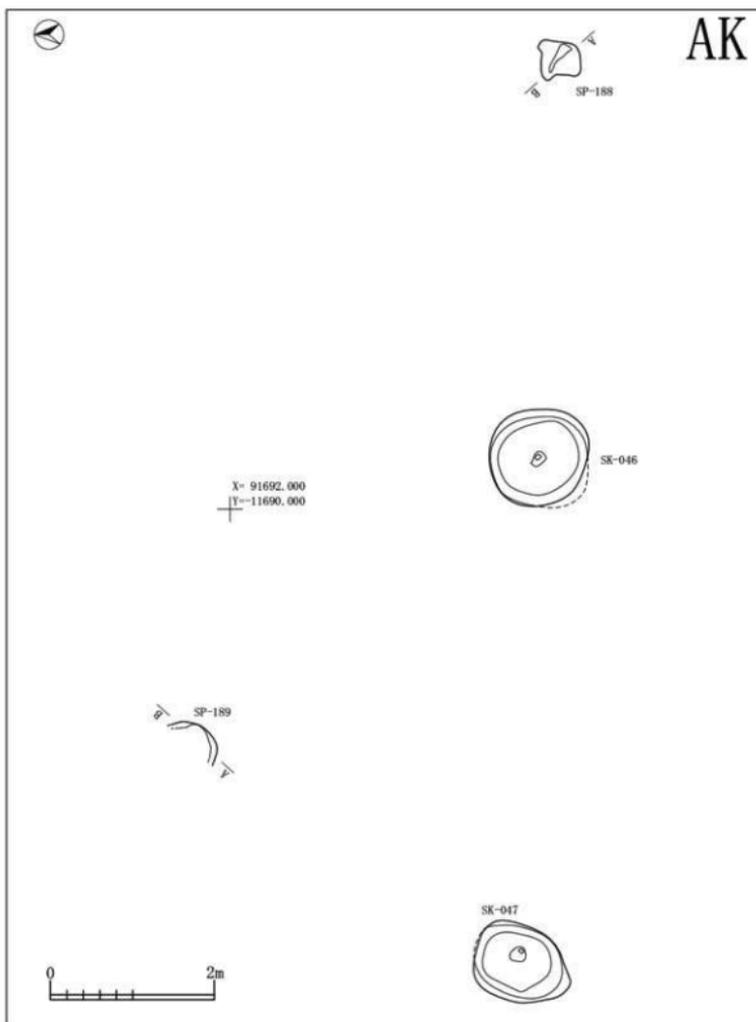


图 3-331 G-2 区 SP-38

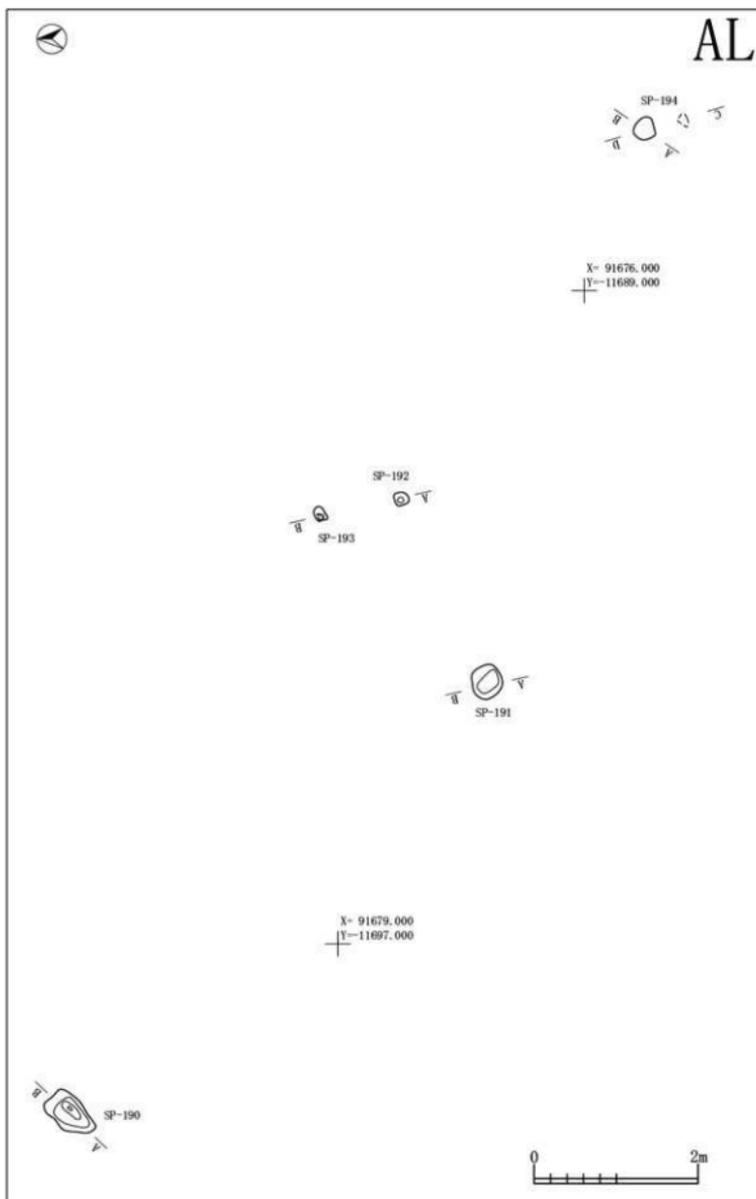
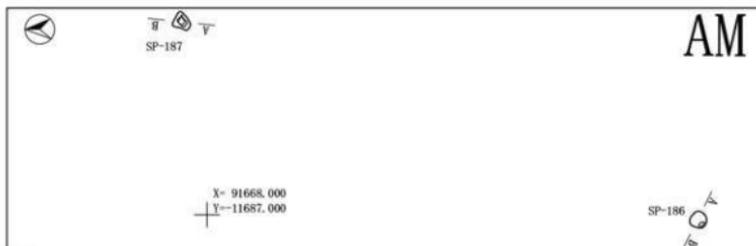


図 3-332 G-2 区 SP-39



## AI

SP-207セクション A11.100m B      SP-208セクション A11.100m B      SP-216セクション A11.000m B      SP-229セクション A11.100m B



- SP-207  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量  
SP-208  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量  
SP-216  
第1層 10YR3/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
SP-229  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量

## AJ

SP-226セクション A11.000m B      SP-227セクション A11.200m B      SP-228セクション A11.200m B



- SP-226  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
SP-227  
第1層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
第2層 10YR6/8 明黄褐色土 バミズ粒(φ1~3mm)中量  
第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量  
SP-228  
第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミズ粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量  
第2層 10YR3/3 暗褐色土 バミズ粒(φ1~5mm)微量  
第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量

## AK

SP-188セクション A11.200m B      SP-189セクション A11.400m B



- SP-188  
第1層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~5mm)少量  
第2層 10YR3/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~20mm)中量  
SP-189  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,10YR6/8明黄褐色土中量  
第2層 10YR3/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,バミズブロック(φ10~20mm)少量

## AL

SP-190セクション A11.300m B      SP-191セクション A11.300m B      SP-192・193セクション A11.300m B      SP-194セクション A11.200m B      SP-194エレベーション C11.200m D



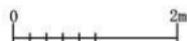
- SP-190  
第1層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量  
第2層 10YR3/1 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量  
SP-191  
第1層 10YR3/1 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量  
第2層 10YR3/1 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~20mm)中量  
SP-192  
第1層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量  
SP-193  
第1層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量  
SP-194  
第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)少量  
第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミズ粒(φ1~9mm)中量,バミズブロック(φ10~20mm)少量

## AM

SP-186セクション A11.200m B      SP-187セクション A11.200m B



- SP-186  
第1層 10YR4/2 灰黄褐色土 バミズ粒(φ1~3mm)少量  
SP-187  
第1層 10YR2/1 黒色土 バミズ粒(φ1~5mm)微量



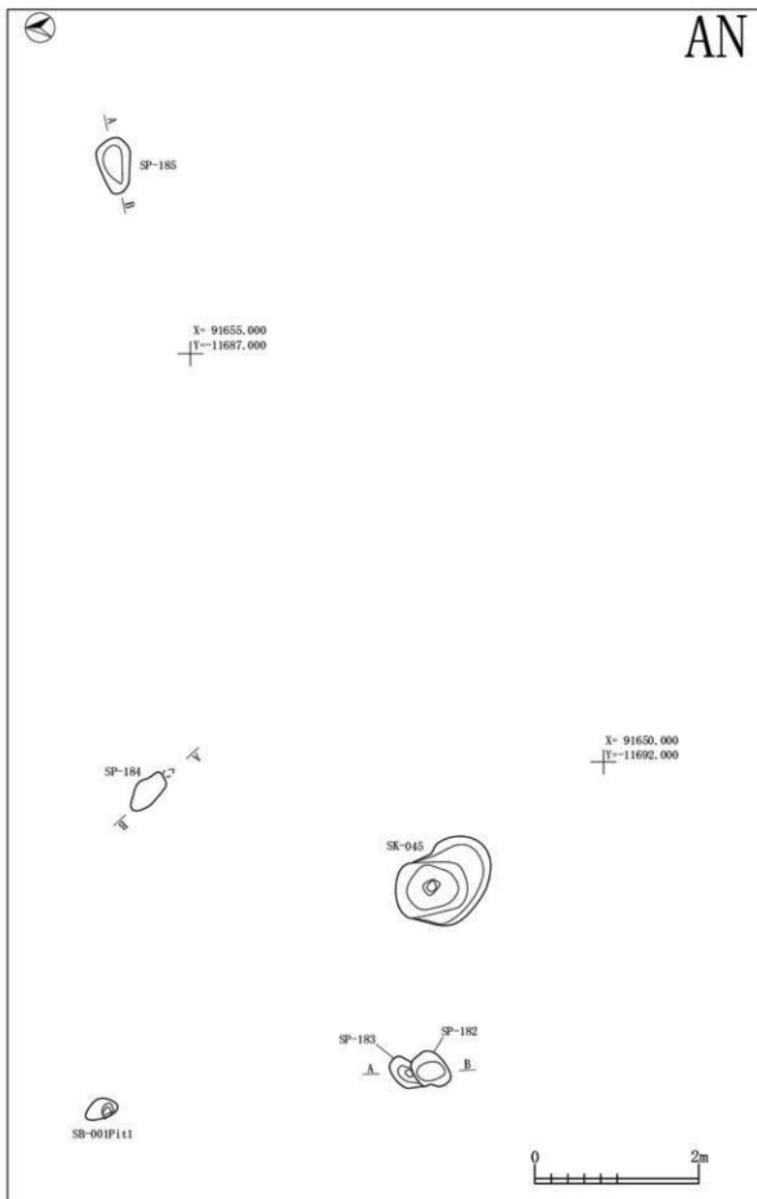


図 3-334 G-2 区 SP-41

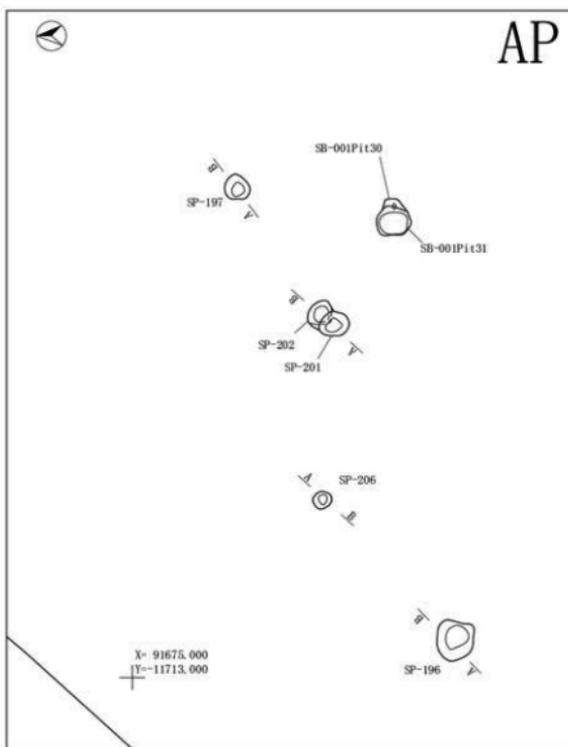
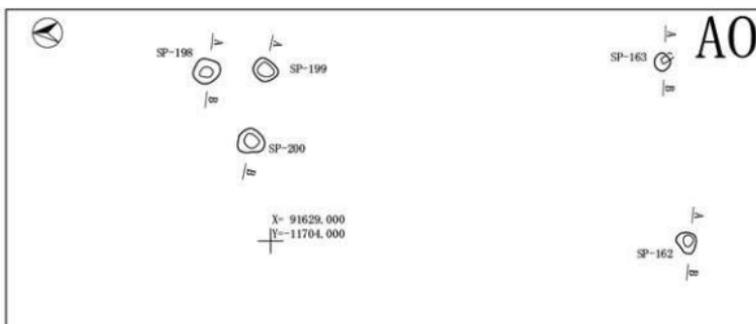


图 3-335 G-2 区 SP-42

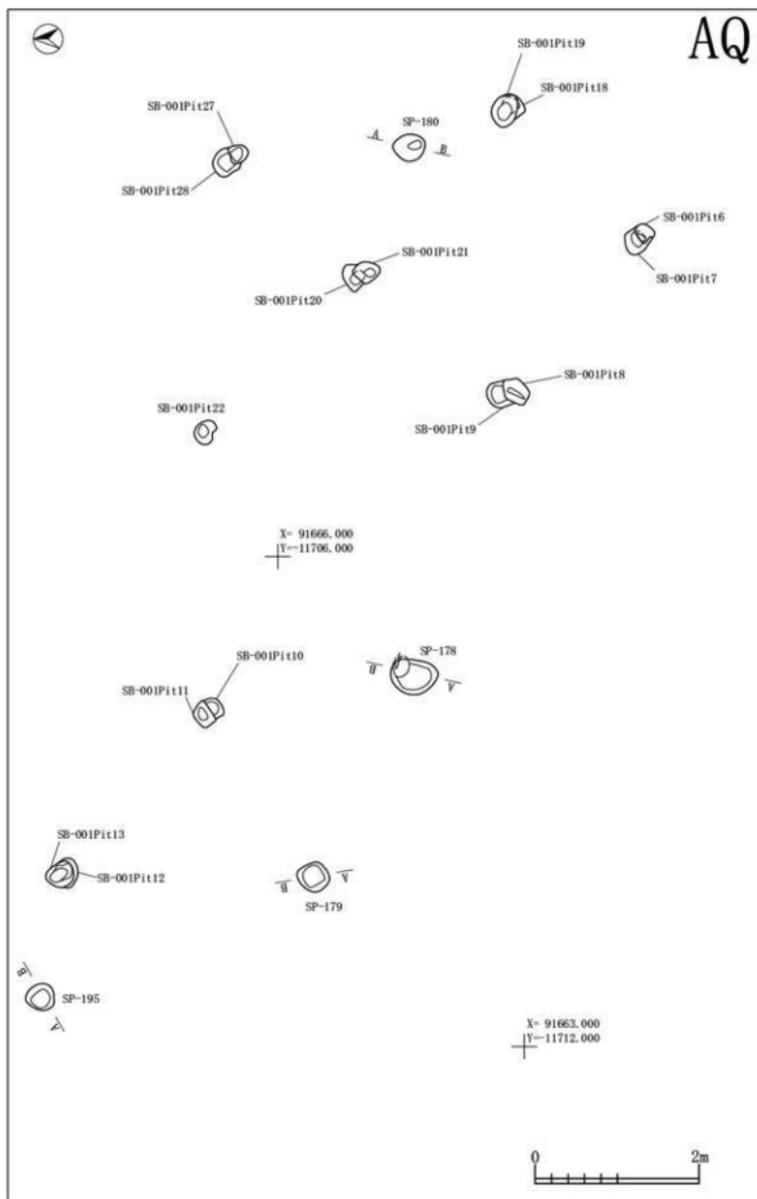


図 3-336 G-2 区 SP-43

## AN



SP-182

第1層 10YR3/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量

SP-183

第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~5mm)微量  
 第2層 10YR3/1 黒褐色土 バミス灰(φ1~5mm)中量

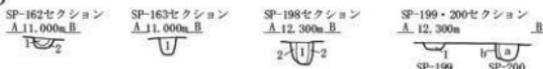
SP-184

第1層 10YR2/1 黒色土 バミス灰(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~5mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

SP-185

第1層 10YR3/1 黒褐色土 バミス灰(φ1~5mm)少量  
 第2層 10YR4/2 灰黄褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量  
 第3層 10YR5/2 灰黄褐色土 バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)多量

## AO



SP-162

第1層 10YR3/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)極微量  
 第2層 10YR4/3 にごい黄褐色土 バミス灰(φ1~5mm)微量,10YR5/4にごい黄褐色土中量

SP-163

第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス灰(φ1~5mm)中量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

SP-198

第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)中量,炭化灰(φ1~3mm)微量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~20mm)少量

SP-199

第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量

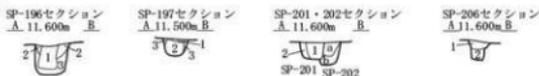
SP-200

第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~5mm)少量

第1層

10YR3/3 暗褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量

## AP



SP-196

第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量  
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~15mm)微量  
 第3層 10YR4/3 にごい黄褐色土 バミス灰(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~30mm)中量

SP-197

第1層 10YR4/2 灰黄褐色土 バミス灰(φ1~5mm)微量  
 第2層 10YR3/1 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~3mm)微量  
 第3層 10YR4/3 にごい黄褐色土 バミス灰(φ1~9mm)中量,炭化灰(φ1~2mm)微量

SP-201

第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~5mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

第2層

10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)中量

SP-202

第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~15mm)少量

第1層

10YR3/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量

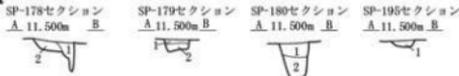
第2層

10YR3/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

第2層

10YR3/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~5mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

## AQ



SP-178

第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス灰(φ1~5mm)微量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

第2層

10YR4/3 にごい黄褐色土 バミス灰(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~30mm)中量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

SP-179

第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス灰(φ1~5mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

第2層

10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)極微量

SP-180

第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~9mm)少量,炭化灰(φ1~2mm)微量

第2層

10YR2/2 黒褐色土 バミス灰(φ1~5mm)少量,炭化灰(φ1~5mm)微量

SP-195

第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス灰(φ1~5mm)少量,炭化灰(φ3~5mm)極微量



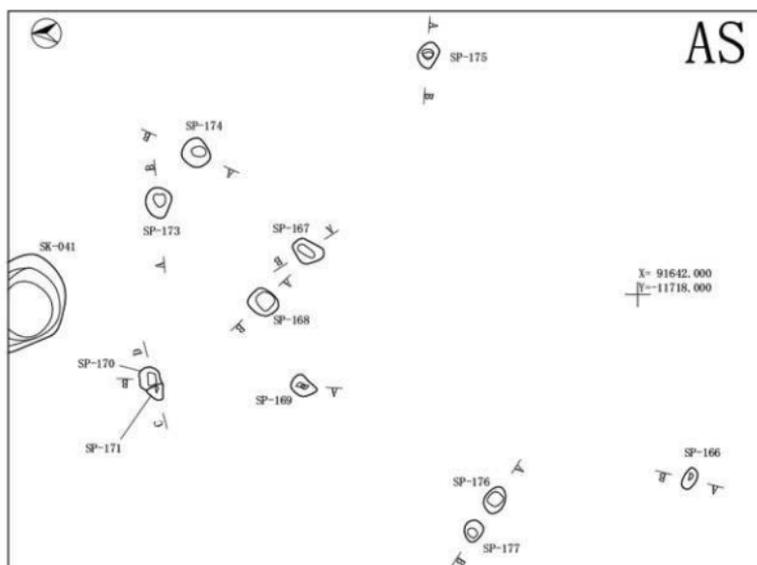
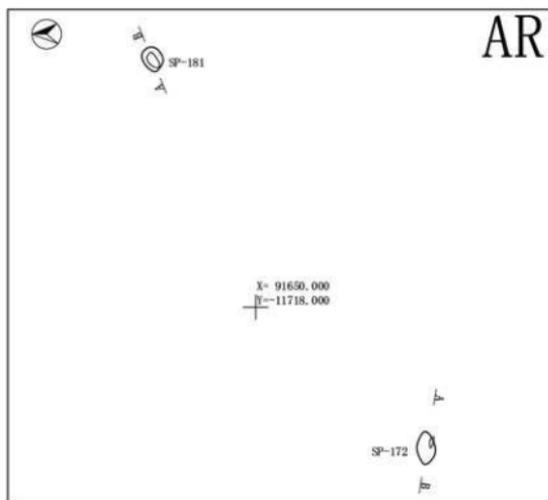


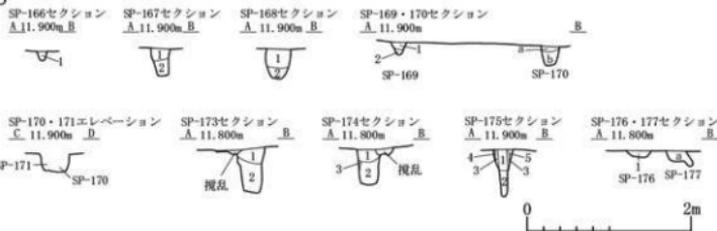
図 3-338 G-2 区 SP-45

## AR



SP-172	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, パミスブロック(φ10~30mm)少量
第2層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~15mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
SP-181			
第2層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第3層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量

## AS



SP-166	第1層	10YR5/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, ローム粒(φ1~7mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第2層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量	
第3層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~15mm)中量, 炭化粒(φ1~3mm)微量	
SP-168	第1層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~15mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
第2層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, パミスブロック(φ30mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量	
SP-169	第1層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
第2層	10YR5/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量	
SP-170	第1層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, パミスブロック(φ10~20mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量	
SP-173	第1層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ13mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~15mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)極微量	
SP-174	第1層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ15mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~12mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量	
第3層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量	
SP-175	第1層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第2層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, ロームブロック(φ10~15mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)微量	
第3層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量	
第4層	10YR7/2	にぶい黄褐色土	鉄土層	
第5層	10YR5/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量	
SP-176	第1層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ13mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
SP-177	第1層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~7mm)少量

図 3-339 G-2 区 SP-46

## 6. 溝跡

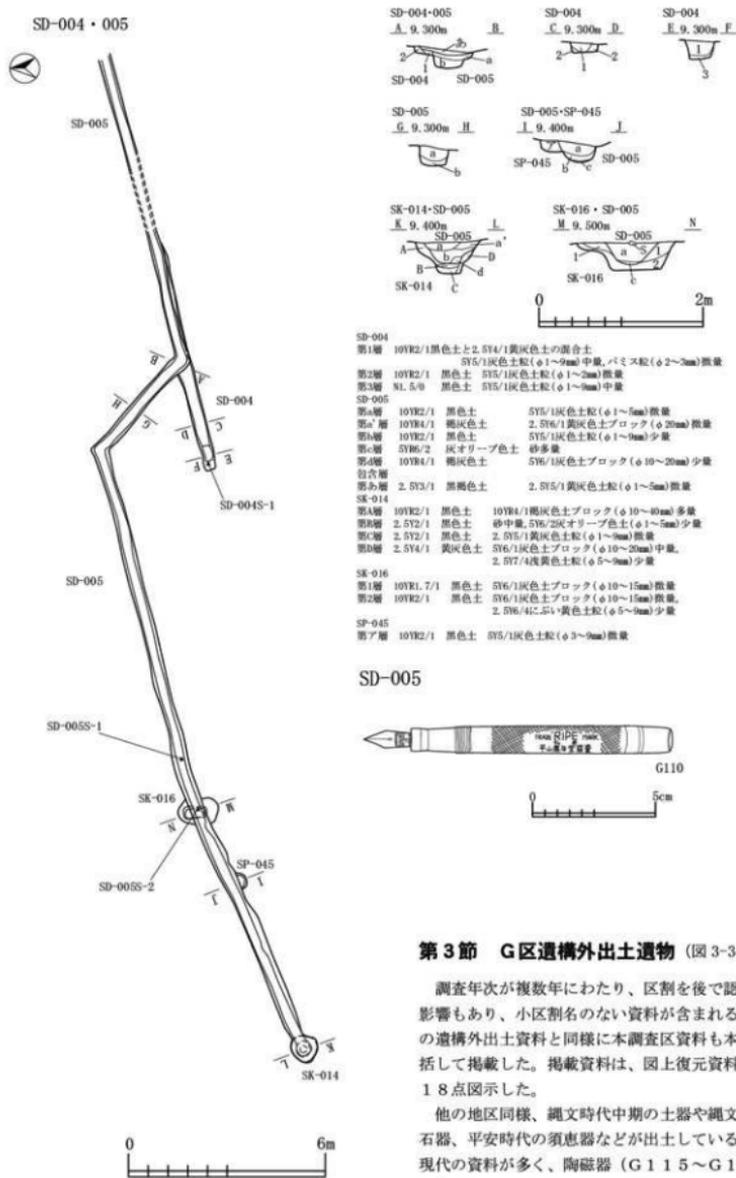
SD-004 (図 3-340)

X=91663.800, Y=11586.200 ~ X=91660.400, Y=11599.000 付近で検出した。SD-005と重複しており、本遺構の方が古い。長さ13m、幅115~50cm、深さ22.0cmを測る。堆積土は3層に分層し、自然堆積である。覆土中から自然礫が出土した。

SD-005 (図 3-340)

X=91663.800, Y=11586.200 ~ X=91657.500,

Y=11617.000 付近で検出した。SK-014・016、SD-004と重複しており、いずれの遺構よりも新しい。また、SD-004との重複部分は実質的にSD-004の上面に合流する形で掘削されている。堆積土は5層に分層し、自然堆積状況を呈する。覆土中から自然礫及び万年筆が出土した(G110)。万年筆は、青森県弘前市中土手町に現存する平山萬年堂(創業大正二年)の「RIPE」という大正期に生産された商品名と「平山萬年堂發賣」という銘が刻まれていた。軸の材質はエボナイトである。



### 第3節 G区遺構外出土遺物 (図3-341)

調査年次が複数年にわたり、区割を後で認定した影響もあり、小区割名のない資料が含まれる。D区の遺構外出土資料と同様に本調査区資料も本節で一括して掲載した。掲載資料は、図上復元資料も含め18点図示した。

他の地区同様、縄文時代中期の土器や縄文時代の石器、平安時代の須恵器などが出土しているが、近現代の資料が多く、陶磁器(G115~G123)、土管(G128)、昭和27年銘のある10円硬貨なども出土している。

図3-340 G-2区SD

## 遺構外出土遺物

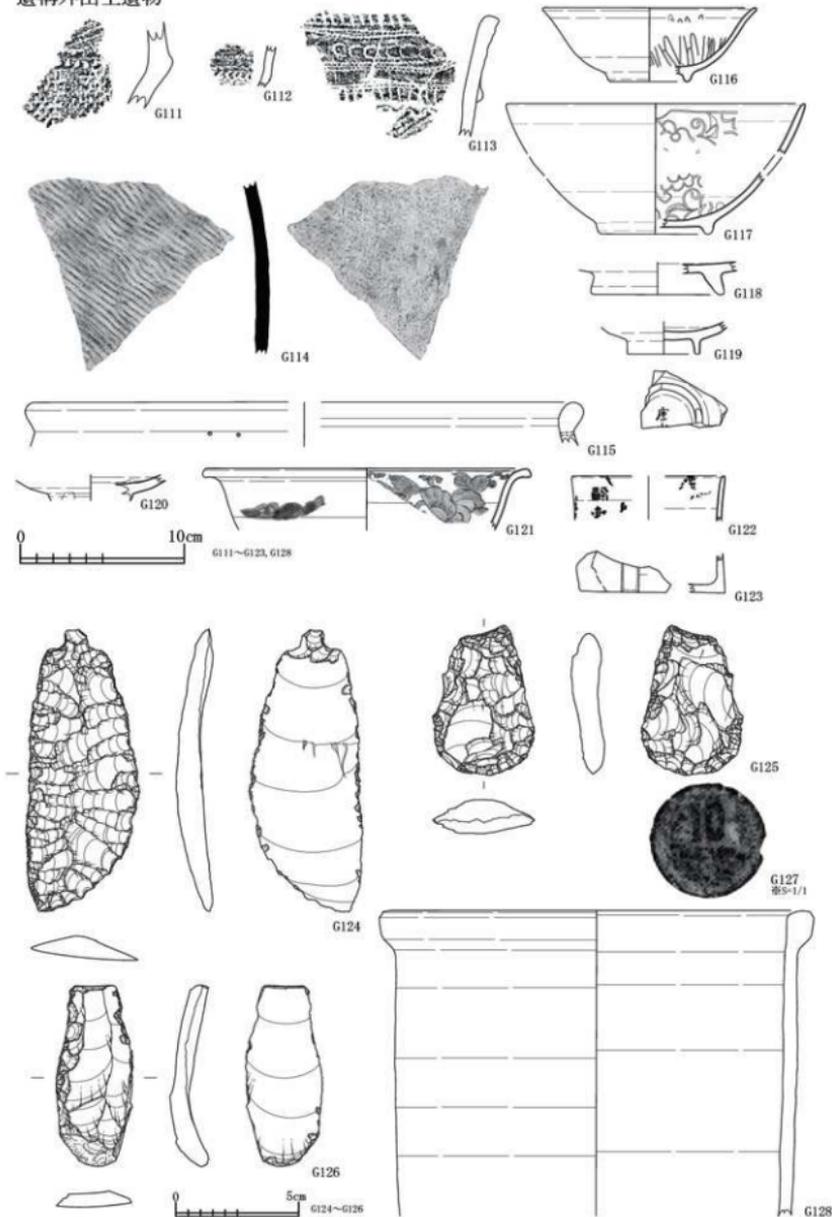


图 3-341 G区遺構外出土遺物

## 第IX章 H区

H区の調査は、新幹線駅舎建設の工事用仮設道路建設箇所が該当し、2,235㎡を対象とした。平成17年度(2005)年に該当箇所をほとんどを調査し、翌平成18年度(2006年)に接続部分の残地を2日間発掘調査し、調査完了している。

### 第1節 検出遺構と出土遺物

#### 1. 竪穴住居跡

S I - 0 1 (図3-343～346)

X = 91756.400, Y = -11526.000 付近で検出した。平面形は長方形を呈し、376.0 × 324.0 × 19.0 cmを測る。主軸方位はN-146°-Eである。ピットは竪穴内から4基検出しており、P i t 2がカマド脇ピット、P i t 1・3・4が柱穴として機能した可能性があるが、P i t 1・3は浅い掘り込みである。また、P i t 4の下部にSK-01とした掘り方土坑を1基検出した。139.0 × 116.0 × 4.0 cmを測る。ほぼ全面に掘り方を持ち、バミスブロックと暗褐色土の混合土が充填されている。床面直上に堆積する第4層で焼土・炭化物を検出し、第4層上層及び第1層中にB-T m火山灰が混入している。

カマドは南4の位置から検出した。袖部幅62.0 cm、煙道長60.0 cmを測る。耕作の影響により袖の一部や堆積土の一部に視乱が生じているが、構造は半地下式である。出土遺物は後述するS I - 0 2出土資料との遺構間接合資料を含め11点図示した。H001～H004は須恵器で、いずれも五所川原産と推定される資料である。このうちH002は小壺の底部資料で、底径3.4 cmを測る。外面は自然軸が付着しており、内面の底部中央にも附着物が付着している。外底面はナデによる調整で糸切痕などは観察できない。外面体部下半に「+」の刻書があるが、自然軸付着により不明瞭になっている。H005は覆土出土の土師器碗で、口径14.6 cm、器高5.9 cm、底径6.0 cm、器高指数4.0.4、底径指数41.0を測る。砂粒を多く含む粘りのある胎土で、全体的に器面が摩滅し、特に外底面、内面体部下半～見込部分にかけての摩滅が顕著である。内外面体部下半にタール状の煤状炭化物が付着しており、内面口縁部は煤と茶褐色色状に色調が変化した箇所が観察され、外面体部は二次被熱が顕著である。また、外面口縁部は円形の剥離痕が観察される。煮炊具のうちS I - 0 2との遺構間接合の資料であるH011は口唇部が欠損しているが、ある程度の全体形がわかる状態で、口径(23) cm程度、器高(31.5) cm程度、底径9.4 cmを測る。ロクロ系で底面には周縁側を

高岡(1) H区配置図 S=1/800

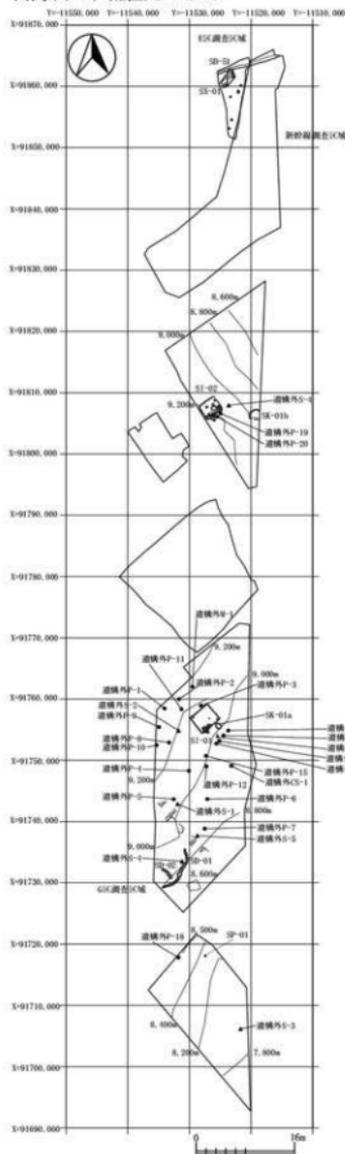
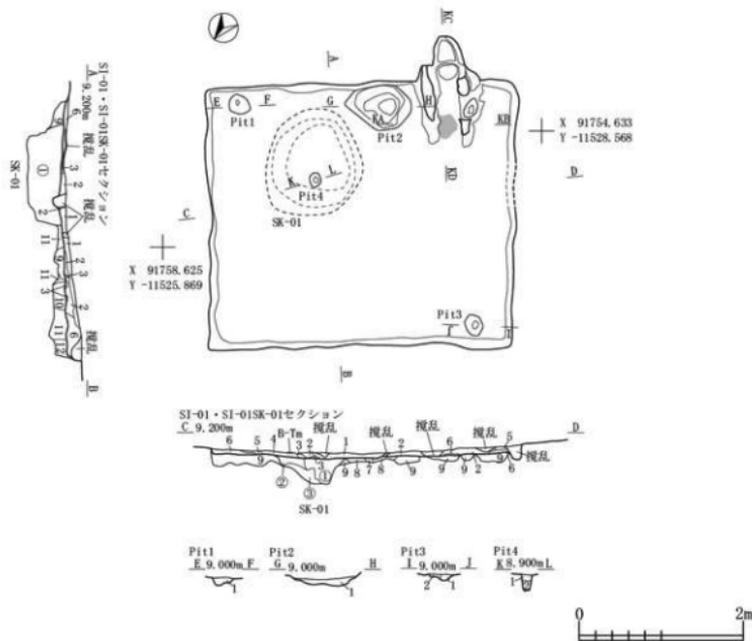


図3-342 H区遺構配置図

SI-01



SI-01出土遺物位置図

SI-01			
第1層	10VR2/2	黒褐色土	B-Tan火山灰粒中量
第2層	10VR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ5~9mm)少量,炭化粒(φ5~9mm)微量
第3層	10VR3/3	暗褐色土	バミスブロック(φ10~15mm)少量
第4層	7.5VR3/3	暗褐色土	炭化物(φ10~15mm)局所的に多量,焼土粒(φ5~9mm)中量
第5層	7.5VR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ5~9mm)少量
第6層	7.5VR3/4	褐色土	バミス粒(φ5~9mm)多量・バミスブロック(φ10~15mm)少量
第7層	10VR2/1	黒色土	バミスブロック(φ15mm)少量
第8層	10VR7/6	明黄褐色土	バミスブロック(φ15mm)少量
第9層	10VR4/3	にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~40mm)中量
第10層	10VR3/4	暗褐色土	バミスブロック(φ50~70mm)中量
第11層	10VR7/6	明黄褐色土	バミスブロック(φ70~100mm)多量,暗褐色土(10VR3/4)少量
第12層	10VR7/6	明黄褐色土	バミスブロック(φ70~100mm)多量,暗褐色土(10VR3/4)少量
SK-01			
第①層	10VR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量・バミスブロック(φ10~40mm)中量
第②層	10VR4/2	灰黄褐色土	バミスブロック(φ10~25mm)中量
第③層	10VR7/4	にぶい黄褐色土	バミス
Pit1			
第1層	10VR4/2	灰黄褐色土	バミスブロック(φ10~15mm)中量,焼土ブロック(φ10~15mm)少量
Pit2			
第1層	10VR4/2	灰黄褐色土	バミスブロック(φ10~30mm)少量,焼土粒(φ5mm)極微量
Pit3			
第1層	10VR2/3	黒褐色土	バミスブロック(φ15~20mm)少量
第2層	10VR3/2	黒褐色土	バミスブロック(φ30~40mm)中量
Pit4			
第1層	10VR3/1	黒褐色土	バミスブロック(φ10~30mm)極多量
第2層	10VR2/3	黒褐色土	バミスブロック(φ10~15mm)少量

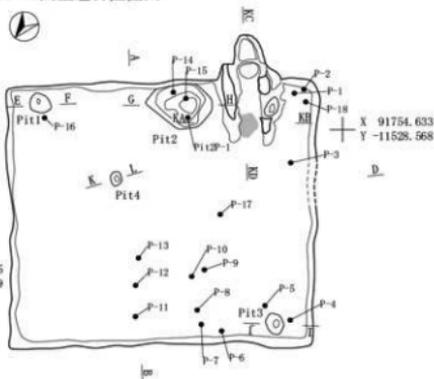
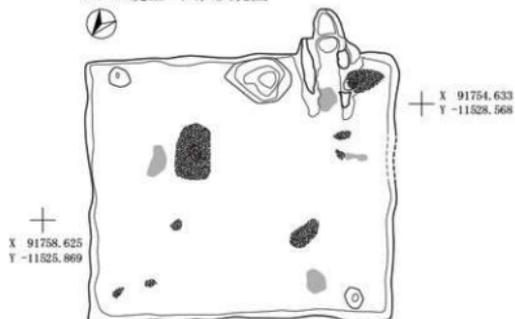
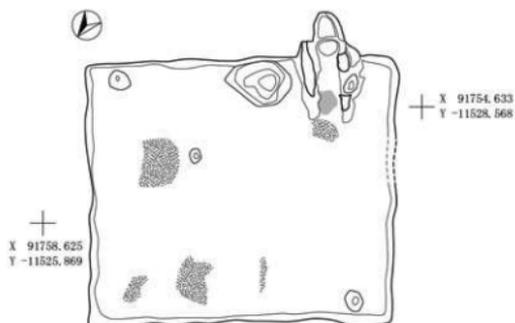


図 3-343 H区 SI-01-1

SI-01焼土・火山灰範囲



SI-01炭範囲



SI-01掘り方

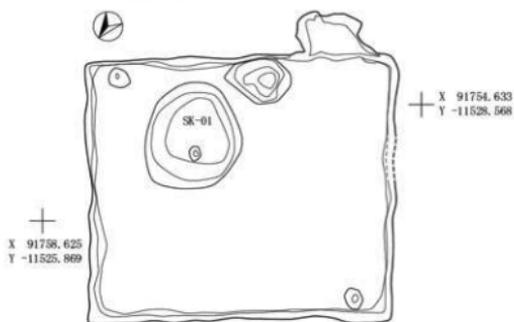
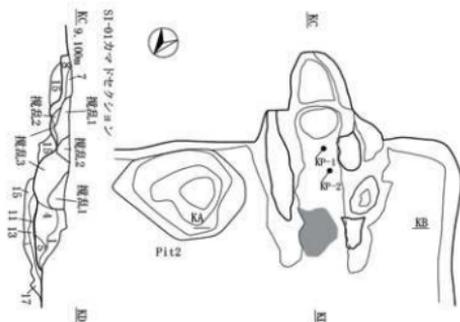
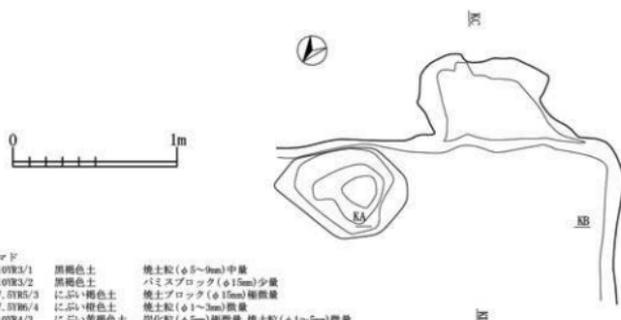


図 3-344 H区 SI-01-2

SI-01カマド



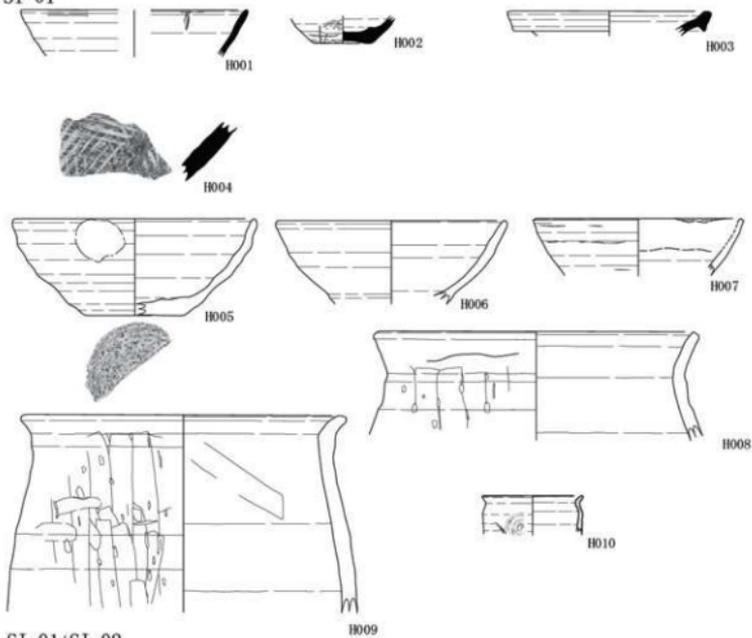
SI-01カマド掘り方



第1層 10TR3/1	黒褐色土	焼土粒(φ5~9mm)中量
第2層 10TR3/2	黒褐色土	バミスブロック(φ15mm)少量
第3層 7.5TR5/3	にぶい褐色土	焼土ブロック(φ15mm)極微量
第4層 7.5TR6/4	にぶい褐色土	焼土粒(φ1~3mm)微量
第5層 10TR4/3	にぶい黄褐色土	炭化粒(φ5mm)極微量, 焼土粒(φ1~5mm)微量
第6層 10TR4/2	灰黄褐色土	焼土ブロック(φ20mm)少量
第7層 10TR4/2	灰黄褐色土	ロームブロック(φ15~20mm)中量
第8層 10TR4/3	にぶい黄褐色土	バミスブロック(φ15~20mm)微量
第9層 7.5TR5/2	灰褐色土	炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ5~9mm)微量
第10層 10TR7/4	にぶい黄褐色土	
第11層 5TR5/6	明赤褐色土	
第12層 5TR5/6	明赤褐色土	下層に黒色土(N2/O)堆積
第13層 7.5TR4/2	灰褐色土	焼土ブロック(φ10~20mm)中量
第14層 7.5TR5/2	灰褐色土	焼土粒(φ5~9mm)少量
第15層 10TR4/2	灰黄褐色土	バミスブロック(φ20~30mm)少量
第16層 10TR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)極微量
第17層 10TR3/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~20mm)中量
覆土1 10TR1.7/1	黒色土	
覆土2 7.5TR4/4	褐色土	焼土ブロック(φ20~30mm)少量
覆土3 7.5TR4/2	灰褐色土	焼土ブロック(φ20~30mm)中量

図 3-345 H区 SI-01-3

SI-01



SI-01+SI-02

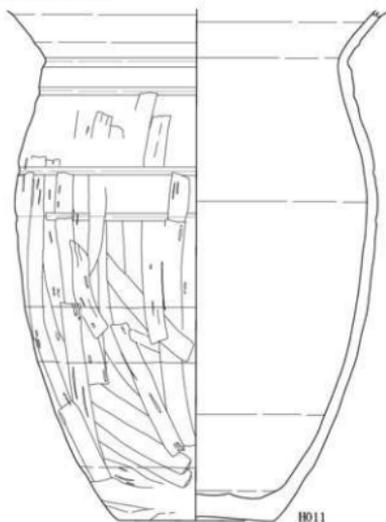


図 3-346 H区 SI-01-4

主体として砂粒付着痕が観察され、砂粒を中量・海綿骨針を微量含む粘りのやや弱い胎土で、やや白みの強い褐色を基調としている。外面は体部中～下半にかけ褐色付着物や煤が付着しており、内面は一部灰褐色気味の色調を呈する箇所があるが、目立った付着物は観察されない、内外面とも横方向の回転(ロクロ)ナデによる調整で、外面は底部側から体部中半にかけて縦方向のヘラによる調整が加えられている。H010はカマドの擾乱部分に混入した陶器の小壺で口径6.0cmを測る。緑彩の渦巻文が加えられており、近代以降の所産である。

#### SI-02 (図3-347～349)

X=91807.600, Y=11526.400付近で検出した。平面形は不整形方形を呈し、 $310.0 \times 269.0 \times 116.0$ cmを測る。主軸方位は $N-153^{\circ}-E$ である。ピットは壁穴内から9基検出しており、Pit1・4・8が柱穴として機能した可能性がある。また、SI-01のSK-01と同様の位置からSK-01とした土坑が検出しており、 $94.0 \times 87.0 \times 57.0$ cmを測る。SI-01と同様にほぼ全面に掘り方があり、バミスブロックと黒褐色土の混合土が充填されている。堆積土はバミス粒・ブロックの混入が少ないものの埋め戻しに伴う堆積状況で、遺物の廃棄も壁穴中央に集中しており、廃棄の伴う埋没過程が考えられる。本遺構の覆土およびカマド出土とSI-01覆土出土の遺構間接合資料についてはH011として前述のとおり図示した。カマドは半地下式で、袖部幅78.0cm、煙道長90.0cmを測る。前底部と煙道の一部が破壊を受けているが、右袖部分から芯材に用いられた可能性のある礫が出土していることから構築材の一部として自然礫が用いられたものと考えられる。支脚としてH015に図示した土製支脚が設置されており、火床面上にはH014に図示した土師器甕が廃棄されていた。

出土遺物は4点図示した。H012は北壁寄りの床面から出土した土師器椀で、口径13.9cm、器高5.5cm、底径6.2cm、器高指数39.5、底径指数44.6を測る。海綿骨針を含まず、粒度の細かい砂粒を多く含むやや粘りの胎土で、白みを帯びた褐色を基調とする。内面口唇直下～見込部分、外底面が二次被熱が顕著で、桃褐色～淡橙褐色を呈する箇所が見られる。また外面体部中半～口縁部、内面口縁部直下に煤炭炭化物の付着が見られる。器壁がやや厚く口唇部は丸みを帯び、外面体部の稜段は間隔が狭いタイプであるが、段そのものは体部中～上半にかけてのみで、段の深さは浅い。H013はカマド出土の土師器椀底部

で、底径5.2cmを測る。打欠による剥離資料で、内面は剥落している。H014は前述のカマド火床面上から出土した土師器甕で口径24.6cm、器高32.0cm、底径8.2cmを測る。砂粒を極多量含むやや粘りの弱い胎土で、白みを帯びた褐色を基調としているが、二次被熱や黒斑により色調が斑状になっている。底面はヘラケズリによる調整で、外面は口唇部直下まで下側から縦方向のヘラケズリが施されている。内面は頸部直下まで縦方向のハケメによる調整が行われているが、指ナデによりほとんどが撫で消されており、体部上半から口縁部にかけて横方向のナデが施されている。外面体部中半～下半は褐色付着物や煤付着が認められ、楕円形状の黒斑が複数観察される。H015はカマド支脚として出土した土製支脚で、上部径8.5cm、器高11.85cm、下部径8.35cmを測る。粘土紐の巻上による成形で、製作時に底面に相当する上部の面はドーナツ状に中央が空いた状態で、粒度のきめ細かい砂粒が付着している。外面の接合痕はほとんど撫で消されており、内面の下部(製作時の上部)が面的に撫で消しが行われている。透かし切り込みは直線的に対応するように両端に二箇所付けられているが、鋭利な刃物で削り取るように入れられており、一方はU字状の一方向から、もう一方はV字状に二方向から切り込みが入れられている。外面に白褐色の土が付着している。

## 2. 土坑

### SK-01a (図3-350)

X=91755.600, Y=11525.400付近で検出した。付近にはSI-01が所在する。平面形は不整形円形を呈し、 $103.0 \times 83.0 \times 19.0$ cmを測る。断面形は鐘形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は3層に分層し、自然堆積状況を呈する。

### SK-01b (図3-350)

X=91806.000, Y=11519.000付近で検出した。東側の一部が新幹線調査区に延びているが、新幹線調査区の本調査区外にあたり、精査されていない。検出部の形状は不整形円形を呈しており、 $(190.0) \times (171.0) \times 52.0$ cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる形状である。記録時に擾乱とした風倒木状の土層堆積より上位から掘りこみが行われており、堆積土もブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。遺物の出土が認められなかったため詳細時期は不明であるが、比較的新しい段階の掘削痕であると考えられる。



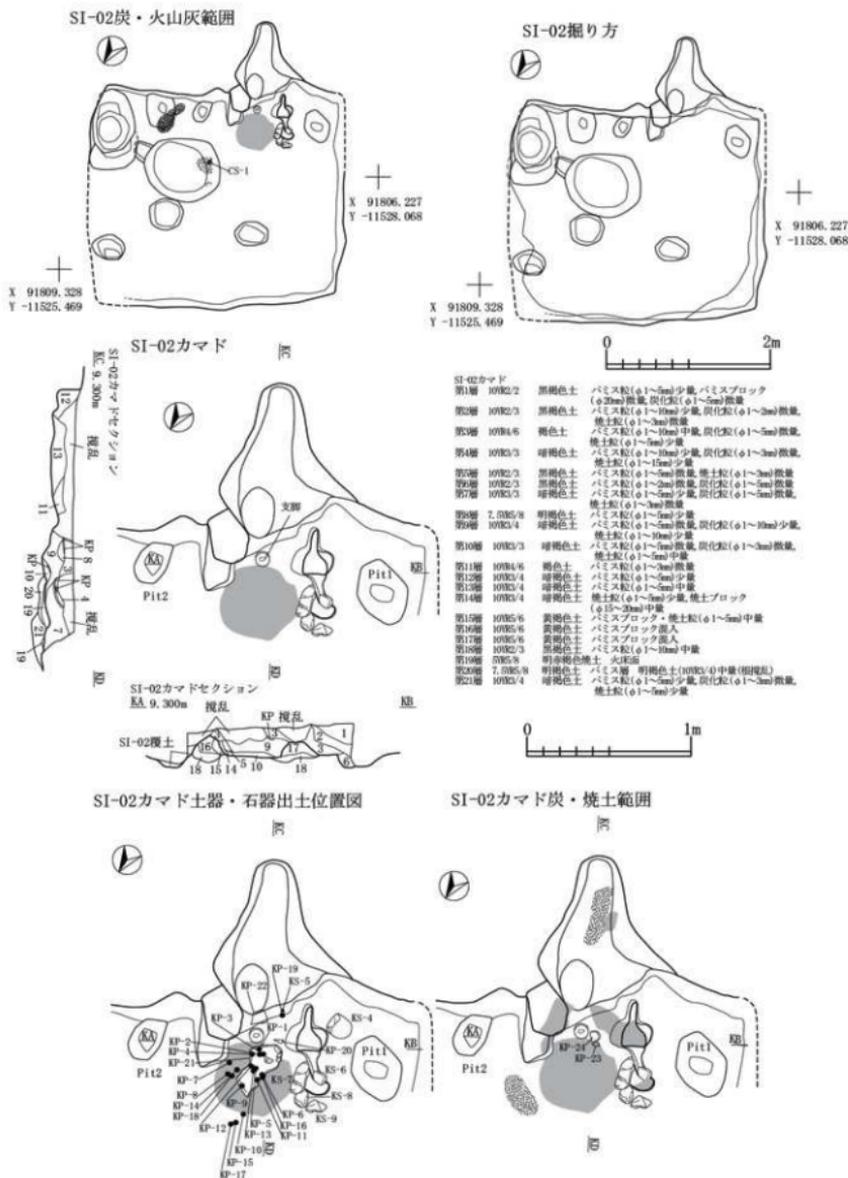


図 3-348 H区 SI-02-2

SI-02

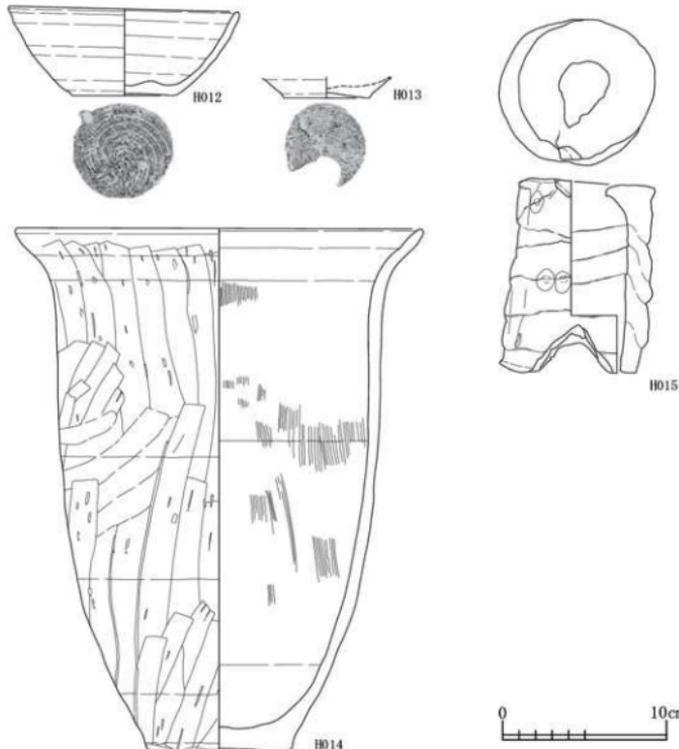


図3-349 H区 SI-02-3

### 3. その他の遺構

SX-01 (図3-350)

X=91861.200, Y=11524.000 付近で検出した。SP-0005~0008・0010・0011と重複し、SX-01を優先した掘削のため、新旧関係が明瞭でない部分がある。土層確認ができた資料を見る限り、SX-01の方が古く、ビットの方が新しい。SD-51にも接しているが、土層上で新旧関係を確認しておらず、詳細は不明である。平面形は溝状を呈し、調査区内で長さ342.0cm、幅134.0cm、深さ63.0cmを測る。断面形は偏ったV字状を呈し、壁は凹凸を持ちながら開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分がある。堆積土は7層に分層し、水の影響による褪色が壁際の堆積土に認められ、南西側が高く、SD-51に接する側が低くなっている。SD-51に接する溝跡として機能した可能性がある。

### 4. ビット (図3-351)

調査区内から12基検出した。個別の記述はせず、遺構観察表に一括して掲載した。調査区南端で検出したSP-01が単独で検出した以外は北端の平成18年度(2006年)調査の部分から集中して検出している。

### 5. 溝跡

SD-51 (図3-352)

調査区北端で検出した。E区で検出したSD-51に連続する溝で、東端は新幹線調査区内(青市埋文報第94集)ではSD-01と呼称していた溝跡に連結する。本調査区内では北側が生活道路として利用されていたため調査不可能で、幅[130]cm、長さ9.8m、深さ105cmの限定的な情報の記録に留まった。

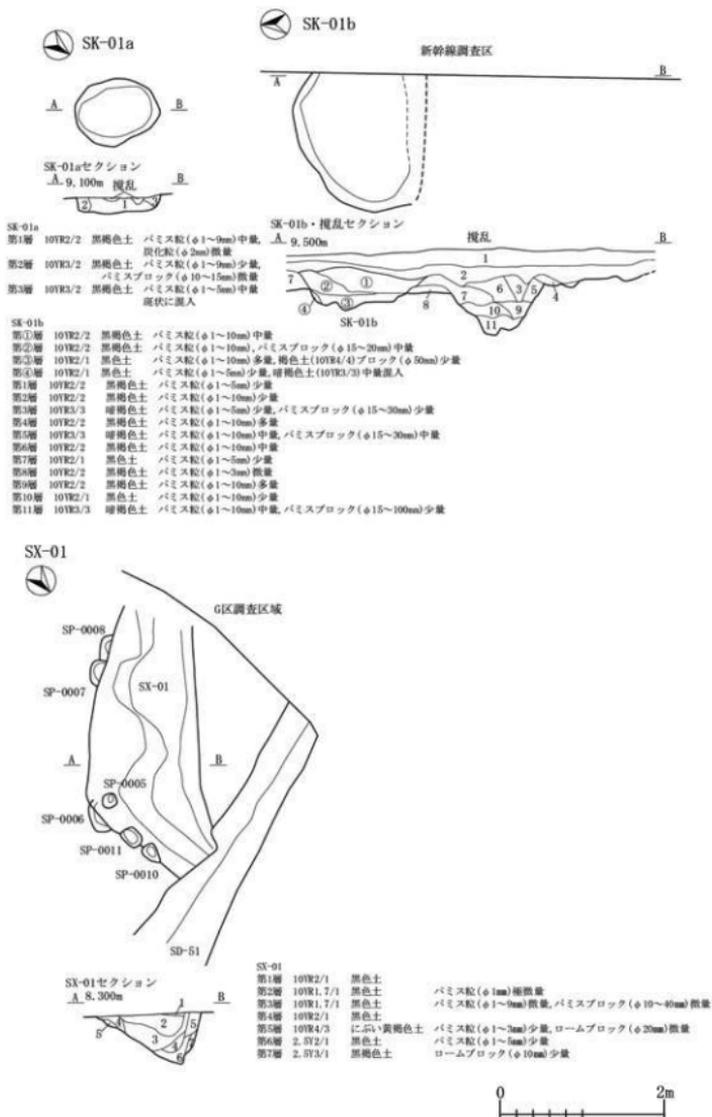


図 3-350 H区 SK・SX

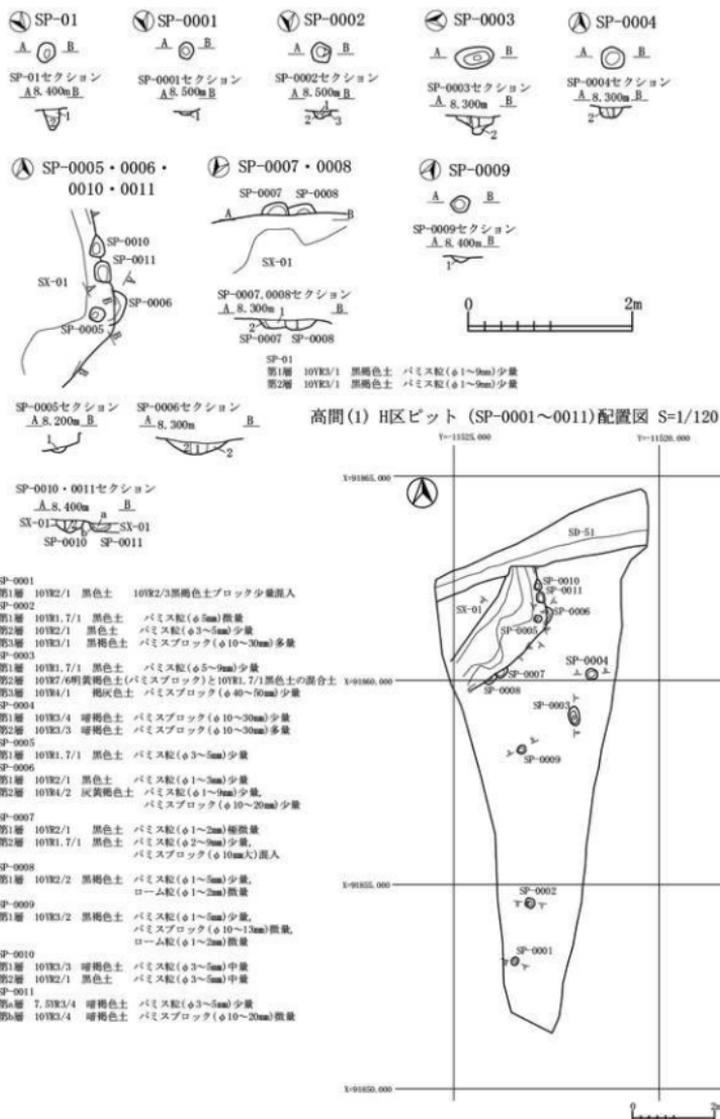


図 3-351 H区 SP



## 第2節 遺構外出土遺物(図3-353)

7点図示した。HO16は包含層出土の縄文土器の小蓋で、口径5.4cmを測る。白みを帯びた灰褐色を呈する海綿骨針を含む胎土で、外面体部には黒斑が顕著である。内面体部も灰色気味の色調を呈する部分が多く見られる。外面の口縁部には平行沈線が5条施され、平行沈線上の5箇所に縦方向の短刻線が施された文様が施文されている。内面の口縁部にもびつな平行沈線が2条施されており、縄文時代晩期に帰属する。HO17は包含層出土の須恵器製の体部片で、C-2区SI-001等他の調査区で酸化焼成の放射状の当て具痕を持つ須恵器製と同様の資料である。本資料は底部に近い位置であることから内面の当て具痕は観察されず、ナデのみの調整であるが、酸化焼成で土師器並みの硬度である。HO18・HO19は土師器碗の破片、HO20は土師器ロクロ系製の破片、HO21とHO22は寛永通寶である。

## 引用・参考文献

- 青森県教育委員会2006『新田(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第471集  
 青森県教育委員会2006『新田(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第472集  
 青森県教育委員会2006『青森県遺跡詳細分布調査報告書2-1』青森県埋蔵文化財調査報告書第476集  
 青森県教育委員会2004『西高校遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第477集  
 青森県教育委員会2010『青森県遺跡詳細分布調査報告書2-2』青森県埋蔵文化財調査報告書第480集  
 青森県2002『青森県史 9 陶 三内丸山遺跡』  
 青森県2003『青森県史 資料編 考古4』  
 青森市2005『新青森市史 資料編2 古代・中世』  
 青森市教育委員会2003『市内遺跡発掘調査報告書1-1』青森市埋蔵文化財調査報告書第49集  
 青森市教育委員会2004『市内遺跡発掘調査報告書1-2』青森市埋蔵文化財調査報告書第74集  
 青森市教育委員会2004『江渡遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第75集  
 青森市教育委員会2007『石江遺跡群発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第94集  
 青森市教育委員会2010『石江遺跡群発掘調査報告書II』青森市埋蔵文化財調査報告書第106集  
 青森市教育委員会2011a『石江遺跡群発掘調査報告書III』青森市埋蔵文化財調査報告書第107集  
 青森市教育委員会2011b『石江遺跡群発掘調査報告書IV』青森市埋蔵文化財調査報告書第108集  
 青森市教育委員会2012『石江遺跡群発掘調査報告書V』青森市埋蔵文化財調査報告書第112集  
 九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の福年』  
 縄文時代研究研究会1999『土器・陶磁器から見た縄文時代』  
 山内清男1979『日本先史土器の編年』

## 遺構外出土遺物

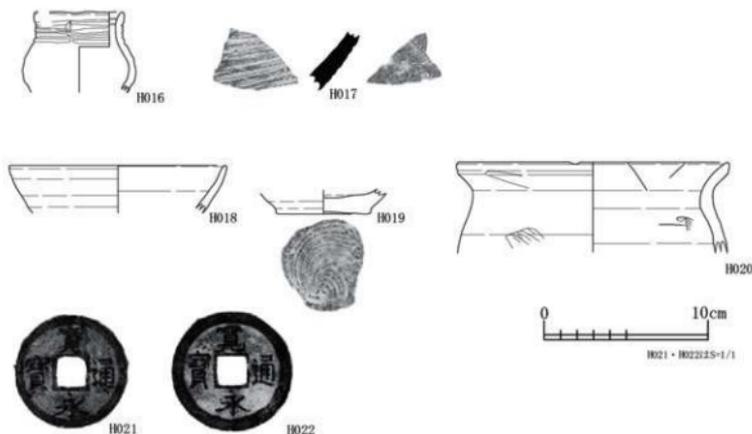


図3-353 H区遺構外出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	いしえいせきぐんはつかつちょうさほうこくしよろく たかまかつこいちえいせきほんぶん・ずはんへんさん
書名	石江遺跡群発掘調査報告書VI 高間(1)遺跡本文・図版編3
副書名	石江土地区画整理事業に伴う発掘調査
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第113集-3
編著者名	木村淳一
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-8505 青森県青森市柳川二丁目1番1号 TEL017-761-4796
発行年月日	西暦2013年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系 (JGD2000)		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
たかまかつこいちえいせき 高間(1)遺跡 (F~H区)	あおもりけんあおもりし あいせき-いしえ 青森県青森市大字石江 あごのこま 字高間104-74ほか	00201	01070	40° 49' 44"	140° 41' 31"	(第一次) 20060902 20061102 (第二次) 20060627 20061118 (第三次) 20070829 20071130 (第四次) 20080421 20080701 (第五次) 20090423 20090915	47,238 (全区域積 約 500㎡)	土地区画 整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
高間(1)遺跡 (F~H区)	集落跡	縄文時代 平安時代 中世 近・現代	竪穴住居跡 36軒 土坑 119基 井戸跡 2基 溝状土坑 16基 掘立柱建物跡 2棟 ビット 422基 溝跡 18条		縄文土器・石器・ 土師器・須恵器・ かわらけ・陶磁器・ 鉄製品・鉄洋 ・木製品・土製品・ 石製品・(焼夷弾)			

要約	<p>青森市西部に所在する石江遺跡群のうち高間(1)遺跡のF~H区の調査成果について所収した。高間(1)遺跡は新城(新田)川の右岸標高4.8~12.2mの丘陵上に位置する。北側には新田(1)・(2)遺跡、南東側に高間(6)遺跡が隣接している。</p> <p>発掘調査は、土地区画整理事業施工地内98,505㎡を対象に実施し、F~H区と設定した調査区の調査面積は47,238㎡である。</p> <p>F~H区の調査区内からは縄文時代の竪穴住居跡・フラスコ状土坑・溝状土坑(Tビット)、平安時代の竪穴住居跡・土坑・井戸跡・溝跡などを検出し、縄文時代の縄文土器・石器、古代の土師器・須恵器・鉄製品・鉄洋・羽子・土製品などが出土した。</p>
----	---

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財(1)	1962	『三内遺跡発掘調査報告書』	青森市埋蔵文化財調査報告書		
※ 2	1967	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	※ 第2巻	2008	『大矢野沢(1) 遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
※ 3	1967	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	※ 第3巻	2008	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
※ 4	1975	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』	※ 第4巻	2008	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
※ 5	1977	『野木遺跡発掘調査報告書』	※ 第5巻	2008	『大矢野沢(1) 遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
※ 6	1977	『赤松遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	※ 第6巻	2008	『鶴山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
※ 7	1977	『大淵遺跡発掘調査報告書』	※ 第7巻	2008	『鶴山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
※ 8	1977	『磯内遺跡発掘調査報告書』	※ 第8巻	2008	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
	1979	『磯内遺跡』	※ 第9巻	2008	『鶴山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
	1980	『四戸輪遺跡調査報告書』	※ 第10巻	2008	『鶴山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
青森市の埋蔵文化財(2)	1983	『三戸野遺跡』	※ 第11巻	2008	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
	1985	『高森遺跡発掘調査報告書』	※ 第12巻	2008	『磯内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
	1986	『三内丸山(1) 遺跡発掘調査報告書』	※ 第13巻	2008	『磯内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
	1987	『磯内丸山(2) 遺跡発掘調査報告書』	※ 第14巻	2008	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
	1988	『磯内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書』	※ 第15巻	2008	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
	1989	『三内丸山(4) 遺跡発掘調査報告書』	※ 第16巻	2008	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
青森市埋蔵文化財調査報告書			※ 第17巻	2008	『鶴山遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
※ 第16巻	1991	『三戸(1) 遺跡発掘調査報告書』	※ 第18巻	2008	『鶴山遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
※ 第17巻	1992	『埋蔵文化財出土土器調査報告書』	※ 第19巻	2008	『新野遺跡発掘調査報告書』
※ 第18巻	1993	『三内丸山(1) 遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	※ 第20巻	2008	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
※ 第19巻	1993	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』	※ 第21巻	2008	『三内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
※ 第20巻	1993	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	※ 第22巻	1994	『三内丸山(2) 遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
※ 第21巻	1994	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	※ 第23巻	1994	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
※ 第22巻	1994	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅳ』	※ 第24巻	1995	『磯内丸山(1) 遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
※ 第23巻	1994	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅴ』	※ 第25巻	1995	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
※ 第24巻	1995	『磯内丸山(1) 遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	※ 第26巻	1995	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
※ 第25巻	1995	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅴ』	※ 第27巻	1996	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
※ 第26巻	1995	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅶ』	※ 第28巻	1996	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
※ 第27巻	1996	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅷ』	※ 第29巻	1996	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
※ 第28巻	1996	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅹ』	※ 第30巻	1996	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅺ』
※ 第29巻	1996	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅻ』	※ 第31巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅼ』
※ 第30巻	1996	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅽ』	※ 第32巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅾ』
※ 第31巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書Ⅿ』	※ 第33巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅰ』
※ 第32巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅱ』	※ 第34巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅲ』
※ 第33巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅳ』	※ 第35巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅴ』
※ 第34巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅵ』	※ 第36巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅶ』
※ 第35巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅷ』	※ 第37巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅸ』
※ 第36巻	1997	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅹ』	※ 第38巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅺ』
※ 第37巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅻ』	※ 第39巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅼ』
※ 第38巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅽ』	※ 第40巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅾ』
※ 第39巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第41巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第40巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第42巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第41巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第43巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第42巻	1998	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第44巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第43巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第45巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第44巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第46巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第45巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第47巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第46巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第48巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第47巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第49巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第48巻	1999	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第50巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第49巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第51巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第50巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第52巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第51巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第53巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第52巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第54巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第53巻	2000	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第55巻	2001	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第54巻	2001	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第56巻	2001	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』
※ 第55巻	2001	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』	※ 第57巻	2001	『三内丸山(3) 遺跡発掘調査報告書ⅿ』

青森市埋蔵文化財調査報告書第113集-3

石江遺跡群発掘調査報告書Ⅶ

—石江土地区画整理事業に伴う発掘調査—

第3分冊 高間(1)遺跡本文・図版編3

発行年月日 2013年(平成25年)3月29日

編集 青森市教育委員会  
〒038-8505 青森県青森市柳川二丁目1番1号  
TEL 017-761-4796

印刷 青森オフセット印刷株式会社  
〒030-0802 青森市本町二丁目11番16号  
TEL 017-775-1431